高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２５年６月

弓削商船高等専門学校

目　　次

Ⅰ　対象高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　目的 ・・ 2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

基準３　教員及び教育支援者等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 168

基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 352

基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 408

基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 498

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 532

基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 596

基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 614

Ⅰ　対象高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名

弓削商船高等専門学校

（２）所在地

愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地

（３）学科等構成

学　科：商船学科，電子機械工学科，情報工学科

専攻科：海上輸送システム工学専攻，

生産システム工学専攻

（４）学生数及び教員数

（平成25年5月1日現在）

学生数：学　科571名

専攻科21名

教員数：57名

２　特徴

（１）沿革概要

本校は，明治34年に学校組合立の弓削海員学校として設立された。以後，組合立甲種商船学校，県立商船学校，国立商船学校，国立商船高等学校と幾多の変遷を経て，昭和42年に国立弓削商船高等専門学校となった。高等専門学校昇格時は航海学科と機関学科の２学科（２学級）であったが，昭和44年に機関学科１学級が増設された。その後，昭和60年に機関学科１学級が電子機械工学科に改組され，昭和63年には，航海学科及び機関学科が商船学科（航海コース・機関コース）と情報工学科に改組された。このようにして，３学科体制（商船学科，電子機械工学科，情報工学科）となり，卒業生は社会の各分野で活躍している。平成17年４月には専攻科の海上輸送システム工学専攻と生産システム工学専攻が設置され，現在に至っている。

（２）目的の背景

本校は長く，専門分野の基礎的な学理と技術者に必要な能力を身につけさせ，我が国及び国際社会に貢献できる実践的技術者の育成を教育方針に掲げてきた。しかし，科学技術の急速な高度化・複合化，グローバル化に伴って，技術者に対して豊かな創造性，国際感覚・倫理観が強く求められていることに対応し，平成 14 年度より，時代に沿った教育方針（目的に掲載）を掲げている。

本校教育の主な特徴として，まず，本校の有する練習船「弓削丸」を商船学科だけでなく，工業系２学科の実習や卒業研究等に活用していることが挙げられる。この狙いは，専攻している分野だけでなく広く他の分野（船の知識，システムとして完結している技術，海洋科学，船内人間工学等）にも好奇心を抱かせ，複眼的素養を身に付けさせようとする点にある。また，専門的な知識を深めることだけでなく，バランスのとれた人格の形成を目指してクラブ活動，ロボコン，プロコン，ソーラーボート大会等への積極的な参加を図っている。特に，プロコンは毎年優秀な成績を収めており，全国高等専門学校随一の実績を残している。このような教育に適した優秀な人材確保のために平成 21 年に広報主事を設置し，中学校訪問，オープンキャンパス，体験入学，出前授業，地域のイベントの開催・参加，各種アンケートの実施等の活動を積極的に展開し，入試制度を見直して複数校志望受検制度を全国に先駆けて導入・実施している。

次に，本校は瀬戸内海島嶼部に位置し，且つ海事関連産業により繁栄している「しまなみ海道」地域唯一の高等教育機関である。このような環境の下で，本校が果たすべき役割の一つとして，教育寮としての学生寮の充実がある。寮生活においては，団体生活を通して責任と規律ある基本的生活習慣を育成することを目指している。全教員による宿直体制は，中学校卒業年代の多感な寮生の指導を重視し，寮生の生活指導及び学習指導を教員の重要業務として位置付けている。もう一つは，地域社会との連携がある。平成 14 年度には，地域社会との連携を図るために地域共同研究推進センターを設置し，技術相談窓口を明確化した。平成 18 年度には研究の活性，技術の提供，研究基金の獲得を目指して技術振興会を発足させた。また，平成 21 年度には教育の高度化，活性化に対応すべく技術支援センターを設置した。

学校運営に関しては，学外有識者による運営諮問会議の開催や教育に関する各種アンケートを実施して，学内外からのニーズに対応している。また，海洋に関する得意な分野を中心に高等専門学校間の連携の強化を図っている。

Ⅱ　目的

１．使命

本校は，「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成すること（学校教育法第115条）」に基づき，商船及び工業に関する実践的中堅技術者を養成して，わが国の産業の発展に寄与することを使命としている。

２．教育研究活動等を実施するための基本方針

本校は，実践的技術者の養成を目指して，高度化する海技技術者養成への対応，実験・実習の重視によるものづくり及びＩＴを基盤とした実践的技術者の養成を図る。

また，平成17年度に設置された専攻科は，最先端の知識の教授のみならず，工学の基本的知識を縦横に応用でき，問題提起能力，解析能力及び問題解決能力を高めるような教育を行う。

これらの教育理念を実現するため以下の教育方針を掲げている。

（教育方針）

科学技術の急速な高度化・複合化，豊かな創造性の涵養，グローバル化の進展を視野に入れて国際感覚と豊かな人間性の育成を目指して，教育方針を次のように定めている。

①自然科学および専門技術の基礎力を身につけ，高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。

②身の回りの諸現象，特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き，多角的に考えたり調べたりできる，創造力のある人材の育成。

③日本および世界の文化や社会に関心をもち，国際的視野でものがみられ，しかも人間として，技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

３．教育目標

沿革にも示したように，本校の準学士課程は商船学科，電子機械工学科，情報工学科の３学科制であり，専攻科課程は海上輸送システム工学専攻と生産システム工学専攻の２専攻である。これに一般科目系授業を担当する総合教育科が設置されている。各学科，総合教育科（教養教育）及び専攻科の教育目標は以下のとおりである。

（１）教養教育

幅広い視野に立った総合的な判断能力，斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成

（２）商船学科

船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成

（３）電子機械工学科

ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成

（４）情報工学科

情報リテラシー，情報工学の知識に加え，問題分析，解決能力を備えたシステム技術者の育成

（５）専攻科

＜海上輸送システム工学専攻＞

海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し，システムの運用，開発，商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成

＜生産システム工学専攻＞

機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し，瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①:　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第 115 条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校の目的は，昭和 42 年に国立商船高等専門学校として設置された時に明確に定められ，学則第１条に掲げている。平成 17 年度に設置された専攻科については，学則第 42 条に掲げている（資料１－１－①－１）。本校は弓削海員学校として設置されて以来，百十余年の長期にわたる商船教育に加えて，工業系２学科（電子機械工学科，情報工学科）及び専攻科が改組・新設により設置されてきた経緯がある。

平成 14 年度には，学校として養成したい人材像及び学科として養成したい人材像を教育方針として定めることで，卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力を具体的に示した。平成 22 年度には，高等専門学校一般に求められる目的，教育方針及び学科・専攻科ごとの教育目標を明確にするための規則制定を行い，現在に至っている（資料１－１－①－２）。教育方針及び教育目標には，海，ものづくり，国際的視野，海事総合科学，海事管理技術者，瀬戸内海地域のキーワードを取り入れることで，本校を取り巻く環境や特徴を活かした教育を展開することが明記されている。

本校の教育方針及び教育目標は，学校教育法第 115 条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的である「深く専門の学芸を教授」「職業に必要な能力の育成」を踏まえて定められたものである。その内容は，学校教育法第 115 条に規定された高等専門学校一般に求められる目的に適合している（資料１－１－①－３）。

毎年開催している外部有識者による運営諮問会議（資料１－１－①－４，５），校内での自己点検・評価（資料１－１－①－６）等にも目的及び教育目標を掲載し説明及び点検を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的は，高等専門学校の使命を明確に定めている。また，目的に基づいて教育方針及び学科・専攻科ごとの教育目標を具体的に定めている。

以上のことから，本校は，高等専門学校一般に求められる目的，学科及び専攻科ごとの目的を明確に定めているといえる。

資料１－１－①－１

第１章　総則

（目的）

第１条　弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第１条の２　本校の教育方針及び教育目標は，別に定める。

第８章　専攻科

（設置）

第41条　本校に専攻科を置く。

（目的）

第42条　専攻科は，高等専門学校における教育の基盤の上に，精深な程度において商船及び工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（専攻及び入学定員）

第43条　専攻科の専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
海上輸送システム工学専攻	４人
生産システム工学専攻	８人

（専攻の教育目標）

第43条の２　専攻の教育目標は別に定める。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集１－１抜粋）

資料１－１－①－２

○弓削商船高等専門学校教育方針・教育目標に関する規則

制　　定　平成22年３月18日

（趣旨）

第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校学則第１条の２，第７条の２及び第43条の２の規定に基づき，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の教育方針及び教育目標について定めるものとする。

（教育方針）

第２条　本校の教育方針は，次のとおりとする。

(1) 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ，高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。

(2) 身の回りの諸現象，特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き，多角的に考えたり調べたりできる，独創力のある人材の育成。

(3) 日本および世界の文化や社会に関心をもち，国際的視野でものがみられ，しかも人間として，技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

（教育目標）

第３条　学科等ごとの教育目標は，次表のとおりとする。

学科等		教育目標
教養教育		幅広い視野に立った総合的な判断能力，斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
専門教育	商船学科	船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
	電子機械工学科	ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成
	情報工学科	情報リテラシー，情報工学の知識に加え，問題分析，解決能力を備えたシステム技術者の育成

２　専攻ごとの教育目標は，次表のとおりとする。

専攻	教育目標
海上輸送システム工学専攻	海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し，システムの運用，開発，商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成
生産システム工学専攻	機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し，瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

附　則

この規則は，平成22年４月１日から施行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－38 抜粋）

資料１－１－①－３

高専の教育目的と本校の教育目的との整合性

高専の教育目的	本校の教育目的
深く専門の学芸を教授	自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
職業に必要な能力の育成	身の回りの諸現象，特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

（出典：平成 18 年度認証評価自己評価書Ｐ.７）

資料１－１－①－４

運営諮問会議諮問事項一覧

回	日　時	諮問事項
第1回	平成16年11月30日(火) 14:00～16:30	(1)本校の特徴を生かした個性的教育の進め方について (2)本校に適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善について
第2回	平成17年7月11日(月) 14:00～16:30	(1)本校の社会貢献について (2)専攻科の発足と内容の充実に向けて
第3回	平成19年2月2日(金) 14:00～16:30	(1)学生指導について (2)学生寮の運営について
第4回	平成20年1月29日(火) 14:00～17:00	(1)地域共同研究推進センターにおける活動 (2)専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用
第5回	平成21年3月5日(木) 14:00～17:00	(1)入試業務に関すること ①学生募集について ②試験問題の作成ミスの防止について ③重要書類の安全な保管方法について (2)学内施設の効率的な運営方法 ①保健室 ②図書館
第6回	平成22年3月15日(月) 14:00～16:30	(1)第1期中期計画のまとめについて (2)技術支援センターについて
第7回	平成22年12月22日(水) 14:00～16:20	(1)国際交流活動について
第8回	平成23年12月19日(月) 14:00～16:00	(1)多様化する学生への支援について ①学習支援について ②キャリア支援について ③寮生活の支援について
第9回	平成24年12月5日(水) 14:00～16:00	(1)高専間の連携について (2)学校の管理運営について

（出典：企画広報室）

資料１－１－①－５

弓削商船高等専門学校
第8回運営諮問会議報告書

平成23年12

はじめに

独立行政法人化した平成１６年度、教育研究の質を一層向上させるための外部有識者による評価組織として運営諮問会議を設置いたしました。本年度は１２月１９日に第８回運営諮問会議を開催しましたので、その内容をまとめたものを公表いたします。

第１回会議では、「本校の特徴を活かした個性的な教育について」「本校に適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善について」、第２回会議では、「本校の社会貢献のあり方」「専攻科の発足と内容の充実に向けて」、第３回会議では、「学生指導について」「学生寮の運営について」、第４回会議では、「地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元」「専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用」、第５回会議では、「入試業務に関すること」「学内施設の効率的な運営方法」、第６回会議では、「第１期中期計画のまとめについて」「技術支援センターについて」、第７回会議では、「国際交流活動について」を諮問し、委員の方々からは貴重なご提言をいただきました。

今回の第８回会議では、第７回会議でのご提言に対する対応状況を説明した後、「多様化する学生への支援について」の項目について諮問いたしました。

「多様化する学生への支援について」では、初等教育機関から高等教育機関にいたるまでの共通した検討事項であり、各教育機関においても様々な取り組みが行われております。最近では、学生が多様化する中で、進路や人間関係での迷いが生じる学生も多々おり、一個人の支援者の努力ではどうにもならない教育問題が多く浮上しております。支援計画について「学習支援について」、「キャリア支援について」、「寮生活の支援について」の３項目に分けて、組織的な支援体制を構築して対応することが重要と考え、現状や課題の状況報告を行い、運営諮問会議委員からご意見をいただくことにしました。

会議では、この諮問事項に対して、それぞれの委員の立場から大変有益なご提言をいただきました。今回いただきましたご提言は真摯に受け止めて、今後、本校の教育研究活動における一層の改善に役立てていく所存であります。

最後に、ご多忙中にもかかわらず、本校の発展のためにご助言をいただきました、杉田委員長をはじめ運営諮問委員の方々に厚くお礼申し上げます。

平成２３年１２月

弓削商船高等専門学校長
落　合　敏　邦

（出典：第８回運営諮問会議報告書表紙及び次頁）

資料１－１－①－６

目　　次

１．第７回運営諮問会議（平成２２年度）の報告
１－１　第６回運営諮問会議（平成２１年度）の提言と本校の対応・・　１
（１）　第６回運営諮問会議（平成２１年度）の提言　・・・・・・　１
（２）　提言に対する本校の対応　・・・・・・・・・・・・・・・　１
１－２　第７回運営諮問会議（平成２２年度）諮問事項と提言　・・・１０
（１）　第７回運営諮問会議（平成２２年度）諮問事項　・・・・・１０
（２）　審議内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
（３）　提言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６
２．教育方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
３．学科等の教育目標及び現状と課題　・・・・・・・・・・・・・　１７
（１）総合教育科（教養教育）　・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
（２）商船学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
（３）電子機械工学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
（４）情報工学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
４．専攻科の教育目標及び現状と課題　・・・・・・・・・・・・・　２５
（１）海上輸送システム工学専攻　・・・・・・・・・・・・・・・　２５
（２）生産システム工学専攻　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
５．事務組織の現状と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９
６．施設・設備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
資料編　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５

（出典：平成 22 年度自己点検・評価報告書目次）

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育方針と教育目標は，ウェブサイト（資料１－２－①－１），学校要覧（資料１－２－①－２），学生便覧（資料１－２－①－３），シラバス（資料１－２－①－４），専攻科学生用手引き・シラバス（資料１－２－①－５）に掲載することで，学校構成員（教職員及び学生）に周知している。

教育方針及び教育目標は，ウェブサイトや刊行物による一般的な周知のほか，学生には，新入生オリエンテーションで刊行物を活用して教務主事補が説明すること（資料１－２－①－６），及び各教室に教育方針と教育目標を明記したパネルを掲示することでも周知している。教職員（非常勤を含む）には，学生便覧や学級担任の手引き（資料１－２－①－７）の配布，新任教員オリエンテーションでの新任教員の手引き（資料１－２－①－８）に基づく教務主事の説明，及び各課事務室等に教育方針を明記したパネルを掲示することにより周知している。

平成 24 年度には教職員,準学士課程及び専攻科課程の学生に対して目的の周知状況についてアンケート調査を実施した（資料１－２－①－９～11)。この結果，掲載場所を知っている者を含めると，ほとんどの教職員（非常勤を含む）へ周知されているが，準学士課程と専攻科課程の学生への周知度は５割前後に留まっている。内容まで十分理解している者は，教職員で７割前後，また，準学士課程と専攻科課程の学生は２割未満である。アンケートの設問形式が大雑把であったことを考慮しても，今後，周知度を高めるように努める必要がある。

（分析結果とその根拠理由）

本校は，教職員及び学生に対して，ウェブサイト及び刊行物等によって教育方針及び教育目標の周知を図っている。目的の周知状況についてアンケート調査を実施したところ，掲載場所を知っている者を含めると，ほとんどの教職員（非常勤を含む）へ周知されているが，準学士課程と専攻科課程の学生への周知度は５割前後に留まっている。内容まで十分理解している者は，アンケートの設問形式が大雑把であったことを考慮しても，今後とも周知強化を図っていくことが肝要である。

以上のことから，本校は，学校の構成員（教職員及び学生）に周知しているものの，今後，更なる周知に努める必要がある。

資料１－２－①－１



（出典：本校ウェブサイト）

資料１－２－①－２



校　長
President
木村　隆一
KIMURA Ryuichi

教　育　方　針　Mission of College

1．自然科学および専門技術の基礎力を身につけ，
高度化かつ多様化してゆく科学技術に
柔軟に対応できる人材の育成。

To educate students to acquire fundamental faculties of natural science and techniques of their special fields and to be able to keep up with new technology which is getting higher and more various.

2．身の回りの諸現象，特に海をとりまく
自然・文化・歴史に好奇心を抱き，
多角的に考えたり調べたりできる，
独創力のある人材の育成。

To educate students to be curious about phenomena around, especially nature, culture and histories related to the sea and to be able to consider and research them from various points of view.

3．日本および世界の文化や社会に関心をもち，
国際的視野でものがみられ，
しかも人間として，技術者として
高い倫理観をもった人材の育成。

To educate students to be interested in the cultures and societies of Japan and overseas and to have international perspective and high morality as a human being and as an engineer.

教　育　目　標　Educational Goals

学科等 Department		教育目標 Educational Goals
	教養教育 Liberal Arts Education	幅広い視野に立った総合的な判断能力，斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成 To develop overall reasoning capacity based on the broader view, and to nurture basic knowledge indispensable for practical engineer with novel creativity.
専門教育 Specialized Education	商船学科 Maritime Technology Department	船員教育を基礎にした海事総合科学を身につけた技術者の育成 To train engineers who acquire general maritime science and technology based on seamen's training
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	ものづくりのできる実践的な技術者―計画・設計から生産・保守運用までできる技術者―の育成 To train practical engineers: who plan, design, manufacture, operate and maintain products.
	情報工学科 Information Science and Technology Department	情報リテラシー，情報工学の知識に加え，問題分析，解決能力を備えたシステム技術者の育成 To develop information literacy, acquire knowledge of information engineering. In addition, to train system engineers who have abilities of problem-analysis and problem-solving.

専攻 Advanced Engineering Course	教育目標 Educational Goals
海上輸送システム工学専攻 Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し，システムの運用，開発，商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成 To acquire specialized knowledge and skills in the field of maritime transportation system and marine engine system, and train practical maritime administration engineer with knowledge and skills of developing and operating such systems, and to nurture the senses of commercial vessels and engineering.
生産システム工学専攻 Advanced Production Systems Engineering Course	機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し，瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成 To educate specialized knowledge and skills of integrated engineering field mainly mechanics and information, to train capability to produce something good for the community in and around the Seto Inland Sea, as well as ability to develop such systems, also to nurture practical engineers with the sense of internationalism.

（出典：2012 学校要覧巻頭）

資料１－２－①－３

教　育　方　針

１　自然科学および専門技術の基礎力を身につけ，
高度化かつ多様化してゆく科学技術に
柔軟に対応できる人材の育成。

２　身の回りの諸現象，特に海をとりまく
自然・文化・歴史に好奇心を抱き，
多角的に考えたり調べたりできる，
独創力のある人材の育成。

３　日本および世界の文化や社会に関心をもち，
国際的視野でものがみられ，
しかも人間として，技術者として
高い倫理観をもった人材の育成。

教　育　目　標

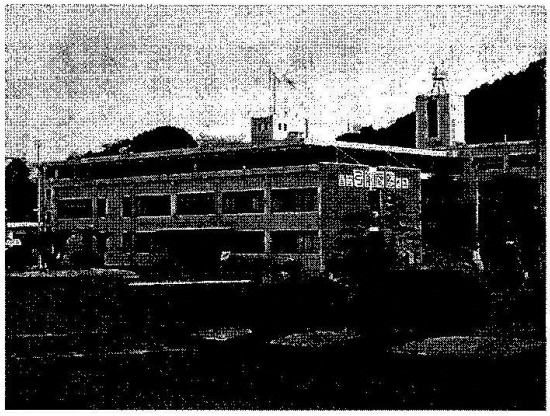
１　教養教育
幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成

２　専門教育

○商船学科
船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成

○電子機械工学科
ものづくりのできる実践的な技術者ー計画・設計から生産・保守運用までできる技術者ーの育成

○情報工学科
情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成



（出典：平成 25 年度学生便覧巻頭）

資料１－２－①－４

教　育　方　針

（1）自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
（2）身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
（3）日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

教　育　目　標

○教養教育
　幅広い視野に立った総合的な判断能力，斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
○商船学科
　船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
○電子機械工学科
　ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成
○情報工学科
　情報リテラシー，情報工学の知識に加え，問題分析，解決能力を備えたシステム技術者の育成

（出典：平成 25 年度授業科目シラバス巻頭）

資料１－２－①－５

教　育　方　針

（１）自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
（２）身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
（３）日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

教　育　目　標

○海上輸送システム工学専攻
　海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成
○生産システム工学専攻
　機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

（出典：平成 25 年度専攻科学生用手引き・シラバス巻頭）

資料１－２－①－６

平成２４年度新入生オリエンテーション実施要項

１　目　　的　　団体生活を通して、団体秩序を守り、寛容な心で同級生との親睦を図るとともに、学校生活及び学生としての心得を身につけることを目的とする。

２　期　　日　　平成２４年４月１１日（水）～１２日（木）

３　場　　所　　大三島少年自然の家
愛媛県今治市大三島肥海４７６２－１
電話　０８９７－８２－０３１１

４　日　　程　　別紙のとおり

５　参 加 者　　①学生１１９名（２３名）＋（留年生１名）計１２０名（２３名）
Ｓ１　４２名（　３名）＋（留年生０名）計　４２名（　３名）
Ｍ１　３９名（　１名）＋（留年生１名）計　４０名（　１名）
Ｉ１　３８名（１９名）＋（留年生０名）計　３８名（１９名）

②教職員　参加１５名（２名）※宿泊１１名（１名）
学生主事　①葛目幸一
学生主事補　②政家利彦・③二村彰
④雙知延行・⑤ガンバット（１２日のみ）
教務主事補　⑥田房友典
寮務主事補　⑦野々山和宏
１年担任支援　⑧上江憲治
Ｓ１担任　⑨藤井清治
Ｍ１担任　⑩水崎一良
Ｉ１担任　⑪高木　洋
看護師　⑫若松　純子
非常勤講師　阿部　智美（１１日のみ）
校長、勘久保教員（１１日のみ）

時間	日課・研修方法	場所	研修内容	講師等	参加者
8:10	学寮出発	学寮前	寮生は8:05集合	学級担任・学生主事補	S1担任;房野
	学寮～下弓削港		フエスパバス乗車(寮生)	学級担任・学生主事補	M1担任;望月
8:45	下弓削港発	下弓削港	船名:しんこう3・しんこう5岩城汽船チャーター便2隻		I1担任;徳田
			2班に分かれて乗船	学級担任・学生主事補	葛目学生主事
					学生主事補
9:00	因島(土生港)着				(向瀬、ガンバット、)
9:20	集合、点呼	因島バス車庫		学級担任	(樫根、桝田、房野)
9:30	土生港発(借上バス)	①号車商船学科・②号車電子機械工学科・③号車情報工学科			初年次教育支援室長
	①号車(担任・学生主事補)②号車(担任・学生主事補)③号車(担任・学生主事補)				(藤井教員)
	エステマ8日・9日(藤井教員・若松看護師)・ワゴンR8日、9日(8日:ガンバット教員:校長・阿部先生)				教務主事補
10:30	大三島少年自然の家着	第一研修室	①学生代表挨拶		(水崎教員)
	入所式		②学生主事諸注意	司会:学級担任	
	オリエンテーション		③各係分担説明(確認)		
			④教員紹介		
			⑤入所オリエンテーション	所員	
11:10	全体集会	第一研修室	①集団行動訓練	学生主事・主事補	
			②学生生活について		
11:45	昼食準備				
12:00	昼食	食堂			給食係
	休憩				
13:00	全体集会	第一研修室	①教務関係説明	司会:学級担任	
			(13:00～13:50)	教務主事補	
			②国歌・校歌練習(60分)	学生主事、非常勤講師	
			(14:00～15:10)		

(出典：学生課)

資料１－２－①－７

平成 24 年度

学級担任の手引き

弓削商船高等専門学校

本校の教育方針

1　自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成

2　身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成

3　日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

学科としての人材育成目標

商船学科　船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成

電子機械工学科　ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成

情報工学科　情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成

総合教育科　幅広い視野に立った総合的な判断力、斬新な独創力を備えた実践的技術者養成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す

専攻科海上輸送システム工学専攻：海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し，システムの運用，開発，商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成

専攻科生産システム工学専攻：機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し，瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

（出典:学生課）

資料１－２－①－８

平成２４年度

新 任 教 員 の 手 引 き

教 務 関 係

弓削商船高等専門学校

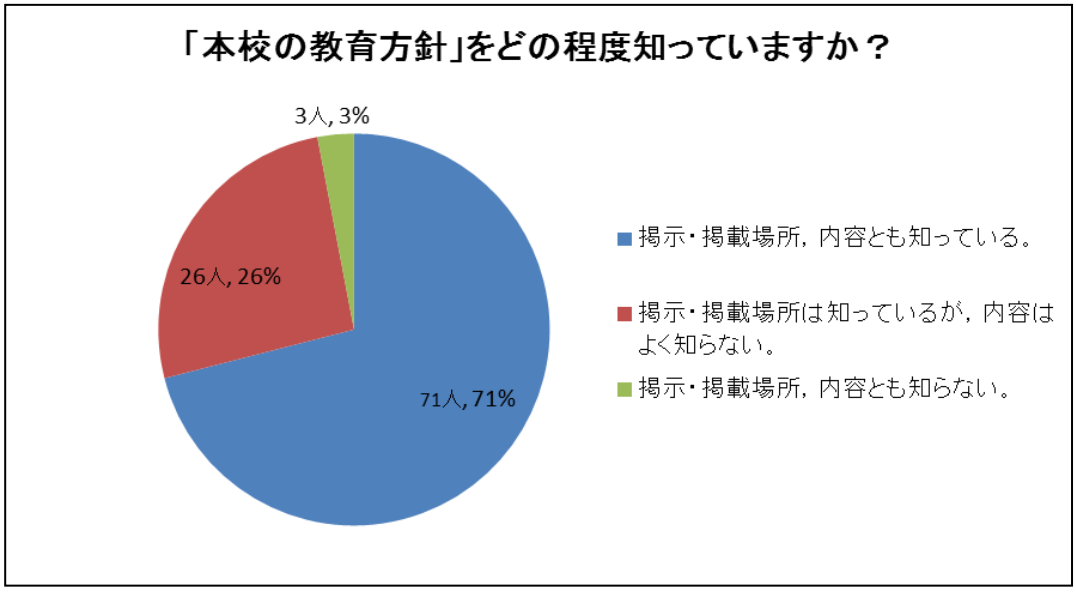
新任教員の手引き　目次

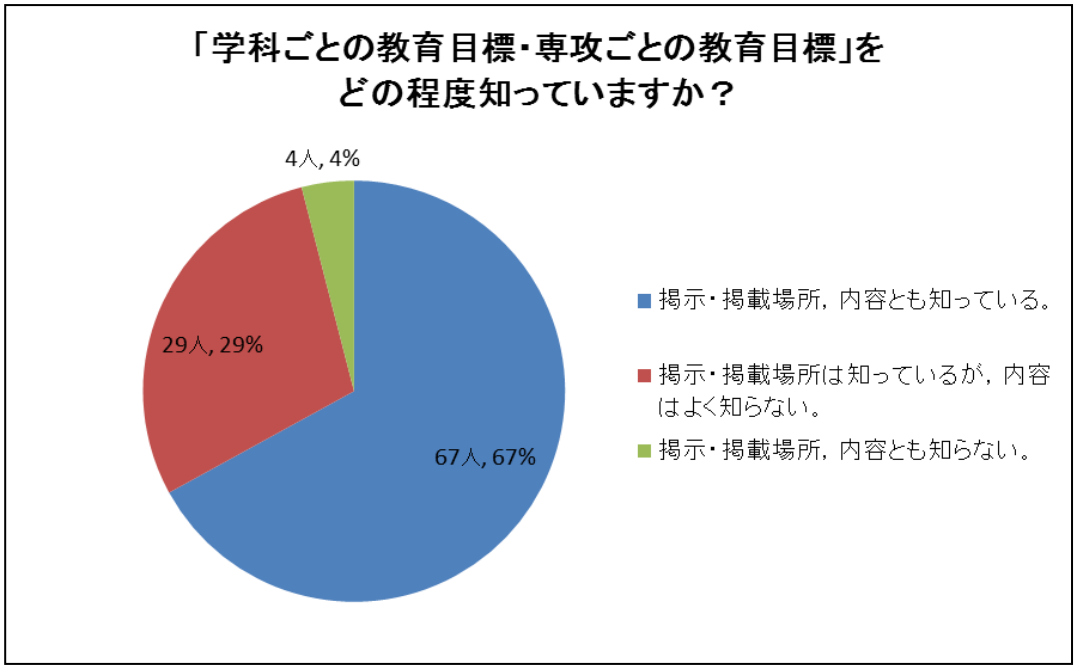
Ⅰ．教育一般に関して
１．本校教育の現状と課題
２．本校の教育方針
３．本校教員としての心構えと勤務
４．学校の組織、運営、公務分掌
５．公簿及び文書処理の仕方と活用
６．研究活動
７．紀要、学術誌等への論文発表
８．特別教育活動
Ⅱ．高等専門学校制度
１．高等専門学校制度の基本
２．教育課程
３．本校における教育課程
Ⅲ．学習指導（指導方法）
１．学習指導案の作成（シラバスの作成利用）
２．発問の方法
３．テスト問題の作成
Ⅳ．授業時の実務
１．正常な授業運営
２．各試験の実施要領
３．不正行為とその対応
４．成績評価について
５．進級・特別進級及び卒業について
６．その他
Ⅴ．参考資料　授業の心構え　Q＆A
参考資料　学生指導
Ⅵ．特別活動（ホームルーム）
１．ホームルーム運営
２．学級担任
３．クラス運営上の具体的留意事項
Ⅶ．学生指導
Ⅷ．その他

（出典:総務課）

資料１－２－①－９

教 職 員

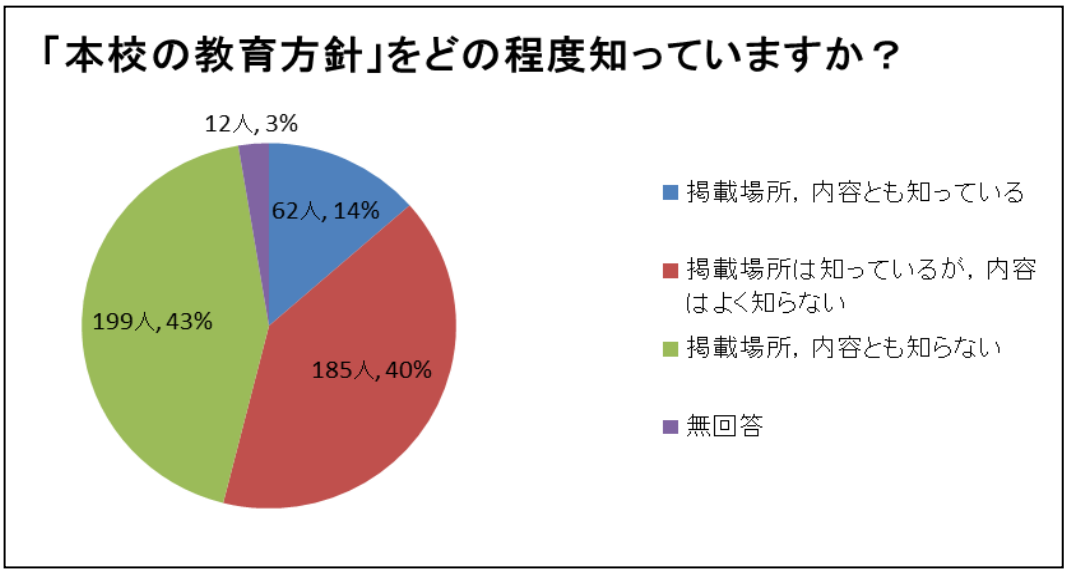


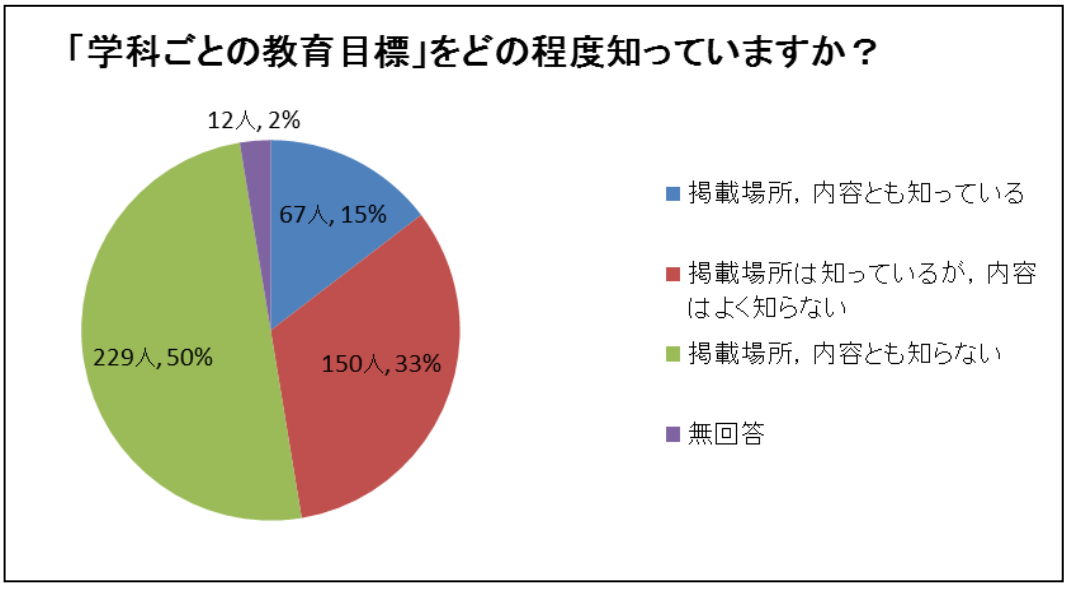


（出典：企画広報室）

資料１－２－①－10

準学士課程



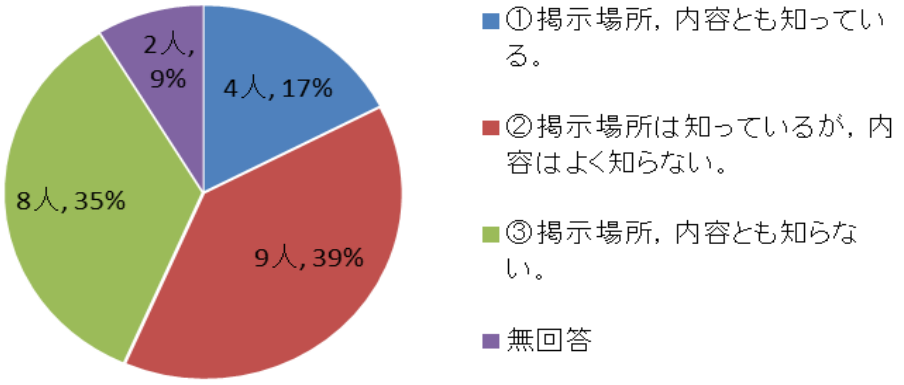


（出典：企画広報室）

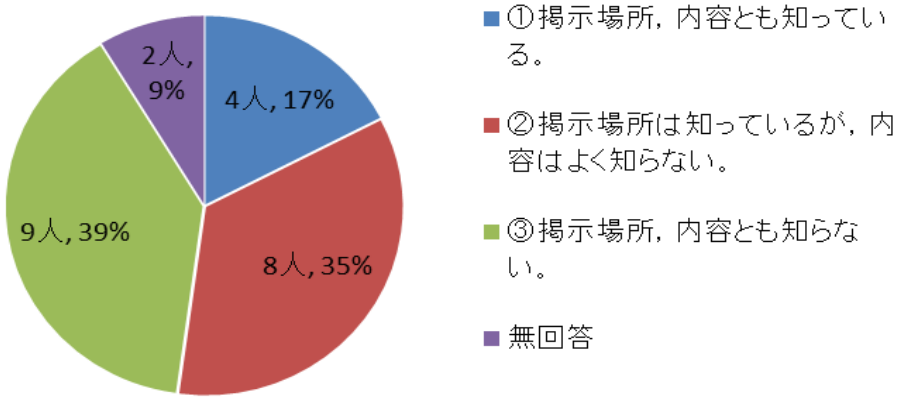
資料１－２－①－11

専攻科課程

質問１「本校の教育方針」をどの程度知っていますか？①～③のうち１つ選んでください。



質問２「専攻ごとの教育目標」をどの程度知っていますか？①～③のうち１つ選んでください。



（出典：企画広報室）

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育方針及び教育目標は，ウェブサイトと学校要覧に掲載することによって，社会に公表している。学校要覧については，上島町役場，島内の学校，今治市役所などの関係機関に毎年配布し（資料１－２－②－１），また，本校主催の学校説明会用資料として活用することで教育方針及び教育目標を公表している（資料１－２－②－２）。

学校ＰＲを目的に作成した学校案内（資料１－２－②－３，４）では，学則にある教育目標を養成したい人材像として平易に表現し，中学生を対象にしたオープンキャンパス(年２回実施)の参加者全員に配布している（資料１－２－②－５）。また，中学校へのＰＲ活動では，訪問時に学校案内を持参するとともに，教育方針及び教育目標の説明を行っている。さらに，中四国地方を中心に全国の中学校へ学校案内を郵送し（資料１－２－②－６），学科ごとの養成したい人材像を広く公表している。

（分析結果とその根拠理由）

本校は，教育方針，教育目標，教育目標を踏まえた学科ごとに養成したい人材像を刊行物とウェブサイトで公表しており，オープンキャンパスや中学校訪問時に積極的に説明している。しかし,中学生を対象にした学校案内には,学科ごとに具体化した養成したい人材像を示しているが，学則に掲げている教育方針及び教育目標そのものは掲載していない。社会に広く公表するためには，学校案内にも教育方針及び教育目標を掲載することが改善すべき点といえる。

資料１－２－②－１

（別紙1）

学校要覧配布先一覧

送付先機関	部数	送付先機関	部数	送付先機関	部数
文部科学省初等中等教育局	2	その他		校内配布	
文部科学省高等教育局	4	日本船舶職員協会	1	校長	1
高専機構本部	3	上島町役場	1	事務部長	1
国立大学等		上島町教育委員会	1	主事	4
海技大学校	1	弓削小学校	1	課長（室長）	4
東京海洋大学	1	弓削中学校	1	学科長	4
神戸大学	1	弓削高等学校	1	人事係	50
広島大学	1	尾道市役所	1	小計	64
愛媛大学	1	尾道市教育委員会	1	学外PR用	350
国立高専（中四国）	13	今治市役所	1	その他予備	136
小計	18	今治市教育委員会	1		
航海訓練所	8	同窓会長	1		
海上技術安全研究所	1	後援会長	1		
国立国会図書館	2	小計	12	合　計	600

（出典：企画広報室）

資料１－２－②－２

平成２４年度弓削商船高等専門学校「学校説明会，授業・施設見学会」
配付資料

資料１　平成２４年度弓削商船高等専門学校「学校説明会，授業・施設見学会」次第
（裏面　「学校説明会，授業・施設見学会」席次表）
資料２　高専での学園生活について
資料３　本校は求めています。このような入学生を！
資料４　弓削商船高等専門学校の特徴
資料５　平成２３年度卒業・修了者の就職・進学先一覧
資料６　最近の主なクラブ活動実績（平成２３年度）
資料７　専攻科だより
資料８　国立弓削商船高等専門学校パンフレット・リーフレット
資料９　未来へのひとづくり　ものづくり　専攻科
資料 10　弓削商船だより
資料 11　オープンキャンパスチラシ・参加申込書

（出典：学生課）

資料１－２－②－３





（出典：パンフレット）

資料１－２－②－４





（出典：学校案内）

資料１－２－②－５



（出典：学生課）

資料１－２－②－６

平成24年度学校案内・募集要項送付中学校・塾

（中学校）

北海道	1	奈良県	3
茨城県	1	島根県	1
埼玉県	1	岡山県	130
千葉県	5	広島県	257
東京都	6	山口県	1
神奈川県	4	愛媛県	143
新潟県	1	高知県	100
福井県	1	徳島県	82
長野県	1	香川県	71
静岡県	1	福岡県	14
愛知県	2	佐賀県	1
滋賀県	6	熊本県	7
京都府	3	大分県	2
大阪府	32	宮崎県	1
兵庫県	67	鹿児島県	6
和歌山県	2	沖縄県	1
		合計	954

（塾）

愛媛県	103	兵庫県	1
広島県	447	合計	551

（出典：学生課）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

該当なし

（改善を要する点）

教育方針及び教育目標の周知を図っているものの，更なる周知度の向上に努める必要がある。

（３）基準１の自己評価の概要

本校の目的は，学則で高等専門学校の使命を明確に定めている。また，本校を取り巻く環境や特徴を活かした教育を展開することを目指して，目的を具現化するための教育方針及び学科・専攻科ごとの教育目標を具体的に定めており，学校教育法の定める目的に適合している。

本校は，教職員及び学生に対して，ウェブサイト及び刊行物等によって教育方針及び教育目標の周知を図っている。目的の周知状況についてアンケート調査を実施したところ，掲載場所を知っている者を含めると，ほとんどの教職員（非常勤を含む）へ周知されているが，準学士課程と専攻科課程の学生への周知度は十分とは言えず，今後とも更なる周知を図っていくことが必要である。

社会に対しては，ウェブサイトへの掲載と学校要覧の関係機関への配布，学校案内をオープンキャンパス参加者全員へ配布し，中四国地方を中心に全国の中学校へ郵送するなどして広く公表している。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は，各 40 名を定員とする商船学科（航海コース・機関コース）・電子機械工学科・情報工学科の３学科を設置している（資料２－１－①－１）。

各分野における実践的技術者養成のため，各学科の教育目標を定めており（資料２－１－①－２），高等専門学校設置基準の規定に適合した学科構成となっている。

商船学科は海事総合科学を身に付けた技術者の育成，電子機械工学科はものづくりのできる実践的な技術者の育成，情報工学科は情報工学・リテラシーの知識の上に問題分析・解決能力を備えたシステム技術者の育成を図る学科内容となっており，学校の教育方針を反映している（資料２－１－①－３～５）。また，科学技術の動向や社会のニーズに対応するため，平成 22 年度に教育課程を改正し，商船学科においては，大型練習船実習が短期実習分割方式へ移行するのに伴い平成 25 年度から更に新しい教育課程に改正し，航海コース・機関コースへのコース分けを第３学年の後期に行うこととした（資料２－１－①－６）。

（分析結果とその根拠理由）

学科の構成及び内容が，教育の目的及び高等専門学校設置基準の規定に適合している。また，科学技術の動向や社会のニーズに対応するため，平成 22 年度に教育課程を改正，商船学科においては，大型練習船実習が短期実習分割方式へ移行するのに伴い平成 25 年度から更に新しい教育課程に改正し，航海コース・機関コースへのコース分けを第３学年の後期に行うこととした。

以上のことから，学科の構成が，教育の目的を達成するうえで適切なものとなっている。

資料２－１－①－１

第３章　学科，学級数，入学定員及び職員組織

（学科，学級数及び入学定員）

第７条　学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学科		学級数	入学定員
商船に関する学科	商船学科	1	40 人
工業に関する学科	電子機械工学科	1	40 人
	情報工学科	1	40 人

２　前項の規定にかかわらず，教育上有益と認めるときは，異なる学科の学生をもって学級を編成することができる。

（学科等の教育目標）

第７条の２　学科等ごとの教育目標は，別に定める。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集１－１抜粋）

資料２－１－①－２

○弓削商船高等専門学校教育方針・教育目標に関する規則

制　　定　平成22年３月18日

（趣旨）

第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校学則第１条の２，第７条の２及び第43条の２の規定に基づき，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の教育方針及び教育目標について定めるものとする。

（教育方針）

第２条　本校の教育方針は，次のとおりとする。

(1) 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ，高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。

(2) 身の回りの諸現象，特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き，多角的に考えたり調べたりできる，独創力のある人材の育成。

(3) 日本および世界の文化や社会に関心をもち，国際的視野でものがみられ，しかも人間として，技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

（教育目標）

第３条　学科等ごとの教育目標は，次表のとおりとする。

学科等		教育目標
教養教育		幅広い視野に立った総合的な判断能力，斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
専門教育	商船学科	船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
	電子機械工学科	ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成
	情報工学科	情報リテラシー，情報工学の知識に加え，問題分析，解決能力を備えたシステム技術者の育成

２　専攻ごとの教育目標は，次表のとおりとする。

専攻	教育目標
海上輸送システム工学専攻	海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し，システムの運用，開発，商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成
生産システム工学専攻	機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し，瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

附　則

この規則は，平成22年４月１日から施行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－38 抜粋）

資料２－１－①－３

学科と教育課程 Department and Curriculum

商船学科 Maritime Technology Department



実験実習 [Experiments and Practice]



弓削丸実習 [Training Ship Practice]



操船シミュレータ [Maneuvering Simulator]

安定した物流は，国際経済に欠かすことのできない重要な要素である。中でも海上輸送部門が果たす役割は非常に重要である。

商船学科は，商船学教育１００年の歴史をベースに，3年生までは，船舶運航技術者の基礎領域として単一クラスとし，４年生で，船長を目指す「航海コース」と機関長を目指す「機関コース」に分かれ，海事総合科学技術を学び，海上労働の国際化，企業の国際化及び省エネルギーや環境問題にも対応できる海上輸送システムのスペシャリストの養成を目的としている。

さらに，5年生の後期から1年間，航海訓練所の練習船で，世界各地を回る洋上実習で見聞を広め，理論と技術を仕上げるとともに，総合的判断力を育成する人間教育を行う。

これらの全課程を修了した者には，三級海技士（航海），または三級海技士（機関）の海技免許に対する筆記試験が免除される。また，一級海上特殊無線技士の免許も取得できる。

Stable logistics is one of the most indispensable factors for the global economy, among which, marine transportation, in particular, plays a pivotal role.

Maritime Technology Department has over 100 years history. Based on the extensive background, all students will learn in a general course of ship navigation engineer for the first 3 years, and in the 4th year, they will be divided into two specialized courses; `navigation` to become a captain and `engine` to become a chief engineer. They will learn general marine science and technology to become specialists of marine transportation system that has to cover globalization of maritime labor and business operations, energy-savings and environmental aspects.

For a whole year from the latter term of the 5th year, the students will join the training vessel owned by the Institute for Sea Training, travel around the world to experience the actual maritime operations, improve the knowledge and skills, above all, grow human nature which is indispensable for the comprehensive decision-making.

Those who complete all the programs are exempt from the written examination of the 3rd-grade marine officer (navigation) and/or 3rd-grade marine engineer officer (engine). They can also obtain the license of the special maritime radio engineer.



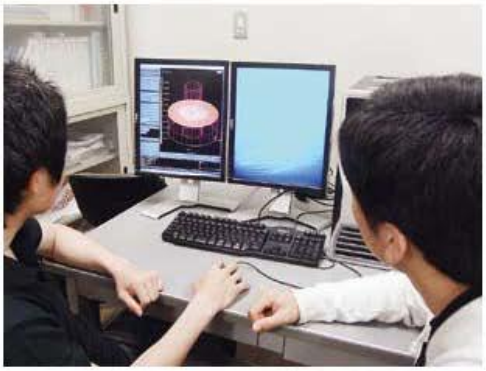
操艇・通信 [Boatsmanship and Signalling]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．10）

資料２－１－①－４

学科と教育課程　Department and Curriculum

電子機械工学科
Electronic Mechanical Engineering Department







卒業研究 [Graduation Research]

近年作り出されている製品は，機械と電気・電子部品が融合しているのみならず，ほとんど全てのものにコンピュータが内蔵されている。これらの異なる分野を統合した新しい技術に対応するため，技術者には一つの専門分野だけでなく，機械，電気・電子，制御およびコンピュータなどの幅広い知識が求められるようになってきている。

電子機械工学科は，機械工学，電気・電子工学，制御工学，情報処理関連の学問分野を融合した学科である。各分野の重要な専門科目を教授するだけでなく，それらを統合した科目も準備し，メカトロニクス技術者の養成を目的としている。

具体的には強度計算，エネルギー変換，材料および機械工作などの機械工学の基礎知識に加えて，電気・電子機器や回路，計測・制御工学さらには情報処理の基礎知識も修得し，機械装置や電子制御装置をシステムとして設計・製作，管理・運用する能力を身に付ける教育をねらいとしている。

The most of the products manufactured today are combined with mechanical parts, electric parts and electronic parts, and many of those have built-in computers. In order to work in the latest integrated engineering field, the students are required to have broader knowledge of mechanics, electrics, electronics, control engineering and computer.

Electronic Mechanical Engineering Department provides combined areas of mechanical engineering, electric & electronic engineering, control engineering and information processing related subjects. The school prepares not only these specialized subjects but also systematically integrated subjects to produce excellent mechatronics engineers.

More concretely, the school will provide basic studies of intensity calculation, energy conversion, basic knowledge of material and machine practice, as well as electricity, electronic equipment, circuit, measurement and control engineering, and data-processing, and have the students acquire the knowledge and skills to design and produce mechanical equipment and electronic equipment as a system, and to operate and control them.



卒業研究発表 [Presentation of Graduation Research]



実習風景 [Students in Traning Workshop]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．14）

資料２－１－①－５

Department and Curriculum　学科と教育課程

情報工学科
Information Science and Technology Department

マルチメディアや各種ネットワークシステムに代表されるように，今や情報技術（IT），ネットワーク技術は現代社会を支える総合技術として，必要不可欠なものになっている。これに伴い，コンピュータ及びその利用に関する専門の知識や技術を有する人材のニーズが高まっている。
このような時代背景から本学科は昭和63年に改組新設され，すでに600余名を世に送り出している。

本学科では，情報処理，電気・電子工学，論理回路，制御工学などの基礎学問に加え，人工知能画像処理，シミュレーションなどのコンピュータ応用学問を教授し，さらに情報工学実験を通じてこれらの科目を実践的に理解習得させ，高度情報化社会に即戦力として適応する情報技術者を育成することを目的としている。

特にプログラミングコンテストに代表されるプロジェクト型演習の取り組みは，情報処理学会等で優秀教育賞を受賞するなど高い評価を得ている。平成21年には情報工学科学生がものづくり日本大賞内閣総理大臣賞を受賞している。

また，本校の地理的条件を生かし，海洋関連の授業科目も組み入れられており，陸上の情報工学に加え，練習船「弓削丸」や高速実習船「はまかぜ」による海洋情報知識の習得も可能なことが本学科の特徴である。

本学科の学生は，卒業後，コンピュータ産業，電気・電子機器産業，ソフトウェア，情報・通信産業，機械・機器サービス産業，流通・輸送関連産業などの現代社会のあらゆる分野で活躍している。また，より高度な学問を求めて毎年10名程度の学生が進学しており，進学先は，全国55高専の専攻科（2年課程，学士資格取得）と国公立大学の情報・電気あるいは環境・物理系の学科への３年次編入の選択ができる。

As we witnessed the development of multimedia and network systems, information technology (IT) and network technology are prerequisites for the society in general. The bigger the roles of the technology grow, the higher the demands of the people with such knowledge and skills grow. With these demands for the society, new department was established in 1988, and up to date, over 600 students graduated and have worked in this field.

The programs of this department include basic learning such as information processing, electricity and electronic engineering, logic circuit, control engineering, and applied computer engineering subjects such as artificial intelligent image processing and simulation. The department also provides exercise classes of information engineering to understand them better to become more adaptable engineer to tailor to the advanced information society.

We are particularly proud of the project-type practice such as participating in a programming contest, as we won the outstanding education award at the Federation of Information Processing Society. In 2009, our students won the grand prize by the prime minister at the Manufacturing Contest.

Besides the various IT-related classes on land, we provide many marine-related classes, making the best use of geographical features, such as training on the boat called `YUGE MARU` and the high-speed training boat called `HAMAKAZE` to gain knowledge and skills of maritime information.

The graduates of this department have been working actively in a wider variety of fields such as computer industry, electric/electronic industry, software, information and communication industry, machine and mechanical services, distribution and logistics. Dozens of students pursue further educational opportunity to go to the higher educational institutes, mainly to the advanced engineering courses of 55 technical colleges nationwide (two-year program is equivalent to the undergraduate degree) and transfer to the third year of the four-year public universities to study information, electricity, environment and physics.


ゲームを題材としたプログラム演習 [Programing Practice]


演習風景 [Students in Tech Class]


パソコン組立実習 [Computer Tech Class]

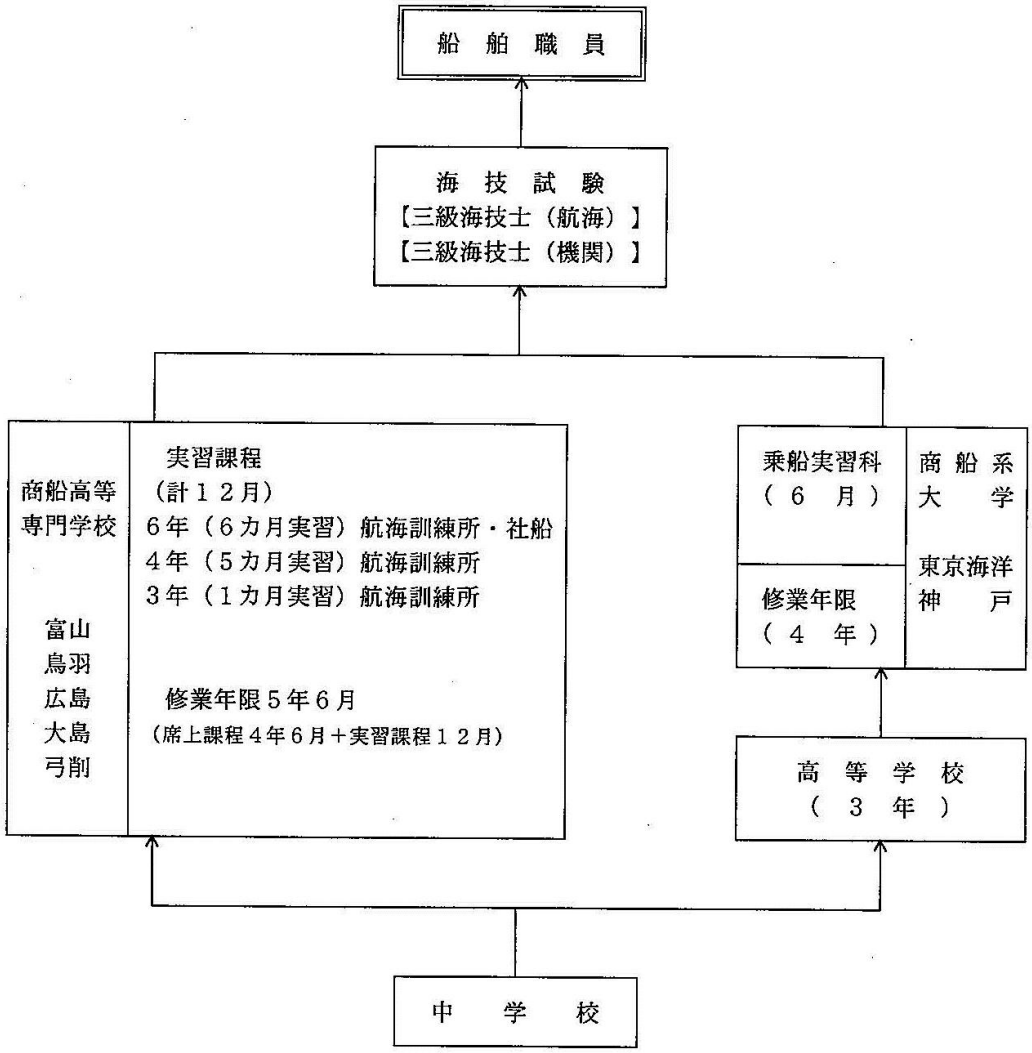


ケータイ甲子園2010発表 [Presentation in Kētai Koshien 2010]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．17）

資料２－１－①－６

５　船舶職員教育機関図



（出典：平成 25 年度学生便覧Ｐ．45）

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は，海上輸送システム工学専攻及び生産システム工学専攻の２専攻を設置している（資料２－１－②－１）。海上輸送システム工学専攻は，商船学科を基盤とし，それを発展させた高度な海事技術者と船舶管理技術者の育成を目指しており，生産システム工学専攻は，電子機械工学科と情報工学科を基盤にした複合学科で，ＩＴ化されたものづくりの幅広い分野で活躍できる技術者の育成を目指しており（資料２－１－②－２），学校教育法の規定に適合したものになっている。

また，科学技術の動向や社会のニーズに対応するため，平成 24 年度に教育課程を改正し，教育技術演習や短期インターンシップ及び長期インターンシップを単位化した（資料２－１－②－３）。

（分析結果とその根拠理由）

本校に設置されている専攻科の２専攻とも基盤となる学科の上積み課程であることを踏まえて構成されており，教育の目的及び学校教育法の規定に適合している。また，科学技術の動向や社会のニーズに対応するため，平成 24 年度に教育課程を改正し，必要な内容を単位化した。

以上のことから，専攻科の構成が，教育の目標を達成する上で適切なものとなっている。

資料２－１－②－１

第１章　学　　則

○弓削商船高等専門学校学則

制　　定　昭和44年１月１日
最終改正　平成23年９月21日

（専攻及び入学定員）

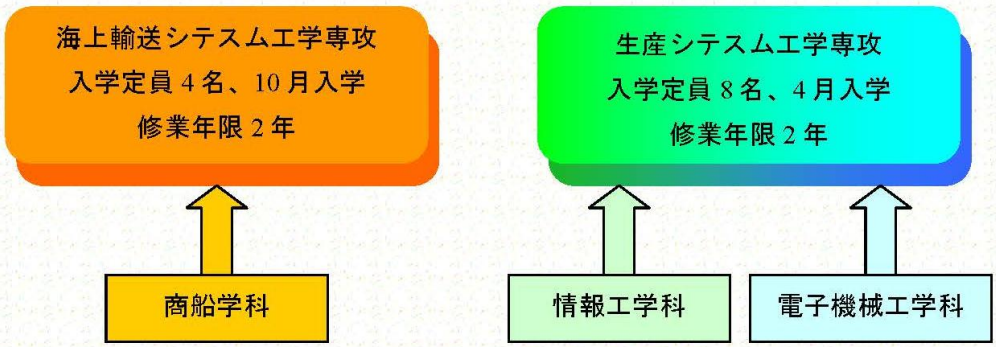
第43条　専攻科の専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
海上輸送システム工学専攻	４人
生産システム工学専攻	８人

（出典：弓削商船高等専門学校規則集１－１抜粋）

資料２－１－②－２

教育課程



海上輸送システム工学専攻

海事管理技術者の養成

海事管理は、大きく運航管理と機関管理からなっています。一年間の航海実習を経験した上で、海上輸送システム工学専攻に進み商船学、物流管理、運航管理および機関管理を学ぶことで運航に必要な技術のみならず、管理技術・ノウハウをも身に付け陸上から船舶運航を管理、支援することのできる人材を育成します。

生産システム工学専攻

実践的な「ものづくり技術者」の養成

情報技術、ものづくり技術を柱とし、制御、電気電子系の専門知識を学ぶことで、複合領域で活躍できる人材を育成します。従来までに学んできた情報工学やものづくり技術を統合して活用できるようになれば、システムの設計・構築から解析まで幅広い分野で活躍できるようになります。

いずれの専攻も修業年限は２年で、海上輸送システム工学専攻、生産システム工学専攻の定員、入学時期は以下に示します。

入試に関する情報については、本校 Web ページ <http://www.yuge.ac.jp> をご覧下頂くか、本校入試係（Tel: 0897-77-4619）までお問い合わせください。

海上輸送システム工学専攻：定員４名　（入学時期は 10 月）
生産システム工学専攻　　：定員８名　（入学時期は４月）

（出典：専攻科「未来へのひとづくりものづくり」）

資料２－１－②－３

授業科目	教育技術演習			担当教員	副専攻科長		
専　　攻	専攻科共通	学　年	１・２年	授業期間	前後期	単位数	1
分　　野	専門科目	授業形態	演習	履修区分	選択		
学習目標	本演習では，本科低学年の補習，学生実験，公開講座などのアシスタントとして指導する経験を積むことにより，自身の総合的な学習経験を活かした教育技術，コミュニケーション能力，ならびに企画を円滑に実行する計画性の向上を図る。						
授業の進め方	履修者は，本科低学年の補習，学生実験，公開講座などを担当する教員（現場担当教員）との相談により演習の実施内容を決定する。専攻科２年間を通して合計３０時間演習に参加することにより，２年後期において単位が認定される。期末ごとに教育技術演習活動報告書を作成し，現場担当教員に提出する。						
授業内容	第１回　　ガイダンスと教授法に関する講義 第２～３０回　アシスタントとしての実習						
教科書・参考書	第１回　　プリントを配布する 第２～３０回　なし						
評価方法	初回の講義に参加する態度と，提出された教育技術活動報告書に基づいて，副専攻科長が総合的に評価する。現場担当教員は，期末ごとに演習に参加する態度と提出された教育技術活動報告書の内容に対して，１０段階で評価する。						
備　　考							

（出典：：平成 25 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．21）

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

全学的なセンターとして，１）情報処理教育センター，２）地域共同研究推進センター及び技術振興会，３）国際交流推進室，４）技術支援センター及び全学的な教育研究のための施設として，５）練習船「弓削丸」がある（資料２－１－③－１）。

情報処理教育センターは，教育研究活動への利用のみならず，情報ネットワーク管理運営，構内ＬＡＮの構築と運用，情報セキュリティ等に関する運営を行っている（資料２－１－③－２）。具体的な教育活動としては，全学的な情報処理関連の授業・実験・実習のほか自学自習にも利用されており，本校が独自に開発した 20 種類の e-learning コンテンツも活用されている（資料２－１－③－３）。

地域共同研究推進センターは，本校と地域の機関・企業等が保有する専門知識と施設を相互に活用することを目的に設置されており（資料２－１－③－４），学術の発展に即応させるために専攻科生による研究成果のパネル展示を行ったり（資料２－１－③－５），インターンシップ受け入れ先の開拓支援等を行っている。また，同センターに併設されている「弓削商船高等専門学校技術振興会（しまなみテクノパートナーズ)」（資料２－１－③－４）においては，実践的技術者育成の支援として，学生の学会発表及び海外研修への支援等を行っている。

国際交流推進室は，留学生交流及び国際教育研究交流の推進を図るため平成 22 年に設置され（資料２－１－③－６），学生の海外での研究発表や短期及び長期インターンシップの推進及び支援を行っている（資料２－１－③－７）。

技術支援センターは，平成 21 年に，「技術支援に関する専門的業務を組織的，かつ効率的に処理するとともに，技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校の教育研究支援体制の充実に資することを目的」として旧技術支援室からセンター化された（資料２－１－③－８）。同センターは，基礎的及び専門的技術教育支援や卒業研究及び特別研究でも活用されている（資料２－１－③－９）。

練習船「弓削丸」は，商船学科の海事技術者教育のみでなく，本校の教育方針にある「海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き（抜粋)」の実践である工業系２学科への海洋教育支援にも利用している全学的な施設である（資料２－１－③－10)。今年度中には最新の船内ＬＡＮ設備に更新することになっており，商船学科の航海実習・実験実習・卒業研究，工業系２学科の航海実習及び四国地区高専の特別講義等に多面的に活用されている（資料２－１－③－11)。

（分析結果とその根拠理由）

全学的なセンターとして，情報処理教育センター，地域共同研究推進センター及び技術振興会，国際交流推進室，技術支援センター及び全学的な教育研究のための施設として練習船「弓削丸」を設置している。これらのセンター等は，実践的技術者養成のための教育活動（講義，実験・実習，演習，卒業研究，特別研究）に全学的に活用されており，整備されている。

以上のことから，本校に設置されているセンター等は，教育の目的を達成する上で適正なものとなっている。

資料２－１－③－１

組織　Organization



（出典：2012 学校要覧Ｐ．4）

資料２－１－③－２

○弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則

制　　定　平成６年２月４日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）

第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第４条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校情報処理教育センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

（業務）

第２条　センターは，本校の共同利用施設として，次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　教職員及び学生の教育研究活動に関する事項
(2)　電子計算機システム及び情報ネットワークの管理運営に関する事項
(3)　校内ＬＡＮの構築及び運用に関する事項
(4)　センターを利用した社会人教育に関する事項
(5)　情報セキュリティポリシー策定及び情報セキュリティ対策に関する事項
(6)　その他センター長が必要と認めた事項

（組織）

第３条　センターに次の各号に掲げる職員を置く。

(1)　センター長
(2)　副センター長　１名
(3)　その他必要な職員（以下「その他の職員」という。）

２　センター長は，本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。

３　副センター長は，本校の教授又は准教授の中からセンター長の推薦により，校長が任命する。

４　センター長及び副センター長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

５　センター長は，センターの管理運営に関し総括する。

６　副センター長は，センター長を補佐する。

７　その他の職員は，センター長の命を受けセンターの業務に従事する。

（委員会）

第４条　センターの運営に関し，第２条に掲げる事項を審議するため，センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　センター長
(2)　副センター長
(3)　各学科及び総合教育科から選出された教員各１名
(4)　各課長
(5)　技術長

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－11 抜粋）

資料２－１－③－３



（出典：本校ウェブサイト）

資料２－１－③－４

技術振興会（しまなみテクノパートナーズ）

Association for advancement of technology

技術振興会は、本校の教育研究活動に協力するとともに、相互の連携を密にして、相互研鑽を通して地域における産業技術の振興と地域社会の発展に寄与することを目的として、地域の産業界や卒業生等の皆様のご協力のもと、平成19年3月に設立されました。

愛称の“しまなみテクノパートナーズ（STeP）”は、弓削商船高等専門学校がしまなみ地域における唯一の高等教育機関であり、しまなみ地域における産学官が良きパートナーとして一つにまとまることを願って名付けられたものです。

活 動 内 容：講演会や技術講習会の開催、共同研究・受託研究への支援、教員研究や人材育成プログラムへの支援等

現在の会員数：法人会員45、特別会員7、個人会員74

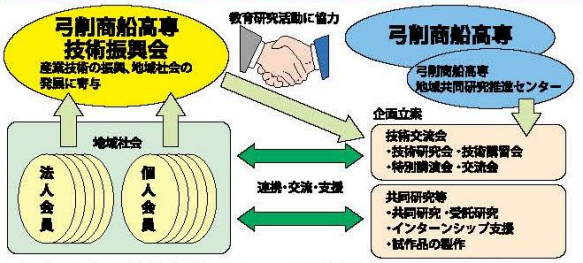
Thanks to the cooperation of the local businesses, graduates and people interested, Association for Advancement of Technology was formed in March 2007, to support the academic researches, and strengthen communications among and between the institutes, and provide opportunities for reciprocal learning, and contribute to the development of industrial technology and local communities.

This Association is casually called “Shimanami Techno Partners (STeP), as we are the only higher educational institute in this area in Shimanami, and we wish that the local government, business and academic circles become real partners in this community.

Contents: Hosting technical seminars & lectures, supporting collaborative researches & commissioned researches, contributing to studies among teachers & human resource training

Number of members: 45 enterprises, 7 honorable members, 74 regular members

しまなみテクノパートナーズの概念図



地域共同研究推進センター

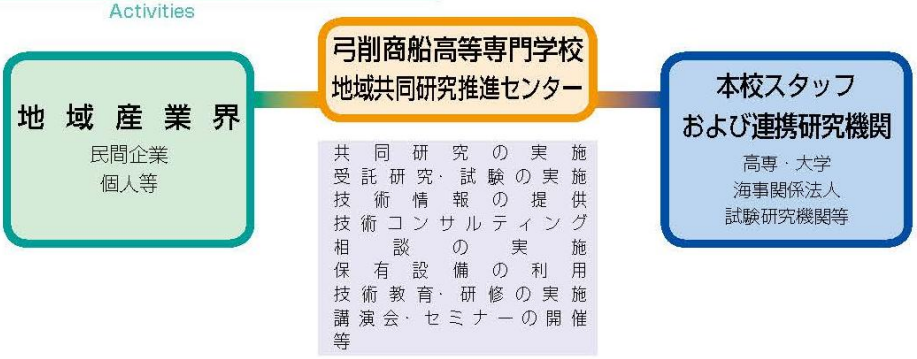
Research Center for Regional Collaboration

本センターは，民間等外部の機関との連携を深め，地域産業の発展・育成に関わる技術分野について，技術相談，技術指導，共同研究等の要請に応え，かつ，リフレッシュ教育の積極的推進を図り，併せて，本校における研究水準の向上に寄与することを目的に，平成14年10月に設立した。

The Research Center was established in October 2002 in order to strengthen the collaboration between and among various private entities, to accelerate the collaborative research and technological counseling and guidance which we had had many requests, to rejuvenate the educational environment for further development of the local industries, and to contribute to the overall academic level.

センターの活動内容

Activities



（出典：2012 学校要覧Ｐ．36）

資料２－１－③－５

商船祭

第８回パネルフォーラム

教員、専攻科生、技術振興会会員が研究・開発シーズ発掘のための
パネル展示を開催いたします。
当日は商船祭の開催期間中ですので、お気軽にご参加ください。

会　期　１１月３日（土）～４日（日）
１０：００～１５：００

会　場　弓削商船高専第１、第２会議室



【１１月３日（土）】

★成果発表会　１３：００～１４：００

13:00～13:30　高岡　俊輔

13:30～14:00　DAVAA　GANBAT

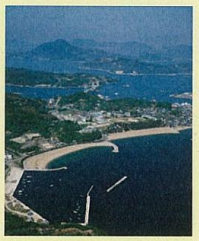
★ポスターイントロダクション １４：００～　３分／１件

【１１月４日（日）】

★コアタイム １３：００～１４：００（詳細な説明をさせていただきます）

両日とも企業によるパネル展示をしております。

主催　弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター
　　弓削商船高等専門学校技術振興会
共催　弓削商船高等専門学校専攻科



お問い合わせ／弓削商船高等専門学校　企画広報室企画係
〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000
TEL：0897-77-4613　　FAX：0897-77-4691
URL：http://www.yuge.ac.jp

（出典：企画広報室）

資料２－１－③－６

○弓削商船高等専門学校国際交流推進室規則

制　　定　平成 22 年６月 21 日

（設置）

第１条　弓削商船高等専門学校に，留学生交流及び国際教育研究交流の推進を図るため，弓削商船高等専門学校国際交流推進室（以下「推進室」という。）を置く。

（業務）

第２条　推進室は，次の各号に掲げる業務を行う。

（１）外国人留学生の受入れに関する事項

（２）学生の留学及び海外研修に関する事項

（３）外国及び国内の大学等との協定に関する事項

（４）外国及び国内の大学等との教職員の交流に関する事項

（５）その他本校の国際交流の推進に関する事項

（組織）

第３条　推進室は，次の各号に掲げる室員をもって組織する。

（１）国際交流推進室長

（２）国際交流推進室副室長

（３）留学関係担当　若干名

（４）国際学術交流関係担当　若干名

（５）各課長及び企画広報室長

２　前項第１号から第４号の室員は，教員の中から校長が指名する。

３　前項第１号から第４号の室員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（室長及び副室長）

第４条　推進室に室長及び副室長を置く。

２　室長は，推進室に関する業務を総括する。

３　副室長は，室長の業務を補佐する。

４　室長に事故があるときは，副室長がその職務を代行する。

（庶務）

第５条　推進室に関する庶務は，企画広報室及び学生課において処理する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－39 抜粋）

資料２－１－③－７

タイ王国「ナコンパノム大学」を訪問し国際交流

弓削商船高専では、本校と国際交流協定を締結しているタイ王国のナコンパノム大学に教員２名、技術職員１名、学生７名（計１０名）が、１２月１８日～１２月２７日の１０日間訪問し、「メコン川の水深・水温自動計測ロボット」の共同プロジェクトの実施と学術・文化交流を行った。

滞在中は、共同開発中の「無人ロボットによるメコン川での水深、温度マップの計測実験」、「高専紹介」、「タイ・日本料理の調理実習」、「パイロット養成学科の見学」などを通し、現地の学生との交流を深めた。

参加した学生からは、「タイ国に多くの友人ができた」、「異文化に触れ、外から日本を見ることができた」、「語学力の必要性を感じた」、「海外に行くことへの抵抗感が無くなった」、「海外留学してみたい」等の声が聞かれ、非常に貴重な体験をする機会となった。








（出典：本校ウェブサイト）

資料２－１－③－８

○弓削商船高等専門学校技術支援センター規則

制　　定　平成21年９月30日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（規則第４号）第12条及び弓削商船高等専門学校内部組織規則第３条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の技術支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（目的）
第２条　センターは，本校の技術支援に関する専門的業務を組織的，かつ効率的に処理するとともに，技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校の教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。
（業務）
第３条　センターは，次の各号に掲げる業務を行う。
一　教育及び研究に対する技術支援の基本計画に関すること。
二　学生の実験，実習，卒業研究等の準備及び技術指導に関すること。
三　教員の教育研究活動（共同研究を含む。）への技術支援に関すること。
四　地域連携活動，共同研究，公開講座及び各種コンテスト等への技術支援に関すること。
五　技術の習得，継承及び保存に関すること。
六　技術研修，技術講演会等に関すること。
七　実習船係留場施設（練習船を除く。），実習工場，実験室等の共通機器等の保守・管理並びに災害事故防止に関すること。
八　練習船弓削丸の業務支援に関すること。
九　その他センターの目的達成のため必要な事項に関すること。
（組織）
第４条　センターに，第一技術班及び第二技術班を置き，前条に掲げる業務を行う。
一　第一技術班　第３条に掲げる業務のうち，商船系分野に関する事項及び第一技術班の管理運営に関すること。
二　第二技術班　第３条に掲げる業務のうち，電気・電子系分野，機械系分野並びに情報系分野に関すること及び第二技術班の管理運営に関すること。
２　各班は，相互に連携協力してセンターの業務を円滑に遂行するものとする。
（職員）
第５条　センターに，次の各号に掲げる職員を置く。
一　センター長
二　技術長
三　班長
四　技術専門職員
五　技術職員
２　センター長は，本校の教員の中から校長が任命する。
３　センター長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
４　技術長及び班長は，技術専門員及び技術専門職員の中から校長が任命する。
５　校長が必要と認めるときは，センター長を補佐するため，センターに副センター長を置くことができる。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－37 抜粋）

資料２－１－③－９

技術支援センター職員の実験実習等の担当状況について

平成25年 4月1日現在

		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限		その他	
		学科、学生及び科目名	担当者<指導学生数>	学科、学生及び科目名	担当者<指導学生数>	学科、学生及び科目名	担当者<指導学生数>	学科、学生及び科目名	担当者<指導学生数>	学科、学生及び科目名	担当者<指導学生数>	学科、学生及び科目名	担当者<指導学生数>	学科、学生及び科目名	担当者<指導学生数>
月		M2:実験実習 ・ガス溶接、電気溶接 ・アームロボットの製作 ・2サイクル・4サイクルエンジン（分解組立） ・NCプライス盤のプログラム 制御による切削加工 ・ディーゼル・スラロームの製作	伊藤（治）<4> 岩崎（俊）<4> 伊藤（憲）<8> 山下<8> 使用<8> 使用<8> 鈴木<4>	S1:機械通信	中塚<8~9> 岡本<8~9> 小林<8~9> 向井<監理職>	S3:実験実習 ・工作機械の取扱（旋盤） ・鉛筆削盤 ・ガス溶接 ・NCプライス盤 ・シーケンス制御 ・弓形土質地耐圧試験法	伊藤（治）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 山下<2~3> 向井<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 中原<2~3>	S4:工学実験 S5:工学実験 S6:工学実験	伊藤（治）<3> 伊藤（憲）<3> 岩崎（俊）<3> 山下<3~4> 岩崎（俊）<3~4> 向井<3~4>	S4:工学実験 S5:工学実験 S6:実験実習	山下<2~3> 伊藤（治）<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 使用<2~3>	S4:工学実験	山下<2~3> 伊藤（治）<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 使用<2~3>	
火		M3:実験実習 ・ワイヤカットのCAD/CAM 制御による切削加工 ・シーケンス制御 ・電子実験 ・テストハンマーの製作	使用<8> 岩崎（俊）<8> 伊藤（憲）<8> 山下<3> 伊藤（憲）<3> 鈴木<3>												
	・電気計測	・電気計測	木村<4> 長井<4>												
水		M1:実験実習 ・特殊な実習 ・工作機械の取扱（旋盤） ・手仕上げ実習（鉄片の製作） ・作業工具・計測器具の取扱	伊藤（憲）<8> 山下<3> 使用<3> 鈴木<3> 岩崎（俊）<4> 向井<4> 伊藤（憲）<8>	S4:工学実験 S5:工学実験	中塚<8~9> 岡本<8~9> 小林<8~9> 向井<監理職>	S3:実験実習 ・工作機械の取扱（旋盤） ・鉛筆削盤 ・ガス溶接 ・NCプライス盤 ・シーケンス制御 ・弓形土質地耐圧試験法	伊藤（治）<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 山下<2~3> 使用<2~3> 鈴木<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 中原<2~3>	S4:工学実験 S5:工学実験 S6:工学実験	伊藤（治）<3> 伊藤（憲）<3> 使用<3> 鈴木<3> 山下<3~4> 岩崎（俊）<3~4> 向井<3~4>	S4:工学実験 S5:工学実験 S6:実験実習	伊藤（治）<3> 伊藤（憲）<3> 使用<3> 鈴木<3> 山下<3~4> 岩崎（俊）<3~4> 向井<3~4>	S4:工学実験	伊藤（治）<3> 伊藤（憲）<3> 使用<3> 鈴木<3> 山下<3~4> 岩崎（俊）<3~4> 向井<3~4>	
木		I3:実験実習 ・ワイヤーカットのCAD、CAM制御による切削加工（前期） ・NCプライス盤のプログラム制御による切削加工（後期）	山下<1~2> 伊藤（憲）<1~2> 伊藤（治）<1~2> 岩崎（俊）<1~2> 使用<1~2>			I3:実験実習 ・ワイヤーカットのCAD、CAM制御による切削加工（前期） ・NCプライス盤のプログラム制御による切削加工（後期）	山下<1~2> 伊藤（憲）<1~2> 伊藤（治）<1~2> 岩崎（俊）<1~2> 鈴木<1~2>	S4:工学実験 S5:工学実験 S6:工学実験	山下<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 伊藤（治）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 使用<2~3>	S4:工学実験 S5:工学実験 S6:実験実習	山下<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 伊藤（治）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 使用<2~3>	S4:工学実験	山下<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 伊藤（治）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 使用<2~3>	
	・鉛筆削盤実習 ・鉛筆削盤実習 ・ソフトウェア演習	高田<7~8> 田原<3~4> 使用<3~4>	・鉛筆削盤実習 ・鉛筆削盤実習 ・ソフトウェア演習	高田<7~8> 田原<3~4> 使用<3~4>											
金		S2:実験実習 ・工作機械の取扱（旋盤） ・鉛筆削盤 ・ガス溶接 ・NCプライス盤 ・シーケンス制御 ・弓形土質地耐圧試験法	伊藤（治）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 山下<2~3> 向井<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 使用<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 中原<2~3>			S2:実験実習 ・工作機械の取扱（旋盤） ・鉛筆削盤 ・書道教育 ・ガス溶接 ・NCプライス盤 ・シーケンス制御 ・弓形土質地耐圧試験法	伊藤（憲）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 山下<2~3> 向井<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 使用<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 中原<2~3>	S4:工学実験 S5:工学実験 S6:工学実験	山下<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 伊藤（治）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 使用<2~3>	S4:工学実験	山下<2~3> 伊藤（憲）<2~3> 伊藤（治）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 使用<2~3>		
	・ディーゼルエンジンのバルブ開閉、抵抗の分解組立	伊藤（憲）<2~3> 中村<2~3>	・ディーゼルエンジンのバルブ開閉、抵抗の分解組立	伊藤（憲）<2~3> 中村<2~3>											

※1 指導学生数は、前期の第1回目の授業時の履修者数である。
※2 その他及び特徴は、技術室職員が必要（要望）に応じて補佐している。

（出典：技術支援センター）

資料２－１－③－10

練習船 Training Ship

（平成6年3月竣工）

練習船「弓削丸」

Training Ship "YUGE MARU"



練習船　弓削丸 [Training Ship "YUGEMARU"]

弓削丸は，最新の技術を結集して建造された練習船で，運航技術を収得するための航海実習はもとより，学生及び教員の実験研究にも活用している。また，船内LANを陸上機器につなぎ，情報の交換や陸上より司令を出すことで船舶を管理する研究など、未来の運航技術の開発も目指している。

■資　　格　近海区域・第４種船
■主要寸法　全長40.0ｍ，巾8.0ｍ，深さ3.3ｍ
■総 屯 数　240.0屯
■航続距離　約2,300浬
■航海速力　約13.75ノット
■主 機 関　ダイハツ６Ｄ，Ｍ－24ＳＬ，４サイクル，中速ディーゼル機関，1,300ＰＳ／750ｒｐｍ
■主発電機　三相交流自励式２台(187.5ＫＶＡ)
■軸発電機　(150ＫＶＡ)
■定　　員　乗組員9名，実習生44名，その他3名，計56名

航海コンソール一式，機関コンソール一式，
Ｃ・Ｒ・Ｔディスプレイ装備，
バウスラスター装備（推力）１トン
スタンスラスター装備（推力）１トン



航海実習 [Navigation Practice]

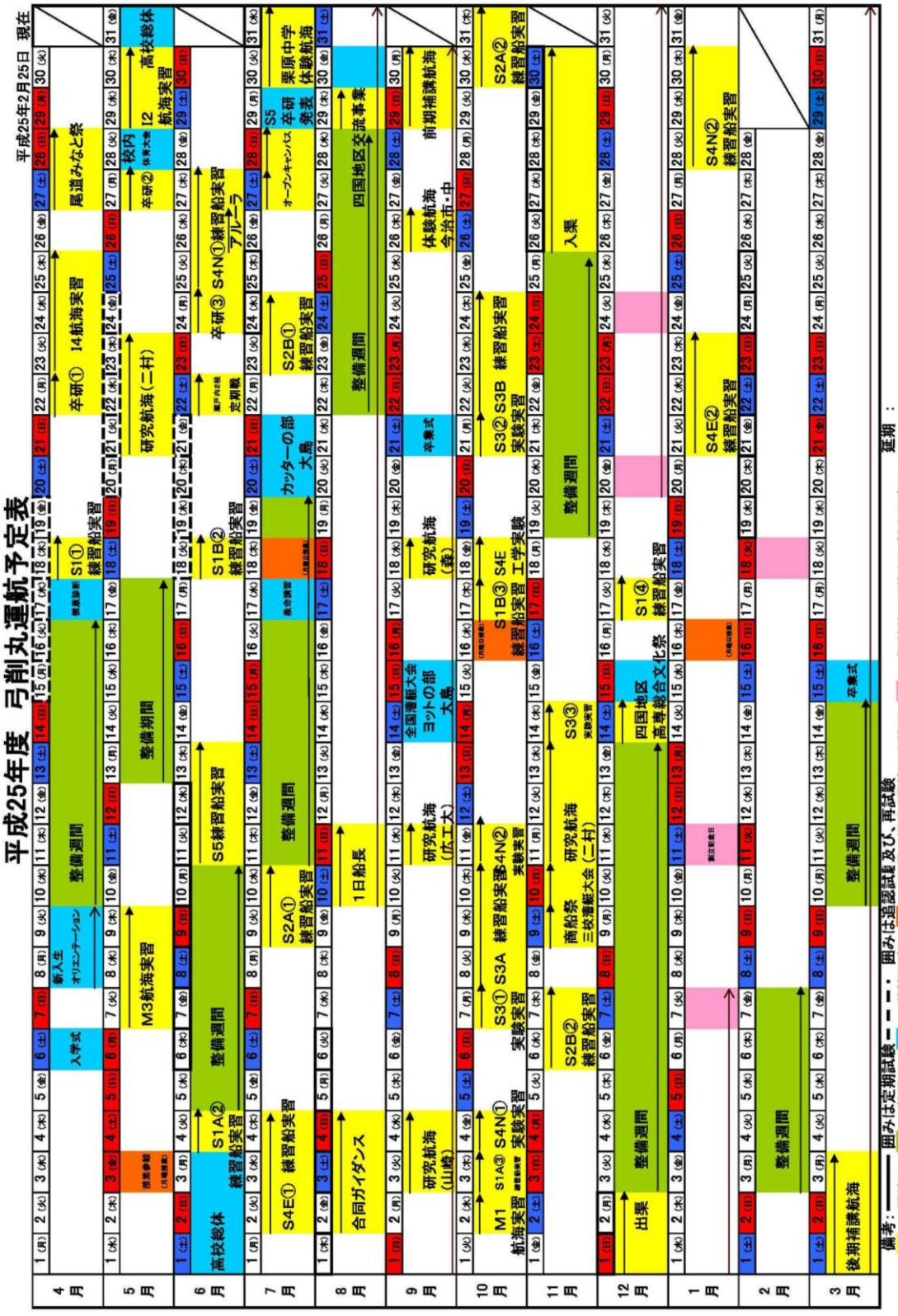
The training ship `YUGE MARU` was built with cutting-edge technologies for navigation trainings to acquire operational technologies and experimental studies of students and teachers. We have connected the inboard LAN and onshore facilities to develop future operational technologies, such as the research of ship-management by exchanging information and commands from the office.

License:Greater coasting area · Class 4 ship
Main size:Length 40.0m. Width 8.0m. Depth 3.3m.
Gross ton:240.0 ton
Cruising radius:About 2,300 n-miles
Sea speed:About 13.75 knots
Main engine:Daihatsu 6D, M-24SL, 4-strok
Medium-speed diesel engine 1,300 PS/750 rpm
Main generator:2 three-phase AC self-excited generators (187.5KVA)
Shaft generator:(150KVA)
Capacity:9 crews, 44 trainees, 3 others Total 56 crews
A set of navigation console, a set of engine console
C · R · T display equipment
Bow thruster equipment (thrust) 1 ton
Stun thruster equipment (thrust) 1 ton

（平成12年3月竣工）

（出典：2012 学校要覧Ｐ．28）

資料２－１－③－11



（出典：練習船弓削丸班）

観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

教育課程全般にわたる重要な課題は，校長が委員長を務める運営委員会（資料２－２－①－１）と自己点検評価委員会（資料２－２－①－２）で審議または報告されている（資料２－２－①－３，４）。

教育活動の細部については教務委員会，厚生補導委員会，寮務委員会及び専攻科委員会で審議しており，その結果は，内容に応じて運営委員会，教員会議及び校長に報告し，各学科の分科会等を通じて学内に周知している（資料２－２－①－５～８）。

教務委員会は，準学士課程教育課程の編成，教育全般について企画・検討・調整を行っている（資料２－２－①－９）。厚生補導委員会及び寮務委員会は，準学士課程学生の厚生補導及び寮生活の全体に関する事項を審議している。専攻科委員会は専攻科学生の教務事項及び厚生補導に関する事項を審議している。

（分析結果とその根拠理由）

教育活動に必要な事項は，教務委員会，厚生補導委員会，寮務委員会及び専攻科委員会で検討・審議し，審議結果は，内容に応じて運営委員会及び自己点検評価委員会で審議・報告がされた後，教員会議や各学科の分科会等を通じ学内に周知している。

以上のことから，教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているといえる。

資料２－２－①－１

○弓削商船高等専門学校運営委員会規則

制　　定　平成16年12月27日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第14条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，校長の諮問に応じて，次の各号に掲げる重要事項について審議する。
(1)　学則その他諸規則の制定改廃に関する事項
(2)　予算に関する事項
(3)　施設及び設備に関する事項
(4)　その他管理運営に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　校長
(2)　各主事
(3)　各学科長，総合教育科長及び専攻科長
(4)　図書館長
(5)　情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
(6)　練習船弓削丸船長
(7)　各学科及び総合教育科から選出された教員各１名
(8)　事務部長
(9)　技術支援センター長
２　前項第７号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号に掲げる委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（幹事）

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－１抜粋）

資料２－２－①－２

○弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則

制　　定　平成４年５月14日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議し，本校の教育水準の向上を図り，本校の目的及び社会的使命を達成することを目的とする。
(1)　自己点検評価の実施方法等に関する事項
(2)　自己点検評価の項目の設定に関する事項
(3)　自己点検評価の結果の活用に関する事項
(4)　その他自己点検評価の実施に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　校長
(2)　各主事
(3)　各学科長，総合教育科長及び専攻科長
(4)　図書館長
(5)　情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
(6)　各学科及び総合教育科から選出された教員各１名
(7)　事務部長
(8)　技術支援センター長
２　前項第６号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（幹事）
第６条　委員会に幹事を置き，各課長をもって充てる。
（庶務）

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－２抜粋）

資料２－２－①－３

平成２４年度　第１２回運営委員会議事概要

日　時　　平成２５年３月１９日（火）１４：３０～１５：２０
場　所　　第２会議室
出席者　　１６名（別紙のとおり）
議　題

（審議事項）

1. 「弓削商船高等専門学校学則」の一部改正について
　松田総務課長から、議題資料１に基づき、「弓削商船高等専門学校学則」の一部改正について、前回の運営委員会で保留となっていた教育課程表及び新旧対照表の附則２の改正を行う旨の説明があり、原案のとおり了承された。

（出典:平成 24 年度第 12 回運営委員会議事録）

資料２－２－①－４

目　　次

１．第７回運営諮問会議（平成２２年度）の報告
１－１　第６回運営諮問会議（平成２１年度）の提言と本校の対応・・　１
（１）　第６回運営諮問会議（平成２１年度）の提言　・・・・・・　１
（２）　提言に対する本校の対応　・・・・・・・・・・・・・・・　１
１－２　第７回運営諮問会議（平成２２年度）諮問事項と提言　・・・１０
（１）　第７回運営諮問会議（平成２２年度）諮問事項　・・・・・１０
（２）　審議内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
（３）　提言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６
２．教育方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
３．学科等の教育目標及び現状と課題　・・・・・・・・・・・・・　１７
（１）総合教育科（教養教育）　・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
（２）商船学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
（３）電子機械工学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
（４）情報工学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
４．専攻科の教育目標及び現状と課題　・・・・・・・・・・・・・　２５
（１）海上輸送システム工学専攻　・・・・・・・・・・・・・・・　２５
（２）生産システム工学専攻　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
５．事務組織の現状と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９
６．施設・設備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
資料編　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５

（出典:平成 22 年度自己点検・評価報告書目次）

資料２－２－①－５

○弓削商船高等専門学校教務委員会規則

制　　定　昭和58年９月20日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　教育計画の立案に関する事項
(2)　進級及び卒業等に関する事項
(3)　進学に関する事項
(4)　その他教務に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　教務主事
(2)　各学科長及び総合教育科長
(3)　教務主事補
(4)　学生課長
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，学生課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。
附　則
１　この規則は，昭和58年９月20日より施行する。
２　この規則施行の際，現に従前の教務委員会委員長及び委員である者は，この規則により任命されたものとみなす。
附　則

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－５抜粋）

資料２－２－①－６

○弓削商船高等専門学校厚生補導委員会規則

制　　定　昭和58年９月20日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　生活指導に関する事項
(2)　課外活動に関する事項
(3)　補導及び懲戒に関する事項
(4)　入学料，授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する事項
(5)　その他福祉厚生に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　各主事
(2)　各主事補
(3)　各学級担任
(4)　学生課長
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，学生主事をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，学生課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則

１　この規則は，昭和58年９月20日から施行する。
２　この規則施行の際，現に従前の厚生補導委員会委員長及び委員である者は，この規則により任命されたものとみなす。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－７抜粋）

資料２－２－①－７

○弓削商船高等専門学校寮務委員会規則

制　　定　昭和63年３月28日
最終改正　平成21年２月19日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校学寮管理運営規則第６条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　寮生の生活指導に関する事項
(2)　学寮内の規律保持に関する事項
(3)　寮生の入寮及び退寮に関する事項
(4)　寮生の離寮措置に関する事項
(5)　学寮内諸行事の指導に関する事項
(6)　学寮内の環境整備に関する事項
(7)　寮生の健康管理及び安全管理に関する事項
(8)　その他寮生の指導に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　寮務主事及び学生主事
(2)　寮務主事補及び学生主事補
(3)　各学科及び総合教育科から選出された教員各１名
(4)　学生課長
２　前項第３号の委員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，寮務主事をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，学生課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別

（出典:弓削商船高等専門学校規則集２－23 抜粋）

資料２－２－①－８

○弓削商船高等専門学校専攻科委員会規則

制　　定　平成16年12月20日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　教育課程の編成及び実施に関する事項
(2)　教育計画及び授業時間の編成に関する事項
(3)　入学者選抜に関する事項
(4)　入学，退学，転学，休学，復学及び修了に関する事項
(5)　試験及び学業成績に関する事項
(6)　学生の進学及び就職に関する事項
(7)　学生の厚生補導に関する事項
(8)　専攻科における授業担当教員の資格に関する事項（人事委員会に係るものを除く。）
(9)　その他専攻科の運営に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　専攻科長
(2)　各主事
(3)　副専攻科長
(4)　専攻科を担当する教員の中から校長が指名する者若干名
(5)　その他校長が必要と認めた者
２　前項第４号及び第５号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－28 抜粋）

資料２－２－①－９

平成２４年度第７回教務委員会議事概要

日　時　　平成２５年１月２９日（火）１６時２１分～１７時０６分
場　所　　第二会議室
出席者　　１０名（別紙のとおり）
議　題

（審議事項）
１　平成２４年度教員別担当科目及び授業時間数調について
委員長から、審議資料１に基づき教員別担当科目及び授業時間数について説明があり、最終案を教務係へ提出することで了承された。
また、次の事項が確認された。
・商船学科非常勤講師の[redacted]先生は来年度末66歳となるため、事前に校長の了承を得て人事委員会にかける。
・商船学科のクラス担任に特別活動前・後期１H記入する。
・情報工学科専攻科の特別研究に新１年生担当者の時間数を反映させる。

（出典：平成 24 年度第７回教務委員会議事録）

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

教育計画・教育内容等に関する内容の連携は教務委員会が中心になって，各部署において連絡調整を行っている。数学に関しては，平成 22 年度のカリキュラム改定に伴い，数学教員と専門学科教員が連絡会を開催しながら連携の作業を行い（資料２－２－②－１），一般科目の第１学年から第３学年までに実施される数学の単元の進捗と，専門科目における必要性の関連表を作成し確認された（資料２－２－②－２）。これを活用し，専門科目においては数学の内容の進捗状況を踏まえて，授業を進めるよう配慮している。

また，商船学科においては，商船学科を有する５高専の連携による「ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト」の中で，商船学科における専門科目と一般科目の連携調査を行い（資料２－２－②－３），商船学を学ぶために必要な学問体系との整合性の確保と一般科目と連携した商船学専門科目教授法の構築などを目指して各科目との関連表を作成した（資料２－２－②－４）。この調査は，人文系科目についても実施され，互いの科目間の関連を確認し授業を進める際の参考としている。

（分析結果とその根拠理由）

教育計画・教育内容等に関する内容の連携は教務委員会が中心になって，各部署において連絡調整を行っており，数学教員と専門学科教員が連携して，数学の単元の進捗と専門科目の単元の関連表を作成し，活用している。また，商船学科においては，専門科目と一般科目の連携調査を行い，各科目との関連表を作成し，一般科目と連携した商船学専門科目教授法の構築などを目指している。

以上のことから，一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携は，機能的に行われているといえる。

資料２－２－②－１

数学と専門学科教員連絡会議

日時：平成 24 年 9 月 18 日(火)，１６時２０分～，
場所：第１会議室

出席：藤本，高木，久保，藤井，雙知
※向瀬先生は，出張のため事前に打合せをしました。

次の手続きを取ることを確認した。

１．新カリキュラムで専門科目を確認する。
※　一覧表は，下記のとおり作成しました。

２．数学１，２，数学特論については，数学の教員が，内容を簡潔にまとめる。

３．応用数学については，各学科で，内容を簡潔にまとめる。

４．久保が，数学の科目について授業内容のリストをまとめる。

５．上のリストにより，専門科目で必要とする項目を，各学科で確認する。

※　手順４までは，９月中に行ない。手順５は，出来るだけ速やかに実施する。

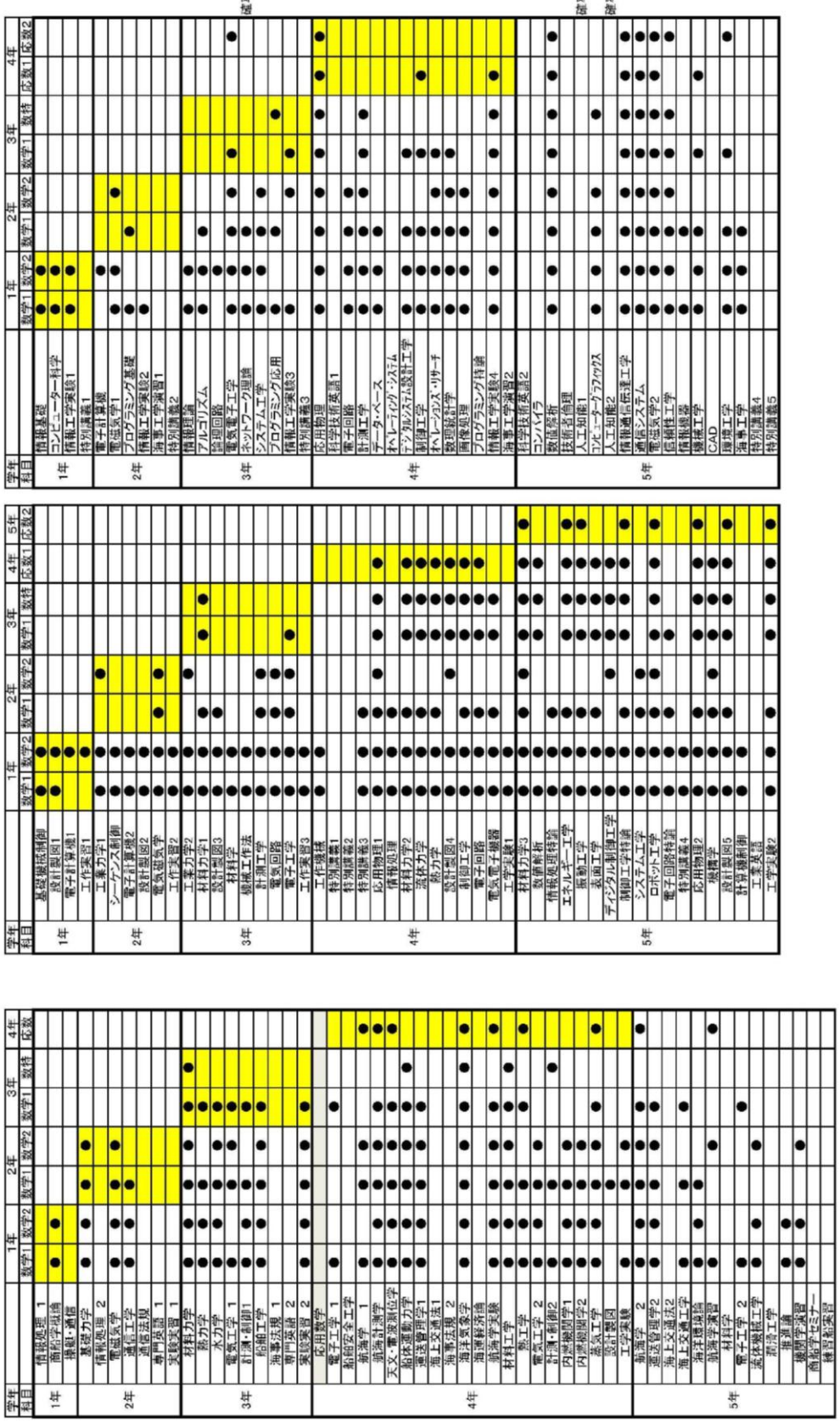
なお，手順１のリストを作成しました。

「通知文等におけるファイル添付の取扱について」のメールの指示に従い，作成したエクセルファイルは，次の場所に保管したので，よろしくお願いします。

Aipo>プロジェクト>総合教育科>
タイトル：「新カリキュラムによる専門科目リスト」
ファイル名：「専門科目一覧(学生便覧 H24 より).xls」

（出典：数学担当教員）

資料２－２－②－２



（出典：学生課）

資料２－２－②－３

目　次

まえがき

1. ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト　1
  1.1 プロジェクトの背景と目的　1
  1.2 プロジェクトの概要　1

2. 商船学科における専門科目と一般科目の連携調査　3
  2.1 連携調査の概要　3
    2.1.1 アンケート実施体制　3
    2.1.2 アンケートの種類、内容と回収数　4
      (1) 商船(工学系)専門科目と一般科目の連携調査　4
      (2) 商船(人文系)専門科目と一般科目の連携調査　7
      (3) 回収アンケートの科目数と教員数　8
  2.2 アンケートの解析　9
    2.2.1 商船(工学系)専門科目アンケートの解析　9
      (1) 商船(工学系)専門科目アンケートの航海・機関比較　9
      (2) 工学系の航海専門科目アンケートの解析　10
      (3) 工学系の機関専門科目アンケートの解析　12
    2.2.2 商船(人文系)専門科目アンケートの解析結果　14

3. まとめ　15

謝辞　16

付録
○ 商船(工学系)専門科目調査　アンケート用紙　QS-1～4
　アンケート解説資料等　QS-5～18
○ 商船(人文系)専門科目調査　アンケート用紙　QH-1～2
　アンケート解説資料等　QH-3～14
○ 商船(工学系)専門科目アンケート解析結果
　五校回答の航海・機関比較　AS-1～2
　航海系専門科目　五校及び各校の回答分布　AN-1～8
　各科目系の回答分布　AN-9～24
　機関系専門科目　五校及び各校の回答分布　AE-1～8
　各科目系の回答分布　AE-9～24
○ 商船(人文系)専門科目アンケート解析結果
　五校回答分布　AH-1～2
　各科目系の回答分布　AH-3～8

（出典：ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト：商船学科における専門科目と一般科目の連携調査報告目次）

資料２－２－②－４

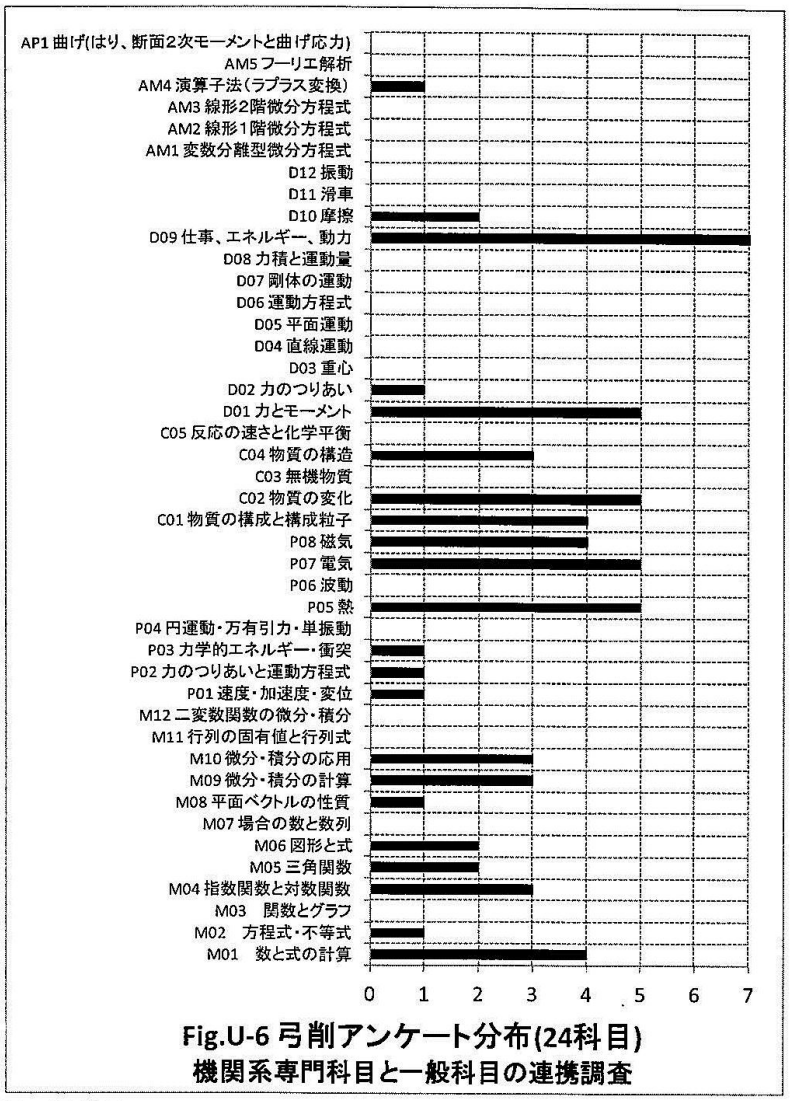


Fig.U-6 弓削アンケート分布(24科目)
機関系専門科目と一般科目の連携調査

弓削　対象科目　24 科目

材料力学Ⅰ	内燃機関学 1	電気機器 1
材料力学Ⅱ	内燃機関学 2	電気機器 2
流体機械工学	内燃機関学 3	電気機器 3
熱力学 1	制御工学 1,2	内燃機関学 3(構造部分)
熱力学 2	電子工学	推進論
蒸気工学	情報処理	船舶工学 2
冷熱工学	電磁気学	水力学
材料学 1	材料学 2	潤滑工学

（出典：ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト：商船学科における専門科目と一般科目の連携調査報告 AE－７）

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

本校は，教育活動の支援の最も重要な位置付けとして学級担任を重視している。学級担任は学級担任委員会，厚生補導委員会の構成員であり，議事を通して学生に関する情報を周知できる体制を構築している（資料２－２－③－１）。全教員が持つ「学級担任の手引き」により，担任業務は担任のみでなく３主事及び学科長の協力を明記している（資料２－２－③－２）。

特に第１学年については，初年次教育支援室を設置し（資料２－２－③－３），支援教員を配置しており，オリエンテーション，ホームルーム，講演会，補習等の支援を行っている（資料２－２－③－４）。

課外活動の中心になるクラブ活動は，全教員がいずれかの顧問に配置され，その活動及び指導が円滑に実施されるように複数の教員で分担の配慮をしている（資料２－２－③－５）。教員数に対しクラブ・同好会の数が多く，複数のクラブ顧問となり指導が手薄となることや，経験のない分野の顧問になる場合も見られるので，クラブ活動の技術的な指導業務として学外専門コーチ等への委託を取り入れた（資料２－２－③－６）。また，対外試合の引率に実習船「はまかぜ」を活用することができる体制としている（資料２－２－③－７）。

学生寮の宿直業務支援としては，「当直者の手引き」（資料２－２－③－８）を作成しており，新任教員に対しては初めて宿直に入る際，寮務主事・主事補による支援を行っている。

以上のように教育活動を円滑に実施するための支援体制を整備しているが，本校は３学科の小規模校で教員数が少ないため，個々の教員の負担が大きくなっていることが課題である。

（分析結果とその根拠理由）

学級担任の職務の重要性に鑑み，その役割を担任１人に負わせるのではなく，担任を支援する支援教員や学科長，主事等により，その教育活動を支援する体制が整備され，機能している。課外活動においても，各クラブを複数の教員で顧問の分担を行い，学外コーチの委託及び試合引率に実習船「はまかぜ」の利用等の支援体制が整備され，機能している。また，学生寮においては，「当直者の手引き」の作成や新任教員の宿直支援等，寮務主事・主事補による支援を行っている。しかしながら，本校は３学科の小規模校で教員数が少ないため，個々の教員の負荷が大きいことが課題である。

以上のことから，教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているといえる。

資料２－２－③－１

平成２４年度第２回学級担任委員会議議事概要

日　時　　平成２４年６月２６日（火）１６時２４分～１６時４７分

場　所　　第一会議室

出席者　　１６名（別紙のとおり）

議　事

（審議事項）

１　保護者懇談会について

教務主事から、審議資料１に基づき、前期保護者懇談会の説明があり、平成２５年度からセメスター制を実施する旨を保護者懇談会で説明する旨の発言があった。

また、学級懇談会終了後、「学級懇談会状況」を教務係へ提出するよう依頼があった。

続いて、寮務主事から、保護者の入寮及び男性保護者の女子寮入寮が可能であること、保護者への説明は「当直の手引き」を参考に回答してほしいこと等の説明があった。

２　その他

なし

（出典：平成 24 年度第２回学級担任委員会議事録）

資料２－２－③－２

項　目	業　務　内　容	実施時期
寮生の指導		
所属寮生の寮生活把握	○クラスの寮生の出身地を把握する。緊急時に役立つ。 ○寮での生活・学習状況を把握し、指導を行う。 ○寮生の以下のような状況を把握したら、寮務主事に連絡するとともに、寮を訪問し指導する。 ・欠席、欠課が多い　・学業成績が悪化する ・寮生活上問題がある。	
寮務主事・寮務係との連携	○入寮基準の遵守について指導する。 ○日常生活に問題が起こったり、事故、事件が発生した場合には、寮務主事および寮務係と連絡を密にし、連携をとる。 ○外泊届の各学生の記載内容を確認し押印する。提出期日を厳守する。 ○外泊届の記載内容を確認する。公務等で不在となる場合はその旨を事前に学生に周知し、原則として担任が押印する。 ○寮生への緊急の連絡の際は、寮務係・当直寮監に呼び出しを依頼する。	
下宿生の指導		
下宿生の住所・生活状況把握	○下宿する場合は保護者が連署した「下宿届」を学生係に提出させ、同級生や友人の溜まり場とならないよう注意する。 ○転居した場合は、すぐに届け出るよう指導する。 ○保護者に対し、常に子供の生活状況を把握するよう忠告する。 ○特に、女子の場合は安全上細心の注意をする。	
下宿訪問	○不登校学生の指導等の場合、直接下宿やアパートを訪問する必要が生ずる場合がある。不登校学生でなくても、下宿訪問は学生の生活状況を把握する上で望ましい。学生主事と協力して実施する。 ○管理人がいる場合、学生の様子を聞く。	

（出典：平成 25 年度学級担任の手引きＰ．15）

資料２－２－③－３

○弓削商船高等専門学校初年次教育支援室規則

制　　定　平成23年２月17日
最終改正　平成24年２月16日

（設置）
第１条　弓削商船高等専門学校に，初年次教育支援の充実を図るため，弓削商船高等専門学校初年次教育支援室（以下「支援室」という。）を置く。
（業務）
第２条　支援室は，次の各号に掲げる業務を行う。
（1）初年次教育支援の実施及び学習相談に関する事項
（2）入学予定者の準備学習の実施に関する事項
（3）初年次教育支援の企画・開発に関する事項
（4）その他初年次教育の推進に関する事項
（組織）
第３条　支援室は，次の各号に掲げる室員をもって組織する。
（1）支援室長
（2）副支援室長
（3）第１学年学級担任
（4）支援教員３名
（5）総合教育科から選出された数学及び英語担当教員各１名
（6）その他校長が必要と認めた者
２　前項第１号，第２号，第４号及び第６号の室員は，教員の中から校長が指名する。
３　前項第１号から第６号までの室員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（支援室長，副支援室長及び支援教員の職務）
第４条　支援室長は，支援室に関する業務を総括する。
２　副支援室長は，支援室長の業務を補佐する。
３　支援教員は，支援室長，副支援室長及び第１学年学級担任の業務を補佐する。
４　支援室長に事故があるときは，副支援室長がその職務を代行する。
（庶務）
第５条　支援室に関する庶務は，学生課において処理する。
附　則
この規則は，平成23年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成24年４月１日から施行する。

（出典:弓削商船高等専門学校規則集２－41 抜粋）

資料２－２－③－４

平成２４年度初年次教育支援項目表

実施日	項目	担当	内容
（３月）	入学準備（春季課題学習）	英、数、国教員	英数国の教員に問題作成を依頼、配布
5/11	初年次教育支援室第1回打ち合わせ会	初年次教育支援室員	今年度の活動方針と年間計画
4/11, 4/12	新入生オリエンテーション	初年次教育支援室員	学生主事と協力支援
4/13, 4/16	英数国３教科校内学力試験	初年次教育支援室英語数学担当教員	結果を分析、学級担任にフィードバック
5/10	合同ホームルーム（高専生活について、学習方法、悩みの相談等）	初年次教育支援室員	教務主事、学生主事、カウンセラー講話
5/18, 5/21, 5/25, 5/28, 6/1, 6/4	前期中間試験前補習（月、金７限）	英語、数学担当教員	英語、数学の補習
9/20	学外講師による講演会	新中央工業　関　俊治氏	働くことの意義について
11/8	学外講師による講演会	愛媛県赤十字センター所長　松坂　俊光先生	命の大切さとタバコの害について
9/7, 9/10, 9/14, 9/24	前期期末試験前補習（月、金７限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
10/3	学級担任、学生主事補との連絡会	初年次教育支援室員、学生主事・主事補	学生支援上の問題点について意見交換
11/4	芸術授業発表会（商船祭）	芸術科目教員、初年次教育支援室員	芸術科目講師の発表会支援（準備／当日／片付け）
11/16, 11/19, 11/26, 11/30	後期中間試験前補習（月、金７限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
1/17	専攻科生講演	専攻科生	海上輸送1名、生産システム2名による講演と質疑応答
2/4, 2/8, 2/15, 2/18	後期期末試験前補習（月、金７限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
2/19	音楽授業選択者年度末おさらい会	音楽教員、初年次教育支援室長、副室長	芸術科目講師の発表会支援
	校歌練習		音楽講師に依頼（学級担任、支援教員）

（出典：初年次教育支援室）

資料２－２－③－５

平成２４年度クラブ・同好会顧問等名簿

平成２４年４月２日現在

部　局	顧　問　教　員	部員数	
1．総　局	濱中　葛目	0	
2．体　育　局	水崎　田房	0	
陸　上　部	※村上（知）・友田		※
男子バレー部	※野口・山崎		※
女子バレー部	※峯脇・伊藤（芳）		※
ソフトテニス部	※久保・雙知		※
卓　球　部	※藤井（清）・坂内・大根田		※
サッカー部	※永本・房野・秋葉		※
男子バスケット部	※水崎・前田		※
女子バスケット部	※多田（光）・桝田（温）		※
柔　道　部	※葛目・松永		※
剣　道　部	※田房・岡本・山尾		※
野　球　部	※中山・児玉 長井・湯田		※ ※
水　泳　部	※藤本・徳田		※
テニス部	※濵中・益崎・鶴		※
ラクビー部	※中・伊藤（武）		※
カッター部	※高岡・柳沢・向瀬・森		※
ヨット部	※高木・二村・村上（英）・野々山・樫根		※
バドミントン部	※上江・政家・ガンバット		※
3．文　化　局	猪川	0	
学　芸　部	※多田（光）		※ 休部
美　術　部	※岡本・塚本		※
茶　道　部	※勘久保		※
吹奏楽部	※日下・峯脇		※
軽音楽部	※野々山・勘久保		※
写　真　部	※塚本・向瀬		※
無　線　部	※葛目		※ 休部
書　道　部	※猪川		※
マイコン部	※長尾・徳田		※
ロボット製作部	※前田・伊藤（芳）・中山		※
天文・気象	※二村		※
将　棋　部	※神谷		※
囲　碁　部	※多田（光）・児玉		※
ソーラーボート部	※木村		※
4．同好会		0	
イラスト・漫画	※藤本		※
マリンスポーツ	※田房		※ 休部
ＩＴ研究会	※塚本・田房		※ 休部
映画研究会	※神谷		※ 休部
文芸同好会	※多田（光）		※
フットサル	※水崎		※
スケートボード	※水崎		※
科学実験同好会	※伊藤（武）		※
弓　道	※久保		※
空　手　道	※勘久保・田房		※
ストリートバスケット	※葛目		※
ソフトボール	※神谷・二村		※
ＥＳＳ同好会	※坂内		※

（出典：学生課）

資料２－２－③－６

クラブ顧問教員各位

H24.1.30
学生主事

H24 年度クラブ活動活性化予算と高専機構への予算申請について

日頃，学生のクラブ活動の指導では，ご協力いただきありがとうございます。

本年度の校長の所信表明のひとつに「クラブ活動の活性化」が挙げられました。それを受け，小額ですが，「クラブ活動を支援するための予算」を編成し，執行しているところです。

さて，平成２３年１０月，高専機構より，「教職員の業務負担軽減を目的に，学生の課外活動の指導等について高専機構予算の範囲内で，実態を踏まえ所要経費の一部を配分する」旨の通達がありました。(「教職員の業務負担軽減の方策について」(対応と方針) H23.10.21) 具体的には，外部人材（本校退職教員，中学校，高校教員退職者，課外活動の実技指導経験者など）を活用して主に下記の指導を行うことを想定しているようです。（ただし，高体連では，引率教員の資格が厳格に規定されており高校の試合では対応できないケースが多いかと思います。）

○　課外活動指導（常勤，有期雇用）[高専機構通達文より抜粋]

検討中の職名	職務内容
特命教授 特命準教授 特命助教	・　特定の課外活動の技術的な指導業務 ・　各種大会，練習試合等の校外引率業務 ・　各種大会の顧問会議等への出席
課外活動指導員	・特定の課外活動の技術的な指導業務

つきましては，①本校から高専機構への予算申請と②H24 年度のクラブ活動の活性化予算の策定（校内予算）を目的に，下記項目についての調査が必要となりましたので，添付の調査書にご回答いただき，２月１３日までに学生支援係に送付していただきたくよろしくお願いいたします。(調査内容，フォーマットは，H23 年度と同じですので追加・修正して下さい) なお，本調査は体育会系クラブに限定していませんので，文化系クラブ，同好会についてもご回答よろしくお願いいたします。

(Excel 添付ファイルに記入)

平成２４年度の外部コーチ依頼計画（コーチの居住地，依頼日数）

①　平成２４年度の対外試合（各種大会）参加予定と参加費（大会名と参加費）

②　平成２４年度のはまかぜ使用予定回数

③　緊急を要する物品等

なお，先生方のご希望に全てお応えできるとは限りませんこと，ご了承いただき，ご理解，ご協力よろしくお願いいたします

（出典：学生課）

資料２－２－③－７

平成23年度はまかぜ運航実績

月日	運航目的	機関運転時間		定げい港出航日数			定係港停泊日数	合計	乗船人員			燃料			備考
		航走中	停泊中	航走時間	停泊時間 入渠	停泊時間 その他	計		船員	教員及その他	学生	積込	使用	残	
														1870	前年度繰越油量
14	(調)試運転および航路調査	1-00	0-10	1-00			1		2	1	0		80	1790	弓削沖
28	(学)M5卒研およびM1工場見学打合せ	1-20	0-20	1-20		2-20	1		2	2	4		90	1700	常石造船
4 月	(学)学生実習	1-20	0-20	1-20	0-00	2-20	1	28	30	3	2	4	0	90	
小 計	(調)調査研究	1-00	0-10	1-00	0-00	0-00	1			1	0			80	
16	(学)S1運航通信および進水式見学	1-50	0-10	1-50		0-00	1		2	5	42			100	1600 内海造船㈱進水式見学　弓削沖操船実習
16	(調)試運転および航路調査	1-35	0-10	1-35		0-00			1	3	0			100	1500 弓削一伯方一弓削　港湾調査
21	(調)学校PR	6-00	0-40	6-00		0-00	1		2	3	8			160	1340 今治ばりしっぷ(一般　20名)
27	(調)学校PR	3-00	0-40	3-00		4-30	1		2	1	0			240	1100 百島－白石－北木－走島　各中学校訪問
5 月	(学)学生実習	1-35	0-10	1-35	0-00	0-00	1	28	31	7	5	42	0	100	
小 計	(調)調査研究	10-35	1-30	10-35	0-00	4-30	2				7	8		500	
6-03	(調)校長・部長会議	3-00	0-20	3-00		1-00	1		2	14	0			160	940 弓削－能島－三原－弓削
6	燃料補油											800		1740	
6	(学)S-3実験実習	1-30	0-10	1-30		0-00	1		2	1	8			40	1700 弓削
7	(学)M5卒業研究	1-30	0-10	1-30		0-00	1		2	0	4			80	1620 弓削－船折瀬戸－ハナグリ瀬戸－ワンワン瀬－弓削
8	(調)学校PR(向島中)	2-00	0-10	2-00		0-00	1		2	14	0			100	1520 弓削－尾道駅前桟橋－弓削
23	(調)交通艇(監視カメラ視察)	2-00	0-20	2-00		1-30	1		2	2	0			170	1350 弓削－矢弓－弓削
25	(学)サッカー部	2-00	0-20	2-00		6-00	1		1	0	20			130	1220 弓削－矢弓－弓削(学生1名は運航員を兼ねる)
27	(学)S-3実験実習	1-30	0-10	1-30		0-00	1		2	1	8			60	1160 弓削－田島－弓削
30	(学)M5卒業研究	2-30	0-10	2-30		0-00	1		1	1	5			120	1040 弓削－船折瀬戸－ハナグリ瀬戸－多々羅大橋－ワンワン瀬－弓削
6 月	(学)学生実習	9-00	1-00	9-00	0-00	6-00	5	22	30	14	4	45	800	430	
小 計	(調)調査研究	7-00	0-50	7-00	0-00	2-30	3				29	0		430	
7-02	(学)創道部・カッター部	2-00	0-20	2-00		4-25	1		1	2	44			180	860 弓削－矢弓－弓削(教員1名は運航員を兼ねる)
03	(学)サッカー部	1-30	0-20	3-00		5-30	1		1	1	22			230	630 弓削－能間－弓削(教員1名は運航員を兼ねる)
7	燃料補給											1000		1630	
11	(学)S3実験実習	1-30	0-10	1-30		0-00	1		2	1	18			20	1610 弓削沖
26	(学)ナコンパノム大学連携	1-50	0-20	1-50		0-00	1		1	6	1			30	1580 弓削沖
28	(学)M5卒業研究	1-00	7-40	1-00		7-40	1		2	3	6			80	1500 生口島沖
29	(学)M6卒業研究	2-00	7-00	2-00		7-00	1		2	3	6			140	1360 弓削沖
7 月	(学)学生実習	7-50	15-30	9-20	0-00	20-10	5	26	31	8	14	53	1000	680	
小 計	(調)調査研究	0-00	0-00	0-00	0-00	0-00	0			0	0	0		0	

（出典：技術支援センター）

資料２－２－③－８

教職員用

当直者の手引き

2013

弓削商船高等専門学校
白砂寮

目　次

女子棟の当直要領 …… 1
男子低学年棟の当直要領 …… 2
男子高学年棟の当直要領 …… 4
当直時の留意事項(各棟共通) …… 5
寮内施設･設備の管理および取扱い …… 6
寮生心得 …… 8
平成24年度 学寮開閉寮予定 …… 12
学寮日課表 …… 13
宿直日課表(曜日別) …… 14
当直学生日課要領 …… 21
食堂の利用の仕方 …… 22
学寮でのPC利用の指導 …… 23
寮内禁止事項一覧 …… 25
入寮許可取消基準 …… 26
低学年(1･2年生)の離寮処分基準について …… 27
離寮処分者の再入寮許可基準について …… 27
学寮における災害時対応体制 …… 28
救急や病気などの対応について …… 29
電話番号 …… 30

（出典：学生課）

（２）優れた点及び改善する点

（優れた点）

教員の教育活動の支援として，初年次教育支援室を設置し，支援教員を配置しており，オリエンテーション，ホームルーム，講演会，補習等の支援を行っている。また，学生寮においては，「当直者の手引き」の作成や新任教員の宿直支援等，寮務主事・主事補による支援が行われており，教育活動を円滑に実施するための支援体制が充実している。

（改善を要する点）

本校は３学科の小規模校で教員数が少ないため，教育活動を展開する際，個々の教員の負荷が大きくなっていることが課題である。

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程の学科の構成及び内容が，教育の目的及び高等専門学校設置基準の規定に適合しており，教育方針を踏まえて，社会のニーズに応えることのできる海事関連学科（商船学科）と，ものづくり及びＩＴを基盤とした工業系の２学科（電子機械工学科・情報工学科）でバランスよく構成されている。

専攻科は，基礎となる準学士課程の学科の上積み課程であることを踏まえた２専攻（海上輸送システム工学専攻・生産システム工学専攻）で構成されており，教育の目的及び学校教育法の規定に適合している。平成 24 年度に科学技術の動向や社会のニーズに対応するため，教育課程を改正し，必要な内容の単位化を行っている。

情報処理教育センター，地域共同研究推進センター及び技術振興会，国際交流推進室，技術支援センター及び練習船「弓削丸」は，実践的技術者養成のための教育活動（講義，実験・実習，演習，卒業研究，特別研究）に全学的に活用されており，整備されている。

教育活動を有効に展開するため，企画・調整・運営・検討など，運営委員会及び自己点検評価委員会を中心にして，教務委員会，厚生補導委員会，寮務委員会及び専攻科委員会と連携して，教育活動等に係る事項に対して柔軟に対応している。

教育計画・教育内容等に関する内容の連携は教務委員会が中心になって，数学教員と専門学科教員の連携による科目間の関連表の作成・活用や商船学科の専門科目と一般科目の関連表の作成・活用など教員間の連携は，機能的に行われている。

学級担任に対して，支援教員や学科長，主事等により，教育活動を支援している。課外活動においても，各クラブを複数の教員で顧問の分担を行い，学外コーチの委託及び試合引率に実習船「はまかぜ」の利用等の支援体制が整備され，機能している。また，学生寮においては，「当直者の手引き」の作成や新任教員の宿直支援等，寮務主事・主事補による支援が行われており，教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能している。

基準３　教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

一般科目を担当する総合教育科では，教育目標等を達成するために，専任教員 16 名，非常勤講師 12 名の合計 28 名の教員を配置している（資料３-１－①－１）。担当科目ごとの人員配置は表に示すように，数学５名，英語６名，国語３名，理科４名，社会３名，体育３名，芸術４名となっている。幅広い視野に立った総合的な判断能力，斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指すために，教員それぞれの専門分野に適合した授業科目を担当している（資料３－１－①－２）。

実践的技術者の育成を目指し，専門科目の基礎知識を習得させる教育の充実を図るため，数学，英語，物理・化学に重点を置いて教員を配置しているほか，国際化に対応できるような実用的英語力の向上のために，ネイティブの英語教員を昭和 50 年から非常勤として配置している。平成 25 年度から数学教員は，専任のみの５名となり，学力不足の学生への対応も行うことにしている。また，本校の島嶼部という立地条件を取り入れた教育方針から，海に関する教養として生物概論を商船学科のみならず電子機械工学科及び情報工学科にも必修科目とし，海と生命の結びつきなどを学ぶことによって幅広い教養を身に付けさせている。

なお，高等専門学校設置基準の第６条第２項には，「高等専門学校には，教員（助手を除く）のうち，第 16 条に規定する一般科目を担当する専任者の数は，入学定員に係る学生を３の学級に編成する場合は，14 人を下ってはならない」とあるところ，本校においては，一般科目担当の専任教員 16 人全員が講師以上であり，設置基準を満たしている。

（分析結果とその根拠理由）

一般科目を担当する総合教育科の教員の構成は，高等専門学校設置基準を満たしつつ，幅広い教養科目や専門科目に関連した科目を担当するようバランスよく配置しており，教員の専門分野に適合した授業担当となるよう配慮している。特に，専門科目の基礎知識を習得させる教育の充実を図るため，数学，英語，物理・化学に重点を置いて教員を配置している。

以上のことから，教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているといえる。

資料３－１－①－１

H25年度　一般科目担当教員の数

平成25年4月8日現在

	数学	英語	国語	理科	社会	体育	芸術	合計
教授	2	1	1	1				5
准教授	2	3	1	1	1	1		9
講師	1					1		2
助教								
助手								
特任教授								
計	5	4	2	2	1	2		16
非常勤講師		2	1	2	2	1	4	12
合計	5	6	3	4	3	3	4	28

（出典：総務課）

資料３－１－①－２

一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

職名	漢字氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	濵中　俊一	博士（工学）	物理	物理、日本語
	神谷　正彦	文学修士	国語	国語
	上江　憲治	文学修士	英語表現、英語講読、第二外国語	英語講読、英語表現、ドイツ語
	野町　俊文	博士（理学）	数学1・2	数学1、数学2、応用数学1
	藤井　清治	博士（理学）	数学1・2、数学特論	数学
准教授	久保　康幸	理学修士	数学1・2	数学
	日下　佳春	文学修士	地歴2、公民1・2	地歴1、地歴2
	雙知　延行	博士（理学）	数学1・2、数学特論	数学1、数学2
	野口　隆	修士（文学）	英語表現、基礎英語、英語講読	基礎英語、英語表現、英語講読
	猪川　優子	博士（文学）	国語	国語
	望月　肇	修士（言語教育学）	基礎英語、総合英語、英語表現、英語講読	総合英語、基礎英語、英語表現、英語講読
	坂内　宏行	修士（文学）	基礎英語、総合英語、英語表現、英語講読	総合英語、基礎英語、英語表現、英語講読
	水崎　一良	修士（教育学）	保健、体育	保健、体育、日本語
	伊藤　武志	博士（工学）	化学	化学、日本語
講師	南郷　毅	修士（理学）	数学1・2、数学特論	数学1、数学2、数学特論
	房野　真也	修士（教育）	体育	体育
非常勤講師	岩本　彩		生物概論	生物概論
	横田　耕一		物理	物理
	森田　等		体育	体育
	阿部　智美		音楽	音楽
	三藤　正行		美術	美術
	南　保子		書道	書道
	越智　珠理		書道	書道
	Gareth O’Gradie		英語表現、総合英語	英語表現、総合英語
	重松　恵梨		総合英語、英語講読	総合英語、英語講読
	丸山　光子		日本語	日本語
	泉川　普		地歴1・2	地歴1、地歴2
	山尾　徳雄		法学	法学

（出典：総務課）

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専門学科では，教育目標等を達成するため，資料３－１－②－１に示す専門科目担当の教員を配置しており，内訳は専任教員 40 名，非常勤講師９名（うち２名は一般科目と兼務）の合計 49 名である。

本校は，商船系（商船学科）及び工業系（電子機械工学科，情報工学科）の学科を有しているため，専門科目教員が担当すべき分野は多岐にわたっている。商船学科は船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成のため，航海系及び機関系を担当する教員をバランス良く配置している（資料３－１－②－２）。電子機械工学科は，ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成のため，電気・電子系と機械系を担当する教員をバランス良く配置している（資料３－１－②－３）。情報工学科は情報リテラシー，情報工学の知識に加え，問題分析，解決能力を備えたシステム技術者の育成のために，ソフト系及びハード系を担当する教員をバランス良く配置している（資料３－１－②－４）。また練習船「弓削丸」を保有しているため，船長，機関長，一等航海士及び一等機関士を専任教員として配置している（資料３－１－②－１）。航海実習では，さらに商船学科の教員がインストラクターとして乗り込み，より高い安全航海と質の高い学生実習を可能にしている（資料３－１－②－５）。教員は，商船学科及び電子機械工学科は複合学科的ではあるが情報工学科も含め，それぞれの専門分野に適合した授業科目を担当している。

なお，高等専門学校設置基準の第６条第３項から，専門科目を担当する専任者の数は，当該学校に３の学科を置くときは，22 名を下ってはならないとなっており，本校においては，専門科目担当の専任教員 40 名が助教以上であり，設置基準を満たしている。また，高等専門学校設置基準の第８条には，「専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は，一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数の合計数の２分の１を下ってはならない」とあり，この数は 28 名となるところ，本校では専門科目を担当する専任の教授及び准教授は 30 名であり，設置基準を満たしている。

（分析結果とその根拠理由）

専門科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準を満たしつつ，幅広い専門科目を教授するために担当する教員を各学科ともバランス良く配置しており，教員の専門分野に適合した授業担当となるよう配慮している。さらに練習船「弓削丸」では，専任教員の他に航海実習にはインストラクターを配置し，安全航海を実現すると共に学生の航海実習を充実させている。

以上のことから，教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員が適切に配置されているといえる。

資料３－１－②－１

H25年度　専門科目担当教員の数

平成25年4月8日現在

職名	商船学科	電子機械工学科	情報工学科	合計
教授	7	4	5	16
准教授	4	5	3	12
講師	1		1	2
助教	2		2	4
助手				
特任教授		2		2
計	14	11	11	36
非常勤講師	5	4(2)		9(2)
合計	19	15(2)	11	45(2)

※(　)は、一般科目、商船学科と兼務

教員組織(練習船)

職名	学位等	氏名	備考
准教授	準商船学士	永本　和寿	弓削丸船長
准教授	学士(工学)	松永　直也	弓削丸機関長
助教	準商船学士	森　瑛太郎	弓削丸一等航海士
助教	準商船学士	小林　一平	弓削丸二等機関士

専任教員4名

(出典：総務課)

資料３－１－②－２

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（商船学科）

	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	採用前の経歴
教授	児玉　敬一	商船学士	船舶海洋工学	操艇・通信、船体運動力学、運送管理学1・2	民間企業
	友田　進	博士（工学）	生産工学	計測・制御1・2、材料工学、材料学2	学生その他
	中　哲夫	博士（工学）	機械材料、材料加工	材料力学1、材料工学、油圧工学	民間企業
	多田　光男	博士（情報工学）	商船学	通信法規、船舶安全工学、航海学1、	学生その他
	髙岡　俊輔	博士（工学）	航海計器　船体運動測定　航海支援システム	通信工学、航海計測学、天文・電波測位学	学生その他
	湯田　紀男	博士（工学）	船舶工学	水力学、船舶工学、船体運動力学	学生その他
	村上　知弘	博士（工学）	高分子化学	熱力学1、熱工学、蒸気工学	学生その他
准教授	二村　彰	博士（工学）	気象	操艇・通信、航海学1、天文・電波測位学、海洋気象学、海洋環境論	学生その他
	秋葉　貞洋	博士（工学）	内燃機関	内燃機関学1・2・3	学生その他
	野々山　和宏	修士（経済学）	地域政策論、国土政策論、政策過程論、地域計画	海事法規1・2、海運経済論、海運論	学生その他
	向瀬　紀一郎	博士（理学）	物性物理学，結晶工学，シミュレーション	電気工学1・2、電気機器3	大学・研究機関
講師	柳沢　修実	博士（工学）	船舶海洋工学、材料工学	情報処理1、電子工学1・2	学生その他
助教	山崎　慎也	修士（海事科学）	海上交通工学、安全管理学	操艇・通信、航海学1、海上交通工学	学生その他
	中村　真澄	学士（商船学）	船員教育　機関室シミュレーション、機関管理評価	計測・制御1・2	民間企業
非常勤講師	豊田　利彦			商船学概論、海上交通法1	
	田頭　章司			基礎力学、電磁気学	
	ジャンバル・オダゲレル			専門英語1・2、応用数学	
	元廣　孝志			商船学セミナー	
	宗重　好夫			設計製図	

（出典：総務課）

資料３－１－②－３

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（電子機械工学科）

	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	木村　隆則	博士（工学）	工学	シーケンス制御、電気電子機器、パワーエレクトロニクス、設計製図4	民間企業
	益崎　真治	工学修士	システム工学、制御工学、環境	情報処理、システム工学	学生その他
	藤本　隆士	博士（工学）	設計工学	応用物理1、応用数学2	大学・研究機関
	DAVAA　GANBAT	博士（工学）	熱工学、流体工学	流体力学、熱力学、設計製図4、エネルギー工学、工業英語	学生その他
准教授	中山　恭秀	博士（工学）	機械材料		学生その他
	大根田　浩久	博士（工学）	生産工学・加工学，感性情報学	設計製図1・2・3、材料学、機械工作法	高校
	樫根　健史	博士（工学）	電力・エネルギー	電気磁気学、電気回路、電子回路、ロボット工学	他高専
	長井　弘志	博士（工学）	システム工学，制御工学	基礎機械制御工学、計測工学、電子回路特論	学生その他
	政家　利彦	博士（工学）	計算力学	工業力学1・2、材料力学1・2、応用物理2	学生その他
特任教授	勘久保　広一	博士（工学）	制御工学、人間工学	応用数学1、制御工学、ディジタル制御工学、制御工学特論	学生その他
	鶴　秀登	工学博士	機械材料	基礎機械制御工学、設計製図4・5、数値解析	大学・研究機関
非常勤講師	八木　秀次			機械工作法、工作機械	
	長原　基司			電子計算機1・2	
	宗重　好夫			電子工学	
	横田　耕一			応用物理2	

（出典：総務課）

資料３－１－②－４

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（情報工学科）

	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	岡本　太志	博士（工学）	照明、パワーエレクトロニクス	電磁気学1、計測工学、システム工学2	民間企業
	塚本　秀史	博士（工学）	環境影響評価、気象、船舶海洋工学	システム工学、数理統計学、ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝｽﾞ･ﾘｻｰﾁ2、環境工学	民間企業
	葛目　幸一	博士（理学）	生体工学、通信・ネットワーク工学	電気電子工学、科学技術英語1、マルチメディア工学	学生その他
	長尾　和彦	博士（工学）	情報学基礎、知能情報学	アルゴリズム、プログラミング応用、プログラミング特論、コンパイラ	学生その他
	田房　友典	博士（工学）	計測工学	プログラミング基礎、データ・ベース、画像処理	民間企業
准教授	髙木　洋	修士（商船学）	情報学基礎	ネットワーク理論、オペレーティング・システム、画像処理2、機械工学、海事工学	学生その他
	伊藤　芳浩	博士（工学）	原子力工学	応用物理、電子回路、デジタルシステム設計工学、電磁気学2	大学・研究機関
	徳田　誠	博士（学術）	制御工学	情報基礎、情報理論、制御工学、情報工学特論	学生その他
講師	桝田　温子	博士（工学）	制御工学、交通工学	コンピュータ科学、プログラミング基礎、オペレーションズ・リサーチ	学生その他
助教	峯脇　さやか	修士（工学）	自然言語処理	情報工学実験1、人工知能	学生その他
	前田　弘文	博士（工学）	ロボット工学	情報工学実験1、電子計算機、論理回路、	大学・研究機関

（出典：総務課）

資料３－１－②－５

航海実習インストラクター希望調査

学科・学年	期　間	N　系	E　系
S１	5/8	藤井（S１担任）	な　し
S２（A）	5/9－10	二村	向瀬
S２（B）	5/16－17	二村	向瀬
S１（A）	6/5	児玉	友田
S５	6/11－14	多田	柳澤
S１（B）	6/19	高岡	秋葉
S４N	6/26－28	湯田	な　し
S４E	7/3－5	な　し	中
S１（A）	9/12	高岡	秋葉
S１（B）	9/19	高岡	秋葉
S３（A）	10/16－18	湯田	村上知
S３（B）	10/23－25	児玉	村上知
S１（A）	11/15	高岡	友田
S１（B）	11/22	高岡	友田
S４E	1/22－24	な　し	中
S４N	1/29－31	多田	な　し
S２（A）	2/5	野ノ山	向瀬
S２（B）	2/12	野ノ山	向瀬
補講航海	3/9－11	未　定	未　定

（出典：練習船弓削丸班）

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科は，海上輸送システム工学専攻及び生産システム工学専攻から構成される。本校の専攻科には，専任教員 38 名に非常勤講師１名を加えた 39 名を配置している（資料３－１－③－１）。専攻科では，実際のシステムの運用・管理や開発能力，ものづくりに必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成のため，システムの運用系及びものづくり系を担当する教員をバランス良く配置している（資料３－１－③－２）。一般科目担当教員には５名の博士（工・理・文学）を配置しており，応用力を引き伸ばすための基礎理論を強化している。また，専攻科担当教員には，博士（工・理・情報工）のみならず企業経験者で技術士，第１種情報処理技術者及び一級海技士など幅広い人材を有しており（資料３－１－③－３－１，２），観点１－１－①で述べている専攻科の具体的な教育目標に対応するように，各専門分野と担当授業科目を適合させ（資料３－１－③－２，４），理論ばかりでなく実践教育にも対応している。

さらに,特別研究の指導においても,博士の学位と十分な研究実績を持つ教員を配置しており，大学評価・学位授与機構による審査の結果,「適」と認められている（資料３－１－③－４，５）。

（分析結果とその根拠理由）

海上輸送システム工学専攻及び生産システム工学専攻からなる専攻科には，専門分野に適合した科目担当教員を配置しており，学位授与機構による再審査を受審し，要件を満たすとの評価を得ている。それぞれの担当教員は，基礎教育及び専門教育に対応するべく，バランス良く配置されている。

以上のことから，専攻科の教育目的を達成するために必要な授業科目担当教員が適切に配置されているといえる。

資料３－１－③－１

H25年度　専攻科科目担当教員の数

平成25年4月8日現在

	基礎科目	専門科目	合計	備考
教授	4	15	19	準学士課程との併任
准教授	3	12	15	
講師				
助教		2	2	
助手				
特任教授		2	2	
計	7	31	38	
非常勤講師	1	0	1	
合計	8	31	39	

（出典：総務課）

資料３－１－③－２

所属専攻名	氏名	役職	学位取得状況	専門分野	主な研究業績
海上輸送システム工学	友田　進	教授	博士（工学）	生産工学	銀とガラスを組合せた特異なラッピング
	児玉　敬一	教授	学士（商船学）	船舶海洋工学	船体運動解析
	＊　中　哲夫	教授	博士（工学）	機械材料、材料加工	アルミニウム合金板の温間成形性
	多田　光男	教授	博士（情報工学）	商船学	船舶の海難事故防止、海事史、瀬戸内海の海上交通と航行環境
	高岡　俊輔	教授	博士（工学）	航海計器　船体運動測定　航海支援システム	e-操船支援システムの開発・船体運動精密測定装置の開発
	＊　湯田　紀男	教授	博士（工学）	船舶工学	船舶工学、船体運動力学
	村上　知弘	教授	博士（工学）	高分子化学	高分子ゲルの相転移と分子間相互作用 再利用可能吸水シート
	秋葉　貞洋	准教授	博士（工学）	内燃機関	舶用機関における植物油・エマルジョン燃料利用の可能性について
	二村　彰	准教授	博士（工学）	気象	豊後水道の急潮観測について
	野々山　和宏	准教授	修士（経済学）	地域政策論、国土政策論、政策過程論、地域計画	国土形成計画における「海域」に関する研究、
	向瀬　紀一郎	准教授	博士（理学）	物性物理学，結晶工学，シミュレーション	船舶用レーダーのための新規半導体材料の探索
生産システム工学	＊　藤本　隆士	教授	博士（工学）	設計工学	弾性体の微小変位特性に関する研究
	＊　鶴　秀登	特任教授	博士（工学）	機械材料	三次元き裂問題、二次元き裂問題の汎用解析法とその応用
	益崎　真治	教授	修士（工学）	システム工学、制御工学、環境	LANシステムによる船舶の運航管理
	ダワァ　ガンバット	教授	博士（工学）	熱工学、流体工学	強制対流熱伝達に関する研究
	中山　恭秀	准教授	博士（工学）	機械材料	多孔体の弾塑性有限要素法解析
	樫根　健史	准教授	博士（工学）	電力・エネルギー	絶縁耐圧試験用パルス電源の開発に関する研究
	大根田　浩久	准教授	博士（工学）	生産工学・加工学，感性情報学	切削系に生じる動的挙動に関する基礎的研究
	長井　弘志	准教授	博士（工学）	システム工学，制御工学	触覚情報の解析、マルチモーダル情報提示システムの開発
	＊　政家　利彦	准教授	博士（工学）	計算力学	格子欠陥近傍における水素原子拡散機構に対する研究
	勘久保　広一	特任教授	博士（工学）	制御工学、人間工学	人間に優しい知能機械 、人間上肢の運動特性
	岡本　太志	教授	博士（工学）	照明、パワーエレクトロニクス	放電灯点灯装置の研究・無電極放電灯点灯装置の研究
	＊　塚本　秀史	教授	博士（工学）	環境影響評価、気象、船舶海洋工学	沿岸海域の物理現象、しまなみ地域の地理空間情報の指標化・可視化
	＊　葛目　幸一	教授	博士（理学）	生体工学、通信・ネットワーク工学	歯音と呼気信号を利用した重度身体障害者のためのコミュニケーションデバイスの開発
	＊　長尾　和彦	教授	博士（工学）	情報学基礎、知能情報学	エージェントを用いたC言語学習支援環境の構築
	田房　友典	教授	博士（工学）	計測工学	キャリブレーション不要な三次元復元法に関する研究
	＊　伊藤　芳浩	准教授	博士（工学）	原子力工学	超高速度撮影，放射線計測
	＊　徳田　誠	准教授	博士（学術）	制御工学	プロセス制御系の知能化と高度化
	高木　洋	准教授	修士（商船学）	情報学基礎	e-操船支援システム
	＊　前田　弘文	助教	博士（工学）	ロボット工学	レスキューロボット制御、モビリティロボット制御、マニピュレータ制御、自己位置推定
	峯脇　さやか	助教	修士（工学）	自然言語処理	関連性理論を用いた照応解析 レポート評価支援
基礎科目	濵中　俊一	教授	博士（理学）	原子核物理学	環境放射線簡易測定、水中のラドン濃度精密計測
	上江　憲治	教授	修士（文学）	ドイツ文学	フランツ・カフカ
	野町　俊文	教授	博士（理学）	統計学	U－統計量
	藤井　清治	教授	博士（理学）	幾何学	線形順序位相空間上のセレクションに関する研究
	野口　隆	准教授	修士（文学）	ヨーロッパ語系文学	ユダヤ系アメリカ小説家の歴史認識
	猪川　優子	准教授	博士（文学）	文学	『うつほ物語』研究
	伊藤　武志	准教授	博士（工学）	化学・環境・発酵工学	微生物を用いた廃棄物からのエネルギー生産の検討
	山尾　徳雄	非常勤講師	修士（法学）	集団安全保障,海洋法	国連の安全保障、便宜置籍

＊は特別研究担当教員

（出典：総務課）

資料３－１－③－３－１

教員の免許資格一覧

平成25年4月1日現在

学科等	資格・免許等	人数
商船学科	1級海技士（航海）	2
	2級海技士（機関）	1
	2級海技士（航海）	1
	3級海技士（機関）	2
	3級海技士（航海）	3
	1級小型船舶操縦士	1
	2級小型船舶操縦士	1
	エックス線 労働安全衛生法による免許証	1
	救命艇手適任証書	1
	甲種二等航海士	1
	高等学校2級普通免許状（商船）	1
	船橋当直3級海技士（航海）	1
	第1級海上特殊無線技士	1
	第1級無線技術士	1
	第3級海上無線通信士	2
	特殊無線技士（レーダー）	1
	特殊無線技士（無線電話甲）	1
	簿記検定試験3級	1
	博士（工学）	8
	博士（情報工学）	1
	博士（理学）	1
	修士（海事科学）	1
	修士（経済学）	1
	修士（工学）	4
	修士（商船学）	2
	学士（教養）	1
	学士（工学）	1
電子機械工学科	1級小型船舶操縦士	2
	アマチュア無線技師	1
	高圧・特別高圧電気取扱業務特別教育（学科教育）修了	1
	3級海技士（機関）	1
	足場の組立て解体等作業主任者技能講習修了	1
	第1級海上特殊無線技士	1
	第1種電気主任技術者	1
	第一種情報処理技術者	1
	低圧電気取扱業務特別教育修了	1
	日本語文書処理技能（ワープロ技能）検定試験3級	1
	博士（工学）	10
	修士（工学）	7
情報工学科	1級小型船舶操縦士	1
	MICROSOFT OFFICE USER SPECIALIST Microsoft Excel version 2002 (Microsoft Office XP)	1
	MICROSOFT OFFICE USER SPECIALIST Microsoft Word version 2002 (Microsoft Office XP)	1
	技術士	1
	情報処理技術者試験合格	1
	第1種情報処理技術者	1
	第2種情報処理技術者	1
	第3種電気主任技術者免状	1
	第一種電気工事士免状	1
	第二種情報処理技術者	1
	博士（学術）	1
	博士（工学）	7
	博士（理学）	1
	修士（工学）	6
	修士（商船学）	1

（出典：総務課）

資料３－１－③－３－２

学科等	資格・免許等	人数
総合教育科	Test of English for International Communication SCALED SCORES　TOTAL 940	1
	高等学校教諭 一級普通免許状（理科）	1
	高等学校教諭（1種免許状）	1
	高等学校教諭(1種免許状)(保健体育)	1
	高等学校教諭（1種免許状）（数学）	1
	高等学校教諭（1種免許状）（情報）	1
	高等学校教諭（専修免許状）	3
	高等学校教諭(専修免許状)(保健体育)	1
	高等学校教諭（専修免許状）（数学）	1
	高等学校教諭（普通1級免許）	1
	実用英語技能検定1級	1
	中学校教諭（1種免許状）	1
	中学校教諭(1種免許状)(保健体育)	1
	中学校教諭（1種免許状）（数学）	1
	中学校教諭（専修免許状）	2
	中学校教諭(専修免許状)(保健体育)	1
	中学校教諭（専修免許状）（数学）	1
	中学校教諭（普通1級免許）	2
	応用情報技術者試験合格	1
	基本情報技術者試験合格	1
	情報セキュリティアドミニストレータ試験合格	1
	博士（工学）	2
	博士（文学）	1
	博士（理学）	3
	修士（理学）	4
	修士（教育学）	2
	修士（言語教育学）	1
	修士（工学）	1
	修士（文学）	6
練習船弓削丸	1級海技士（航海）	1
	1級海技士（機関）	1
	2級海技士（航海）	1
	2級海技士（機関）	1
	3級海技士（機関）	1
	3級海技士（航海）	2
	1級小型船舶操縦士	2
	2級小型船舶操縦士	1
	エネルギー管理士（熱）	1
	クレーン運転の業務特別教育修了	1
	ボイラ技士免許（特級）	1
	衛生管理者免許	1
	玉掛技能講習修了	1
	甲種危険物取扱者免状	1
	乙種4類危険物取扱者免状	1
	第1級海上特殊無線技士	1
	第3級海上無線通信士	1
	高等学校教諭（1種免許状）（商船）	2
	中学校教諭（2種免許状）（職業）	2
	特殊無線技士（レーダー）	1
	特殊無線技士（国際無線電話）	1
	学士（工学）（大学評価・学位授与機構）	1

（出典：総務課）

資料３－１－③－４

所属専攻名	氏名	学位取得状況	専門分野	主な研究業績
海上輸送システム工学	友田　進	博士（工学）	生産工学	銀とガラスを組合せた特異なラッピング
	児玉　敬一	学士（商船学）	船舶海洋工学	船体運動解析
	＊　中　哲夫	博士（工学）	機械材料、材料加工	アルミニウム合金板の温間成形性
	多田　光男	博士（情報工学）	商船学	船舶の海難事故防止、海事史、瀬戸内海の海上交通と航行環境
	高岡　俊輔	博士（工学）	航海計器　船体運動測定　航海支援システム	e-操船支援システムの開発・船体運動精密測定装置の開発
	＊　湯田　紀男	博士（工学）	船舶工学	船舶工学、船体運動力学
	村上　知弘	博士（工学）	高分子化学	高分子ゲルの相転移と分子間相互作用 再利用可能吸水シート
	秋葉　貞洋	博士（工学）	内燃機関	舶用機関における植物油・エマルジョン燃料利用の可能性について
	二村　彰	博士（工学）	気象	豊後水道の急潮観測について
	野々山　和宏	修士（経済学）	地域政策論、国土政策論、政策過程論、地域計画	国土形成計画における「海域」に関する研究、
	向瀬　紀一郎	博士（理学）	物性物理学，結晶工学，シミュレーション	船舶用レーダーのための新規半導体材料の探索
生産システム工学	＊　藤本　隆士	博士（工学）	設計工学	弾性体の微小変位特性に関する研究
	＊　鶴　秀登	博士（工学）	機械材料	三次元き裂問題、二次元き裂問題の汎用解析法とその応用
	益崎　真治	修士（工学）	システム工学、制御工学、環境	LANシステムによる船舶の運航管理
	ダワァ　ガンバット	博士（工学）	熱工学、流体工学	強制対流熱伝達に関する研究
	中山　恭秀	博士（工学）	機械材料	多孔体の弾塑性有限要素法解析
	樫根　健史	博士（工学）	電力・エネルギー	絶縁耐圧試験用パルス電源の開発に関する研究
	大根田　浩久	博士（工学）	生産工学・加工学，感性情報学	切削系に生じる動的挙動に関する基礎的研究
	長井　弘志	博士（工学）	システム工学，制御工学	触覚情報の解析、マルチモーダル情報提示システムの開発
	＊　政家　利彦	博士（工学）	計算力学	格子欠陥近傍における水素原子拡散機構に対する研究
	勘久保　広一	博士（工学）	制御工学、人間工学	人間に優しい知能機械 、人間上肢の運動特性
	岡本　太志	博士（工学）	照明、パワーエレクトロニクス	放電灯点灯装置の研究・無電極放電灯点灯装置の研究
	＊　塚本　秀史	博士（工学）	環境影響評価、気象、船舶海洋工学	沿岸海域の物理現象、しまなみ地域の地理空間情報の指標化・可視化
	＊　葛目　幸一	博士（理学）	生体工学、通信・ネットワーク工学	歯音と呼気信号を利用した重度身体障害者のためのコミュニケーションデバイスの開発
	＊　長尾　和彦	博士（工学）	情報学基礎、知能情報学	エージェントを用いたC言語学習支援環境の構築
	田房　友典	博士（工学）	計測工学	キャリブレーション不要な三次元復元法に関する研究
	＊　伊藤　芳浩	博士（工学）	原子力工学	超高速度撮影，放射線計測
	＊　徳田　誠	博士（学術）	制御工学	プロセス制御系の知能化と高度化
	高木　洋	修士（商船学）	情報学基礎	e-操船支援システム
	＊　前田　弘文	博士（工学）	ロボット工学	レスキューロボット制御、モビリティロボット制御、マニピュレータ制御、自己位置推定
	峯脇　さやか	修士（工学）	自然言語処理	関連性理論を用いた照応解析 レポート評価支援
基礎科目	濵中　俊一	博士（理学）	原子核物理学	環境放射線簡易測定、水中のラドン濃度精密計測
	上江　憲治	修士（文学）	ドイツ文学	フランツ・カフカ
	野町　俊文	博士（理学）	統計学	U－統計量
	藤井　清治	博士（理学）	幾何学	線形順序位相空間上のセレクションに関する研究
	野口　隆	修士（文学）	ヨーロッパ語系文学	ユダヤ系アメリカ小説家の歴史認識
	猪川　優子	博士（文学）	文学	『うつほ物語』研究
	伊藤　武志	博士（工学）	化学・環境・発酵工学	微生物を用いた廃棄物からのエネルギー生産の検討
	山尾　徳雄	修士（法学）	集団安全保障,海洋法	国連の安全保障、便宜置籍

＊は特別研究担当教員

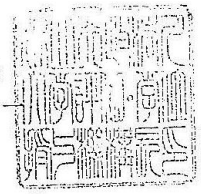
（出典：総務課）

資料３－１－③－５

評学機構学第221号
平成23年２月14日

弓削商船高等専門学校長　殿

独立行政法人大学評価・学位授与機構長
平　野　眞　一



認定専攻科における教育の実施状況等の審査結果について（通知）

平成 22 年５月 28 日付け弓船専企第 25 号で提出のあった下記の専攻科の教育の実施状況等について，短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則（平成16年規則第29号）第９条に規定する審査の結果，「適」と認められたので通知します。

記

１　名称，専攻及び修業年限

名　　称	専　　攻	修業年限
弓削商船高等専門学校	海上輸送システム工学専攻	２年
	生産システム工学専攻	２年



(写)　専攻科長，副専攻科長

（出典：企画広報室）

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

教員の年齢及び性別の状況を資料３－１－④－１に示す。平成 24 年度４月１日現在における練習船を含めた専任教員 55 名の平均年齢は 45.5 歳で，30～39 歳が若干多いものの，教員の採用で年齢構成が均衡となるように配慮しており，各学科ともバランスの良い構成となっている。また女性教員は，商船学科に１名，情報工学科に２名，総合教育科に１名の合計４名在籍しており，これらの女性教員は，女子寮での教育にも対応している。

平成 24 年度実績で，専任教員のうち学位取得者（博士）は 55 名中 34 名（資料３－１－④－２）となっており（内訳は，総合教育科教員は５名，商船学科教員は 10 名，電子機械工学科教員は 10 名，情報工学科教員は９名），専門科目（理系の一般科目を含む）については，41 名中 33 名となっている。今後の博士取得者の増加に向けて，社会人博士課程などの活用の支援を行っている。平成 25 年度には，高専間教員交流により，総合教育科に数学（博士）教員を受け入れている（資料３－１－④－３）。

また，教育経験及び実務経験を配慮した教員採用により，教員免許所有者，一級海技士（航海・機関），技術士，第一種情報処理技術者など各学科に教育及び高度な専門資格を有する教員を配置している（資料３－１－③－３－１，２）。専任教員の採用前の経歴は，民間企業が７名，大学・研究機関が６名，他高専が２名，高校が３名，練習船の専任教員の採用前の経歴は４名中３名が民間企業であり，多様な経歴の教員の採用にも努めている（資料３－１－④－４）。また，国際社会で活躍できる学生の育成を図るため，非常勤講師を含めて３名の外国人教員を配置している（資料３－１－④－５）。さらに，教員組織の活性化のため，内地研究員・在外研究員制度及びその他必要な研修を活用している（資料３-１－④－６）。

（分析結果とその根拠理由）

年齢構成の均衡を配慮した教員採用を行っており，教員全体ではバランスの良い構成となっている。専門科目（理系の一般科目を含む）の学位取得者（博士）については，41 名中 33 名となっており，内地研究等を活用して社会人博士取得の支援を継続して行っている。教育経験及び実務経験を配慮した教員採用により，民間企業経験者，大学・研究機関・他高専経験者，教員免許所有者，一級海技士（航海・機関），技術士，第一種情報処理技術者など多様な教員が配置されている。また，４名の女性教員，非常勤講師を含む３名の外国人教員を配置している。さらに，教員組織の活性化のため，内地研究員・在外研究員制度等を活用している。

以上のことから，学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発にするための適切な措置が講じられているといえる。

資料３－１－④－１

平成24年4月1日現在

年度末年齢	所属	性別
62	商船学科	男
62	商船学科	男
60	商船学科	男
55	商船学科	男
52	商船学科	男
46	商船学科	男
43	商船学科	男
38	商船学科	男
38	商船学科	男
38	商船学科	男
37	商船学科	男
41	商船学科	男
29	商船学科	女
28	商船学科	男
63	電子機械工学科	男
57	電子機械工学科	男
52	電子機械工学科	男
50	電子機械工学科	男
47	電子機械工学科	男
44	電子機械工学科	男
37	電子機械工学科	男
43	電子機械工学科	男
33	電子機械工学科	男
33	電子機械工学科	男
64	電子機械工学科	男
62	情報工学科	男
57	情報工学科	男
55	情報工学科	男
48	情報工学科	男
39	情報工学科	男
53	情報工学科	男
43	情報工学科	男
36	情報工学科	男
36	情報工学科	女
34	情報工学科	女
33	情報工学科	男
59	総合教育科	男
58	総合教育科	男
57	総合教育科	男
53	総合教育科	男
50	総合教育科	男
49	総合教育科	男
47	総合教育科	男
46	総合教育科	男
39	総合教育科	男
39	総合教育科	女
35	総合教育科	男
35	総合教育科	男
38	総合教育科	男
30	総合教育科	男
64	総合教育科	男
51	練習船弓削丸	男
49	練習船弓削丸	男
32	練習船弓削丸	男
25	練習船弓削丸	男

計55人
（校長を除く）

年齢別割合（全教員）

年齢	人数	割合
20～24	0	0.00%
25～29	3	5.45%
30～34	6	10.91%
35～39	13	23.64%
40～44	5	9.09%
45～49	7	12.73%
50～54	7	12.73%
55～59	7	12.73%
60以上	7	12.73%

平均年齢　45.5歳

男女比率（全教員）

性別	人数	割合
男	51	92.73%
女	4	7.27%

計55人

年齢別割合（商船学科及び弓削丸）

年齢	人数	割合
20～24	0	0.00%
25～29	3	16.67%
30～34	1	5.56%
35～39	4	22.22%
40～44	2	11.11%
45～49	2	11.11%
50～54	2	11.11%
55～59	1	5.56%
60以上	3	16.67%

平均年齢 43.7歳

男女比率（商船学科及び弓削丸）

性別	人数	割合
男	17	94.44%
女	1	5.56%

計18人

年齢別割合（電子機械工学科）

年齢	人数	割合
20～24	0	0.00%
25～29	0	0.00%
30～34	2	18.18%
35～39	1	9.09%
40～44	2	18.18%
45～49	1	9.09%
50～54	2	18.18%
55～59	1	9.09%
60以上	2	18.18%

平均年齢 47.5歳

男女比率（電子機械工学科）

性別	人数	割合
男	11	100.00%
女	0	0.00%

計11人

年齢別割合（情報工学科）

年齢	人数	割合
20～24	0	0.00%
25～29	0	0.00%
30～34	2	18.18%
35～39	3	27.27%
40～44	1	9.09%
45～49	1	9.09%
50～54	1	9.09%
55～59	2	18.18%
60以上	1	9.09%

平均年齢　45.1歳

男女比率（情報工学科）

性別	人数	割合
男	9	81.82%
女	2	18.18%

計11人

年齢別割合（総合教育科）

年齢	人数	割合
20～24	0	0.00%
25～29	0	0.00%
30～34	1	6.67%
35～39	5	33.33%
40～44	0	0.00%
45～49	3	20.00%
50～54	2	13.33%
55～59	3	20.00%
60以上	1	6.67%

平均年齢 46.6歳

男女比率（総合教育科）

性別	人数	割合
男	14	93.33%
女	1	6.67%

計15人

（出典：総務課）

博士の取得数の変化

①教育職員本給表適用者

学科等	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率
商船学科	15	12	80.00%	13	10	76.92%	13	9	69.23%	13	9	69.23%	14	10	71.43%	14	10	71.43%
電子機械工学科	11	8	72.73%	11	8	72.73%	10	8	80.00%	11	10	90.91%	11	10	90.91%	11	10	90.91%
情報工学科	11	7	63.64%	11	7	63.64%	11	7	63.64%	11	7	63.64%	11	8	72.73%	11	9	81.82%
総合教育科	15	6	40.00%	15	5	33.33%	15	5	33.33%	15	5	33.33%	15	5	33.33%	15	5	33.33%
計	52	33	63.46%	50	30	60.00%	49	29	59.18%	50	31	62.00%	51	33	64.71%	51	34	66.67%

②海事職員(一)本給表適用者

学科等	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率
練習船弓削丸	4	0	0.00%	4	0	0.00%	4	0	0.00%	4	0	0.00%	4	0	0.00%	4	0	0.00%

①+②

	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率	所属人数	博士学位取得人数	博士学位取得率
総計	56	33	58.93%	54	30	55.56%	53	29	54.72%	54	31	57.41%	55	33	60.00%	55	34	61.82%

(出典：総務課)

資料３－１－④－３

教員交流実績（平成21年度～）

年度	派遣					受入				
	所属（当時）	職名（当時）	派遣先	派遣期間		所属（当時）	職名（当時）	派遣元	受入期間	
H21	商船学科	准教授	広島商船高等専門学校	H21.4.1	H22.3.31	商船学科	助教	大島商船高等専門学校	H21.4.1	H22.3.31
H22										
H23										
H24	電子機械工学科	准教授	鹿児島工業高等専門学校	H24.4.1	H26.3.31	電子機械工学科	准教授	鹿児島工業高等専門学校	H24.4.1	H26.3.31
H25						総合教育科	教授	都城工業高等専門学校	H25.4.1	H27.3.31

（出典：総務課）

資料３－１－④－４

平成24年9月1日現在

教員の採用前の経歴

① 教育職員本給表適用者

区分	所属人数	民間企業	大学・研究機関	他高専	高校	学生その他
商船学科	14	3	0	0	0	11
電子機械工学科	11	1	2	1	1	6
情報工学科	11	3	2	0	0	6
総合教育科	15	0	2	1	2	10
計 (()は教授・准教授で内数)	51 (38)	7 (6)	6 (4)	2 (2)	3 (2)	33 (24)

② 海事職員(一)本給表適用者

区分	所属人数	民間企業	大学・研究機関	他高専	高校	学生その他
全体 (()は教授・准教授で内数)	4 (2)	3 (1)	0	0	0	1 (1)

③ ①+②

区分	所属人数	民間企業	大学・研究機関	他高専	高校	学生その他
商船学科 電子機械工学科 情報工学科 海事職員(一) (()は教授・准教授で内数)	55 (40)	10 (7)	6 (4)	2 (2)	3 (2)	34 (25)

(出典：総務課)

資料３－１－④－５

外国人教員リスト(非常勤講師を含む)

	氏 名	カ ナ	国 籍
常勤(電子機械工学科教授)	DAVAA GANBAT	ﾀﾞﾜｱ ｶﾞﾝﾊﾞｯﾄ	モンゴル
非常勤講師	O` Gradie Gareth	ｵｰｸﾞﾚｲﾃﾞｲ ｷﾞｬﾚｽ	オーストラリア
非常勤講師	JAMBAL ODGEREL	ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ	モンゴル

(出典：総務課)

資料３－１－④－６

内地研究員･在外研究員一覧表

	内地研究員		在外研究員	
	氏名	期間	氏名	期間
平成10年度	(G)日下　佳春 (広島大学)	H10.5.1～H11.2.26		
平成11年度	(S)高岡　俊輔 (神戸商船大学)	H11.5.6～H12.2.29	(M)瀬濤　喜信 (アイルランド)	H11.6.1～H12.3.30
平成12年度				
平成13年度	(M)山田　貴志 (岡山県立大学)	H13.5.1～H14.2.28		
	(I)矢野　和昭 (山口大学)	H13.5.1～H14.2.28		
	(G)鈴木　利幸 (筑波大学)	H13.5.1～H14.2.28		
平成14年度	(S)秋葉　貞洋 (広島大学)	H14.5.1～H15.2.28	(M)藤本　隆士 (アイルランド)	H14.5.1～H15.2.28
平成15年度	(S)二村　彰 (愛媛大学)	H15.5.1～H16.2.28	(M)中山　恭秀 (デンマーク)	H15.5.1～H16.2.29
平成16年度	(M)益崎　真治 (福山大学)	H16.5.1～H17.2.28		
平成17年度			(S)湯田　紀男 (韓国)	H18.3.20～H19.1.13
平成18年度	(S)野々山　和宏 (東北大学)	H18.5.1～H19.2.28		
平成19年度	(G)岩本　豊 (静岡大学)	H19.5.1～H20.2.29	(M)加藤　茂 (オーストラリア)	H20.3.30～H21.3.1
平成20年度			(S)柳沢　修実 (フランス)	H21.3.20～H22.3.10
平成21年度	(I)藤井　温子 (福山大学)	H21.5.1～H22.2.26	(I)伊藤　芳浩 (ドイツ)	H22.3.27～H23.2.26
平成22年度			(M)ﾀﾞﾜｧｶﾞﾝﾊﾞｯﾄ (米国)	H23.3.21～H23.3.15
平成23年度	(S)山崎　慎也 (神戸大学)	H23.5.1～H24.2.29		
平成24年度	(S)中村　真澄 (神戸大学)	H24.5.1～H25.2.28	(G)望月　肇 (米国)	H24.4.6～H25.3.11

(出典：企画広報室)

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

本校では，学生による授業評価アンケートを毎年行い，これを参考にして教員は授業改善を行っており（資料３－２－①－１），評価結果は一定期間ウェブサイトに公表し，冊子にまとめて校長及び教務主事が保管している。年度当初，教員は身上調書及び研究業績一覧を提出し，校長は全教員と個人面談を行っている（資料３－２－①－２，３）。面談の結果を受けて，英語の専任教員を３名から４名に増やし，平成 25 年度から数学の専任教員を３名から５名（教員交流受入１名を含む）に増やすことになった（資料３－１－①－１）。さらに，平成 25 年度から副校長（企画・評価担当）を設置することになった（資料３－２－①－４）。また，教育研究業績を基に，校長裁量経費の一部を教育研究支援経費として傾斜配分している（資料３－２－①－５）。各主事は，定期的に主事補の評価を校長に報告している（資料は訪問調査時に提示）。

高専機構の教員表彰アンケート結果に基づき，校長及び教務主事が相談の上，推薦を行っており，平成 24 年度には２名の教員が表彰を受けた。

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業評価アンケート結果を冊子にまとめ校長及び教務主事が保管している。教員は身上調書及び研究業績一覧を提出し，校長面談を行っている。面談の結果を受けて，英語の専任教員を３名から４名に増やし，数学の専任教員を３名から５名（教員交流受入１名を含む）に増やし，平成 25 年度から副校長（企画・評価担当）を設置することになった。また，教育研究業績を基に，校長裁量経費の一部を教育研究支援経費として傾斜配分している。各主事は，定期的に主事補の評価を校長に報告している。

以上のことから，教育活動に関する定期的な評価が行われており，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされている。

資料３－２－①－１

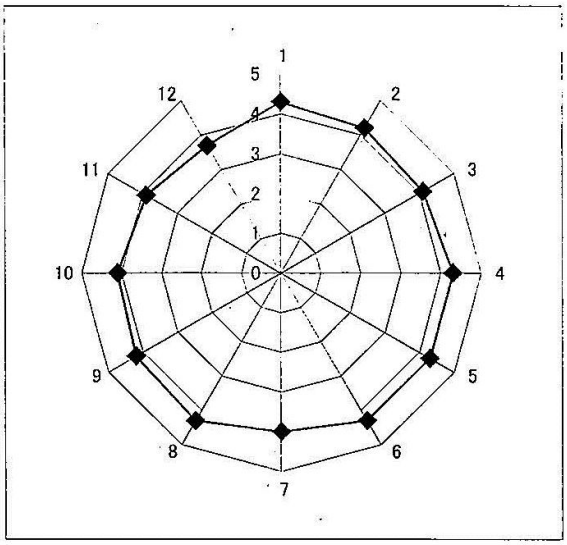
学生による授業評価アンケート

科目名(科目番号)

開講学年および期間 1年 通年

開講学科 SMI

担当者



質問番号	平均得点
1	4.3
2	4.2
3	4.1
4	4.3
5	4.3
6	4.3
7	4.0
8	4.3
9	4.2
10	4.1
11	3.9
12	3.7
平均	4.1

【自己評価とコメント】
授業全般的には一定の評価結果であったと思うが，今後，中学校の学習指導要領改訂を視野に入れて，より興味が持てる授業内容への改善を図りたい。

質問内容
Q1. 先生の話し方は，明瞭で聞きやすかった。
Q2. 授業の進め方は，早すぎず遅すぎず，適切であった。
Q3. 黒板やプロジェクターなどの書き方や文字は，見やすかった。
(体育)実技の指導，器具の扱いについての説明は分かりやすかった。
Q4. 学生の質問，提出した課題，答案の回答に対して，納得できるように丁寧に説明，指導してくれた。
Q5. 授業の説明を通して先生の熱意や意欲を感じた。
Q6. 教科書・問題集，実験指導書，プリントなどは理解しやすく，授業の参考になった。
(体育)実技種目のルールや目的など納得できるように説明してくれた。
Q7. 授業・実験実習内容のレベルは，あなたにとって適切であった。
Q8. 試験内容と授業は，関連が適切であった。
Q9. 成績の評価方法は，適切なものであった。
Q10. 私はこの授業に対して熱心な取り組みをした。
Q11. 私はこの授業の学習内容を理解し，興味をもった。
Q12. 私はこの授業に対して予習や復習をした。

回答番号(得点)
1:まったくあてはまらない，2:ややあてはまらない，3:どちらともいえない，
4:ややあてはまる，5:その通りだった。無回答分は集計していない。

（出典：企画広報室）

資料３－２－①－２

以下のことについて，ご回答ください。（対象期間　平成24年6月2日～現在まで）

所属学科等	
氏　　名	

照会事項	回答	
	件数	内容等
著書の発行		著書名
論文発表		論文名
研究発表		学会名 論文名
受賞学術賞等		賞の名称、表彰団体名等
教育実績		内容
受託研究		研究課題
共同研究		研究課題
公開講座		公開講座名
特許・実用新案出願		内容
特許・実用新案取得		内容
委員等への就任(本学以外)		委員等名
学位、資格等		学位、資格等名、取得大学等名

その他	

※行数は適宜増やしてください。

（出典：総務課）

資料３－２－①－３

平成２３年５月２７日

教　員　　各位

校　　長

校長との個別面談について

このことについて，下記のとおり実施いたします。

記

１．日　時　：平成２３年６月１日（水）～
２．場　所　：校長室

※面談は随時行いますので，校長のスケジュールを事前に
秘書へ連絡・確認をしてアポイントを取って下さい。

※身上調書をもとに面談を行いますので，未提出の方は
早急にご提出下さい。

（出典:総務課）

資料３－２－①－４

○弓削商船高等専門学校内部組織規則

制　　定　平成16年12月27日
最終改正　平成25年３月19日

（趣旨）

第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年規則第１号）第５条第７項，独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成16年規則第４号）第12条及び弓削商船高等専門学校学則第11条の規定に基づき，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の内部組織（事務部組織を除く。）について必要な事項を定める。

（中略）

（校長補佐）

第６条　本校に，副校長を置く。

２　副校長は教務主事，学生主事，寮務主事，広報主事及び企画・評価を担当する者をもって充てる。

３　副校長は，校長の職務を補佐するとともに，校長から指示された特命事項を処理する。

４　教務主事は，校長不在のとき，その職務を代行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－31 抜粋）

資料３－２－①－５

平成 24 年度教育研究費追加配分申告書

非公開情報のための削除

（出典:総務課）

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の採用については，優秀な人材を確保するため，すべて公募により行われている（資料３－２－②－１）。また，公開情報をウェブサイトに掲載し，情報公開している（資料３－２－②－２）。採用や昇任等の選考に関しては，高等専門学校設置基準の教員の資格（資料３－２－②－３）に適合することを条件にして，弓削商船高等専門学校教員選考規則，教員選考細則及び教員選考基準（資料３－２－②－４～６）に明確かつ適切に定められている。応募者及び昇任候補者から，履歴書，著書・論文等一覧，主要著書・論文等の概要，教育業績一覧，外部資金・社会連携等の状況，企業等における業績一覧，高等専門学校での教育と研究に関する抱負などの書類が提出され，審査は，書類選考（当該学科等への適合性，人物評価，教育資質評価，研究評価，学校運営・社会貢献）及び面接選考（人物適合評価，教育資質適合評価，研究活動適合評価）についてそれぞれ 100 点の配点で評価している。

採用・昇任案件がある時，学科長から人事委員会（資料３－２－②－７）へ教員選考申出書（資料３－２－②－８）が提出され，審議の上，審査に入る場合は，応募者または昇任対象教員に対する人事専門委員会（資料３－２－②－９）が設置され，専門委員７名（学科長が委員長）を決定する。

公募の場合，応募者の中から書類審査によって複数の候補者を選び，これらの候補者による模擬授業と面接が実施され（資料３－２－②－１），７名の委員により書面評価及び面接評価が行われ，それぞれの評価点と審査の経緯が委員長を中心にまとめられ，順位をつけて教員選考審査報告書（資料３－２－②－10）が作成される。昇任の場合，書面評価を行った上で面接が実施され，公募の場合と同様に教員選考審査報告書が作成される。その結果を受けて，人事委員会において，専門委員会委員長から教員選考審査報告書に従って説明が行われ，総合的に審議が行われ，採用者の決定，昇任の決定が行われる。具体的な適用事例に関しては，個人情報が含まれているため，訪問調査の際の確認資料とする。

非常勤講師の採用については，非常勤講師選考内規（資料３－２－②－11）に沿って，公募又は学科長からの教員選考申出書によって，人事委員会で審議して決定している。

（分析結果とその根拠理由）

教員の採用の選考や昇任の審査に関しては，高等専門学校設置基準に沿った教員選考規則，教員選考細則及び教員選考基準が定められている。選考や審査に当たっては，人事専門委員会が設置され，書類選考及び面接選考が行われた後，教員選考審査報告書が作成され，人事委員会で総合的に審議が行われて決定される。また，非常勤講師の採用についても，非常勤講師選考内規に沿って適切に決定されている。

以上のことから，教員採用や昇任に関する規定などが明確に定められ，適切に運用されているといえる。

資料３－２－②－１

弓船専総第６４号
平成２４年７月１１日

関係機関の長　殿

弓削商船高等専門学校長
木　村　隆　一
（公印省略）

教員の公募について（依頼）

拝啓　時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。
さて，このたび本校では，下記により教員を公募することになりましたので，貴機関関係者へご周知くださいますとともに，適任者のご推薦をいただきたく，よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

１.職名及び定員	講師　１名
２.所属学科	総合教育科
３.専門分野	数学または数学教育学
４.担当科目	本科１～３年の数学科目および専攻科の数学科目
５.応募資格	次のいずれにも該当する者 (1) 修士以上の学位を有する者（着任時までに取得見込みの者を含む），またはそれと同等の能力を有する者 (2)高等専門学校の教育，学生指導（クラブ指導，生活指導等）に熱意を持ち，研究活動に意欲のある健康な者。なお，授業以外の主な職務内容については，別紙１をご覧ください。 (3) 着任時の年齢が４０歳未満の者（雇用対策法施行規則第１条の３第１項３号のイ適用により，長期継続によるキャリア形成を図るため）
６.採用予定日	平成２５年４月１日
７.必要書類	(1) 履歴書（別紙様式１） (2) 著書・論文等一覧（口頭発表も含む）（別紙様式２） (3) 主要著書・論文等の概要５件以内（別紙様式３）およびその別刷（コピー可） (4) 教育業績一覧（別紙様式４） (5) 外部資金・社会連携等の状況（別紙様式５） (5) 企業等における業績一覧（別紙様式６） (6) 高等専門学校での教育と研究に関する抱負（別紙様式７） (7) 推薦書（自薦を含む）１通（Ａ４版任意様式） （必要書類の様式は弓削商船高等専門学校のホームページを参照してください。 http://www.yuge.ac.jp/）
８.応募締切	平成２４年９月７日（金）必着
９.選考方法	(1) １次選考：書類審査 (2) ２次選考：面接（平成２４年９月下旬） ※面接の際の旅費等は自己負担となります。
10.書類提出先	〒794-2593　愛媛県越智郡上島町弓削下弓削１０００番地 弓削商船高等専門学校総務課人事係 ※応募書類は，封筒に「総合教育科教員応募書類在中」と朱書のうえ，簡易書留で郵送のこと。なお，原則として提出書類は返送いたしません。
11. 問い合わせ先	弓削商船高等専門学校　総合教育科長　上江　憲治（かみえ　けんじ） TEL:（０８９７）７７－４６７５（直通） Email:kamie@gen.yuge.ac.jp
12. その他	応募者から取得する個人情報は，弓削商船高等専門学校の教員選考に使用するものであり，その他の目的には使用しません。

（出典：総務課）

資料３－２－②－２

弓削商船高等専門学校 - XFセクション-教職員の公募について　1/1 ページ



（出典：本校ウェブサイト）

資料３－２－②－３

高等専門学校設置基準（抄）

第三章　教員の資格

（教授の資格）

第十一条　教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

一　博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

二　学位規則（昭和二十八年文部省令第九号）第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者

三　大学（短期大学を含む。以下同じ。）又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

四　学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者

五　特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

六　前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（准教授の資格）

第十二条　准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

一　前条各号のいずれかに該当する者

二　大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある者

三　修士の学位又は学位規則第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者

四　特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者

五　前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（講師の資格）

第十三条　講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一　第十一条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者

二　高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

三　前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（出典：高等専門学校設置基準）

資料３－２－②－４

弓削商船高等専門学校教員選考規則

制　　定　平成14年10月18日
最終改正　平成19年１月18日

（趣旨）

第１条　弓削商船高等専門学校における教授，准教授，講師，助教及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任（以下「採用等」という。）の選考は，高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）第11条から第14条までに規定する教員の資格に定めるもののほか，この規則の定めるところによる。

（選考及び選考基準）

第２条　教員の選考は，人事委員会（以下「委員会」という。）の審議を経て，校長が行う。

２　教員の選考は，原則として公募によるものとする。ただし，昇任については，本校内に候補適任者がいる場合は，公募によらないことができる。

３　教員の選考基準は別に定める。

（採用等の発議）

第３条　校長は，学科長，総合教育科長又は専攻科長（以下「学科長等」という。）から教員選考の申出があったときには，委員会を開催するものとする。

２　前項の規定にかかわらず，校長が必要と認めたときは委員会を開催することができる。

（選考手続）

第４条　委員会は，常勤の教員の選考にあっては，その都度，選考方針を策定し，教員選考基準に基づき候補者の審査を行う。

２　委員会は，必要に応じて専門委員会を設置し，審査を付託することができる。

３　専門委員会は，前項により付託された審査を行い，その結果を人事委員会委員長（以下「委員長」という。）に報告するものとする。なお，専門委員会委員長は，必要がある場合には，審査において委員長の出席を要請することができる。

４　委員会は，前項に規定する審査の報告に基づき，候補者の選考に係る審議を行う。

５　非常勤講師の選考にあっては，「弓削商船高等専門学校非常勤講師選考内規」の定めによる。

（細目）

第５条　この規則に定めるもののほか，教員の選考に関し必要な細目は，別に定める。

附　則

この規則は，平成14年10月18日から施行する。

附　則

この規則は，平成17年12月１日から施行する。

附　則

（出典：弓削商船高等専門学校規則集４－３抜粋）

資料３－２－②－５

弓削商船高等専門学校教員選考細則

制　　定　平成 14 年 10 月 18 日
最終改正　平成 24 年６月 20 日

（趣旨）
第１条　この細則は，弓削商船高等専門学校教員選考規則（以下「規則」という。）第５条の規定に基づき，教員の選考に関し必要な事項を定める。
（選考の申出）
第２条　規則第３条第１項に規定する教員選考の申出は，教員選考申出書（別紙１）により行う。
（審査の書類等）
第３条　委員会は，常勤の教員の選考にあっては，候補者から次の各号に掲げる書類を提出させる。
(1)　履歴書（別紙様式１）
(2)　著書・論文等一覧（口頭発表も含む。）（別紙様式２）
(3)　主要著書・論文等の概要（別紙様式３）
(4)　前号に規定する論文の別刷
(5)　教育業績一覧（別紙様式４）
(6)　外部資金・社会連携等の状況（別紙様式５）
(7)　企業等における業績一覧（別紙様式６）
(8)　高等専門学校での教育と研究に関する抱負（別紙様式７）
(9)　推薦書
(10)　その他委員会が必要と認めた書類
２　専門委員会は，前項に規定する書類に基づき，候補者の選考に係る審議を行う。なお，専門委員会が必要と認めたときは，候補者の面接を行うことができる。
３　規則第４条第３項に規定する審査の報告は，教員選考審査報告書（別紙２）により候補者全員について推薦順位を付して行う。
（審議）
第４条　委員会は，前条第１項及び同条第３項に規定する書類に基づき，候補者の選考に係る審議を行う。
２　委員会が必要と認めたときは，候補者の面接を行うことができる。

附　則
この細則は，平成 14 年 10 月 18 日から施行する。
附　則
この細則は，平成 17 年 12 月１日から施行する。
附　則
この細則は，平成 24 年６月 20 日から施行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集４－４抜粋）

資料３－２－②－６

弓削商船高等専門学校教員選考基準

［ 平成１４年１０月１８日
　校　　長　　裁　　定 ］

書類選考

１．当該学科等への適合性（配点１０点）
　　幅広い研究業績を持ち学科等への適合性があるか。
２．人物評価（配点１５点）
　　研究だけでなく，文化活動，スポーツ活動および社会活動等を行っているか。
３．教育資質評価（配点３０点）
（１）教育に関する抱負（様式５（細則第３条第１項第７号関係））
（２）教育業績（様式３（細則第３条第１項第５号関係））
（３）企業等における業績（様式４（細則第３条第１項第６号関係））
（４）各種資格取得状況
４．研究評価（配点２５点）
（１）研究に関する抱負（様式５（細則第３条第１項第７号関係））
（２）学位，発表論文，著書，訳書等の状況
（３）その他学会賞，特許等
５．学校運営，社会貢献（配点２０点）
（１）学校内役職又は企業内役職
（２）地域協力，国際協力等

面接選考

面接は書類選考上位者について行う。
以下の３部門について評価する。

１．人物的適合評価（配点３０点）
（１）性格，長所，得意分野
（２）人と対する時の態度，言葉遣い，声の大きさ，話すスピード等

２．教育資質適合評価（配点４０点）
（１）高専における授業，研究の位置付けについての認識（確認事項）
（２）教育経験の有無および経験があれば，その程度
（３）専門以外の科目を担当する覚悟の有無
（４）クラブ顧問，寮の当直，担任，主事補，各種委員についての認識（確認事項）

３．研究活動適合評価（配点３０点）
（１）研究計画と研究環境についての認識（確認事項）
（２）国際学会等で発表に使える外国語と習熟の程度
（３）所属の勉強会等への出席と公務の関係についての認識（確認事項）

（出典：総務課）

資料３－２－②－７

○弓削商船高等専門学校人事委員会規則

制　　定　平成14年10月18日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校人事委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　教員人事の基本方針及び基準に関する事項
(2)　教員の選考に関する事項
(3)　その他教員の人事に関する重要事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　校長
(2)　各主事
(3)　各学科長，総合教育科長及び専攻科長
(4)　教授及び准教授の中から校長が指名する者若干名
２　前項第４号の委員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（専門委員会）
第５条　委員会に専門委員会を置く。
２　専門委員会に関し必要な事項は，別に定める。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，総務課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。
附　則
１　この規則は，平成14年10月18日から施行する。
２　この規則施行後最初に任命される第３条第１項第４号の委員の任期は，同条第２項本文の規定にかかわらず，平成15年３月31日までとする。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－３抜粋）

資料３－２－②－８

別紙１（第２条関係）

教　員　選　考　申　出　書

学 科 等 名		職　　名	
補充年月日	平成　　年　　月　　日	専門分野	
１．補充が必要な理由			
２．補充方法とその理由			
３．希望する条件（学位，応募資格等）			
４．その他特別な事情			
５．専門委員会委員の推薦者の氏名			
平成　　年　　月　　日 弓削商船高等専門学校長　殿 （人事委員会委員長　殿） （学科長等氏名）　　印			

（出典：総務課）

資料３－２－②－９

○弓削商船高等専門学校人事委員会専門委員会規則

制　　定　平成14年10月18日
最終改正　平成19年１月18日

（趣旨）

第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校人事委員会規則第５条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校人事委員会専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

（審査事項）

第２条　専門委員会は，委員会から付託された常勤の教員の採用及び昇任の選考に係る審査を行い，その結果を委員会に報告する。

（組織）

第３条　専門委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　欠員補充を行う学科，総合教育科又は専攻科（以下「当該学科」という。）の長

(2)　当該学科の教授及び准教授の中から校長が指名する者３名

２　校長が必要があると認めた場合は，当該学科以外の学科から校長が指名する者若干名を加えることができる。

（委員長）

第４条　専門委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。

２　委員長は，専門委員会を主宰する。

３　委員長に事故があるときは，第３条第１項第２号の委員の中から委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（庶務）

第５条　専門委員会の庶務は，総務課において処理する。

（雑則）

第６条　この規則に定めるもののほか，専門委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則

この要項は，平成14年10月18日から施行する。

附　則

この規則は，平成17年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成19年４月１日から施行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－４抜粋）

資料３－２－②－10

別紙２（第３条第３項関係）

教　員　選　考　審　査　報　告　書

学科等名		職　名	
補充年月日	平成　　年　　月　　日	専門分野	
推薦順位	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
審査の経緯			

平成　　年　　月　　日

人事委員会委員長　殿

（専門委員会委員長）　　印

（出典:総務課）

資料３－２－②－11

○弓削商船高等専門学校非常勤講師選考内規

制　　定　平成６年６月16日
最終改正　平成23年12月19日

（趣旨）

第１条　この内規は，弓削商船高等専門学校非常勤講師（以下「非常勤講師」という。）の選考に関し必要な事項を定める。

（人員の基準）

第２条　各年度の非常勤講師の人員は，特殊な専門知識・技術を必要とする授業の実施及び本校教員の授業負担の過大を緩和するための必要最小限の人員　とする。

（資格）

第３条　非常勤講師は，次の各号に該当する者でなければならない。

(1)　高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）に定められた講師以上の資格を有する者

(2)　採用しようとする年度の末日の年齢が，満６５歳以下の者

(3)　健康で勤務に支障がない者

２　前項第２号に規定する年齢は，校長が特に必要と認める者については，採用しようとする年度の末日の年齢が，満６７歳以下の者とすることができる。

（人員の決定）

第４条　第２条に定める必要最小限の人員は，教務委員会の議を経て校長が決定する。

（申出）

第５条　非常勤講師を選考しようとするときは，学科長，総合教育科長又は専攻科長（以下「学科長等」という。）は，「非常勤講師選考申出書」（別紙様式１）を作成し，新規の候補者にあっては「非常勤講師候補者の概要」（別紙様式２）及び履歴書を添えて，校長へ申出るものとする。

２　非常勤講師候補者を公募により選考する場合は，次の各号の手順で行うものとする。なお，第１号及び第２号の手順においては，人事委員会及び専門委員会の開催，審議は必要としないが，人事委員会で選考結果を適宜報告するものとする。

(1)　学科長等は，公募要領を作成し，校長承認の後公募を開始する。

(2)　学科長等は，公募の応募者から候補者の選考に係る審議を行う。

(3)　学科長等は，候補者が決定した場合は，別紙様式１，別紙様式２及び履歴書を添えて校長へ申出るものとする。

３　第１項による校長への申出は，採用しようとする年度の前年度１２月末日までに提出するものとする。ただし，緊急を要する採用の場合等，校長が特に認める場合は，この限りではない。

（審議）

第６条　校長は，学科長等から前条による申出があったときには，人事委員会を開催し，審議を行う。

２　人事委員会は，前条のほかに必要と認めた書類を学科長等から提出させることができる。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集４－９抜粋）

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

円滑な教育活動を展開するために事務部に学生課を設置し，授業，試験等の教務事務を行う教務係に４名，課外活動・就学等の学生支援を行う学生支援係に３名（看護師を含む），学生寮での生活支援を行う寮務係に２名と課内全体を総括する学生課長及び学生課長補佐（兼任）の 10 名が配置されており，各担当業務を行っている（資料３－３－①－１，２）。

平成 21 年に技術支援センターを設置し，技術職員として，商船系の第一技術班２名，工業系の第２技術班６名及び船舶の弓削丸班５名を配置している（資料３－３－①－３）。商船系職員は，商船学科の実験・実習・卒業研究等の技術支援を担当，工業系職員は工業系学科の実験・実習・卒業研究等を担当し，両者とも円滑な学生支援を行っている（資料３－３－①－４）。情報処理教育センターにも専属の技術職員を配置し，学生の教育支援を行っている（資料３－３－①－３）。また，練習船「弓削丸」の運航等には，弓削丸班の職員を配置し，練習船実習の支援等を行っている（資料３－３－①－３）。

図書館には，情報・広報係として専任の司書を含む３名（パート職員を含む）が配置され，学生の図書貸し出しや閲覧を支援している。

（分析結果とその根拠理由）

学生課の業務については，事務組織及び事務分掌規則により，適切に役割を分担し，効果的に機能している。また，技術職員に関しては，商船系と工業系の職員で構成され，それぞれ役割分担がなされ円滑な学生支援を行っている。さらに，図書館及び情報処理教育センターにも専属の司書や技術職員を配置し，学生の教育支援を行っている。

以上のことから，教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援が適切に配置されているといえる。

資料３－３－①－１

弓削商船高等専門学校事務組織表

個人情報等保護のため削除

（出典：総務課）

資料３－３－①－２

○弓削商船高等専門学校事務組織及び事務分掌規則

制　　定　平成19年１月18日
最終改正　平成25年３月19日

（目的）

第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第５条，独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第10条及び弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）学則第11号の規定に基づき，本校の事務組織及び所掌事務について定めることを目的とする。

（事務組織）

第２条　本校に事務部を置く。

第３条　事務部に総務課，学生課，企画広報室を置く。

（中略）

第10条　学生課に次に掲げる係を置く。

教務係
学生支援係
寮務係

２　課長補佐又は専門員は課長を補佐し，学生課関係事務の総括，調整に関する事務をつかさどる。

３　教務係においては，次の事務をつかさどる。

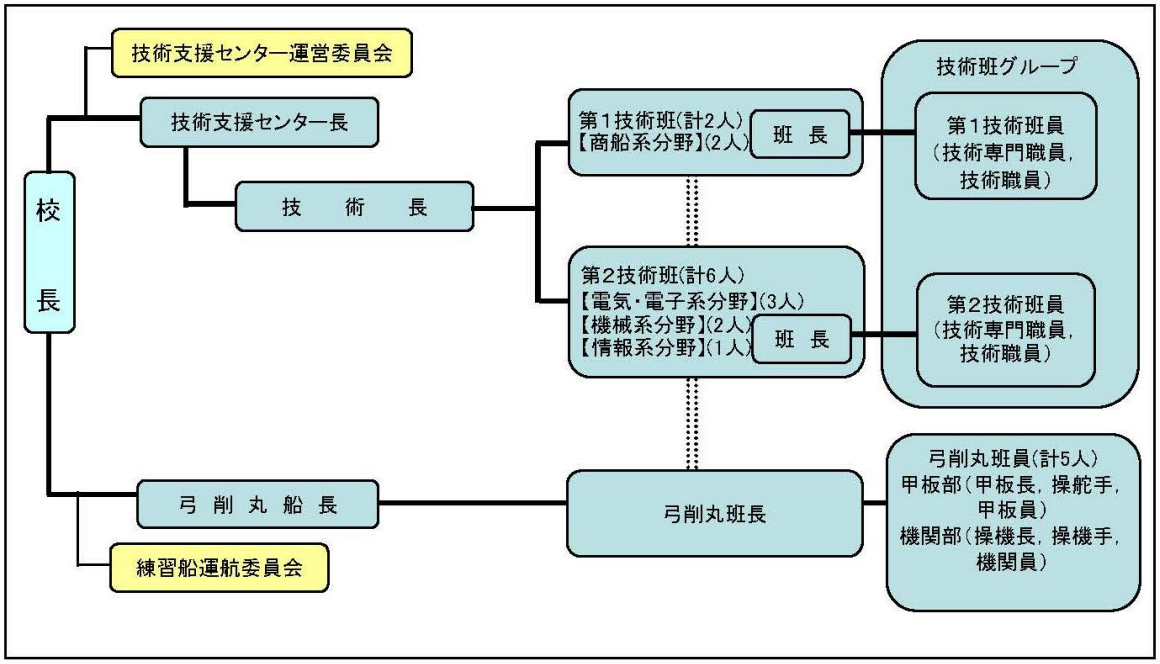
（１）　教務に関し連絡調整すること。
（２）　学科，専攻科及び学級等に関すること。
（３）　外国人留学生に関すること。
（４）　船舶職員養成施設等に関すること。
（５）　教育課程及び授業に関すること。
（６）　進級及び卒業の認定に関すること。
（７）　学生の転科，休学，復学，退学及び留学に関すること。
（８）　学生の試験及び成績に関すること。
（９）　学生の欠席及び欠課に関すること。
(10)　学籍簿の整理保存に関すること。
(11)　教科書及び補助教材に関すること。
(12)　学生の在学，卒業及び成績の証明等に関すること。
(13)　学生の校外実習及び見学に関すること。
(14)　海技試験に関すること。
(15)　学生の住所変更，転籍及び保証人変更等の諸届に関すること。
(16)　教室の管理に関すること。
(17)　広報に関すること（情報・広報係の所掌に係るものを除く。）。
(18)　学生募集及び入学者の選抜に関すること。
(19)　学生の入学，編入学に関すること。
(20)　学生の大学編入学等に関すること。
(21)　所管物品の管理等に関すること。
(22)　所掌事務の調査及び統計報告に関すること。
(23)　その他教務・入試に関する事務を処理すること。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集３－１抜粋）

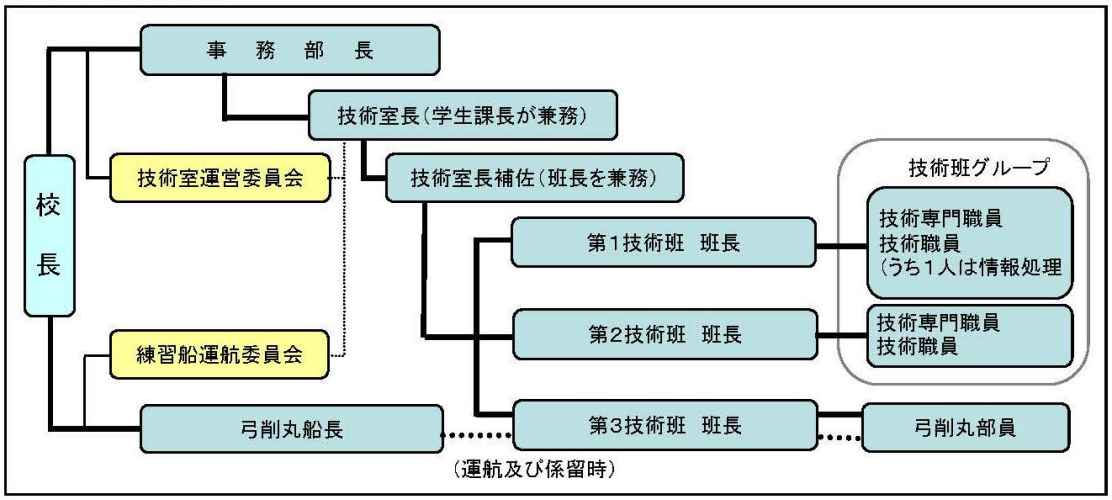
資料３－３－①－３

技術職員（施設系を除く）の組織化について

（平成21年10月１日から）



（平成20年4月１日から）



（出典：総務課）

資料３－３－①－４

技術支援センター職員の実験実習等の担当状況について

平成25年　4月1日現在

		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限		その他	
		学科，学年及び科目名	担当者<指導学生数>	学科，学年及び科目名	担当者<指導学生数>	学科，学年及び科目名	担当者<指導学生数>	学科，学年及び科目名	担当者<指導学生数>	学科，学年及び科目名	担当者<指導学生数>	学科，学年及び科目名	担当者<指導学生数>	学科，学年及び科目名	担当者<指導学生数>
前期	月	M2:実験実習 ・ガス溶接、電気溶接 ・アームロボットの製作 ・2サイクル・4サイクルエンジン（分解組立） ・NCプライス盤のプログラム制御による切削加工	伊藤（公）<4> 岩崎（俊）<4> 伊藤（嘉）<8> 山下<8> 能用<8>	M2:実験実習 ・ガス溶接、電気溶接 ・アームロボットの製作 ・2サイクル・4サイクルエンジン（分解組立） ・NCプライス盤のプログラム制御による切削加工 S1:機械通信	伊藤（公）<4> 岩崎（俊）<4> 伊藤（嘉）<8> 山下<8> 能用<8> 高橋（一）<5~6> 栗本<8~9> 小林<8~9> 向井<6~7>（機械）	S1:機械通信	高橋（一）<5~6> 栗本<8~9> 小林<8~9> 向井<6~7>（機械）	S6:実験実習	高橋（一）<5~6> 栗本<6~7> 岩崎<6~7>	S3:実験実習	高橋（一）<5~6> 栗本<6~7> 岩崎<6~7>	六研S5 六研M5			
	火	M3:実験実習 ・ワイヤカットのCAD/CAM制御による切削加工 ・シーケンス制御 ・電子実験 ・テスハンマーの製作	能山<8> 岩崎（俊）<5> 伊藤（嘉）<8> 山下<3> 伊藤（幸）<3> 栗本(3)	M3:実験実習 ・ワイヤカットのCAD/CAM制御による切削加工 ・シーケンス制御 ・電子実験 ・テスハンマーの製作	能山<8> 岩崎（俊）<5> 伊藤（嘉）<8> 山下<3> 伊藤（幸）<3> 栗本(3)											
		・電気計測	大橋（二）<4> 長井<4>	・電気計測	大橋（二）<4> 長井<4>										
	水	M1:実験実習 ・鋳造の実技 ・工作機械の取扱（旋盤） ・手仕上作業（試験片の製作） ・作業Ⅰ,Ⅱ：汎用旋盤の取扱	伊藤（幸）<8> 山下<3> 能田<3> 栗本<3> 岩崎（俊）<4> 向井<4> 伊藤（嘉）<8>	M1:実験実習 ・鋳造の実技 ・工作機械の取扱（旋盤） ・手仕上作業（試験片の製作） ・作業Ⅰ,Ⅱ：汎用旋盤の取扱	伊藤（幸）<8> 山下<3> 能田<3> 栗本<3> 岩崎（俊）<4> 向井<4> 伊藤（嘉）<8>			M4:工学実験 M5:Ⅰ学実験	伊藤（幸）<3> 伊藤（嘉）<3> 能田<3> 栗本<3> 山下<3~4> 岩崎（俊）<3~4> 向井<3~4>	M4:工学実験 M5:Ⅰ学実験	伊藤（幸）<3> 伊藤（嘉）<3> 能田<3> 栗本<3> 山下<3~4> 岩崎（俊）<3~4> 向井<3~4>	六研S5 六研M5			
		・電気工作：電気計測	大橋（二）<4> 長井<4>	・電気工作：電気計測	大橋（二）<4> 長井<4>										
	木	I3:実験実習 ・ジャイヤーブラシのCAD,CAM制御による切削加工（前期） ・NCプライス盤のプログラム制御による切削加工（後期）	山下<1~2> 伊藤（幸）<1~2> 伊藤（公）<1~2> 岩崎（俊）<1~2> 能用<1~2>	I3:実験実習 ・ジャイヤーブラシのCAD,CAM制御による切削加工（前期） ・NCプライス盤のプログラム制御による切削加工（後期）	山下<1~2> 伊藤（幸）<1~2> 伊藤（公）<1~2> 岩崎（俊）<1~2> 能用<1~2>							六研M5			
		・高周波電源実験 ・油圧回路実験 ・ソフトウェア演習	高橋（一）<7~8> 真目<7~8> 田原<3~4> 能用<3~4>	・高周波電源実験 ・油圧回路実験 ・ソフトウェア演習	高橋（一）<7~8> 真目<7~8> 田原<3~4> 能用<3~4>										
	金	S2:実験実習 ・工作機械の取扱（旋盤） ・電気溶接 ・ガス溶接 ・NCプライス盤 ・シーケンス制御 ・弓削丸機械配管図	伊藤（公）<2~3> 岩崎（和）<2~3> 栗本<2~3> 山下<5~6> 向井<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 能田<5~6> 伊藤（嘉）<2~3> 中根<2~3>	S2:実験実習 ・工作機械の取扱（旋盤） ・電気溶接 ・ガス溶接 ・NCプライス盤 ・シーケンス制御 ・弓削丸機械配管図	伊藤（幸）<2~3> 岩崎（和）<2~3> 栗本<2~3> 山下<5~6> 向井<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 能田<5~6> 伊藤（嘉）<2~3> 中根<2~3>			S4:Ⅰ学実験 六研M5 六研S5	山下<2~3> 伊藤（幸）<2~3> 伊藤（嘉）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 能用<2~3>	S4:工学実験	山下<2~3> 伊藤（幸）<2~3> 伊藤（嘉）<2~3> 岩崎（俊）<2~3> 能用<2~3>				
		・ライトゲルエンジンの分解組立、指導の分解組立	萩栗<2~3> 中村<2~3>	・ライトゲルエンジンの分解組立、指導の分解組立	萩栗<2~3> 中村<2~3>			S4:制御工学実験	能山<5~6> 向井<5~6> 栗本<5~6>	S4:制御工学実験	能山<5~6> 向井<5~6> 栗本<5~6>				

※1 指導学生数は、前期の第1回目の授業時の履修者数である。
※2 年間及び特研は、技術室職員が必要（要望）に応じて補佐している。

（出典：技術支援センター）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されている。特に，練習船「弓削丸」の航海実習においては，弓削丸専属教員の他，商船学科の教員がインストラクターとして乗り込み，より高い安全航海と質の高い学生実習の支援を行っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準３の自己評価の概要

実践的技術者育成のため，一般科目担当教員及び専門科目担当教員を教育課程の授業科目構成と比してバランスよく配置しており，教員の専門分野に適合した授業担当となるよう配慮している。

専攻科には，専門分野に適合した科目担当教員を配置しており，基礎教育及び専門教育に対応できる体制を整備している。

年齢構成の均衡を配慮した教員採用を行っており，教員全体ではバランスの良い構成となっている。教育経験及び実務経験を配慮した教員採用により，民間企業経験者，大学・研究機関・他高等専門学校経験者，教員免許所有者，一級海技士（航海・機関），技術士，第一種情報処理技術者など多様な教員を配置し活性化を図っている。また，４名の女性教員，非常勤講師を含む３名の外国人教員を配置している。

教員は身上調書及び研究業績一覧を提出し，校長面談を行っている。面談の結果を受けて，副校長（企画・評価担当）を設置するなどの取組を行っている。

教員の採用の選考や昇格の審査に関しては，高等専門学校設置基準に沿った教員選考規則，教員選考細則及び教員選考基準が明確かつ適切に定められており，選考や審査に当たっては，人事専門委員会が設置され，適切に運用されている。

教育課程を円滑に展開するために事務部に学生課を設置し，また，技術支援センター所属の技術職員は商船系と工業系の職員で構成され，それぞれ役割分担がなされ円滑な学生支援を行っている。さらに，図書館及び情報処理教育センターにも専属の司書や技術職員を配置し，学生の教育支援を行っている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では，各学科及び専攻ごとの教育目的に沿って，準学士課程（編入学を含む）及び専攻科課程へのアドミッション・ポリシーが明確に定められている（資料４－１－①－１，２）。特に，準学士課程については，中学生にも分かりやすく表現している。入学者選抜方法については，アドミッション・ポリシーを記載し公表した学生募集要項に明記している（資料４－１－①－３）。

本校教職員には，入試業務担当者説明会の実施，ウェブサイトに明示することで周知している（資料４－１－①－４，５）。教職員に向けて実施したアンケートでは，教職員の 63%（掲示場所を知っている教職員は 88%）がアドミッション・ポリシーについて知っていると回答しているが（資料４－１－①－６），新任教職員へは更なる周知の徹底を図ることにしている。

将来の学生に理解してもらうため，本校広報主事・主事補，各地域ＰＲ担当教員及び学生課等が連携して，中学校への訪問，オープンキャンパス，学校説明会等を実施しており（資料４－１－①－７，８），その際にアドミッション・ポリシーを記載した学校案内及び学生募集要項を配布して，分かりやすく説明している。また，学校案内等を全国各地に送付し，広く社会に公表している（資料４－１－①－９）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では,準学士課程及び専攻科課程へのアドミッション･ポリシーが明確に定められている。教職員に向けて実施したアンケートでは，概ね教職員に周知されているものと確認できるが，新任教職員への更なる周知が必要である。また，本校は学校案内，学生募集要項，各種パンフレットを広く配布しており，オープンキャンパス，学校説明会，中学校訪問の際にもアドミッション・ポリシーを明示し分かりやすく説明している。

以上のことから，本校では，教育の目的に沿って，アドミッション・ポリシーが明確に定められており，かつ教職員にも周知されている。また，社会にも理解されるよう分かりやすい形で広く公表されている。

資料４－１－①－１

平成25年度

学生募集要項

国立　弓削商船

〒794-2593 愛媛県越智郡上
TEL　0897-77-4619
FAX　0897-77-4693
ホームページアドレス　h

本校は求めています。このような入学生を！

～弓削商船高等専門学校の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～



商　船　学　科

船や海に強い興味を持っている人
好奇心や探究心が強い人
自立心が強く根気力のある人



電子機械工学科

機械いじり・ものづくりに興味がある人
電気・電子工作に興味がある人
コンピュータを使った「もの」の操作に興味がある人



情　報　工　学　科

コンピュータを使いこなしたい人
コンピュータのしくみに興味がある人
コンピュータで何かをやろうと考えている人

（出典：平成25年度学生募集要項）

資料４－１－①－２

平成26年度

専攻科学生募集要項

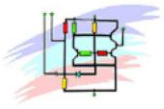
（生産システム工学専攻）

（出願書類添付）

国立　弓削商船高等専
〒７９４－２５９３　愛媛県越智郡上島町弓削下
ＴＥＬ　０８９７－７７－４６２０　（学生課教
ＦＡＸ　０８９７－７７－４６９３　（学生課）

本校は求めています。このような入学生を！

～弓削商船高等専門学校の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～



生産システム工学専攻

手と頭脳が同時に働く実践的技術者を目指す人
コミュニケーション能力と国際感覚を備えたい人

個人情報の取扱いについて

入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は，入学者選抜の資料以外には利用しません。

なお，入学者については次の目的のためにも利用します。

（１）入学後の教育・指導
（２）入学料及び授業料の免除申請の審査
（３）奨学金申請の審査
（４）本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

（出典：平成 26 年度専攻科学生募集要項）

資料４－１－①－３

◇推薦による選抜

３．入学者選抜方法

学校長から提出された調査書，健康診断証明書（商船学科を志望する者），推薦書及び本校が実施する面接（口頭試問を含む。）の結果を総合して行います。

◇学力による選抜

３．入学者選抜方法

本校が実施する学力検査，調査書及び健康診断証明書（商船学科を志望する者）の結果を総合して行います。

（出典：平成 25 年度学生募集要項Ｐ．３，８）

資料４－１－①－４

学力検査による入学者選抜実施要領

１ 学力検査による入学者選抜関係日程表

項　　目	期　　日	時　　間
１．入学願書受付（締め切り当日必着）	２月４日（月）～13日（水）（土，日及び祝日を除く）	9:00～16:00
２．採点業務担当者説明会；第１会議室	２月12日（火）	16:20～
３．健康診断証明書審査（校医）（要精密検査の志願者に連絡）	２月14日（木）	9:00～12:00
４．入学試験委員会；第１会議室（健康診断証明書確認）	２月15日（金）	16:20～
５．精密健康診断審査（校医）	２月19日（火）	
６．入試業務担当者説明会；第１会議室	２月21日（木）	16:30～
７．会場準備 ・受検者集合場所（アセンブリホール） ・学力検査室（Ｍ１教室，Ｉ１教室） ・予備検査室（第２会議室） ・付添者控室（白雲館食堂）	２月22日（金）	16:20～
８．派遣検査員出発（東京，大阪，松山，今治，宇和島，高松，尾道，福山，広島，岡山，福岡）	２月23日（土）	
９．学力検査実施	２月24日（日）	9:30～
10．派遣検査員帰校（大阪，松山，今治，高松，尾道，福山，広島，岡山，大島，福岡）	２月24日（日）	
11．派遣検査員帰校（東京，宇和島）	２月25日（月）	
12．採点会場等準備；第１・２会議室	２月25日（月）	13:30～
13．採点についての打合せ；第１・２会議室	２月25日（月）	午前中
14．採点，調査書；第１・２会議室	２月26日（火）	13:30～
15．採点再点検；第１会議室	２月27日（水）	14:00～
16．入学試験委員会①；第１会議室（合否判定資料（学内）作成）	２月28日（木）	16:00～
17．教員会議①；第１会議室（合否判定（学内））	３月１日（金）	14:00～
18．三商船合同選考会議；広島市	３月３日（日）	
19．入学試験委員会②；第１会議室（合否判定資料（最終）作成）	３月４日（月）	14:00～
20．教員会議②；第１会議室（合否判定（最終））	３月４日（月）	入試委員会終了後
21．合格者発表（合格者の受検番号を掲示板へ掲示）（合格通知書，他書類発送）	３月５日（火）	13:00

※２月１４日（木）に校医が精密検査を要すると判断した者には，入試係から２月１８日（月）までに精密検査結果を提出するよう１４日（木）中に連絡する。

※２月１９日（火）の校医による精密健康診断審査は，精密検査を必要とする者がいない場合には実施しない。

（出典：学生課）

資料４－１－①－５

弓削商船高等専門学校 -- Yuge National College of Maritime Technology --

メインメニュー
ホーム
ニュース
校長あいさつ
本校の教育方針・教育目標
学校案内
クラブ活動
環境への取り組み
環境美化への取り組み
入試情報
シラバス
学事予定表
情報公開
FAQ
ダウンロード
リンク集
本校へのアクセス
ご意見・お問い合わせ
工事・調達情報
個人情報の取扱

訪問者別メニュー
受験生の皆さんへ
企業の皆様へ
地域の皆様へ
学生の皆様へ
卒業生の皆様へ

学科紹介
総合教育科
商船学科
電子機械工学科
情報工学科
専攻科

学内WWWサーバ
情報処理教育センター
白秒寮
地域共同研究推進センター
技術振興会
同窓会
図書館
@E-learning
@WebMail
@Aipo

学生向け情報
学生連絡
授業変更

検索
検索
高度な検索

ホーム » 入試情報・アドミッションポリシー

本校は求めています。このような入学生を！

弓削商船高専は、108年の伝統を生かし、一貫した力リキュラムによって専門的知識を有し実践力と研究力を備えた技術者を育成します。特に「国際海運技術」・「ものづくり技術」・「IT・情報関連技術」を中心に、将来の科学技術社会を担う若人を世に輩出します。
また、海の自然の中で、豊かな人間性と創造力を備えた技術者を育成し、地域社会に貢献することも、本校の大きな目的です。
従って、次のような“学生のみなさん”を歓迎します。

学生募集関係の資料はこちら

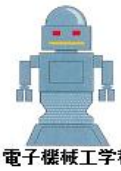


本科



商船学科

船や海に強い興味を持っている人
好奇心や探究心が強い人
自立心が強く根気力のある人



電子機械工学科

機械いじり・ものづくりに興味がある人
電気・電子工作に興味がある人
コンピュータを使った「もの」の操作に興味がある人



情報工学科

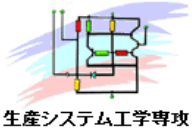
コンピュータを使いこなしたい人
コンピュータのしくみに興味がある人
コンピュータで何かをやろうと考えている人

専攻科



海上輸送システム工学専攻

工学的素養を身につけ海事関係分野で活躍したい人
海上輸送管理技術を身につけ社会で活躍したい人



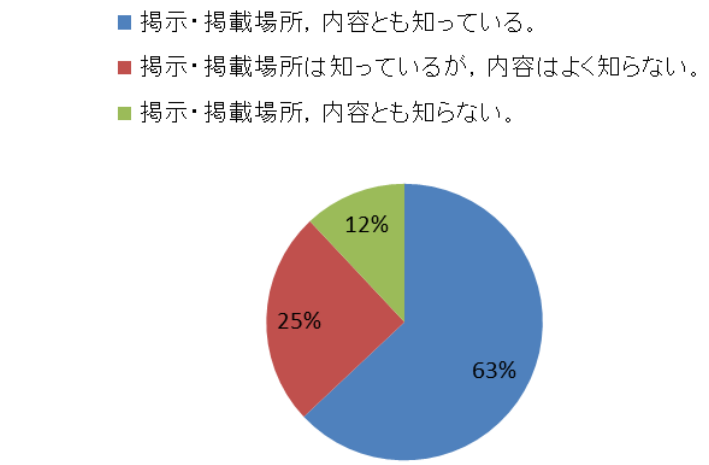
生産システム工学専攻

手と頭脳が同時に働く実践的技術者を目指す人
コミュニケーション能力と国際感覚を備えたい人

（出典：本校ウェブサイト）

資料４－１－①－６

「アドミッションポリシー」をどの程度知っていますか？



（出典：企画広報室）

資料４－１－①－７

訪問中学校（広島県、愛媛県）

県番号	地域	No.	中学校名	H23.4	H23.5	H23.6	H23.7	H
34	広島県広島市	156	広島県広島市立二葉					
		157	広島県広島市立白木					
		158	広島県広島市立大洲					
		159	広島県広島市立楠那					
		160	広島県広島市立仁保					
		161	広島県広島市立皸町			PR伊原武6/17		
		162	広島県広島市立吉島			PR伊原武6/17		
		163	広島県広島市立国泰寺			PR伊原武6/17		
		164	広島県広島市立江波			PR伊原武6/17		
		165	広島県広島市立翠町			PR伊原武6/17		
		166	広島県広島市立観音				PR児玉7/28	
		167	広島県広島市立中広				PR児玉7/28	
		168	広島県広島市立長束				PR児玉7/28	
		169	広島県広島市立祇園				PR児玉7/28	
		170	広島県広島市立祇園東				PR児玉7/28	
		171	広島県広島市立東原				PR児玉7/28	
		172	広島県広島市立安佐				PR児玉7/28	
		173	広島県広島市立高取北				PR児玉7/29	
		174	広島県広島市立安西				PR児玉7/29	
		175	広島県広島市立伴				PR児玉7/29	
		176	広島県広島市立大塚				PR児玉7/29	
		177	広島県広島市立己斐上				PR児玉7/29	
		178	広島県広島市立己斐				PR児玉7/29	
		179	広島県広島市立古田				PR児玉7/29	
		180	広島県広島市立牛田				PR児玉7/29	
		181	広島県広島市立高陽			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
		182	広島県広島市立亀崎			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
		183	広島県広島市立落合			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
		184	広島県広島市立城山北			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
		185	広島県広島市立城南			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
		186	広島県広島市立安佐南			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
		187	広島県広島市立清和			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
		188	広島県広島市立可部			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
		189	広島県広島市立三入			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
		190	広島県広島市立安佐北			PR藤本・向瀬6/30～7/1		
	広島県三原市	191	広島県三原市立宮浦			PR鶴6/23		
		192	広島県三原市立幸崎					
		193	広島県三原市立大和		PR島久保5/26			
		194	広島県三原市立第一					
		195	広島県三原市立第五			PR鶴6/23		
		196	広島県三原市立第三			PR鶴6/23		
		197	広島県三原市立第四					
		198	広島県三原市立第二			PR鶴6/23		
		199	広島県三原市立本郷			PR鶴6/23		
		200	広島県広島大学附属三原					
	広島県三次市	201	広島県三次市吉舎					
		202	広島県三次市三次					
		203	広島県三次市甲奴		PR島久保5/26			
		204	広島県三次市三和		PR島久保5/26			
	広島県世羅町	205	広島県世羅町立世羅		PR島久保5/26			
		206	広島県世羅町立世羅西		PR島久保5/26			
		207	広島県世羅町立甲山		PR島久保5/26			
	広島県東広島市	208	広島県東広島市立高屋					
		209	広島県東広島市立八本松					

県番号	地域	No.	中学校名	H23.4	H23.5	H23.6	H23.7	H
	広島県廿日市市	210	広島県東広島市立河内		PR島久保5/26			
		211	広島県廿日市市立阿品台					
	広島県尾道市	212	広島県尾道市立浦崎		PR岡本5/28			
		213	広島県尾道市立久保		PR高木5/27			
		214	広島県尾道市立栗原		PR上江5/10			
					道路長尾5/18			
		215	広島県尾道市立高西		PR岡本5/28			
		216	広島県尾道市立長江		PR栗・新涯5/31			
		217	広島県尾道市立日比崎		PR上江5/20			
		218	広島県尾道市立美木		PR岡本5/28			
		219	広島県尾道市立百島		PR木村5/27			
		220	広島県尾道市立御調		PR島久保5/26			
		221	広島県尾道市立吉和		PR高木5/27			東浦島・長井7/5
		222	広島県尾道市立因北	PR益崎4/20	道路豊崎5/19			
	広島県尾道市因島	223	広島県尾道市立因島南	PR益崎4/19		道路長尾6/22		
		224	広島県尾道市立重井	PR益崎4/19				
	広島県尾道市向島	225	広島県尾道市立向島	PR益崎4/14		道路長尾6/16		
		226	広島県尾道市立向東	PR益崎4/14			道路益崎7/6	
	広島県尾道市生口島	227	広島県尾道市立瀬戸田	PR益崎4/19				
		228	広島県尾道市立生口	PR益崎4/19				
	広島県府中市	229	広島県府中市立第一		PR山尾5/27			
		230	広島県府中市立第三					
		231	広島県府中市立明郷		PR山尾5/27			
		232	広島県府中市立上下		PR島久保5/26			
		233	広島県府中市立府中		PR島久保5/26			
34	広島県福山市	234	広島県福山市立一ツ橋			PR塚本6/1		
		235	広島県福山市立内海				PR益崎7/13	
		236	広島県福山市立駅家		PR山尾5/27			
		237	広島県福山市立駅家南		PR山尾5/27			
		238	広島県福山市立幸千				PR中村7/20	
		239	広島県福山市立浜美			PR塚本6/1		
		240	広島県福山市立松永					
		241	広島県福山市立城西				PR中村7/20	
		242	広島県福山市立城東				PR中村7/19	
		243	広島県福山市立城南				PR水崎7/25	
		244	広島県福山市立城北				PR中村7/19	
		245	広島県福山市立神辺		PR山尾5/27			
		246	広島県福山市立神辺西		PR山尾5/27			
		247	広島県福山市立神辺東		PR山尾5/27			
		248	広島県福山市立精華					
		249	広島県福山市立誠之				PR中村7/20	
		250	広島県福山市立千年				PR益崎7/13	
		251	広島県福山市立大成館		PR塚本5/31			
		252	広島県福山市立大門				PR中村7/20	
		253	広島県福山市立鷹取				PR中村7/19	
		254	広島県福山市立東				PR中村7/19	
		255	広島県福山市立東朋				PR中村7/20	
		256	広島県福山市立培遠				PR水崎7/25	
		257	広島県福山市立向丘				PR益崎7/13	
		258	広島県私立銀河学院					
		259	広島県福山市立芦田					
		260	広島県福山市立至誠				PR益崎7/13	
		261	広島県福山市立新市中央		PR山尾5/27			
		262	広島県福山市立中央					

県番号	地域	No.	中学校名	中学校PR訪問・進路説明会 H23.4	H23.5	H23.6	H23.7	H23.8	H23.9	H23.10	H23.11	H23.12	H24.1	H24.2	H24.3	回数計
	愛媛県伊予市	313	愛媛県伊予市立港南					PR益崎6/22～23								1
		314	愛媛県伊予市伊予					PR益崎6/22～23								1
		315	愛媛県伊予市立下灘													0
		316	愛媛県伊予市立上灘													0
	愛媛県宇和島市	317	愛媛県宇和島市立宇和海			PR中6/6										1
		318	愛媛県宇和島市立城東			PR水崎6/14										1
		319	愛媛県宇和島市立城南			PR水崎6/14										1
		320	愛媛県宇和島市立城北			PR水崎6/14										1
		321	愛媛県宇和島市立津島			PR中6/6										1
		322	愛媛県宇和島市立三間			PR水崎6/14										1
		323	愛媛県宇和島市立吉田			PR水崎6/15				道路水崎10/26						2
	愛媛県今治市	324	愛媛県今治市立菊間		PR田房6/1											1
		325	愛媛県今治市立玉川		PR田房5/27						道路田房11/8					2
		326	愛媛県今治市立近見		PR田房5/27						道路水崎11/4					2
		327	愛媛県今治市立桜井		PR田房5/27					道路田房10/20						2
		328	愛媛県今治市立西		PR田房5/27					道路長尾10/20						2
		329	愛媛県今治市立大西		PR田房6/1					道路益崎10/19						2
		330	愛媛県今治市立朝倉		PR田房5/27					道路益崎10/20						2
		331	愛媛県今治市立南		PR田房5/27						道路田房11/7					2
		332	愛媛県今治市立日吉		PR益崎5/19						道路益崎11/2					2
		333	愛媛県今治市立美須賀	PR益崎4/20						道路田房10/25						2
		334	愛媛県今治市立北郷		PR田房5/27					島嶼農水・長井10/14						2
		335	愛媛県今治市立立花		PR田房5/27					道路長尾10/26						2
		336	愛媛県今治市立開前													0
		337	愛媛県立今治東中等教育学校		PR益崎5/31											1
		338	愛媛県私立今治明徳中学校		PR益崎5/31											1
	愛媛県今治市大三島	339	愛媛県今治市立上浦		PR水崎5/20					道路益崎10/26						2
		340	愛媛県今治市立大三島		PR水崎5/20					道路益崎10/26						2
	愛媛県今治市大島	341	愛媛県今治市立吉海		PR水崎5/20											1
		342	愛媛県今治市立宮窪		PR水崎5/20					道路上江10/26						2
	愛媛県今治市伯方島	343	愛媛県今治市立伯方	PR益崎4/20							道路豊崎11/10					2
	愛媛県四国中央市	344	愛媛県四国中央市立三島東							PR多田10/4						1
		345	愛媛県四国中央市立三島南							PR多田10/4						1
		346	愛媛県四国中央市立三島西							PR多田10/4						1
		347	愛媛県四国中央市立新宮													0
		348	愛媛県四国中央市立川之江北							PR多田10/4						1
		349	愛媛県四国中央市立川之江南							PR多田10/4						1
		350	愛媛県四国中央市立土居							PR多田10/4						1
	愛媛県松山市	351	愛媛県松山市立久米			PR上岡6/13										1
		352	愛媛県松山市立桑原			PR上岡6/13										1
		353	愛媛県松山市立拓南			PR上岡6/13										1
		354	愛媛県松山市立日浦			PR益崎6/24										1
		355	愛媛県松山市立勝山			PR益崎6/24										1
		356	愛媛県松山市立小野			PR上岡6/13										1
		357	愛媛県松山市立西			PR上岡6/13		PR益崎6/22～23								2
		358	愛媛県松山市立中島							道路水崎10/21						1
		359	愛媛県松山市立津田			PR上岡6/14										1
		360	愛媛県松山市立椿			PR上岡6/13		PR益崎6/22～23								2
		361	愛媛県松山市立湯山													0
		362	愛媛県松山市立内宮			PR上岡6/14										1
		363	愛媛県松山市立南			PR上岡6/13		PR益崎6/22～23								2
		364	愛媛県松山市立南第二			PR上岡6/13										1

（出典：学生課）

資料４－１－①－８

平成22年度　中学校訪問校一覧

愛媛県	香川県	高知県	徳島県	広島県
81	19	8	10	56
兵庫県	愛知県	福岡県	熊本県	合計
34	19	33	10	270

平成23年度　中学校訪問校一覧

愛媛県	香川県	高知県	岡山県	
98	23	2	2	
広島県	兵庫県	愛知県	大阪府	
92	35	12	3	
埼玉県	福岡県	熊本県	長崎県	合計
1	22	9	8	307

（出典：学生課）

資料４－１－①－９

平成24年度学校案内・募集要項送付中学校・塾

（中学校）

北海道	1	奈良県	3
茨城県	1	島根県	1
埼玉県	1	岡山県	130
千葉県	5	広島県	257
東京都	6	山口県	1
神奈川県	4	愛媛県	143
新潟県	1	高知県	100
福井県	1	徳島県	82
長野県	1	香川県	71
静岡県	1	福岡県	14
愛知県	2	佐賀県	1
滋賀県	6	熊本県	7
京都府	3	大分県	2
大阪府	32	宮崎県	1
兵庫県	67	鹿児島県	6
和歌山県	2	沖縄県	1
		合計	954

（塾）

愛媛県	103	兵庫県	1
広島県	447	合計	551

（出典：学生課）

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

【準学士課程の入学者選抜】

準学士課程の入学者選抜は，推薦による選抜と学力検査による選抜を実施している。

推薦による選抜では，中学校長から推薦のあった学生について，推薦書，アドミッション・ポリシーの適合性の項目を含む面接（口頭試問を含む），調査書を総合的に評価し（資料４－１－①－３），本校推薦選抜の選抜基準に基づき，受検者の適性を厳正に審査している（資料４－２－①－１，２）（推薦入試の各学科の選抜基準は，訪問調査時に提示）。

学力検査による選抜では，高専機構作成の共通問題により学力検査を実施している（資料４－２－①－３）。学力検査の成績は数学について 200 点，他の４科目を各 100 点とし，中学校での学習成績は数学，理科，英語，国語，社会の５科目の５段階評価の合計を３倍し，音楽，美術，保健体育，技術・家庭の４科目の合計を 1.5 倍する傾斜配点を行って，技術者教育に必要な基礎学力を重視した評価としている（資料４－２－①－４）。また，学生募集要項にアドミッション・ポリシーを明記し，受検者へ志願の動機を求め，調査書により確認している（資料４－２－①－５）。特に，第１志望学科を優先して合否判定を行っており，各学科への志願に沿って，受検者の適性を厳正に審査している（資料４－２－①－４）。以上の入学者選抜において定められた基準に基づいて，入試委員会で厳重に合否の審議を行ない，教員会議での審議を経て最終決定する。

【複数校志望受検制度による入学者選抜】

商船学科への入学を強く志望する中学生を対象として，瀬戸内３商船高専（広島商船高専，大島商船高専，弓削商船高専）が連携して，２校を志望することができる複数校志望受検制度を全国高専に先駆けて平成 23 年度入試から実施している。選抜方法は，学力検査による選抜と同じであるが，本制度は２年間かけて検討・準備し，アドミッション・ポリシーを理解し商船学科への志向性の高い学生に対して，広く受け入れる方針を具体化したものである（資料４－２－①－６，７）。

【準学士課程工業系学科４年次への入学者選抜】

準学士課程工業系学科４年次への編入学選抜においても，推薦による選抜と学力検査による選抜を実施している。商船学科については，国土交通省の定める船舶職員養成施設認定の関係から，編入学生を受け入れることは行っていない。推薦による選抜では，推薦書，面接，調査書と口頭試問の結果を総合的に評価している。学力検査による選抜では，数学，外国語，専門科目の筆記試験，面接，調査書により評価し，アドミッション・ポリシーに沿って厳正に審査している（資料４－２－①－８～10）。

【専攻科への入学者選抜】

本校専攻科への入学者選抜は，推薦による選抜と学力検査による選抜を合わせて，年間に３回（６月，９月，11 月）実施している。高等専門学校を卒業した者，短期大学を卒業した者，学校教育法における 14 年の課程を修了した者，社会人特別選抜など，広く入学者を受け入れる方針を示している。専攻科の入学者選抜においても，準学士課程とは別にアドミッション・ポリシーを定めており，入学願書（資料４－２－①－11）の中に「特別研究で取り込みたいテーマ」の記載欄を設け，プレゼン及び口頭試問を実施して（資料４－２－①－12），アドミッション・ポリシー

に合致する学生の受入れを行っている。定められた選抜基準に基づき，専攻科委員会で入試結果の確認・審議を行い，教員会議での審議を経て最終決定する。

（分析結果とその根拠理由）

本校の準学士課程の入学者選抜では，入試委員会の定める入学者選抜基準，公表しているアドミッション・ポリシーに沿って適切に実施されている。学力による選抜では，学力検査及び中学校での学習成績を傾斜配点し，第１志望を優先した選抜を行っている。推薦による選抜では，面接時に必ず本校アドミッション・ポリシーへの理解について質問し，本校の定めるアドミッション・ポリシーに照らした選抜を行っている。

また，平成 23 年度入試から，瀬戸内３商船高専（広島商船高専，大島商船高専，弓削商船高専）が連携して，２校を志望することができる複数校志望受検制度を実施しており，商船学科への志向性の強い学生の選抜に繋がっている。

専攻科の入学者選抜においても，準学士課程とは別にアドミッション・ポリシーを定め，それに沿った学生の受入れを行っている。定められた選抜基準に基づき，専攻科委員会で入試結果の確認・審議を行い，教員会議での審議を経て決定する。

以上のことから，本校において入学者選抜はアドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているといえる。

資料４－２－①－１

取扱注意

平成２４年度

入学者選抜実施要領

推薦選抜

弓 削 商 船 高 等 専 門 学 校

（出典:学生課）

資料４－２－①－２

平成 24 年度面接記録書

個人情報等保護のため削除

（出典：学生課）

資料４－２－①－３

[redacted]

平成２４年度

入学者選抜実施要領

学力選抜

本校検査員
８時３０分
第１会議室集合

弓削商船高等専門学校

（出典：学生課）

資料４－２－①－４

学力による選抜の合格者選考方法

非公開情報のための削除

（出典：学生課）

資料４－２－①－５

平成２５年度
弓削商船高等専門学校
入学志願者　**調査書**

受検番号	※

ふりがな		性別	平成　年　月　日　中学校　卒業・卒業見込み
氏　名		男・女	
生年月日	平成　年　月　日生		

学習の記録

教科	第３学年観点別学習状況 観点	評価	評定 1年	2年	3年
国語	関心・意欲・態度				
	話す・聞く能力				
	書く能力				
	読む能力				
	知識・理解・技能				
社会	関心・意欲・態度				
	社会的な思考・判断				
	技能・表現				
	知識・理解				
数学	関心・意欲・態度				
	数学的な見方や考え方				
	表現・処理				
	知識・理解				
理科	関心・意欲・態度				
	科学的な思考				
	技能・表現				
	知識・理解				
外国語（英語）	関心・意欲・態度				
	表現の能力				
	理解の能力				
	知識・理解				

教科	第３学年観点別学習状況 観点	評価	評定 1年	2年	3年
音楽	関心・意欲・態度				
	感受や表現の工夫				
	表現の技能				
	鑑賞の能力				
美術	関心・意欲・態度				
	発想や構想の能力				
	創造的な技能				
	鑑賞の能力				
保健体育	関心・意欲・態度				
	思考・判断				
	運動の技能				
	知識・理解				
技術・家庭	関心・意欲・態度				
	工夫し創造する能力				
	生活の技能				
	知識・理解				
評定小計※					
３年間の評定合計※					
第３学年観点別学習状況のＡの数※					
〃　Ｃの数※					

出欠の記録

学年	出席停止・忌引等	欠席日数	遅刻回数	早退回数	理由
第１学年					
第２学年					
第３学年					

特別活動の記録

学年	学級活動	生徒会活動
第１学年		
第２学年		
第３学年		

行動の記録

基本的な生活習慣	健康・体力の向上	自主・自律	責任感	創意工夫	思いやり・協力	生命尊重・自然愛護	勤労・奉仕	公正・公平	公共心・公徳心

特技（資格等を含む。）	

部活動・校外活動

		総合所見
第１学年		
第２学年		
第３学年		

記載責任者 職・氏名	印

本書の記載事項に誤りのないことを証明します。
平成　年　月　日

学校名
校長氏名　　職印

（出典：学生課）

資料４－２－①－６

商船学科希望者に朗報

弓削商船高等専門学校
広島商船高等専門学校
大島商船高等専門学校

商船学科複数校志望受検制度

平成23年度学生募集からの**新制度紹介**

この複数校志願受検制度は、瀬戸内にある３商船高専（弓削商船高専・広島商船高専・大島商船高専）が行う「学力検査による選抜」において、商船学科を希望する受検生の進路選択の可能性を拡大するための制度です。

３校のうち１校の商船学科を第一志望校、他校の商船学科を第二志望校とした２校にかかる選抜への出願を認めるものです。

ただし、２校に合格することはできません。第一志望校の合格を優先します。

新制度の魅力

No. １　２つの高専を志望しても、受験料は１校分でよい
No. ２　推薦選抜を不合格のあとでも複数校志望受検制度を利用可能
No. ３　検査地が広範囲　（東京・大阪・広島・大島・福岡）

選抜方法

学力による入学者選抜」において、商船学科に志望するとき、瀬戸内にある３商船高専のうち１校を第一志望校、他の１校を第二志望校とした、２校にかかる受検を認めるものである。

ただし、２校に合格することはできない。

第一志望校の合格を優先する。

入学者の選抜は、提出書類の評価と学力検査（５教科）、面接の評価を総合して行う。

ただし、広島商船高専では、原則として面接を評価の対象としない。

また、弓削商船高専については、学力検査における理科及び社会の検査科目を評価の対象としない。

出願方法

「商船学科複数校志望受検制度出願書類」を第一志望校に提出する。その際には第一志望校の「学生募集要項」添付の出願書類を使用する。

検定料は、従来の１校分（16, 500 円）とする。

推薦による選抜において商船学科不合格の場合、推薦による選抜を受検した志望校を第一志望校とする場合のみ「商船学科複数校志望受検制度」による学力検査選抜を受検することができる。

検定料を再度納付する必要はない。

ただし出願書類は再提出する。







（出典：学生課）

資料４－２－①－７

商船学科複数校志望受検制度　学力検査による選抜

（本校と広島商船高等専門学校又は大島商船高等専門学校との併願）

商船学科複数校志望受検制度の概要

この商船学科複数校志望受検制度は，瀬戸内にある３商船高専の「学力検査による選抜」において，商船学科を志望する受検生の進路選択の可能性を拡大するための制度です。３校のうち１校の商船学科を第１志望校，他校の商船学科を第２志望校とした２校にかかる選抜への出願を認めるものです。ただし，２校に合格することはできません。第１志望校の合格を優先します。

１．出願資格

次のいずれかに該当する者とします。

（１）中学校を卒業した者又は平成２５年３月卒業見込みの者

（２）中等教育学校の前期課程を修了した者又は平成２５年３月前期課程修了見込みの者

（３）中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
（学校教育法施行規則第９５条に該当する者）

２．出願手続

（１）受付期間

平成２５年２月４日（月）から２月１３日（水）まで

持参する場合は午前９時から午後４時まで受け付けます。

ただし，土曜日，日曜日及び祝日は窓口受付を行いません。

（郵送の場合も２月１３日（水）午後４時までに必着のこと。）

※入学検定料振込期間

平成２５年１月１５日（火）から２月１３日（水）まで

金融機関の営業日，営業時間等を十分考慮して手続きを行ってください。

（２）受付場所

出願書類は，第１志望校に提出してください。

〒７９４－２５９３　愛媛県越智郡上島町弓削下弓削１０００番地
弓削商船高等専門学校　学生課入試係
TEL　０８９７－７７－４６１９

〒７２５－０２３１　広島県豊田郡大崎上島町東野４２７２番地１
広島商船高等専門学校　学生課教務係
TEL　０８４６－６７－３０２２

〒７４２－２１９３　山口県大島郡周防大島町大字小松１０９１番地１
大島商船高等専門学校　学生課教務係
TEL　０８２０－７４－５４７３

（出典：学生課）

資料４－２－①－８

Ⅳ　編入学生の選抜方法

推薦によるもの

１．口頭試問及び面接の日時及び場所

日　時　　平成２４年８月６日（月）午前１０時３０分

場　所　　弓削商船高等専門学校

２．身　体　基　準

修学に支障がないこと。

３．合格者の発表

（１）平成２４年８月１０日（金）午前１１時，本校に掲示するとともに，本人あてに合否の通知書を発送します。

なお，ホームページ(http://www.yuge.ac.jp/)においても８月１０日（金）午前１１時から８月１３日（月）午前１１時まで公開します。

（２）合格及び不合格の理由等についての問い合わせには応じません。

４．入学確約書の提出

合格通知を受けた者は，平成２４年９月３日（月）までに「入学確約書」(合格通知に同封)を提出してください。郵送の場合は９月３日（月）の消印のあるものまで有効とします。

「入学確約書」を提出しない者は，本校入学の意志がないものとして取り扱います。

学力検査によるもの

１．学力検査の科目，検査日時及び検査場

（１）検査科目

学　科	科　目		出　題　範　囲
電子機械工学科	一般科目	数　学	数学Ⅰ・Ⅱ
		外　国　語	英語Ⅰ・Ⅱ
	専門科目（右記３科目のうち１科目を選択）	機　械　工　学	機械設計の基礎，工業力学 機械工作法，機械材料
		電気・電子工学	電気基礎，電磁気学，電気回路 電子回路
		物　理	力と運動，電気と磁気
情報工学科	一般科目	数　学	数学Ⅰ・Ⅱ
		外　国　語	英語Ⅰ・Ⅱ
	専門科目（右記３科目のうち１科目を選択）	情　報　工　学	電子計算機の基礎，流れ図とプログラミング(注) 論理回路の基礎
		電気・電子工学	電磁気学，電子回路
		物　理	力と運動，電気と磁気

(注)情報工学科の専門科目における情報工学のプログラミングの言語は，C,JAVA，BASIC,FORTRAN及びPASCALのうち，いずれか一つを選択してください。(編入学願書及び受検票の所定の欄を○で囲んでください。)

（２）検査日時

８月６日（月）	一　般　科　目		専　門　科　目	面　　接
	数　学	外　国　語		
	10:30～11:20	11:40～12:30	13:20～14:50	15:00～

（出典：平成 25 年度編入学生募集要項Ｐ．５，６）

資料４－２－①－９

取扱注意

平成２５年度

編入学試験実施要領

検査員等　集合時間：８時３０分
集合場所：第１会議室

弓削商船高等専門学校入学試験委員会

（出典：学生課）

資料４－２－①－10

平成 25 年度面接記録書

非公開情報のための削除

（出典：学生課）

資料４－２－①－11

平成25年度

専攻科学生募集要項

（海上輸送システム工学専攻）

（出願書類添付）

国立　弓削商船高等専門学校
〒７９４－２５９３　愛媛県越智郡上島町弓削下弓削１０００番地
ＴＥＬ　０８９７－７７－４６１９　（学生課入試係）
ＦＡＸ　０８９７－７７－４６９３　（学生課）

平成２５年度

弓削商船高等専門学校専攻科入学願書

※　受検番号

志望専攻	海上輸送システム工学専攻	推薦	学力	社会人	受検科目	基礎力学，船舶工学，経済，法学概論 熱力学，流体力学，材料・材料力学， 電気・電子工学の中から３科目を選択

推薦による選抜で不合格になった場合の学力検査による選抜の希望の有無			有　・　無
志願者	ふりがな		男・女	生　年　月　日
	氏　名			昭和 平成　　年　　月　　日生
	ふりがな			
	現住所	〒　－ TEL　－　－		
	出身学校	平成　　年　　月 大学 学校　　学科		卒業・卒業見込み 修了・修了見込み
	卒業後の履歴	年　月		
		年　月		
		年　月		
勤務先名（部・課名まで）				
勤務先所在地	〒　－ TEL　－　－			
特別研究で取り組みたいテーマ			特別研究の指導を希望する教員	
卒業研究題目				
卒業研究要旨				

（注）１．※印は記入しないでください。
２．太枠内は全て志願者が記入し，該当事項を○で囲んでください。
３．黒又は青色インク（ボールペンでもよい。）で記入してください。
４．受検科目の欄は，当該事項を○で囲んでください。ただし，推薦による選抜及び社会人特別選抜を志望する者は，受検科目欄は不要です。
５．社会人特別選抜を志望する者は，勤務先名及び勤務先所在地を記入してください。

個人情報の適切な保護について

弓削商船高等専門学校では，「独立行政法人等の保有する個人情報保護に関する法律」に基づき入学願書により取得した個人情報は，入学願書に関すること以外の目的には使用いたしません。

（出典：平成 25 年度専攻科学生募集要項・入学願書）

資料４－２－①－12

Ⅳ．選抜方法

選抜は，「推薦による選抜」，「学力検査による選抜」及び「社会人特別選抜」の三つの方法で行います。

推薦による選抜

１．選抜の実施方法

推薦書，調査書，並びに本校で実施する面接の結果を総合して選抜を行います。面接では，５分間で志望理由，卒業研究，並びに入学後の研究計画に関するプレゼンテーションが課されます。その際，プロジェクターを用いたプレゼンテーションを希望する場合は，ノート型PCを持参すること。

２．出願資格

（１）次のいずれかに該当し，在学又は出身の学校長の推薦を得た者とします。

① 高等専門学校を卒業した者

海上輸送システム工学専攻：平成２５年９月卒業見込みの者を含む。

② 短期大学を卒業した者（平成２５年３月卒業見込みの者を含む。）

③ 専修学校の専門課程を修了した者のうち，学校教育法第１３２条の規定により大学に編入学することができる者（平成２５年３月修了見込みの者を含む。）

（２）人物が優れ，本校入学の意志が堅い者

３．推薦による選抜の日時及び場所

日時：日程表のとおり（１３時００分～）

場所：弓削商船高等専門学校

４．身体基準

修学に支障がないこと。

学力検査による選抜

１．選抜の実施方法

本校で実施する学力検査（専門科目，英語，数学）の成績，調査書，及び面接の結果を総合して選抜を行います。ただし，専門科目の学力検査は筆記試験，英語と数学の学力検査は，口頭試問の形式で実施されます。また，面接では，５分間で志望理由，卒業研究，並びに入学後の研究計画に関するプレゼンテーションが課されます。その際，プロジェクターを用いたプレゼンテーションを希望する場合は，ノート型PCを持参すること。

（出典：平成25年度専攻科学生募集要項抜粋）

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

本校では，各学科において，それぞれのアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実施されているか検証するため,教務委員会及び入試委員会において検証を行っている。具体的には,各年度で,学生の成業率に関して追跡調査を実施し,検証している（資料４－２－②－１）。また，１年次の学生を対象に学力試験を実施しており，入学生学力レベルの把握に努め，アンケートを実施し志望の動機等について集計している（資料４－２－②－２，３）。平成 21 年度から広報主事・主事補を置き，これまで以上にアドミッション・ポリシーを周知するよう努めると同時に，入学者の出身中学へも訪問し，当該学生の状況報告を行うことで，アドミッション・ポリシーへの理解を深めてもらい，入学者選抜に役立てている。また，平成 23 年度入試から実施している瀬戸内３商船高専（広島商船高専，大島商船高専，弓削商船高専）が連携した商船学科複数校志望受検制度で第１，２志望での入学者状況をまとめることにより，アドミッション・ポリシーに合致した学生が入学できているかの検証を行っている（資料４－２－②－４）。工業系学科の入学者についても，アドミッション・ポリシーに合致した学生を受け入れるため，平成 23 年度入試から調査書の成績記載教科を５教科から９教科に改正し，観点別学習状況の記載欄を追加するように改善を図った（資料４－２－②－５）。また，平成 25 年度入試から入学試験科目を５科目へと変更したことにより，基礎学力をより幅広く反映できるように入試制度の改善を行った（資料４－２－②－６）。

工業系学科の準学士課程４年次への編入学者については，卒業の進路を追跡調査しており，工業系学科への適性を評価している。この評価をもとに，入試委員会での審議を経て，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実施できているか検討している（資料４－２－②－７）。

専攻科入学者については，入学後に学生アンケートを取り，専攻科カリキュラムについての学生からの評価を分析することで，学生受入制度の改善に取り組んでいる段階である。また，入試に際して，志望動機や志向性，入学後の研究について学生にプレゼンを課しており，こうした評価や分析から，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実施されているか検証し，常に入試問題作成にも反映させられるような体制としている（資料４－２－②－８～10）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程学生に関する成業率について，平成 21 年度以降原級留置者総数は減少・改善される傾向にある。広報主事・主事補を設置し，アドミッション・ポリシーを公表・周知する体制をより充実させたことで，多くの受検者が本校のアドミッション・ポリシーを知る機会が増加し，その結果としてアドミッション・ポリシーに合致した学生を受け入れることに繋がっていると考えられる。さらに，商船学科においては，平成 23 年度の原級留置者が０名となり，複数校志望受検制度の導入の効果が認められ，より志向性の高い学生を獲得できている。

工業系学科の準学士課程４年次への編入学者について，準学士課程卒業後の進路を追跡調査すると，本校専攻科及び大学への進学率が比較的高く，より高い専門課程を志向する傾向がある。

専攻科の学生受入については，入学後のアンケートを取ることや，志望動機や志向性，入学後

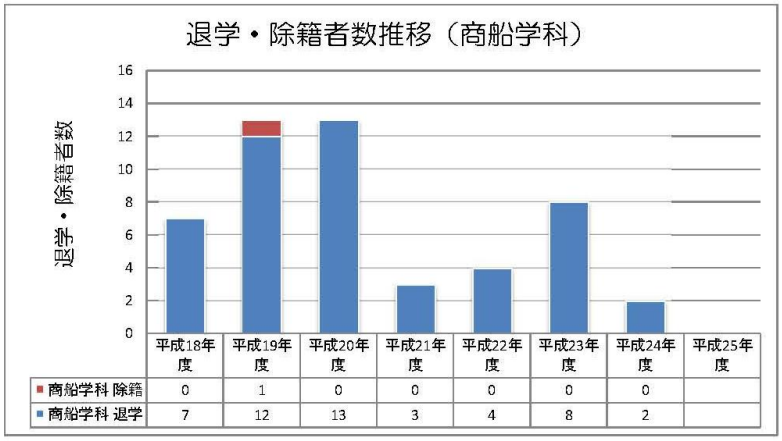
の研究について学生にプレゼンを課すことで，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実施されているか，専攻科委員会等で検証されている。

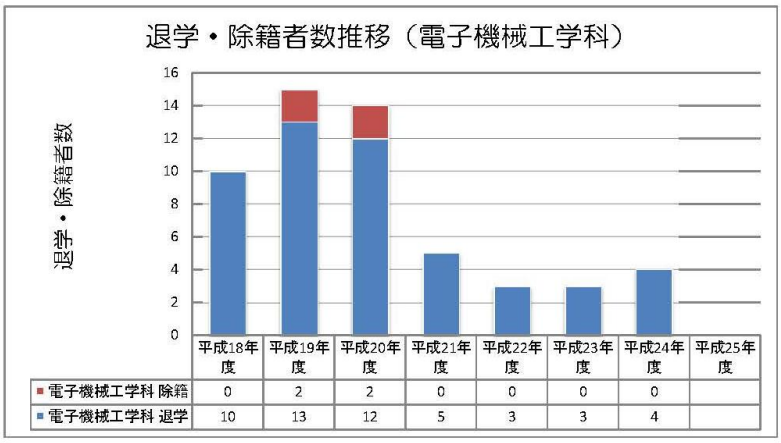
以上のことから，アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用され，入学者選抜の適正実施の検証が行われており，入学者選抜の改善に役立てているといえる。

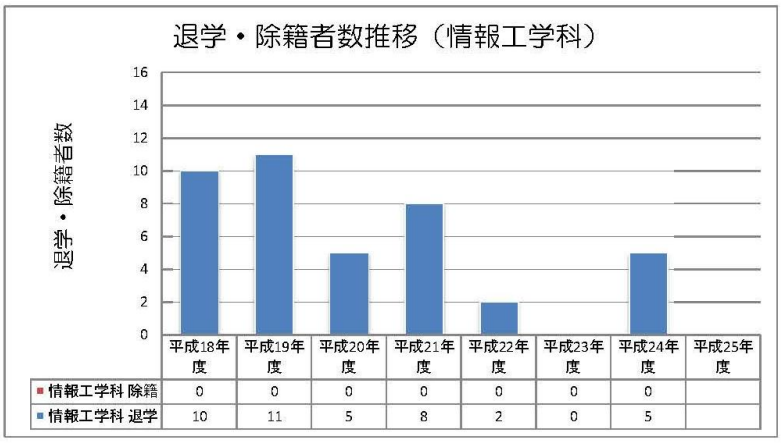
資料４－２－②－１

成業率推移　退学･除籍者数推移

	商船学科		電子機械工学科		情報工学科	
	退学	除籍	退学	除籍	退学	除籍
平成18年度	7	0	10	0	10	0
平成19年度	12	1	13	2	11	0
平成20年度	13	0	12	2	5	0
平成21年度	3	0	5	0	8	0
平成22年度	4	0	3	0	2	0
平成23年度	8	0	3	0	0	0
平成24年度	2	0	4	0	5	0
平成25年度						



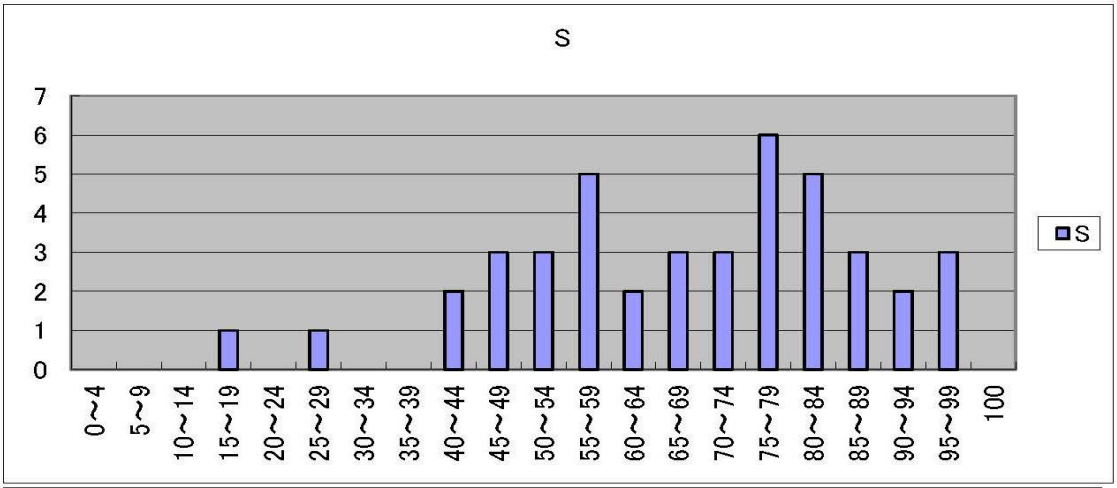


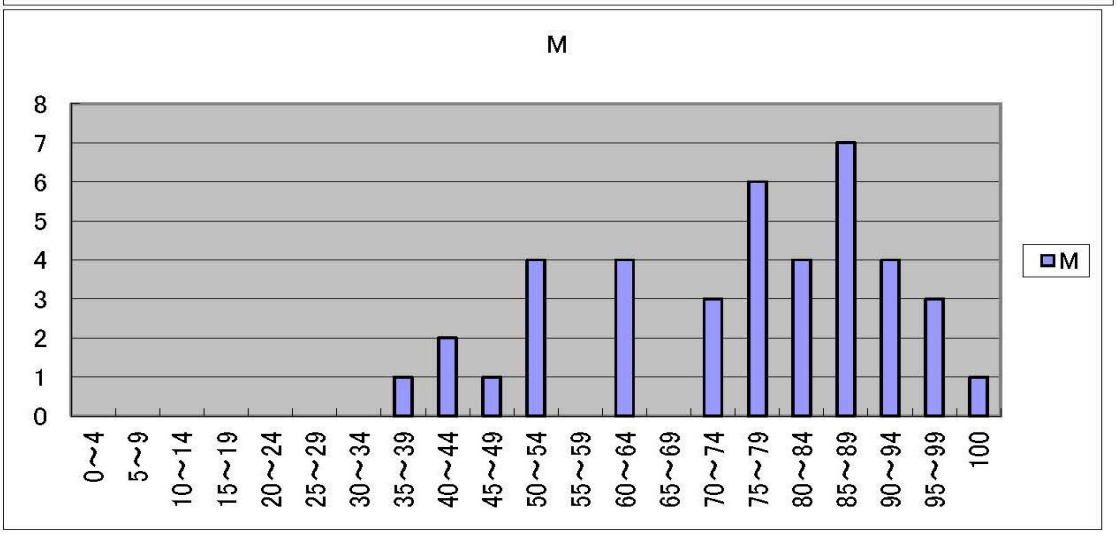


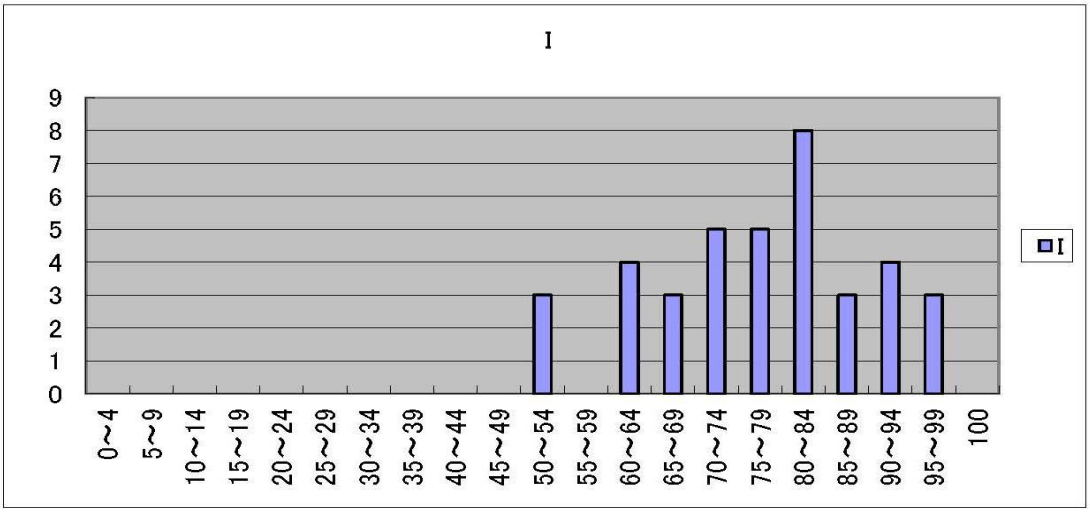
（出典：学生課）

資料４－２－②－２－１

H24　新入生学力試験（数学）

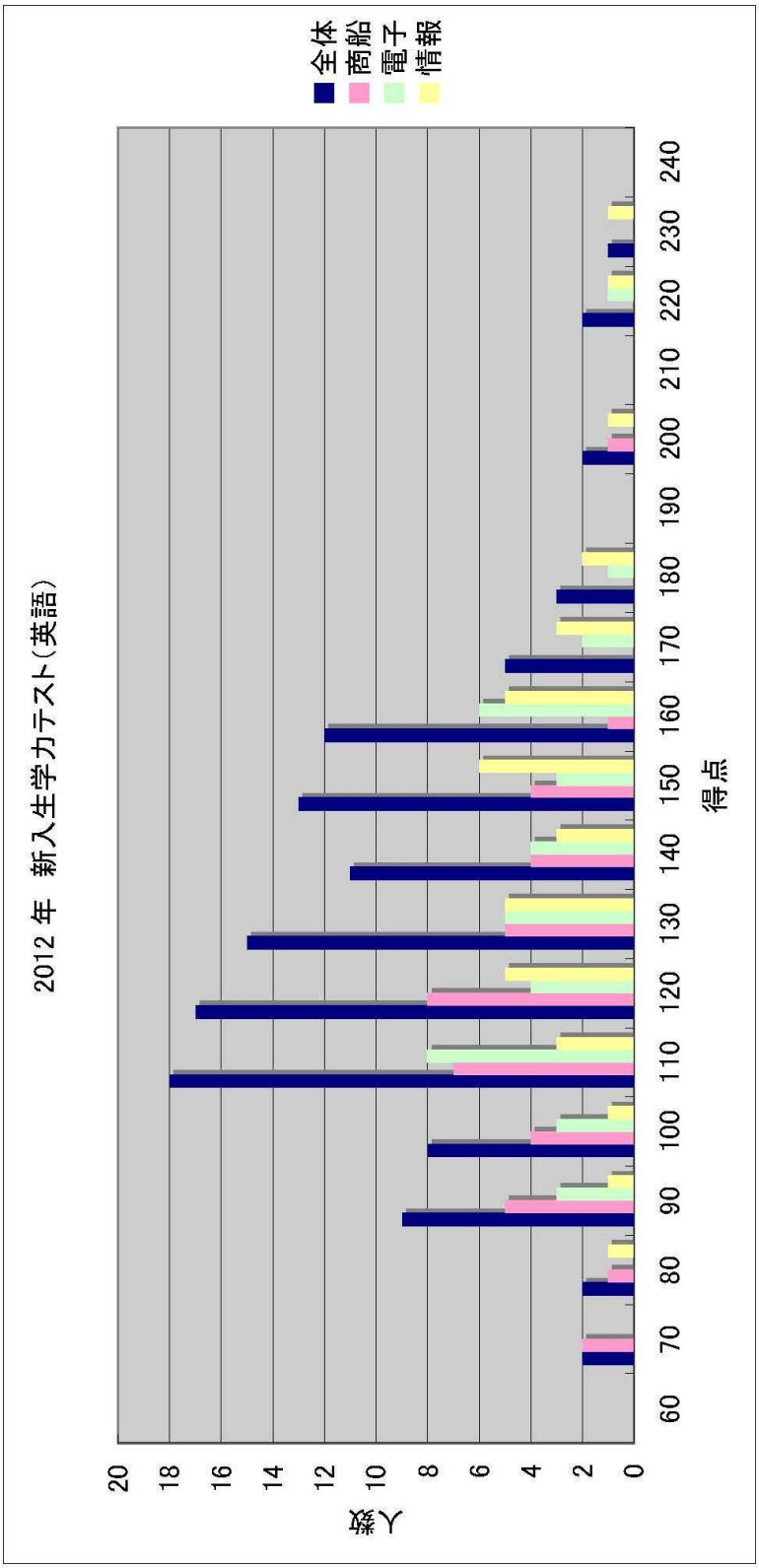






（出典：学生課）

資料４－２－②－２－２



	２０１２年				２０１１年			
	全体	商船	電子	情報	全体	商船	電子	情報
平均	136.6	123.5	138.2	149.6	149	150.7	143.7	151.0
最低点	74	74	95	89	74	99	110	74
最高点	232	202	224	232	244	203	182	244

（出典：学生課）

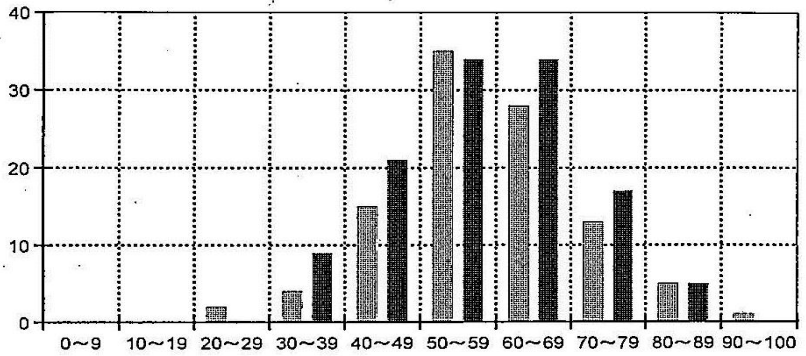
資料４－２－②－２－３

H２４．５．３１
教　員　会　議
報　告　資　料　１

H24 新入生共通学力試験（国語）

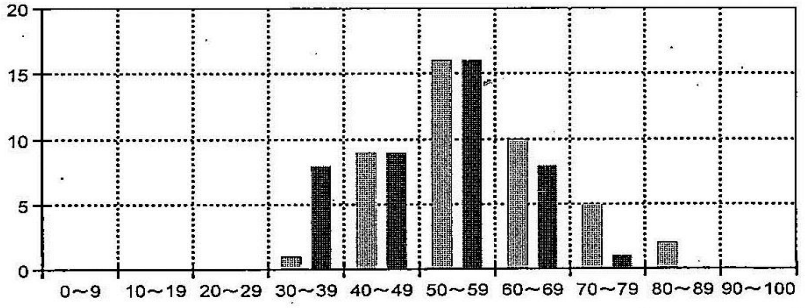
総（120名）

平均：56.8点
（前年58.5点）
最高：89点
（前年91点）
最低：31点
（前年26点）



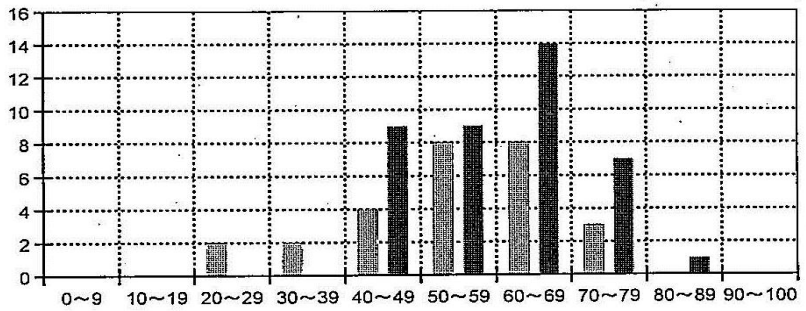
商船（42名）

平均：50.8点
（前年57.6点）
最高：73点
（前年88点）
最低：31点
（前年37点）



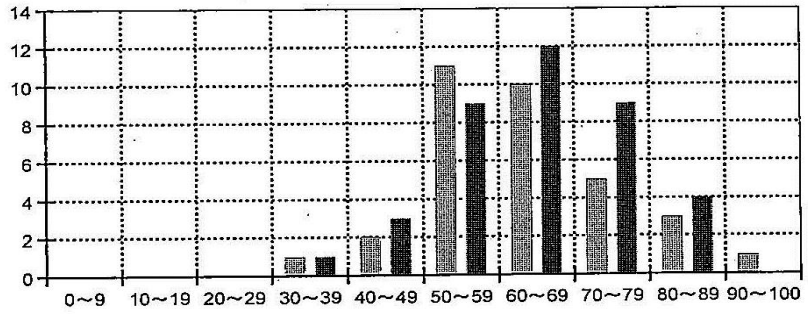
電子（40名）

平均：60.3点
（前年54.7点）
最高：89点
（前年75点）
最低：41点
（前年26点）



情報（38名）

平均：63.2点
（前年62.6点）
最高：89点
（前年91点）
最低：38点
（前年37点）



（出典：学生課）

資料４－２－②－３

○入学動機に関するアンケート調査集計結果（平成２４年度）

高専番号	高専名	学科名	学科番号	入学定員	在籍者数	回答者数	1　志望動機（３つまで回答可）													
							教育内容	５年一貫教育	早期専門教育	就職率	大学進学	専攻科	JABEE認定	教員	寮	立地・通学環境	ロボコン	課外活動	その他	その他の具体例
		計		120	119	119	62	12	51	92	6	14	2	9	23	12	9	10	6	
41	弓削商船高等専門学校	商船学科	701	40	42	42	17	1	16	33	1	7	1	4	10	5	0	5	2	船に興味がある。世界で仕事がしたい。
41	弓削商船高等専門学校	電子機械工学科	203	40	39	39	26	5	16	30	4	4	0	3	7	6	7	3	1	父が卒業生
41	弓削商船高等専門学校	情報工学科	304	40	38	38	19	6	19	29	1	3	1	2	6	1	2	2	3	親の話を聞いて

高専番号	高専名	学科名	学科番号	入学定員	在籍者数	回答者数	2　受験検討時期（回答は１つ）							
							中１	中２第１学期	中２第２学期	中２第３学期	中３第１学期	中３第２学期	中３第３学期	その他	その他の具体例
		計		120	119	119	9	6	9	11	33	34	11	6	
41	弓削商船高等専門学校	商船学科	701	40	42	42	2	2	5	7	8	10	4	4	中3の後期
41	弓削商船高等専門学校	電子機械工学科	203	40	39	39	6	2	2	1	12	11	3	2	小5の頃
41	弓削商船高等専門学校	情報工学科	304	40	38	38	1	2	2	3	13	13	4	0	

高専番号	高専名	学科名	学科番号	入学定員	在籍者数	回答者数	3　受験決定時期（回答は１つ）							
							中１	中２第１学期	中２第２学期	中２第３学期	中３第１学期	中３第２学期	中３第３学期	その他	その他の具体例
		計		120	119	119	3	3	3	2	14	60	30	4	
41	弓削商船高等専門学校	商船学科	701	40	42	42	2	0	1	0	5	20	11	3	中3の後期
41	弓削商船高等専門学校	電子機械工学科	203	40	39	39	1	2	1	0	5	19	10	1	中3の夏休み
41	弓削商船高等専門学校	情報工学科	304	40	38	38	0	1	1	2	4	21	9	0	

高専番号	高専名	学科名	学科番号	入学定員	在籍者数	回答者数	4　関心を持った経緯（３つまで回答可）																	
							高専主催説明会	体験入学等	オープンキャンパス・見学会等	高専祭	公開講座	出前授業等	パンフレット	ホームページ	中学校主催説明会	中学教師	塾	友人	先輩	親	兄・姉	新聞等情報紙	その他	その他の具体例
		計		120	119	119	10	13	55	30	1	3	29	22	12	20	9	8	14	37	17	1	9	
41	弓削商船高等専門学校	商船学科	701	40	42	42	3	4	20	5	1	1	9	13	2	6	4	2	3	16	4	0	5	親戚からの情報、テレビ
41	弓削商船高等専門学校	電子機械工学科	203	40	39	39	2	6	21	14	0	0	11	6	2	10	4	3	4	9	6	1	1	親戚からの情報
41	弓削商船高等専門学校	情報工学科	304	40	38	38	5	3	14	11	0	2	9	3	8	4	1	3	7	12	7	0	3	CM、いとこからの情報

（出典：学生課）

資料４－２－②－４

平成２４年度　商船学科複数校志望受検制度実施について

広島商船高等専門学校　教務主事　松島勇雄
大島商船高等専門学校　教務主事　辻　啓介
弓削商船高等専門学校　教務主事　浜中俊一

１．総　括

平成２４年度入試において平成２３年度に引き続いて瀬戸内３商船高専が連携して，最寄り地受検制度及び商船学科の複数校志望受検制度による入試を実施した。合同検査地として，東京・大阪・広島・福岡・大島（複数校志望受検のみ）の５会場で実施し，複数校志望受検志願者は４９名に上り，昨年度の４３名から６名増加となった。そのうち第１志望校または第２志望校に２７名が合格した（昨年度に比べ６名増加）。そのうち実際に入学した者は２６名であった。　詳細は下記表に示す。

併願組合せ		志望者	合格者			入学者		
			第1志望校	第2志望校	計	第1志望校	第2志望校	計
1	弓削－広島	5	1	0	1	0	0	0
2	弓削－大島	0	0	0	0	0	0	0
3	広島－弓削	15	3	6	9	3	6	9
4	広島－大島	11	4	0	4	4	0	4
5	大島－弓削	5	1	3	4	1	3	4
6	大島－広島	13	7	2	9	7	2	9
合　計		49	16	11	27	15	11	26

２．受検者の動向

第２志望校合格者１１名のうち入学者が１１名であることから，商船学科受検志望の中学生に対して，制度の目的である「受検機会・選択肢を広げる」ことが前年度より定着しつつあると考えられる。

また，会場別の志願者状況では，最寄り地受検志願者を合わせると，東京及び広島で増加，大阪及び福岡で若干減少したものの総数では１２名の増加となった。

３商船高専合同検査場での志願者数の昨年度比較（大島会場を除く）

（東京５名→１０名，大阪９名→４名，広島４１名→５９名，福岡２４名→１８名，合計７９名→９１名）

特に商船学科志願者は志向性が強く全国展開していることから，商船学科志願者数の拡大と合格水準の上昇など，今後とも波及効果が期待できる。

（出典：学生課）

資料４－２－②－５

平成２２年度第１回入学試験委員会議事概要

日　時　　平成２２年４月２９日（木）１６：２５～１７：０５
場　所　　第１会議室
出席者　　別紙のとおり
議　題
（審議事項）
１．推薦入試における評価基準について
○各学科長より審議資料１に基づき説明があった。各学科とも，昨年度からの主な変更点は以下のとおりである。
・調査書の評価対象を主要５教科から９教科に拡大した。

（出典：学生課）

資料４－２－②－６

平成２３年度第１２回入学試験委員会議事概要

日　時　　平成２４年２月２８日（火）１４：００～１４：２８
場　所　　第１会議室
出席者　　別紙のとおり（１６名）
議　題
（審議事項）
１．平成２４年度入学者（学力による選抜）の選考（最終）について
○副委員長から，今回は基本的に商船学科複数校志望受検者の最終選考を行うものであ

（中略）

２．平成２５年度学力検査の検査科目及び面接について
○副委員長から，現在，本校では全国で唯一３科目（英語・数学・国語）及び面接を実施している。昨年度から，商船学科複数校志望受検制度を導入しているが，入試業務が複雑化し，入試ミスがいつ起こってもおかしくない状態である等の理由により，平成２５年度入学者選抜（学力検査）から，検査科目５科目（理科・英語・数学・国語・社会）で実施したい。また，面接も廃止したい旨提案があった。
○委員長から，審議願いたい旨発言があり，審議した結果，検査科目５科目及び面接なしということで了承された。
○委員長から，早い段階で実施要領を作成していただきたい旨の依頼があった。

（出典：学生課）

資料４－２－②－７

編入学生追跡状況

H21年度卒業生進路先（編入学生）

学科	氏名	進路先
電子機械工学科	[redacted]	就職（半導体エネルギー研究所）
情報工学科		就職（エクセルソフト）
情報工学科		進学（東京理科大）

H22年度卒業生進路先（編入学生）

学科	氏名	進路先
電子機械工学科	[redacted]	就職（ニチゾウテック）

H23年度卒業生進路先（編入学生）

学科	氏名	進路先
電子機械工学科	[redacted]	進学（長岡技科大）
電子機械工学科		進学（佐賀大）
電子機械工学科		進学（専攻科）
情報工学科		進学（専攻科）
情報工学科		就職（出光興産）

H24年度卒業生進路先（編入学生）

学科	氏名	進路先
電子機械工学科	[redacted]	進学（専攻科）
電子機械工学科		進学（豊橋技科大）
電子機械工学科		就職（みやび堂）
情報工学科		就職（フォーラムエンジニアリング）

（出典：電子機械工学科、情報工学科）

資料４－２－②－８

アドミッションポリシーに関するアンケート調査結果（専攻科生産システム工学専攻新入生用）

質問1　アドミッションポリシーをどの程度知っていましたか？（1）～（3）から1つを選んでください。	回答数
（1）掲示場所，内容とも知っていた。	1
（2）掲示場所は知っていたが，内容はよく知らなかった。	3
（3）掲示場所，内容とも知らなかった。	4

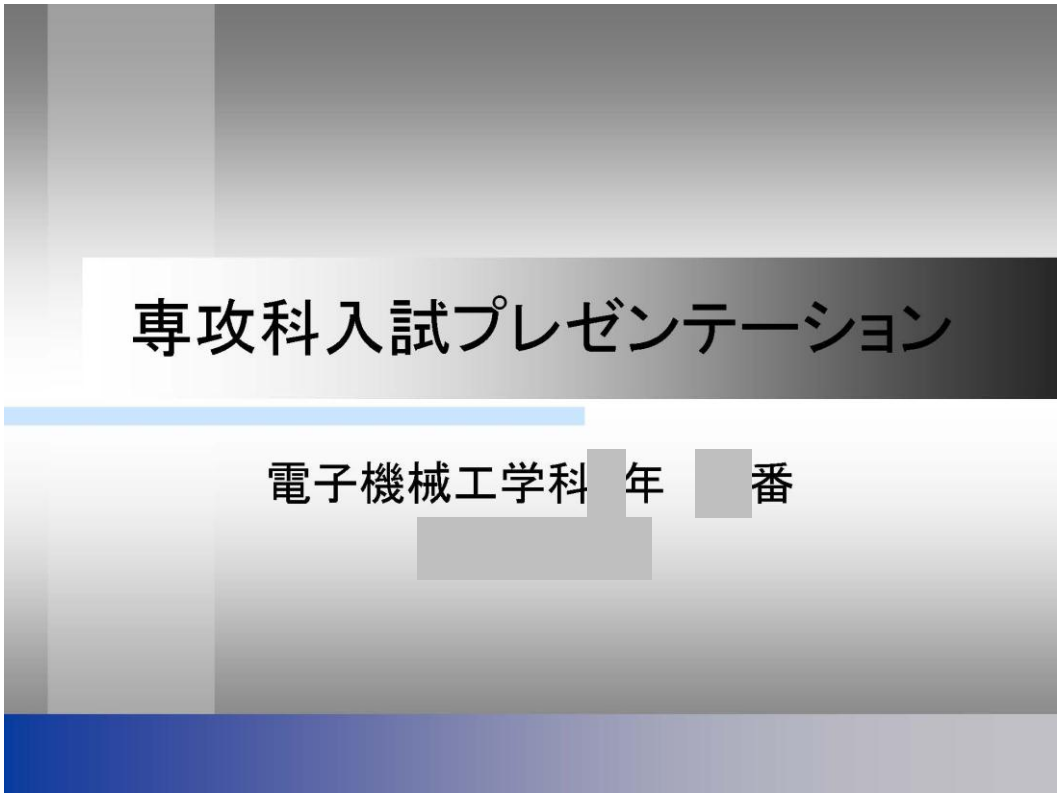
質問2　生産システム工学専攻の1つ目のアドミッションポリシー「手と頭脳が同時に働く実践的技術者を目指す人」に，貴方はどの程度合致していると思いますか？（1）～（4）から1つを選んでくださ	回答数
（1）よく合致している。	2
（2）ある程度合致している。	4
（3）あまり合致していない。	2
（4）全く合致していない。	0

質問3　生産システム工学専攻の2つ目のアドミッションポリシー「コミュニケーション能力と国際感覚を備えたい人」に，貴方はどの程度合致していると思いますか？（1）～（4）から1つを選んでくださ	回答数
（1）よく合致している。	1
（2）ある程度合致している。	6
（3）あまり合致していない。	1
（4）全く合致していない。	0

（出典：専攻科）

資料４－２－②－９





（出典：学生課）

資料４－２－②－10

別紙

専門科目の出題範囲について

平成２４年度実施の弓削商船高等専門学校専攻科生産システム工学専攻学力入学試験における「機械工学に関する専門科目」および「情報工学に関する専門科目」は，以下の内容で構成される。

「機械工学に関する専門科目」

問	分　野	本校電子機械工学科の関連科目	備　考
1	材料力学	材料力学１，２	共通問題。全員が回答
2	設計工学	設計製図３，４	
3	工業力学	工業力学	
4	機械工作	機械工作法，工作機械	

「情報工学に関する専門科目」

問	分　野	配点	本校情報工学科の関連科目	備　考
1	情報工学基礎	４０点	情報処理概論	共通問題。全員が回答
2	電子計算機	３０点	電子計算機	選択問題。３問から２問を選択して回答
3	情報処理	３０点	情報処理２	
4	制御工学	３０点	制御工学	

なお，詳細な出題範囲については，各関連科目のシラバスを参照のこと。

（出典：学生課）

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

本校志願者数に関して，３学科とも定員（40 名）に対して志願者倍率のばらつきはあるものの，下記のような取組により，平成 22 年度入試以降，志願者総数は増加傾向にある（資料４－３－①－１）。

本校では，学力入試においては県立高校などとの併願を認めており，また県立高校の合格発表を待って，入学手続きを行っている。したがって，他校へ入学することを見込んで，定員 120 名に対し，工業系学科では，例年 20%から 40%程度超過して合格者を出している。こうした措置に関して入学定員と実入学者数に大幅な差異が生じないよう，入試委員会及び専攻科委員会において，毎年度入学者数の適正化について検討を重ね，さらには受検者の在籍中学へ入学意思の聞き取り調査又は受検者へのアンケートを実施し，過去の入学者数データをもとに，数値的な根拠を得ている（資料４－３－①－２）。

しかしながら，近年，本校近隣の島嶼部，愛媛県・広島県内の近隣地域の少子化は著しく（資料４－３－①－３），特に平成 21 年度入試から 23 年度入試にかけて，志願者数が急激に減少し，合格者を十分に出すことができなかった。これを改善するための対策として，広報主事・主事補を設置し，本校のＰＲ資料の充実を図り，近隣地域の中学校へのＰＲ訪問活動はもとより，さらに広範囲の中学校へのＰＲ活動を積極的に行っている（資料４－３－①－４～６）。また，入学志向の高い推薦選抜による入学者の確保を 50%程度にまで増やす措置，二次募集の実施や検査会場の新設及び最寄地受検制度を実施するなどの改善措置を取っている（資料４－３－①－７）。さらに，商船学科について平成 23 年度入試から瀬戸内３商船高専の連携による複数校志望受検制度を導入（資料４－３－①－８）したことにより，志願者が激増し，複数校志望受検志願者及び４大都市での最寄地受検を含めた志願者数も資料４－３－①－９のグラフに示すとおり年々増加の一途を辿っている。このような改善措置の結果，平成 25 年度入試においては，各学科とも入学定員を確保することができた（資料４－３－①－１）。これらの結果を踏まえて，工業系学科についても広島商船高専と連携して複数校志望受検制度を平成 26 年度入試から実施することで決定している（資料４－３－①－10）。

準学士課程工業系学科４年次への編入学に関しては，年度により変動が大きいものの，広報主事関係の中国四国地方，九州地方の高校へのＰＲ活動により，平成 22 年度以降は一定数を確保できるようになっている（資料４－３－①－11）。

本校専攻科入学者数に関しては，生産システム工学専攻の入学定員８名であり，設置以来入学定員を確保している。年度により，定員の 1.5 倍程度となることもあるが，本校専攻科の設備，指導教員数から判断して，特に定員の大幅な超過とはなっておらず，十分に適正化が図られている。海上輸送システム専攻の入学定員は４名で，平成 23 年度，24 年度は定員充足には至らなかった。専攻科課程に関する海洋関係の特別研究テーマ設定と所属指導教員の研究テーマとのマッチングの困難さがあると思われる（資料４－３－①－12）。専攻科委員会で専攻科だよりを活用して在校生への説明を強化するなどの改善を図り（資料４－３－①－13），平成 25 年度 10 月入学予定者は４名を確保している。

（分析結果とその根拠理由）

本校近隣地域の少子化が著しい状況にあるなか，平成 21 年度入試から平成 23 年度入試にかけて入学者が減少したことに伴い，志願者の増加及び入学者数の確保に向けて，広報主事・主事補を設置し，ＰＲ資料の充実を図り，近隣地域の中学校へのＰＲ訪問活動はもとより，さらに広範囲の中学校へのＰＲ活動を積極的に行った。さらに，平成 23 年度入試から導入した瀬戸内３商船高専の連携による複数校志望受検志願者及び４大都市での最寄地受検を含めた志願者数が年々増加の一途を辿っており，このような改善措置の結果，平成 25 年度入試においては，各学科とも入学定員を確保することができた。入学定員と実入学者の関係において，適正化を図る改善の効果が現れていると考えられる。

編入学生の入学者数に関しても，平成 22 年度以降は一定数を確保できるようになっており，ＰＲ活動の結果，各地域の高校にも認知され，周知されてきている。

専攻科入学者に関しては，生産システム工学専攻においては定員充足されており，十分な取り組みがなされていると考えられる。また，海上輸送システム専攻においては，専攻科だよりを活用して内容を広く周知する取組を行い，入学者数の適性化を図っている。

以上のことから，実入学者数の適切な確保に向けて，これを改善するための取組が行われており，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られている。

資料４－３－①－１

受験者数推移

	全志願者数				推薦志願者数				志願者倍率				合格者数				入学者数			
	商船学科	電子機械工学科	情報工学科	総数	商船学科	電子機械工学科	情報工学科	商船学科	電子機械工学科	情報工学科	全体	商船学科	電子機械工学科	情報工学科	総数	商船学科	電子機械工学科	情報工学科	総数
平成18年度	41	60	71	172	23	24	33	1.0	1.5	1.8	1.4	41	58	69	168	38	43	45	126
平成19年度	70	66	78	214	48	29	39	1.8	1.7	2.0	1.8	47	53	67	167	45	36	35	116
平成20年度	51	56	54	161	35	20	24	1.3	1.4	1.4	1.3	43	54	49	146	40	38	36	114
平成21年度	38	41	63	142	21	16	25	1.0	1.0	1.6	1.2	30	34	55	119	27	27	32	86
平成22年度	49	54	60	163	23	28	32	1.2	1.4	1.5	1.4	38	48	51	137	33	37	36	106
平成23年度	69	49	56	174	37	19	23	1.7	1.2	1.4	1.5	47	39	52	138	41	26	32	99
平成24年度	80	59	61	200	30	33	26	2.0	1.5	1.5	1.7	44	46	52	142	42	39	38	119
平成25年度	98	63	77	238	52	24	27	2.5	1.6	1.9	2.0	45	54	65	164	42	40	42	124

（出典：学生課）

資料４－３－①－２

学力入学者数の推定に用いる資料

非公開情報のための削除

（出典：学生課）

資料４－３－①－３

平成24年度近隣地区中学生数

尾道市

	学校名	1年	2年	3年	合計
1	久保中	67	61	71	199
2	長江中	85	99	84	268
3	栗原中	168	166	182	516
4	吉和中	48	53	60	161
5	日比崎中	80	63	62	205
6	美木中	56	64	75	195
7	原田中	0	8	4	12
8	高西中	130	111	126	367
9	百島中	3	4	3	10
10	浦崎中	23	22	28	73
11	向東中	64	86	82	232
12	御調中	57	70	54	181
13	向島中	119	101	124	344
14	因島南中	79	65	93	237
15	因北中	39	61	63	163
16	重井中	20	19	27	66
17	瀬戸田中	49	53	53	155
18	生口中	21	15	13	49
	計	1108	1121	1204	3433

※1．14因島南中は、土生中・三庄中・田熊中の3校統合により発足した。

今治市

	学校名	1年	2年	3年	合計
1	美須賀中	22	37	45	104
2	日吉中	143	174	130	447
3	近見中	66	74	63	203
4	立花中	170	174	166	510
5	桜井中	97	110	125	332
6	南中	158	168	147	473
7	西中	166	191	174	531
8	北郷中	129	145	142	416
9	朝倉中	18	35	40	93
10	玉川中	54	42	47	143
11	大西中	80	72	72	224
12	菊間中	46	54	48	148
13	吉海中	16	34	29	79
14	宮窪中	26	25	27	78
15	伯方中	57	65	54	176
16	上浦中	17	14	26	57
17	大三島中	16	15	15	46
18	関前中	1	3	1	5
	計	1282	1432	1351	4065

三原市

	学校名	1年	2年	3年	合計
1	第一中	43	32	31	106
2	第二中	145	126	121	392
3	第三中	153	167	124	444
4	第四中	26	21	20	67
5	第五中	113	128	142	383
6	幸崎中	20	33	22	75
7	宮浦中	113	108	103	324
8	本郷中	84	87	101	272
9	久井中	36	30	38	104
10	大和中	32	49	43	124
	計	765	781	745	2291

福山市

	学校名	1年	2年	3年	合計
1	東中	189	182	178	549
2	城北中	239	257	259	755
3	城南中	248	209	235	692
4	鷹取中	127	128	128	383
5	城東中	148	155	148	451
6	幸千中	182	190	179	551
7	済美中	149	146	152	447
8	向丘中	140	137	143	420
9	鞆中	19	16	24	59
10	走島中	3	1	3	7
11	鳳中	124	114	88	326
12	倍遠中	96	142	165	403
13	大成館中	139	136	132	407
14	松永中	97	97	77	271
15	精華中	49	37	41	127
16	中央中	104	104	98	306
17	芦田中	54	47	74	175
18	山野中	3	5	5	13
19	広瀬中	8	10	10	28
20	加茂中	100	111	83	294
21	駅家中	137	126	131	394
22	誠之中	171	177	140	488
23	城西中	92	81	82	255
24	大門中	132	100	125	357
25	一ツ橋中	94	114	119	327
26	東朋中	171	183	155	509
27	駅家南中	153	165	151	469
28	内海中	7	9	13	29
29	常金中	27	19	25	71
30	新市中央中	168	142	139	449
31	福山中	120	120	119	359
32	千年中	82	83	78	243
33	至誠中	35	46	45	126
34	神辺中	197	161	219	577
35	神辺東中	96	94	92	282
36	神辺西中	91	102	90	283
	計	3991	3946	3945	11882

上島町

	学校名	1年	2年	3年	合計
1	魚島中				0
2	弓削中	23	30	22	75
3	岩城中	7	17	11	35
	計	30	47	33	110

府中市

	学校名	1年	2年	3年	合計
1	第一中	136	150	163	449
2	府中中	119	109	130	358
3	府中明郷中	43	40	43	126
4	上下中	31	46	45	122
	計	329	345	381	1055

※1．3府中明郷中は、第三中からの名称変更により発足した。

（出典：学生課）

資料４－３－①－４

第１１回運営委員会議事概要
日　　時　　平成２１年　２月１８日（水）１６：４０～１７：５０
場　　所　　第２会議室（管理棟２階）
議　　題

（審議事項）

（中略）

（報告事項）
１．平成２１年度校内役職教員について
・校長から，報告資料１に基づき，「平成２１年度校内役職教員」について，次のとおり報告があった。
・本来は，規則の改正後に役職教員を割り当てるのであるが，規則の改正が後追いになることをご了解いただきたい。なお，次回の運営委員会に関連する規則の改正については，全て提出したいと思っているので，併せてご了解いただきたい。
・大きな変更内容は，**広報主事**を設けて４主事体制で行う。
・**広報主事**の業務は，**学生募集対策委員会及び広報委員会**を担当したいただく。
・学生募集というところを皆さんに認識していただくことや更に各中学校を訪問する場合に大きな責任を持って訪問しているということのために広報主事を設けたい。
・教務主事，学生主事，寮務主事及び広報主事は，副校長という名称の方が対外的にも理解しやすいということで，現在の校長補佐という名称から**副校長**という名称に変える。

（出典：総務課）

資料４－３－①－５

県番号	地域	No.	中学校名	H24.4	H24.5	H24.6	H24.7
		358	広島県世羅町立甲山			PR勘久保6/22	
	広島県東広島市	359	広島県東広島市立高屋				
		360	広島県東広島市立八本松				
		361	広島県東広島市立河内				
	広島県廿日市市	362	広島県廿日市市立阿品台				
	広島県尾道市	363	広島県尾道市立浦崎				PR上江7/19
		364	広島県尾道市立久保			PR岡本6/25	
		365	広島県尾道市立栗原		進路益崎・桝田5/16		PR鶴7/5
		366	広島県尾道市立高西			PR上江6/14	
		367	広島県尾道市立長江				PR鶴7/5
		368	広島県尾道市立日比崎			PR上江6/14	
		369	広島県尾道市立美木				PR鶴7/5
		370	広島県尾道市立百島				
		371	広島県尾道市立御調			PR勘久保6/22	
		372	広島県尾道市立吉和		PR益崎5/16	進路徳田6/21	
		373	広島県尾道市立因北		PR益崎5/16		
					進路徳田・長尾5/16		
		374	広島県尾道市立因島南			PR益崎6/1	進路長尾7/6
		375	広島県尾道市立重井			PR益崎6/1	
		376	広島県尾道市立向島			PR益崎6/1	
						進路益崎・桝田6/14	
		377	広島県尾道市立向東			PR益崎6/1	進路鶴・長井7/3
		378	広島県尾道市立瀬戸田		PR益崎5/24		
		379	広島県尾道市立生口	PR益崎4/20			
	広島県府中市	380	広島県府中市立第一			PR勘久保6/22	
		381	広島県府中市立第三				
		382	広島県府中市立明郷			PR勘久保6/22	
		383	広島県府中市立上下			PR勘久保6/22	
		384	広島県府中市立府中			PR勘久保6/22	
34	広島県福山市	385	広島県福山市立一ツ橋				PR塚本7/10
		386	広島県福山市立内海				PR二村7/10
		387	広島県福山市立駅家				PR伊藤芳7/9
		388	広島県福山市立駅家南				PR伊藤芳7/9
		389	広島県福山市立幸千				PR伊藤芳7/9
		390	広島県福山市立済美				PR二村7/9
		391	広島県福山市立松永				PR二村7/10
		392	広島県福山市立城西				PR二村7/10
		393	広島県福山市立城東				PR塚本7/9
		394	広島県福山市立城南				PR塚本7/10
		395	広島県福山市立城北				PR塚本7/9
		396	広島県福山市立神辺				PR伊藤芳7/9
		397	広島県福山市立神辺西				PR伊藤芳7/9
		398	広島県福山市立神辺東				PR伊藤芳7/9
		399	広島県福山市立精華				PR二村7/3
		400	広島県福山市立誠之				PR塚本7/10
		401	広島県福山市立千年				PR二村7/10
		402	広島県福山市立大成館				PR二村7/9
		403	広島県福山市立大門				PR塚本7/9
		404	広島県福山市立鷹取				PR塚本7/10
		405	広島県福山市立東				PR塚本7/10
		406	広島県福山市立東朋				PR塚本7/9
		407	広島県福山市立培遠				PR塚本7/9
		408	広島県福山市立向丘				PR二村7/3
		409	広島県私立銀河学院				
		410	広島県福山市立芦田				PR益崎7/17
		411	広島県福山市立至誠				PR二村7/3
		412	広島県福山市立新市中央			PR勘久保6/22	
		413	広島県福山市立中央				PR塚本7/9
		414	広島県福山市立鳳				PR塚本7/9
		415	広島県福山市立鞆			PR二村6/27	

（出典：学生課）

資料４－３－①－６

平成 24 年度第１回学生募集対策委員会議事概要

非公開情報のための削除

（出典：平成 24 年度第１回学生募集対策委員会）

資料４－３－①－７

平成23年度弓削商船高等専門学校学生募集要項（第2次）（案）

Ⅰ　募集人員

学科名	募集人員
電子機械工学科	10名程度
情報工学科	5名程度

（注）各学科とも，男女の別を問いません。

Ⅱ　選抜方法

入学者の選抜は，「学力検査による選抜」により行います。

1．出　願　資　格

次のいずれかに該当する者とします。

（1）中学校を卒業した者又は平成23年3月卒業見込みの者

（2）中等教育学校の前期課程を修了した者又は平成23年3月前期課程修了見込みの者

（3）中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（学校教育法施行規則第95条に該当する者）

2．出　願　手　続

（1）受付期間

平成23年3月15日（火）から3月22日（火）まで

持参する場合は午前9時から午後4時まで受け付けます。

ただし，土曜日，日曜日及び祝祭日は窓口受付を行いません。

（郵送の場合も3月22日（火）までに必着のこと。）

（2）受付場所

〒794－2593　愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地

弓削商船高等専門学校　学生課入試係

TEL　0897－77－4619

（出典：学生課）

資料４－３－①－８

平成２２年度第１回入学試験委員会議事概要

日　時　　平成２２年４月２９日（木）１６：２５～１７：０５
場　所　　第１会議室
出席者　　別紙のとおり
議　題
（審議事項）

（中略）

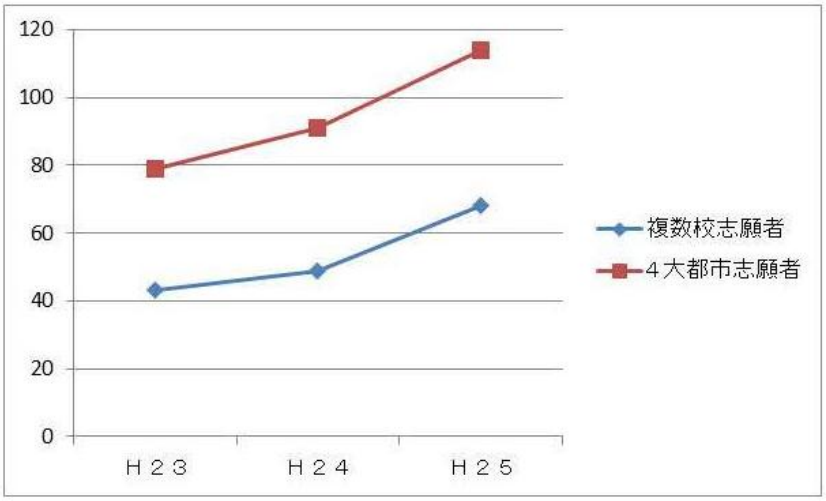
２．平成２３年度学生募集要項（案）について
○副委員長より，昨年度からの変更点について審議資料２に基づき説明があった。昨年度からの主な変更点は以下のとおりである。
・「商船学科複数校志望受検制度」を採用した。
・受検地に尾道を追加した。検査場案内図は，最終的にはもう少しすっきり分かりやすいものに差し替える予定である。

（出典：平成 22 年度第１回入学試験委員会議事抜粋）

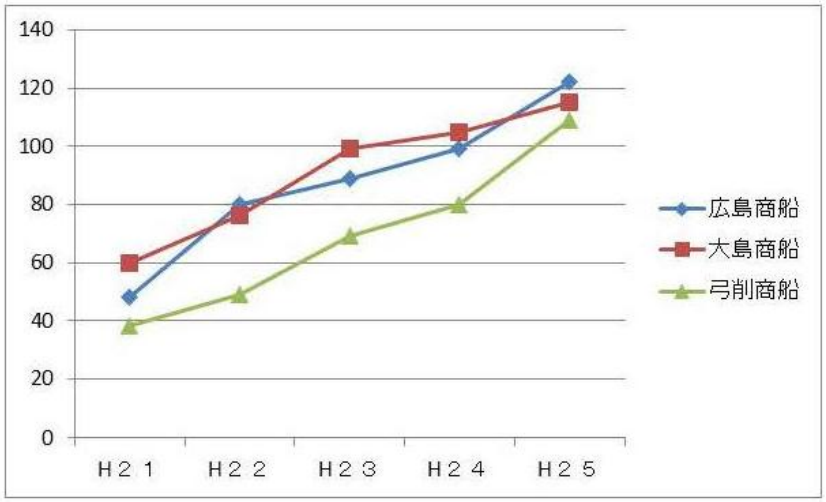
資料４－３－①－９

２．結果とまとめ

過去３年間の複数校志望受検志願者及び４大都市での最寄地受検を含めた志願者数の推移は下記のグラフの通り年々増加の一途を辿っている。



また，３校の商船学科志願者（推薦及び学力）総数も下記のグラフの通り複数校志望受検制度を始める以前に比べ飛躍的に増加し，複数校志望受検制度実施後も軒並み上昇している。



過去３年間で複数校志望受検制度を利用して合格した志願者のうち，入学率は平成２３年度９０％，平成２４年度９６％，平成２５年度１００％と入学率も高く，学生のニーズに応え得るこの制度の優位性を示している。

今年度は，検査室を共有したことにより各会場の世話校（東京：弓削，大阪：弓削，広島：広島，福岡：大島，大島本校：大島）が３校分の入試問題及び解答用紙を準備して持参し，入試前日に各会場で検査員による最終打ち合わせを行い，スムーズな入試運営になるよう改善を図った。また，入試当日及び採点日に３校をテレビ会議で結び，高専機構からの指示に対する対応や採点基準の詳細について，教務主事同士が直接話し合う機会を頻繁に持つことで連携を強めることが出来た。

以上の通り，商船学科の複数校志望受検制度及び最寄地受検制度による学力入試は，着実に実績を挙げており，今後とも商船学科志願者数の拡大と入学生の質の向上に繋がることが期待できる。

（出典：学生課）

資料４－３－①－10

電子機械工学科・電子制御工学科複数校志望受検制度
による入学者選抜試験実施要項

個人情報等保護のための削除

（出典：学生課）

資料４－３－①－11

準学士課程工業系学科４年次への編入学者推移

	電子機械工学科			情報工学科		
	受検者数	合格者数	入学者数	受検者数	合格者数	入学者数
平成18年度	4	3	2	4	4	1
平成19年度	2	2	1	3	2	0
平成20年度	5	5	2	5	5	2
平成21年度	12	12	1	6	6	0
平成22年度	6	4	3	4	4	2
平成23年度	8	6	3	9	8	2
平成24年度	6	6	4	6	6	2
平成25年度	4	4	1	4	3	3

（出典：学生課）

資料４－３－①－12

専攻科への入学者推移

	生産システム工学			海上輸送システム工学		
	受検者数	合格者数	入学者数	受検者数	合格者数	入学者数
平成18年度	9	9	8	10	8	5
平成19年度	9	9	9	3	3	3
平成20年度	13	13	13	5	5	4
平成21年度	12	11	9	7	4	4
平成22年度	10	9	8	6	5	5
平成23年度	11	10	10	2	1	1
平成24年度	12	12	11	2	2	2
平成25年度	9	8	8			

（出典：学生課）

資料４－３－①－13

専攻科だより　第２６号

平成 24 年 6 月

専攻科行事の報告

■ 生産システム工学専攻入学式

４月 10 日に挙行され、8 期生 11 名（機械系 7 名、情報系 4 名）が入学しました。より高度で実践的な知識や技術の修得を目指すと共に、研究活動にも取り組みます。



生産システム工学専攻新入生（8 期生）

■ 中四国地区専攻科生研究交流会

４月 27・28 日に香川県で開催され、専攻科２年生 14 名が日頃の研究成果を発表しました。

参加した学生の感想

本交流会への参加は他高専の専攻科生と交流を深めるとともに、自分自身の研究を見直す良いきっかけになりました。他高専の方々から頂いた貴重なご意見を今後の研究に是非生かしたいと思います。（生産２年　澤村幸輝）

新カリキュラムの紹介

７年前に専攻科が設置されて以来、初めてカリキュラムの改訂を行い、以下の 3 科目を新設しました。

■ インターンシップ

国内外にある企業・事業所での実務や、大学の研究室での研修体験を通して、自分の職業適性や将来の目標をより明確にすることを目的にしています。

■ 教育技術演習

本科低学年の補習、学生実験、公開講座などのアシスタントとして指導する経験を積むことにより、自身の総合的な学習経験を活かした教育技術、コミュニケーション能力、ならびに企画を円滑に実行する計画性の向上を図ります。

■ 生産システム工学概論

機械系出身者が情報系科目を履修する、または情報系出身者が機械系科目を履修するにあたり問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で開設されています。したがって、異なる分野の学習がスムーズに行えるよう柱となる理論や技術の概要を習得することが目標です。

専攻科生の受賞報告

■ 学会発表で優秀発表賞を受賞

３月 7 日、広島大学（東広島市）で開催された第 42 回学生員卒業研究発表講演会（日本機械学会中国四国学生会）において、専攻科生産システム工学専攻（当時）の矢口竜也君が優秀発表賞を受賞しました。発表題目は「熱重量測定装置の製作と木質バイオマス炭化物の評価実験」でした。

（出典：専攻科だより第 26 号）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

平成 23 年度入試から全国の高等専門学校に先駆けて,瀬戸内３商船高等専門学校の連携による商船学科複数校志望受検制度及び東京，大阪，広島，福岡の４大都市での最寄地受検制度を導入している。商船学科の高い志向性を持つ志願者が増加し，最寄地受検地での志願者も年々増加の一途を辿っており，成果を上げている。さらに，電子機械工学科についても，広島商船高等専門学校と平成 26 年度入試から複数校志望受検制度を導入することにしており,入試改革に積極的に取り組んでいる。

（改善を要する点）

本校近隣地域の少子化が著しい状況にあるなか,平成 25 年度入試では入学定員が確保できたものの，今後も安定した志願者確保に向けた継続的な努力が必要である。

（３）基準４の自己評価の概要

準学士課程各学科及び専攻科課程の教育目的に沿って，入試委員会，専攻科委員会，運営委員会の審議を経てアドミッション・ポリシーが定められている。教職員には，教員会議等での説明及びウェブサイトに明示すること等で周知している。将来の学生に理解してもらうため，中学校訪問，オープンキャンパス，学校説明会等でアドミッション・ポリシーを記載した資料を配布し説明している。また，ウェブサイトでの掲載，学校案内等を全国各地に送付することにより，広く社会に公表している。

準学士課程への入学者選抜においては，調査書の科目評価点及び学力検査点について傾斜配点を行っており，技術者として必要な基礎学力を重視し，本校の求める学生を受入れることに努めている。推薦入試においても，面接時には必ずアドミッション・ポリシーについて質問し，面接評価を行っている。専攻科の入学者選抜においても，定められた選抜基準に基づきアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入を行っている。

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実施されているかについて，学生の成業率や入学後の学力試験実施及びアンケート調査などによって検証している。専攻科の学生受入については，入学後のアンケート実施，志望動機や志向性，特別研究について学生にプレゼンを課すことで検証している。

近隣地域の少子化が著しい状況の中，平成 21 年度入試から平成 23 年度入試にかけて入学者が減少したが，広報主事・主事補を設置し，PR 資料の充実を図り，近隣及び広範囲の中学校への PR 活動を積極的に行った。さらに，平成 23 年度入試から導入した瀬戸内３商船高等専門学校の連携による複数校志望受検制度及び東京，大阪，広島，福岡の４大都市での最寄地受検制度を含めた志願者数が，年々増加の一途を辿っており，このような改善措置の結果，平成 25 年度入試においては，各学科とも入学定員を確保することができた。電子機械工学科についても，広島商船高等専門学校と連携して平成 26 年度入試から複数校志望受検制度を実施する。

専攻科入学者については，生産システム工学専攻については定員充足されており，十分な取組がなされている。一方，海上輸送システム専攻については，平成 23，24 年度は定員充足には至らなかったが，専攻科だよりを活用して内容を広く周知する取組を行い，入学者数の適性化を図っている。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

〈準学士課程〉

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

平成 22 年度に改正した本校の準学士課程の教育課程は,資料５－１－①－１～７に示すように学科ごとに，低年次では一般科目が多く，高年次になるに従って専門科目が増えるようにバランスが取れたくさび型の教育課程となっており，資料１－１－①－２で示した教育目標を達成できるように授業科目を編成している。

専門科目は，学科ごとの教育目標達成のために，授業科目系統図に沿って必修科目と選択科目を体系的に配置している。商船学科は「船員教育を基礎にした海事総合科学を身につけた技術者の育成」のため，１～３年次に共通専門科目を配置し，４年次から航海コースと機関コースに分かれ，各コースの船舶職員として必須の専門科目及び海事総合科学科目を配置した教育課程の編成としている（資料５－１－①－８，９）。電子機械工学科は,「ものづくりのできる実践的な技術者の育成」のため，エンジニアとしての基礎・知識の科目，機械技術者としての関連科目，メカトロニクス関連科目，創造性・技能の育成のための科目を適切に配置している（資料５－１－①－10)。情報工学科では,「情報リテラシー，情報工学の知識に加え，問題分析，解決能力を備えたシステム技術者の育成」のため専門基礎，ソフトウェア系，ハードウェア系，電気・電子系，システム系，応用系，実験系，体験及び資格取得，総合的な各分野の科目を系統的に配置している（資料５－１－①－11)。各学科とも，主に講義を通して専門基礎力を身につけ，全学年に配置している実験・実習を中心とした科目を通して職業に必要な能力を身につけ，卒業研究などを通して創造力を身につけた実践的技術者の育成を図っている。また，商船学科だけではなく電子機械工学科・情報工学科においても，練習船「弓削丸」を活用した実習・授業を実施し，システムとして完結した対象物に柔軟に対応できる資質を養っている（資料５－１－①－12，13)。

一般科目の中では,「自然科学の基礎的能力を身につける」ため理科系科目を主に低年次に配置し,「社会や文化に理解を深め，技術者として幅広い視野に立った人材育成」のために人文社会系の科目を全般的に配置している（資料５－１－①－14)。また，英語教育においては「国際的視野でものがみられる技術者育成」の観点から,「総合英語」,「英語表現」,「基礎英語」,「英語購読」に分け，１年次の「英語表現」においては，各クラスを３分割し，ネイティブの非常勤教員も配置して少人数教育を実施している（資料５－１－①－15)。

（分析結果とその根拠理由）

平成 22 年度に学生の多様なニーズ,社会からの要請等に対応するため教育課程を改正している。教育目標達成のため，一般科目及び専門科目の教育課程がくさび型に編成されバランスが保たれており，必修科目，選択科目が年次ごとに適切に配置されている。授業科目系統図から，実践的技術者育成のための教育課程の体系が確保されており，各学科の専門科目が系統的に配置されて

いることが確認できる。また，授業内容は，教育の目的を達成するために，教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスに明確に記載されている。

以上のことから，本校の準学士課程では，教育の目標に照らして，授業科目が学科・年次ごとに適切に配置され，教育課程の体系性・系統性が確保されている。また，授業科目の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って,教育の目的を達成するために適切なものになっている。

資料５－１－①－１



（出典：学生課）

資料５－１－①－２

授業科目と単位数

1)　学則別表第１

一　般　科　目　教　育　課　程　表

（商船学科）

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		１年	２年	３年	４年	５年	
国語	9	3	3	2	1		
公民１	2			2			
公民２	2			2			
地歴１	2	2					
地歴２	2		2				
法学	2				2		
生物概論	1					1	
数学１	１２	4	4	4			
数学２	4	2	2				
数学持論	2			2			
化学	4	2	2				
物理	4	2	2				
保健	1	1					
体育	9	2	3	2	1	1	
音楽	2	2					いずれか１科目（２単位）を選択必修
美術		2					
書道		2					
総合英語	7	2	2	2	1		
英語表現	5	3	2				
基礎英語	3	1	1	1			
英語講読	3				2	1	
第二外国語	2				2		
科目開設単位数計	７８	２６	２３	１７	9	3	７８単位以上修得

特別活動：１～３年において毎週１単位時間（標準５０分）以上実施する。

（出典：平成 24 年度学生便覧Ｐ．10）

資料５－１－①－３

(2)　学則別表第２

専　門　科　目　教　育　課　程　表

（商船学科）

授業科目			単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	共通科目	応用数学	2				2		
		基礎力学	1		1				
		材料力学１	1			1			
		熱力学１	1			1			
		水力学	2			2			
		情報処理１	2	2					
		情報処理２	1		1				
		電磁気学	2		2				
		電気工学１	2			2			
		電子工学１	2				2		
		計測・制御１	2			2			
		商船学概論	2	2					
		船舶工学	2			2			
		船舶安全工学	2				2		
		海事法規１	2			2			
		通信工学	1		1				
		通信法規	1		1				
		専門英語１	1		1				
		専門英語２	1			1			
		操艇・通信	2	2					
		実験実習１	2		2				
		実験実習２	2			2			
		校内練習船実習	5	1	1	1	1	1	
		小計	41	7	10	16	7	1	
	航海コース	航海学１	2				2		
		航海学２	1					1	
		航海計測学	2				2		
		天文・電波測位学	2				2		
		船体運動力学	2				2		
		運送管理学１	2				2		
		運送管理学２	1					1	
		海上交通法１	2				2		
		海上交通法２	1					1	
		海事法規２	1				1		
		海上交通工学	1					1	
		海洋気象学	1				1		
		海洋環境論	1					1	
		海運経済論	2				2		
		航海学演習	2					2	
		航海学実験	3				3		
		卒業研究	4					4	
		小計	30				19	11	
	機関コース	材料工学	2				2		
		熱工学	2				2		
		材料学	1					1	
		電気工学２	2				2		
		計測・制御２	2				2		
		電子工学２	1					1	
		内燃機関学１	2				2		
		内燃機関学２	2				2		
		蒸気工学	2				2		
		設計製図	2				2		
		流体機械工学	1					1	
		潤滑工学	1					1	
		推進論	1					1	
		機関学演習	2					2	
		工学実験	3				3		
		卒業研究	4					4	
		小計	30				19	11	
選択科目		商船学セミナー	1					1	選択
専門科目開設単位数計			72	7	10	16	26	13	71単位以上修得
一般科目との開設単位数計			150	33	33	33	35	16	149単位以上修得
大型練習船実習			上記単位数以外で12月実施する						

（出典：平成 24 年度学生便覧Ｐ．12，13）

資料５－１－①－４

一　般　科　目　教　育　課　程　表

（電子機械工学科・情報工学科）

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		１年	２年	３年	４年	５年	
国語	9	3	3	2	1		
公民１	2			2			
公民２	2			2			
地歴１	2	2					
地歴２	2		2				
法学	2					2	
生物概論	1					1	
数学１	１２	4	4	4			
数学２	4	2	2				
数学持論	2			2			
化学	4	2	2				
物理	4	2	2				
保健	1	1					
体育	9	2	3	2	1	1	
音楽	2	2					いずれか１科目（２単位）を選択必修
美術		2					
書道		2					
総合英語	8	2	2	2	2		
英語表現	5	3	2				
基礎英語	3	1	1	1			
英語講読	3				1	2	
第二外国語	2				2		
科目開設単位数計	７９	２６	２３	１７	7	6	７９単位以上修得

特別活動：１～３年において毎週１単位時間（標準５０分）以上実施する。

（出典：平成 24 年度学生便覧Ｐ．11）

資料５－１－①－５

専　門　科　目　教　育　課　程　表

（電子機械工学科）

授業科目		単位数	学年別配当					備考
			１年	２年	３年	４年	５年	
必修科目	応用数学１	2				2		
	応用数学２	2					2	
	応用物理１	2				2		
	応用物理２	2					2	
	情報処理	2				2		
	基礎機械制御工学	1	1					
	機構学	2					2	
	工業力学１	1		1				
	工業力学２	1			1			
	材料力学１	1			1			
	材料力学２	2				2		
	材料力学３	1					1	
	流体力学	2				2		
	熱力学	2				2		
	材料学	2			2			
	機械工作法	2			2			
	設計製図１	1	1					
	設計製図２	2		2				
	設計製図３	1			1			
	設計製図４	2				2		
	設計製図５	2					2	
	計測工学	2			2			
	制御工学	2				2		
	シーケンス制御	1		1				
	計算機制御	2					2	
	電気磁気学	2		2				
	電気回路	2			2			
	電子工学	2			2			
	電子回路	2				2		
	電子計算機１	2	2					
	電子計算機２	1		1				
	工作実習１	2	2					
	工作実習２	2		2				
	工作実習３	2			2			
	工学実験１	3				3		
	工学実験２	3					3	
	卒業研究	8					8	
	必修科目単位数計	７３	6	9	１５	２１	２２	
選択科目	数値解析	1					1	
	情報処理特論	1					1	
	エネルギー工学	1					1	
	振動工学	1					1	
	表面工学	1					1	
	工作機械	1				1		
	ディジタル制御工学	1					1	
	制御工学特論	1					1	
	システム工学	1					1	
	ロボット工学	1					1	
	電気電子機器	2				2		
	電子回路特論	1					1	
	工業英語	2					2	
	特別講義１	1				1		
	特別講義２	1				1		
	特別講義３	1				1		
	特別講義４	1					1	
	選択科目開設単位数計	１９				6	１３	１５単位以上修得
専門科目開設単位数計		９２	6	9	１５	２７	３５	８８単位以上修得
一般科目との開設単位数計		１７１	３２	３２	３２	３４	４１	１６７単位以上修得

※　４年次においては、２単位以上、選択科目を修得すること。

（出典：平成 24 年度学生便覧Ｐ．14，15）

資料５－１－①－６

専　門　科　目　教　育　課　程　表

（情報工学科）

	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	情報基礎	1	1					
	コンピューター科学	2	2					
	電子計算機	1		1				
	電磁気学１	1		1				
	情報理論	1			1			
	アルゴリズム	1			1			
	論理回路	2			2			
	電気電子工学	2			2			
	ネットワーク理論	1			1			
	システム工学	2			2			
	応用数学１	2				2		
	応用数学２	2				2		
	応用物理	2				2		
	科学技術英語１	1				1		
	科学技術英語２	1					1	
	電子回路	1				1		
	計測工学	1				1		
	データ・ベース	2				2		
	ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞ・ｼｽﾃﾑ	2				2		
	ﾃﾞｼﾞﾀﾙｼｽﾃﾑ設計工学	1				1		
	制御工学	2				2		
	ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝｽﾞ・ﾘｻｰﾁ	2				2		
	数理統計学	1				1		
	画像処理	2				2		
	プログラミング基礎	4		4				
	プログラミング応用	3			3			
	プログラミング持論	2				2		
	コンパイラ	2					2	
	数値解析	2					2	
	技術者倫理	1					1	
	人工知能１	1					1	
	情報工学実験１	3	3					
	情報工学実験２	3		3				
	情報工学実験３	3			3			
	情報工学実験４	3				3		
	卒業研究	8					8	
	必修科目単位数計	７１	６	９	１５	２６	１５	
選択科目	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ	1					1	
	人工知能２	1					1	
	情報通信伝達工学	2					2	
	通信システム	2					2	
	電磁気学２	1					1	
	信頼性工学	2					2	
	情報機器	2					2	
	機械工学	2					2	
	CAD	1					1	
	環境工学	2					2	
	海事工学	1					1	
	海事工学演習１	1		1				
	海事工学演習２	1				1		
	特別講義１	1	1					
	特別講義２	1		1				
	特別講義３	1			1			
	特別講義４	1					1	
	特別講義５	1					1	
	インターンシップ	1				1		
	選択科目開設単位数計	２５	1	2	1	2	１９	１７単位以上修得
専門科目開設単位数計		９６	7	１１	１６	２８	３４	８８単位以上修得
一般科目との開設単位数計		１７５	３３	３４	３３	３５	４０	１６７単位以上修得

（出典：平成 24 年度学生便覧Ｐ．16，17）

資料５－１－①－７

一般科目と専門科目の学年別割合

商船学科

	一般科目	専門科目
1年	26	7
2年	23	10
3年	17	16
4年	9	26
5年	3	13

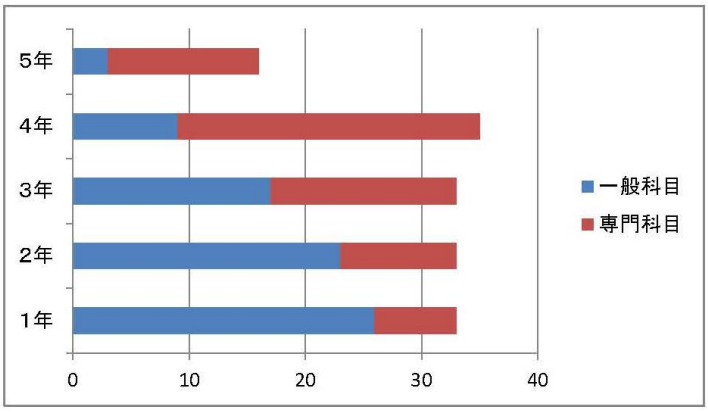
電子機械工学科

	一般科目	専門科目
1年	26	6
2年	23	9
3年	17	15
4年	7	27
5年	6	35

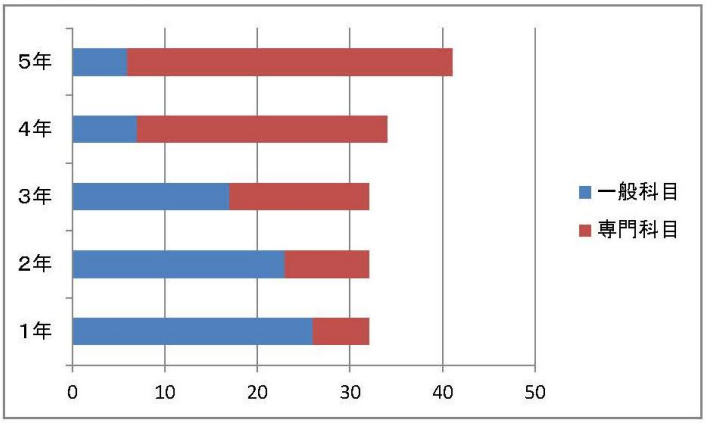
情報工学科

	一般科目	専門科目
1年	26	7
2年	23	11
3年	17	16
4年	7	28
5年	6	34

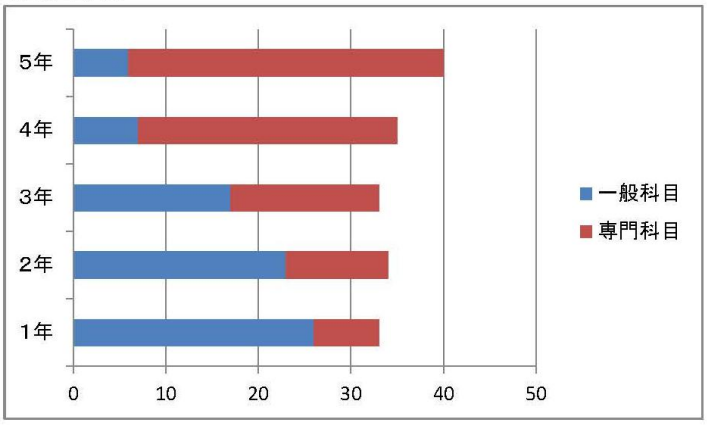
商船学科



電子機械工学科

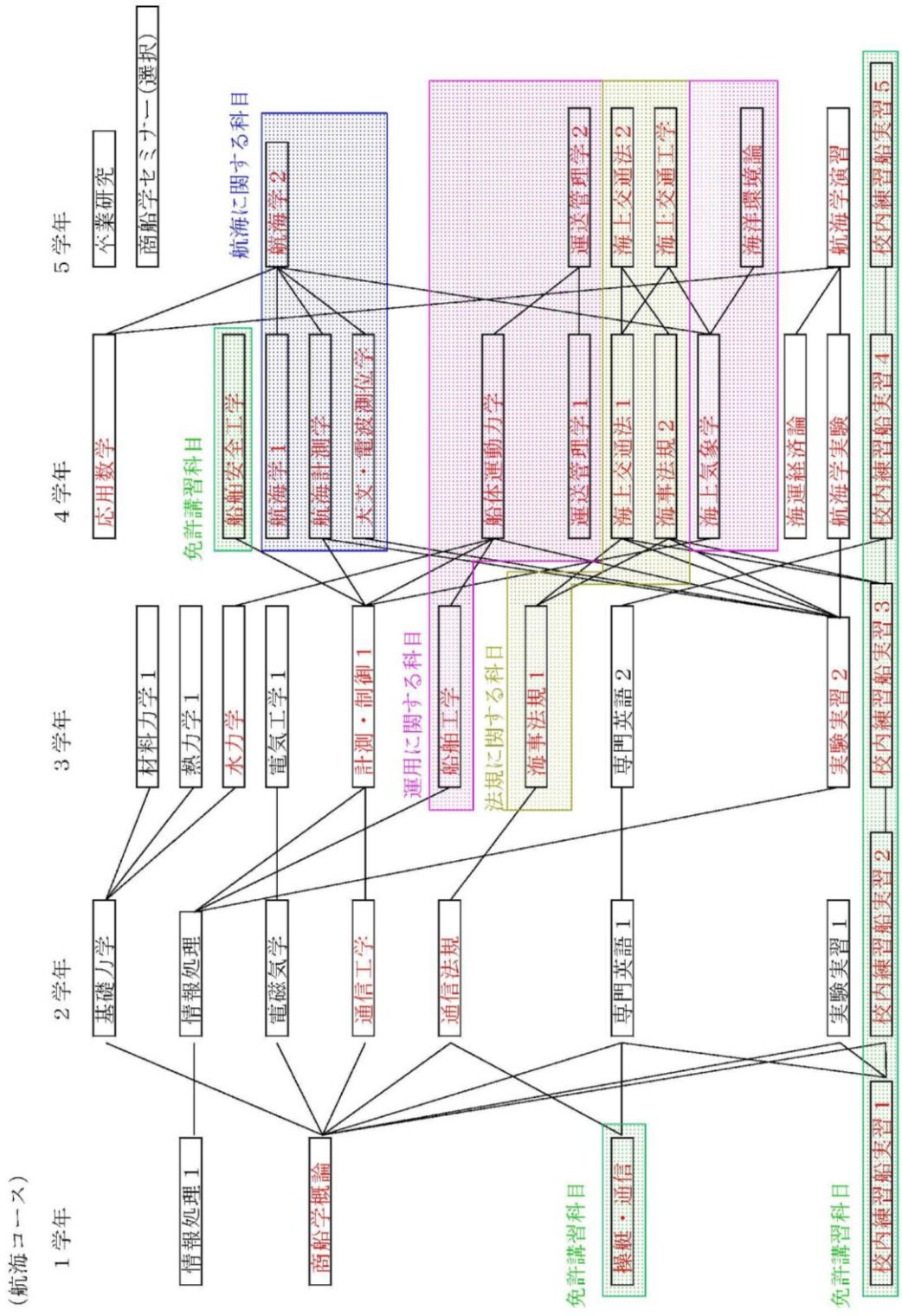


情報工学科



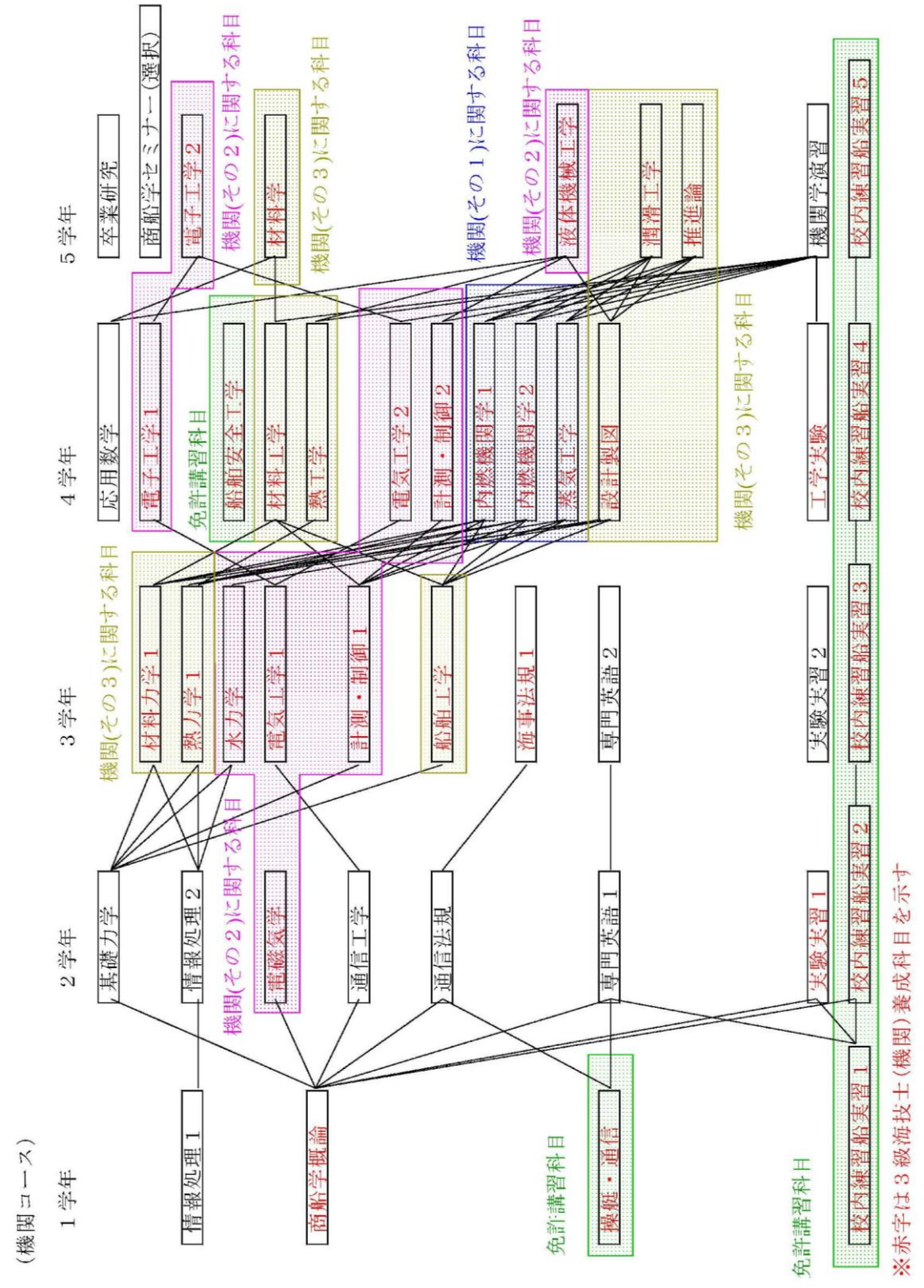
（出典：シラバス記載内容から作成）

資料５－１－①－８



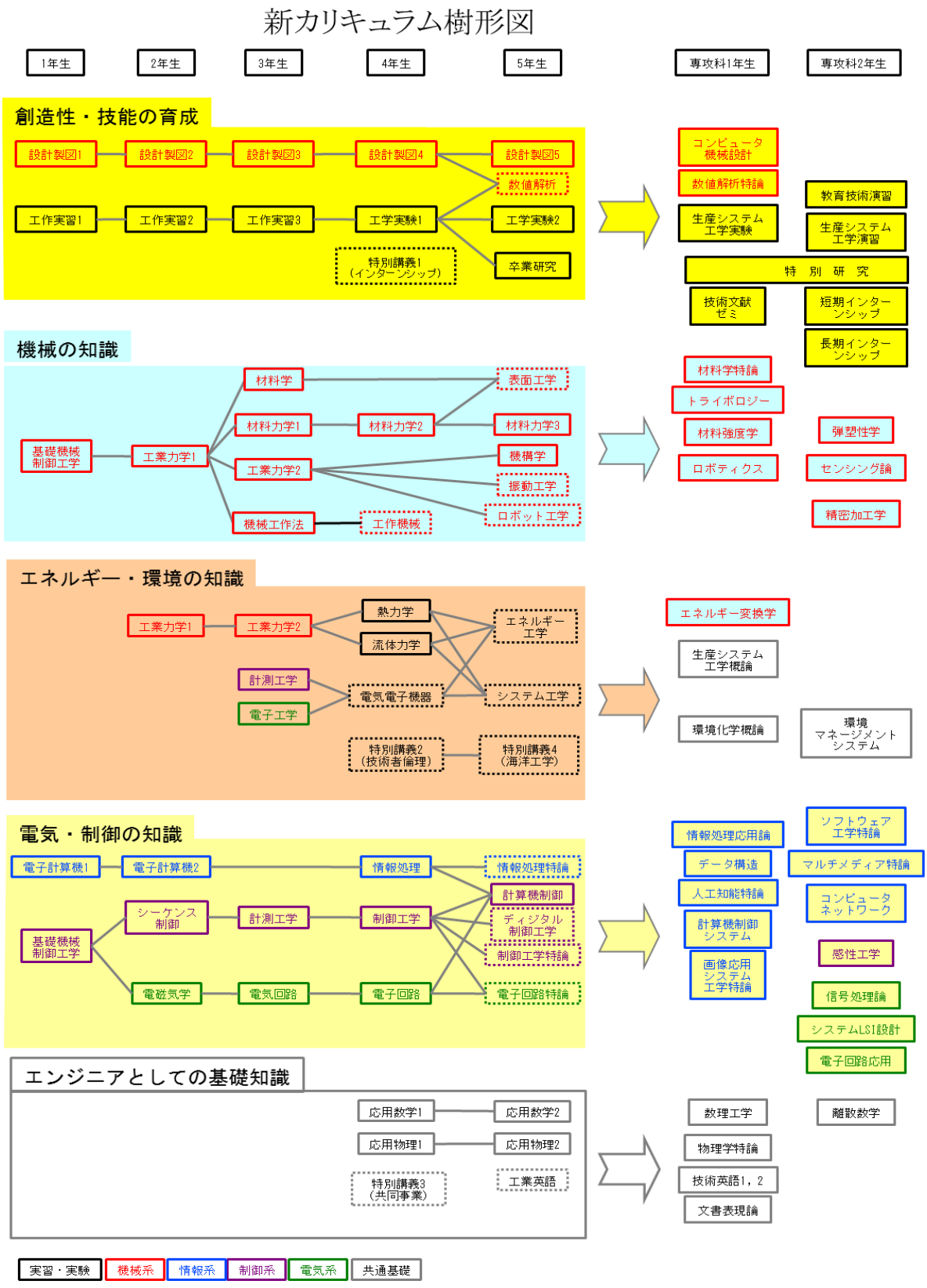
（出典：商船学科）

資料５－１－①－９



（出典：商船学科）

資料５－１－①－10



（出典：電子機械工学科）

資料５－１－①－11

改定カリ（案）

		1年	2年	3年	4年	5年
基礎科目		情報基礎 1			応用数学1（ベクトル） 2	数値解析 2
					応用数学2（偏微分） 2	機械工学 2
					応用物理 2	
				数理統計学 1		
					科学技術英語1 1	科学技術英語2 1
						技術者倫理 1
		コンピュータ科学 2	プログラミング基礎 3	プログラミング応用 3	プログラミング特論 1	
			電子計算機 2	情報理論 1		
					セミナー 1	
	ソフトウエア系			アルゴリズム 1	データベース 2	人工知能1 1
					オペレーティングシステム 2	人工知能2 1
					コンパイラ（学修） 2	
				コンピュータネットワー 1		
	ハードウエア系			論理回路 2	システムインターフェイス 2	情報機器 2
	電気・電子系		電磁気学1 1	電気工学 2	制御工学 2	制御工学特論 2
				電子工学 1	電子回路 1	電磁気学2 1
					計測工学 1	
	システム系			システム工学 2	OR 2	信頼性工学 2
	応用系		CAD1 2		画像処理（学修） 2	CG 1
						通信伝達工学 1
						CAD2 1
実験科目		情報工学実験1 3	情報工学実験2 3	情報工学実験3 3	情報工学実験4 3	卒業研究 8
体験科目（集中講義）			海事工学演習	→	→	→ 2
		特別講義1 1	特別講義2 1	特別講義3 1	特別講義4 1	特別講義5 1
					インターンシップ	→ 1
総合科目					海事工学 1	環境工学 2

（出典：情報工学科）

資料５－１－①－12

授業科目	特別講義３			担当教員	益崎真治・電子機械工学科長		
学　科	電子機械工学科	学　年	5年	授業期間	後期（夏季集中）	単位数	1
分　野	専門	授業形態	実習	履修区分	選択　（学修単位）		
学習目標	飛行機、自動車、船舶には陸海空それぞれの総合的技術が集まっており、人間に欠かせない乗り物である。本講義では、その中の船舶について本校にある練習船弓削丸を使い、その総合的技術を学ぶことが目的である。						
進め方	講義は夏休みに2泊3日で弓削丸を運航し、その中で集中講義を行いレポート、実習、テストを行うものである。同時に運航先で会社見学実習も行う。ただし受講者数により練習船はまかぜを使った小型船での実習を行なう場合もある。						

学習内容	学　習　項　目　（時間数）	学習到達目標
	ガイダンス　（１）	
	船内生活の基本　（１）	船内生活の基本について学ぶ。
	操船方法について　（２）	船舶の操船方法について学ぶ。
	機関制御と運転について　（２）	機関の構成と運転方法等について学ぶ。
	海事規則について　（２）	船を運航するにあたっての諸規則について学ぶ
	運航実習　（４）	実際に運航を行い実習することで理解を深める。
	工場見学　（２）	関連企業への訪問を行い実際の企業について学ぶ。
	試験　（１）	

評価方法	試験を５０％、レポート・実習達成度および態度を５０％として評価する．２泊３日のため全員出席となるが、航海を行うため欠席者に対しては再履修のための講義は行わない。また、5年生においてインターンシップ、四国地区高専交流事業を履修した者についても単位を認める。		
関連科目	制御工学、熱力学、流体工学、材料力学		
教科書等	【書名】　必要に応じて資料を配布する	【著者】	【発行所】
備　考	夏休みを使った弓削丸航海を予定している。運行中の講義に加え、自習、実習時間を講義以外の時間に設け、学習単位の１単位当たり３０時間の自学自習とする。		

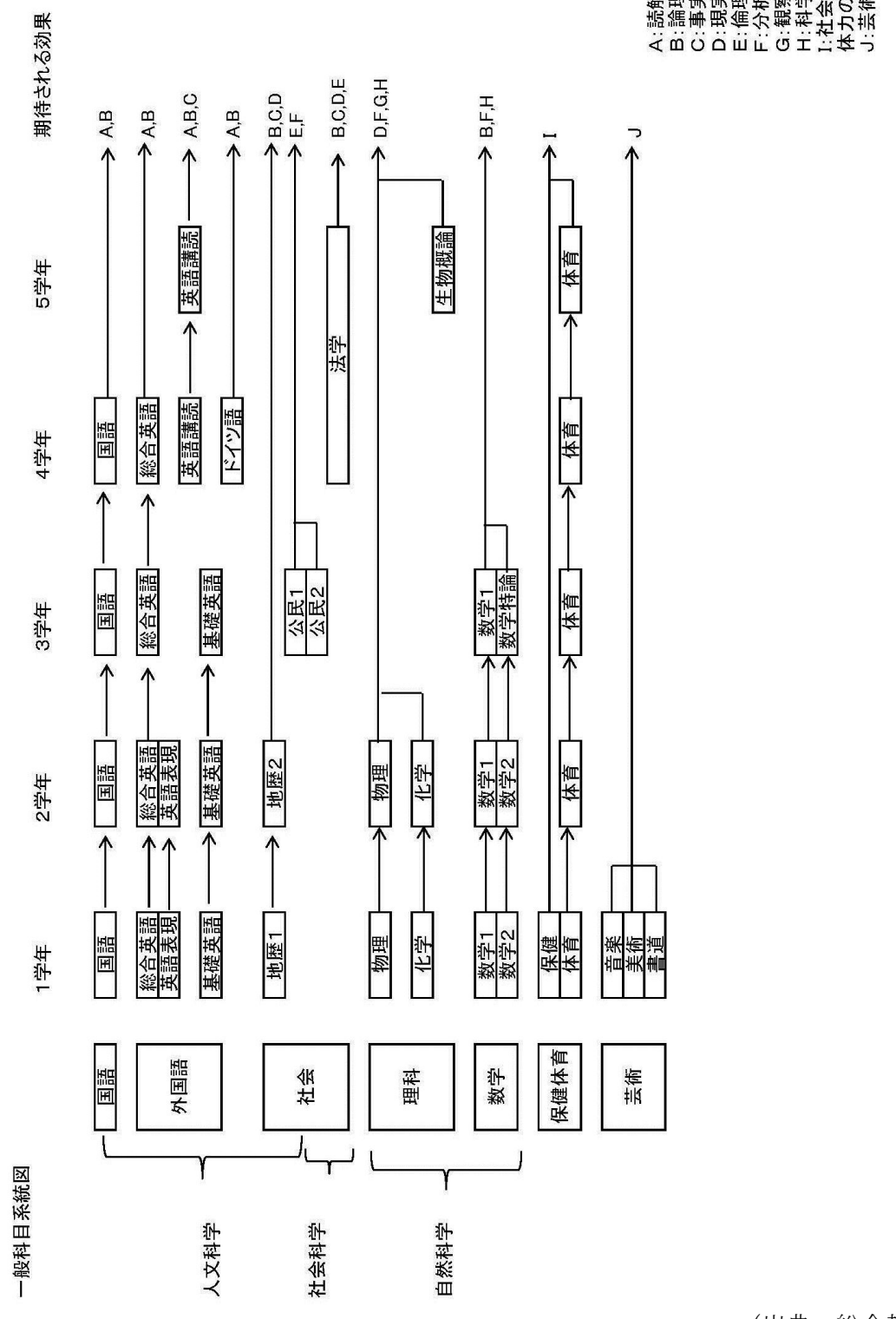
（出典:平成 24 年度授業科目シラバスＰ.344）

資料５－１－①－13

授業科目	海事工学演習1			担当教員	学科長		
学　科	情報工学科	学　年	2年	授業期間	集中	単位数	1
分　野	専門	授業形態	集中	履修区分	選択		
学習目標	本校の特徴設備である「弓削丸」,「はまかぜ」を利用して船舶の運航体制，船舶システムの仕組みを理解する．またあわせて見学する工場見学先の内容を理解する．						
進め方	2年生で実施される航海実習において乗船中の課業および工場見学を実施する．						
学習内容	学　習　項　目　（時間数）			学習到達目標			
	ガイダンス 2年生（1泊2日） 準備　(2) 船内課業・工場見学　(23) 課題作成　(5)			船舶の職制，運航体制を理解する． 見学工場の業務内容を理解する． レポートにまとめる			
評価方法	合計30時間の実習に参加すること．単独では船を運航しないので，欠席者には単位は出ない．欠席者で単位が必要な者は，申し出ること．						
関連科目	海事工学（4年），プラント工学(5年)						
教科書等	【書名】	【著者】	【発行所】				
備　考	（夏季，春季休業中に研究航海が予定されているので，それに合わせて実習が可能なことがある．）						

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．409）

資料５－１－①－14



（出典：総合教育科）

資料５－１－①－15

授業科目	英語表現			担当教員	Gareth O'Gradie、野口隆、上江憲治		
学　科	情報工学科	学　年	１年	授業期間	通年	単位数	3
分　野	一般	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	日常のコミュニケーションに用いられる語彙を確実に身に付け、学習者の習熟度に応じて、聞く、話すという技能の向上を目指す。						
進め方	１４人程度の少人数クラス編成で実施する。簡単な会話を語彙を変えて繰り返すことによって、英語による質問、応答を身につける．また、ワークブックを用いて簡単な聞き取り書き取りを行い、その時間のテーマを確実に身につける．並行して会話を構成するために最小限必要な文法事項を繰り返し学習する						
学習内容	学　習　項　目　（時間数） ガイダンス　（３） 時制、代名詞　（３） Meeting and Greeting People　（６） 可算名詞、不可算名詞　（３） People and Places　（６） 可算名詞、不可算名詞　（３） 可算名詞、不可算名詞の数え方　（３） Greeting Around Town　（６） 未来形、mightの使い方　（３） Housing and Food　（６） 比較、所有代名詞　（３） At Work　（６） 最上級　（３） Health and Emergencies　（６） 命令文　（３） Shopping　（６） 副詞、比較級　（３） 代名詞、if文　（３） 過去進行形、関係代名詞　（３） Recreation　（６） too＋形容詞　（３） 未来進行形、時間の表現　（３）				学習到達目標 授業に対する心構え、必要事項を伝達し、教材・授業内容について説明する テキストで使用されている語彙のうち、担当教員によって指定された語・表現は「使える語」・「使える表現」となるまで覚える。 コミュニケーションに必要とされる簡単な文法項目と英文の組み立て方を口頭で練習し、書いて覚えることによって確実に身につける。 簡単な質問に対して、長考せずに応答できるようになる。		
評価方法	平素の授業における小テスト、口頭練習、書き取り練習、授業への取り組みを総合的に評価する。定期試験は実施せず、各クラスの授業担当者による毎時間の評価の積み重ねを学期末の評価とする						
関連科目	総合英語、基礎英語						
教科書等	【書名】Side By Side Level 1 他		【著者】Steven J. Molinsky		【発行所】Pearson ESL		
備　考	毎回の授業への参加状況が評価の重要なポイントとなるので、授業中は積極的に発言すること．質問に対しては間違えることを恐れずに大きな声で応答すること．教材は必ず持参すること．						

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．375）

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

教育課程については，平成 12 年度以来小幅な改正に留まっていたが，平成 22 年度に学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応するため，大幅な改正を行った。情報工学科においては，学生のニーズ及び学術の発展動向に対応するため資格試験の取得による単位認定を「特別講義１～５」で行えるようにし，商船学科及び電子機械工学科においては，細分化されていた科目の整理統合などにより体系的な編成を行い，６時限で終了する日を確保できたことにより，補習・補講及び１年次の初年次教育の対応等を図ることができるようにした（資料５－１－①－１）。また，一般科目においても，「数学特論」を必修科目に指定し，社会系科目について科目名の変更と内容を社会の要請に合わせるように改正した（資料５－１－②－１）。

商船学科においては，船舶の運航に従事する船員は，船長，機関長等それぞれに対応した資格を保有することが国際条約上求められている。こうした船員の資格に関する国際基準（国際社会からの要請）は，ＳＴＣＷ条約（The International Convention on Standard of Training, Certification and Watch Keeping for Seafarers）に規定されている。本校は第１種船舶職員養成施設として認定されており，教育課程は，５年ごとに国土交通省によるＳＴＣＷ条約に基づく審査を受け認証されている。海技従事者には国家資格が必要で，高専での４年６ヶ月の席上教育課程修了後，１年間の（独）航海訓練所での乗船実習を経れば，３級海技士の筆記試験を免除され，さらに口述試験に合格すれば，その資格が取得できるシステムとなっており，ＳＴＣＷ条約に基づいた海技従事者育成のための教育課程になっている（資料５－１－①－３，資料５－１－②－２）。また，商船学科では，「商船学科の人材養成機能の充実と高度化」を目的に，他高専の商船学科，（社）全日本船舶職員協会，（社）日本船主協会と連携して「ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト」として組織を構築し，多様化する学生のニーズや海運界からの要請に対応するため，教材開発や新たな商船教育システムの開発を行っている（資料５－１－②－３）。

本校以外の教育施設等における学修に関する規則を定め（資料５－１－②－４），他の高等教育機関での学修で単位認定が可能になっている。また，転科に関する規則が整備され（資料５－１－②－５），１年終了時での転科実績がある（資料５－１－②－６）。

各学科において，専門分野の学術の動向に即応するため，豊富な現場経験を持つ技術者を講師に招き，学生に現場や最新技術について教育する「企業技術者等活用プログラム」を利用しており，電子機械工学科では「技術者倫理講演」に活用している（資料５－１－②－７）。

資格試験については，情報工学科では，年次ごとに資格試験のレベルを設定し，取得者には一定の単位を認定することとし，新教育課程では，総認定単位数を４単位増やした（資料５－１－②－８）。また，平成 20 年度に CG－ARTS 協会の認定教育校として登録され，平成 24 年度には合格率部門（団体の部）で優秀賞を受賞しており，ＣＧクリエイター，Ｗｅｂデザイナー，ＣＧエンジニア，画像処理エンジニア，マルチメディアに関連した科目が多くあり，学術の発展動向に対応した教育内容となっている（資料５－１－②－９－１，２）。

電子機械工学科及び情報工学科では，インターンシップによる単位認定も行なっており，多くの学生が単位を修得している（資料５－１－②－10）。また，本校の特色である練習船「弓削丸」を活用した実習は，商船学科では全年次で「校内練習船実習」として単位化しており（資料５－

１－①－３),電子機械工学科及び情報工学科においても航海実習による単位認定を行なっている（資料５－１－②－11)。

中途入学者への対応として，留学生に対しては「日本語」及び「日本事情」の科目を設ける特別教育課程を編成している（資料５－１－②－12，13)。また，学術の発展や社会の動向に広く対応するため，平成 16 年度から四国地区５高専６キャンパスで連携し，各校から専門の講師を招いて特別講義を本校が中心となって実施している（資料５－１－②－14)。

（分析結果とその根拠理由）

平成 22 年度に学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応するため，教育課程を改正し，商船学科では，国際社会からの要請としてＳＴＣＷ条約に基づいた海技従事者育成のための教育課程になっており，更に「ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト」を組織し新たな商船教育システムの開発を行っている。本校以外の教育施設等における学修に関する規則，転科に関する規則が整備され，転科実績がある。資格試験の単位認定，インターンシップによる単位認定，全学科において練習船「弓削丸」を活用した実習での単位認定，留学生への特別教育課程編成などで学生のニーズに対応している。情報工学科では，資格試験による認定単位を増やし，CG－ARTS 協会の認定教育校として優秀賞を受賞しており，ＣＧクリエイター，Ｗｅｂデザイナー，マルチメディア等に関連した科目が多くあり,学術の発展動向に対応した教育内容となっている。また，四国地区高専連携によって各キャンパスから専門の講師を招いて特別講義が実施されている。

以上のことから，本校の準学士課程は，学生のニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対して，教育課程の編成及び授業科目の内容が配慮されている。

資料５－１－②－１

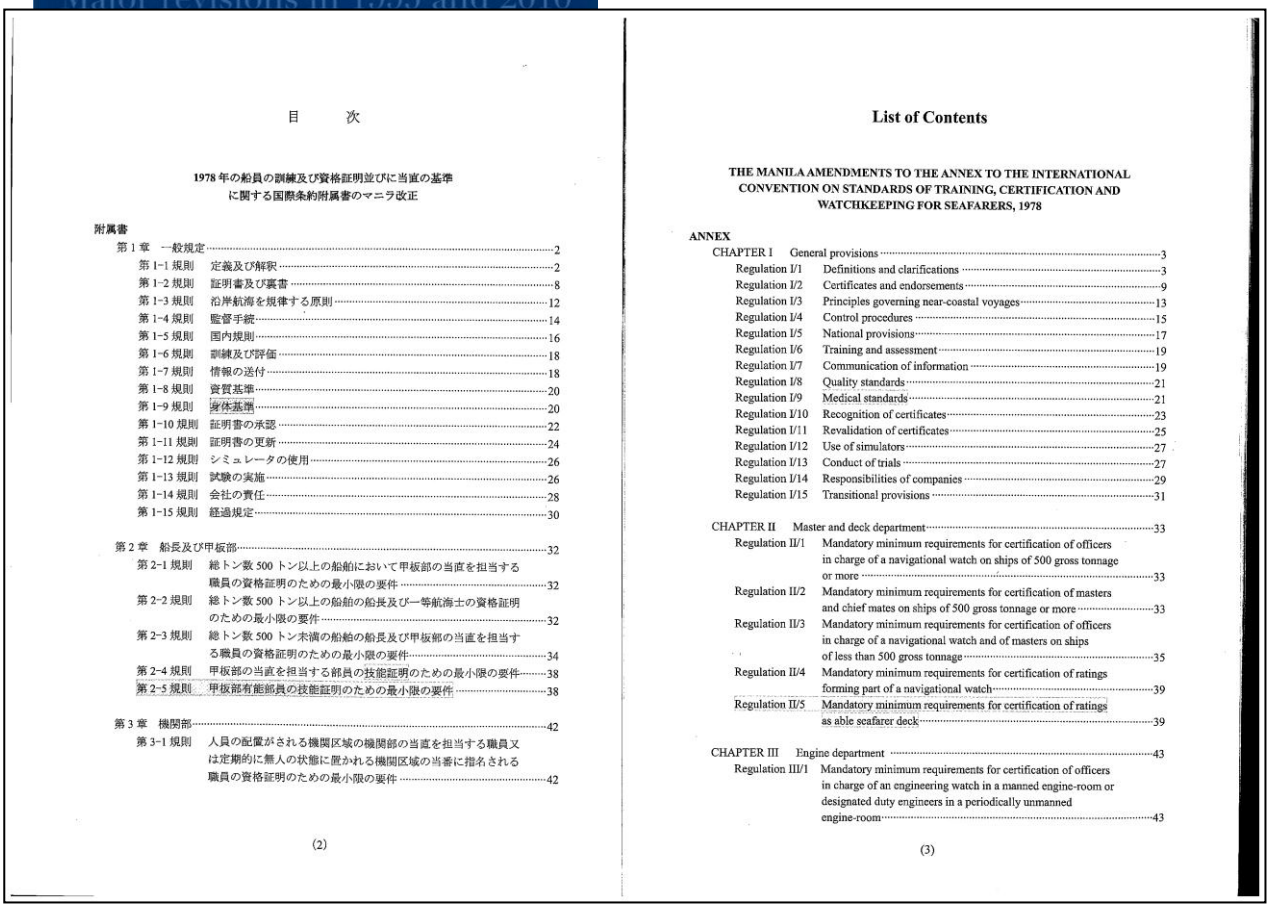
授業科目	公民１			担当教員	山尾　徳雄		
学　科	電子機械工学科	学　年	３年	授業期間	通年	単位数	2
分　野	一般	授業形態	講義	履修区分	必修		

学習目標	政治、経済に関する初歩的知識を身につけさせる。		
進め方	教科書のまとめ中心の板書及びそれについての口頭説明の方式をとる。		
学習内容	学　習　項　目	(時間数)	学習到達目標
	ガイダンス	(1)	
	民主主義の意味	(2)	民主主義の概要を理解する。
	近代市民社会と人権	(2)	現代の社会において人権がどのようにとらえられているかを理解する。
	主権思想と法の支配	(2)	主権の考え方の由来とそのような考え方を支える思想について理解する。
	代議政治と権力分立	(2)	現代の民主性の制度を理解する。
	主要国の政治機構	(2)	世界の主な国でどのような政治制度が採用されているかを理解する。
	憲法の意義と大日本帝国憲法	(2)	日本国憲法と大日本帝国憲法との比較
	日本国憲法の制定過程	(2)	日本国憲法の原理について理解する。
	日本国憲法の基本原理	(2)	
	国会	(4)	国会の制度、権能について理解する。
	内閣と裁判所	(4)	内閣の制度、権能について理解する。
	地方自治	(2)	地方自治の考え方と沿革について理解する。
	政党政治と選挙制度	(3)	政治の方法としての政党政治の問題点について理解する。
	政治参加と世論	(2)	国民の世論とはどのようなものであるべきかについて理解する。
	国際社会の成立と国際法	(3)	国際社会とはどのようなものか、何時成立したと考えられているのかについて理解する。
	国際連盟	(2)	国際機構としての国際連盟の性質と機構について理解する。
	国際連合	(4)	国際連合の概要について理解する。
	その他の国際機構	(3)	連盟、国連以外の国際機構について理解する。
	冷戦終結と２１世紀の国際政治	(1)	これからの国際政治について考える視点を知る。
	軍縮問題と日本の国際協力	(1)	国際平和の一手段たる軍縮について理解する。
	経済の基本概念と経済体制	(4)	経済の基本について理解する。
	資本主義経済の形成とその修正	(4)	資本主義経済について問題点と改良された部分について理解する。
	市場	(4)	市場主義経済について理解する。
	価格機構	(2)	価格が経済において果たす役割を理解する。
評価方法	定期試験に平常点、レポート等を加味して評価する。		
関連科目	法学、経済学		
教科書等	【書名】教養の政治学・経済学	【著者】香川勝俊	【発行所】学術図書出版
備　考	項目毎にまとめて理解するようにしてほしい。		

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．262）

資料５－１－②－２





目　　次

1978 年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準
に関する国際条約附属書のマニラ改正

附属書
第 1 章　一般規定……2
第 1-1 規則　定義及び解釈……2
第 1-2 規則　証明書及び裏書……8
第 1-3 規則　沿岸航海を規律する原則……12
第 1-4 規則　監督手続……14
第 1-5 規則　国内規則……16
第 1-6 規則　訓練及び評価……18
第 1-7 規則　情報の送付……18
第 1-8 規則　資質基準……20
第 1-9 規則　身体基準……20
第 1-10 規則　証明書の承認……22
第 1-11 規則　証明書の更新……24
第 1-12 規則　シミュレータの使用……26
第 1-13 規則　試験の実施……26
第 1-14 規則　会社の責任……28
第 1-15 規則　経過規定……30
第 2 章　船長及び甲板部……32
第 2-1 規則　総トン数 500 トン以上の船舶において甲板部の当直を担当する職員の資格証明のための最小限の要件……32
第 2-2 規則　総トン数 500 トン以上の船舶の船長及び一等航海士の資格証明のための最小限の要件……32
第 2-3 規則　総トン数 500 トン未満の船舶の船長及び甲板部の当直を担当する職員の資格証明のための最小限の要件……34
第 2-4 規則　甲板部の当直を担当する部員の技能証明のための最小限の要件……38
第 2-5 規則　甲板部有能部員の技能証明のための最小限の要件……38
第 3 章　機関部……42
第 3-1 規則　人員の配置がされる機関区域の機関部の当直を担当する職員又は定期的に無人の状態に置かれる機関区域の当番に指名される職員の資格証明のための最小限の要件……42

(2)

List of Contents

THE MANILA AMENDMENTS TO THE ANNEX TO THE INTERNATIONAL CONVENTION ON STANDARDS OF TRAINING, CERTIFICATION AND WATCHKEEPING FOR SEAFARERS, 1978

ANNEX
CHAPTER I　General provisions……3
Regulation I/1　Definitions and clarifications……3
Regulation I/2　Certificates and endorsements……9
Regulation I/3　Principles governing near-coastal voyages……13
Regulation I/4　Control procedures……15
Regulation I/5　National provisions……17
Regulation I/6　Training and assessment……19
Regulation I/7　Communication of information……19
Regulation I/8　Quality standards……21
Regulation I/9　Medical standards……21
Regulation I/10　Recognition of certificates……23
Regulation I/11　Revalidation of certificates……25
Regulation I/12　Use of simulators……27
Regulation I/13　Conduct of trials……27
Regulation I/14　Responsibilities of companies……29
Regulation I/15　Transitional provisions……31
CHAPTER II　Master and deck department……33
Regulation II/1　Mandatory minimum requirements for certification of officers in charge of a navigational watch on ships of 500 gross tonnage or more……33
Regulation II/2　Mandatory minimum requirements for certification of masters and chief mates on ships of 500 gross tonnage or more……33
Regulation II/3　Mandatory minimum requirements for certification of officers in charge of a navigational watch and of masters on ships of less than 500 gross tonnage……35
Regulation II/4　Mandatory minimum requirements for certification of ratings forming part of a navigational watch……39
Regulation II/5　Mandatory minimum requirements for certification of ratings as able seafarer deck……39
CHAPTER III　Engine department……43
Regulation III/1　Mandatory minimum requirements for certification of officers in charge of an engineering watch in a manned engine-room or designated duty engineers in a periodically unmanned engine-room……43

(3)

（出典：ＳＴＣＷ条約 2010 年マニラ改正版表紙，目次）

資料５－１－②－３

※ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト

－商船学科におけるわかりやすい学び、定着する学びを目指して－

富山高等専門学校　○遠藤　真，河合雅司
鳥羽商船高等専門学校　石田邦光
広島商船高等専門学校　笹　健児
大島商船高等専門学校　岩崎寛希
弓削商船高等専門学校　多田光男

1．ALL SHOSEN 学び改善プロジェクトの目的と概要

1．1 背景

商船学科カリキュラムは工学から法規までの多岐にわたる国土交通省指定の船舶職員養成科目が多数を占める構成となっており、近年、中学卒業者を受入れて教育する上で必要な学習過程や、学問体系と不整合を発生している。また、入学生の学力低下や、質の良い教科書等の教材不足なども相俟って、学生自らが商船学の学び方、学ぶ道筋を見つけることが難しくなっており、学力が定着していない、伸びない学生が増加しており、卒業生は不況を脱した海運界の新たな人的需要に充分に応えられないでいる。

1．2 プロジェクトの目的と概要

本プロジェクトは、図-1 に示すように、高専の全商船学科、外部海事関連団体である(社)全日本船舶職員協会（以下、全船協）と(社)日本船主協会（以下、船主協会）が ALL SHOSEN としてのチームを組織して、商船学科学生が求めている「何を学んでいて、今後どのように学んでいけば良いかを明確に示す学びのわかりやすい道筋と学びの定着を促す質の良いコア教材」の開発に取組み、海運界の要望である「商船学科の人材養成機能の充実と高度化」を目指すものである。

2．プロジェクトの内容

富山、鳥羽、広島、大島、弓削(以下、五高専)の商船学科、外部海事関連団体である船主協会と全船協が ALL SHOSEN としてのチームを組織して、平成 23 年度～24 年度の二年間において、次記する各種事業を企画・実施し、人材養成機能の充実と高度化を目指した商船学科の教育改善を進め、その成果を海運界、他海事教育機関や他高専に広く紹介するものである。

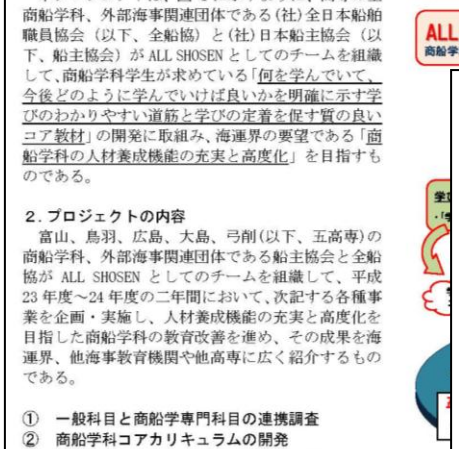
① 一般科目と商船学専門科目の連携調査
② 商船学科コアカリキュラムの開発
③ 「SHOSEN 学習ワークブック」の開発と試行
④ KCC との国際交流、並びに、商船学科学生に適した英語教材の共同開発
⑤ 商船学専門科目に関する質の良い教科書、副読本の開発
⑥ ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト・フォーラムの開催

3．プロジェクトの成果等

平成23年度事業として前述の①～⑤の事業を実施し、次記する成果を得た。

①一般科目と商船学専門科目の連携調査の企画と実施

五高専商船学科の70科目を超える専門科目について、延べ60人以上の教員を対象とした一般科目と商船学専門科目の連携に関するアンケート調査を実施し、小冊子「商船学科における専門科目と一般科目の連携調査報告」(図-2)にまとめ、五校商船学科・一般教科の教員に配布(フィードバック)した。



② 商船学科コアカリキュラムの開発

五高専商船学科の専門科目を調査し、国土交通省指定の船舶職員養成科目を満たす商船学科コアカリキュラムを検討し、小冊子「商船学科コアカリキュラムの開発 最終報告」(図-2)としてまとめ、報告した。

③「SHOSEN学習ワークブック」の検討

一般科目と商船学専門科目の連携調査結果に基づき、学びのわかりやすい道筋について調査し、わかりやすい学びの道筋を具体的に提示する教材について、次年度試作を目指して、検討した。

④ KCCとの国際交流、並びに、商船学科学生に適した英語教材の共同開発

平成23年10月24～26日に、国際交流会を開催(ハワイ)し、小冊子「カウアイコミュニティ・カレッジと五高等専門学校の教育連携に向けた2011年度国際交流会報告」(図-2)としてまとめ、報告した。また、KCCとの共同事業として、商船学科学生に適した英語教材「Surfing Englishダイジェスト版」(図-2)を試作し、検討した。

⑤ 商船学専門科目に関する質の良いコア教材（教科書、副読本）の企画と検討

五高専商船学科の40名を超える教員、外部海事関連団体とKCCが協力して、6種類の質の良いコア教材を企画、執筆しており、そのひとつである「船舶の管理と運用」(図-2)が平成24年2月に発刊された。

4．今後に向けて

事業は概ね当初の計画通り進展しており、平成 24 年度の完結を目指した事業は以下のとおりである。特に、二年計画事業の最終年度としてのまとめ、フォーラムの開催などによる成果の公開と海事社会への波及等を計画している。

① 「SHOSEN 学習ワークブック」の開発
② KCC との国際交流、並びに、商船学科学生に適した英語教材の共同開発
③ 商船学専門科目に関する質の良いコア教材（教科書、副読本）の開発
④ ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト・フォーラムの開催

最後に、本プロジェクトは高専改革推進経費「ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト」の支援により実施されたものであることを付記する。



図-2 平成 23 年度事業におけるまとめ、報告等の冊子/刊行物

（出典：ALL SHOSEN 学びプロジェクト）

資料５－１－②－４

○弓削商船高等専門学校以外の教育施設等における学修等に対する単位の認定に関する規則

制　　定　平成６年２月４日
最終改正　平成18年３月22日

（趣旨）

第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校学則第13条の４の規定に基づき，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）以外の教育施設等における学修等に対する手続き及び単位の認定に関し必要な事項を定める。

（本校以外の教育施設等における学修）

第２条　本校以外の教育施設等における学修とは，次の各号に掲げる学修をいう。

（１）　高等専門学校における学修

（２）　大学又は短期大学及び放送大学における学修

（３）　その他文部科学大臣が別に定める学修

（学修手続）

第３条　学生は，前条第１号及び第２号に規定する教育施設において学修しようとするときは，次の各号に掲げる書類を添えて，学修しようとする１か月前までに，校長に願い出なければならない。

（１）　本校以外の教育施設等における学修許可願（様式１）

（２）　学科長の推薦書

（３）　当該教育施設等の案内及び授業科目履修要項等

（４）　学業成績証明書

（５）　その他必要な書類

２　前項の申請があったときは，校長は，教育上有益と認めるときは科目担当教員を加えた教務委員会の議を経て許可することができる。

（単位認定申請）

第４条　学生は，第２条各号に規定する教育施設等における学修を行い，単位認定を受けようとするときは，本校以外の教育施設等における学修単位認定申請書（様式２）に単位修得証明書，成績証明書を添えて校長に申請するものとする。

（単位の認定）

第５条　前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は，30単位を超えない範囲で科目担当教員を加えた教務委員会の議を経て校長が行う。

附　則

１　この規則は，平成６年２月４日から施行する。

２　第５条の単位の認定は，当分の間，第２条第３号の学修については，行わないものとする。

附　則

この規則は，平成10年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成12年４月１日から施行する。

附　則

（出典：弓削商船高等専門学校規則集６－１抜粋）

資料５－１－②－５

○弓削商船高等専門学校転科に関する規則

制　　定　平成６年２月４日
最終改正　平成18年３月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校学則第21条第２項の規定に基づき，転科について必要な事項を定めるものとする。
（転科の受入れ要件）
第２条　各学科において次の各号に該当する場合は，転科の申請を受理するものとする。
（１）　転科の受入れ学年は，商船学科については２年次までとし，電子機械工学科及び情報工学科については４年次までとする。
（２）　学生数は，転科先の学級の教育に支障がない範囲とする。
（転科の資格）
第３条　転科を希望する者は，次の各号の条件を満たした場合に申請することが出来る。
（１）　現学年において，学則別表第１及び別表第２の所定の進級単位数を修得見込みであること。
（２）　転科先の学科の身体基準を満たしていること。
（転科の申請）
第４条　転科を希望する者は，その理由を付した転科申請書（第１号書式）により12月末日までに，校長に提出しなければならない。
（転科の認定）
第５条　転科の認定は，転科先の学科が行う試験結果をもって教務委員会で審議し，校長が許可する。

附　則
この規則は，平成６年２月４日から施行する。

附　則
この規則は，平成10年４月１日から施行する。

附　則
この規則は，平成18年３月22日から施行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集６－３抜粋）

資料５－１－②－６

転科学生実績

平成２０年度	なし
平成２１年度	なし
平成２２年度	情報工学科１年修了時に商船学科へ１名（H22.4.1）
平成２３年度	なし
平成２４年度	なし

（出典：学生課）

資料５－１－②－７

※整理番号	

平成２３年度「企業技術者等活用プログラム」計画書

①高専番号	41	②高専名	弓削商船高等専門学校

③プログラム名称	企業技術者による技術者倫理講演
（全角20字以内）	副題（サブタイトル）
④キーワード（重要度の高い順に5つ以内）	技術者倫理，企業倫理，コンプライアンス，社会的責任，社会貢献
⑤取組期間	平成　23 年　6 月　～　平成　24 年　3 月
⑥取組学科等	電子機械工学科
⑦取組状況	２　継　続

⑧プログラムの概要

本校電子機械工学科において，弓削商船高等専門学校技術振興会会員企業，および，本校の卒業生が就職している企業など数社に講師派遣を依頼して，１企業あたり１００分の「技術者倫理講演」として講演していただく。また，今回の震災にて問題となったサプライチェーンについても解説いただく。

＊講演目標

人類と人間社会における真の幸せとは何かについて思考できる能力，工学と技術が自然，人類，人間社会に及ぼす正負の影響について正しく評価できる能力，および技術者としての責任感を養うことを目的とする。

＊方針

講師自身の体験や最近の新聞・TV等で報道された事件や問題を多く取り上げることにより，「技術者倫理」「企業倫理」を身近で重要な問題として認識させる。

また，今回の震災により問題となったサプライチェーンの問題についても言及していただき，地元企業と日本全国との企業の関連に関して説明いただくことで，地域企業の国内産業への寄与を再認識させる。

１　プログラムについて

（１）プログラムの特性

技術者倫理教育の効果を上げることを第一に考えて，地元企業に勤務している技術者を招聘し，既に公になった過去の企業倫理，技術者倫理等の実例を挙げて講演していただく。その際，地域共同研究推進センターが中心となって企業との連絡，企業技術者の来校日程調整，学内の教員との日程や授業時間調整，および講演料や交通費の支給方法についての確認など細かな作業についての支援を行う。

これにより，講演の内容などの教育面については招聘技術者と担当教員および学科が互いに検討し合うことが可能となり，内容の充実が図れる。

この震災にて問題となったサプライチェーンについても言及いただくことで，学生は地域産業と国内産業の関わりについて認識を改めることができると期待できる。

また，講演内容以外にさらに期待できる効果として，講師自らの倫理に関する実体験や仕事上の失敗例等も含めて紹介いただくことで，社会人としての責任感や倫理観の意識向上を図ることができる。なお，講演終了後に課題を出し，講演いただいた講師にも目を通していただく。

（出典：学生課）

資料５－１－②－８

情報工学科特別講義単位認定基準

		1年生	2年生	3年生	4年および5年生		専門関連科目
	試験日	1単位	1単位	1単位	1単位	2単位	
漢字検定	数回/年	3級	2級				
数学検定	数回/年	3級	準2級	2級	準1級	1級	
英語検定	1,6,10月			準2級	2級	準1級	
TOEIC	1,3,5,6,7,9,10,11月				400点	450点	
工業英語検定	1,5,6,7,11月			4級	3級	2級	科学技術英語
CAD利用技術者検定	7,12月				2級	1級	CAD
CGクリエーター CGエンジニア Webデザイナー 画像処理エンジニア マルチメディア	7，11月			ベーシック	エキスパート		画像処理，コンピュータグラフィックス マルチメディア工学
品質管理検定	3月,9月			4級	3級	2級	システム工学，信頼性工学， OR，数理統計学
パソコン検定		4級	3級	準2級	2級		全般
MOUSE検定							
ワープロ検定							
ディジタル技術検定	6,11月第4日曜		4級	3級	2級（情報） 2級（制御）		全般
情報処理技術者試験	4，10月				ITパスポート	基本情報技術者	全般
特殊無線技士	2,6,10月		2陸特技士	1陸特技士			電磁気学，通信システム
無線技術士	1,7月					2陸無線技術士	電磁気学，通信システム
工事担任者 ネットワーク接続技	5,11月			DD3種	DD2種	DD1種	ネットワーク理論，情報通信伝達工学
				AI3種	AI2種	AI1種	
電気主任技術者	9月（1次）					第3種	電気電子工学
電気工事士	6月					第2種	電気電子工学
日本語検定				2級	1級		日本語（留学生用）

※各学年において表の得点あるいは級以上を単位として認定する．
※取得資格の単位認定は一回のみ利用できる．
※入学（編入）時に有した資格は単位認定しない．
※4年，5年の取得資格は5年修了時に最大2単位まで認定する．

受験に伴う公欠の認定処理＝＝＞教務委員会

（出典：情報工学科）

資料５－１－②－９－１

トピックス：公益財団法人画像情報教育振興(CG-ARTS)協会から合格率部門で優秀賞受賞

投稿者：webmaster 投稿日時：2013-3-26 8:35:24 (127 ヒット)

公益財団法人画像情報教育振興協会(CG-ARTS協会)が実施している検定試験において，合格率部門(団体の部)で本校が優秀賞を受賞しました．

CG-ARTS協会賞は，全国認定教育校の中から普及振興部門(年間の総受験者数)，合格者部門(年間の総合格者数)，合格率部門(年間のベーシック＆エキスパートの合格率)において，上位10校を表彰しています．本校は2008年(平成20年度)に，CG-ARTS協会の認定教育校として登録され，2012年度，全国認定教育校195校の中からはじめて合格率部門で表彰されました．

CG-ARTS協会の検定試験は，CGクリエイター，Webデザイナー，CGエンジニア，画像処理エンジニア，マルチメディアの5種類があります．本校の情報工学科のカリキュラムには，これらの技術に関連した科目が多くあり，教育内容と学生の努力が評価されました．



（出典：本校ウェブサイト）

資料５－１－②－９－２

CG-ARTS関連科目一覧表

部門	科目	学年
CGクリエイター検定	コンピュータグラフィックス	5学年
画像処理エンジニア検定	情報工学実験2(テーマ:ベクトルデータとラスタデータ)	2学年
	画像処理	4学年
CGエンジニア検定	画像処理	4学年
	コンピュータグラフィックス)	5学年
Webデザイナー検定	情報基礎	1学年
	情報工学実験2(テーマ:ホームページの作成)	2学年
	情報工学実験4(テーマ:Webカメラの仕組みと利用)	4学年
マルチメディア検定	情報工学実験2(テーマ:PCによるビデオ編集と利用)	2学年
	情報工学実験2(テーマ:PC組立・OSインストール)	2学年
	情報工学実験2(テーマ:音声合成)	2学年
	ネットワーク理論	3学年
	データベース	4学年
	通信システム	5学年

（出典：学生課）

資料５－１－②－10

インターンシップ資料

年度	在籍者数			実履修者数			延べ履修者数			履修率（実履修者／在籍者）		
	M4	I4	計	M4	I4	計	M4	I4	計	M4	I4	計
H20年度	40	33	73	31	29	60	32	29	61	77.5%	87.9%	82.2%
H21年度	27	38	65	22	26	48	22	26	48	81.5%	68.4%	73.8%
H22年度	32	36	68	24	29	53	25	29	54	75.0%	80.6%	77.9%
H23年度	31	37	68	31	26	57	36	26	62	100.0%	70.3%	83.8%
H24年度	27	42	69	27	13	40	30	13	43	100.0%	31.0%	58.0%

※H24年度　I4昨年度参加者別途8名、ナコンパノム大学別途4名

（出典：学生課）

平成23年度電子機械工学科4年インターンシップ先一覧

インターンシップ先企業等名	人数	期　間	
JFEスチール株式会社西日本製鉄所	1	8月15日～26日	10日間
アスカコーポレーション株式会社	4	7月26日～30日	5日間
愛媛サニタリープロダクツ株式会社	2	8月2日～10日	7日間
愛媛大学工学部	2	8月1日～5日	5日間
旭化成株式会社	1	8月1日～5日	5日間
株式会社グローバル	4	8月8日～11日	4日間
メタウォーター株式会社	1	7月25日～8月5日	4日間
株式会社みやび堂	1	8月1日～5日	5日間
株式会社三和ドック	1	7月22日～24日	3日間
京セラ株式会社志賀蒲生・八日市工場	1	8月1日～5日	5日間
三菱電機株式会社福山製作所	1	7月25日～8月2日	7日間
四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」	7	8月26日～29日	4日間
四国電力株式会社	1	8月1日～6日	6日間
東芝メディカルシステムズ株式会社中四国支店	2	8月8日～12日	5日間
日信電子サービス株式会社	1	8月22日～26日	5日間
日東電工株式会社尾道事業所	1	8月22日～26日	5日間
日本自動ドア株式会社	1	8月22日～26日	5日間
農友種苗股份有限公司(海外インターンシップ)	3	7月29日～8月7日	10日間
富士電機株式会社	1	8月16日～26日	10日間

（出典：電子機械工学科）

平成23年度情報工学科4年インターンシップ先一覧

インターンシップ先企業等名	人数	期　間	
JFEスチール株式会社西日本製鉄所	1	8月15日～26日	10日間
アスカコーポレーション株式会社	3	7月26日～30日	5日間
ダイキン工業株式会社	1	8月22日～9月2日	5日間
株式会社NTTネオメイト四国支店	1	8月17日～26日	8日間
株式会社イシダ	1	8月18日～31日	10日間
株式会社オプティム	2	7月25日～29日	5日間
株式会社神鋼エンジニアリング＆メンテナンス	1	8月22日～8月31日	8日間
技研電子株式会社	2	8月29日～9月2日	5日間
京セラ株式会社志賀蒲生・八日市工場	1	8月1日～5日	5日間
公益財団法人日本財団	4	8月1日～14日	14日間
四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」	1	8月26日～29日	4日間
大阪ガス株式会社	1	7月20日～28日	7日間
日本原子力発電株式会社	1	8月1日～5日	5日間
八晃産業株式会社	1	8月22日～24日	3日間

（出典：情報工学科）

資料５－１－②－11

2012年度　電子機械工学科

M-3　弓削丸航海実習・会社見学の手引き

日　時：　2012.5.29（火）～2011.5.31（木）
見学先：　29（火）；四国電力株式会社　サンポート高松地区熱供給センター
　　30（水）；株式会社マキタ，金刀比羅宮

引率者：　（生活指導）電子機械工学科　藤本　隆士，（学級担任）電子機械工学科　中山　恭秀
　　（実習指導）弓削丸乗組員

連絡先：

弓削丸		船舶電話	090-3022-5190
学校		実習船係留場　第二技術班（昼）	0897-77-3007
		学生課　学生支援係（昼）	0897-77-4621
		警備員携帯電話（夜）	[redacted]
藤本	隆士	携帯電話	[redacted]
中山	恭秀	携帯電話	[redacted]



弓削商船高等専門学校　電子機械工学科３年

班　　氏名　　.

（出典：電子機械工学科）

資料５－１－②－12

授業科目	日本語　1／2			担当教官	丸山光子		
学科	電子機械工学科	学年	3年留学生	授業期間	通年	単位数	2
分野	一般	授業形態	講義・対話	履修区分	必修		
学習目標	上級話者の会話における適切な表現や語彙を身につけ、日本社会においてよりよい人間関係が構築できるようにする。 異文化に対する理解をより深め、自国と日本の架橋になる。						
進め方	1．会話における適切な表現のマスター、言語外行動の理解及び、読解により語彙数の増加 2．視聴覚教材を活用し、リスニング力を強化する。 3．「話す」「聞く」「読む」「書く」の４技能のレベルアップを図る。						
学習内容	学習項目　（時間数）		学習到達目標				
	【日本語上級話者への道】						
	4課　町の様子を話そう	（4）	話の構成を考えて話題毎に話す。				
	5課　動きの順序を説明しよう	（4）	順序を示す言葉を使いこなす。				
	8課　比べて良さを伝えよう	（4）	場面に適した説明表現を使いこなす。				
	9課　ストーリーを話そう	（4）	接続の表現を効果的に使う。				
	10課　最近の出来事を話そう	（4）	引用を効果的に使う。				
	11課　健康について話そう	（4）	社会的な話題を論理的に話す。				
			因果関係を説明する。				
	12課　将来の夢を語ろう	（4）	理由や背景とともに考えを説明する。				
			抽象的な表現を使いこなす。				
	【日本語超級話者へのかけはし】						
	11課　犯罪傾向から 現代社会を語ろう	（6）	詳細に描写する。 事実とともに意見・感想を述べる。				
			社会的背景にも				
	12課　マスコミの功罪について 討論しよう	（6）	複眼的視点を				
			原因を理解し				
			異なる意見を				
	【テーマ別中級から学ぶ日本語】						
	21課　まもる	（6）	環境問題につ				
	22課　ふれあう	（8）	異文化理解。				
	23課　なおす	（8）	臓器移植につ				
評価方法	定期試験、小テスト、課題、作文、授業への取り組み（出						
関連科目	日本事情　など						
教科書等	「日本語上級話者への道」「日本語超級話者へのかけはし 「中・上級者のための速読の日本語」「聴くトレーニング 【発行所】スリーエー						
備考	授業のはじめに毎回10分程度、速読、またはリスニング						

授業科目	日本語　2／2			担当教員	山尾徳輝、水崎一良、森中俊一、伊藤武志、岡野真也		
学　科	電子機械工学科	学　年	3	授業期間	通年	単位数	2
分　野	一般	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	1、日本語を的確に理解し、適切に表現する能力を養う。2、日本事情を理解し、日本と母国との交流に貢献できる能力を養う。3、日本の伝統文化を学習し、「日本らしさ」の原点に対する理解を深める						
進め方	1、日本語の読解力を高めるため、朗読と語句の理解を徹底する。2、小テスト、課題を実施し、基礎・基本の習得に努めさせる。3、作文、レポートを課し、添削指導をし、学習の徹底を図る。						
学習内容	学　習　項　目	（時間数）	学習到達目標				
	ひらがな、カタカナ５０音字復習	(3)	日本語学習を始めるにあたってこれまでの学習の再確認をさせる				
	日本の歴史概説	(3)	平成までの歴史のあらましと、弓削の歴史に触れる。				
	明治憲法と日本国憲法	(3)	日本の近代化の過程において作られた２つの憲法の特徴を理解させる。				
	日本の政治組織	(3)	日本の政治機構と民主制の実現について理解させる。				
	高度経済成長と公害	(3)	日本の高度成長とその実現と引き換えに日本が背負うことになった公害の除去の問題について理解させる。				
	国際関係	(3)	国際社会の誕生と国際法についてあらましを理解させる				
	日本語で学ぶ基礎化学	(3)	化学の基本を日本語で覚える				
	科学技術と環境問題	(4)	日本の環境問題や科学技術を講義・実験を通し、日本語で学ぶ				
	日本文化とサブカルチャー	(4)	文化や遊びを通し、日本や若者文化を知る事で日本語を理解する				
	日本の武道、剣道	(2)					
	日本の武道、柔道	(2)					
	日本の武道、相撲	(2)					
	日本で開催されたオリンピックについて	(2)					
	日本の交通法規について	(2)					
	平和運動について	(1)	唯一の被爆国の経験を教え、平和の重要性について理解させる				
	科学・技術関連　放射線について	(2)	科学・技術に関する日本語を正確に聞き取る				
	理工系の論文を読む	(4)	日本語の科学論文を読解する				
	振動系について	(2)	理工系の日本語のテキストを読みこなす				
	科学に関する専門用語	(2)	科学的な用語を使った発表をする				
	日本のスポーツ文化	(4)					
	日本の体育	(2)					
	スポーツの科学（理論）	(2)					
	スポーツの科学（実践）	(2)					
評価方法	定期試験、小テスト、課題テスト、作文、授業への取組み（出席、授業態度）						
関連科目	保健体育、日本事情						
教科書等	【書名】		【著者】		【発行所】		
備　考							

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．289，290）

資料５－１－②－13

授業科目	日本事情			担当教員	ガンバット，藤本　隆士		
学　科	電子機械工学科	学　年	3年（留学生）	授業期間	通年	単位数	2
分　野	専門	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	授業の中で使われている用語，言い回しなどを理解するとともに，本校の教育システム，日本の生活，風習の理解を深める．また，授業を受ける上で支障がないよう1，2年次の専門科目についても補習を行う．これらの作業を通して自然なコミュニケーション能力を養う．						
進め方	前期は授業で理解できなかった内容を中心に解説し，その後，電気電子および機械に関する基礎知識の補習を行う．						
学習内容	学　習　項　目　（時間数）			学習到達目標			
	ガイダンス　（5）			日本の生活に対する疑問を解決する． 日本での週刊，日本人のものの考え方を母国と比較し，そのメリット・デメリットを考える． また，本校で効率よく学習するために教育システムを理解し，1，2年次の科目で不足している部分を調べる．			
	専門用語の補習　（15）			授業の中で出てきた理解しにくい表現や，専門用語などを中心に学び，授業を時間内で理解するための日本語能力を身に付ける．			
	専門科目の補習　（40）			1，2年次の科目で不足している電気系・機械系の部分を理解する．また，必要に応じて実習で行った項目についても補習を行い，今後の授業で必要となる基礎知識を身につける．			
評価方法	授業を通して理解度をはかり評価する．						
関連科目	一般科目全般，専門科目，実習						
教科書等	【書名】　必要に応じて資料を配布		【著者】				
備　考							

授業科目	日本語			担当教員	伊藤　芳浩		
学　科	情報工学科	学　年	4年留学生	授業期間	通年	単位数	2
分　野	専門	授業形態	対話形式	履修区分	必修		
学習目標	あらゆる科目の理解の到達度を自ら見直し、日本語が要因となり到達度が低くなっているものを克服する。						
進め方	日本語能力の自己分析を行い、教員とディスカッションしながら、授業で用いられる日本語の理解度を高めていく。						
学習内容	学　習　項　目　（時間数）			学習到達目標			
	ガイダンス　（1）			授業の進め方を理解する。			
	前期授業内容の作成　（1）			前期間の講義内容を教員と共に作成する。補強すべき科目を自らが意識してカリキュラムを作成する。			
	カリキュラムの実行　（28）			作成したカリキュラムを実行する。			
	前期授業内容の作成　（1）			後期間の講義内容を教員と共に作成する。補強すべき科目を自らが意識してカリキュラムを作成する。			
	カリキュラムの実行　（29）			作成したカリキュラムを実行する。			
評価方法	授業をとおして理解度をはかり，評価する．						
関連科目							
教科書等	【書名】		【著者】		【発行所】		
備　考							

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．291，471）

資料５－１－②－14

四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」実施要領

１　目　　的　　四国地区高専間の連携・交流を推進するため、本校練習船を活用し、科学技術・共同生活及びエネルギーシステムについて特別講義を行い、広い視野を持った技術者の養成又、即戦力を備えた技術者の育成を目的とする。

２　期　　日　　平成２４年８月２１日（火）～８月２４日（金）

３　日　　程　　別紙「日程表」のとおり

４　場　　所　　弓削商船高等専門学校　練習船「弓削丸」ほか

５　テ ー マ　　エネルギーシステムについて

６　単　　位　　１単位（３０時間）

７　単位認定　　単位認定は提出されたレポートで成績評価を行い、他の科目との単位互換等は各高専で行う。

８　対象学生　　各学科（４年次又は５年次が望ましい。）

９　募集人員　　各高専５名程度

10　講義名及び担当者

（１）「バイオ技術を活用したエネルギーの現状と最新の技術動向」
（担当者：香川高専高松キャンパス　　多川　正）

（２）「ＬＥＤの利用による省エネルギー化」
（担当者：阿南高専　　長谷川　竜生）

（３）「バイオマスエネルギーとその生成システム」
（担当者：高知高専　　永橋　優純）

（４）「電気エネルギー伝送技術の基礎から応用まで」
（担当者：新居浜高専　　加藤　克巳）

（５）「地熱発電（または海洋温度差発電）について」（仮題）
（担当者：香川高専詫間キャンパス　　田嶋　眞一）

（６）「操船と舵」
（担当者：弓削商船高専　　永本　和寿）

（７）「舶用機関システム」
（担当者：弓削商船高専　　松永　直也）

11　集合場所及び集合時間　　弓削商船高等専門学校　第一会議室
平成２４年８月２１日（火）１４時３０分

（出典：学生課）

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

実践的技術者育成のための教育課程を展開するにふさわしい授業形態として，すべての年次で講義・演習・実験・実習をバランスよく適切に配置している（資料５－２－①－１～４）。職業に必要な能力の育成のために，講義の中でも適宜演習を取り入れ，実習や実験では少人数グループに分けて実施し，情報処理教育センターや実験室をはじめとする各種施設を活用して（資料５－２－①－５），教育効果を高めている。また，複数の教員・技術職員で支援する体制を全学科で取り，高度化かつ多様化してゆく専門分野に対応できる資質を養えるように整備している（資料５－２－①－６）。商船学科の「校内練習船実習」は，船舶職員としての資質を涵養するため，各クラスを２グループに分けて別日程で実施し実習効果を上げている（資料５－２－①－７）。英語教育においては，１年次での少人数教育の実施（資料５－２－①－８）やオーラルコミュニケーション能力育成のためのマルチメディア教室での授業などを行なっている（資料５－２－①－９）。

全学科で本校の特色である練習船「弓削丸」を活用した実習を実施していることや（資料５－２－①－10），e-learning コンテンツ（資料５－２－①－11）に，本校のウェブサイトの「e-learning サイト」からログインして活用することができるなど多面的に学習指導方法の工夫を凝らしている。

また，低学年における基礎学力不足の学生への配慮として，１年次に対して，初年次教育支援室を中心に数学及び英語の補講・補習等を行っている（資料５－１－①－１，資料５－２－①－12）。

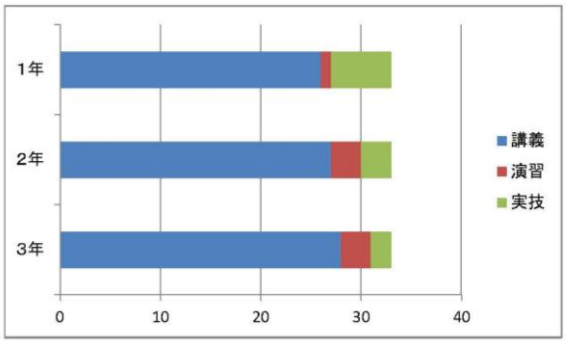
（分析結果とその根拠理由）

各科目の授業内容に応じてすべての学年で，少数グループによる授業，演習，実験や複数教員による授業など実践的技術者育成のためにバランスよく適切に授業形態が整備されている。また，本校の特色である練習船「弓削丸」を活用した実習，情報処理教育センター，マルチメディア教室をはじめとする各種施設を活用しての授業，e-learning サイトを設けて活用するなど多面的に学習指導方法の工夫がなされ教育課程が展開されている。

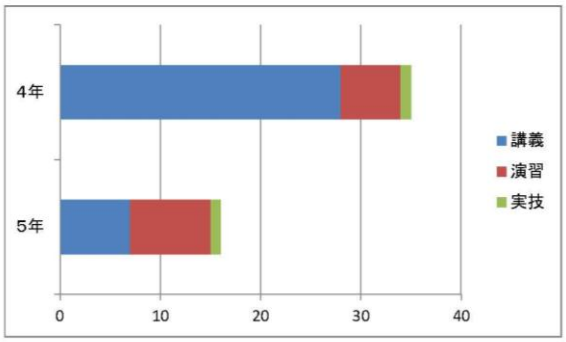
以上のことから，教育の目的に照らして，授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料５－２－①－１

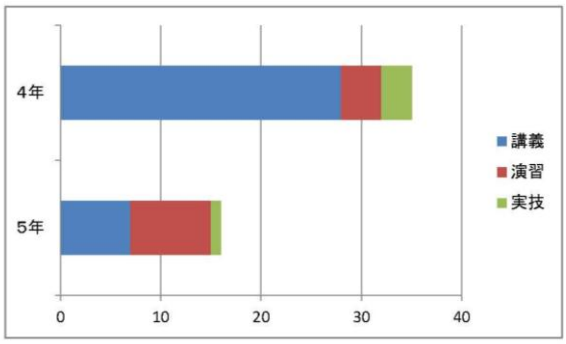
商船学科



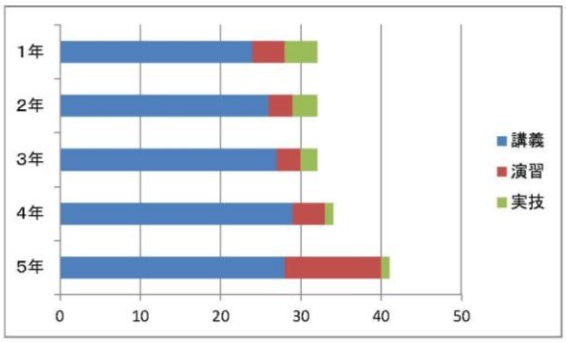
商船学科（航海コース）



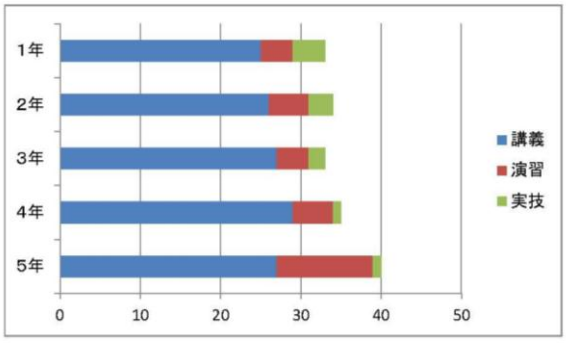
商船学科（機関コース）



電子機械工学科



情報工学科



（出典：学生課）

資料５－２－①－２

商船学科学年別授業形態一覧

商船学科1年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	3	講義
	2	地歴1	2	講義・演習
	3	数学1	4	講義
	4	数学2	2	講義
	5	化学	2	講義
	6	物理	2	講義
	7	保健	1	講義
	8	体育	2	実技
	9	音楽	2	実技
	10	美術	2	実技
	11	書道	2	実技
	12	総合英語	2	演習
	13	英語表現	3	講義
	14	基礎英語	1	講義
専門科目	15	情報処理1	2	講義
	16	商船学概論	2	講義
	17	操艇・通信	2	実技・講義
	18	校内練習船実習	1	実習・講義
	19	特別活動	1	特別活動

商船学科2年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	3	講義
	2	地歴2	2	講義・演習
	3	数学1	4	講義
	4	数学2	2	講義
	5	化学	2	講義
	6	物理	2	講義
	7	体育	2	実技
	8	体育	1	実技・講義
	9	総合英語	2	演習
	10	英語表現	2	講義
	11	基礎英語	1	講義
専門科目	12	基礎力学	1	講義
	13	情報処理2	1	講義
	14	電磁気学	2	講義
	15	通信工学	1	講義
	16	通信法規	1	講義
	17	専門英語1	1	講義
	18	実験実習1	2	実験実習
	19	校内練習船実習	1	実習・講義
	20	特別活動	1	特別活動

商船学科3年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	2	講義
	2	公民1	2	講義
	3	公民2	2	講義・演習
	4	数学1	4	講義
	5	数学特論	2	講義
	6	体育	2	実技
	7	総合英語	2	演習
	8	基礎英語	1	演習
専門科目	9	材料力学1	1	講義
	10	熱力学1	1	講義
	11	水力学	2	講義
	12	電気工学1	2	講義
	13	計測・制御1	2	講義
	14	船舶工学	2	講義
	15	海事法規1	2	講義
	16	専門英語2	1	講義
	17	実験実習2	2	実習
	18	校内練習船実習	1	実習・講義
	20	特別活動	1	特別活動

商船学科4年（航海コース）

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	1	講義
	2	法学2	2	講義
	3	体育	1	実技
	4	総合英語	1	演習
	5	英語講読	2	講義
	6	第二外国語	2	講義
専門科目	7	応用数学	2	講義
	8	電子工学1	2	講義
	9	船舶安全工学	2	講義
	10	校内練習船実習	2	実習
	11	航海計測学	2	講義
	12	天文・電波測位学	2	講義・演習
	13	船体運動力学	2	講義
	14	運送管理学1	2	講義
	15	海上交通法1	2	講義
	16	海事法規2	1	講義
	17	海洋気象学	1	講義
	18	海運経済論	2	講義
	19	航海学実験	3	実験

商船学科4年（機関コース）

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	1	講義
	2	法学2	2	講義
	3	体育	1	実技
	4	総合英語	1	演習
	5	英語講読	2	講義
	6	第二外国語	2	講義
専門科目	7	応用数学	2	講義
	8	電子工学1	2	講義
	9	船舶安全工学	2	講義
	10	校内練習船実習	2	実習
	11	材料工学	2	講義
	12	熱工学	2	講義
	13	電気工学2	2	講義
	14	計測・制御2	2	講義
	15	内燃機関学1	2	講義
	16	内燃機関学2	2	講義
	17	蒸気工学	2	講義
	18	設計製図	2	講義・実技
	19	工学実験	3	実験

商船学科5年（航海コース）

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	生物概論	1	講義
	2	体育	1	実技
	3	英語講読	1	講義
	4	校内練習船実習	1	実習・講義
	5	航海学2	1	講義
専門科目	6	運送管理学2	1	講義
	7	海上交通法2	1	講義
	8	海上交通工学	1	講義
	9	海洋環境論	1	講義
	10	航海学演習	2	演習
	11	卒業研究	4	実験
	12	商船学セミナー	1	講義・実技

商船学科5年（機関コース）

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	生物概論	1	講義
	2	体育	1	実技
	3	英語講読	1	講義
	4	校内練習船実習	1	実習
	5	材料学	1	講義
専門科目	6	電子工学2	1	講義
	7	流体機械工学	1	講義
	8	潤滑工学	1	講義
	9	推進論	1	講義
	10	機関学演習	2	演習
	11	卒業研究	4	実験
	12	商船学セミナー	1	講義・実技

（出典：商船学科）

資料５－２－①－３

電子機械工学科学年別授業形態一覧

電子機械工学科1年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	3	講義
	2	地歴1	2	講義・演習
	3	数学1	4	講義
	4	数学2	2	講義
	5	化学	2	講義
	6	物理	2	講義
	7	保健	1	講義
	8	体育	2	実技
	9	音楽	2	実技
	10	美術	2	実技
	11	書道	2	実技
	12	総合英語	2	演習
	13	英語表現	3	講義
	14	基礎英語	1	講義
専門科目	15	基礎機械制御工学	1	講義
	16	設計製図1	1	講義
	17	電子計算機1	2	講義・演習
	18	工作実習1	2	実習
	19	特別活動	1	特別活動

電子機械工学科2年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	3	講義
	2	地歴2	2	講義・演習
	3	数学1	4	講義
	4	数学2	2	講義
	5	化学	2	講義
	6	物理	2	講義
	7	体育	2	実技
	8	体育	1	実技・講義
	9	総合英語	2	演習
	10	英語表現	2	講義
	11	基礎英語	1	講義
専門科目	12	工業力学1	1	講義
	13	設計製図2	2	講義
	14	シーケンス制御	1	講義
	15	電気磁気学	2	講義
	16	電子計算機2	1	講義・演習
	17	工作実習2	2	実習
	18	特別活動	1	特別活動

電子機械工学科3年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	2	講義
	2	公民1	2	講義
	3	公民2	2	講義・演習
	4	数学1	4	講義
	5	数学特論	2	講義
	6	体育	2	実技
	7	総合英語	2	演習
	8	基礎英語	1	演習
専門科目	9	工業力学2	1	講義
	10	材料力学1	1	講義
	11	材料学	2	講義
	12	機械工作法	2	講義
	13	設計製図3	1	講義
	14	計測工学	2	講義
	15	電気回路	2	講義
	16	電子工学	2	講義
	17	工作実習3	2	実習
	18	特別活動	1	特別活動

電子機械工学科4年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	1	講義
	2	体育	1	実技
	3	総合英語	2	演習
	4	英語講読	1	講義
	5	第二外国語	2	講義
専門科目	6	応用数学1	2	講義
	7	応用物理1	2	講義
	8	情報処理	2	講義
	9	材料力学2	2	講義
	10	流体力学	2	講義
	11	熱力学	2	講義
	12	設計製図4	2	講義
	13	制御工学	2	講義
	14	電子回路	2	講義
	15	工学実験1	3	実験
	16	工作機械	1	講義
	17	電気電子機器	2	講義
	18	特別講義1	1	実習
	19	特別講義2	1	講義
	20	特別講義3	1	講義

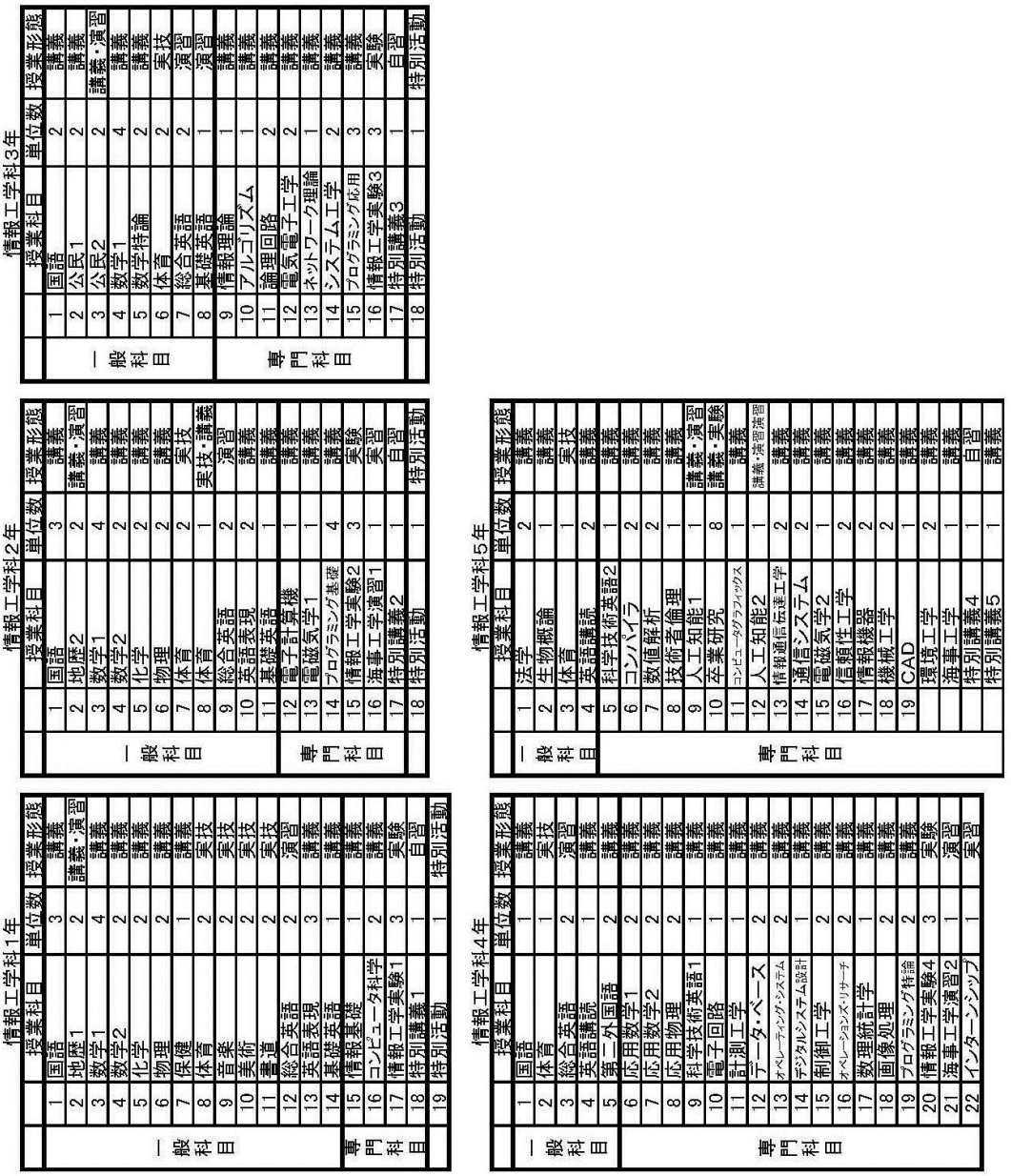
電子機械工学科5年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	法学	2	講義
	2	生物概論	1	講義
	3	体育	1	実技
	4	英語講読	2	講義
専門科目	5	応用数学2	2	講義
	6	応用物理2	2	講義
	7	機構学	2	講義
	8	材料力学3	1	講義
	9	設計製図5	2	講義
	10	計算機制御	2	講義
	11	工学実験2	3	実験
	12	卒業研究	8	実験
	13	数値解析	1	講義
	14	情報処理特論	1	講義
	15	エネルギー工学	1	講義
	16	振動工学	1	講義
	17	表面工学	1	講義
	18	ディジタル制御工学	1	講義
	19	制御工学特論	1	講義
		システム工学	1	講義
		ロボット工学	1	講義
		電子回路特論	1	講義
		工業英語	2	講義
		特別講義4	1	講義・実習

（出典：電子機械工学科）

資料５－２－①－４

情報工学科学年別授業形態一覧



情報工学科1年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	3	講義
	2	地歴1	2	講義・演習
	3	数学1	4	講義
	4	数学2	2	講義
	5	化学	2	講義
	6	物理	2	講義
	7	保健	1	講義
	8	体育	2	実技
	9	音楽	2	実技
	10	美術	2	実技
	11	書道	2	実技
	12	総合英語	2	演習
	13	英語表現	3	講義
	14	基礎英語	1	講義
専門科目	15	情報基礎	1	講義
	16	コンピュータ科学	2	講義
	17	情報工学実験1	3	実験
	18	特別講義1	1	自習
	19	特別活動	1	特別活動

情報工学科2年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	3	講義
	2	地歴2	2	講義・演習
	3	数学1	4	講義
	4	数学2	2	講義
	5	化学	2	講義
	6	物理	2	講義
	7	体育	2	実技
	8	体育	1	実技・講義
	9	総合英語	2	演習
	10	英語表現	2	講義
	11	基礎英語	1	講義
専門科目	12	電子計算機	1	講義
	13	電磁気学1	1	講義
	14	プログラミング基礎	4	講義
	15	情報工学実験2	3	実験
	16	海事工学演習1	1	実習
	17	特別講義2	1	自習
	18	特別活動	1	特別活動

情報工学科3年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	2	講義
	2	公民1	2	講義
	3	公民2	2	講義・演習
	4	数学1	4	講義
	5	数学特論	2	講義
	6	体育	2	実技
	7	総合英語	2	演習
	8	基礎英語	1	演習
専門科目	9	情報理論	1	講義
	10	アルゴリズム	1	講義
	11	論理回路	2	講義
	12	電気電子工学	2	講義
	13	ネットワーク理論	1	講義
	14	システム工学	2	講義
	15	プログラミング応用	3	講義
	16	情報工学実験3	3	実験
	17	特別講義3	1	自習
	18	特別活動	1	特別活動

情報工学科4年

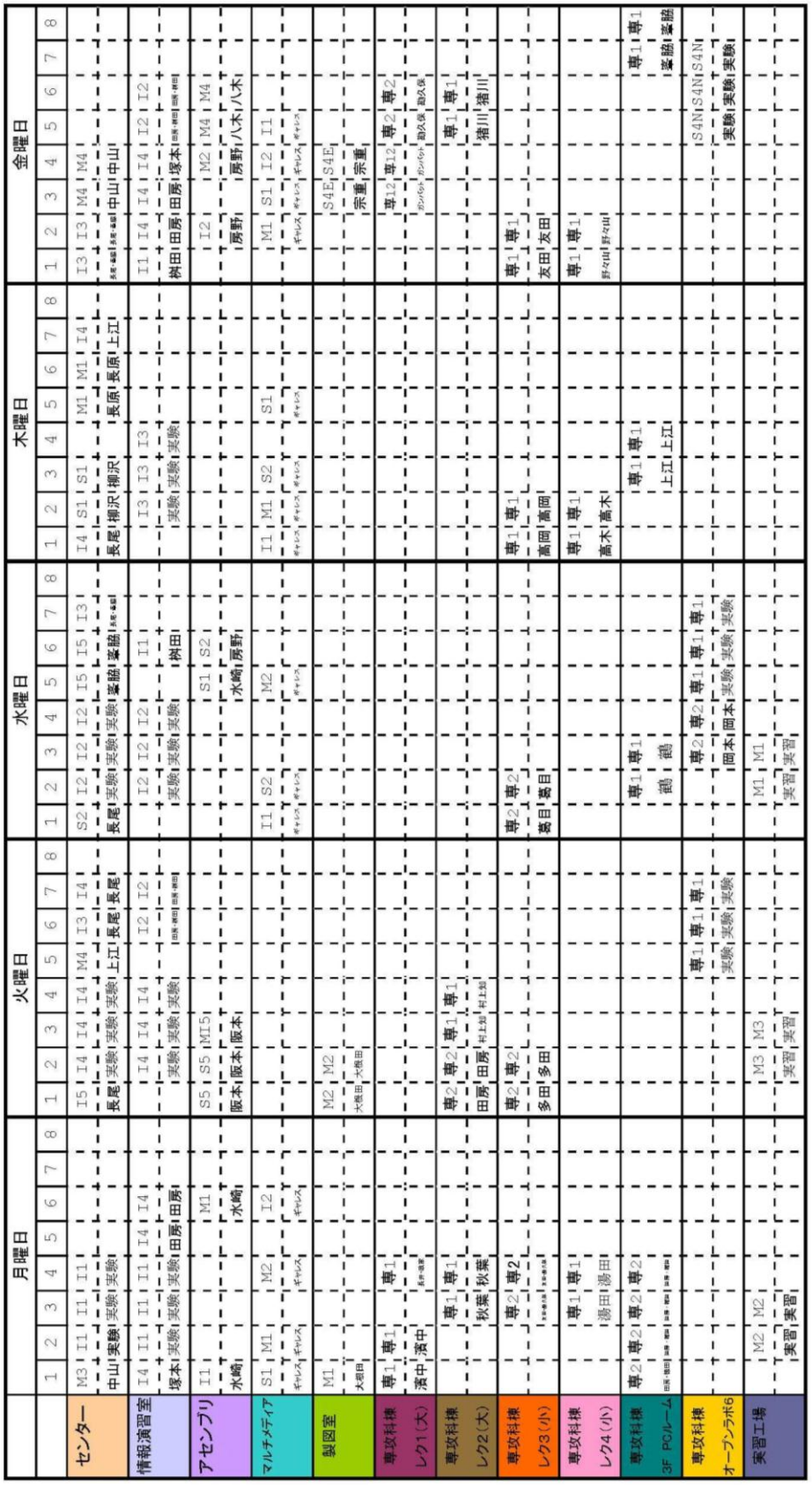
		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	国語	1	講義
	2	体育	1	実技
	3	総合英語	2	演習
	4	英語講読	1	講義
	5	第二外国語	2	講義
専門科目	6	応用数学1	2	講義
	7	応用数学2	2	講義
	8	応用物理	2	講義
	9	科学技術英語1	1	講義
	10	電子回路	1	講義
	11	計測工学	1	講義
	12	データ・ベース	2	講義
	13	オペレーティングシステム	2	講義
	14	デジタルシステム設計	1	講義
	15	制御工学	2	講義
	16	オペレーションズリサーチ	2	講義
	17	数理統計学	1	講義
	18	画像処理	2	講義
	19	プログラミング特論	2	講義
	20	情報工学実験4	3	実験
	21	海事工学演習2	1	演習
	22	インターンシップ	1	実習

情報工学科5年

		授業科目	単位数	授業形態
一般科目	1	法学	2	講義
	2	生物概論	1	講義
	3	体育	1	実技
	4	英語講読	2	講義
	5	科学技術英語2	1	講義
専門科目	6	コンパイラ	2	講義
	7	数値解析	2	講義
	8	技術者倫理	1	講義
	9	人工知能1	1	講義・演習
	10	卒業研究	8	講義・実験
	11	コンピュータグラフィックス	1	講義
	12	人工知能2	1	講義・演習
	13	情報通信伝達工学	2	講義
	14	通信システム	2	講義
	15	電磁気学2	1	講義
	16	信頼性工学	2	講義
	17	情報機器	2	講義
	18	機械工学	2	講義
	19	CAD	1	講義
		環境工学	2	講義
		海事工学	1	講義
		特別講義4	1	自習
		特別講義5	1	講義

（出典：情報工学科）

資料５－２－①－５



	月曜日								火曜日								水曜日								木曜日								金曜日							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
センター	M3 中山	I1 実験	I1 実験	I1 実験					I5 長尾	I4 実験	I4 実験	I4 実験	M4 上江	I3 長尾	I4 長尾		S2 長尾	I2 実験	I2 実験	I2 実験	I5 薬品	I5 薬品	I3 薬品		I4 長尾	S1 柳沢	S1 柳沢		M1 長原	M1 長原	I4 上江		I3 実験	I3 実験	I3 実験					
情報演習室	I4 塚本	I1 実験	I1 実験	I1 実験	I4 田房	I4 田房				I4 実験	I4 実験	I4 実験		I2	I2			I2 実験	I2 実験	I2 実験		I1				I3 実験	I3 実験	I3 実験					I1 樹田	I4 田房	I4 塚本	I2	I2		
アセンブリ	I1 水崎				M1 水崎				S5 阪本	S5 阪本	M15 阪本								S1 水崎	S2 房野												I2 房野	M2 房野	M4 八木	M4 八木			
マルチメディア	S1 ギャレン	M1 ギャレン	M2 ギャレン	I2 ギャレン													I1 ギャレン	M1 ギャレン	S2 ギャレン	M2 ギャレン					T1 ギャレン	M1 ギャレン	S1 ギャレン	I2 ギャレン	T1 ギャレン				M1 ギャレン	S1 ギャレン	I2 ギャレン	T1 ギャレン				
製図室	M1 大畑田								M2 大畑田	M2 大畑田																		S4E 宗重	S4E 宗重										
専攻科棟 レク1(大)	専1 演中	専1 演中		専1																								専12	専12	専2	専2								
専攻科棟 レク2(大)		専1 秋葉	専1 秋葉		専1 秋葉				専2 田房	専2 田房	専1 村上始	専1 村上始																						専1 渚川	専1 渚川				
専攻科棟 レク3(小)		専2	専2	専2					専2 多田	専2 多田							専2 葛目	専2 葛目							専1 高岡	専1 高岡							専1 友田	専1 友田						
専攻科棟 レク4(小)		専1 湯田	専1 湯田																						専1 高木	専1 高木							専1	専1						
専攻科棟 3F PCルーム	専2	専2	専2														専1 鶴	専1 鶴									専1 上江	専1 上江									専1	専1 薬品	薬品	
専攻科棟 オープンラボ6												専1 実験	専1 実験	専1	専1 実験			専2 岡本	専2 岡本	専1 実験	専1 実験	専1 実験											S4N	S4N	S4N	S4N				
実習工場	M2 実習	M2 実習							M3 実習	M3 実習							M1 実習	M1 実習																						

（出典：学生課）

資料５－２－①－６

複数教員・技術職員支援による授業一覧表

総合教育科

科目名	クラス
体育	3学科1年生
英語表現	3学科1年生
音楽・美術・書道	3学科1年生
体育	3学科2年生
体育	3学科3年生

商船学科

操艇・通信	商船学科1学年
校内練習船実習	商船学科1学年
専門英語1	商船学科2学年
実験実習1	商船学科2学年
校内練習船実習	商船学科2学年
専門英語2	商船学科3学年
実験実習2	商船学科3学年
校内練習船実習	商船学科3学年
校内練習船実習	商船学科4学年Nコース
航海学1	商船学科4学年Nコース
航海学実験	商船学科4学年Nコース
校内練習船実習	商船学科4学年Eコース
工学実験	商船学科4学年Eコース
校内練習船実習	商船学科5学年Nコース
航海学演習	商船学科5学年Nコース
卒業研究	商船学科5学年Nコース
校内練習船実習	商船学科5学年Eコース
内燃機関学3	商船学科5学年Eコース
機関学演習	商船学科5学年Eコース
卒業研究	商船学科5学年Eコース

電子機械工学科

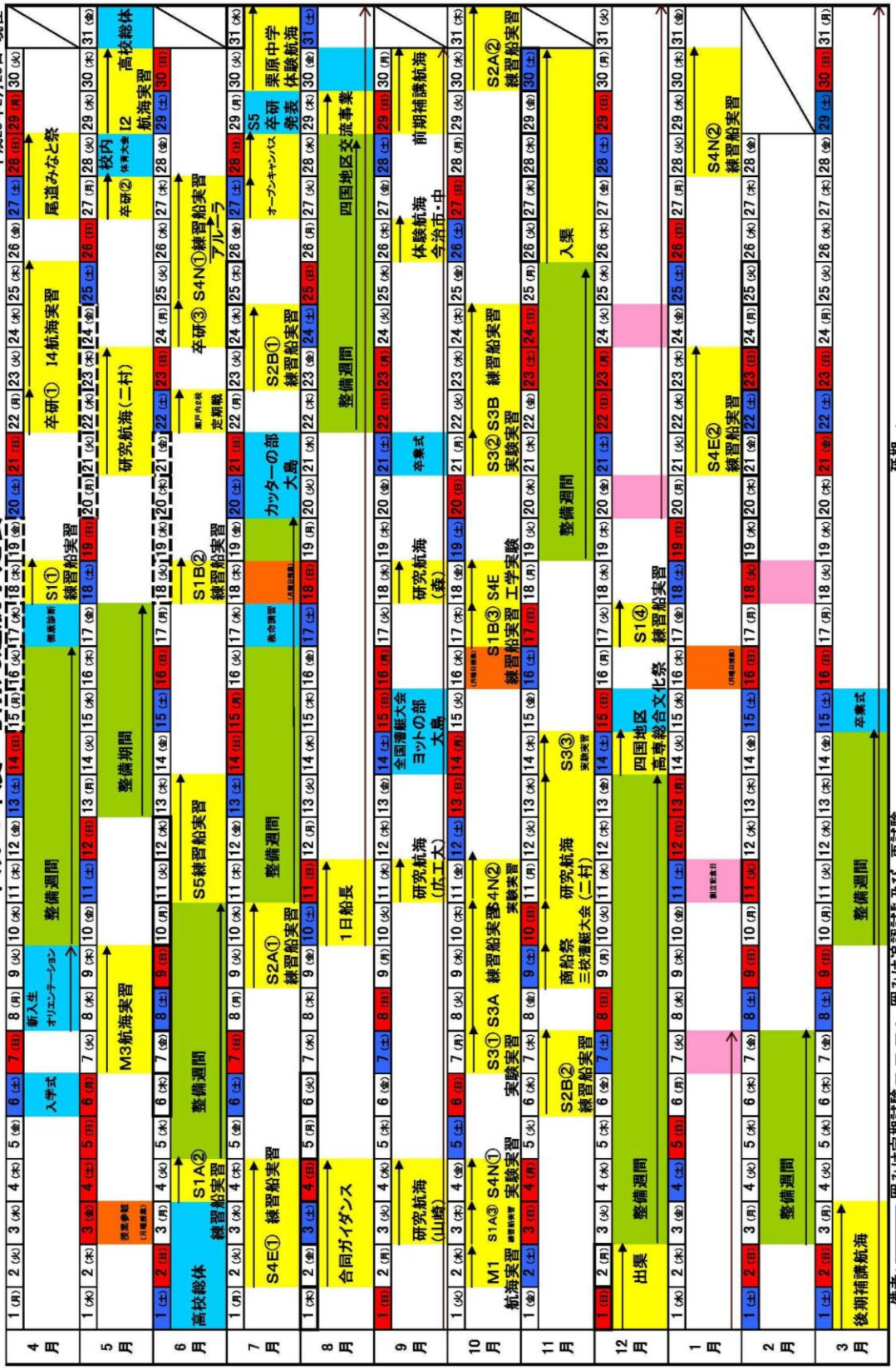
基礎機械制御工学	電子機械工学科1学年
工作実習1	電子機械工学科1学年
工作実習2	電子機械工学科2学年
機械工作法	電子機械工学科3学年
工作実習3	電子機械工学科3学年
日本語	電子機械工学科3学年
日本事情	電子機械工学科3学年
設計製図4	電子機械工学科4学年
工学実験1	電子機械工学科4学年
工学実験2	電子機械工学科5学年
卒業研究	電子機械工学科5学年

情報工学科

情報工学実験1	情報工学科1学年
プログラミング基礎	情報工学科2学年
情報工学実験2	情報工学科2学年
情報工学実験3	情報工学科3学年
情報工学実験4	情報工学科4学年
セミナー3	情報工学科4学年
卒業研究	情報工学科5学年
人工知能	情報工学科5学年

（出典：学生課）

資料５－２－①－７



（出典：練習船弓削丸班）

資料５－２－①－８

授業科目	英語表現			担当教員	Gareth O'Gradie、野口隆、上江憲治		
学　科	情報工学科	学　年	１年	授業期間	通年	単位数	3
分　野	一般	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	日常のコミュニケーションに用いられる語彙を確実に身に付け、学習者の習熟度に応じて、聞く、話すという技能の向上を目指す。						
進め方	１４人程度の少人数クラス編成で実施する。簡単な会話を語彙を変えて繰り返すことによって、英語による質問、応答を身につける．また、ワークブックを用いて簡単な聞き取り書き取りを行い、その時間のテーマを確実に身につける．並行して会話を構成するために最小限必要な文法事項を繰り返し学習する						

学習内容	学　習　項　目	（時間数）	学習到達目標
	ガイダンス	（３）	授業に対する心構え、必要事項を伝達し、教材・授業内容について説明する
	時制、代名詞	（３）	
	Meeting and Greeting People	（６）	
	可算名詞、不可算名詞	（３）	テキストで使用されている語彙のうち、担当教員によって指定された語・表現は「使える語」・「使える表現」となるまで覚える。
	People and Places	（６）	
	可算名詞、不可算名詞	（３）	
	可算名詞、不可算名詞の数え方	（３）	
	Greeting Around Town	（６）	コミュニケーションに必要とされる簡単な文法項目と英文の組み立て方を口頭で練習し、書いて覚えることによって確実に身につける。
	未来形、mightの使い方	（３）	
	Housing and Food	（６）	
	比較、所有代名詞	（３）	簡単な質問に対して、長考せずに応答できるようになる。
	At Work	（６）	
	最上級	（３）	
	Health and Emergencies	（６）	
	命令文	（３）	
	Shopping	（６）	
	副詞、比較級	（３）	
	代名詞、if文	（３）	
	過去進行形、関係代名詞	（３）	
	Recreation	（６）	
	too＋形容詞	（３）	
	未来進行形、時間の表現	（３）	

評価方法	平素の授業における小テスト、口頭練習、書き取り練習、授業への取り組みを総合的に評価する。定期試験は実施せず、各クラスの授業担当者による毎時間の評価の積み重ねを学期末の評価とする。		
関連科目	総合英語、基礎英語		
教科書等	【書名】Side By Side Level 1 他	【著者】Steven J. Molinsky	【発行所】Pearson ESL
備　考	毎回の授業への参加状況が評価の重要なポイントとなるので、授業中は積極的に発言すること．質問に対しては間違えることを恐れずに大きな声で応答すること．教材は必ず持参すること．		

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．375）

資料５－２－①－９

論文集「高専教育」　第 31 号　2008.3

初年次学生の多様化する学習経験を改善するための教員の連携と実践

堀口 正之[*1] 濵中 俊一[*2] 上江 憲治[*2]
藤井 清治[*2] 坂内 宏行[*2] 石橋 洋二[*3]
（弓削商船高等専門学校）

Improving the Insufficiency of First-year Students' Study Experiences through Cooperation between Teachers

以下関連する内容を抜粋

３．教育の取り組み内容

３．１　英語オーラル教育３分割授業の取り組み

本校では、国際的技術者育成の観点から、新入学生に見られる英語学習経験の差を早期に改善し、英語の使用と学習に対する自信を深めさせることを目指して、平成 16 年度から初年次学生を対象として英語オーラル少人数授業に取り組んでいる。本節では、その主要な特色を紹介した後、学生アンケートの結果を通じて本取り組み効果の一端を報告する。

まず、授業形態としては年度初めに学科ごと出席番号順に、クラス総員数をほぼ３等分することで 14 名前後から成る３つのグループを形成する。このグループ単位で、週あたり３時間（１日１時間）年間で 90 時間の授業をしている。 各グループに対しては、毎週１時間ずつ日替わりで異なる教員（非常勤ネイティブスピーカー１人、日本人英語教員２人)が授業している。また、同じ学科の各グループに対しては、異なる教室で同時並行した授業展開をしている。主教材としては、平成 18 年度の場合、下記の２点を受講生全員に購入させた。

・『ワード・バイ・ワード　イラスト辞典』[3)]

・*WORD by WORD Beginning Workbook*[4)]

『イラスト辞典』は、各ページが日常生活に関する１つのテーマを扱う独立した課（Lesson）になっている。 各課では、単語の意味が和訳と使用文脈を描いたイラストの中で説明されているので意味説明に長い時間をかけずに済むことが利点である。 *Workbook* は、知識の定着や推理判断力の向上を主なねらいとしている。

授業の進め方に関しては、学生に易しい英語を話し、聞く機会を多く与えることをモットーとして、各教員は概ね次のような手法をとっている。

① 学習テーマに関するディスカッション
② 意味を覚えながら、単語、熟語の発音練習
③ 意味や文法の補足説明
④ 様々な会話の聞き取りと発音練習
⑤ ワークブックや教員作成のプリント学習
⑥ 学生同士のペアワークによる会話練習

授業進度としては、毎回、必ず１つの課をやり切ることにしている。各教員は、易しい英語で授業進行しながら学生一人一人に丁寧な指導を行っているが、学生の理解度に応じて日本語も併用している。教員間の役割分担として、ネイティブスピーカーは文法よりも会話練習に重点を置いている。日本人教員は、会話練習だけでなく語彙と文法の習熟も重視するので、既習範囲の小テストも実施している。 また、各教員は、授業の様子や問題点などについて度々意見交換を行うことで教育連携の充実を図っている。

成績評価法については、英語力の向上に不可欠

（出典：論文集「高専教育」第 31 号Ｐ．560）

となる継続的な学習態度を付けさせるねらいから、定期試験にはよらず、授業担当教員全員による毎時間の評価の積み重ねを学年末評価としている。

最後に、本取り組みの教育効果の検証と今後の授業改善を目指して、平成 18 年度に本授業を受講した情報工学科１年生を対象として、年度末に無記名方式で行ったアンケートのうち４項目についての結果と学生の主な感想と要望を紹介する（図１と表１を参照）。

項目１に関して、約６割の受講生が‘分かり易い’または‘とても分かり易い’と回答していることは､少人数教育の一つの成果だと思われるが､その割合が一層高まるように、改善を重ねていきたい。項目 2、3、4 は、いずれも英語のスキルアップに関するものであるが、いずれの項目に関しても、約３割～5 割弱の学生がある程度技能が向上したと感じている一方、半数以上の学生が‘変わらない’と回答しており、授業内容の物足りなさを示唆している。この点については、学生の習熟度に応じたより柔軟な指導ができるように、教材の選定や授業手法の再検討を行いたい。

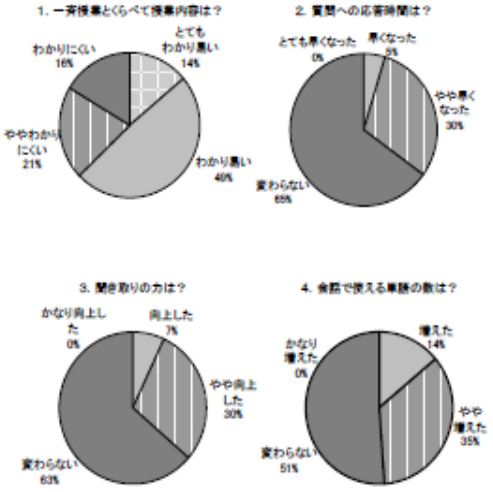


図１　英語オーラル少人数授業のアンケート

ネイティブスピーカーの先生に関して

1問1問ていねいに教えてくれる／たのしくできている／ネイティブスピーカーの先生なので発音とリスニングの力が上がったように思う／授業がとても分かりやすい／会話を覚えるのは難しい／会話の練習がとてもやりやすいです／普通に授業を進めてくれて、早くも、遅くもない

日本人教員に関して

教員Ａ：
留学した時の体験を話してくれるので授業に新鮮さがある／自分の体験などをよく話してくれたりし、海外のことを知るようになった／教科書にないコラム的なことも教えて下さるので充実した授業です/英会話の数を３倍くらいに増やしてほしい

教員Ｂ：
テンポが良いので授業が楽しい／単語テストするのはイイと思う／単語を書いて会話もするので覚えやすいです／英会話の数を３倍くらいに増やしてほしい

（出典：論文集「高専教育」第 31 号Ｐ．561）

資料５－２－①－10

平成24年度　航海実習・工場見学実施状況一覧

クラス	期間	訪問地
商船学科2学年A班	９月６日～７日	呉市
商船学科2学年B班	９月13日～14日	呉市
商船学科2学年A班	１月24日～25日	高松市
商船学科2学年B班	１月31日～２月１日	高松市
商船学科3学年A班	10月18日～20日	香川県土庄町・神戸市
商船学科3学年B班	10月25日～27日	香川県土庄町・神戸市
商船学科4学年航海コース	６月28日～30日	神戸市
商船学科4学年機関コース	７月５日～７日	神戸市
商船学科4学年航海コース	11月８日～10日	北九州市
商船学科4学年機関コース	11月15日～17日	神戸市
商船学科5学年	６月11日～15日	福岡市
電子機械工学科1学年	5月19日	福山市
電子機械工学科3学年	５月24日～26日	呉市
電子機械工学科5学年	８月29日～31日	広島市
情報工学科2学年	５月11日～12日	倉敷市
情報工学科4学年	４月26日～28日	高松市・神戸市

（出典：学生課）

資料５－２－①－11

弓削商船高専 E-learning サイト

コースカテゴリ をスキップする

コースカテゴリ

2012 年度
情報工学科 (9)
情報工学実験4 (3)
情報工学実験3 (1)
情報工学実験2 (1)
情報工学実験1
商船学科 (1)
電子機械工学科 (1)
生産システム工学専攻 (5)
海上輸送システム専攻
資格試験対策
その他 (7)

コースの検索: Go

サイトニュース をスキップする

サイトニュース

このサイトは弓削商船高等専門学校の授業をインタラクティブに進め、学習の支援を行うために開設されました。 コンピュータを教える授業だけがインターネットの役割ではありません。コンピュータを使わない対面式の授業やゼミにおいてもインターネットの恩恵を受けることができます。

1. 先生は授業のコンテンツ（テキスト・画像・映像・音声・ホームページなど）をアップロードすることができます。
2. 毎週の授業内容にコメントを記入することができます。
3. 受講学生とメールを通じて、助言・指導が行えます。
4. 学生はコースをどこからでもダウンロードし学習できます。
5. 学生は授業の前に先生からのコメントを見ることができます。
6. 学生は先生にメールなどで質問することができます。
7. レポートの提出をオンラインでできます。

（出典：本校ウェブサイト）

資料５－２－①－12

平成２４年度初年次教育支援項目表

実施日	項目	担当	内容
（3月）	入学準備（春季課題学習）	英、数、国教員	英数国の教員に問題作成を依頼、配布
5/11	初年次教育支援室第1回打ち合わせ会	初年次教育支援室員	今年度の活動方針と年間計画
4/11，4/12	新入生オリエンテーション	初年次教育支援室員	学生主事と協力支援
4/13，4/16	英数国３教科校内学力試験	初年次教育支援室英語数学担当教員	結果を分析、学級担任にフィードバック
5/10	合同ホームルーム（高専生活について、学習方法、悩みの相談等）	初年次教育支援室員	教務主事、学生主事、カウンセラー講話
5/18，5/21，5/25，5/28，6/1，6/4	前期中間試験前補習（月、金７限）	英語、数学担当教員	英語、数学の補習
9/20	学外講師による講演会	新中央工業　関　俊治氏	働くことの意義について
11/8	学外講師による講演会	愛媛県赤十字センター所長　松坂俊光先生	命の大切さとタバコの害について
9/7，9/10，9/14，9/24	前期期末試験前補習（月、金７限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
10/3	学級担任、学生主事補との連絡会	初年次教育支援室員、学生主事・主事補	学生支援上の問題点について意見交換
11/4	芸術授業発表会（商船祭）	芸術科目教員、初年次教育支援室員	芸術科目講師の発表会支援（準備／当日／片付け）
11/16，11/19，11/26，11/30	後期中間試験前補習（月、金７限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
1/17	専攻科生講演	専攻科生	海上輸送1名、生産システム2名による講演と質疑応答
2/4，2/8，2/15，2/18	後期期末試験前補習（月、金７限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
2/19	音楽授業選択者年度末おさらい会	音楽教員、初年次教育支援室長、副室長	芸術科目講師の発表会支援
3月	校歌練習		音楽講師に依頼（学級担任、支援教員）

（出典：学生課）

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程のシラバスは，学科別に定められた教育課程に沿って科目別に作成され，年次ごとに一般科目と専門科目に分類され，まとめられている。

シラバスの作成に当たっては，全教員に作成要領（資料５－２－②－１）を配布し，記載内容の形式を統一しており，学修単位の場合には１単位当たり 30 時間の自学自習が必要であることを明記している。シラバスの記載内容については，各学科のシラバス担当教員によって点検・改善を行なっている。

具体的な様式は，資料５－２－②－２のようになっており，講義の最初に授業ガイダンスを設け（シラバスを活用して講義の目的・内容・成績評価などについての説明），学習目標を掲げ，授業の進め方を示し，各時間の学習項目とその学習到達目標を明記し，成績の評価方法を具体的に示して学生の履修に役立つように配慮している。学修単位の自学自習の実質化のための対策としては，レポートや自学自習課題の提出を求め，成績評価に反映することとしている。また，商船学科では，第１種船舶職員養成施設に関連する授業科目内容の該当項目も明示している（資料５－２－②－３）。

シラバスは，ウェブサイトに公開され（資料５－２－②－４），クラスごとに抜き刷りを作成して，全学生に配布している。

教員のシラバスの活用状況については，アンケート結果（資料５－２－②－５）から，「よく活用している」，「ある程度活用している」を合わせると約 87%の教員が活用しており，「授業の内容を全般的に説明する」または「授業計画の策定と実際の授業の進め方」に活用している教員が 80%を超えていることから，概ね活用されていると判断される。しかしながら，学生のシラバス活用状況については，アンケート結果（資料５－２－②－６）から，「活用している」と回答した学生は 25%程度に留まっており，活用度を上げる改善が必要である。

（分析結果とその根拠理由）

本校のシラバスは，教育課程の編成に沿って配置された科目ごとに作成され，記載内容の形式が統一されている。学修単位の自学自習の実質化のための対策としてレポートや自学自習課題の提出を求めることも明記されている。商船学科においては，第１種船舶職員養成施設に関連する授業科目内容の該当項目も明示している。シラバスの抜き刷りは全学生に配布されており，ウェブサイトに公開されている。教員はガイダンス等を通じて概ねシラバスを活用しているが，学生の利用度は不十分で改善が必要である。記載内容については，点検・改善を重ねている。

以上のことから，教育課程の編成に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備されている。活用については，教員は概ね活用しているが，学生の活用に関しては改善の余地がある。

資料５－２－②－１

平成２４年度シラバス作成要領について

１．記入に当たっては、できるだけ学生が理解しやすいような平易な表現を用いてください。

２．作成要領（記入例を参考に記入してください。）

①**授業科目**：授業科目名を記載してください。

②**担当教員**：教員名を記載してください。多数の教員で担当する場合は代表教員の氏名を記載し、その他の教員名は学習内容の欄の中に記載してください。（例えば、卒業研究、工学実験、工作実習などにおいて。）

③**学　　科**：商船学科、電子機械工学科、情報工学科　などと記載してください。

④**学　　年**：１年、２年、３年、４年、５年　などと記載してください。

⑤**授業期間**：通年、前期、後期　などと記載してください。

⑥**単 位 数**：１、２、３、４、５　などと記載してください。

⑦**分　　野**：一般、専門　などと記載してください。

⑧**授業形態**：講義、実験、実習、演習、実技　などと記載してください。

⑨**履修区分**：必修、選択　などと記載してください。また**学修単位**は括弧書きで記入してください。

⑩学習目標：学習の到達目標や概要を記述してください。

⑪**進 め 方**：授業の方法を記述してください

⑫**学習内容**：学習内容の項目と時間数を記載してください。
学習項目欄の最初に学習内容のガイダンスを必ず入れてください。
３０単位時間の授業をもって１単位とする（定期試験は除く。）。

⑬**評価方法**：試験、レポート、小テスト、出席状況、授業態度などの成績評価方法を記載してください（出来るだけ**具体的に数値で表現してください**。）。

⑭**関連科目**：本授業科目と関連性のある授業科目名を記載してください。

⑮**教科書等**：教科書、参考書など、**書名･著者・発行所の順に各枠内**に記載してください。

⑯**備　　考**：到達目標に達しない場合の学生への対応（補習、補講など）、**学修単位の科目については「１単位当たり〇〇時間の自学自習を必要とする。」と明記し**、その他留意事項などを記述してください。

３．文章は、**Ｗｏｒｄ**　か　**Ｅｘｃｅｌ**　を使用し，字のスタイルはＭＳ明朝で作成してください。

４．ファイル名は**24 ｼﾗﾊﾞｽ(ｸﾗｽ 授業科目名 担当教員名）としてください。**また必ず**１ページに収めて**ください。

５．学科等の代表者への提出期限：**１月３１日（火）**

６．学科等の代表者がまとめて、ＵＳＢメモリにて教務係に提出してください。
（学科等の代表者へは平成２３年度の学科等分のシラバスをＵＳＢメモリに入れてお渡ししますので，配付・取りまとめ方よろしくお願いします。）

（出典：学生課）

資料５－２－②－２

授業科目	電子回路特論			担当教員	長井　弘志		
学　科	電子機械工学科	学　年	5年	授業期間	前期	単位数	1
分　野	専門	授業形態	講義	履修区分	選択　（学修単位）		
学習目標	演算増幅器の特性と使い方を学習し，パルス波形の処理について学ぶ．						
進め方	講義を基本とし，毎週レポートの提出を求める．						

学習内容	学　習　項　目	（時間数）	学習到達目標
	ガイダンス	(1)	
	1．増幅演算器		
	増幅演算器の基本特性	(1)	増幅演算器の基本的な特性について理解する．
	反転増幅器	(1)	反転増幅器とその応用例について学ぶ．
	非反転増幅器	(1)	非反転増幅器とその応用例について学ぶ．
	加算器・減算器	(1)	加算器や減算器について学ぶ．
	積分器・微分器	(1)	積分器，微分器について学ぶ．
	アナログ計算機	(1)	
	中間試験		
	演算増幅器の応用	(1)	電流ー電圧変換回路などの応用例について学ぶ．
	演算増幅器の特性	(2)	スルーレート，入力バイアス電流などの特性について学ぶ．
	2．パルス波形の処理		
	パルスの性質	(2)	非安定マルチバイブレータについて理解する．
	演算増幅器による方形パルスの発生	(1)	演算増幅器によるパルス発生回路について学ぶ．
	波形整形回路	(2)	クリップ回路などの波形整形回路について学ぶ．
	期末試験		

評価方法	・15時間の講義と30時間の自習を必要とするため，合計で30時間に相当するレポート課題の提出を求める．期限内に課題の提出が無い場合は，減点，または欠点とする． ・定期試験約50%，課題・小テスト約45%，授業態度等約5%として評価する．
関連科目	物理，電磁気学，応用物理，電子回路，電子工学，計測工学，電気回路

教科書等	【書名】	【著者】	【発行所】
備　考	1単位当たり30時間の自学自習を必要とする．		

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．342）

資料５－２－②－３

授業科目	海事法規１			担当教員	野々山　和宏		
学　科	商船学科	学　年	３年	授業期間	通年	単位数	2
分　野	専門	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	海事法規における主要な法の目的、内容、適用等を学習する。						
進め方	座学の講義を基本とする。理解の手助けとなるよう、海技試験問題を例示する。						

学習内容	学　習　項　目	（時間数）	学習到達目標
	海事法規ガイダンス	（１）	
	海事法規概要	（２）	海事に関する法規の全体像を把握する
	船舶法及びこれに基づく命令	（７）	船舶法の概要、適用を理解する
	法の目的、船舶の概念、日本船舶の権利義務		（養成施設　N船舶　３時間　E海法　２時間）
	船舶の表示、船舶国籍証書　等		
	船員法及びこれに基づく命令	（17）	船員法の構成、沿革、意義を理解し、
	法の目的、基本原則、概要		船員として必要な職務・義務を把握する
	・・・・・前期中間テスト・・・・・・・		（養成施設　N船員　９時間　E海法　４時間）
	船長の職務と権限、船内規律		
	船員労働安全衛生規則　等		
	船舶職員法及び小型船舶操縦者法及びこれに基づく命令	（７）	法の目的、適用を理解する
	海技従事者の免許、海技免状、乗組基準　等		（養成施設　E海法　２時間）
	国際条約との関係（STCW条約）		
	海難審判法及びこれに基づく命令	（２）	法の目的、適用を理解する
	法の目的、概要、近年の改正内容　等		（養成施設　E海法　１時間）
	水先法及びこれに基づく命令	（２）	法の目的、適用を理解する
	法の目的、概要、近年の改正内容　等		（養成施設　E海法　１時間）
	関税法及びこれに基づく命令	（１）	法の目的、適用を理解する
	法の目的、概要　等		（養成施設　E海法　１時間）
	船舶安全法及びこれに基づく命令	（11）	船舶安全法の目的、構成、沿革を理解し、
	法の目的、適用、概要、関係法令概説　等		安全基準や船舶検査等の概要を把握する
	国際条約との関係		（養成施設　E海法　３時間）
	（SOLAS条約、STCW条約、SAR条約）		
	・・・・・後期中間テスト・・・・・・・		
	海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律及びこれに基づく命令	（８）	海洋汚染防止に関する法の主旨を理解し、
	法の目的、概要、排出規制と排出基準		例外規定としての排出基準等を把握する
	油の排出の通報、防除措置義務　等		（養成施設　E海法　３時間）
	国際条約との関係（MARPOL条約）		
	検疫法及びこれに基づく命令	（２）	法の目的、適用を理解する
	法の目的、検疫伝染病、検疫　等		（養成施設　E海法　１時間）

養成施設引当て科目＆単位	航海コース	機関コース
	船員法　０．３単位	海事国際法　０．６単位
	船舶法、トン測法、船舶安全法　０．１単位	
免許講習引当て時間	１級海上特殊無線技士　２時間	１級海上特殊無線技士　２時間
評価方法	中間試験の評価点及び期末試験の評価点を70%、小テスト・レポート及び出席状況等の平常点を30%として評価する。学年末成績は全評価点の平均とする。	
関連科目	海事法規２	
教科書等	【書名】　海事法 海事六法	【著者】海事法研究会　編 国土交通省海事局　監修	【発行所】　海文堂 海文堂
備　考	他人に不快感を与えない服装で出席すること。	

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．95）

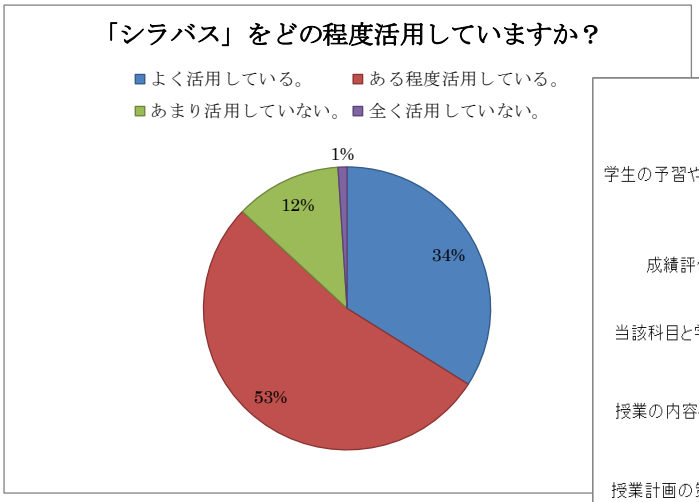
資料５－２－②－４

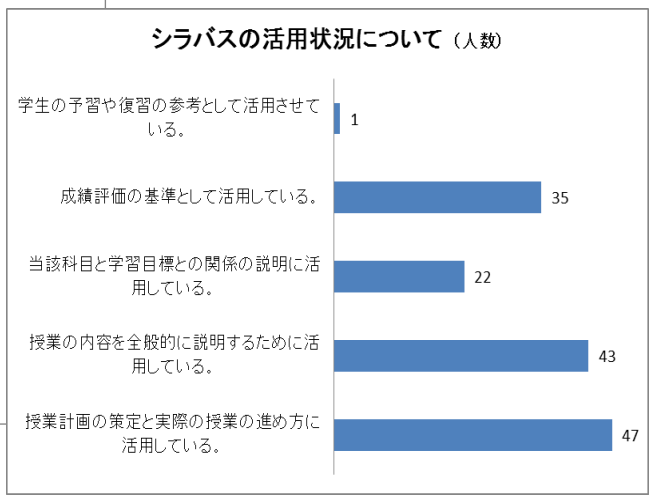


（出典：本校ウェブサイト）

資料５－２－②－５

教員アンケート結果

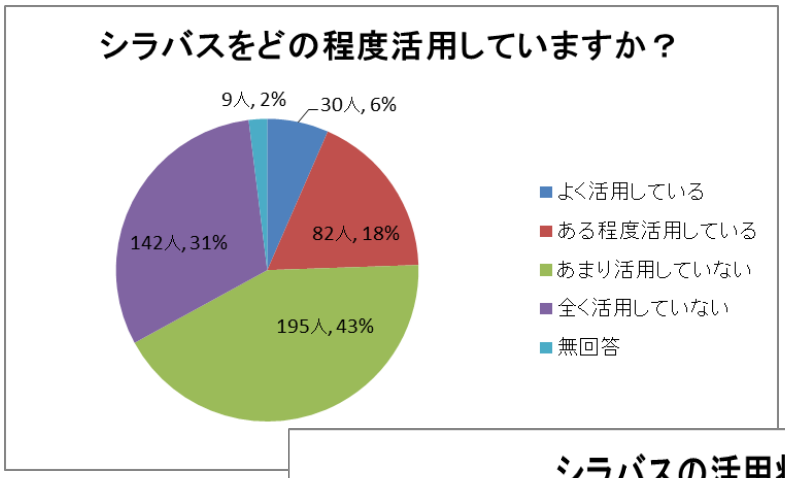


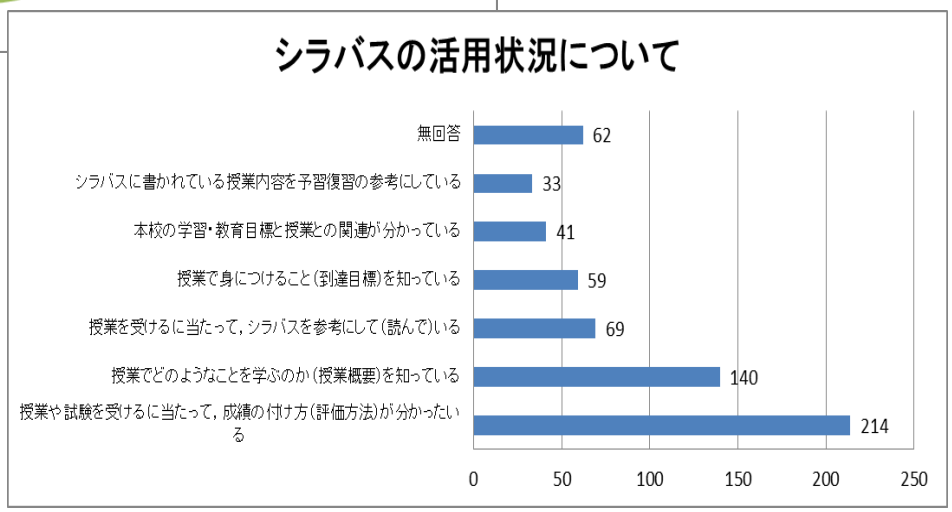


（出典：企画広報室）

資料５－２－②－６

学生アンケート結果





（出典：企画広報室）

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では，各学科において，講義・演習・実習科目を履修した上で，各教員の個別指導の下で卒業研究を行わせることによって，総合的に創造力を育んでいる（資料５－２－③－１～３）。例えば，電子機械工学科においては，「潮流発電」の研究を上島町と連携したプロジェクトとして成果を挙げている（資料５－２－③－４）。商船学科においては，「海のカーナビゲーションの開発」など新しく創造的な研究に挑戦している。また，創造性教育の成果として，様々なコンテストに積極的に参加し外部から高い評価を得ている（資料５―１－③－５～８）。とりわけ，全国レベルで優秀な成績を収めているプログラミングコンテストは，単位認定を行なっており（資料５－２－③－９），その指導成果は，「プログラミング特論」や「情報工学実験４」等の授業においてフィードバックし，学生が自ら考え，創造し，柔軟に対応できる能力を養っている（資料５－２－③－10）。

インターンシップは，電子機械工学科及び情報工学科の４年次の夏休み期間中に「夏季実習」として実施し（資料５―２－③－11），多くの学生が履修している（資料５－２－③－12）。企業等における実社会での実務を体験し，実践力の育成を図っている。実習終了事後は，実習報告書の提出を義務づけ（資料５－２－③－13），校内で実習報告会を行い，企業等による実習証明書（資料５―２－③－14）を参考に，単位認定を行なっている。なお，商船学科においては，早期の海技従事体験の必要性から，現在の４年半の席上過程終了後の１年間の大型練習船実習を短期実習分割方式（低学年次に１ヶ月，４年次後期に５ヶ月，６年前期に６ヶ月）に平成 25 年度から段階的に移行することになっており，座学の途中で実習体験を積めることになる（資料５―２－③－15）。

（分析結果とその根拠理由）

本校の準学士課程では，各学科において，講義・演習・実習科目を履修した上で卒業研究を行わせることによって，総合的に創造性を育む教育が行われている。特に，全国レベルで優秀な成績を収めているプログラミングコンテストで得られた知見を授業にフィードバックし，対外的に評価される創造力育成が図られている。また，実社会における実践力の育成を目的に，企業と連携を取りながら，インターンシップが活用されている。

資料５－２－③－１

平成24年度 商船学科卒業研究発表会 講演プログラム

ページ	発表時間	発表テーマ	卒研学生	指導教員	進行	時計
	08:50-09:00	開会の言葉(商船学科長)				
1	09:00-09:15	二級海技試験(航海)の取り組みについて	黒田明弘、高垣毅、原田佳樹	二村	高岡	新田
2	09:15-09:30	燃料のエマルジョン化が燃焼、排気特性に与える影響	濱田繁志、芝原樹	秋葉	高岡	新田
3	09:30-09:45	気相反応によるダイヤモンドの作成	川島大尚、村上一樹、村上夕季	友田	中	武田
4	09:45-10:00	海のカーナビゲーションの開発	佐々木淳	高岡	中	武田
	10:00-10:15	休憩				
5	10:15-10:30	帆船の研究 -V- (帆船の歴史と現代帆船への進化)	戸井俊貴、松田大斗	高岡	湯田	大元
6	10:30-10:45	英語力向上のためにTOEICテストを利用する方法の考察	福山大貴	児玉	湯田	大元
7	10:45-11:00	語学力向上のための学習方法の考察	水本雄一、村田祐希	児玉	山崎	東口
8	11:00-11:15	水溶性ゲルを利用した防汚塗料の開発	村上弘樹、吉原洸喜	村上知	山崎	東口
	11:15-11:30	休憩				
9	11:30-11:45	緩衝材に適したナノコンポジットゲル(NCゲル)の作製	吉田康二	村上知	友田	山下
10	11:45-12:00	弓削商船高専・商船学科の5年間の進路状況の推移	大元昌憲、前川貴明	多田	友田	山下
11	12:00-12:15	「海運経済研究」にみる海運経済分野における学術研究の動向	村上植之助	野ノ山	児玉	川島
	12:15-13:30	昼食・休憩				
12	13:30-13:45	マグネシウム合金板の温間角筒深絞りにおける温度と速度の影響	菅原大貴、東口晋平	中	村上知	濱田
13	13:45-14:00	災害時における発電機の一考察	寒瀬裕也、藤崎聖也	湯田	村上知	濱田
14	14:00-14:15	商船学科FPグッズの開発 - ポンポン船製作 -	三木良祐、山下創史、緒續将吾	湯田	多田	佐々木
15	14:15-14:30	プロペラ後流中における一軸二枚舵に働く流体力	新田浩貴、二神崇太、渡辺敬太	湯田	多田	佐々木
	14:30-14:45	休憩				
16	14:45-15:00	マルチ・フェロイック・デバイスの開発	木本卓也、川上拓哉、馬越信	柳澤	向瀬	水本
17	15:00-15:15	練習船機関室のインタラクティブな模型教材の製作と応用	國本翔太、堀見春也	向瀬、山崎	野々山	水本
18	15:15-15:30	実写画像による機関室シミュレーションシステムの製作と応用	武田駿弥、市川颯	向瀬、山崎	秋葉	吉田
	15:30-15:45	総評（商船学科長）				

発表時間　１５分
内訳　発表　12分、　質疑応答　3分
打令　10分：1鈴、　12分：2鈴、　15分：3鈴

（出典：商船学科）

資料５－２－③－２

平成 24 年度

電子機械工学科
卒業研究発表会
― プログラム ―

発表日　：平成 25 年 2 月 27 日（水）
発表時間：8:40 – 16:00
発表会場：アセンブリホール

弓削商船高等専門学校
電子機械工学科

目次

8:30–8:40 集　合（出欠点呼）

1. 8:40–9:00 非接触給電用送電回路の製作
学生氏名：田宮和紀，山中章平（指導教員：樫根健史）

2. 9:00–9:20 非接触給電用受電回路の製作
学生氏名：堀田涼介，渡部直人（指導教員：樫根健史）

3. 9:20–9:35 HONDA エコマイレッジチャレンジレースへの挑戦
学生氏名：武村憲二郎（指導教員：益崎真治）

9:35–9:45 休　憩

4. 9:45–10:05 スピニング加工におけるアルミ板材の変形解析
学生氏名：占部翔平，濱田憲義（指導教員：中山恭秀）

5. 10:05–10:25 格子ひずみを付与した系における水素原子拡散過程の分子動力学シミュレーション
学生氏名：岡本健作，須山航陽（指導教員：政家利彦）

10:25–10:40 休　憩

6. 10:40–11:00 粒子群を用いた人間の触感覚の応答に関する基礎的研究
学生氏名：後藤秀征，村上誠示（指導教員：大根田浩久）

7. 11:00–11:20 快削鋼の仕上げ面に関する基礎的研究
学生氏名：木下巨将，福原明彦（指導教員：大根田浩久）

8. 11:20–11:40 PID 方式を用いた流量制御・液面制御について
学生氏名：黒田祥太・村上聖奈（指導教員：勘久保広一）

11:40–11:50 休　憩

9. 11:50–12:10 水や砂内の流体観察・流量測定
学生氏名：香川　光，松岡太陽（指導教員：ダワァ　ガンバット）

10. 12:10–12:30 立体形状内の流体解析
学生氏名：高田大徳，毛利好輝（指導教員：ダワァ　ガンバット）

12:30–13:20 昼休憩

11. 13:20–13:35 銀とガラスのラッピング～銀試料とラップ剤の成分分析～
学生氏名：根角千智（指導教員：藤本隆士）

12. 13:35–13:50 トライボ教育用実験装置の製作
学生氏名：上島大輔（指導教員：藤本隆士）

13. 13:50–14:10 たわみに及ぼす長さと断面形状の影響
学生氏名：穴見太志，濱岡友樹（指導教員：鶴　秀登）

14:10–14:20 休　憩

14. 14:20–14:45 太陽光発電による無人航行船の設計製作および評価試験
学生氏名：木頃太一郎，光田公徳，山本太希（指導教員：木村隆則，長井弘志）

15. 14:45–15:05 表層潮流発電システム評価実験に適した場所の探索および豆電丸の設計製作
学生氏名：永井　伸，門田泰由（指導教員：長井弘志）

15:05–15:20 休　憩

16. 15:20–15:40 表層潮流発電システムの評価実験装置の設計および製作
学生氏名：田崎喜大，三井祥平（指導教員：木村隆則）

17. 15:40–15:55 熱溶解積層型三次元造形装置の組立と実験カリキュラムの作成
学生氏名：窪田駿介（指導教員：長井弘志）

15:55–16:00 講　評

※ 8:30 にアセンブリホールに集合（発表 10～25 分，質疑 5 分）

（出典：電子機械工学科）

資料５－２－③－３

平成 24 年度　情報工学科　卒業研究発表会

プログラムおよび概要集

平成 25 年 2 月 28 日（木）

弓削商船高等専門学校　情報工学科

発表プログラム

8:50-8:55　　オープニング

8:55-10:18　　セッション１（5 件）

発表1.　**歯みがきによる生活支援システムの開発**
岩本 華代子，奥田 紗千，山形 真名美（指導教員：塚本 秀史）

発表2.　**情報工学教育の効率化を目指した特別活動支援教材の作成**
金山 桃子，高橋 香子，宮岡 まこと（指導教員：徳田 誠）

発表3.　**三次元モデルの立体化**
村上 剛，村上 如貴，村上 真也（指導教員：髙木 洋）

発表4.　**ナイフエッジを用いた二次元画像計測装置の空間分解能の測定に関する研究**
曽根 勝吾，田頭 香奈子（指導教員：伊藤 芳浩）

発表5.　**DCT 係数を利用した顔識別手法の性能評価**
加美 優太，福本 崇（指導教員：伊藤 芳浩）

10:18-10:40　　休憩

（出典：情報工学科）

資料５－２－③－４

別紙第１号様式（第３条関係）

共　同　研　究　申　請　書

平成２４年９月１０日

弓削商船高等専門学校長　殿

（申請者）
住　　所　愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 210 番地
名　　称　上島町
代表者名　町長　上村　俊之

下記のとおり，共同研究の申請をいたします。

記

研究題目	上島町エネルギー政策への取り組み 「浮式型潮流発電システムの実験及び評価」				
研究の概要	・浮式型潮流発電システムの構築及び実験用発電装置の製作 ・海上での装置発電実験を行い，データ収集及び評価を行う。				
研究の特色・意義	離島である上島町の特性を活かし，潮流エネルギーの活用に産学官連携により地域一体となって取り組み，スマートコミュニティーの実現と，災害時における電力確保に寄与することを目的とする。また、観光や地場産業の振興など地域社会・経済の活性化を目指す。				
研究期間	平成２４年１０月１日から平成２５年３月３１日まで				
研究実施場所	弓削商船高等専門学校		校内研究室		
	上島町		上島町近辺の海域 （漁協許可区域）		
共同研究者	所属・職名	氏　名	現在の専門	役割分担	派遣の有・無
	企画政策課長 産業振興課長	村上　和彦 島本　計治	町民啓発，地域ネットワークの活用	実験機材の提供交渉及び実験場所の使用交渉	無
希望研究担当者	学　科		職　位	氏　名	
	電子機械工学科		教授	木村　隆則	
研究に要する経費の負担額（消費税額を含む）	直接経費	０円			
	間接経費	０円			
	合　計	０円			
研究に要する提供設備等	協力企業による本体となる鋼板船体、発電機等の提供				
その他	協力企業：（株）今井製作所，大洋電機（株）				
事務連絡先	民間機関等名	担当課・係名	担当者氏名	電話番号・E-mail	
	上島町	総務部 企画政策課	村上　和彦	0897-77-2500 murakami-kazuhiko@town.kamijima.ehime.jp	

＊弓削商船の共同研究者は，本共同研究における研究テーマと現在の専門との関係，分担する役割の意義，また，本研究によって得られると想定する研究成果について，別紙により詳細に記入し，添付すること。

（出典：企画広報室）

資料５－２－③－５

弓削商船高専がキャンパスベンチャーグランプリ四国で特別賞

弓削商船高専は、第３回キャンパスベンチャーグランプリ四国において、４組７名が入賞しました。このグランプリは四国の大学生・高専生を対象に新規性あふれる事業や商品を募り、優れたビジネスプランを表彰するものです。４組の入賞は高専では一番多い受賞でした。入賞者は次のとおりです。

特別賞（日刊工業新聞社賞）　インターネット対応プログラミング学習システム
情報工学科　５年　冨田直也
〃　５年　片岡裕雅
〃　５年　郷原麻衣子
電子機械工学科５年　箱崎正洋

特別賞（四国産業人クラブ賞）　歯の接触音を用いた学習機能を有するハンズフリー型マン・マシンインターフェース
生産システム工学専攻１年　森本猛

努力賞　人工知能を用いたエステティックシステムの開発
情報工学科　５年　矢野沙季

〃　Ｍｙドレッシング自動販売機の企画
電子機械工学科５年　西岡雄大



キャンパスベンチャーグランプリ四国入賞実績一覧

年度	受賞名	受賞者	テーマ
2012	優秀賞 中小企業基盤整備機構 四国支部長賞	岡田 雅一 小林 佳月 津國 佐和 平谷 有	センサーネットワークを用いた省エネ活動支援システム
2009	中国四国産業人 クラブ賞	松本　優幸 石丸　武臣 桒田　圭佑 坂口　ちさと 宮岡　まこと	E-learningと連携した対面型授業支援システムの提案
2008	優秀賞 四国経済産業局長賞	小柳　亜由美	心機能異常検知対応自動通報システム
	奨励賞	石渡　寛明	ピエゾフィルムセンサによる呼気の検出と入力デバイスへの応用
2007	奨励賞	中本　裕美	ビーズ作品作成支援システム
	奨励賞	澤田　和也	join NASS　−つながりあうネットワーク監視システム−

（出典：学生課）

資料５－２－③－６

■ジュニアドベンチャー選手権の開催

平成20年11月25日（火）13:00～
テクノプラザ愛媛

≪ プレゼンテーション≫

≪懇親会≫≪結果発表≫





■ジュニアドベンチャー選手権　各賞　受賞者

伊予銀行賞

テーマ名「心機能異常検知対応型自動緊急通報システムの開発」
弓削商船高等専門学校　マイコン部
長尾和彦　氏　　小柳亜由美　氏　　徳田まや　氏
笹井愛美　氏　　露口和樹　氏　　長尾詩織　氏

賞状及び目録授与
伊予銀行
常務取締役営業本部長　清水一夫　様





（出典：情報工学科）

資料５－２－③－７

ImagineCup2012 日本大会参加者一覧

情報工学科／マイコン部　顧問　長尾　和彦

1. 日時　平成２４年４月７日（土）
   4/6 リハーサル、4/7 終日大会
2. 場所
   日本マイクロソフト株式会社（品川）
3. 日程　平成２４年４月６日（金）～８日（日）　２泊３日
   長尾にて手配済み
4. 参加者一覧
   - 情報５年　岩本　加代子（主）
   - 情報５年　山形　真名美（主）
   - 情報２年　瀬尾　敦生（主）
   - 情報２年　宇崎　裕太（主）
   - 生産１年　桑原　裕也（補）
   - 情報２年　肥田　巧弥（補）
   - 徳田　誠（引率）
5. 主催者からの交通費補助
   正式学生（主）に５０００円のみ支給予定
6. その他
   - ４／６午前必着で機材の輸送が必要（当方負担）
   - オブザーバーとして、長尾詩織が当日出席予定（旅費不要）

（出典：情報工学科）

資料５－２－③－８

＝第１回全国高校生ケータイ利用コンクール「ケータイ甲子園２０１０」

平成２３年５月２２日（日）に大分市で開催された＜第１回全国高校生ケータイ利用コンクール「ケータイ甲子園２０１０」＞の大会で、コミュニケーション部門において、本校のチーム（愛壱）が、グランプリ賞を受賞した。

【表彰状】



グランプリ賞

表彰状

コミュニケーション部門

国立弓削商船高等専門学校

チーム　愛壱（あいいち）

殿

貴チームは第１回全国高校生ケータイ利用コンクール「ケータイ甲子園２０１０」コミュニケーション部門において、ケータイを安心・安全、ポジティブに活用したその取組みが大変優れており、全国の高校生にとって手本となる発表をされました。

よってここにその栄誉をたたえこれを賞します。

平成二十三年五月二十二日

ケータイ甲子園実行委員長

堀部政男



（出典：情報工学科）

資料５－２－③－９

プログラミングコンテスト単位認定者数

区分	情報工学科
平成20年度	2
平成21年度	2
平成22年度	3
平成23年度	2
平成24年度	1

（出典：学生課）

資料５－２－③－10

トピックス：「情報工学科で平成 24 年度創造性実験最終発表会を開催」

２月 12 日，情報工学科４年生の情報工学実験において「平成 24 年度創造性実験最終発表会」が開催されました．本発表会は，2，3 人のグループに分かれ，マイコン(Arduino)と周辺機器を組み合わせて，学生の自由な発想で考案された様々な作品を発表します．企画書の作成から部品の発注までを限られた時間と予算の中で，スケジュール管理をしながら作業を進めていきます．発表会では，制作した作品のプレゼンテーションやデモンストレーションなどが行なわれ，アイデアや性能などに感心する作品もありました．なお，制作した作品の一覧は以下の通りです．

アラーミー～新しい目覚まし時計～(池本・岡野・寺田)

温度計・湿度計(林田・岩下)

電子オルガン(高原・新田・神原)

VOICE CHCKER★(村上小・蔵田・澤)

愛サイト！(山本・宮地・檜垣)

LED キューブ(藤本・河村)

逃げるゴミ箱(柏原・渡辺)

シンセサイザーを作ろう(藤本、田中、浮穴)

仕分け貯金箱(森野、真鍋、イディディア)

嘘発見器の作成(福田、村上愛、山田)

オリジナルイライラ棒の作成(森野、西村)

きのこ大作戦(豊田・花岡・山岡)

音声合成を使ったタイマー(野間・濱本・東尾)

圧力センサー☆ポンプ君(竹田、阿部、古谷)

パチピタ目覚まし時計(宮地・平田・鍋田)









（出典：本校ウェブサイト）

資料５－２－③－11

インターンシップ基準

１．対象派遣先，対象内容

（１）工学（電子・機械工学，情報工学）に関する製造，建設，卸・小売，運輸・通信，サービス業等の企業，および公共機関，学校，団体等における実務実習，見学調査など．

（２）（１）に準じる実務内容を行う課外活動．

２．時間数

（１）３０時間（ただし，計画書・報告書作成と発表会の時間を含む）　１単位

（２）１件が３０時間未満の場合については，他の実習実績を加算することができる．ただし，計画書・報告書作成と報告会は１回のみ加算する．
ここで，他の実習実績としては，「共同研究航海」，「プロコン全国大会」等で，その他については教務委員会で検討する．

３．単位認定要件（報告書等提出）

（１）実習計画書

（２）実習機関による評価報告書

（３）実習報告書

・実習先機関の概要
・実習内容
・実習目的・目標と達成度
・体験と感想
・意義と問題点

４．付与単位

（１）電子機械工学科においては４年次の特別講義１（１単位）で評価する．

（２）情報工学科においてはインターンシップ（１単位）で評価する．

（出典：電子機械工学科・情報工学科）

資料５－２－③－12

インターンシップ参加者数（過去5年間）

年　　度	電子機械工学科	情報工学科
平成20年度	34	32
平成21年度	22	26
平成22年度	24	29
平成23年度	31	26
平成24年度	27	17

（出典：電子機械工学科・情報工学科）

資料５－２－③－13

提出日　平成２４年９月１１日

　番　氏名

インターンシップ報告書

以下のとおりインターンシップの報告を致します。

1. 所属
　電子機械工学科

2. 研修名
　中国電力株式会社

3. 受講場所
　山口県　柳井発電所

4. 実習期間
　平成２４年８月２０日から２４日

受領しました。
但し、朱記　　項目訂正する。
12.9.12 検済

部署名		
年　月　日		
発行	検図	担当
		木村

5.研修内容
　1）　ＬＮＧ(液化天然ガス)について
　2）　タービン見学
　3）　保修課、発電課、総務課、メンテナンスグループの役割
　4）　電力会社と法令

6.講習の成果/感想
　ＬＮＧは有害なガスの排出量が非常に少なくクリーンで効率的なエネルギーでした。東日本大震災以降原子力発電所が停止しているので、火力発電である柳井発電所はフルで稼働していてぎりぎりの状況で発電していました。電気は溜める事が出来ないので、ミスがないよう現場には緊張感がありました。
　発電所の敷地の中には緑がたくさんあり環境に配慮されているなと感じていましたが社員さんの話を聞くところ緑を敷地の中に法律上取り入れなければいけないようでした。
　発電所内では常に点検が行われていて、まずは目で見て亀裂や壊れているところはないか、耳で聞いてガスは漏れてないか、変な臭いはしないかなど体を使って確認しろということでした。普段見ることが出来ない内部の細かいしくみまで見学できてよかったです。

（出典：電子機械工学科）

資料５－２－③－14

平成24年8月27日

夏季実習証明書

弓削商船高等専門学校長　殿

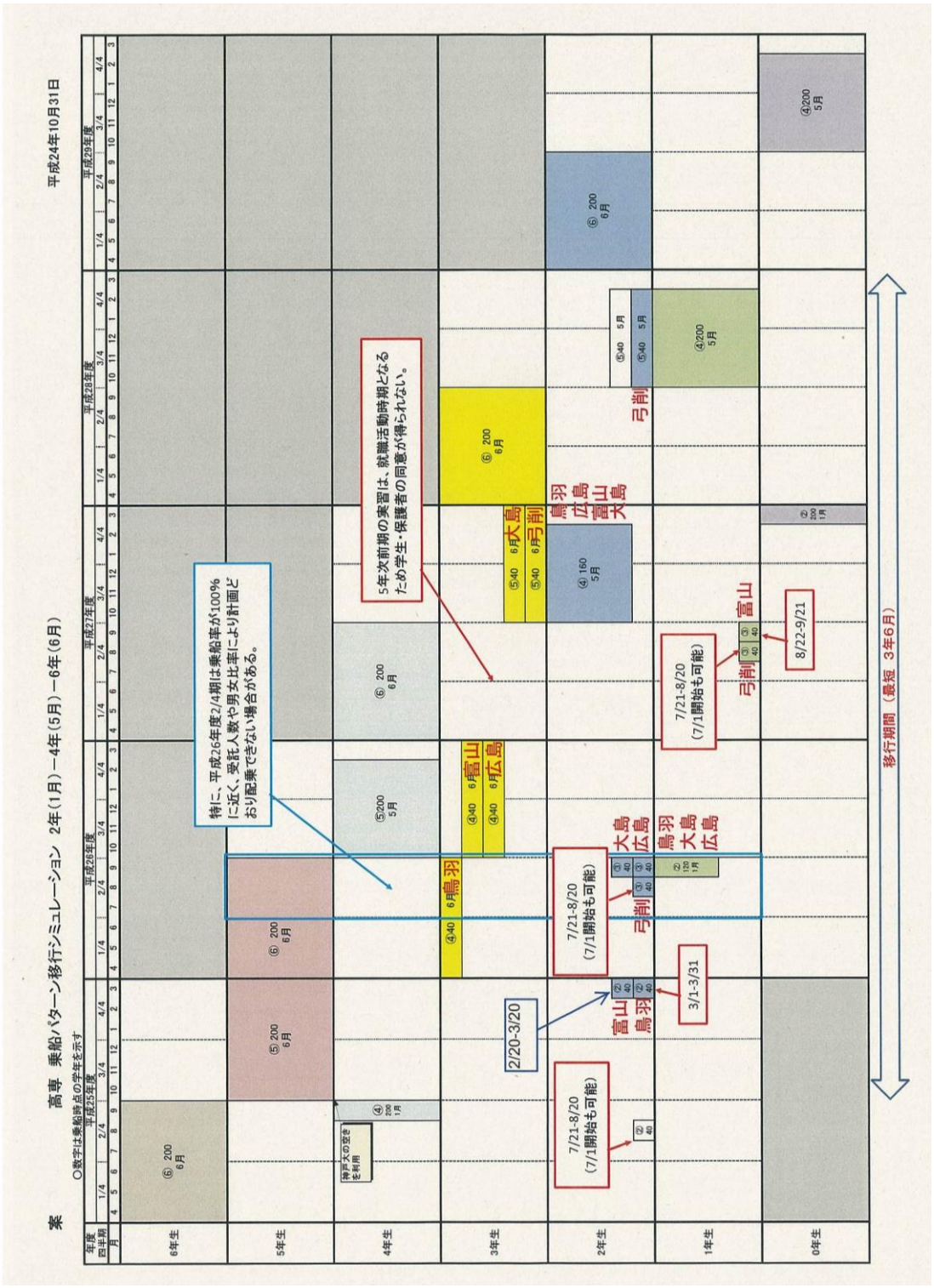
会社名　　株式会社

貴校学生の夏季実習を終了しましたので、下記のとおり報告いたします。

実習者 氏名	弓削商船高等専門学校　　情報工学科　4年
実習期間	平成24年8月20日～平成24年8月24日（5日間）
実習テーマ	①光伝送の概要について ②BAシステム（ビルオートメーション）について ③衛星通信、地上波デジタル放送について ④IP電話について ⑤NW技術について（L3SW、L2SWの実習） ⑥ドコモショップの2店舗（向日店・長岡京店）訪問による企業体験・法人営業について
実習内容	①座学・NGNによって変わる通信市場・通信ネットワーク構成・様々なワイヤレスNW・Triple Play（ブロードバンド、IP電話、映像配信）について・WDM伝送について・光ファイバー ②座学・BA（ビルオートメーション）システムについての概要・システム構成・設備機能・BAシステムの構成と特徴等 実機実習・パソコンを用いたシステム操作体験 ③座学・防災センターでの防災システムについて・ネットワーク構成 座学・地デジとは・アナログとデジタルの違い・デジタルのメリット・デジタル放送システム概要 ④座学とデモ機でのシュミレーション・アナログ回線と糸電話・IP電話とは・IP電話体験 音声遅延問題等 ⑤座学とデモ機でのシュミレーション・LANケーブル作成体験・ネットワーク保守作業の業務概要・ケーブルの違いについて（ストレート、クロス）・ネットワーク接続・L2、L3 SWについて・ ⑥座学、見学・ドコモショップ見学・業務内容・体験談・法人営業について
評価 （実習中の態度・成果）	短期間の研修にて講義内容も雑な面があったように思いますが、実習に対しては、専門用語等、内容が難しかったようであるが、実習担当者の説明にしっかり耳を傾け、吸収しようとする意欲が感じられました。その講義の中で、現場の体験談も聞きながら特に防災無線についてすごく興味を持たれたようです。 小生からは、就職活動における心構えをアドバイスさせて頂きましたので、今後の就職活動に活かして頂けると幸いです。
実習担当者	印

（出典：情報工学科）

資料５－２－③－15



（出典：高専機構）

観点５－３－①：　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

本校では，挨拶や身だしなみ等の基本的社会マナーを守ることができ，規律ある行動をとることができ，目標に向かって自ら努力できるような豊かな人間性の涵養を目指している（資料５－３－①－１）。また，自身のことだけでなく，環境問題に関心を持ちボランティア精神豊かな人間性を涵養することも目指している。

学生の人間性と深く関わる担任は，学級運営の方針・計画（資料５－３－①－２）に従ってクラス運営を行う。高等専門学校設置基準で定められている特別活動を第１学年から第３学年において毎週木曜日の７時限目にホームルームとして配置し，人間性の育成・素養の涵養に努めている。各担任教員が年度当初に活動目標を設定し，年間計画を立てて（資料５－３－①－３），学級担任が準備した資料を活用する（資料５－３－①－４）などして，学生からのフィードバックも行いながら特別活動を実施している。地域のＮＰＯ法人の方と連携したホームルーム活動も実施している（資料５－３－①－５）。また，ホームルームの時間を用いて身だしなみ指導（資料５－３－①－６）も行っている。ホームルームの時間は，キャリア教育，交通安全教育のための講習会にも用いられている（資料５－３－①－７，８）。また，クラス運営・活動の導入として，入学時に新入生オリエンテーション（資料５－３－①－９）を行い，担任と学生，学生同士のコミュニケーションを円滑にする試みを行っている。

全教員の輪番による早朝の挨拶指導を，一年を通じて行い，交通ルールの遵守などの通学マナーや服装の指導の他に，学生とのコミュニケーションを図り，規律ある精神を育んでいる（資料５－３－①－10）。

生活の規律や目標を立てる習慣は，教員による日常的な指導の他に生活ノートやビジネス手帳（資料５－３－①－11）等を活用し学級担任が定期的に確認して指導することからも育まれている。

電子機械工学科４年において，企業からの外部講師を招いて技術者倫理教育に関する特別講義を行っている（資料５－３－①－12）。また，情報工学科５年において，環境工学を開講し，環境問題に関する講義を行っている（５－３－①－13）。

ボランティア精神を養い育てるために，航海体験を通じて神戸市で身障者の支援活動を行い（資料５－３－①－14），また，ＮＰＯ法人グリーンキャンドゥに協力し，本校近くの松原海岸の清掃ボランティアを行っている（資料５－３－①－15）。

本校では，盛んにクラブ活動を行い，集団行動と規律，目標に向かって努力する精神を養っている。そのために，全教員が顧問として熱心に参加している（資料５－３－①－16）。この成果として，マイコン部のプログラミングコンテストでの全国随一の活躍（資料５－３－①－17）やヨット部の国体出場（資料５－３－①－18）が挙げられる。

また，１年間の学校行事を通して豊かな人間性の涵養を図るように配慮している（資料５－３－①－19）。

（分析結果とその根拠理由）

特別活動だけでなく，全教員による挨拶指導等を通して，挨拶や身だしなみといった社会的なマナーを備え，ルールを守る規律ある行動がとれる人間性を涵養している。また，授業やボランティア活動への参加によって,環境問題への関心やボランティア精神を高める試みを行っている。また，クラブ活動や学校行事を通して集団行動と目標に向かって努力する精神を養い，豊かな人間性の涵養を図っている。

資料５－３－①－１

H２４．４．５
教　員　会　議
報　告　資　料　3

平成２４年度学生指導方針

平成２４年４月２日
学生主事

１　努力目標　　“規律ある行動”と“挨拶励行”

２　指導内容・方法

全教職員の共通理解のもと、厚生補導委員を中心メンバーとし、全員で指導にあたる.
問題行動に対してはその場で指導の上、指導連絡票を学生主事、学生主事補に提出する.

（１）　未成年者の飲酒・喫煙の一掃
校内全面禁煙
対策：校内巡視の実施（全教員）

（２）　交通ルールの遵守
自転車の二人乗り、日没後の無灯火、雨天時の傘さし運転、島内へのバイクの乗り入れ、駐輪マナーの向上（港、校内）
対策：腕章着用の上、登校指導を実施（全教員）

（３）　身だしなみの是正
３年生までは制服着用、３年生までは染髪、ピアスは指導する.
高学年も学生らしい装い.
対策：登校時指導（腕章着用）及びその都度指導する（全教員）

（４）　クラブ活動の活性化
３年生までは少なくとも運動部、文化部どちらかに加入し、活動する.
対策：学生会と協議のうえ、対象学年（新入生）に呼び掛ける.

（５）　下宿訪問
寮から離寮措置を受けた学生の生活指導を行う.
対策：担任、学生主事を中心に下宿訪問を実施する.（前期中間試験までに実施）

（６）　ボランティア活動
学生会を中心に入学式で東北関東大震災の募金活動を実施
クラブを中心に「グリーンキャンドゥ」に参加し松原海岸の清掃を実施する.

（７）　低学年生の生活指導の強化
最近は、低学年生、特に１年生の問題行動が他学年より多い.
対策：学級担任、学生主事、初年次教育支援室と連携し、きめ細かい指導を実施（声かけ、カウンセリングなど）.

（出典：平成 24 年度第１回教員会議資料）

資料５－３－①－２

２　学級運営

項　目	業　務　内　容	実施時期
学級運営の方針		
新入生の担任	○入学式の前に、調査書や学生の自叙伝などを読み、学生理解に努める。 ○特に留意する学生（精神的・身体的）がいる場合、保護者と連絡をとり、意見交換をする必要がある。 ○ロッカー・自転車置き場等も確認しておく。 ○4 月に個人面接を行ない、十分なコミュニケーションを取ることが望ましい。	３月
前担任との引継ぎ	○クラスの学生の性格、成績、進路希望等について、前担任との引継ぎを入念に行う。学習・生活面で問題を多く抱えている学生や留学生については、学生との面談を行うなどして、学生が新学期を落ち着いて迎えられるよう配慮する。	３月
専門学科との連携	○専門学科の教育方針と学級運営のあり方について、学科長等と意見交換を行うことが望ましい。	３月
同一学年の担任との連携	○同一学年の学習指導、生活指導等は統一して行うことが望ましい事項が多いので､担任相互の連絡を行う。定例の学年担任会を持つことが望ましい。 ○合同 HR の計画	年度当初
学級の運営方針	○学級の運営方針を立案し、学生にクラス目標や明示したいことを整理して、年度当初の HR で周知徹底を図る。 ○外国人留学生、高校からの編入学生がいる場合は、彼らがクラスにスムーズに溶けこめるように、チューターなどと連絡を取り合い、必要な方策を立てる。また、追認試験を残している学生に対しては、受験に対する心構えなどを把握して、適切な指導を行う。	年度当初
学級運営の計画		
年間 HR 指導計画	○定期試験を節目とする学習指導、学校行事の計画・準備、長期休暇中も含む生活指導、保護者懇談会を中心とする家庭との連絡、進路毎に関する指導、HR 活動（合同 HR を含む）等に関する年間指導計画を作成する。	年度当初

（出典：平成 24 年度学級担任の手引きＰ．４）

資料５－３－①－３

授業科目	特別活動（ホームルーム）			担当教員	前田 弘文		
学　科	情報工学科	学　年	2年	授業期間	通年	単位数	1
分　野	一般	授業形態	特別活動	履修区分	必修		
学習目標	学校生活のなかで基本的な生活集団であるクラス内での活動を通し，個人の持っている他者を認め協力しあう意識をより強いものにするとともに，自分らしさについて考え今後直面するいろいろな課題に対して先見性を持って取り組めるようになること．また，必要な社会規範についても学ぶ．						
進め方	級長・副級長を中心にして活動を進めていく．必要に応じて，中心の役割を他の学生も担う．						

内容	主題	（時間数）	備考欄
	・ガイダンス	(1)	
	・１年間の活動計画	(1)	
	・航海実習	(1)	
	・レクリエーション（スポーツ）	(1)	クラス内の交流行事
	・学校と学科について知る	(2)	学科の一員としての意識を育てる．
	・学生調査（担任から学生へ）①	(1)	
	・前期中間試験前の学習計画	(1)	試験に備えて，計画を立てる．
	・ルールとモラル	(1)	モラルとは何かを考える．
	・取りたい資格と将来の職業	(4)	将来について考える．
	・夏休みを前に	(1)	夏休みの計画を立てる．諸注意も含む．
	・夏休みの思い出	(1)	夏休みにしたこと，自慢など．
	・レクリエーション（スポーツ）	(1)	クラス内の交流行事
	・前期期末試験に向けて	(1)	試験に備えて，計画を立てる．
	・商船祭に向けて	(1)	クラスでの役割分担を決める．
	・学生調査（担任から学生へ）②	(1)	
	・生活習慣について	(1)	事前にアンケートを取り，互いに議論する．
	・学生によるテーマ①	(1)	学生による企画と運営
	・ストレスとのつきあい方	(1)	事前にアンケートを取り，互いに議論する．
	・学習状況について	(1)	事前にアンケートを取り，互いに議論する．
	・後期中間試験に向けて	(1)	試験に備えて，計画を立てる．
	・技術者倫理について	(1)	技術者としての心構えを再確認する．
	・個別面談	(1)	担任と１対１の面談
	・今年の抱負	(1)	
	・進路・就職アンケート	(1)	
	・学生によるテーマ②	(1)	学生による企画と運営
	・１年間の反省と今後の目標	(1)	１年を振り返る．また，今後の目標も立てる．

評価方法			
関連科目			
教科書等	【書名】	【著者】	【発行所】
備　考	（標語等）		

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．413）

資料５－３－①－４

学生が記入した学校生活記録

個人情報等保護のための削除

（出典：学級担任）

資料５－３－①－５

商船学科１年生のホームルーム事業企画書

NPO 法人頼れるふるさとネット

１．目的

（１） 弓削の歴史・文化の一部を成してきた「船乗りの仕事」について、貴校の学生に知ってもらうこと。

（２） 貴校の学生と弓削島住民の交流を活性化し、地域と大学、双方が利用しあえる関係を築くこと。

２．概要

弓削島に住む船乗りの方３名にお越しいただき、当時の様子の分かる写真などの資料を用いながら、商船科１年の学生さんたちに向けて話をしてもらう。頼れるふるさとネットの古川、担任の藤井先生が司会として話の引き出し役を請け負う。各回の後、学生さんたちには感想文を書いてもらう。

３．背景

捕鯨船、客船、商船など、弓削には様々な船に乗っていた船乗りがいる。弓削島に来て、何人かの船乗りの方のお話を聞くうちに、これらの話が島の文化・歴史の一部をなす非常に価値あるものだと思うようになった。それぞれの話の中には歴史的な事柄はもちろん、体験した本人にしか語れないような迫力や教訓が宿っており、社会と関わる上でも貴重な気づきを与えてくれるものだった。こういう豊かで生き生きとした話を若い世代を中心とした町の人に伝えられないかと考えていたとき、貴校のカウンセラーをされているユン・チソン氏と話をする機会を持った。

ユン氏は、学生の心のケアを、学校だけでなく地域全体でできないかと考えておられ、そのためにも地域との交流の場を作りたいとお話下さった。その想いと NPO 側の考えに重なる部分があったので、学生さんに向けて船乗りの方に話をしてもらう場を作ることを提案させていただいた。ユンさんからは承諾をいただき、その後、商船科１年の担任をされている藤井先生をご紹介いただいた。藤井先生も地域との交流を重要と考えており、学生さんに向けて船乗りだった方の話をするという企画にも関心を示して下さった。以上のような流れで、今回の企画の具体化に至った。

弓削の住民の想いから始まった貴校の歴史は全国でも稀に見る特殊なものであり、地域のお年寄りの話を伺う中でも、町の住民が貴校の学生に対して特別な想いを持って接してきたことが分かる。しかし現在では地域との繋がりは弱まっており、相互の交流がほとんど持たれていないのが現状である。「船乗り」をキーワードとして地域と地域の中にある学校が繋がりを取り戻すことで、双方の活性化に繋げていくことが大きな狙いである。

（出典：学級担任）

資料５－３－①－６

学生の身だしなみ指導について

学生らしい身だしなみの習慣を身につけさせることを目的に定期的に身だしなみチェックを実施する。

○　みだしなみチェックの実施方法

対象学年　：　１年～３年生

頻度　：　１回／月　（実施日は、学生主事より事前に連絡します）

実施時間　：　ロング HR の最初

実施方法　：　１年生

学級担任と副担任、計２人が，級長，副級長と一緒になってクラス全員のみだしなみチェックを行う。違反があった場合は、チェックシートに記入し，チェックシートを学級担任，学生主事に提出し、学生指導記録データベースに登録する。

２，３年生

学級担任と学科の教員、計２人が，級長，副級長と一緒になってクラス全員のみだしなみチェックを行う。違反があった場合は、チェックシートに記入し，チェックシートを学級担任，学生主事に提出、学生指導記録データベースに登録する。

指導方法　：　①　１回目　担任の指導

②　２回目　担任から保護者へ連絡

＝＞　学生主事に状況を報告

③　３回目　主事注意＋主事から保護者へ連絡

※指導を受けた学生の保護者に対して、７月、１１月の保護者懇談会で担任より指導連絡する。

○　みだしなみチェックガイドライン

（１）　制服着用の状況

違反：裾出し、ボタンを留めていない、ネクタイなし（女子学生）

指導：ボタンを留めさせる。だらしないネクタイの着用は直させる

授業中制服を脱ぐ場合は、カッターシャツを着用するよう指導する

（２）　ピアス、装飾具の着用

違反：ピアスをしている

指導：外すように指導し、没収する

（３）　染髪の状況

違反：染髪、脱色

指導：期限を決めて（おおよそ１０日以内）元にもどすよう指導する

（４）　その他

違反：サンダル着用、パーマ、モヒカン刈りなどの特異な髪型、色柄が違反のベスト

指導：制靴または運動靴を履くよう指導する。髪型は是正するよう指導する。ベストは規定のものを着るよう指導する。

（出典：平成 24 年度第１回教員会議資料）

資料５－３－①－７

平成２４年度合同ホームルーム

「１年生」

単　　元：キャリア教育
対象クラス：商船学科、電子機械工学科、情報工学科（１２０名）
目　　標：高専生の進学・就職状況を理解し、働くことの意義を学ぶ。
指導計画：①働くことの意義について（1時間）
実施日時：①平成２４年9月２０日　第７限

「２年生」

単　　元：交通安全教育
対象クラス：商船学科、電子機械工学科、情報工学科（１０６名）
目　　標：バイクの正しい乗り方及び交通事故の危険性について理解する。
指導計画：交通安全講話（1時間）
実施日時：平成２４年５月２４日　第７限

（出典：担当教員）

資料５－３－①－８

交通安全講習会実施要領

１	日　　時	平成２４年５月１４日（月）１５時２０分～１６時１０分
２	場　　所	本　　校：アセンブリホール 集合場所：アセンブリホール 出欠点呼：クラス担任
３	対　　象	２年生（１０６名）
４	指 導 者	伯方警察署交通課職員
５	内　　容	①　交通安全についての講話（アセンブリホール） ②　その他
６	そ の 他	今年度は，白バイが諸都合で準備できないことと本校の日程も当日しかとれないため，アセンブリホールにおいて交通安全についての講話を行う。

（出典：学生課）

資料５－３－①－９

平成２４年度新入生オリエンテーション実施要項

１　目　　的　　団体生活を通して、団体秩序を守り、寛容な心で同級生との親睦を図るとともに、学校生活及び学生としての心得を身につけることを目的とする。

２　期　　日　　平成２４年４月１１日（水）～１２日（木）

３　場　　所　　大三島少年自然の家
愛媛県今治市大三島肥海４７６２－１
電話　０８９７－８２－０３１１

４　日　　程　　別紙のとおり

５　参 加 者　　①学生１１９名（２３名）＋（留年生１名）計１２０名（２３名）
Ｓ１　４２名（　３名）＋（留年生０名）計　４２名（　３名）
Ｍ１　３９名（　１名）＋（留年生１名）計　４０名（　１名）
Ｉ１　３８名（１９名）＋（留年生０名）計　３８名（１９名）

②教職員　参加１５名（２名）※宿泊１１名（１名）
学生主事　①葛目幸一
学生主事補　②政家利彦・③二村彰
④雙知延行・⑤ガンバット（１２日のみ）
教務主事補　⑥田房友典
寮務主事補　⑦野々山和宏
１年担任支援　⑧上江憲治
Ｓ１担任　⑨藤井清治
Ｍ１担任　⑩水崎一良
Ｉ１担任　⑪高木　洋
看護師　⑫若松　純子
非常勤講師　阿部　智美（１１日のみ）
校長、勘久保教員（１１日のみ）

時間	日課・研修方法	場所	研修内容	講師等	参加者
8:10	学寮出発	学寮前	寮生は8:05集合	学級担任・学生主事補	S1担任;房野
	学寮～下弓削港		フエスパバス乗車(寮生)	学級担任・学生主事補	M1担任;望月
8:45	下弓削港発	下弓削港	船名:しんこう3・しんこう5	岩城汽船チャーター便2隻	I1担任;徳田
			2班に分かれて乗船	学級担任・学生主事補	葛目学生主事
					学生主事補
9:00	因島(土生港)着				(向瀬、ガンバット、)
9:20	集合、点呼	因島バス車庫		学級担任	(樫根、桝田、房野)
9:30	土生港発(借上バス)	①号車商船学科・②号車電子機械工学科・③号車情報工学科			初年次教育支援室長
	①号車(担任・学生主事補)②号車(担任・学生主事補)③号車(担任・学生主事補)				(藤井教員)
	エステマ8日・9日(藤井教員・若松看護師)・ワゴンR8日、9日(8日:ガンバット教員:校長・阿部先生)				教務主事補
10:30	大三島少年自然の家着	第一研修室	①学生代表挨拶		(水崎教員)
	入所式		②学生主事諸注意	司会:学級担任	
	オリエンテーション		③各係分担説明(確認)		
			④教員紹介		
			⑤入所オリエンテーション	所員	
11:10	全体集会	第一研修室	①集団行動訓練	学生主事・主事補	
			②学生生活について		
11:45	昼食準備				
12:00	昼食	食堂			給食係
	休憩				
13:00	全体集会	第一研修室	①教務関係説明	司会:学級担任	
			(13:00～13:50)	教務主事補	
			②国歌・校歌練習(60分)	学生主事、非常勤講師	
			(14:00～15:10)		

（出典：学生課）

資料５－３－①－10

１．通学挨拶指導の実施要領

（１）指導重点項目：

○　あいさつ

○　自転車の一列走行

○　制服着用（３年生以下）

（２）実施頻度並びに実施時刻：

１週間に１日実施する

7：50 頃から 8：05 下弓削着（ゆげしま）便で通学する学生が実施場所を通過するまで

寮から通学する学生は一限授業を優先した上で 8:20 頃～8:40 で指導を行なう

（３）実施場所：６箇所

（ア）下弓削港
（イ）上島町総合庁舎の広場
（ウ）せとうち交流館　消防署付近の三叉路
（エ）剣道場横の公道
　　} 学生主事・主事補を中心に担当

（オ）弓削ロッジ下
（カ）学校裏門
　　} 寮務主事・主事補が担当

（４）体制：

①　学生主事・主事補のうち（４名）が通学路に立つ　　（４地点）

②　寮務主事・主事補のうち（２名）がロッジ下に立つ　（２地点）

ロッジ下・学校裏門の登校指導は、寮務主事・主事補で担当する

③　当番教員が上記（ア）～（エ）の４地点で学生主事補とともに登校指導にあたる

（５）当番表の作成：

当番表を作成（政家が担当）

当番教員のローテーションは、学級担任→一般教員（あいうえお順）とする

学寮当直と同様に、教員間で交替可能とする（当番表は学生課に置く）

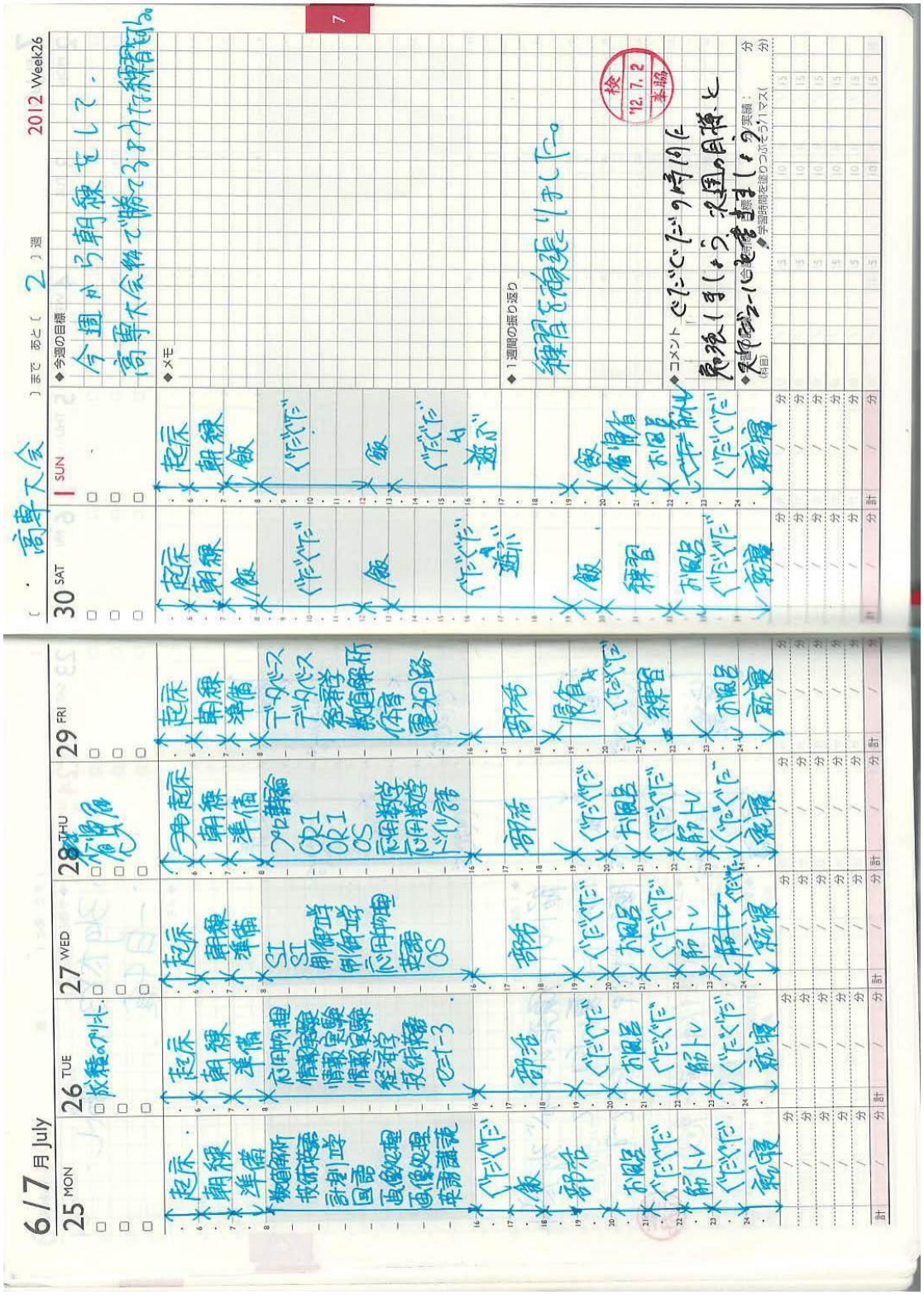
（６）腕章の着用

当番教員は教務係で腕章を受け取り着用する

（７）実施期間　４月１６日（月）より実施する

（出典：学生課）

資料５－３－①－11



（出典：担当教員）

資料５－３－①－12

授業科目	特別講義２			担当教員	木村　隆則		
学　科	電子機械工学科	学　年	4年	授業期間	通年	単位数	1
分　野	専門	授業形態	講義	履修区分	後期		
学習目標	自然科学および専門技術の基礎力を身につけ，高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成を目的に，工学と技術が自然，人類・人間社会に及ぼす正負の影響について正しく評価できる能力，および技術者としての責任感を養う事を学ぶ．						
進め方	講師自身の体験や最近のメディア報道における事件・事象・問題を取り上げ「技術者倫理」を身近で，重量な問題として認識させる．企業経験のある本校OB・企業技術者・人事採用担当者・などを講師として各講師による講義を行う．						
学習内容	学　習　項　目　（時間数）			学習到達目標			
	技術者倫理・企業倫理について　(30) および企業が求める人材．技術者について			技術者・社会人として必要な倫理観や， 工学と技術が自然や社会に及ぼす影響について 考える力と技術者としての責任感を養う．			
評価方法	出席，課題（感想文や謝礼メール，レポートなど）の提出状況・内容及び授業態度を総合的に評価						
関連科目							
教科書等	【書名】　適時プリントを配布		【著者】		【発行所】		
備　考							

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．319）

資料５－３－①－13

授業科目	環境工学			担当教員	塚本　秀史		
学　科	情報工学科	学　年	5年	授業期間	通年	単位数	2
分　野	専門	授業形態	講義	履修区分	選択(学修単位)		
学習目標	本講義では，環境関連法の種類，分類を学び以下の大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音、震動、工場立地、エネルギー、廃棄物等について具体な発生過程とその対策等を歴史的経過も含めて講義する．概要は講義形式をとる．						
進め方	本講義では，環境関連法の種類，分類を学び以下の大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音、震動、工場立地、エネルギー、廃棄物等について具体な発生過程とその対策等を歴史的経過も含めて講義する．概要は講義形式をとる．						

学習内容	学　習　項　目	（時間数）	学習到達目標
	ガイダンス	1	公害から環境問題へと社会での意識が変化した過程と理由を理解する
	環境の現状	1	
	環境に関わる法律	1	関連法律を知る．
	環境の歴史的経過	2	
	環境問題の現状		個々の環境問題の原因を理解する．
	オゾン層の破壊	3	
	地球温暖化	3	
	酸性雨・酸性降下物	3	
	熱帯雨林の減少	3	
	廃棄物処理	3	
	大気汚染	2	
	水質汚染	2	
	資源・エネルギー問題		
	化石資源	2	
	水資源	2	環境問題の基本的な発生過程とその対策方法を理解する
	食料	2	

評価方法	試験と課題．試験は記述式が中心．そのため自分の考え方を文章で表現できることを要求する． ※提出日に遅れた課題は評価しない．
関連科目	
教科書等	【書名】環境科学の基礎　／　【著者】岡本　博司　／　【発行所】東京電機大学出版局
備　考	「講義30時間の他に60時間の自学自習を要する」

（出典：平成 24 年度授業科目シラバス P．493）

資料５－３－①－14

第２４００２号
平成２４年５月１日

国立弓削商船高等専門学校　御中

社会福祉法人アルーラ福祉会
障害者支援施設アルーラ
施設長　西村純一

航海体験のお願い

新緑の香りがすがすがしい季節になりました。皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より深いご理解とご支援を賜り、お礼申し上げます。

今年も航海体験のお声を掛けていただき、利用者を始め職員一同、他の施設にはない貴重な体験をさせていただけること、嬉しく思っております。貴校のご配慮に心から深謝いたし、まずは書面においてお願い申し上げます。

記

１．日時　　平成２４年６月２７日（水）

２．目的　　・航海体験により、社会経験を広める。
　　・船に乗り感動を味わう。

３．内容　　練習船での航海

４．参加予定者　利用者、付添職員　　約３０名

（出典：学生課）

資料５－３－①－15

グリーンキャンドゥとの松原海岸のボランティア活動報告

学生会
学生主事

今年度も、NPO 法人グリーンキャンドゥとの松原海岸における清掃活動を下記の通り計画しました。ご協力よろしくお願い致します。

1. 実施場所　　松原海岸
2. 実施時間　　毎回 16：30～　(小雨決行・荒天中止)
3. 実施内容　　松原海岸における漂着ゴミ等の回収
4. 実施日

日　　時		担当クラブ名
2012 年	5 月 11 日	美術・吹奏楽・将棋・茶道
	(第 2 金曜日)	
	6 月 22 日	野球・女バスケ・水泳
	(第 4 金曜日)	
	7 月 13 日	ラグビー・ソーラーボート・写真
	(第 2 金曜日)	
	9 月 14 日	男バスケ・書道・卓球
	(第 2 金曜日)	
	10 月 12 日	硬式テニス・剣道・天文気象
	(第 2 金曜日)	
	11 月 9 日	ソフトテニス・バトミントン・軽音
	(第 2 金曜日)	
	12 月 14 日	男バレー・カッター・ヨット
	(第 2 金曜日)	
2013 年	1 月 14 日	サッカー・ロボコン・柔道
	(第 2 金曜日)	
	2 月 8 日	女バレー・マイコン・陸上
	(第 1 金曜日)	

※清掃用具等は準備します。

(出典：学生課)

資料５－３－①－16

平成２５年度クラブ・同好会顧問等名簿

平成２５年４月１日現在

部　　局	顧　問　教　員	部員数	
１．総　　局	多田　葛目		
２．体　育　局	水崎　田房		
陸　　上　　部	※村上（知）・南郷・友田		
男子バレー部	※山崎・望月		
女子バレー部	※野口・峯脇		
ソフトテニス部	※中村・雙知・久保		
卓　　球　　部	※藤井（清）・坂内・大根田		
サ　ッ　カ　ー　部	※永本・房野・秋葉		
男子バスケット部	※水崎・前田		
女子バスケット部	※多田（光）・桝田		
柔　　道　　部	※葛目・松永・野町		
剣　　道　　部	※田房・岡本		
野　　球　　部	※長井・中山・森 湯田・児玉		
水　　泳　　部	※藤本・徳田・伊藤（芳）		
テ　ニ　ス　部	※濵中・益崎・鶴		
ラ　ク　ビ　ー　部	※中・伊藤（武）		
カ　ッ　タ　ー　部	※高岡・柳沢・向瀬		
ヨ　　ッ　　ト　部	※高木・二村・小林・野々山・櫻根		
バドミントン部	※上江・政家・ガンバット		
３．文　化　局	野々山		
学　　芸　　部	※多田（光）		休部
美　　術　　部	※岡本・塚本		
茶　　道　　部	※峯脇・勘久保		
吹　奏　楽　部	※日下・峯脇		
軽　音　楽　部	※野々山・勘久保		
写　　真　　部	※塚本・向瀬		
無　　線　　部	※葛目		休部
書　　道　　部	※猪川・望月		
マ　イ　コ　ン　部	※長尾・徳田		
ロボット研究部	※前田・長井・伊藤（芳）		
天　文　・　気　象	※二村		
将　　棋　　部	※神谷		
囲　　碁　　部	※多田（光）・児玉		
ソーラーボート部	※木村		
４．同　好　会			
イラスト・漫画	※藤本		
マリンスポーツ	※田房		休部
Ｉ　Ｔ　研　究　会	※塚本・田房		休部
映　画　研　究　会	※神谷		休部
文　芸　同　好　会	※多田（光）		
ストリートバスケット	※葛目		
ESS	※坂内・望月		
科学実験同好会	※伊藤（武）		
弓　　道	※久保		
空　　手　　道	※田房・勘久保		
ソ　フ　ト　ボ　ー　ル	※神谷・二村		

※印は代表顧問（学生は主将）

（出典：学生課）

資料５－３－①－17

弓削商船高等専門学校　クラブ・同好会 - ようこそマイコン部HPへ　1/2 ページ

弓削商船高等専門学校
Yuge National College of Maritime Technology

検索　使い方　ログイン



ご挨拶

弓削商船高専マイコン部は昭和63年に同好会として発足し、平成3年頃から部に昇格しております。

主な活動内容は、
○全国高専プログラミングコンテスト
○商船祭
○四国地区総合文化祭
などへの作品応募・展示です。

最近では、
○Microsoft ImagineCup
などの、コンテストにも応募しております。

Facebookもチェッ
アカウント登録
か、ログインして、友
ねり」を見てみましょ
弓削商船高
コン部
いいね！

- トップページ
  - ようこそマイコン部HPへ
  - ナガオイズム
  - プロコンの記録
  - 合宿2007
  - 合宿2008
  - 合宿2009
  - 合宿2010

あなたは[illegible]人目です。

◀ 2012 ▶
◀ 08 ▶

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

12件

第3回ものづくり日本大賞(116枚)　登録者:長尾教官 | 2009年07月31日



首相官邸訪問の記録

第29回四国地区総合文化祭(11枚)　登録者:長尾教官 | 2007年11月21日



本校主管で行われた総文(コンピュータ部門)のスナップです。

第18回プロコンスナップ(46枚)　登録者:長尾教官 | 2007年10月25日



第18回大会中の風景です。

12件

各種コンテストの案内

じっとしていても始まらない。動いたものにだけ、成果はあるんだ。
さあ、次の目標はどれだ！？

- 全国高専プログラミングコンテスト
  http://www.procon.gr.jp/
- 愛媛大学プログラミングオープンチャレンジ@松山
  http://epoch.cs.ehime-u.ac.jp/
- マイクロソフトImagineCup2009 in エジプト
- マイクロソフトImagineCup2010 in メキシコ

■N教官のお言葉

1 2 | 次▶ 10件

2009/03/05 ImagineCup 2009 (Egypt) 日本大会へ！！　from:長尾教官

マイコン部のメンバと1年生がチームを組んでImagineCup ソフトウェア部門に応募したのですが、なんと上位3位以内に食い込み、日本大会に参加することになりました。
日本大会に参加するのは3チームです。
世界も夢ではないかもしれません。

日本大会は3/30(月) 目黒雅叙園(東京)です。

コメント(0)

2008/10/15 第19回プロコン本選の結果　from:長尾教官

- 課題部門　優秀賞
- 自由部門　敢闘賞
- 競技部門　再試合(11月予定)

参加メンバーは本当に頑張ってくれました。
本選時にメンバーの熱意がピークになっていたことは間違いありません。
今年も、良いメンバーに恵まれたと思います。

反省会での皆の言葉の1つ1つが重く、輝きのある言葉でした。
次の目標に向けて、また集まりましょう。

コメント(0)

2008/06/29 プロコン予選結果　from:長尾教官

6/28プロコン予選がおこなわれました。

本校からエントリの3作品はいずれも無事予選通過です。
準備状況を考えると、けっして順調とは言えませんが、これからがんばりましょう。

http://e-campus.yuge.ac.jp/micom/　2012/08/21

（出典：本校ウェブサイト）

資料５－３－①－18

ヨット部の国体出場（別添資料１）

（出典：平成 23 年 10 月 5 日付け愛媛新聞抜粋）

資料５－３－①－19

特別活動年間行事予定

行　　事　　名	期　　間
新入生オリエンテーション	平成24年4月11日～12日
校内体育大会	平成24年5月24日
愛媛県高等学校総合体育大会	平成24年6月1日～4日
瀬戸内2校定期戦	平成24年6月23日
全国商船高等専門学校漕艇大会（カッターの部）	平成24年7月7日～8日
四国地区高等専門学校体育大会	平成24年7月14日～16日
全国高等専門学校体育大会	平成24年8月18日～28日
キャンパスクリーン	平成24年10月3日
全国高等専門学校プログラミングコンテスト	平成24年10月13日～14日
瀬戸内三商船高専漕艇大会新人戦	平成24年10月20日～21日
全国商船高等専門学校漕艇大会（ヨットの部）	平成24年10月27日～28日
全国高等専門学校ロボットコンテスト2012四国地区大会	平成24年10月28日
商船祭	平成24年11月3日～4日
全国高等専門学校ロボットコンテスト2012全国大会	平成24年11月25日
避難訓練	平成24年12月11日
四国地区高等専門学校総合文化祭	平成24年12月15日～16日
全国高等専門学校体育大会（ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ）	平成25年1月4日･5日･7日･9日

（出典：学生課）

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価基準については，資料５－４－①－１に示す学業成績の評価（再試験・特別試験及び追試験の評価を含む）並びに進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則第９条及び第 10 条に規定している。追試験実施については同規則第５条に規定し，再試験実施については同規則第６条に規定し，特別試験の実施については同規則第７条に規定している。単位の修得に関しては同規則第３条に規定し，卒業の認定については同規則第 15 条に規定している。また，学年制の前提の下で，特別進級については同規則第 13 条に規定し，追認試験については同規則第 14 条に規定している。この規則は，全学生に配布している学生便覧（資料５－４－①－２）に掲載し，新入生ガイダンス時（資料５－４－①－３）やホームルームの時間を利用して学生に周知している（資料５－４－①－４）。

成績評価は，各教員がシラバスに示した評価方法に従って行う。資料５－４－①－５に具体例を示す。成績評価表は，教務システムにより各教員が入力し教務係で保管している（資料５－４－①－６）。全試験答案は，電子ファイル化し本校内のサーバーに保管している（資料５－４－①－７）。学年末における成績周知及び成績判定の日程を資料５－４－①－８に示す。成績及び欠課時数の訂正が必要な場合には，担当教員が必要事項を記入して，教務係に連絡を行う（資料５－４－①－９）。

１単位の履修時間が，授業時間以外の学修と合わせて 45 時間である授業科目については，シラバスに明記し，学生に周知している（資料５－４－①－10）。

規定の運用は厳格かつ慎重に行っている。成績判定及び単位認定は成績判定会議（資料５－４－①－11），進級認定は進級判定会議（資料５－４－①－12），卒業認定は卒業判定会議（資料５－４－①－13）を校長・全教員参加の教員会議として開催し，審議し判定している（成績及び卒業判定資料は，訪問調査時に提示）。また，特別進級に伴う単位追認試験結果の判定（資料５－４－①－14）についても，その都度，判定会議を開催している（資料５－４－①－15）。

（分析結果とその根拠理由）

成績評価基準や進級・卒業認定基準に関する規則が制定されており，学生に周知されている。また，成績判定，単位認定，進級認定，卒業認定は教員会議で，校長及び全教員によって審議され，適切かつ厳格に実施されている。

資料５－４－①－１－１

○弓削商船高等専門学校学業成績の評価並びに進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則

制　　定　昭和63年４月８日
最終改正　平成23年１月20日

第１章　総則

（趣旨）

第１条　弓削商船高等専門学校学則第14条に規定する各学年の課程の修了及び卒業の認定等については，この規則の定めるところによる。

第２章　履修及び修得

（履修）

第２条　授業科目の単位の履修は，欠課時数が当該授業科目（特別活動を含む。）の単位時間数の３分の１以内の場合に認めるものとする。ただし，半期で修了する授業科目及び選択科目で特に指定したものについては別に定める。

２　欠席日数及び欠課時数の換算は次の各号によるものとする。

（１）　欠課時数は，７単位時間をもって欠席１日とする。

（２）　遅刻又は早退は，３回をもって欠課１単位時間とする。

３　次の各号に該当する場合は，学生準則第13条第１項の規定にかかわらず，所定の公欠願（第１号書式）を校長に提出し，許可を受けるものとする。この場合において，その取り扱いは出席とする。

（１）　災害，交通機関の運航休止等やむを得ない事由により，その事実が確認された場合

（２）　就職活動のため会社訪問をする場合。ただし，会社訪問１回につき３日以内とする。

（３）　進学に関してその必要性を認めた場合

（４）　課外活動等で別表１に掲げるものに参加する場合

（５）　海技試験及び無線に関する国家試験を受験する場合。ただし，海技試験の受験１回につき３日以内とし，無線に関する国家試験は受験１回につき１日とする。

（６）　公傷と認められた場合（医師の診断書を提出した場合に限る。）

（７）　学会発表及び学会発表の聴講に出席する場合。

（８）　インターンシップに参加する場合。

（９）　ボランティア活動に参加する場合。

(10)　その他校長がやむを得ないと認める相当の事由がある場合

（修得）

第３条　授業科目の単位の修得は，履修が認められ，かつ，学業成績が合格の場合に認められるものとする。ただし，実技を伴う授業科目及び選択科目の単位の修得については別に定める。

２　学業成績は，当該授業科目が60点以上のものについて合格とする。

第３章　試験

（定期試験等）

資料５－４－①－１－２

第４条　定期試験は，各学期末ごとに１回実施する。ただし，商船学科第５学年については，９月に席上課程修了試験を実施する。

２　中間試験は，科目担当教員が必要と認めた科目について，各学期の中間において実施することができる。

（追試験）

第５条　次の各号に掲げる事由により，定期試験又は中間試験を受けることができなかった学生は，当該未受験科目に限り１回の追試験を受けることができる。

（１）　傷病（医師の診断書を提出した場合に限る。）

（２）　忌引（学生準則第14条による。）

（３）　災害，交通機関の運航休止等（その事実が確認された場合に限る。）

（４）　出席停止（学則第25条による。）

（５）　その他校長がやむを得ないと認める相当の事由がある場合

２　追試験を受けようとする学生は，所定の追試験受験願（第２号書式）を追試験実施日の前日までに校長に提出し，校長の許可を受けなければならない。

３　追試験の実施期日等については，校長が指定する。

（再試験）

第６条　各学年成績（商船学科第５学年にあっては，席上課程修了時の成績）において次の各号に該当する学生は再試験を受けることができる。

（１）　再試験は，学年成績において合格の科目数が当該学年の修得すべき最少科目数の２／３以上の場合に受験できるものとする。

ただし，別表２の科目については，再試験は行わない。

（２）　前期で終了する授業科目の不合格科目についての再試験は，学年末を待たずに実施することができる。

２　再試験を受けようとする学生は，所定の再試験受験願（第３号書式）を再試験実施日の前日までに校長に提出し，許可を受けなければならない。

３　再試験の実施期日等については，校長が指定する。

（特別試験）

第７条　再試験において不合格の科目がある学生は，５年生に限り特別試験を受けることができる。

２　特別試験を受けようとする学生は，所定の特別試験受験願（第４号書式）を特別試験実施日の前日までに校長に提出し，許可を受けなければならない。

３　特別試験の実施期日等については，校長が指定する。

（不正行為等）

第８条　試験中に不正行為又は妨害行為をした学生は，当該行為以降の受験を停止させ，当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

２　次の各号に該当する学生は，当該試験科目の試験成績を0点とする。

（１）　第５条第１項各号以外の事由により受験しなかった学生

（２）　懲戒処分により受験できなかった学生

（３）　試験開始から20分以内に入室しなかった学生又は試験開始から20分以内に退室した学生

資料５－４－①－１－３

第４章　成績の評価

（成績評価）

第９条　学業成績は，各科目ごとに次の各号により評価するものとする。

（１）　学期成績は，定期試験及び中間試験の成績，平素の成績，学習態度，出席状況等を総合したものを100点法をもって評価する。ただし，卒業研究，選択科目の一部については合格・不合格をもって評価することができる。

（２）　学年成績は，各学期成績を総合したものを100点法をもって評価する。ただし，再試験・特別試験及び追認試験の合格に対する評価は，60点とし，前学年の未修得科目がある学生については，学年成績の評価は行わない。

（成績評定）

第10条　学業成績の評定は，次の区分により学生指導要録に記載するものとする。

優　　80点～100点

良　　70点～79点

可　　60点～69点

不可　59点以下

第５章　進級及び卒業の認定

（認定）

第11条　進級・特別進級及び卒業の認定は，教員会議の議を経て校長が行う。

（進級）

第12条　進級の認定は，次の各号の要件を満たした学生について行う。

（１）　１年間の出席日数が，出席すべき日数（授業（特別活動，講演等を含む。），学校行事，特別日課等の合計とし，出席停止（学則第25条）及び忌引（学生準則第15条）は含まない。第14条第４項において同じ。）の３分の２以上であること。この場合において，欠席日数の換算は第２条第３項を適用する。

（２）　当該学年において，別表３の所定の進級単位数を修得していること。

（３）　前学年の未修得科目がないこと。

（４）　特別活動を履修していること。

（特別進級）

第13条　前条第２号の規定にかかわらず，次の各号の要件を満たす学生については，特に進級の認定を行うことができる。

（１）　その学年で必要な全科目を履修していること。

（２）　特別活動を履修していること。

（３）　別表４に示す各学年の科目を修得していること。

（４）　１年間の出席日数が，出席すべき日数の３分の２以上であること。この場合において欠席日数の換算は，第２条第３項を適用する。

（５）　当該学年の未修得科目数及び未修得単位数が別表５に示す数以下であること。

（６）　前学年の未修得科目がないこと。

２　前項の進級を希望する学生は，所定の特別進級願（第５号書式）を校長に提出し，許可を受けなければならない。

（追認試験）

資料５－４－①－１－４

第14条　前条に規定する進級（以下「特別進級」という。）をした学生は，追認試験を受けることができる。
２　追認試験を受けようとする学生は，所定の追認試験受験願（第６号書式）を追認試験実施日の前日までに校長に提出し，許可を受けなければならない。
３　追認試験は，夏季休業前に３回実施する。
４　追認試験の実施日等については，校長が指定する。
５　追認試験に対する再試験・特別試験は行わない。
（卒業）
第15条　卒業の認定は，学則第29条の規定により，各学科ごとに次の要件を満たした学生について行う。
（１）　商船学科
（ア）　別表６の所定の卒業所要単位数を満たしていること。
（イ）　大型練習船実習を修了していること。
（２）　電子機械工学科及び情報工学科
（ア）　別表６の所定の卒業所要単位数を満たしていること。
第６章　再履修
（再履修）
第16条　第11条による認定の結果，原学年にとどめられた学生は，学則第15条の規定により原学年の全科目について再履修しなければならない。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集６－５抜粋）

資料５－４－①－２

(2)　学則別表第２（専門科目教育課程表） ---------- 12

§Ⅱ　諸　　手　　続
1　諸手続の窓口 ---------- 18
2　学生課の業務 ---------- 18
3　技術支援センターの業務 ---------- 18
4　練習船弓削丸班 ---------- 18
5　その他の窓口業務 ---------- 18
6　各　種　手　続 ---------- 19
(1)　交付を受けるもの ---------- 19
(2)　届出をするもの ---------- 19
(3)　願い出をするもの ---------- 20
(4)　学校学生生徒旅客運賃割引証について ---------- 21
(5)　入学料の免除について ---------- 21
(6)　授業料の免除・徴収猶予、寄宿寮免除及び就学支援金制度について ---------- 21
(7)　入学料・授業料・寄宿料一覧 ---------- 23

§Ⅲ　奨学金制度等
1　日本学生支援機構奨学金 ---------- 24
2　海技教育財団奨学金 ---------- 26
3　近藤記念海事財団奨学金 ---------- 28
4　外航日本人船員海技者奨学金 ---------- 31
5　その他地方公共団体奨学金 ---------- 32
6　留学支援基金 ---------- 33

§Ⅳ　卒業後の進路
1　就　職　状　況 ---------- 35
2　大学編入状況 ---------- 36
3　受験できる資格試験等 ---------- 38
4　海技従事者国家試験 ---------- 40
5　船舶職員教育機関図 ---------- 45

§Ⅴ　規　　則　　等
1　学　　則 ---------- 46
2　学　生　準　則 ---------- 54
3　教　務　関　係 ---------- 59
(1)　学業成績の評価並びに進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則 ---------- 59
(2)　学生表彰規則 ---------- 66
4　学生生活関係 ---------- 67
(1)　学生の車両の運転免許取得及び使用等に関する規則 ---------- 67
(2)　服　制　規　則 ---------- 69
(3)　入学料・授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料免除規則 ---------- 74
5　学　生　会　関　係 ---------- 74
(1)　学　生　会　会　則 ---------- 74

（出典：平成 24 年度学生便覧目次）

資料５－４－①－３

平成２４年度当初のスケジュール（入学生）

４月９日（月）
13:00～15:00　制服等購入，写真撮影（白雲館）
14:00～15:30　教科書、制靴等の購入（第２体育館横プレハブ）
15:00～　入学式リハーサル（入学生総代，宣誓者）（第２体育館）
（宣誓者，答辞者，教務主事，総務・学生課長）
16:00～　入寮式（入寮者のみ）（学寮：寮務関係教職員）

４月１０日（火）
9:00　出欠点呼（教室）
9:20　入学式場へ入場（学級担任誘導）
9:50　保護者入場（教務係長案内）
10:00～　入学式
入学式終了後　入学生‥‥ＨＲ（教室：学級担任）
保護者‥‥説明会（アセンブリホール）
終了後直ちに学科長による学科紹介、学級担任との懇談会（教室）
※入学生ＨＲは午前中に終わります。
保護者の方１名分のみ食券を用意しております。（他の付添の方は食堂で食券を購入してください。）
食事は「白雲館」で食券を提示のうえ１４時３０分までにお願いします。

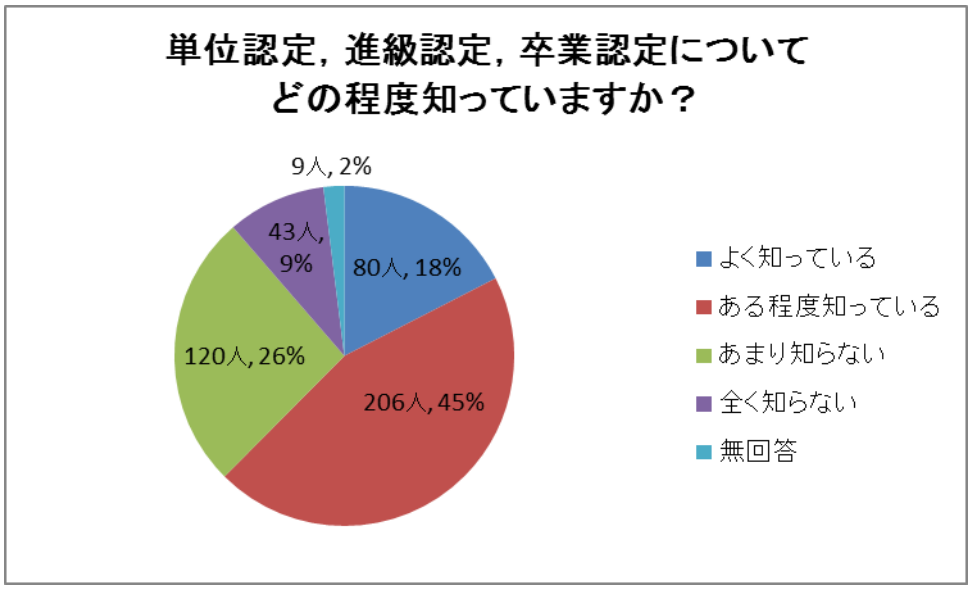
４月１１日（水）～１２日（木）
新入生（１年生）オリエンテーション（大三島少年自然の家）
9:20　因島土生港集合

４月１３日（金）
特別日課
8:40～ 9:30　ＨＲ（級長等の役員選出）
9:40～11:30　英語学力試験（教室：学級担任、英語担当教員）
11:40～12:30　記念撮影（学級担任）
13:20～　校外施設紹介（銀行、役場、郵便局、港、佐島等、学校桟橋の説明）
（学級担任）
15:20～15:40　１年生級長・副級長任命式（第１会議室：学級担任出席）

４月１６日（月）
特別日課
8:40～ 9:30　ＨＲ
9:40～10:30　数学学力試験（教室：学級担任）　「問題回収」
10:40～11:30　国語学力試験（教室：学級担任）　「問題回収」
11:40～12:30　自転車登録
（学生課前：学生主事・寮務主事・学生主事補・寮務主事補・学級担任）
13:20～14:10　心理テスト
14:20～　ＨＲ（学科別教員自己紹介、学科ガイダンス）

（出典：学生課）

資料５－４－①－４



（出典：企画広報室）

資料５－４－①－５

科目成績一覧

個人情報等保護のための削除

（出典：担当教員）

資料５－４－①－６

平成 20 年 5 月 26 日　更新

弓削商船高専教務システム

操作マニュアル（教員用）



弓削商船高等専門学校　教務係

＜目次＞

A）教務システムのメニューを表示するには
B）成績を入力するには
C)成績報告票を印刷するには

1

（出典：学生課）

資料５－４－①－７

H23.5.26　update

試験問題･答案用紙の電子保存方法(サーバ)

1.手順

(1)原稿を上向きにし,ソータにセット
(2)操作パネルから保存するフォルダを指定
(3)スキャン設定
(4)スタートボタン

2.操作パネル

(1)パワーセーブ
　　省電力モードのとき,押して回復する.
(2)スタート
　　ソータにセットした原稿し,スキャンをスタートする.
(3)タッチペン
　　タッチパネルを操作する.指でもできますが,なるべくタッチペンを利用下さい.



1 |

（出典：学生課）

資料５－４－①－８

平成２４年度学事予定表（３月）

○ 授業日　△ 開校日　× 休業日

			本科			専攻科			
1	金	○	● 1～4年生後期末試験　教員会議（入試選考①）	1	金	△	教員会議		
2	土	×	三商船合同選考会議（広島）	2	土	×			
3	日	×		3	日	×			
4	月	○	M・I５特別試験　入学試験委員会②、教員会議（入試選考②）	4	月	△	教員会議		
5	火	○	▼入試合格発表	5	火	△	特別研究中間発表（生産１年）		
6	水	○	● 試験解説、成績開知	6	水	○			
7	木	○	教員会議（M・I５卒業認定）	7	木	○	教員会議		
8	金	○	▼退任式、終業式、大掃除	8	金	△			
9	土	×	補講航海（後期）●	9	土	×			
10	日	×		10	日	×			
11	月	×	臨時休校▼	11	月	△	研究指導報告書・授業完了報告書提出（海上１・２年、生産１年）		
12	火	×	臨時休校	12	火	△	専攻科委員会		
13	水	×	教員会議（成績確認）　臨時休校	13	水	△	教員会議（成績確認）　修了見込証明書発行（海上２年）		
14	木	△	卒業式（電子機械工学科、情報工学科）	14	木	△	修了式（生産システム工学専攻）		
15	金	×	● 1～4年生再試験　臨時休校	15	金	×	臨時休校		
16	土	×		16	土	×			
17	日	×		17	日	×			
18	月	×	▼臨時休校	18	月	×	臨時休校		
19	火	×	臨時休校	19	火	×	臨時休校		
20	水	×	春分の日　学年末休業●	20	水	×	春分の日　学年末休業		
21	木	×	教員会議（進級認定）	21	木	×	教員会議　学位授与申請書の作成（海上２年）		
22	金	×		22	金	×			
23	土	×		23	土	×			
24	日	×		24	日	×			
25	月	×		25	月	×			
26	火	×		26	火	×			
27	水	×		27	水	×			
28	木	×		28	木	×			
29	金	×		29	金	×	シラバス開示		
30	土	×		30	土	×			
31	日	×	▼	31	日	×			
○６日　△１日　×２４日　（臨休　７日）				○２日　△８日　×２１日　（臨休　３日）					

（出典：平成 24 年度３月学事予定表）

資料５－４－①－９

科目別学業成績及び欠課時数訂正届

訂正日	平成　　年　　月　　日
申請者	学科名等
	氏　　名
試験区分	□前期中間　□前期期末　□席上課程　□後期中間　□学年末　□その他（　　）
科目名	
クラス	学科　　年

訂正内容

出席番号	氏　　名	成　績		欠課時数		訂正理由
		正	誤	正	誤	

※科目別、クラス別に作成すること。

（出典：学生課）

資料５－４－①－10

授業科目	基礎力学			担当教員	二村　彰		
学　科	商船学科	学　年	２年	授業期間	後期	単位数	1
分　野	専門	授業形態	講義	履修区分	必修（学修単位）		
学習目標	工学の基礎となる力学を学ぶ。さまざまな現象の力学的把握とその解析方法を習得する。						
進め方	授業では例題をもとに講義を進め、授業後は演習レポートを提出する。						

学習内容	学　習　項　目	（時間数）	学習到達目標
	ガイダンス	（1）	
	力の合成と分解	（2）	力、ベクトル、合成、分解、モーメント、つりあい、重心の理解および力学に慣れる。
	力のモーメント	（1）	
	力のつりあい、重心	（1）	
	運動	（2）	速度、加速度、落体の運動、相対運動の理解。
	運動の法則	（1）	ニュートンの三法則、運動方程式の理解。等速円運動、遠心力等の理解。さまざまな放物運動に慣れる。
	円運動、放物運動	（1）	
	運動量と力積	（1）	運動量、力積、衝突等の理解。
	仕事と仕事率	（1）	仕事、仕事率、力学的エネルギーの理解。
	力と仕事	（2）	力、仕事、摩擦から機械の効率について学ぶ。
	振動	（2）	振動の基礎の理解。さまざまな振動に慣れる。

養成施設引当て科目＆単位	航海コース　なし	機関コース　なし
免許講習引当て時間		
評価方法	定期試験６０％、課題レポート３０％、出欠・態度１０％の総合評価とする。	
関連科目	物理	
教科書等	【書名】	【著者】　【発行所】
備　考	プリントを随時配布する。定規、分度器、電卓を持参すること。 １単位当たり３０時間の自学自習を必要とする。	

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．61）

資料５－４－①－11

平成２４年度第１８回教員会議議事概要

日　時　　平成２５年３月１３日（水）１４時００分～１４時４３分

場　所　　第一会議室

出席者　　５１名（別紙のとおり）

議　事

（審議事項）

１　平成２４年度学年末成績の確認について

教務主事から、再試験受験資格等について、「学業成績の評価並びに進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則」に基づき説明があった。

続いて、審議資料１に基づき、学年末成績及び欠課時数の確認が行われ、次の１件について訂正のうえ、その他は原案どおり了承された。

（出典：平成 24 年度第 18 回教員会議議事録）

資料５－４－①－12

平成２４年度第１９回教員会議議事概要

日　時　　平成２５年３月２１日（木）１４時０５分～１４時３４分

場　所　　第一会議室

出席者　　４５名（別紙のとおり）

議　事

（審議事項）

１　平成２４年度学年末成績の確認について

教務主事から、審議資料１－１及び１－２に基づき、再試験結果について説明があり、各科目担当教員の確認が行われた。

続いて、教務主事から、次のとおり特別進級者等の認定があった。

	再試験結果による原級留置者	特別進級者
Ｓ１		２名
Ｍ１		２名
Ｉ１		５名
Ｓ２		１名
Ｍ２		６名
Ｉ２	２名	１１名
Ｓ３		６名
Ｍ３		５名
Ｉ３		４名
Ｓ４Ｎ		２名
Ｓ４Ｅ		１名
Ｍ４		６名
Ｉ４	２名	１５名
合計	４名	６６名

また、来年度は資料１－１再試験結果一覧表を、「体育」の不合格者を追加したものに改善する予定である旨の報告があった。

（出典：平成 24 年度第 19 回教員会議議事録）

資料５－４－①－13

平成２４年度第１７回教員会議議事概要

日　時　　平成２５年３月７日（木）１４時３２分～１４時４８分

場　所　　第一会議室

出席者　　３９名（別紙のとおり）

議　事

（審議事項）

１　電子機械工学科・情報工学科５年生卒業認定について

教務主事から、審議資料１－１に基づき、再試験及び特別試験の結果について説明があり、科目担当教員の成績確認が行われた。

続いて、教務主事から、審議資料１－２に基づき、卒業所要単位数等について説明があった。

教務主事から、成績及び卒業所要単位数等について確認が行われ、全員の卒業が認定された。

（出典：平成 24 年度第 17 回教員会議議事録）

資料５－４－①－14

平成 24 年度第２回追認試験結果一覧表

個人情報等保護のための削除

（出典：学生課）

資料５－４－①－15

平成２４年度第３回教員会議議事概要

日　時　　平成２４年５月３１日（木）１６時３２分～１７時０１分
場　所　　第一会議室
出席者　　４８名（別紙のとおり）
議　事
（審議事項）
１　第２回追認試験結果について
　教務主事から、審議資料１に基づき、平成２４年５月２１日から５月２５日まで実施された第２回追認試験の結果について報告があった。
　引き続き、校長から、合否判定の確認が行われ、合格者２０名及び不合格者３８名が承認された。
２　その他
　なし。
（報告事項）
１　平成２４年度新入生学力試験結果について
２　その他

（出典:平成 24 年度第３回教員会議議事録）

〈専攻科課程〉

観点５－５－①：　教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

専攻科の教育課程と準学士課程の教育との連携は，専攻科の説明資料「未来へのひとづくりものづくり」の中で明確にしている（資料５－５－①－１，２）。

海上輸送システム工学専攻については，商船学科における航海コース・機関コースの２つの系との連携を図り，生産システム工学専攻については，電子機械工学科と情報工学科の２学科との連携を図っている。

また，専攻科の授業科目（平成 24 年度カリキュラム改訂）は，母体となる準学士課程の各学科の授業科目（平成 22 年度カリキュラム改訂）を基礎として，より高度な内容への発展・融合，応用力の育成などが図られるように連続性を考慮し配置されている（資料５－５－①－３～５）。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科における教育内容と準学士課程の各コース・各学科の教育との連携は，専攻科設置時及び平成 24 年度のカリキュラム改訂時においても明確にされている。また，学科・専攻科科目の関連図から，専攻科に配置される授業科目が準学士課程における授業科目を基礎として，連続性を持たせて体系的に配置されていると認められる。

以上のことから，本校の専攻科の教育課程は準学士課程の教育との連携を考慮したものとなっている。

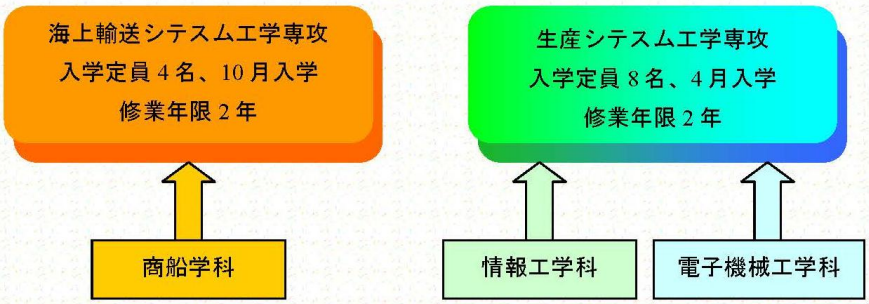
資料５－５－①－１



（出典：専攻科「未来へのひとづくりものづくり」）

資料５－５－①－２

教育課程



海上輸送システム工学専攻
海事管理技術者の養成

海事管理は、大きく運航管理と機関管理からなっています。一年間の航海実習を経験した上で、海上輸送システム工学専攻に進み商船学、物流管理、運航管理および機関管理を学ぶことで運航に必要な技術のみならず、管理技術・ノウハウをも身に付け陸上から船舶運航を管理、支援することのできる人材を育成します。

生産システム工学専攻
実践的な「ものづくり技術者」の養成

情報技術、ものづくり技術を柱とし、制御、電気電子系の専門知識を学ぶことで、複合領域で活躍できる人材を育成します。従来までに学んできた情報工学やものづくり技術を統合して活用できるようになれば、システムの設計・構築から解析まで幅広い分野で活躍できるようになります。

いずれの専攻も修業年限は２年で、海上輸送システム工学専攻、生産システム工学専攻の定員、入学時期は以下に示します。

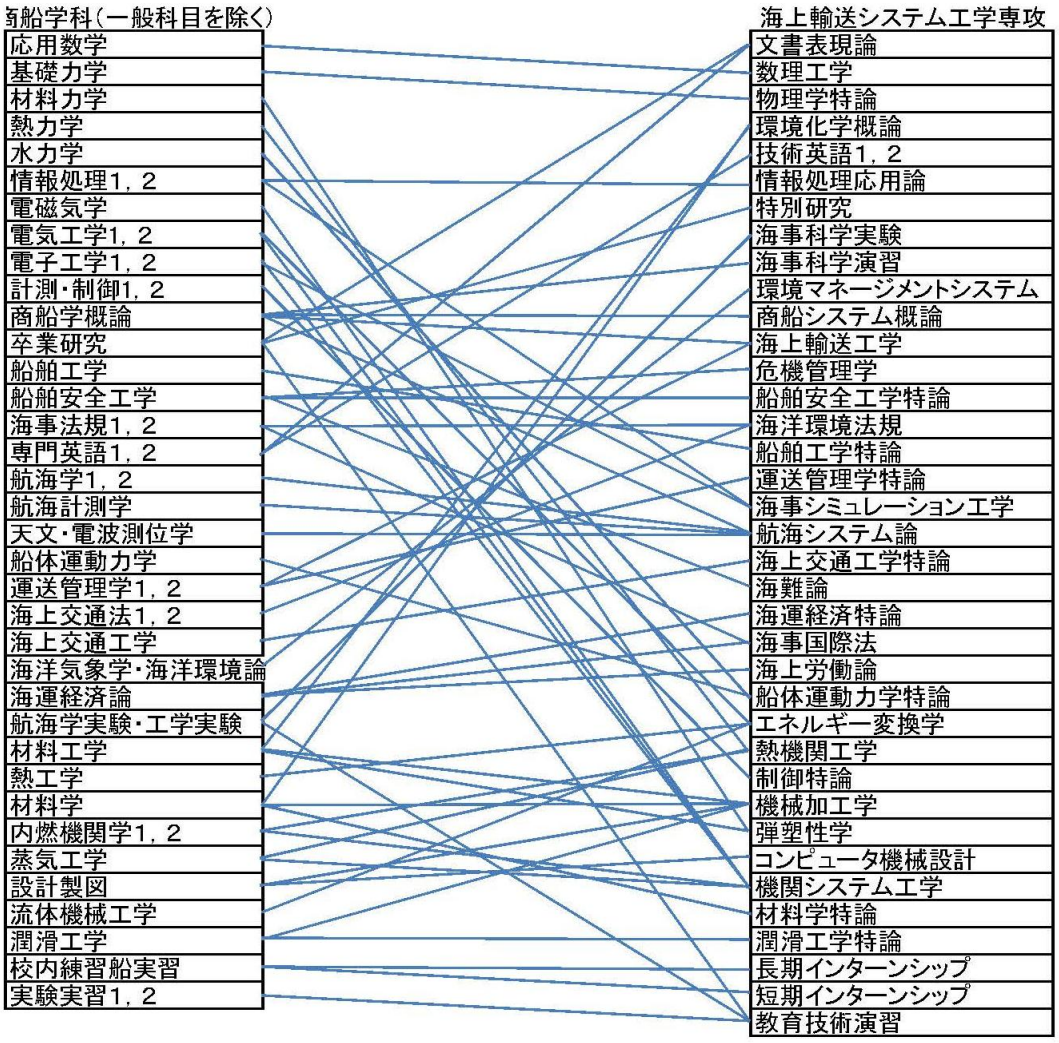
入試に関する情報については、本校 Web ページ <http://www.yuge.ac.jp> をご覧下頂くか、本校入試係（Tel: 0897-77-4619）までお問い合わせください。

海上輸送システム工学専攻：定員４名　（入学時期は 10 月）
生産システム工学専攻　　：定員８名　（入学時期は４月）

（出典：専攻科「未来へのひとづくりものづくり」）

資料５－５－①－３

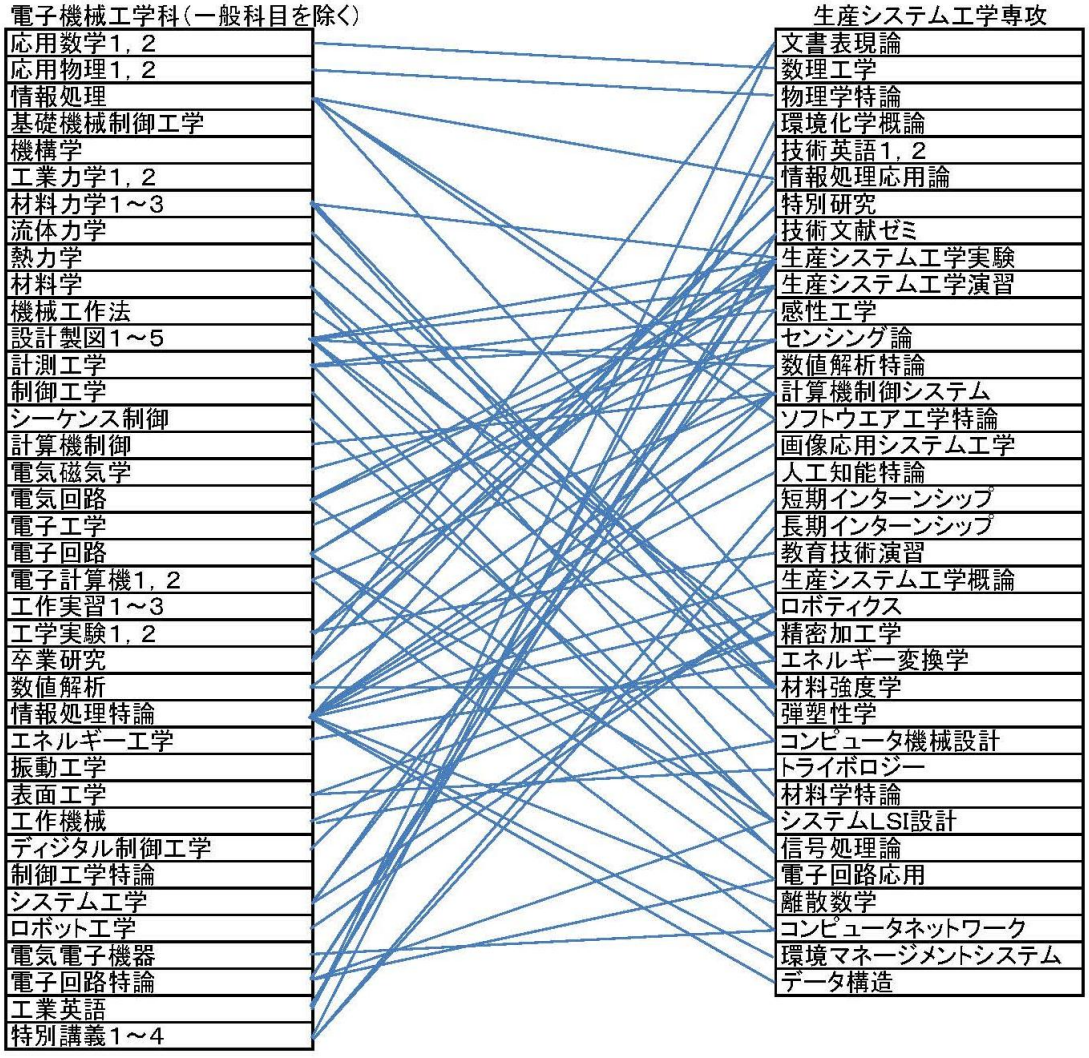
本科商船学科と専攻科海上輸送システム工学専攻における関連科目



（出典：専攻科）

資料５－５－①－４

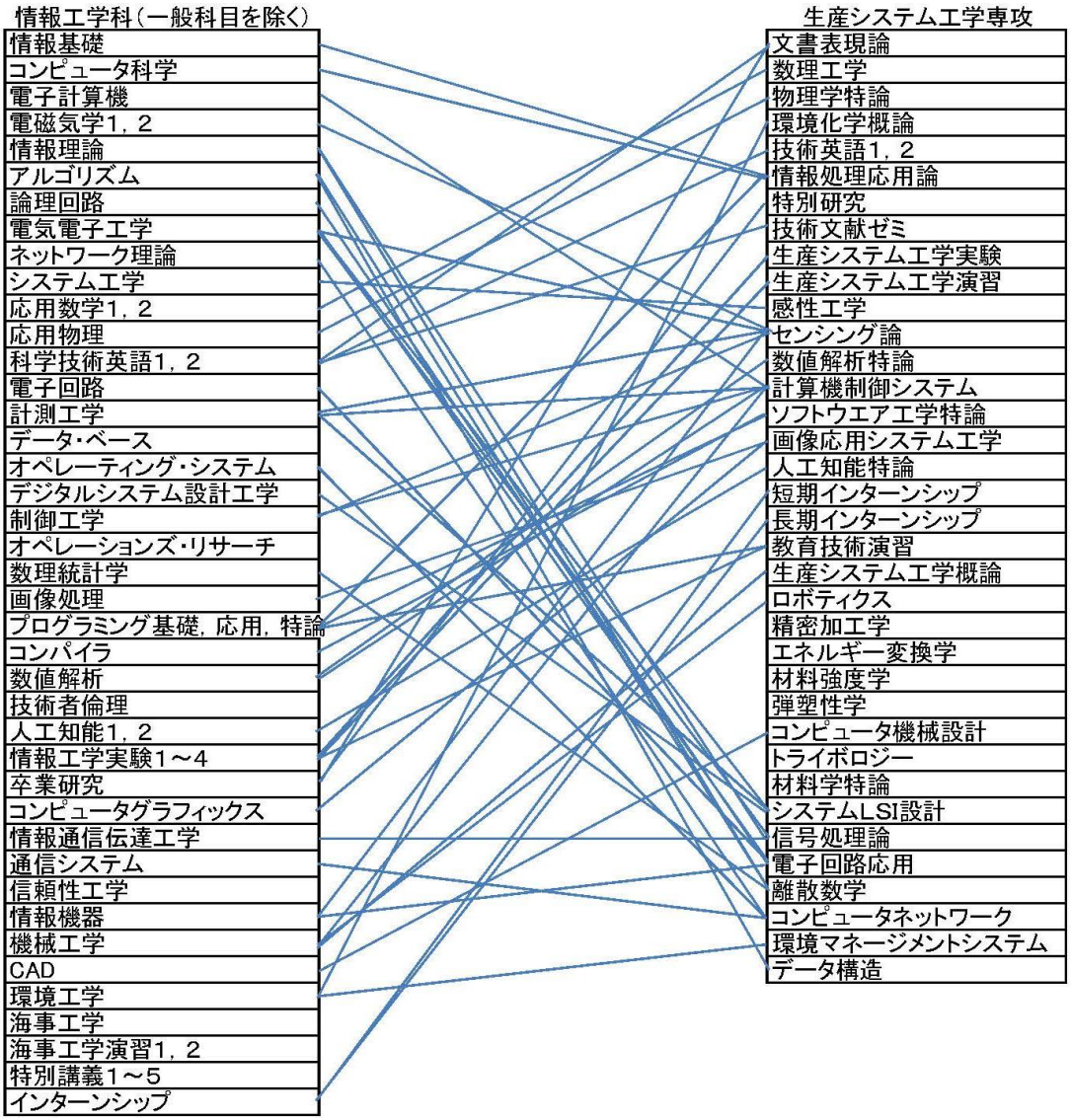
本科電子機械工学科と専攻科生産システム工学専攻における関連科目



（出典：専攻科）

資料５－５－①－５

本科情報工学科と専攻科生産システム工学専攻における関連科目



（出典：専攻科）

観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科の目的については学則により,「高等専門学校における教育の基盤の上に，精深な程度において商船及び工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成すること」（資料５－５－②－１）と明確にしており，その下に各専攻の教育目標をより具体的に掲げている（資料５－５－②－２）。

これらの目的及び教育目標を達成するために授業科目を体系的に配置している。準学士課程科目を基にしてより高度な技術教育を行うため，授業科目は，専門基礎科目，専門必修科目，専門選択科目に分類され（資料５－５－②－３～７），基礎的及び専門的な知識・能力を育むように配慮されている。また，専攻ごとの実践的な専門技術者育成を図るため，実験・演習系科目と特別研究を配置している。

授業内容についてはシラバス（資料５－５－②－８）に明記されており，学習・教育目標に沿ったものとなっている。また，学士の学位取得については，大学評価・学位授与機構の分類による専門分野の基準に対応して取得できるように編成している(資料５－５－②－９,10)。さらに，本専攻科における教育の実施状況は，平成 23 年２月に独立行政法人大学評価・学位授与機構によって,「適」と認められている（資料５－５－②－11)。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の教育目的を達成するために，各専攻では専攻ごとに教育目標が定められ，適切な授業内容となるように配慮されている。また，教育目標に掲げられたレベルに到達するために段階的な履修が可能となるように授業科目が配置され，学士の学位取得が可能となるように体系的に教育課程が編成されている。

資料５－５－②－１

専攻科の目的

第８章　専攻科

（設置）

第41条　本校に専攻科を置く。

（目的）

第42条　専攻科は，高等専門学校における教育の基盤の上に，精深な程度において商船及び工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集１－１弓削商船高等専門学校学則抜粋）

資料５－５－②－２

専攻ごとの教育目標

Ⅱ　学習・教育目標

本専攻科は海上輸送システム工学専攻（航海系・機関系）、生産システム工学専攻（機械工学系・情報工学系）からなる。２専攻とも、実際のシステムの運用・管理や開発能力、「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身につけた実践的な技術者の育成を目標としている。

・ **海上輸送システム工学専攻**

本専攻は、「海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成」を目指している。

航海系

本科航海コースでの実践的船舶運航技術に加え、海上輸送システムやマネージメントに関連する共通（航海系、機関系）の専門教育を行い、さらに運航管理や海事シミュレーション、海運、法規などの航海系の密度の濃い専門教育を行い、幅広い国際的視野を持った実践的な技術者の育成を目指している。

機関系

本科機関コースでの実践的船舶運航技術に加え、海上輸送システムやマネージメントに関連する共通（航海系、機関系）の専門教育を行い、さらに機関、制御、エネルギー変換、コンピュータ、材料などの機関系の濃い専門教育を行い、幅広い独創的開発能力を持った実践的な技術者の育成を目指している。

・ **生産システム工学専攻**

本専攻は、「機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成」を目指している。

機械工学系

本校における数学、力学や情報などの機械工学に関する基礎知識に加え、コンピュータ支援技術（ＣＡＥ）や機械制御技術を会得するための高度数値解析技術や制御技術に関する講義と実験・実習を組み合わせて教授・研究し、課題解決の実行力と独創的な創造力を有する技術者を育成することを目指している。

情報工学系

本校における実践的技術者教育の上に、精深で高度な情報工学とその関連技術を教授・研究し、コンピュータを中心とした情報システムのソフトウエア・ハードウエア・ネットワークの研究開発に貢献する人材を育成することを目指している。

情報工学の基礎となる数学と情報科学、情報技術の基礎となる工学の体系及び情報技術者に必要な関連技術を教授し、個性と創造性を育て、国際的な視野に立った研究開発技術者を育成することを目指している。

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．１）

資料５－５－②－３

カリキュラム

専門基礎科目

- **語学系**：技術英語や文章表現論など、技術者に必須な表現力、プレゼンテーション能力を養成します。
- **理数系**：数理工学、化学、物理学など、専門科目を学ぶために必要な技術と知識を深めます。

専門必修科目

- **特別研究・実験・演習**：専門科目の知識だけではなく、研究能力を向上させるための実践的な力を養います。

専門選択科目

海上輸送システム工学専攻

- **航海系・機関系共通科目**：環境、危機管理、安全工学など、これからの海事管理技術者に必須となる海事関連の技術を学び、総合的な力を養います。
- **航海系**：海上輸送システム、船舶安全管理システム、海上社会システム（海運経済・管理・経営）などのウォーターフロント分野に関する技術と知識を養います。
- **機関系**：海洋機械工学および船舶機械システムなど、船舶運航に必要かつ重要な点を認識しつつ学び、用途を熟知したものづくりができる力を身につけます。

生産システム工学専攻

- **機械系・情報系共通科目**：感性工学、人工知能、画像応用工学など、機械系と情報系の分野が融合して成り立っている分野を学び、高知能化しているシステム全体をとらえる力を養います。
- **機械系**：加工、エネルギー、材料、設計など、機械系の要となる技術を深く学び、自由に応用できる力を養います。
- **情報系**：ネットワーク、データ構造、信号処理、環境マネジメントなど、システム全体を管理し運用するための技術を身につけます。

（出典:専攻科「未来へのひとづくりものづくり」）

資料５－５－②－４

専攻科授業科目

海上輸送システム工学専攻
本　科　：弓削商船高等専門学校　商船学科（航海コース）
専攻区分：商船学科

〔専門科目〕

区分		本科（選択科目を除く）		専攻科		モデル
		科目	単位数	科目	単位数	
A群	商船学	商船学概論	2	商船システム概論（選択）	2	○
		船舶工学	2	船舶工学特論（選択）	2	○
		船舶安全工学	2	船舶安全工学特論（選択）	2	○
				危機管理学（選択）	2	○
				海上輸送工学（選択）	2	○
				環境マネージメントシステム（選択）	2	
	航海学	航海学1，2	3	海上交通工学特論（選択）	2	○
		航海計測学	2	運送管理学特論（選択）	2	○
		天文・電波測位学	2	航海システム論（選択）	2	○
		船体運動力学	2	海運経済特論（選択）	2	○
		運送管理学1，2	3	船体運動力学特論（選択）	2	○
		海上交通法1，2	3	海事国際法（選択）	2	○
		海事法規1，2	3	海事科学演習	2	○
		海上交通工学	1	海上労働論（選択）	2	○
		海洋気象学	1	海事シミュレーション工学（選択）	2	○
		海洋環境論	1	海難論（選択）	2	○
		海運経済論	2			
		航海学演習	2			
小　計			31		32	30
B群	実験実習	航海学実験	3	海事科学実験	4	○
		実験実習1，2	4	短期インターンシップ（選択）	1	
		校内練習船実習		長期インターンシップ（選択）	3	
		卒業研究	5	教育技術演習	1	
			4	特別研究	16	○
小　計			16		25	20
合　計			47		57	50

〔専門関連科目〕

商船学の基礎	応用数学	2	数理工学	2	○
	基礎力学	1	物理学特論	2	○
	水力学	2	環境化学概論	2	○
	材料力学	1	文書表現論	2	○
	熱力学	1			
商船学の周辺	専門英語1，2	2	技術英語1	2	○
	情報処理1，2	3	技術英語2	2	○
	通信工学	1	情報処理応用論	2	
	通信法規	1	海洋環境法規（選択）	2	
	操艇通信	2			
合　計		16		16	12

（出典：専攻科）

資料５－５－②－５

海上輸送システム工学専攻
本　科　　:弓削商船高等専門学校　商船学科（機関コース）
専攻区分:商船学科

〔専門科目〕

区分		本科（選択科目を除く）		専攻科		モデル
		科目	単位数	科目	単位数	
A群	商船学	商船学概論	2	商船システム概論（選択）	2	○
		船舶工学	2	船舶工学特論（選択）	2	○
		船舶安全工学	2	船舶安全工学特論（選択）	2	○
				危機管理学（選択）	2	○
				海上輸送工学（選択）	2	○
				環境マネージメントシステム（選択）	2	
	機関学	材料工学	2	機関システム学（選択）	2	○
		熱工学	2	熱機関工学（選択）	2	○
		材料学	1	潤滑工学特論（選択）	2	○
		電磁気学	2	制御特論（選択）	2	○
		電気工学1，2	4	エネルギー変換学（選択）	2	○
		計測制御1，2	4	コンピュータ機械設計（選択）	2	○
		電子工学1，2	3	材料学特論（選択）	2	○
		内燃機関学1，2	4	海事科学演習	2	○
		蒸気工学	2	機械加工学（選択）	2	○
		設計製図	2	弾塑性学（選択）	2	○
		流体機械工学	1			
		潤滑工学	1			
		推進論	1			
		機関学演習	2			
小　計			38		32	30
B群	実験実習	工学実験	3	海事科学実験	4	○
		実験実習1，２	4	短期インターンシップ（選択）	1	
		校内練習船実習	5	長期インターンシップ（選択）	3	
		卒業研究	4	教育技術演習（選択）	1	
				特別研究	16	○
小　計			16		25	20
合　計			54		57	50

〔専門関連科目〕

商船学の基礎	応用数学	2	数理工学	2	○
	基礎力学	1	物理学特論	2	○
	水力学	2	環境化学概論	2	○
	材料力学	1	文書表現論	2	○
	熱力学	1			
商船学の周辺	専門英語1，2	2	技術英語1	2	○
	情報処理1，2	3	技術英語2	2	○
	通信工学	1	情報処理応用論	2	
	通信法規	1	海洋環境法規（選択）	2	
	操艇通信	2			
合　計		16		16	12

（出典：専攻科）

資料５－５－②－６

生産システム工学専攻
本科:電子機械工学科
専攻区分:機械工学

〔専門科目〕

区分		本科(選択科目を除く)		専攻科	
		科目	単位	科目	単位
A群	機械材料・材料力学	材料力学1	1	材料強度学(選択)	2
		材料力学2	2	弾塑性学(選択)	2
		材料力学3	1	材料学特論(選択)	2
		材料学	2		
	機械工作・生産工学	機械工作法	2	精密加工学(選択)	2
				コンピュータ機械設計(選択)	2
	設計工学・機械要素・トライボロジー	機構学	2	数値解析特論(選択)	2
		設計製図1	1	トライボロジー(選択)	2
		設計製図2	2		
		設計製図3	1		
		設計製図4	2		
		設計製図5	2		
	流体工学	流体力学	2		
	熱工学	熱力学	2	エネルギー変換学(選択)	2
	機械力学・制御	工業力学1	1	感性工学(選択)	2
		工業力学2	1	センシング論(選択)	2
		シーケンス制御	1		
		基礎機械制御工学	1		
		制御工学	2		
		計算機制御	2		
		計測工学	2		
	知能機械学・機械システム	情報処理	2	情報処理応用論	2
		電子計算機1	2	計算機制御システム(選択)	2
		電子計算機2	1	ソフトウエア工学特論(選択)	2
				画像応用システム工学(選択)	2
				人工知能特論(選択)	2
				ロボティクス(選択)	2
小計			37		32
B群	機械工学に関する実験・実習科目	工作実習1	2	特別研究	16
		工作実習2	2	技術文献ゼミ	2
		工作実習3	2	生産システム工学実験	2
		工学実験1	3	生産システム工学演習	2
		工学実験2	3	短期インターンシップ(選択)	1
		卒業研究	8	長期インターンシップ(選択)	3
				教育技術演習(選択)	1
小計			20		27
合計			57		59

〔専門関連科目〕

工学の基礎となる科目		応用数学1	2	文書表現論	2
		応用数学2	2	数理工学	2
		応用物理1	2	物理学特論	2
		応用物理2	2	環境化学概論	2
				技術英語1	2
				技術英語2	2
				離散数学(選択)	2
工学及び周辺技術等に関する科目		電気磁気学	2	システムLSI設計(選択)	2
		電気回路	2	信号処理論(選択)	2
		電子工学	2	電子回路応用(選択)	2
		電子回路	2	コンピュータネットワーク(選択)	2
				環境マネージメントシステム(選択)	2
				データ構造(選択)	2
				生産システム工学概論(選択)	1
合計			16		27

(出典：専攻科)

資料５－５－②－７

生産システム工学専攻
本科：情報工学科
専攻区分：情報工学

〔専門科目〕

区分		本科(選択科目を除く)		専攻科	
		科目	単位	科目	単位
A群	情報工学基礎に関する科目	アルゴリズム	1	情報処理応用論	2
		情報理論	1	信号処理論(選択)	2
		情報基礎	1	離散数学(選択)	2
		コンピュータ科学	2	データ構造(選択)	2
		数理統計学	1		
		オペレーションズ・リサーチ	2		
	計算機システムに関する科目	オペレーティング・システム	2	計算機制御システム(選択)	2
		電子計算機	1	ソフトウエア工学特論(選択)	2
		データ・ベース	2	コンピュータネットワーク(選択)	2
		コンパイラ	2		
		ネットワーク理論	1		
		プログラミング基礎	4		
		プログラミング応用	3		
		プログラミング特論	2		
	情報処理に関する科目	数値解析	2	数値解析特論(選択)	2
		画像処理	2	画像応用システム工学(選択)	2
		人工知能1	1	人工知能特論(選択)	2
				ロボティクス(選択)	2
	電気電子・通信・システムに関する科目	電磁気学1	1	感性工学(選択)	2
		電気電子工学	2	センシング論(選択)	2
		電子回路	1	システムLSI設計(選択)	2
		論理回路	2	電子回路応用(選択)	2
		制御工学	2	環境マネージメントシステム(選択)	2
		計測工学	1		
		デジタルシステム設計工学	1		
		システム工学	2		
小計			42		32
B群	情報工学に関する実験・実習科目	情報工学実験1	3	特別研究	16
		情報工学実験2	3	技術文献ゼミ	2
		情報工学実験3	3	生産システム工学実験	2
		情報工学実験4	3	生産システム工学演習	2
		卒業研究	8	短期インターンシップ(選択)	1
				長期インターンシップ(選択)	3
				教育技術演習(選択)	1
小計			20		27
合計			62		59

〔専門関連科目〕

工学の基礎となる科目	応用数学1	2	文書表現論	2
	応用数学2	2	数理工学	2
	応用物理	2	物理学特論	2
	科学技術英語1	1	環境化学概論	2
	科学技術英語2	1	技術英語1	2
			技術英語2	2
工学及び周辺技術等に関する科目	技術者倫理	1	精密加工学(選択)	2
			エネルギー変換学(選択)	2
			材料強度学(選択)	2
			弾塑性学(選択)	2
			コンピュータ機械設計(選択)	2
			トライボロジー(選択)	2
			材料学特論(選択)	2
			生産システム工学概論(選択)	1
合計		9		27

(出典：専攻科)

資料５－５－②－８

授業科目	弾塑性学			担当教員	中　哲夫		
専　　攻	生産システム	学　年	２年	授業期間	後期	単位数	2
分　　野	専門科目	授業形態	講義	履修区分	選択		
学習目標	弾塑性体の力学的挙動（応力とひずみの関係）を記述する数理モデルについて連続体力学の立場から解説する．また，弾塑性体に外力（あるいは変位）が作用したときに物体内に生じる応力（およびひずみ）分布を求めるための支配方程式とその解析手法について解説し，弾塑性力学の基礎的な知識を修得させる．						
授業の進め方	標準的な弾性力学，数値弾性力学の入門，標準的な塑性力学，材料力学の延長としての塑性力学入門，数値弾性力学の入門，塑性加工学の入門について授業を進める．また，輪講形式の学生による課題のプレゼンテーションも行う．						
授業内容	１．序論： 数理塑性力学および材料学を基礎とする結晶塑性学の役割，これらの相互の関連，塑性力学の応用分野（強度計算，塑性加工解析）などについて述べる． ２．単軸応力状態での応力・ひずみ関係とそのモデル化： 単軸引張り・圧縮あるいは単純せん断における応力-ひずみ関係について述べ，それを記述する数理モデルを紹介する． ３．単純な応力状態での弾塑性問題： はりの曲げ，丸棒のねじりなどを例にとり，単純な応力状態における弾塑性応力・ひずみ解析（材料力学的手法による）について解説する． ４．降伏条件： 多軸応力下の材料の降伏条件式について解説する． ５．構成式： 多軸応力下の塑性体の応力と塑性ひずみ（増分）の関係式（構成式），加工硬化の表現（硬化則）について解説する． ６．弾塑性問題の解析： 内圧円筒，角柱の平面ひずみ圧縮などを例にとり，二次元弾塑性応力・ひずみ解析の基礎について解説する．また，弾塑性有限要素法の考え方および解析例について紹介する．						
教科書・参考書	【教科書】 「弾塑性力学の基礎」吉田総仁　著・共立出版 【参考書】 「弾性力学」村上敬宜　著・養賢堂 「塑性学」　工藤英明　著・森北出版						
評価方法	筆記試験の結果を60%程度，課題レポートを20%程度，プレゼンテーションを20%程度とし総合評価を行う．						
備　　考	・授業では教科書を中心に進めるので，教科書をよく読むこと．また，微分積分など，これまで学んだ数学をよく扱うので，内容を理解しておくこと． ・教科書の各章の解説を輪講形式で発表する．説明が不足している場合には教官が補足説明し，その後質疑応答を行う．また，適宜演習問題の課題を与えるので効果的に学習すること．						

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．75）

資料５－５－②－９

海上輸送システム工学専攻教育課程表

授業科目			単位数	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考	担当教員
専門基礎科目	必修	文書表現論	2		2				猪川
		数理工学	2	2					藤井
		物理学特論	2		2				濵中
		環境化学概論	2	2					伊藤（武）
		技術英語１	2	2					野口、ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ･ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ
		技術英語２	2		2				上江、ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ･ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ
		情報処理応用論	2		2				峯脇
		専門基礎科目必修単位数計	14	6	8				
専門科目	必修	特別研究	16	2	2	5	7		各担当教員
		海事科学実験	4	2	2				友田、多田、中、高岡
		海事科学演習	2	1	1				友田、中、高岡、湯田
		専門科目必修単位数計	22	5	5	5	7		
	選択	短期インターンシップ	1				1		副専攻科長
		長期インターンシップ	3				3		副専攻科長
		教育技術演習	1				1		副専攻科長
		環境マネージメントシステム	2	2					塚本
		商船システム概論	2	2					児玉
		海上輸送工学	2			2		N & E	児玉、高岡
		危機管理学	2	2					中
		船舶安全工学特論	2	2					多田
		海洋環境法規	2	2					野々山
		船舶工学特論	2	2					湯田
		運送管理学特論	2			2			児玉
		海事シミュレーション工学	2		2				高岡
		航海システム論	2			2			高岡
		海上交通工学特論	2	2					多田
		海難論	2				2	N	多田
		海運経済特論	2		2				野々山
		海事国際法	2	2					山尾
		海上労働論	2			2			児玉、野々山
		船体運動力学特論	2		2				湯田
		エネルギー変換学	2		2				ガンバット
		熱機関工学	2		2				秋葉
		制御特論	2				2		勘久保、友田
		機械加工学	2		2				友田
		弾塑性学	2			2		E	中
		コンピュータ機械設計	2	2					中山
		機関システム工学	2			2			向瀬
		材料学特論	2		2				村上（知）
		潤滑工学特論	2	2					藤本
		専門科目選択単位数	55	20	14	12	9	26単位以上修得	
専門科目単位数計			77	25	19	17	16	48単位以上修得	
合計			91	31	27	17	16	62単位以上修得	

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．7）

資料５－５－②－10

生産システム工学専攻教育課程表

授業科目			単位数	学年別配当 1年 前期	学年別配当 1年 後期	学年別配当 2年 前期	学年別配当 2年 後期	備考	担当教員
専門基礎科目	必修	文書表現論	2	2					猪川
		数理工学	2		2				藤井
		物理学特論	2	2					瀧中
		環境化学概論	2		2				伊藤（武）
		技術英語１	2		2				野口、ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ・ｵｸﾞｹﾞﾚﾙ
		技術英語２	2	2					上江、ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ・ｵｸﾞｹﾞﾚﾙ
		情報処理応用論	2	2					峯脇
		専門基礎科目必修単位数計	14	8	6				
専門科目	必修	特別研究	16	2	2	5	7		各担当教員
		技術文献ゼミ	2	1	1				高木、藤本
		生産システム工学実験	2	2					岡本、勘久保、塚本、中山
		生産システム工学演習	2				2		中山、樫根、伊藤（芳）、徳田
		専門科目必修単位数計	22	5	3	5	9		
	選択	短期インターンシップ	1				1		副専攻科長
		長期インターンシップ	3				3		副専攻科長
		教育技術演習	1				1		副専攻科長
		生産システム工学概論	1	1					政家、長井
		感性工学	2			2			勘久保
		センシング論	2			2		M & I	岡本
		数値解析特論	2	2					鶴、ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ・ｵｸﾞｹﾞﾚﾙ
		計算機制御システム	2		2				益崎
		ソフトウェア工学特論	2			2			高木
		画像応用システム工学	2		2				田房
		人工知能特論	2		2				長尾
		ロボティクス	2		2				前田
		精密加工学	2			2			大根田
		エネルギー変換学	2	2					ガンバット
		材料強度学	2		2				鶴、中山、政家
		弾塑性学	2				2	M	中
		コンピュータ機械設計	2		2				中山
		トライボロジー	2		2				藤本
		材料学特論	2	2					村上（知）
		システムＬＳＩ設計	2				2		葛目
		信号処理論	2			2			葛目
		電子回路応用	2				2		樫根
		離散数学	2			2		I	藤井
		コンピュータネットワーク	2			2			田房、徳田
		環境マネージメントシステム	2				2		塚本
		データ構造	2		2				長尾
		専門科目選択単位数	50	7	16	14	13	26単位以上修得	
専門科目単位数計			72	12	19	19	22	48単位以上修得	
合計			86	20	25	19	22	62単位以上修得	

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．47）

資料５－５－②－11

評学機構学第221号
平成23年２月14日

弓削商船高等専門学校長　殿

独立行政法人大学評価・学位授与機構長
平　野　眞

認定専攻科における教育の実施状況等の審査結果について（通知）

平成 22 年５月 28 日付け弓船専企第 25 号で提出のあった下記の専攻科の教育の実施状況等について，短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則（平成16年規則第29号）第９条に規定する審査の結果，「適」と認められたので通知します。

記

１　名称，専攻及び修業年限

名　　称	専　　攻	修業年限
弓削商船高等専門学校	海上輸送システム工学専攻	２年
	生産システム工学専攻	２年

弓削商船高等専門学校 受 23.2.18 66

(写) 専攻科長，副専攻科長

（出典：企画広報室）

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生や社会からの要請等に応えるために,平成 24 年４月から専攻科に新カリキュラムを導入した（資料５－５－③－１）。主な新設科目としては，社会からの要請として運営諮問会議で提言された（資料５－５－③－２）「長期・短期インターンシップ」（資料５－５－③－３，４），専攻科学生のＴＡを自主的な活動から単位認定科目にするための「教育技術演習」（資料５－５－③－５），学術の動向に対応するための「生産システム工学概論」（資料５－５－③－６）が挙げられる。「教育技術演習」は，準学士課程の補習や学生実験などのアシスタント経験を通して，自身の教育技術やコミュニケーション能力などの向上を図る。「生産システム工学概論」は補充教育の一環であり，機械系出身者が情報系科目を履修する，またはその逆の場合に問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で開設されている。

海上輸送システム工学専攻では，国際的視野でものがみられる海事管理技術者の育成，生産システム工学専攻では，国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成を目指しており，「英語（外国人講師）による専門授業」（資料５－５－③－７～９），７年連続で実施されている「専攻科英語キャンプ」（資料５－５－③－10），国際会議における専攻科学生の研究発表（資料５－５－③－11），協定を結んでいるタイ王国の大学との文化交流（資料５－５－③－12）を通して，外国語によるコミュニケーション能力の向上や異文化に対する理解の育成に努めている。

他高等教育機関との単位互換に関する制度については明確に存在しておらず，今後，構築していく等の改善が必要である。

（分析結果とその根拠理由）

本校の専攻科では，カリキュラムを改訂し新設科目を設置するなど，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮して運営されている。特に，専攻科課程における外国語教育や異文化交流事業は，充実している。

資料５－５－③－１

専攻科だより　第２６号

平成 24 年 6 月

専攻科行事の報告

■ 生産システム工学専攻入学式

4 月 10 日に挙行され、8 期生 11 名（機械系 7 名、情報系 4 名）が入学しました。より高度で実践的な知識や技術の修得を目指すと共に、研究活動にも取り組みます。



生産システム工学専攻新入生（8 期生）

■ 中四国地区専攻科生研究交流会

4 月 27・28 日に香川県で開催され、専攻科 2 年生 14 名が日頃の研究成果を発表しました。

参加した学生の感想

本交流会への参加は他高専の専攻科生と交流を深めるとともに、自分自身の研究を見直す良いきっかけになりました。他高専の方々から頂いた貴重なご意見を今後の研究に是非生かしたいと思います。(生産 2 年　澤村幸輝)

新カリキュラムの紹介

7 年前に専攻科が設置されて以来、初めてカリキュラムの改訂を行い、以下の 3 科目を新設しました。

■ インターンシップ

国内外にある企業・事業所での実務や、大学の研究室での研修体験を通して、自分の職業適性や将来の目標をより明確にすることを目的にしています。

■ 教育技術演習

本科低学年の補習、学生実験、公開講座などのアシスタントとして指導する経験を積むことにより、自身の総合的な学習経験を活かした教育技術、コミュニケーション能力、ならびに企画を円滑に実行する計画性の向上を図ります。

■ 生産システム工学概論

機械系出身者が情報系科目を履修する、または情報系出身者が機械系科目を履修するにあたり問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で開設されています。したがって、異なる分野の学習がスムーズに行えるよう柱となる理論や技術の概要を習得することが目標です。

専攻科生の受賞報告

■ 学会発表で優秀発表賞を受賞

3 月 7 日、広島大学（東広島市）で開催された第 42 回学生員卒業研究発表講演会（日本機械学会中国四国学生会）において、専攻科生産システム工学専攻（当時）の矢口竜也君が優秀発表賞を受賞しました。発表題目は「熱重量測定装置の製作と木質バイオマス炭化物の評価実験」でした。

（出典：専攻科だより第 26 号）

資料５－５－③－２

（２）専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用

①専攻科におけるインターンシップ

本校に専攻科が設置され４年目を迎え、既に２期生が修了した。専攻科教育の特徴は、より実践的で高度な実務を遂行できる技術者を育成することであり、「長期インターンシップ」による実務に即した教育は、本諮問会議の提言にあるように、大変意義のあることであると考える。平成２１年度には、カリキュラムの改訂を検討する予定で、「長期インターンシップ」を正規の科目に組み入れたいと考えている。具体的には、１５日間の「長期インターンシップ」で２単位分の単位認定が可能である。そこで、「長期インターンシップ」を実施するにあたり、本校の技術振興会の会員企業に対して「インターンシップ受け入れ」に関するアンケート調査を実施した。「長期インターンシップ」の受け入れについて可能性のある企業数は、「今後検討する」と回答した企業を含めると１８社あり、インターンシップを実施することは可能であると考えられる。今後は、インターンシップの実施に向けて、単位の認定方法、宿舎や通勤方法、経費などについて詳細に検討する予定である。

②専攻科における弓削丸の活用

現在、専攻科では、単位化はしていないが、プレゼンテーション能力やリーダシップ力の向上をはかるため、専攻科生を本科生の実験実習のＴＡとして配置し、本科生の教育支援に参加させている。昨年度の運営諮問会議で、「商船系専攻科生においても、社船等の乗船体験を行うことを勧める。」と提言を受けていたのであるが、現状はまだ対応できていない状況である。海上輸送システム工学専攻においては、既に本科生の航海実習のインストラクターのＴＡや弓削丸を利用した各種イベント（一日船長やボランティア体験航海など）にスタッフとして積極的に参加している。専攻科における弓削丸の活用をより活発化するためには、ＴＡを単位認定するよう（例えばインターンシップと同等の扱いをするなど）検討する予定である。

成果については、成果集にして関係者へ配付することが大事である。

講習会については、もう少し一般向けのテーマを選んだらどうか。また、どういう人をターゲットにして、こういう企画をしたのか。小中学校の生徒などに夢を持たせるのか、専門家なのかで大きな違いが出る。小学生あたりは非常に喜んでいるようである。それなら、そのような企画が必要ではないかと感じた。今後はこれらの点に注意して一層努力を願いたい。

「専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用」については、インターンシップは現場での即戦力の最も近い道ではないかと思う。また、学校も、今まで２年かかって教えていたものを１年で教えるためには、インターンシップを上手く取り入れるなどして、どういう風に教えたらよいかを考えていただき、さらに努力を願いたい。

３．第５回運営諮問会議諮問事項

平成２１年３月５日(木)開催の第５回運営諮問会議において、諮問された事項は以下のとおりである。

（１）入試業務に関すること

①学生募集について

○現状

志願者の確保は、本校の最重要課題として、オープンカレッジ(夏季休暇中の２日間)、中学校への個別訪問(２８０校)、学校説明会の開催(１０月)、中学校主催学校説明会への参加(２３校)、弓削丸による PR(体験航海)など、全教職員が様々な活動を展開して鋭意努力している。本年度の学生募集活動の特徴は、特に工業系学科の志願者数増加を視野に入れて、近隣からは工業系学科、遠方からは商船学科の志願者数増加に向けて PR 地域を住み分けし、各学科が責任をもって PR 活動に臨んだことにある。

○今後の課題

平成２１年度の入試状況は、様々な要因で期待した成果が現れなかった。PR 地域を住み分けしたこと、及び教員が学校訪問した際、自分の所属学科以外の学科についての説明が十分でなかったことが一要因と思われる。

○諮問事項

（出典：第５回運営諮問会議報告書Ｐ．２）

資料５－５－③－３

授業科目	短期インターンシップ			担当教員	副専攻科長		
専　　攻	専攻科共通	学　年	２年	授業期間	後期	単位数	1
分　　野	専門科目	授業形態	実習	履修区分	選択		
学習目標	校外での就業体験を通して、授業で修得した知識及び技術を認識するとともに、視野を広げ、将来必要な知識や技術を把握することを目標とする。また社会人としての自覚や職業観を養うことを目標とする。						
進め方	実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に情報収集を行い、志望理由を明らかにして、必要書類を作成する。受入れ許諾後、実際に会社の工場、研究所の実験室で実習を行う。単位認定は、その実習証明書およびインターンシップ報告書を以って行う。						
学習内容	１．実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に情報収集を行い、志望理由を明らかにして、志望理由書を提出する。（情報処理能力および知識の整理と文章表現力を身につける。） ２．事前のガイダンスを受け、必要書類を作成する。 ３．実際に会社の工場、研究所の実験室で校外実習を行う。体験する実習内容は、生産現場および事業所での業務、研究室での業務などである。（実社会で必要とされる知識や技術の方向性を把握し、職業観を養う。） ４．校外実習終了後、インターンシップ報告書を作成し提出する。（情報処理により報告書を作成する。） ５．必要書類作成、実習、インターンシップ報告書作成を含めて４５時間以上行う。						
教材	実習先で準備、または指定される。						
評価方法	実習証明書と校外実習先の担当者の評価、およびインターンシップ報告書を考慮した総合評価とする。						
備　　考	実習先に迷惑をかけないために、社会のルールを守ること、時間を厳守すること。また実習先の担当者の指示に従い行動すること。事故には最善の注意を払うこと。 専攻科在籍中に実施し、インターンシップ報告書が提出されたものについて、２年後期に単位を認める。						

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．19）

資料５－５－③－４

授業科目	長期インターンシップ			担当教員	副専攻科長		
専　　攻	専攻科共通	学　年	１，２年	授業期間	通年	単位数	３
分　　野	専門科目	授業形態	実習	履修区分	選択		
学習目標	校外での就業体験、特に海外にある企業・事業所での就業体験を通して、授業で修得した知識及び技術を認識するとともに、将来必要な知識や技術を把握し、そして国際的にも活躍できる能力を持つ実践的技術者を育成することを目標とする。						
進め方	・高専機構が実施する「海外インターンシッププログラム」に基づき、派遣される学生を対象としたもの（３週間以上）。 ・専攻科・商船学科国際インターンシップ（アメリカ合衆国ハワイ州カウアイ島・ハワイ島）に参加する学生を対象としたもの（２週間～２０日間程度）。 ・会社の工場、研究所の実験室で実習を長期に行う学生を対象としたもの（３週間以上）。実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に情報収集を行い、志望理由を明らかにして、必要書類を作成する。 単位認定は、その実施証明書および実習報告書とその報告発表を以って行う。						
学習内容	・プログラムの目的に賛同する日本国内の企業・団体（以下「協力企業」という。）と連携し，協力企業の海外事業所等で受入れ企業のプログラム内容で実施。 １．企業における国際化の実態を理解し、グローバルな視野を育てる。 ２．学校の枠を超えた、学生間の交流活動を通して、協働および相互理解を実践する。 ３．実務上の課題解決を通して、専門的かつ学際的な知識を修得する。 ４．実務を通じて外国語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める。 ５．日本とは異なる文化や習慣を理解する。 ６．職場におけるマナー・ルールを学び、それらを遵守する態度を身につける。 ・POLYNESIAの伝統的な海洋文化に触れ、古来の伝統的技術と最新の技術の双方を学ぶ事により、“つくる力”に必要なバランス感覚を涵養する。 １．伝統的な航法並びに、外洋航海型カヌーの建造、伝統航海カヌーの航海訓練。 ２．KAUAI島の自然環境に触れることにより、環境問題、環境保全に対する意識の向上。 ３．異文化間のコミュニケーション能力を涵養。 ・実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に情報収集を行ったうえで、受入れ先のプログラム内容で実施。 １．生産現場および事業所での業務、研究室での業務など実社会で必要とされる知識や技術の方向性を把握し、職業観を養う。 ２．実習報告書を作成することで情報処理能力および知識の整理と文章表現力を身につける。 ３．報告発表を行うことにより、プレゼンテーション能力を身につける。						
教材	実習先で準備、または指定される。						
評価方法	実施証明書と校外実習先の担当者の評価、および実習報告書とその報告発表の評価を考慮した総合評価とする。						
備　　考	実習先に迷惑をかけないために、社会のルールを守ること、時間を厳守すること。また実習先の担当者の指示に従い行動すること。事故には最善の注意を払うこと。						

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．20）

資料５－５－③－５

授業科目	教育技術演習			担当教員	副専攻科長		
専　　攻	専攻科共通	学　年	１・２年	授業期間	前後期	単位数	1
分　　野	専門科目	授業形態	演習	履修区分	選択		
学習目標	本演習では，本科低学年の補習，学生実験，公開講座などのアシスタントとして指導する経験を積むことにより，自身の総合的な学習経験を活かした教育技術，コミュニケーション能力，ならびに企画を円滑に実行する計画性の向上を図る。						
授業の進め方	履修者は，本科低学年の補習，学生実験，公開講座などを担当する教員（現場担当教員）との相談により演習の実施内容を決定する。専攻科２年間を通して合計３０時間演習に参加することにより，２年後期において単位が認定される。期末ごとに教育技術演習活動報告書を作成し，現場担当教員に提出する。						
授業内容	第１回　　ガイダンスと教授法に関する講義 第２～３０回　アシスタントとしての実習						
教科書・参考書	第１回　　プリントを配布する 第２～３０回　なし						
評価方法	初回の講義に参加する態度と，提出された教育技術活動報告書に基づいて，副専攻科長が総合的に評価する。現場担当教員は，期末ごとに演習に参加する態度と提出された教育技術活動報告書の内容に対して，１０段階で評価する。						
備　　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．21）

資料５－５－③－６

授業科目	生産システム工学概論			担当教員	政家利彦（機械系クラス） 長井弘志（情報系クラス）		
専　　攻	生産システム工学	学　年	１年	授業期間	前期	単位数	1
分　　野	専門科目	授業形態	講義	履修区分	選択		
学習目標	本講義は，機械系出身者が情報系科目を履修する，または情報系出身者が機械系科目を履修するにあたり問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で開設される．したがって，異なる分野の学習がスムーズに行えるよう柱となる理論や技術の概要を習得することが目標である．						
授業の進め方	機械系クラス： 材料力学，弾性力学，流体力学，熱力学，振動工学，材料強度学といった機械系における基礎的な学問に対し，主要となる概念の理解と基礎的な公式を習熟して使用することができる能力を身に着ける． 情報系クラス： コンピュータを用いたデータの解析手法や機器の制御手法として，プログラミングの概要や設計法を学習する．さらに，プログラミング言語にJavaを用い，各種問題を解決する能力を身に着ける．						
授業内容	［機械系クラス］　※情報系出身者が受講 第 1回　ガイダンスおよび質点の力学の復習 第 2～ 3回　材料強度学　第 4～ 5回　材料力学 第 6～ 7回　弾性力学　第 8～ 9回　流体力学 第10～11回　熱力学　第12～13回　振動工学 第14回　統計力学の基礎　第15回　量子力学の基礎 ［情報系クラス］　※機械系出身者が受講 第１回　ガイダンス 第２～ ４回　プログラミングの概要 PAD図，変数，演算子，分岐処理，繰返し処理など． 第５～１５回　Javaによるプログラミング基礎演習 Javaの概要． オブジェクト指向の概要． Javaを用いたデータの取得および解析． Javaを用いた機器との通信および制御．						
教科書・参考書	機械系クラス： 各講義に応じてプリントを配布する 情報系クラス： 配布テキスト（参考書：わかりやすい Java 入門編，著者：川場　隆，発行所：秀和システム，ISBN-13：978-4-7980-2403-5）						
評価方法	機械系クラス： 試験に加えて、演習問題によるレポート点に授業態度を含めて評価する． 情報系クラス： 試験，レポート（演習），授業態度などを考慮した総合評価とする．ただし，修得にはレポートの提出が必須とする．						
備　　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．63）

資料５－５－③－７

授業科目	数値解析特論			担当教員	鶴　秀登　ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ･ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ		
専　　攻	生産システム工学	学　年	１年	授業期間	前期	単位数	2
分　　野	専門科目	授業形態	講義	履修区分	選択		
学習目標	強度設計などにおいて理論解析ができない場合、実験解析とともに数値解析が重要となる。その解析ソフトには各種の数値計算法が用いられる。そこで、まずコンピュータを利用するための数値計算法を学習し、プログラミングを意識してコンピュータで各種の数値計算を行う。次に強度設計における強度評価法を学び、現象をつかむために簡単な数値シミュレーションを手計算で行う。最後にＣＡＥによる数値シミュレーションの実際を紹介する。この過程の中で創造性教育を試みる。						
授業の進め方	実際に数値解法を手計算で行い、考え方やきざみによる数値解の変化などを経験させながら授業を進める。解析法の異なる課題を与えて結果の違いを議論させる。また材料強度の評価式を用いてその数値結果をグラフに示し、材料強度を定性的および定量的に理解しやすいようにする。また、課題を通して、ものづくりへの創意工夫を求める。						
授業内容	１．概論、理論解析と数値解析 ２．強度問題と数値解法のためのモデル化 ３．モデル化における境界条件の取扱い ４．工学問題解析のための方程式の誘導 ５．連立一次方程式の数値解法 ６．最小二乗法による多項式近似 ７．工学における最小二乗法の利用 ８．工学問題における数値微分 ９．工学問題における数値積分 １０．工学における微分方程式の数値解法 １１．工学における積分方程式の数値解法 １２．計算機を用いるためのマトリックス解析法（ばね） １３．計算機を用いるためのマトリックス解析法（トラス） １４．基本荷重と基本形状における強度評価法 １５．有限要素法を用いた数値シミュレーションの実践例（ＣＡＥソフト利用） なお、１．～４．と１４．、１５．において課題「強度を評価した構造部材の設計あるいは微小荷重を負荷できる卓上試験機の設計製作」を与え、創造性教育を試みる。						
教科書・参考書	ＪＩＳにもとづく機械設計製図便覧（理工学社）大西　清著 必要に応じてプリント配布						
評価方法	試験、レポート７０％及びそれに基づく質疑とプレゼンテーション３０％を基準にして総合的に評価する。						
備　　考	一部、英語による授業を行う。						

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．66）

資料５－５－③－８

授業科目	技術英語１			担当教員	野口隆　ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ･ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ		
専　攻	生産システム工学	学　年	１年	授業期間	後期	単位数	2
分　野	専門基礎	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	技術英語に用いられる語彙や表現法を学習し、それぞれの専門分野に関連のある英文マニュアルやホーム・ページなどを素早く読みこなしていく能力を身につける。また、技術英語に限らず、全般的なコミュニケーション能力の向上を目指す。						
授業の進め方	教科書、プリントを用いた読解演習と、グループ・ワークや英語でのディスカッションを通じて、口頭でのコミュニケーション能力を訓練する。						
授業内容	1. ガイダンス 技術英語の特徴の説明 英語の訓練法について 2. 仕様書に用いられる英語表現 3. ビジネスレターに用いられる英語表現 4. マニュアルに用いられる英語表現 5. 質疑応答に用いられる英語表現 6. 広告に用いられる英語表現 7. 電子メールに用いられる英語表現 8. カタログに用いられる英語表現 9. 購入手続に用いられる英語表現 10. 年次報告書に用いられる英語表現 11. 製品レポートに用いられる英語表現 12. 告示に用いられる英語表現 13. グラフに用いられる英語表現 14. 図版に用いられる英語表現 15. 登録書に用いられる英語表現						
教科書・参考書	First Steps to SciTech English （桐原書店） プリント						
評価方法	試験 70%、授業への参加課題など 30% 授業以外での自主学習と授業中への積極的な参加が必要である。						
備　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．53）

資料５－５－③－９

授業科目	技術英語２			担当教官	上江憲治　ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ･ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ		
専　　攻	生産システム工学	学　年	１年	授業期間	前期	単位数	2
分　　野	専門基礎	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	技術英語に用いられる語彙や表現法を学習し、それぞれの専門分野に関連のある論文や英文マニュアル、ホーム・ページなどを素早く読みこなしていく能力を身につける。 また、技術的な分野でのコミュニケーション能力の向上を目指す。						
授業の進め方	教科書、プリントを用いた読解演習と、グループ・ワークやディスカッションを通じて、技術英語の読み書きとコミュニケーション能力を訓練する。						
授業内容	ガイダンス（技術英語の特徴の説明・英語の訓練法について） 演習 Unit 1. Definition Paragraph: The Uncanny Valley Unit 2. Definition Paragraph: Biotope Unit 3. Descriptive Paragraph: Church of the Light Unit 4. Descriptive Paragraph: Energy-Efficient Housing Unit 5. Listing Paragraph: Universal Design Unit 6. Listing Paragraph: Living with Robots Unit 7. Illustration Paragraph (I): Still Evolving After All These Years Unit 8. Illustration Paragraph (I): Choosing and Protecting Passwords Unit 9. Narrative Paragraph: Linux Unit 10. Narrative Paragraph: Stem Cells - A Miracle Cure? Unit 11. Process Paragraph: Earth Batteries Unit 12. Process Paragraph: Predicting Intentions Unit 13. Cause & Effect Paragraph: Urban Heat Island Unit 14. Cause & Effect Paragraph: Robo-roaches Unit 15. Comparison/Contrast Paragraph: Machines Simple and Sophisticated Unit 16. Comparison/Contrast Paragraph: Cells and Batteries Unit 17. Illustration Paragraph (II): Polymers: Building Blocks for Life Unit 18. Illustration Paragraph (II): Wonderful World of Plasma Unit 19. Classification Paragraph: Natural Fibers Unit 20. Classification Paragraph: Earthquake Friction Dampers 期末試験						
教科書・参考書	Paragraph Reading: 21 World-Changing Innovations ：人見 憲司　他　著（南雲堂） 補助プリント						
評価方法	学期末の試験 50%、授業への参加状況（英語キャンプを含む） 30%、課題など 20%。 授業以外での自主学習と授業への積極的な参加が必要である。						
備　　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．54）

資料５－５－③－10

専攻科だより　第２４号

平成 23 年 11 月

専攻科行事の報告

■専攻科英語キャンプ 2011

平成 23 年 7 月 25 日(月)～7 月 29 日(金)の 5 日間,「専攻科英語キャンプ 2011」を実施した。参加者は本校専攻科海上輸送システム工学専攻 1 年生 5 名，生産システム工学専攻 1 年生 10 名，計 15 名で，本校マルチメディア教室において実施した。



専攻科英語キャンプは 2006 年度より始まり，今年で 6 年目を迎えた。今年度は，本校と国際交流協定を結んでいるタイのナコンパノム(Nakhon Phanom)大学より教員 2 名，学生 2 名を迎え，英会話授業などを一緒に受講し，国際的な交流を深めた。



今年度の英語キャンプは，合計 21 時間にわたる夏期集中，少人数形式で，プログラムの詳細は以下の通りである：英語母語話者教員による少人数英会話授業（8 時間），英会話による BBQ 懇親会（2 時間），本校総合教育科英語教員によるリスニング・シャドーイング授業（4 時間），英語プレゼンテーション作成準備・発表練習（4 時間），最終日の英語プレゼンテーション発表会（1 時間），英語能力判定テスト（事前・事後テスト）（2 時間）。



事前・事後テストを分析した結果，事後テストにおいて，参加学生のリスニング得点率が有意に向上した。また事後アンケートの結果，参加学生全員が「英語キャンプに参加してよかった」と答えた。本教育実践により短期間で向上した専攻科学生の英語リスニング力と英語学習へのモチベーションが今後も持続し，さらに向上することが期待される。



■全国高専専攻科実務者会議

全国の高専専攻科が抱える諸問題を議論し，さらなる専攻科の拡充，発展をはかる目的で開催されている全国高等専門学校専攻科実務

（出典：専攻科だより第 24 号）

2010 International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems (ISPACS 2010) December 6-8, 2010

MP1.2.1

AUTO-CAPTURING SYSTEM FOR FACIAL IMAGES FROM VIDEO BY SIMULINK MODEL

Ai Kanayama and Tomonori Tabusa***

Yuge National College of Maritime Technology
1000 Shimoyuge Yuge Kamishima-cho Ochi-gun
Ehime-ken Japan 794-2506
*ap09003@yuge.ac.jp **tabusa@info.yuge.ac.jp

ABSTRACT

Background subtraction is usually used as a technique to find moving objects. In this study, by the combination of background subtraction and motion detection techniques, we constructed a system that could be used to automatically make a facial image album. This system automatically takes a picture of a person when they appear in front of a camera and stand still. We built the system using a USB camera and Simulink, which is superior in real-time operation. To test our system, we took facial images of 28 students. We then surveyed the students on their opinions of the system to make way for improvements.

1. INTRODUCTION

Educational institutions, such as high schools and technical colleges, make facial image albums to facilitate class management and guidance. To make a facial image album, our school uses a photographer to take facial pictures of all students (about 600 people). It takes two days to make an album. Teachers receive the album more than one month after the pictures are taken because the photographer must trim facial images, arrange them and bind them in a book. The facial image album of new students is needed most at the start of the academic year. Early bookbinding and delivery to teachers is necessary.

To improve our method, I thought about a way to take facial images automatically without asking a photographer. Remote controllers with a sensor could be used to click the shutter of digital cameras or digital video cameras.

The functions of the remote controllers are the clicking of the shutter on sensing of moving things, clicking the shutter at the interval time, and changing the camera's power supply between on and off [1]. There is a wired or wireless connection between the camera and the remote controller. In either way, a dry cell or a power supply is necessary to start up the remote controller. In addition, a conversion adapter is needed if the camera used does not support a remote controller. This way of using a camera and remote controller is suitable for the observation of wild animals or the monitoring of suspicious individuals. However, it is said that these kinds of remote controllers are unsuitable for taking facial images automatically.

In this study, we took facial images automatically using a USB camera and constructed a system that could make a facial image album automatically.

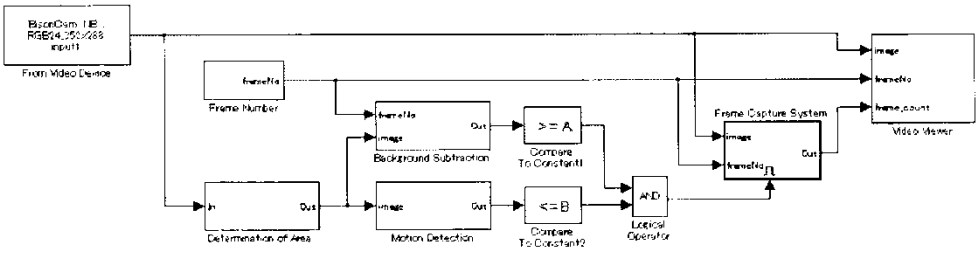


Figure 1 Block Diagram of Simulink Model for Constructing Capturing System

978-1-4244-7370-0/10/$26.00 ©2010 IEEE

（出典：専攻科）

資料５－５－③－12

国際交流インターンシッププログラムの様子(2012 年 12 月 18 日～27 日)



生産システム工学専攻２年　澤村学生の発表



生産システム工学専攻１年　桑原学生の発表



教育・研究発表会の集合写真



メコン川での共同プロジェクト実験１



メコン川での共同プロジェクト実験２



メコン川での共同プロジェクト実験３

（出典：国際交流推進室）

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程の目的及び専攻ごとに掲げた教育目標に沿ってシラバスを作成し，それに基づいて授業を実施しており，授業形態として，講義，演習，実験，研究をバランスよく配置している（資料５－６－①－１，２）。

１学年では高度な知識の習得やものづくりに必要な基礎理論及び専門知識を身につけるため，各専攻とも講義の比率が高いが，２学年では特別研究の割合が増え，創造力，技術開発能力の養成にウェイトが置かれるようになっている。

専門選択科目の中では，海上輸送システム工学専攻で航海系と機関系に，生産システム工学専攻で機械工学系と情報工学系に分かれる科目が多く（資料５－５－②－４～７），少人数教育が実施されている。

また，教育技術やコミュニケーション能力の育成を目的とした授業（資料５－５－③－５），異分野の基礎知識の補充を目指した授業（資料５－５－③－６），情報機器を活用した授業（資料５－６－①－３），本校の環境を活かしたフィールド型授業（資料５－６－①－４），練習船「弓削丸」を活用した実験（資料５－６－①－５）など，各授業科目にふさわしい学習指導方法の工夫を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程の目的及び専攻ごとの教育目標に照らして，講義科目を中心に，演習，実験，研究等の授業形態のバランスが適切であり，２年間を通して実施されている。

また，少人数授業，補充教育，情報機器の活用，本校の環境を活かしたフィールドスタディを取り入れた授業，練習船「弓削丸」を活用した授業など，それぞれの教育内容に応じた学習指導法の工夫がなされている。

資料５－６－①－１

授業科目における講義，実験，演習等の時間数

海上輸送（航海系）

1年前期（10-3）

	必修		選択		計	
	週時間	半期単位	週時間	半期単位	週時間	半期単位
講義	6	6	16	16	22	22
特別研究	6	2			6	2
実験	6	2			6	2
演習	2	1			2	1
講義以外計	14	5	0	0	14	5
計	20	11	16	16	36	27

1年後期（4-9）

講義	8	8	6	6	14	14
特別研究	6	2			6	2
実験	6	2			6	2
演習	2	1			2	1
講義以外計	14	5	0	0	14	5
計	22	13	6	6	28	19

1年計	42	24	22	22	64	46

2年前期（10-3）

	必修		選択		計	
	週時間	半期単位	週時間	半期単位	週時間	半期単位
講義			8	8	8	8
特別研究	15	5			15	5
講義以外計	15	5	0	0	15	5
計	15	5	8	8	23	13

2年後期（4-9）

講義			2	2	2	2
特別研究	21	7			21	7
演習			2	1	2	1
実習			12	4	12	4
講義以外計	21	7	14	5	35	12
計	21	7	16	7	37	14

2年計	36	12	24	15	60	27

62単位-（必修36単位+選択37単位）=-11単位
選択6科目受講しない場合がリミット

海上輸送（機関系）

1年前期（10-3）

	必修		選択		計	
	週時間	半期単位	週時間	半期単位	週時間	半期単位
講義	6	6	16	16	22	22
特別研究	6	2			6	2
実験	6	2			6	2
演習	2	1			2	1
講義以外計	14	5	0	0	14	5
計	20	11	16	16	36	27

1年後期（4-9）

講義	8	8	8	8	16	16
特別研究	6	2			6	2
実験	6	2			6	2
演習	2	1			2	1
講義以外計	14	5	0	0	14	5
計	22	13	8	8	30	21

1年計	42	24	24	24	66	48

2年前期（10-3）

	必修		選択		計	
	週時間	半期単位	週時間	半期単位	週時間	半期単位
講義			6	6	6	6
特別研究	15	5			15	5
講義以外計	15	5	0	0	15	5
計	15	5	6	6	21	11

2年後期（4-9）

講義			2	2	2	2
特別研究	21	7			21	7
演習			2	1	2	1
実習			12	4	12	4
講義以外計	21	7	14	5	35	12
計	21	7	16	7	37	14

2年計	36	12	22	13	58	25

62単位-（必修36単位+選択37単位）=-11単位
選択6科目受講しない場合がリミット

（出典：専攻科委員会）

資料５－６－①－２

授業科目における講義，実験，演習等の時間数

生産(機械系)

1年前期(4-9)

	必修		選択		計	
	週時間	半期単位	週時間	半期単位	週時間	半期単位
講義	6	6	7	7	13	13
特別研究	6	2			6	2
実験	6	2			6	2
演習	2	1			2	1
講義以外計	14	5	0	0	14	5
計	20	11	7	7	27	18

1年後期(10-3)

講義	6	6	14	14	20	20
特別研究	6	2			6	2
実験					0	0
演習	2	1			2	1
講義以外計	8	3	0	0	8	3
計	14	9	14	14	28	23

1年計	34	20	21	21	55	41

2年前期(4-9)

	必修		選択		計	
	週時間	半期単位	週時間	半期単位	週時間	半期単位
講義			8	8	8	8
特別研究	15	5			15	5
講義以外計	15	5	0	0	15	5
計	15	5	8	8	23	13

2年後期(10-3)

講義			2	2	2	2
特別研究	21	7			21	7
演習	4	2	2	1	6	3
実習			12	4	12	4
講義以外計	25	9	14	5	39	14
計	25	9	16	7	41	16

2年計	40	14	24	15	64	29

62単位-(必修34単位+選択36単位)=-8単位
選択4科目受講しない場合がリミット

生産(情報系)

1年前期(4-9)

	必修		選択		計	
	週時間	半期単位	週時間	半期単位	週時間	半期単位
講義	6	6	3	3	9	9
特別研究	6	2			6	2
実験	6	2			6	2
演習	2	1			2	1
講義以外計	14	5	0	0	14	5
計	20	11	3	3	23	14

1年後期(10-3)

講義	6	6	8	8	14	14
特別研究	6	2			6	2
実験					0	0
演習	2	1			2	1
講義以外計	8	3	0	0	8	3
計	14	9	8	8	22	17

1年計	34	20	11	11	45	31

2年前期(4-9)

	必修		選択		計	
	週時間	半期単位	週時間	半期単位	週時間	半期単位
講義			12	12	12	12
特別研究	15	5			15	5
講義以外計	15	5	0	0	15	5
計	15	5	12	12	27	17

2年後期(10-3)

講義			6	6	6	6
特別研究	21	7			21	7
演習	4	2	2	1	6	3
実習			12	4	12	4
講義以外計	25	9	14	5	39	14
計	25	9	20	11	45	20

2年計	40	14	32	23	72	37

62単位-(必修34単位+選択34単位)=-6単位
選択3科目受講しない場合がリミット

(出典：専攻科委員会)

資料５－６－①－３

授業科目	情報処理応用論			担当教員	峯脇　さやか		
専　　攻	生産システム工学	学　年	１年	授業期間	前期	単位数	2
分　　野	専門基礎	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	コマンドプロンプトを用いたコマンド操作方法を習得する．画像・音声ファイルのファイルフォーマットを理解し，バイナリコードによる編集技術を習得する．						
授業の進め方	演習を中心にして課題を進める．						
授業内容	1.　Windows コマンドプロンプトの操作 2.　LaTeXによる文書作成 3.　バイナリエディタの操作 4.　バイナリエディタを用いたBMPファイルの編集 5.　バイナリエディタを用いたWAVファイルの編集						
教科書・参考書	適宜配布する．						
評価方法	具体的な課題について資料を作成し，口頭試問またはプレゼンテーションを行う．						
備　　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．55）

資料５－６－①－４

授業科目	環境化学概論			担当教員	伊藤　武志		
専　　攻	生産システム工学	学　年	1年	授業期間	後期	単位数	2
分　　野	専門基礎	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	将来企業において高度な技術者として活躍する際に最低限認識すべき地球環境とその環境問題の知見を修得することである。環境問題が年々深刻になるにつれて、その理解にとって不可欠な「環境化学」という学問が重要性を増してきている。さまざまな化学物質が自分達の身のまわりの自然界でどんなふるまいをして、その結果どのようなことが起こっているかを解説する。						
授業の進め方	座学の講義を主とする。前半は社会生活に密接な大気・水質・土壌の化学的特性および環境問題について学ぶ。後半はそれら環境問題に対する取り組みおよび科学技術を紹介する。また、環境化学に関する実験実習を行う。						
授業内容	１．序論 ２．地球のなりたち ３．大気汚染① ４．大気汚染② ５．水質汚染① ６．水質汚染② ７．海水（上島町周辺）の化学成分分析 ８．土壌汚染 ９．微生物実験（上島町土壌・下水処理場活性汚泥の測定） １０．弓削丸廃棄物の処理を考える（分解菌スクリーニング） １１．水質浄化 １２．エネルギー問題① １３．エネルギー問題② １４．エネルギー生産実験 １５．課題研究（瀬戸内海の環境問題解決）						
教科書・参考書	配布プリントを用いる 参考書 地球化学　松尾楨士　監修（講談社）：海と環境　日本海洋学会編(講談社) 地球環境化学入門 J.Andrews et al著　渡辺 正 訳（ｼｭﾌﾟﾘﾝｶﾞｰ・ﾌｪｱﾗｰｸ 東京）						
評価方法	試験、レポート及び出席状況を含め総合的に評価する。						
備　　考	授業で行った実験レポート作成および課題を授業外学習で行わせている。						

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．52）

資料５－６－①－５

授業科目	海事科学実験			担当教員	友田、多田、中、高岡		
専　　攻	海上輸送システム	学　年	１年	授業期間	前後期	単位数	4
分　　野	専門共通	授業形態	実験	履修区分	必修		
学習目標	海事関連分野の基礎および応用に関するテーマを中心にして、解析、シミュレーションなどを含む実験を行い実践的技術者の資質を養う。						
授業の進め方	航海学系と機関学系にわかれ、半期をローテーションに学生が選択した実験課題ごとに実験室、校内練習船「弓削丸」および共同利用施設等で実験を行う。なお、実験の実施に関しては上記の担当教員のほかに複数の補助者がつくことがある。						
授業内容	［　クラス別　］ 実験課題としては次のようなテーマがあげられる。 1.海上輸送システム学に関するテーマ（共通）・・・高岡 90h（航海系、機関系、共通） 2.船舶安全管理システム学に関するテーマ（航海系）・・・多田　90h（航海系選択） 3.海上社会システム学に関するテーマ（航海系）・・・多田　90h（航海系選択） 4.海洋機械工学に関するテーマ（機関系）・・・友田　90h（機関系選択） 5.船舶機械システム学に関するテーマ（機関系）・・・中　90h（機関系選択）						
教科書・参考書	実験のテーマごとに指定する。						
評価方法	実験への取り組み姿勢と実験報告書の完成度に基づき総合的に評価する。						
備　　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．17）

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程のシラバスは，各専攻の教育課程の編成に沿って学位授与機構の区分に該当する科目としての位置付けを明確にした上で，専攻科長から示された統一様式で担当教員が作成している。

「シラバス作成要領について」（資料５－６－②－１）では，「授業時間外の学修に１単位当たり 30 時間を充てる」ことを明記し，その具体策の記入を促している。また，学習目標，授業の進め方，学習内容などの記載事項から，学生がその授業で習得する知識・授業レベルを理解し，学習計画を立てられるように配慮している。成績評価方法については，定期試験だけでなく課題，レポート，プレゼンテーションなどで総合評価することも具体的に記載している（資料５－６－②－２）。

シラバスは，専攻科入学時に配布する「専攻科学生用手引き・シラバス」内に収録したり，ウェブサイトに公開（資料５－６－②－３）する等により，学生に周知している。

各授業科目においては，最初の授業時に講義ガイダンスとしてシラバスを活用し，授業開始に当たってその内容・成績評価方法を学生に説明している（資料５－６－②－２）。専攻科学生へのアンケート結果から，70%以上の学生がシラバスを活用していると回答しており（資料５－６－②－４），概ね利用されていると判断されるが，事前学習及び復習等への活用については改善の余地がある。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程のシラバスは，講義履修モデルに沿って配置された科目ごとに作成され，授業内容や成績評価方法についても明確に定められた記載内容で統一されており，適切に整備されている。

担当教員による授業開始時のガイダンスでシラバスが利用され，専攻科学生へのアンケート調査結果から概ね活用されている判断される。

資料５－６－②－１

平成２４年度シラバス作成要領について

１．記入に当たっては、できるだけ学生が理解しやすいような平易な表現を用いてください。

２．作成要領（記入例を参考に記入してください。）

①**授業科目**：授業科目名を記載してください。

②**担当教員**：教員名を記載してください。多数の教員で担当する場合は代表教員の氏名を記載し、その他の教員名は学習内容の欄の中に記載してください。（例えば、卒業研究、工学実験、工作実習などにおいて。）

③**学　　科**：商船学科、電子機械工学科、情報工学科　などと記載してください。

④**学　　年**：１年、２年、３年、４年、５年　などと記載してください。

⑤**授業期間**：通年、前期、後期　などと記載してください。

⑥**単 位 数**：１、２、３、４、５　などと記載してください。

⑦**分　　野**：一般、専門　などと記載してください。

⑧**授業形態**：講義、実験、実習、演習、実技　などと記載してください。

⑨**履修区分**：必修、選択　などと記載してください。また**学修単位**は括弧書きで記入してください。

⑩学習目標：学習の到達目標や概要を記述してください。

⑪**進 め 方**：授業の方法を記述してください

⑫**学習内容**：学習内容の項目と時間数を記載してください。
学習項目欄の最初に学習内容のガイダンスを必ず入れてください。
３０単位時間の授業をもって１単位とする（定期試験は除く。）。

⑬**評価方法**：試験、レポート、小テスト、出席状況、授業態度などの成績評価方法を記載してください（出来るだけ**具体的に数値で表現してください**。）。

⑭**関連科目**：本授業科目と関連性のある授業科目名を記載してください。

⑮**教科書等**：教科書、参考書など、**書名･著者・発行所の順に各枠内**に記載してください。

⑯**備　　考**：到達目標に達しない場合の学生への対応（補習、補講など）、**学修単位の科目については「１単位当たり○○時間の自学自習を必要とする。」と明記し**、その他留意事項などを記述してください。

３．文章は、**Ｗｏｒｄ**　か　**Ｅｘｃｅｌ**　を使用し，字のスタイルは**ＭＳ明朝**で作成してください。

４．ファイル名は**24 ｼﾗﾊﾞｽ(ｸﾗｽ 授業科目名 担当教員名）**としてください。また必ず**１ページに収めて**ください。

５．学科等の代表者への提出期限：**１月３１日（火）**

６．学科等の代表者がまとめて、ＵＳＢメモリにて教務係に提出してください。
（学科等の代表者へは平成２３年度の学科等分のシラバスをＵＳＢメモリに入れてお渡ししますので，配付・取りまとめ方よろしくお願いします。）

（出典：専攻科委員会）

資料５－６－②－２

授業科目	物理学特論			担当教員	濵中　俊一		
専　　攻	海上輸送システム	学　年	１年	授業期間	後期	単位数	2
分　　野	専門基礎	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	物理学の基礎法則について力学を中心に概括を行い、古典物理学から現代物理学への発展経過をたどる。また、相対性理論・量子論・原子核物理学の基礎的・基本的概念について解説し、放射能について正確な理解を深めることを目標とする。						
授業の進め方	座学の講義を中心とするが、問題演習を並行して行い、内容によって輪読方式で進める。また、視聴覚教材も使用し、放射線測定器使用の実際などの実習を取り入れ、小テストやレポートを課す。						
授業内容	１．ガイダンス ２．序論（基本事項の復習） ３．力学の基本法則と発展：運動の基本法則 ４．力学の基本法則と発展：基本法則の適用 ５．力学の数値計算：空気抵抗を受ける物体の落下 ６．特殊相対性理論：特殊相対性原理 ７．特殊相対性理論：ローレンツ変換 ８．量子論の概要：量子論の実証 ９．量子論の概要：量子力学の基本原理（シュレーディンガー方程式） 10．原子核物理学と原子力：原子核の構造 11．原子核物理学と原子力：原子力 12．原子核物理学と原子力：放射能(1) 13．原子核物理学と原子力：放射能(2) 14．課題研究						
教科書・参考書	教科書 第４版　基礎物理学　原康夫　（学術図書出版）						
評価方法	到達度確認テストを70%、レポート、課題研究、毎回の授業への取り組み姿勢を30%として総合評価する。						
備　　考	１単位当たり30時間の自学自習を必要とする。 プリント及び練習問題を配布するので，事前学習と復習に活用すること。						

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．11）

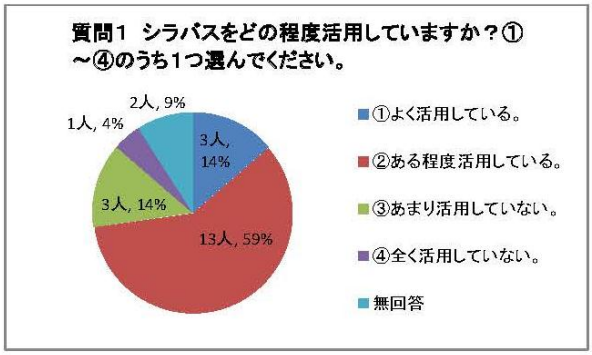
資料５－６－②－３

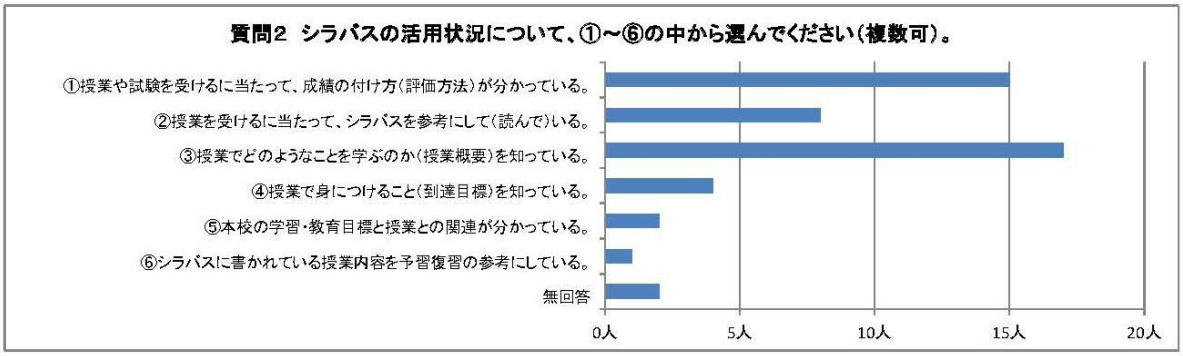


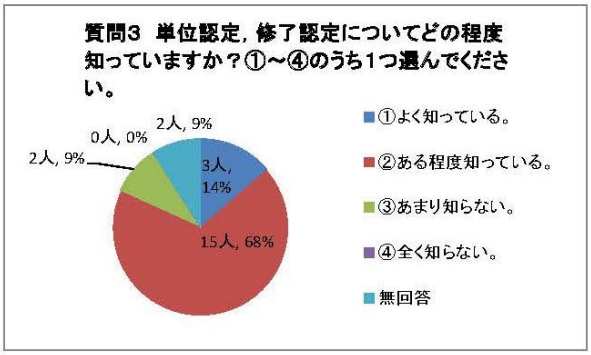
（出典：本校ウェブサイト）

資料５－６－②－４

本校専攻科のシラバスの活用に関するアンケート（平成24年11月実施、全24名中22名回答）







（出典：企画広報室）

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程の教育は基本的に少人数教育であり，専攻科の教育目標を達成するため，各授業科目の中で，独創的な発想・実際的な開発能力の育成（資料５－６－③－１），実践的な問題解決能力を身につけさせるＰＢＬ型教育（資料５－６－③－２）を実施している。

また，特別研究においては，研究テーマに対する準備，研究実施方法，研究結果の取りまとめまで，学生に主体的に取り組ませ，創意工夫を積み重ねることで創造力を育んでいる（資料５－６－③－３）。

その途中段階での発表の場として，特別研究中間発表会を実施している（資料５－６－③－４）。対外的にも，大学・高専発のベンチャーの創出を目標に実施されている新事業の提案コンペ「キャンパスベンチャーグランプリ（ＣＶＧ）」に入賞するなどの成果を上げている（資料５－６－③－５）。

平成 24 年度に実践的教育として準学士課程とは別に，新たに単位化したインターンシップ制度では，早速２名（３件）が，国内外の企業・事業所での実務を体験している（資料５－６－③－６）。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の教育目標に沿って，各授業の中でＰＢＬ型や創造性を育むなどの教育方法が工夫されている。特別研究では個別指導により問題提起能力，創造力，実践的問題解決能力が育成されるような指導が行われ，本科での研究を発展させ，「キャンパスベンチャーグランプリ」に入賞するなどの効果が上げられている。また，新たに単位化したインターンシップの活用が図られている。

資料５－６－③－１

創造性教育における試み
—プロペラ模型の製造—

湯田　紀男*

Approaches to Creativity Education
-Produceing A Model Screw Propeller-

Norio YUDA*

Abstract

In recent years creativity education has been regarded as important at schools. As such, that type of education has been conducted at Yuge National College of Maritime Technology. This paper introduced an attempt of creativity education made in the Advanced Maritime Transportation Systems Engineering Course at Yuge College. Then I pointed out and discussed the issues about the education in this course.

The creativity education concerned Maritime Science Practice. In the practice, the students were asked to produce a model screw propeller. Firstly the students were given a lecture about wing throry and propller design. Secondarily the students elected the method of producing a model propeller. The method was either casting or milling an aluminium board by thead milling machine. Thirdly the students designed the model to be propulsion-efficient in two dimensions. Fourth the students who chose cast whittled a casting wooden form and then cast the model. The students who choose milling turned off the extermal form. Finally the students filed off the external form of the model and then finished up.

In the practice, the students were given only a few pieces of advice. Because of that, the students became self-motivated in working through trial and error processes. After the processes it appeared that the approaches could give the students the opportunities to enhance their creativity.

Keywords: *Creativity Education, Model Screw Propeller, A Trial and Error Process*
キーワード: *創造性教育，プロペラ模型，試行錯誤*

1. はじめに

近年、高等教育機関において創造性教育や問題解決型授業の必要性が重要視されるようになってきた。創造性教育とは、新しい価値ある物、あるいは創り出す能力すなわち創造力、およびそれを基礎づける人格特性すなわち創造的人格を身に着ける教育である。また問題解決型授業（PBL）とは、カナダで始められた授業形態である。この授業では教員がまず学生に課題を出す。このときいくつかのインストラクションはするが、あくまでも学生が自主的に学習し授業の準備をする。１つのテーマに対して、いくつかのグループに分かれて作業を分配し授業を行うが、主に学生同士の質疑応答で授業を進行し、教員の発言は10%以下にする授業形態の事である。この二つの授業形態は、学生が物事を考え、物事を創り出す、解決に至るという点で大変似ている。

高等専門学校においてもこれらの授業形態が必要とされ、個々の高等専門学校において多種な手法で取り組まれている。

本論文は、弓削商船高等専門学校専攻科海上輸送システム工学専攻において、創造力や問題解決力を養うための取り組みについて紹介し、問題点等について考察を試みたものである。

*商船学科

平成24年9月28日受理

（出典：紀要35号Ｐ．116）

資料５－６－③－２

授業科目	データ構造			担当教員	長尾　和彦		
専　　攻	生産システム工学	学　年	１年	授業期間	後期	単位数	2
分　　野	専門科目	授業形態	講義	履修区分	選択		
学習目標	プログラミングは、計算機による問題解決の唯一の手段である。本講義は、プログラミング作業をできるだけ形式化した、オブジェクト指向プログラミングの概念について解説し、問題解決法の習得を目標とする。また、有用なアルゴリズム、評価方法についても触れる。						
授業の進め方	プログラム言語としてJava, Processing を用いる。 サンプルプログラムの作成を通して理解を深める。 各データ構造について、プレゼンテーション形式での解説を課す。						
授業内容	1.データ構造とアルゴリズム 基本データ型（ADT）の概念 アルゴリズム構築のためのロジックの組み立て PAD・UMLの導入 2.Javaの概要 3.構造化プログラミング 4.オブジェクト指向プログラミング 5.ソートアルゴリズムと評価 バブル・挿入・選択・シェル・ハッシュ・クイック・ヒープ 6.再帰的プログラミング 階乗の計算・分割統治・フラクタル 7.探索アルゴリズムと評価 8.動的データ構造 スタック・キュー・リスト・ツリー・ハッシュ 9.いろいろなアルゴリズム 腕ずく法、欲張り法、分割統治法、繰り返し法、NP完全な問題						
教科書・参考書	参考書：Java データ構造とアルゴリズム基礎講座（技術評論社）						
評価方法	演習におけるレポート提出、プレゼンテーションの評価						
備　　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．85）

資料５－６－③－３

専攻科特別研究テーマ決定のプロセス

平成25年2月

【入学前】

１．専攻科生募集にあたり，教員が現在取り組んでいる研究テーマが開示される．

海上輸送システム工学専攻教員

- 航海系
- 機関系

生産システム工学専攻教員

- 機械工学系：材料力学，制御工学，設計工学，機械工作，トライボロジー，生産工学，流体工学，熱工学，知能機械学
- 情報工学系：照明工学，環境工学，ディジタル信号処理，プログラミング，データベース，ソフトウェア工学，画像処理，制御工学，OR，自然言語処理，ロボティクス

２．入学願書提出前に特別研究指導教員と面談を行う．

３．入学願書に特別研究指導希望教員および特別研究の希望テーマを記入する．

４．入学試験の面接において特別研究の計画についてプレゼンテーションを行う．

【入学後】

１．手引き（p.4）に記載のように指導教員と相談のうえ決定する．

５　特別研究

（1）趣旨

- 専攻科で最も重要と考えている授業科目である．専門知識の総合化と深化を図り，自発的問題解決に向けて広い視野から理論的，実践的に考究，実行する能力と創造的技術開発能力を育成することを目指している．
- 研究成果は，関連学会及び関係論文集等に積極的に発表することを目標とし，プレゼンテーション能力，コミュニケーション能力の向上を図ること．

（2）研究課題

- 研究課題及び方法は指導教員と相談のうえ，学生が主体的に取り組むこと．

２．指導教員は，特別研究指導計画書を教務係に提出する．

（出典：専攻科）

資料５－６－③－４

平成 24 年度

海上輸送システム工学専攻特別研究中間発表会

予稿集



平成 24 年 9 月 26 日

弓削商船高等専門学校専攻科

海上輸送システム工学専攻

日時　平成 24 年 9 月 28 日

場所　マルチメディア教室

時刻　下記

13：30～13：40　挨拶　専攻科長

① 13：40～14：00　「プロペラ後流における一軸二枚舵に働く流体力に関する研究」

井上　涼介　115001（指導教員：湯田　紀男）

司会・タイムキーパー：湯田

総評　専攻科長

（出典：専攻科）

資料５－６－③－５

平成２１年３月　　弓削商船高等専門学校専攻科　　第１６号-２

専攻科だより

― 生産システム工学専攻第3期生修了 ―

＊＊＊　専攻科修了にあたって　＊＊＊＊

＊＊＊　平成２０年度専攻科生の活躍　＊＊＊

専攻科長　葛目幸一
海上輸送システム工学専攻主任　多田光男
生産システム工学専攻主任　藤本隆士

「修了生の一言メッセージ」（つづき）

濱中 敬司（機械系）

① 以前は苦手であったプレゼンテーションが，講義や学会発表をこなすことにより，資料作成と発表において，理解しやすさに重点を置くことでプレゼンのスキルアップに繋がったこと．

② 大学院進学に備え最低限必要であるプログラム（FORTRAN）と有限要素法（FEM）について充分に学習し，入学してからも専攻科で得た経験を活かし研究を行っていきたい．

③ 学位審査試験（小論文試験）に向けて自身の研究内容を充分に理解しておくこと．

秦　昴平（機械系）

私にとって専攻科での二年間は様々なことを学べ，進路についても考えることができた良い経験でした．今後，専攻科に進まれる皆さんもこの貴重な二年間を有効に使い自身のために役立てて下さい．

栗田　充邦（情報系）

① 情報科のことだけでなく，電子のことに関する勉強ができてよかった．だけど，授業に空きがあったり，定休日的な日もあったので，遊ぶ時間が多かった．

② 真面目に頑張っていこうと思う．

③ 自信をもって学位に対する勉強をすればいいとおもう．

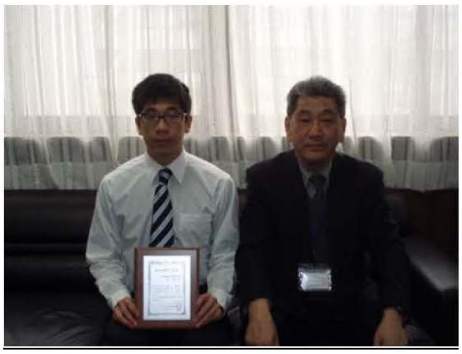
キャンパスベンチャーグランプリ四国奨励賞を受賞

2008年度キャンパスベンチャーグランプリの入賞発表が12月末にあり，本校からは本科の学生グループが応募した提案が「優秀賞」，生産システム工学専攻1年生の石渡寛明君が「奨励賞」を受賞しました．キャンパスベンチャーグランプリとは，大学・短大・専門学校等に在籍する学生による新商品・事業アイデア・新事業の提案コンペのことです．石渡君が提案したアイデアは「人の呼気を小型で軽量，安価なセンサで検出し，その信号をテレビやクーラーのコントロールに応用する」というもので，重度の身体障害者の微弱な呼気でもスイッチング動作を可能にするなど，福祉機器への応用が期待できることが評価されました．

軽金属学会「希望の星賞」を受賞

専攻科生産システム工学専攻２年生の片平君（指導教員：中教授）が，平成２０年度軽金属希望の星賞を受賞しました．

軽金属希望の星賞は，「軽金属の学業の向上発展を奨励し，軽金属の未来を担う人材」の育成を目的として，人格・学業ともに優秀な学生に社団法人軽金属学会から贈られる賞です．対象者は大学院修士課程（博士前期課程），学部学生または高等専門学校専攻科の学生とし，当該年度に修了または卒業する予定の者に贈呈されます．片平君は，本科５年生より地道に研究に取り組み，専攻科修了までの３年間で，学術論文，学外発表論文件数は，１３編を超え，大学院修士課程を凌ぐ研究実績が評価されたものです．



落合校長へ受賞の報告

平成20年度学術論文・学外研究発表件数

専攻科では，学術論文，学外の研究発表を奨励しています．平成20年度も多くの実績を残しました．

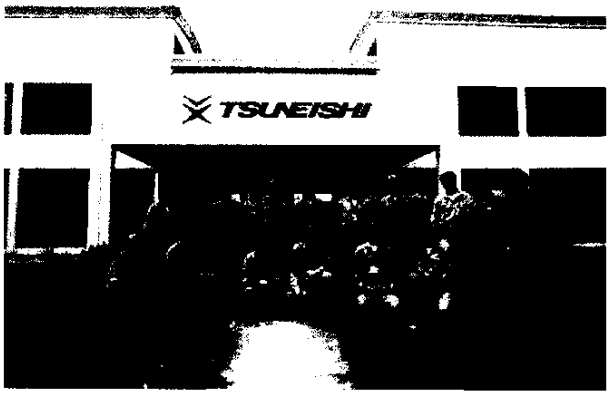
学術論文（研究紀要を含む）	学会発表	中四国高専研究交流会	国際会議
１３	２６	１３	０



（出典：専攻科だより第 16 号）

資料５－６－③－６

３．ツネイシホールディングス（株）　フィリピン



弓削商船高専 専攻科２年	海上輸送システム 工学専攻	橋本　友彰
鹿児島高専 専攻科１年	土木工学専攻	宮原　景信
旭川高専 ５年	制御情報工学科	荒井　航

"一人一人の能力が高いということは重要でありますが、
組織力がいかに重要かを学びました"



弓削商船高等専門学校　専攻科
海上輸送システム工学専攻　2年　橋本（はしもと）　友彰（ともあき）

今回研修を行なって感じたことは、どこの企業でも言えることだと思いますが私が派遣されたフィリピンでも現地社員の人数に比べて日本人社員の人数が圧倒的に少ないということです。日本人社員の人数が約８０人、現地社員及び現場労働者の人数が約1万人でした。そのため、日本の企業でありながら全く日本の雰囲気はありませんでした。また、海外ならではのスケールの大きさにも驚かされました。ツネイシホールディングスさんの場合日本の工場とフィリピン工場を比較して敷地面積で約3倍大きく、作業員数が約7倍多いため出来上がる船は全長３００メートルを越え、この仕事のスケールの大きさを体感することができました。

この海外インターンシップという機会がなければ他高専の学生と一定の期間、ひとつの課題に取り組むという機会はなかったと思います。今までにも高専専攻科の研究発表会で他高専の学生と交流を持つ機会はありましたが、それは中四国限定のもので自分の所属している地域の学生の研究発表会を見たり、懇親会で話す程度でした。ですので、この海外インターンシップでは、それぞれ違う分野を学んできた学生達がひとつの課題に取り組むことにより、今までの自分では考えつかなかった視点から意見を聞けたりして私にとって、とても良い勉強となりました。

私が派遣されたTHIの研修は主に最初の3日間は船舶の建造に非常に重要となる溶接をトレーニングセンターにて現地の研修生達と共に学びました。そのプログラムの終わった後は船の材料が工場に運ばれてから加工されて船が完成し、船主に引き渡されるまでの過程を調査しました。船を運航するということに関しては、ある程度の教育を受けてきたため知識はあったのですが、造船という分野を今まで学んだことがなかっ

（出典：学生課）

観点５－７－①：　教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

教養教育を行うため専攻科課程では，専門基礎科目として「文書表現論」,「数理工学」,「物理学特論」,「環境化学概論」,「技術英語１・２」及び「情報処理応用論」を必修科目として設置している（資料５－７－①－１，２）。また，平成 24 年度からカリキュラムを改正し，専門科目に「短期・長期インターンシップ」及び「教育技術演習」を新たに開設した（資料５－７－①－３～５）。

特別研究テーマの決定は，学生が主体的に研究に取り組むために，専攻科長・副専攻科長を中心として段階的な指導を行っている（資料５－７－①－６）。決定された研究テーマに関して，指導教員が研究目標・方法・授業受講科目計画に至るまで学生と密接な連携をとった上で，学生には毎日研究日誌に作業内容と時間数を記入させ，１週間ごとに指導教員が内容についてチェックし，打合せを行っている。指導教員は，半期ごとに研究指導計画書を作成し，各期の終了時に研究指導報告書と研究日誌を教務係へ提出している（資料５－７－①－７～10）。１学年終了時には特別研究発表会を行い，２年時には中国・四国地区専攻科生研究交流会で発表を行い，研究成果の経過報告を義務付けて，各専攻全体でも研究の進捗状況を把握するように努めている（資料５－７－①－11，12）。また研究成果を関連学会及び関連論文集等に積極的に発表することを目標に指導を行い，５期生においては学術論文投稿８件，学会発表 26 件の実績があり，関連学会から「希望の星賞」,「優秀講演賞」及び「優秀発表賞」等の受賞を受けている（資料５－７－①－13～18）。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科では教養教育の多くを必修とし，総合教育科の常勤教員が講義を担当しており，教養を授け，国際社会に対応したコミュニケーション能力を身に着けた技術者の育成を行う体制がとられている。

また，研究指導体制は，研究テーマ決定を行う段階から専攻科長・副専攻科長を中心にした丁寧な指導が行われ，複数教員による研究指導体制の中で指導教員と学生の綿密な連携が図られている。

資料５－７－①－１

海上輸送システム工学専攻教育課程表

授業科目			単位数	学年別配当				備考	担当教員
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	必修	文書表現論	2		2				猪川
		数理工学	2	2					藤井
		物理学特論	2		2				濱中
		環境化学概論	2	2					伊藤（武）
		技術英語１	2	2					野口、ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ･ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ
		技術英語２	2		2				上江、ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ･ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ
		情報処理応用論	2		2				峯脇
		専門基礎科目必修単位数計	14	6	8				
	必修	特別研究	16	2	2	5	7		各担当教員
		海事科学実験	4	2	2				友田、多田、中、高岡
		海事科学演習	2	1	1				友田、中、高岡、湯田
		専門科目必修単位数計	22	5	5	5	7		
		短期インターンシップ	1				1		副専攻科長
		長期インターンシップ	3				3		副専攻科長
		教育技術演習	1				1		副専攻科長
		環境マネージメントシステム	2	2					塚本
		商船システム概論	2	2					旧下

生産システム工学専攻教育課程表

授業科目			単位数	学年別配当				備考	担当教員
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	必修	文書表現論	2	2					猪川
		数理工学	2		2				藤井
		物理学特論	2	2					濱中
		環境化学概論	2		2				伊藤（武）
		技術英語１	2		2				野口、ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ･ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ
		技術英語２	2	2					上江、ｼﾞｬﾝﾊﾞﾙ･ｵﾀﾞｹﾞﾚﾙ
		情報処理応用論	2	2					峯脇
		専門基礎科目必修単位数計	14	8	6				
	必修	特別研究	16	2	2	5	7		各担当教員
		技術文献ゼミ	2	1	1				高木、藤本
		生産システム工学実験	2	2					岡本、勘久保、塚本、中山
		生産システム工学演習	2				2		中山、樫根、伊藤（芳）、徳田
		専門科目必修単位数計	22	5	3	5	9		
		短期インターンシップ	1				1		副専攻科長
		長期インターンシップ	3				3		副専攻科長
		教育技術演習	1				1		副専攻科長
		生産システム工学概論	1	1					政家、長井

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．７，47）

資料５－７－①－２

授業科目	文書表現論			担当教員	猪川　優子		
専　攻	海上輸送システム	学　年	１年	授業期間	後期	単位数	２
分　野	専門基礎	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	１．科学・技術論文の執筆に必要な文章表現力を習得させる。 ２．基礎的なプレゼンテーション能力を習得させる。						
授業の進め方	１．テキストをもとに講義および添削指導を行う。 ２．試験によって到達度をはかる。 ３．プレゼンテーションを実施する。						
授業内容	１．ガイダンス １）授業の概要の説明 ２）プレゼンテーションの日程作成 ２．文章表現法の講義 １）文章作成の基本ルール ２）文章作成技術 ３）科学・技術者の順守すべきルール ３．試験実施 ・テキストから出題（持ち込み可） ４．プレゼンテーション １）新聞（２紙）の社説を比較した発表資料を作成する。 ２）１人３０分程度（発表時間２０分、質疑応答１０分）の発表を行う。 ３）発表に関する評価を行う。 ４）補足レポートを作成する。 ５．総括						
教科書・参考書	教科書：中島利勝・塚本真也『知的な科学・技術文章の書き方』（コロナ社，1996） 参考書：木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書，1981） 江下雅之『レポートの作り方』（中公新書，2003） 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書，2002）						
評価方法	試験60％程度，プレゼンテーション40％程度で総合的に評価する。						
備　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．９）

専攻科の新カリキュラム　平成24年度～

海上輸送システム工学専攻

	科目名	単位数	選/必	開講期	備考
新設	短期インターンシップ	1	選択	2年後期	45時間以上135時間未満の校外実習と、その報告書の提出が必要
新設	長期インターンシップ	3	選択	2年後期	135時間以上の校外実習と、その報告書の提出が必要
新設	教育技術演習	1	選択	1,2年前後期	低学年の補講、学生実験、出前授業、公開講座などのアシスタントとして、2年間で累計30時間以上の参加が必要。初回に教授法の座学を実施。毎回、報告書の提出が必要
廃止	推進特論	2	選択	2年前期	船舶工学特論に統合
廃止	操船環境論	2	選択	1年後期	選択科目のスリム化を図るため
変更	情報処理特論→情報処理応用論	2	必修	1年後期	生産専攻と名称を揃えるため

※　特別研究の単位数の割振りに変更有り。

生産システム工学専攻

	科目名	単位数	選/必	開講期	備考
新設	短期インターンシップ	1	選択	2年後期	45時間以上135時間未満の校外実習と、その報告書の提出が必要
新設	長期インターンシップ	3	選択	2年後期	135時間以上の校外実習と、その報告書の提出が必要
新設	教育技術演習	1	選択	1,2年前後期	低学年の補講、学生実験、出前授業、公開講座などのアシスタントとして、2年間で累計30時間以上の参加が必要。初回に教授法の座学を実施。毎回、報告書の提出が必要
新設	生産システム工学概論	1	選択	1年前期	情報系（長井）：オブジェクト指向，Java演習 機械系（政家）：機械系分野の基礎的な領域
廃止	マルチメディア特論	2	選択	2年前期	画像応用システム工学、人工知能特論、信号処理論に分散して統合
廃止	情報機器特論	2	選択	1年前期	選択科目のスリム化を図るため
廃止	設計工学	2	選択	1年前期	数値解析特論に統合
変更	CAD／CAM→コンピュータ機械設計	2	選択	1年後期	海上専攻と名称を揃えるため

※　科目の開講期および特別研究の単位数の割振りに変更有り。

（出典：企画広報室）

資料５－７－①－４

授業科目	教育技術演習			担当教員	副専攻科長		
専　　攻	専攻科共通	学　年	１・２年	授業期間	前後期	単位数	1
分　　野	専門科目	授業形態	演習	履修区分	選択		
学習目標	本演習では，本科低学年の補習，学生実験，公開講座などのアシスタントとして指導する経験を積むことにより，自身の総合的な学習経験を活かした教育技術，コミュニケーション能力，ならびに企画を円滑に実行する計画性の向上を図る。						
授業の進め方	履修者は，本科低学年の補習，学生実験，公開講座などを担当する教員（現場担当教員）との相談により演習の実施内容を決定する。専攻科２年間を通して合計３０時間演習に参加することにより，２年後期において単位が認定される。期末ごとに教育技術演習活動報告書を作成し，現場担当教員に提出する。						
授業内容	第１回　　ガイダンスと教授法に関する講義 第２～３０回　アシスタントとしての実習						
教科書・参考書	第１回　　プリントを配布する 第２～３０回　なし						
評価方法	初回の講義に参加する態度と，提出された教育技術活動報告書に基づいて，副専攻科長が総合的に評価する。現場担当教員は，期末ごとに演習に参加する態度と提出された教育技術活動報告書の内容に対して，１０段階で評価する。						
備　　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．21）

資料５－７－①－５

平成23年度前期　教育技術演習活動報告書（見本）

氏名	弓削　太郎	所属　・　学年	生産システム工学専攻　1年
学籍番号	123045	回数＊	4回
日付	平成23年9月5日（月），9日（金），12日（月），16日（金）		
分類	■低学年の補習　□学生実験　□公開講座　□出前授業　□その他（　　）		
現場担当教員	徳田　誠		
活動内容	事前準備　： 担当教員から配布された問題を、他のアシスタント予定者と解いてから参加した。 活動内容　： 三角関数と2次不等式の補習にアシスタントとして参加した。受講者は，配布された問題を解き，わからないときに挙手するので、そばに行って解説した。		
感想	人に理解させることは、自分が理解するよりもずいぶん難しいと感じた。教える過程で、自分の理解がいかに曖昧であるかを痛感した。今後は、周辺の知識についてもしっかり調べて臨もうと思う。		
教員の所見	本科1年生は、なかなか専攻科生に質問しにくいようであった。次回以降は、打ち解けるのが早まるよう、よりフレンドリーな振る舞いを期待します。		
評定	8　／10	印鑑	

＊1回は50分とする。50分に満たない端数は切り捨てること。

＊前後期末に、学生は現場担当教員に、教員は教務係に提出してください。

（出典：学生課）

資料５－７－①－６

専攻科特別研究テーマ決定のプロセス

平成25年2月

【入学前】

1．専攻科生募集にあたり，教員が現在取り組んでいる研究テーマが開示される．

海上輸送システム工学専攻教員
- 航海系
- 機関系

生産システム工学専攻教員
- 機械工学系：材料力学，制御工学，設計工学，機械工作，トライボロジー，生産工学，流体工学，熱工学，知能機械学
- 情報工学系：照明工学，環境工学，ディジタル信号処理，プログラミング，データベース，ソフトウェア工学，画像処理，制御工学，OR，自然言語処理，ロボティクス

2．入学願書提出前に特別研究指導教員と面談を行う．

3．入学願書に特別研究指導希望教員および特別研究の希望テーマを記入する．

4．入学試験の面接において特別研究の計画についてプレゼンテーションを行う．

【入学後】

1．手引き（p.4）に記載のように指導教員と相談のうえ決定する．

5　特別研究
（1）趣旨
- 専攻科で最も重要と考えている授業科目である．専門知識の総合化と深化を図り，自発的問題解決に向けて広い視野から理論的，実践的に考究，実行する能力と創造的技術開発能力を育成することを目指している．
- 研究成果は，関連学会及び関係論文集等に積極的に発表することを目標とし，プレゼンテーション能力，コミュニケーション能力の向上を図ること．

（2）研究課題
- 研究課題及び方法は指導教員と相談のうえ，学生が主体的に取り組むこと．

2．指導教員は，特別研究指導計画書を教務係に提出する．

（出典：専攻科）

資料５－７－①－７

5　特別研究
(1)　趣旨
- 専攻科で最も重要と考えている授業科目である。専門知識の総合化と深化を図り、自発的問題解決に向けて広い視野から理論的、実践的に考究、実行する能力と創造的技術開発能力を育成することを目指している。
- 研究成果は、関連学会及び関係論文集等に積極的に発表することを目標とし、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上を図ること。

(2)　研究課題

研究課題及び方法は指導教員と相談のうえ、１学年の始業日までに決定し、学生が主体的に取り組むこと。

（出典：平成24年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．４）

資料５－７－①－８

平成　２４年度　前期　研究指導計画書

平成　24年　4月　23日

特別研究指導教員氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

１．学生氏名（学籍番号）

２．学位申請時の専門領域

学士（商船学）

３．研究題目

メカノケミカル法を用いたナノコンポジット（NC）ゲルの作製と特性評価

４．研究の概要

メカノケミカル法を用いてＰＮＩＰＡゲルをもとにしたＮＣゲルを作製し、通常のＮＣゲルとの特性の比較を行う。まず、さまざまな組成のＮＣゲルを作製し、どのゲルが一番伸縮性に富んでいるかを調べる。その後、そのゲルと同様の組成でメカノケミカル法によりＮＣゲルを作製し、伸縮性を調べ、両ゲルの比較を行い、検討する。

５．今期の研究目標

NCゲルの作製及びメカノケミカル法を用いたＮＣゲルとの伸縮性の比較。

データ収集、解析及び論文作成。

６．今期の指導方針

実際にゲルを作製させ、計測を行い、理解させる。何事も頭の中だけでなく、実際に作製させて理解させる。なるべく一人で行うことで、実験からまとめ、発表までを体感させる。

７．今期の研究実施方法

参考文献等を参照し、NCゲルを作製し、ゲルを引っ張ることにより強度を調べる。

また、メカノケミカル法を用いた場合、試料の粒径を計測し、ゲルの特性との関連を調べる。

８．主たる研究場所

熱流体実験室

９．週間，または月間計画

4月　データ採取及び解析	5月　学位試験に向けた勉強
6月　学位試験	7月　日本包装学会発表（東大）
8月　紀要作成	9月　大学院に向けて研究継続

１０．日報の記載方法等

（具体的に記述する．学生には研究ノート等の記入と提示を義務づけること）

日々行った実験の詳細を実験ノートに記述させると共に、文献検索等の日々はその文献及び検索方法も記載させる。

１１．今期の研究評価方法（学生の研究ノート等を評価対象にすることを明記すること）

学生の研究ノートとデータを参考にすると共に、成果を定期的に研究室内で発表させる。

１２．学生の受講科目計画

1科目（9単位）受講予定

１３．備考

注：学生ごとに記入すること．

（出典：学生課）

資料５－７－①－９

平成　２４年度　　後期　研究指導報告書

平成　24年　7月　20日

特別研究指導教員氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

１．学生氏名（学籍番号）

２．学位申請時の専門領域
学士（商船学）

３．研究題目
メカノケミカル法を用いたナノコンポジット（NC）ゲルの作製と特性評価

４．研究の概要
メカノケミカル法を用いてＰＮＩＰＡゲルを基にしたＮＣゲルを作製し、通常のＮＣゲルとの特性の比較を行う。まず、さまざまな組成のＮＣゲルを作製し、どのゲルが一番伸縮性に富んでいるかを調べる。その後、そのゲルと同様の組成でメカノケミカル法によりＮＣゲルを作製し、伸縮性を調べ、両ゲルの比較を行い、検討する。それらの結果から従来の水溶性ゲルであるPNIPAゲルと同じような吸水性を持ち、かつそれにはない柔軟性をもつことが明らかとなった。これにより吸湿性緩衝材等に使用できる可能性が見いだされた。

５．今期の研究実施時間（研究ノート等を基に算出する．算出基準を明確にすること）
4月112時間、5月152時間、6月168時間、7月83時間
合計　515時間

６．今期の研究の目標達成状況（計画書に沿って具体的に．発表予稿等を活用する）
本人の研究としては、クレイの量を種々変えて、ＮＣゲルの作製を試みた。良く伸びるゲルが完成した。さらにメカにケミカル法を用いたＮＣゲルの作製し、伸縮性の比較を行った。学会発表を行う。

７．今期の学会発表等
1. 村上知弘、池田真吾、メカノケミカル法を用いたナノコンポジット（NC）ゲルの伸縮性、平成24年度中四国専攻科交流会　C-07, 2012.
2. 池田真吾、村上知弘、緩衝材に適したナノコンポジット（NC）ゲルの作製 日本包装学会第21回年次大会, P132-133, 2012.
3. 村上知弘、池田真吾、緩衝材に適したナノコンポジット（NC）ゲルの作製 弓削商船高等専門学校紀要　35号　投稿予定

８．今期の研究評価（計画書の評価方法に沿って具体的に記述する．発表予稿等の評価を含む）
学会発表や論文作成も一人で行えるようになり、専攻科生として十分できた。
合格

９．備考

注：学生ごとに記入すること

（出典：学生課）

資料５－７－①－10

4　月　　平成　24 年度　研究日誌（専攻科生用）　学生番号　105001　氏名

月		火		水		木		金		土・日		1 週間（または該当日）の研究のまとめ今後の計画（40 字以上）	担当教員印 週合計時間
研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間		
4/2		4/3		4/4		4/5		4/6		4/7, 8			印 hr
4/9 ゲル作製 論文作成	4 4	4/10 ゲル作製 論文作成	4 4	4/11 ゲル作製 論文作成	4 4	4/12 ゲル作製 論文作成	4 4	4/13 ゲル作製 論文作成	4 4	4/14, 15		新年度が始まった。学位の試験と学会があるので、気を引き締めて実験に取り組もうと思う。	印 40hr
4/16 ゲル作製 論文作成	4 4	4/17 ゲル作製 論文作成	4 4	4/18 ゲル作製 論文作成	4 4	4/19 ゲル作製 論文作成	4 4	4/20 ゲル作製 論文作成	4 4	4/21, 22		ゲルの作製と実験を行い、実験データを細かく収集した。論文に反映しておく。	印 40hr
4/23 ＰＰ作製 論文作成	4 4	4/24 ＰＰ作製 論文作成	4 4	4/25 発表練習 論文作成	4 4	4/26 発表練習 論文作成	4 4	4/27		4/28, 29		金曜日は中四国高専交流会があった。満足のいく発表ができたと思う。	印 32hr
4/30													印 hr
										半期累計	112h	今月の研究時間合計	112hr

注意事項：１．基本的には毎日，担当教員の指導のもとに行った研究について，その日のうちに研究日誌にその内容・時間を記入すること．
２．１年前期・後期は 90 時間（週あたり約 6 時間）以上，２年前期は 135 時間（週当たり約 9 時間）以上，２年後期は 405 時間（週当たり約 27 時間）以上のこと．
３．上記研究時間に自宅で行った研究時間を含めることはできない．研究日誌においても自宅で行った分（内容・時間）を書かないこと．
４．本研究日誌は，原則的に毎週担当教員に提出し捺印を受けること．
＊　研究日誌は，各月１枚に記入すること．
＊　最終日（30，31 日）が６週目になる月は，その月の研究日誌には最終週の分を記入せずに，
例外的に最終週の分を翌月の研究日誌に記入し，その研究時間も翌月の研究時間とみなすこと．

5　月　　平成　24 年度　研究日誌（専攻科生用）　学生番号　105001　氏名

月		火		水		木		金		土・日		1 週間（または該当日）の研究のまとめ今後の計画（40 字以上）	担当教員印 週合計時間
研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間		
		5/1		5/2		5/3		5/4		5/5, 6			印 hr
5/7 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/8 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/9 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/10 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/11 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/12, 13		長期休暇が明け、気分をリフレッシュして実験に取り組んだ。	印 40hr
5/14 ゲル実験 学位対策	4 4	5/15 予稿作製 学位対策	4 4	5/16 予稿作製 学位対策	4 4	5/17 予稿作製 学位対策	4 4	5/18 予稿作製 学位対策	4 4	5/19, 20		学位試験が近づいてきた。予想される問題に対しての対策を行った。また、学会の予稿の作成を始めた。	印 40hr
5/21 予稿作製 学位対策	4 4	5/22 予稿作製 学位対策	4 4	5/23 予稿作製 学位対策	4 4	5/24 予稿作製 学位対策	4 4	5/25 予稿作製 学位対策	4 4	5/26, 27		学位に向けて、さらに本格的に勉強を始めた。また、学会発表のため、予稿を提出した。	印 40hr
5/28 学位対策	8	5/29 学位対策	8	5/30 学位対策	8	5/31 学位対策	8					学位の試験対策を重点的に行った。	印 32hr
										半期累計	264h	今月の研究時間合計	152hr

注意事項：１．基本的には毎日，担当教員の指導のもとに行った研究について，その日のうちに研究日誌にその内容・時間を記入すること．
２．１年前期・後期は 90 時間（週あたり約 6 時間）以上，２年前期は 135 時間（週当たり約 9 時間）以上，２年後期は 405 時間（週当たり約 27 時間）以上のこと．
３．上記研究時間に自宅で行った研究時間を含めることはできない．研究日誌においても自宅で行った分（内容・時間）を書かないこと．
４．本研究日誌は，原則的に毎週担当教員に提出し捺印を受けること．
＊　研究日誌は，各月１枚に記入すること．
＊　最終日（30，31 日）が６週目になる月は，その月の研究日誌には最終週の分を記入せずに，
例外的に最終週の分を翌月の研究日誌に記入し，その研究時間も翌月の研究時間とみなすこと

（出典：学生課）

資料５－７－①－11

平成２３年度専攻科特別研究論文集目次

海上輸送システム工学専攻

1. プロペラ後流中における魚型水平断面舵働く流体力に関する研究
A Study on Hydrodynamic Forces Acting on the Rudder of Fish-Shape Section with End Plates in Propeller Slipstream
浅海　聡一朗
・・・1

2. 高張力鋼板の曲げにおけるスプリングバックに及ぼす引張力の影響
Effect of Stretching Force for Spring Back of High Strength Steel Sheets under Bending
橋本　友彰
・・・7

3. 吸油性ゲルを用いた再利用可能な油水分離法
Reusable Oil-Water Separating System using Lipogels
馬越　翔吾
・・・１３

（出典：専攻科特別研究論文集第５号目次）

資料５－７－①－12

平成２２年度専攻科特別研究論文集目次

生産システム工学専攻

1. 変形経路を考慮したAZ31Mg 合金板の温間FLD の予測
Prediction of Forming Limit for AZ31 Magnesium Sheet with Consideration of Strain Path at Elevated Temperature
大出 明慶
・・・１９

2. LED MARKER POSITON DETECTION USING WALSH FUNCTIONS
Yutaro Okano
・・・２５

3. AUTO-CAPTURING SYSTEM FOR FACIAL IMAGES FROM VIDEO USING SIMULINK MODEL
Ai Kanayama
・・・２９

4. 実験用復水式タービンの理論計算および試運転
Theoretical computation and test operation of experimental condensing turbine
倉田 一樹
・・・３３

5. 接触による粗さ面の変化に関する研究
Study on Characteristics of Rough Surface on Contact
清水　亮介
・・・３９

6. 銀とガラスのラッピングに関する研究
Study on Lapping for Silver and Glass
濱本　悠世
・・・４５

7. AZ31 マグネシウム合金の機械的性質に及ぼすアスペクト比と圧延方向の影響
Effect of Aspect Ratio and Rolling Direction on Mechanical Property for AZ31 Alloy Sheet
細谷 拓
・・・５３

8. しまなみ地域の特徴指標の調査
Characteristic Indicators of the Shimanami Area
宮原 亜希
・・・５９

（出典：専攻科特別研究論文集第５号目次）

資料５－７－①－13

専攻科第５期生（H21～H23）
（2009～2011）

学術論文・学外研究発表一覧

6. 濱本　悠世
指導教員：藤本　隆士
[1] 銀と脆性材料のラッピングに関する研究，しまなみ研究交流会（平成 21 年 8 月 8 日）
[2] 銀と脆性材料のラッピングに関する研究，平成 22 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会（平成 22 年 4 月 23 日，24 日）

7. 細谷　拓
指導教員：中　哲夫
[1] AZ31Mg 合金板の機械的性質に及ぼすアスペクト比の影響，平成 22 年度 中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会（高松テルサ），細谷　拓 '10-4/23・24
[2] AZ31Mg 合金板の機械的性質におけるアスペクト比の影響，軽金属学会・中国四国支部・第２回講演大会（岡山理科大学），細谷　拓，中　哲夫 '10-7/10
[3] AZ31Mg 合金板の機械的性質に及ぼすアスペクト比の影響，塑性加工学会・第 61 回塑性加工連合講演論文集：(2010) 365-366，細谷　拓，中　哲夫，上森武，高津正秀，東健司，吉田総仁 '10-10/15-17（山形大学）
[4] AZ31Mg 板の機械的性質に及ぼすアスペクト比と圧延方向の影響，塑性加工学会・中国四国支部第 11 回学生研究発表会講演論文集：(2010)1-2，細谷　拓，中　哲夫，上森武，高津正秀，東健司，吉田総仁 '10-12/3
[5] AZ31Mg 合金板の機械的性質に及ぼすアスペクト比の影響，弓削商船高専紀要：33(2011)13-18，中　哲夫，村上英正，細谷　拓 '11-1/18
[6] AZ31Mg 板の機械的性質に及ぼすアスペクト比と圧延方向の影響，日本機械学会講演論文集：No. 115-1(2011)495-496，細谷　拓，中　哲夫，上森武，高津正秀，東健司，吉田総仁 '11-3/5

8. 宮原　亜希
指導教員：塚本　秀史
[1] しまなみ地域の特徴指標の調査，平成 22 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会（平成 22 年 4 月 23 日，24 日）

学術論文投稿・学外研究発表件数

学術論文（研究紀要を含む）	学会発表	中四国高専研究交流会
8	26	11

（出典：学生課）

資料５－７－①－14

日本機械学会　中国四国学生会　第42回学生員卒業研究発表講演会

実行委員長　遠藤　琢磨（広島大学）
実行委員　池条　清隆（広島大学）
（50音順）　池田　　隆（広島大学）
井上　修平（広島大学）
岩本　　剛（広島大学）
尾形　陽一（広島大学）
神名　麻智（広島大学）
下栗　大右（広島大学）
西野　信博（広島大学）
原田　祐志（広島大学）
日野隆太郎（広島大学）
松村　幸彦（広島大学）
保田　俊行（広島大学）
山田　啓司（広島大学）
和田　信敬（広島大学）

開催日　2012年3月7日（水）
9：00～11：55　卒業研究発表講演会
12：05～12：35　第42回中国四国学生会総会
12：35～13：30　昼休み
13：30～16：40　卒業研究発表講演会
会　場　広島大学工学部〔東広島キャンパス：東広島市鏡山1-4-1〕
交　通　JR西条駅またはJR八本松駅から「広島大学」行きバス約20分
＊広島大学ホームページの交通案内　http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/access/index.html

1．第42回中国四国学生会総会
日時　2012年3月7日（水）12：05～12：35
場所　広島大学工学部　220講義室
議題　(1) 平成23年度事業報告および決算報告
(2) 平成24年度委員長校ならびに幹事校選出
(3) 平成24年度事業計画および予算案
(4) その他

2．講演前刷集（CD）代金
会員1000円（送料別），会員外1500円（送料別）
下記宛にお申し込み下さい．
〒739-8527　東広島市鏡山1-4-1／広島大学工学部第一類

講　演
(1) 1題目につき講演時間10分，討論5分，計15分
(2) 講演者は○印の方です．
(3) 連名者で所属が省略されている方は，前者と同一です
(4) 各講演室には，液晶プロジェクターと接続切替器・
パソコンおよび特殊な接続ケーブルはご持参下さい．
液晶プロジェクターは，あらかじめ各講演者の責任で

第1室
9：00～10：15　材料力学I
［座長　石川雅樹（島根大）］
101　高張力鋼板のねじりを伴う繰返し限界／○高岡秀旭（広島大），日野隆太郎，吉田総仁，藤井裕
102　TRIP鋼における弾塑性破壊靭性値のひずみ速度依存性の実験的評価／○川嶋敏之（広島大），橋本真也，岩本剛
103　繰き裂と円形介在物の相互干渉問題の近似解法／○村上智洋（弓削商船高専），鶴秀登
105　Si,Ge結晶中のボイド欠陥形成に関する分子動力学計算／○大田周作（岡山県大），末岡浩治
106　BNT系圧電セラミックスの遅れ破壊に及ぼす水環境の影響／○上田悠平（高知工大），楠川量啓，高坂達郎

10：40～11：40　材料力学II
［座長　勝山陽介（広島工大）］
108　内圧を受けるガスケット付き閉止フランジ型圧力容器のFEM応力解析と密封性能（ねじ込みボルトによる締結の場合）／○道下幸典（広島大），澤俊行
109　引抜複合成形によるグリーンコンポジットストランドの開発／○木村修一郎（山口大），Kim Hyun-bum，野田淳二，合田公一，青木憲治（化薬アクゾ），丸谷洋正
110　ばね鋼の曲げ加工性に及ぼす断面形状の影響／○近藤智哉（愛媛大），高橋学，田中大樹
111　アルミニウム合金板の温間張出し成形限界／○藤田嗣人（広島大），久野大輔，濱崎洋，日野隆太郎，吉田総仁，西口勝也（マツダ），鳥飼岳（住友軽金属）

13：30～15：00　材料力学III
［座長　高岡秀旭（広島大）］
112　Si，Ge結晶中の格子間O原子の安定性に関する第一原理解析／○大和晴紀（岡山県大），仮屋崎弘昭，末岡浩次
113　静的引張荷重を受ける接着・ボルト併用段付き重ね合わせ継手の三次元有限要素解析と強度推定／○紀井信彦（広島大），澤俊行
114　繊維末切断円孔を用いたCFRP接合技術の開発とその強度／○本山航也（山口大），今村剛，野田淳二，合田公一
115　温間における AZ31 マグネシウム合金板の面内応力反転挙動／○細川翔平（広島大），片平卓志，中哲夫（弓削商船高専），高津正秀（大阪府大院），濱崎洋（広島大），日野隆太郎，吉田総仁
116　特性曲線法による薄膜の一般化された一次元熱弾性問題の解析／○石川雅樹（島根大），芦田文博，坂田誠一郎
117　エポキシ樹脂とプリント基板からなる積層体の反り変形挙動の熱粘弾性解析／○桑野孝之（広島工大），三島竜希，宮岡亮輔，中村省三

15：10～16：40　材料力学IV
［座長　近藤智哉（愛媛大）］
118　近似関数を用いたモンテカルロシミュレーションによる確率均質化解析／○岩橋大貴（島根大），坂田誠一郎，芦田文博
119　SiO_2及びGeO_2の機械的性質に関する第一原理解析／○細川貴弘（岡山県大），難波貴正，末岡浩治
120　NEB法を用いた双晶境界近傍における水素原子拡散素過程の活性化エネルギーの検討／政家利彦，○神原将臣（弓削商船高専）
121　降伏点現象を示す鋼の有限要素解析／○三宅弘人（広島大），網井貴史，濱崎洋，吉田総仁
122　曲げモーメント作用下におけるボルト締結体の弾塑性応力解析／○錦織恵造（広島大），澤俊行
123　三層積層体の熱負荷による残留反り変形量の熱粘弾性解析／○勝山陽介（広島工大），末廣啓伸，宮岡亮輔，中村省

（出典：学生課）

資料５－７－①－15

103

縁き裂と円形介在物の相互干渉問題の近似解法

A Method for Interference Effect of Inclusions on SIF of Edge Crack

○学　村上　智洋（弓削商船高専），　◎正　鶴　秀登（弓削商船高専）

Tomohiro MURAKAMI, Yuge National College of Maritime Technology, Shimoyuge 1000, Yuge, Kamijima-chō, Ochi-gun, Ehime, 794-2593 Japan

Hideto TSURU, Yuge National College of Maritime Technology, Shimoyuge 1000, Yuge, Kamijima-chō, Ochi-gun, Ehime, 794-2593 Japan

Key Words: Stress Intensity Factor (SIF), FEM, Edge Crack, Circular Inclusion, Principle of Superposition

1. 緒言

構造物や部材の強度評価は破壊を防止する上で必要不可欠である．破壊の原因は多種多様だが，構造物に含まれる欠陥は応力集中現象を引き起こし，脆性破壊や疲労破壊の起点となる．応力集中がある場合，最大応力が同じであっても破壊を支配する領域の応力分布が異なると破壊現象が同一とは限らない．したがって，破壊を支配する領域の力学的環境の厳しさを最大応力と応力分布により評価することは非常に重要である[1]-[3]．き裂の場合，この応力場を応力拡大係数(Stress Intensity Factor : SIF)のみで表せる[4][5]．この応力拡大係数は線形破壊力学における最も代表的なパラメータであり，その解析には各種方法が適用されるが，数学的知識が必要となり取扱いが複雑である．

本研究では円形介在物をもつ半無限板縁き裂問題を，き裂面に内圧が作用する問題に置換え応力拡大係数の近似計算を行った．具体的には有限要素法(Finite Element Method : FEM)を用い，半無限板に円形介在物がある問題の応力場を有限領域で近似解析し，き裂相当位置の応力分布を求める．そして，半無限板の縁き裂が内圧を受ける問題[3]にその応力分布を適用し，半無限板の縁き裂と介在物の干渉問題の応力拡大係数を近似的に得た．さらに，円形介在物と縁き裂の相対位置および母材との剛性比によって縁き裂の応力拡大係数が変化することを定量的に示した．

2. 解析方法

図1に示す半無限板の縁き裂近傍に円形介在物があるモードI変形問題は，図2(a)に示す重ね合わせによって解が得られる．さらにこれを図2(b)に示す近似解析モデルで取扱った．このモデルは取扱いが非常に簡便である．すなわち，図2(b)に示すき裂のない介在物問題の応力計算を行い，き裂相当位置の応力分布$p(x)$を求める．次に介在物のない半無限板の縁き裂がき裂縁に内圧を受ける問題にその応力分布$p(x)$を用いる．すると問題の応力拡大係数がこの場合の応力拡大係数で近似できる．この近似解法は，重ね合わせによってき裂縁自由の条件は満たされるが，2次的に介在物の境界条件が満たされていない．結局，応力拡大係数は応力分布$p(x)$を最小二乗法によりxの3次式(1)で近似して，次式(2)で得られる[3][4]．なお，き裂のない半無限板の応力分布$p(x)$の計算は，有限板の自由表面近傍に介在物がある問題に置換え，市販のFEM 解析ソフト(プリ・ポストプロセッサMSC.Patran，ソルバーMD.Nastran)を用いて行った．

$$p(x)=\sigma_0\sum_{n=0}^{3}C_n\left(\frac{x}{a}\right)^n \tag{1}$$

$$K_I\approx K_I'=\sigma_0\sqrt{\pi a}(1.1215C_0+0.6829C_1+0.5255C_2+0.4410C_3) \tag{2}$$

$$F_I'=\frac{K_I'}{\sigma_0\sqrt{\pi a}}=1.1215C_0+0.6829C_1+0.5255C_2+0.4410C_3 \tag{3}$$

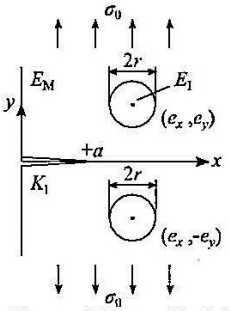


Fig. 1　Edge crack in a semi-infinite plate having two circular inclusions

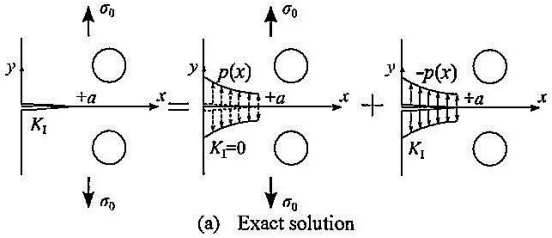


Fig. 2　Decomposition of stress state

（出典：学生課）

資料５－７－①－16

平成 21 年度軽金属希望の星賞　受賞者表彰

著作権に関係するために削除

（出典:軽金属 Vol.59　No.３会告）

資料５－７－①－17

専攻科だより　第１８号

平成 21 年 11 月

専攻科生の研究活動

■専攻科生が軽金属学会「優秀講演賞」受賞

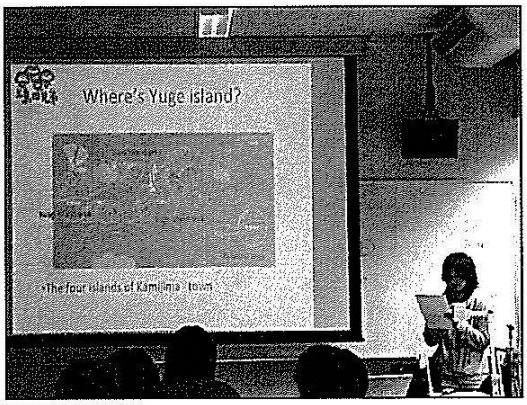
平成２１年７月４日（土）に第１回軽金属学会中国四国支部講演大会が愛媛大学で開催され、全２４件のうち、弓削商船高専からは２件の発表が行われた。本校専攻科生産システム工学専攻１年大出明慶君が、「非比例変形を受けた AZ31 合金板の成形限界予測」について講演し、社団法人軽金属学会中国四国支部より、講演内容等が極めて優秀で軽金属に関する学術分野の進歩に寄与するところ多大であるとの理由で優秀講演賞を受賞した。



専攻科行事の報告

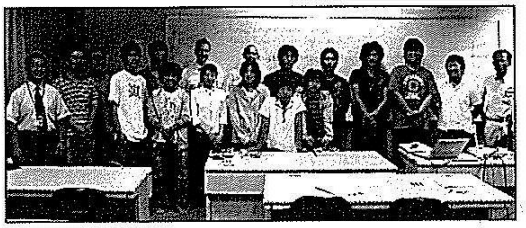
■専攻科英語キャンプ 2009－夏季集中・少人数形式で英語運用能力向上を目指して－

「専攻科英語キャンプ 2009」が本校専攻科１年生 12 名を対象に７月 27 日（月）～31 日（金）に実施されました。専攻科英語キャンプは専攻科学生の英語学習に対するモチベーションの向上、TOEIC のスコアアップを目的としており、2006 年度に「専攻科学生の英語力向上のための English 集中レッスン」と題して試行的に実施して以来、毎年春季または夏季の長期休暇中に実施してきました。



今年度はアーク外語学園より Terri Malinski 先生, Aaron Scott 先生, Joel Winfield 先生, Matt Winfield 先生をお迎えして、少人数グループでの実践英会話練習を行いました。その他、本校英語専任教員による TOEIC 対策授業、英語での Power Point スライド作成実習、最終日には学生が一人ずつ英語でのプレゼンテーションを行いました。

学生達は旅行、研究、趣味など各自興味のあるテーマを設定して、工夫を凝らしたスライドを作成し、内容的にも充実した発表会となりました。



初日と最終日に実施した英語能力判定テスト（財団法人日本英語検定協会）の結果、最終日実施の平均が 386.8 点（570 点満点）で、

（出典：専攻科だより第 18 号）

資料５－７－①－18

日本機械学会中四国支部ＨＰ

卒業研究発表後援会優秀発表賞　受賞者

著作権に関係するために削除

（出典：日本機械学会中国四国支部ウェブサイト）

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程の単位の修得については，学則第 48 条に規定し，修了の認定については同第 50 条に規定し（資料５－８－①－１），必要事項については別に定めている（資料５－８－①－２）。これらの規則は，全専攻科学生に配布される「専攻科学生用手引き・シラバス」（資料５－８－①－３）に掲載されており，専攻科入学時のオリエンテーションにおいて，専攻科長が説明して周知を徹底している。その中で，１単位の履修時間が授業以外の学習を合わせて 45 時間であることも学生に周知している（資料５－８－①－２）。

各科目の成績評価は，シラバスに示した評価基準に従って行い，全試験答案，レポートなどと共に成績評価表を作成し，保管している（資料５－８－①－４，５）。各期の授業完了報告書の提出前に開校日を設けて，各科目ごとに成績を学生に伝えて，意見申立の機会としている（資料５－８－①－６）。

単位認定は，授業担当教員が授業完了報告書を作成・提出し（資料５－８－①－７），専攻科委員会委員により厳格に確認の上，単位修得が了承され（資料５－８－①－８，９），修了認定は教員会議で適正に審議することにしている（資料５－８－①－10）。

成績評価及び修了認定の専攻科学生への周知度はアンケートで確認している（資料５－８－①－11）。

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定基準や修了認定基準に関する規則が制定されており，学生に周知されている。

また，授業担当教員から授業完了報告書を受けて，専攻科委員会委員にて厳格に確認の上，修了認定は教員会議で適正に審議・判定されている。

資料５－８－①－１

（授業科目及び学修単位数）

第48条　専攻科の授業科目及びその単位数は，別表第３のとおりとする。

２　教育課程は，授業科目により編成するものとする。

３　履修方法については，別に定めるところによる。

４　各授業科目については，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間以外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算する。

(1)　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。

(2)　演習・ゼミについては，30時間の授業をもって1単位とする。

(3)　実験・特別研究については，45時間の授業をもって１単位とする。

（休学の期間）

第49条　専攻科学生の休学の期間は，通算して２年を超えることができない。

２　休学の期間は，第44条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

（修了）

第50条　専攻科に２年以上在学し，所定の授業科目を履修し，62単位以上を修得した者については，修了を認定する。

２　校長は，修了を認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。

３　第１項に規定する単位の修得方法については，別に定める。

（準用規定）

第51条　第５条，第６条，第12条，第13条の４第１項，第19条，第22条，第24条から第26条まで，第27条第１項から第３項まで，第28条第１項，第31条から第40条までの規定は，専攻科に準用する。

（出典：弓削商船高等専門学校学則１－１抜粋）

資料５－８－①－２

r 履修要領

高専の本科は学年制であるが、専攻科は大学と同じ単位制であるところが本科とは大きく異なるので注意すること。

１　修了要件

(1)　専攻科の修業年限は２年である。ただし４年を超えて在学することはできない。

(2)　休学期間は通算して２年を越えることはできない。なお、休学の期間は上記の修学年限及び在学期間には算入されない。

(3)　専攻科を修了するためには、２年以上在学し、６２単位以上を修得すること。

２　授業時間と単位

(1)　１単位時間は５０分を標準とし、４５時間の学修を必要とする内容で構成している。

- 講　　義　：　１５時間を１単位とする
- 演　習、ゼ　ミ　：　３０時間を１単位とする
- 実験、特別研究　：　４５時間を１単位とする

(2)　講義、演習、ゼミについては予習・復習・自主的学修が必要であり、授業はこのことを前提に進める。

３　専攻科修了に必要な授業区分別修得単位

以下の表に示す単位を修得する必要がある。

海上輸送システム工学専攻

航海系

授業区分		開設単位数	修得すべき単位数
専門基礎科目	必修	１４	１４
	選択	－	－
	合計	１４	１４
専門科目	必修	２２	２２
	選択	３７	２６以上
	合計	５９	４８以上
合　　計		７３	６２以上

機関系

授業区分		開設単位数	修得すべき単位数
専門基礎科目	必修	１４	１４
	選択	－	－
	合計	１４	１４
専門科目	必修	２２	２２
	選択	３７	２６以上
	合計	５９	４８以上
合　　計		７３	６２以上

生産システム工学専攻

授業区分		開設単位数	修得すべき単位数
専門基礎科目	必修	１４	１４
	選択	－	－
	合計	１４	１４
専門科目	必修	２２	２２
	選択	５０	２６以上
	合計	７２	４８以上
合　　計		８６	６２以上

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．３）

資料５－８－①－３

平成24年度

専攻科学生用手引き・シラバス

弓削商船高等専門学校

（出典：平成 24 年度専攻科学生用田引き・シラバス表紙）

資料５－８－①－４

授業科目	文書表現論			担当教員	猪川 優子		
専　　攻	生産システム工学	学　年	１年	授業期間	前期	単位数	2
分　　野	専門基礎	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	１．科学・技術論文の執筆に必要な文章表現力を習得させる。 ２．基礎的なプレゼンテーション能力を習得させる。						
	－（略）－						
評価方法	試験60%程度，プレゼンテーション40%程度で総合的に評価する。						
備　　考							

（出典：平成 24 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．49）

資料５－８－①－５

「文章表現論」成績評価表

個人情報等保護のための削除

（出典：担当教員）

資料５－８－①－６

平成２５年度学事予定表（７月）

○ 授業日　△ 開校日　× 休業日

			本科			専攻科			
27	土	×	オープンキャンパス			27	土	×	●オープンキャンパス
28	日	×	オープンキャンパス			28	日	×	▼
29	月	○	Ｓ５卒業研究発表			29	月	△	特別研究最終審査発表会（海上２年）
30	火	○	教員会議（Ｓ５成績確認）		体験航海 ●	30	火	△	教員会議
31	水	○	●▼前期期末試験		▼	31	水	△	

平成２５年度学事予定表（８月）

○ 授業日　△ 開校日　× 休業日

			本科			専攻科			
1	木	○	前期期末試験　Ｓ５再試験			1	木	△	
2	金	○				2	金	△	研究指導報告書、授業完了報告書提出（海上・生産２年）
3	土	×				3	土	×	
4	日	×	編入学試験			4	日	×	
5	月	○	Ｓ５特別試験			5	月	△	特別研究中間発表（海上１年）
6	火	○	▼			6	火	△	専攻科委員会（海上２年修了認定・生産２年単位認定）
7	水	○	●試験解説、成績開知　入学試験委員会、教員会議（Ｓ５席上課程修了認定・編入学合否判定）			7	水	△	教員会議（海上２年修了認定・生産２年単位認定）　修了見込証明書発行（生産２年）
8	木	○				8	木	△	
9	金	○	▼Ｓ５席上課程修了式　全校集会、ＨＲ（掃除）　編入学合格発表			9	金	△	

（出典：学生課）

資料５－８－①－７

平成２４年度前期　授業完了報告書

平成24年9月25日

教員氏名　浜中　俊一

授業科目	物理学特論			対象学年	1年	単位数	2
履修区分	必修	開講時期	前期	授業形態	講義	
受講者数	１１	開講単位時間数	50分×2×15	実施場所	物理教室	
授業区分	分野区分/学位区分　工学/ 工学の基礎			専門科目区分	専門基礎科目	
評価方法	到達度確認テストおよび小テスト結果を80%，課題レポートを20%とし総合評価					
備　考	到達度確認テスト以外に小テスト、課題レポートの提出を行い評価した					

学籍番号	学生氏名	受講時間	教科目評価	備　考

個人情報等保護のための削除

資料５－８－①－８

海上輸送システム工学専攻　成績一覧表

個人情報等保護のための削除

（出典：専攻科委員会）

資料５－８－①－９

平成２４年度第３回専攻科委員会議事概要

日　時　　平成２４年７月３１日（火）１４時００分～１４時４５分
場　所　　第二会議室
出席者　　５名（別紙のとおり）
議　題

（審議事項）
１　単位認定について（海上輸送システム工学専攻）
委員長から、単位認定要件について次のとおり説明があった。
・専門基礎科目の必修１４単位
・専門科目の必修２２単位
・専門科目の選択２６単位以上
・合計６２単位以上
続いて、審議資料１に基づき、各学生の修得単位数及び成績の確認が行われ、審議の結果、５名全員の単位修得が了承された。
なお、今回の単位認定については、８月８日（水）開催の教員会議に提議することとなった。
２　専攻科（海上輸送システム工学専攻）の追加募集について
委員長から、６月１３日（水）開催の第４回教員会議で専攻科（海上輸送システム工学専攻）の追加募集について専攻科委員会で審議することになった旨の説明があり、審議の結果、追加募集はしないこととなった。また、次のとおり改善策ついて意見があった。
・来年度については、４年次の担任が早い段階で専攻科への進路指導を行い、定員は確保出来る見込みである。
・４年次の就職講演会に専攻科修了生を講師として招聘する。
３　その他
なし。

（報告事項）
１　その他
①　セメスター制対応学事予定表について
専攻科長から、セメスター制対応の平成２５年度学事予定表について、１５回の授業日数を確保し、不足する場合は△（開校日）で対応することで検討しており、詳細については今後、副専攻科長と検討する旨の報告があった。

（出典：平成 24 年度第３回専攻科委員会）

資料５－８－①－10

平成２４年度第６回教員会議議事概要

日　時　　平成２４年８月８日（水）１０時３０分～１０時５０分

場　所　　第一会議室

出席者　　３８名（別紙のとおり）

議　事

（審議事項）

１　平成２５年度編入学生の合否判定について

２　単位認定について（海上輸送システム工学専攻）

専攻科長から、審議資料２に基づき、全員、修了要件である６２単位以上を修得している旨の説明があり、併せて７月３１日（火）開催の専攻科委員会において審議の結果、全員合格となった旨の報告があった。

続いて、校長から、成績及び修得単位について確認があり、全員の単位認定が了承された。

３　その他

なし。

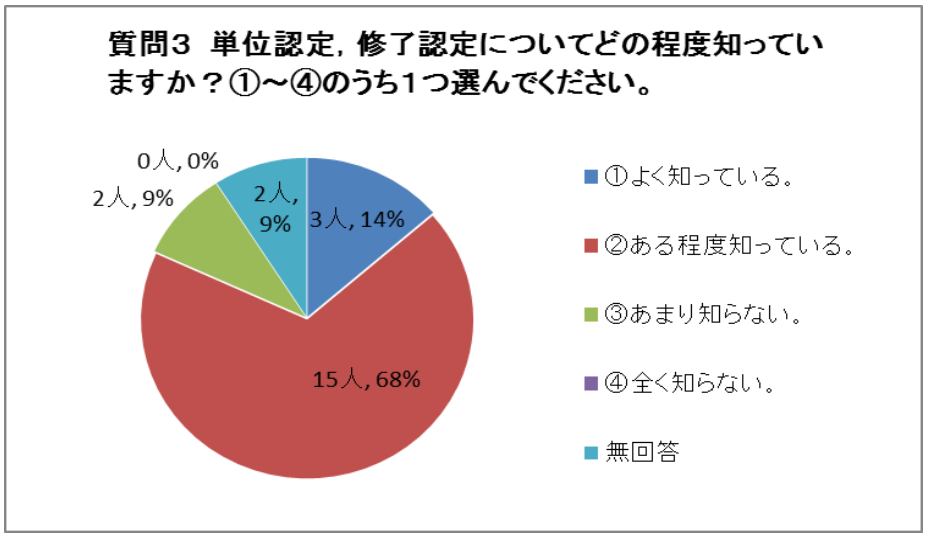
（報告事項）

１　その他

（出典：平成 24 年度第６回教員会議）

資料５－８－①－11

専攻科学生アンケート



（出典：専攻科）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

〈準学士課程〉

「商船学科の人材養成機能の充実と高度化」を目的に，他高等専門学校の商船学科，（社）全日本船舶職員協会，（社）日本船主協会と連携して「ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト」として組織を構築し，多様化する学生のニーズや海運界からの要請に対応するため，教材開発や新たな商船教育システムの開発を行っている。また，情報工学科では，全国レベルで優秀な成績を収めているプログラミングコンテストで得られた知見を授業にフィードバックし，CG－ARTS 協会の認定教育校として優秀賞を受賞しており，ＣＧクリエイター，Ｗｅｂデザイナー，マルチメディア等に対応した教育内容への改善を図っている。

〈専攻科課程〉

専攻科の教育目標を達成するために，教育技術演習やコミュニケーション能力の育成を目的とした授業，異分野の基礎知識の補充を目指した授業，情報機器を活用した授業，本校の環境を活かしたフィールド型授業，練習船「弓削丸」を活用した実験など多様に配置し，学習指導方法の工夫を行っている。また，国際的視野でものをみることができる実践的技術者の養成を目指して，英語（外国人講師）による専門授業，英語キャンプ，国際会議における研究発表，タイ王国の大学との国際交流などを実施しており，異文化交流事業等が充実している。

（改善を要する点）

〈準学士課程〉

学生のシラバス活用状況が十分でなく，周知だけでなく実際の利用度を高めることが必要である。

〈専攻科課程〉

他高等教育機関との単位互換に関する制度が明確には存在しておらず，改善の必要がある。

（３）基準５の自己評価の概要

〈準学士課程〉

平成 22 年度に，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応するため，教育課程を改正した。新しい教育課程においても，本校の準学士課程の教育課程は，低学年では一般科目が多く，高学年になるに従って専門科目が増えるようなくさび型の教育課程となっており，教育目標を達成できるように授業科目を体系的に適切に配置している。専門科目は，授業科目系統図に沿って必修科目と選択科目が系統的に配置されている。主に講義を通して専門基礎力を身に付け，全年次に配置している実験・実習を中心とした科目を通して職業に必要な能力を身に付け，卒業研究などを通して総合的な創造力を身に付けた実践的技術者の育成を図っている。

授業内容は，教育課程の編成の趣旨に沿って，統一された形式のシラバスに明確に記載され，学生に周知されており，各期の初講義時にガイダンスを行なって，授業目的・内容及び評価方法について説明するように努めている。練習船「弓削丸」を活用した教育，四国地区高等専門学校で連携した特別講義，インターンシップによる実践力の育成，プログラミングコンテストなどを通して得られた知見を基に対外的にも評価される創造力育成など特色ある教育を実践している。商船学科は，ＳＴＣＷ条約に基づく審査を受け，第１種船舶職員養成施設として認定されており，海技従事者育成のための教育課程を適正に編成している。

授業形態は，全年次で講義，演習，実験，実習がバランス良く適切に配置され，複数の教員・技術職員で支援する態勢を全学科で採用し，情報処理教育センター，マルチメディア教室，各実験室をはじめとする各種施設を活用して，教育効果を高めている。

高等専門学校設置基準で定められている特別活動を第１～３年次で実施し，学校全体としての特別活動や学校行事，生活指導や課外活動を通して，人間の素養の涵養が図られるよう配慮している。

成績評価，進級基準，卒業基準に関する規則を策定し，新入生オリエンテーションや学生便覧などによって学生に周知している。これらの判定については，判定会議として教員会議の場で審議され，厳格かつ慎重に実施している。

〈専攻科課程〉

専攻科課程の教育課程は，準学士課程の教育との連携を配慮したものとなっており，授業科目は準学士課程における授業科目を基礎として,連続性を持たせて体系的に配置されている。また，教養教育の多くを必修とし，総合教育科の常勤教員が講義を担当している。

学習･教育目標に掲げられたレベルに到達するために段階的な履修が可能となるように授業科目が配置され，学士の学位取得が可能になるように体系的な教育課程が編成されている。また，教育目標を達成するために，少人数授業，本校の環境を活かしたフィールド型授業，情報機器の活用，練習船「弓削丸」を活用した授業，英語（外国人講師）による専門授業，英語キャンプ，タイ王国の大学との文化交流などを実施し，学習指導法を工夫している。さらに，各授業の中で創造力や実践力を育む教育がなされている。

学生のニーズ及び社会からの要請に配慮して，平成 24 年度に教育課程を改正し，短期・長期インターンシップを単位化した。

特別研究では，個別指導により問題提起能力，創造力，実践的問題解決能力が育成されるような指導が行われている。研究指導体制は，研究テーマ決定を行う段階から専攻科長や副専攻科長を中心とした丁寧な指導が行われ，複数教員による研究指導体制の中で指導教員と学生の綿密な連携を図っている。

シラバスは，授業内容や成績評価方法など記載内容が統一されている。成績評価，単位認定基準，修了認定基準に関する規則が制定されており，専攻科入学時のオリエンテーションや各授業のガイダンスにおいて，手引き書やシラバスを通して学生に周知されている。成績及び修了認定は，授業担当教員からの授業完了報告書に基づいて，専攻科委員会において確認の上，教員会議で適正に審議・判定されている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

準学士課程においては，資料６－１－①－１に示したような人物像の育成を行っている。それらに基づいて履修及び修得する科目を配置し，年４回の定期試験の実施で学力の把握や評価を行っている。各定期試験における学生の成績は，教員会議において全教員で検討され確認がなされる（資料６－１－①－２）。また，教務委員会で成績・出席不良の学生には，定期試験ごとに保護者と本人に通知書を出して，状況の連絡と指導がなされている（資料６－１－①－３，４）。

学年末試験や卒業認定試験，席上課程修了試験については，資料６－１－①－５に示す成績一覧表により教員会議で審議される。工業系学科では，資料６－１－①－６に示す選択科目受講一覧表から選択科目の適正な科目履修状況が確認されている。また，商船系学科については，席上課程修了時に三級海技士第１種船舶職員養成施設の単位の確認及びＳＴＣＷ条約の救命講習の受講確認（資料６－１－①－７）について教員会議で席上課程修了判定資料（資料６－１－①－８）に基づき審議して，席上課程修了認定を行っている（資料６－１－①－９）。

卒業研究については，卒業研究中間発表，卒業研究発表（資料６－１－①－10）を経て，卒業論文の提出により，各学科の分科会で達成状況を把握し判定を行っている。

学生の学習達成度を把握・評価するため，「学習達成度アンケート」を実施しており（資料６－１－①－11），アンケート結果は自己点検評価委員会で分析し，教育改善に役立てている。

専攻科課程においては，資料６－１－①－12 に示したような人材の育成を行っている。研究については，学生の提出する研究日誌（資料６－１－①－13）と指導教員より提出される研究指導報告書（資料６－１－①－14）により専攻科委員会で検討され，現状の確認と指導が行われている。また，特別研究については，研究の進度を確認するため中間発表（資料６－１－①－15）の実施や他高専との研究交流会（資料６－１－①－16）での発表等により，専攻科委員会で研究能力の把握と評価を行っている。

専攻科の修了認定は，特別研究最終審査発表会（資料６－１－①－17）を経て，修了認定資料（資料６－１－①－18）により資料６－１－①－19 に示しているように，専攻科委員会で確認した後，教員会議で審議し，専攻科の修了認定を行っている（資料６－１－①－20）。

また，資格取得やコンペティション等を奨励しており，それぞれ担当教員を配置している（資料６－１－①－21）。

（分析結果とその根拠理由）

人物像の育成等に照らして履修及び修得する科目を配置し，全体の達成状況の確認を教員会議で行っている。教員会議の前に，教務委員会，専攻科委員会，分科会で十分に把握・評価が行われている。学生の学習達成度アンケート結果は，自己点検評価委員会で分析し，教育改善に役立てている。

以上のことから，学生が卒業（修了）時に身に付ける資質・能力，養成しようとしている人物像等について，適切な取り組みが行われているといえる。

資料６－１－①－１

教　育　方　針

（1）自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
（2）身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
（3）日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

教　育　目　標

○教養教育
　幅広い視野に立った総合的な判断能力，斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
○商船学科
　船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
○電子機械工学科
　ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成
○情報工学科
　情報リテラシー，情報工学の知識に加え，問題分析，解決能力を備えたシステム技術者の育成

（出典：平成 25 年度シラバス巻頭）

資料６－１－①－２

商船学科成績一覧表（平成 24 年度学年末試験）

個人情報等保護のための削除

（出典：平成 24 年度第 18 回教員会議資料）

資料６－１－①－３

平成２４年１１月３日

保護者　殿

弓削商船高等専門学校
教務主事　濱中　俊一

出席不良について（通知）

前期期末試験が終了した段階で出席状況が芳しくない学生につきまして，前期期末試験までの出席状況を保護者の方にお知らせしています。

学年末の段階で，各科目の欠課時数が１単位当り１０回を超えますと，その科目の履修が認められず進級できません。欠席や欠課は，病気などの事由によるものを対象にしており，１０回まで授業を休んでよいというものではありません。

「ずる休み」は，学生の本分である勉学への意欲欠如の現れです。留年者が出ないように，担任による指導をしていますが，保護者におかれましても学生の出席状況を十分に把握され，ご指導くださいますようよろしくお願いいたします。

なお，出席不良で悩まれている保護者におかれましては，年２回実施される学級担任による懇談会を活用されたり，あるいは来校され担任にご相談いただけたらと思います。

記

学科・学年　　«学科学年»
氏　　名　　«氏名»

出席不良の科目数　«出席不良の科目数»　科目

（注）出席不良通知の基準：１単位当り５回以上の欠席

（出典：学生課）

資料６－１－①－４

平成２４年１１月３日

保護者　殿

弓削商船高等専門学校
教務主事　濱中　俊一

成績不良について（通知）

前期期末試験が終了した段階で勉学状況が芳しくない学生につきまして，前期期末試験の成績状況を保護者の方にお知らせしています。

学年末成績で６０点未満の科目が３分の１を超えますと再試験を受ける資格が無くなり，進級できないことになります。

まだ年度の２分の１が経過した時点ですので，これから本人の努力と自覚で成績向上が可能ですし，またそれを期待しております。

留年者が出ないように，担任による指導をしていますが，保護者におかれましても成績状況を十分に把握され，ご指導くださいますようよろしくお願いいたします。

なお，学業成績が不振で悩まれている保護者におかれましては，年２回実施される学級担任による懇談会を活用されたり，来校されて担任にご相談いただけたらと思います。

記

学科・学年　　«学科学年»
氏　　名　　«氏名»

６０点未満の科目数　«欠点科目»　科目（　«総科目»　科目中）
（注）成績不良通知の基準：試験科目の１／３を超えた学生

（出典：学生課）

資料６－１－①－５

電子機械工学科成績一覧表（平成 24 年度学年末試験）

個人情報等保護のための削除

（出典：学生課）

資料６－１－①－６

平成24年度　選択科目受講一覧表(電子5年)

電子機械工学科５年	数値解析 (学修単位) 鶴 1	エネルギー工学 (学修単位) ガンバット 1	ディジタル制御工学 (学修単位) 勘久保 1	制御工学特論 (学修単位) 勘久保 1	システム工学 (学修単位) 益崎 1	ロボット工学 (学修単位) 樫根 1	パワーエレクトロニクス (学修単位) 木村（隆） 1	電子回路特論 (学修単位) 長井 1	工業英語 ガンバット 2	特別講義３ (学修単位) 益崎 1	合計 単位数
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	11
人　数	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	

平成24年度　選択科目受講一覧表(情報5年)

情報工学科５年	応用数学２ 雙知 2	画像処理２ 高木 1	人工知能 峯脇・長尾 2	マルチメディア工学 葛目 2	コンパイラ 長尾 2	制御工学特論 徳田 2	電磁気学２ 伊藤芳 1	システム工学２ 岡本 2	オペレーションズ・リサーチ２ 塚本 2	情報機器 岡本 2	機械工学 高木 2	環境工学 塚本 2	海事工学 高木 2	海事工学演習 長尾 2	特別講義 長尾 2	合計単位数	備考
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2		26	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2		26	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2			24	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	28	
人　数	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	28	26		

（出典：学生課）

資料６－１－①－７

修得した必要科目の単位数または時間数

三級海技士（機関）第一種養成施設　　弓削商船高等専門学校

必要履修科目	該当する科目	1年	2年	3年	4年	5年	航訓実習	合計
1．機関に関する科目								
その一								
一　出力装置	熱力学１			0.3				0.3
	計測工学１			0.1				0.1
	計測工学２				0.2			0.2
	制御工学１			0.1				0.1
	機関学概論	0.3						0.3
	内燃機関学１			0.3				0.3
	蒸気工学１			0.3				0.3
	実験実習１		0.2					0.2
	校内練習船実習				0.4	0.1		0.5
	熱力学２				0.5			0.5
	材料学２					0.2		0.2
	制御工学２				0.2			0.2
	内燃機関学２				2			2
	内燃機関学３					2		2
	蒸気工学２				1			1
	蒸気工学３				1			1
	工学実験				0.6			0.6
	航海訓練所実習課程						2.2	2.2
二 プロペラ装置	機関学概論	0.1						0.1
	推進論				1			1
	航海訓練所実習課程						0.1	0.1
	計	0.4	0.2	1.1	6.9	2.3	2.3	13.2

必要履修科目	該当する科目	1年	2年	3年	4年	5年	航訓実習	合計
その二								
一　補機	水力学			0.1				0.1
	校内練習船実習				0.2			0.2
	熱力学２				0.2			0.2
	水力機械学				0.5			0.5
	冷熱工学				1			1
	油圧工学					0.5		0.5
	工学実験				0.2			0.2
	航海訓練所実習課程						1	1
二　電気工学、電子工学及び電気設備	電磁気学		0.2					0.2
	電気回路			0.2				0.2
	電気機器１			0.1				0.1
	電子工学１				2			2
	電気機器２				1			1
	電気機器３					1		1
	電子工学２					1		1
	工学実験				0.6			0.6
	航海訓練所実習課程						0.3	0.3
三　自動制御装置	計測工学１			0.1				0.1
	計測工学２				0.2			0.2
	制御工学１			0.3				0.3
	制御工学２				1.8			1.8
	工学実験				0.3			0.3
	航海訓練所実習課程						0.2	0.2
四　甲板機械	水力機械学				0.5			0.5
	油圧工学					0.5		0.5
	航海訓練所実習課程						0.1	0.1
	計	0	0.2	0.8	8.5	3	1.6	14.1

必要履修科目	該当する科目	1年	2年	3年	4年	5年	航訓実習	合計
その三								
一　燃料及び潤滑油の特性	潤滑工学				1			1
	航海訓練所実習課程						0.1	0.1
二　熱力学	熱力学１			0.2				0.2
	熱力学２				1.3			1.3
	航海訓練所実習課程						0	0
三　力学及び流体力学	材料力学１			0.2				0.2
	水力学			0.2				0.2
	船舶工学１		0.1					0.1
	船舶工学２			0.1				0.1
	材料力学２				1			1
	工学実験				0.3			0.3
	航海訓練所実習課程						0	0
四　材料工学	材料学１				0.8			0.8
	材料学２					0.8		0.8
	工学実験				0.2			0.2
	航海訓練所実習課程						0	0
五　造船工学	材料力学１			0.2				0.2
	航海学概論	0.1						0.1
	機関学概論	0.1						0.1
	船舶工学１		0.1					0.1
	船舶工学２			0.1				0.1
	工学実験				0.2			0.2
	航海訓練所実習課程						0	0
六　製図	設計製図				2			2
	航海訓練所実習課程						0	0
	計	0.2	0.2	1	6.8	0.8	0.1	9.1

2．執務一般に関する科目								
一　当直、保安及び機関一般	校内練習船実習	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1		0.5
	航海訓練所実習課程						4.5	4.5
二　船舶による環境の汚染の防止	船舶安全工学１			0.1				0.1
	校内練習船実習				0.1	0.1		0.2
	航海訓練所実習課程						0.4	0.4
三　損傷制御	船舶安全工学１			0.1				0.1
	校内練習船実習				0.1	0.2		0.3
	航海訓練所実習課程						0.2	0.2
四　船内作業の安全	船舶安全工学２				0.3			0.3
	実験実習１		0.2					0.2
	校内練習船実習	0.1	0.1	0.1				0.3
	航海訓練所実習課程						0.2	0.2
五　海事法令及び国際条約	海事法規１		0.3					0.3
	海事法規２			0.3				0.3
	航海訓練所実習課程						0.1	0.1
六　乗組員の管理、組織及び訓練	操艇・通信	0.1						0.1
	校内練習船実習		0.1	0.1	0.1	0.2		0.5
	航海訓練所実習課程						1.6	1.6
	計	0.3	0.8	0.8	0.7	0.6	7	10.2
	総合計	0.9	1.4	3.7	22.9	6.7	11	46.6

免許講習		1年	2年	3年	4年	5年	計	合計
救命講習・機関救命講習								
講義（時間）	船舶安全工学１			2.0			7時間	14時間
	船舶安全工学２				1.0			
	操艇・通信	1.0						
	実験実習２			1.0				
	校内練習船実習	1.0	1.0					
実技（時間）	操艇・通信	4.0					7時間	
	校内練習船実習		3.0					
消火講習								
講義（時間）	船舶安全工学１			4.0			4時間	7時間
実技（時間）	実験実習２			3.0			3時間	
上級機関英語講習								
	英語				30.0		30時間	90時間
	英語購読				60.0		60時間	

（出典：学生課）

資料６－１－①－８

平成 24 年度　席上課程修了認定判定資料

個人情報等保護のための削除

（出典：学生課）

資料６－１－①－９

平成２４年度第９回教員会議議事概要

日　時　　平成２４年９月１９日（水）１６時２２分～１６時４１分

場　所　　第一会議室

出席者　　４６名（別紙のとおり）

議　事

（審議事項）

１　商船学科５年生の席上課程修了認定について

教務主事から、審議資料１－１に基づき、席上課程修了試験再試験及び特別試験の結果について説明があり、審議の結果、全員の合格が了承された。

続いて、教務主事から、審議資料１－２に基づき、修得単位数等の説明があり、審議の結果、商船学科５年生全員の席上課程修了が了承された。

（出典：平成 24 年度第９回教員会議議事録）

資料６－１－①－10

平成 23 年度

電子機械工学科
卒業研究発表会
― プログラム ―

発表日　：平成 24 年 2 月
発表時間：8:30 – 16:10
発表会場：アセンブリホー

弓削商船高等専門学校
電子機械工学科

目次

8:30–8:40 集　合（出欠点呼）

1. 8:40–9:00 鉛フリーはんだの変形挙動に関する研究
学生氏名：[redacted]（指導教員：中山恭秀）

2. 9:00–9:15 Mg 合金 AZ31 の角筒深絞り加工の温度と成形性
学生氏名：[redacted]（指導教員：中山恭秀）

3. 9:15–9:30 接触による粗さ面の変化に関する研究
学生氏名：[redacted]（指導教員：藤本隆士）

9:30–9:40 休　憩

4. 9:40–10:05 摩擦実験装置の試作
学生氏名：[redacted]（指導教員：藤本隆士）

5. 10:05–10:25 低炭素快削鋼の仕上げ面の研究
学生氏名：[redacted]（指導教員：大石健司）

10:25–10:40 休　憩

6. 10:40–11:00 仕上げ面品位に及ぼす切れ刃形状の影響
学生氏名：[redacted]（指導教員：大石健司）

7. 11:00–11:15 電気駆動船「弓削電丸」太陽エネルギーによる充電化
学生氏名：[redacted]（指導教員：木村隆則）

8. 11:15–11:30 洋上浮式型潮流発電の基本設計および上島町のマイクログリッドシステム構想
学生氏名：[redacted]（指導教員：木村隆則）

11:30–11:40 休　憩

9. 11:40–11:55 熱重量測定装置の設計・製作
学生氏名：[redacted]（指導教員：木村隆則）

10. 11:55–12:15 機械設計における強度評価について
学生氏名：[redacted]（指導教員：鶴　秀登）

11. 12:15–12:30 Honda エコマイレッジチャレンジレースへの挑戦
学生氏名：[redacted]（指導教員：益崎真治）

12:30–13:20 休　憩

12. 13:20–13:45 防犯装置の制作について
学生氏名：[redacted]（指導教員：勘久保広一）

13. 13:45–14:05 Ni_3Al の拡散における原子安定構造に関する研究
学生氏名：[redacted]（指導教員：政家利彦）

14:05–14:20 休　憩

14. 14:20–14:40 Android を用いた船舶航海情報送信システムの開発
学生氏名：[redacted]（指導教員：長井弘志）

15. 14:40–15:05 バイオメタル型／エアパック型触覚提示タッチパネルディスプレイの開発
学生氏名：[redacted]（指導教員：長井弘志）

15:05–15:20 休　憩

16. 15:20–15:45 テオ・ヤンセン機構を用いた歩行ロボットの製作
学生氏名：[redacted]（指導教員：瀬濤喜信）

17. 15:45–16:05 バッテリー電源モータ用モータドライバの製作
学生氏名：[redacted]（指導教員：瀬濤喜信）

16:05–16:10 講　評

※ 8:30 にアセンブリホールに集合

（出典：電子機械工学科）

資料６－１－①－11

学習達成度アンケート

本校では，皆さんが学習を通して，知識等がどの程度身についているかアンケート調査し、教育等の改善を行うために実施します。ご協力をお願いします。

学科：　S　　M　　I　　専攻：生産　　海上

１．あなたは次の知識等がどの程度身についたと思いますか。４段階評価で答えてください。（４：良く身についた　３：身についた　２：あまり身についていない　１：全く身についていない）

１．文系分野の基礎知識（　　）　２．理数系分野の基礎知識（　　）　３．専門知識（　　）
４．英語会話・読解力（　　）　５．海洋に関する基礎知識（　　）
６．しまなみ地域に関する知識（　　）

２．あなたは次の事項がどの程度身についたと思いますか。４段階評価で答えてください。（４：良く身についた　３：身についた　２：あまり身についていない　１：全く身についていない）

１．表現力（　　）　２．理解力（　　）　３．リーダーシップ（　　）４．国際感覚（　　）
５．創造力（　　）　６．責任感（　　）　７．協調性（　　）　８．忍耐力（　　）
９．技能力（　　）

３．あなたは就職や進学について、いつ頃から考えていましたか。該当の番号に○をつけて下さい。

１．１年生　２．２年生　３．３年生　４．４年生　５．５年生

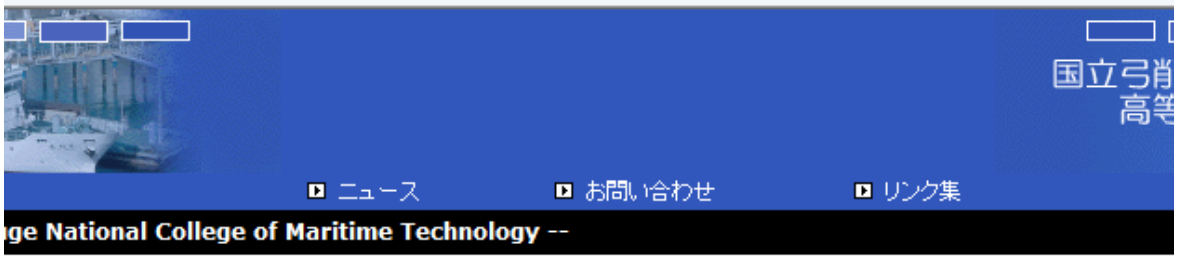
４．あなたが身についた知識等で、将来役に立つと思われるものに該当の番号に２つ○を付けてください。

１．文系分野の基礎知識　２．理数系分野の基礎知識　３．専門知識　４．英語会話・読解力　５．専門的な技術・技能　６．海洋に関する基礎知識　７．しまなみに地域に関する知識

５．その他、何かコメントがありましたら、自由に書いてください。

（出典：企画広報室）

資料６－１－①－12



ホーム » 学校案内 » 本校の教育方針･教育目標

【 教育方針 】

1. 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ，高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
2. 身の回りの諸現象，特に海をとりまく自然･文化･歴史に好奇心を抱き，多角的に考えたり調べたりできる，独創力のある人材の育成
3. 日本および世界の文化や社会に関心をもち，国際的視野でものがみられ，しかも人間として，技術者として高い倫理観をもった人材の育成

【 教育目標 】

[学科等]

○教養教育
　幅広い視野に立った総合的な判断能力，斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成

○商船学科
　船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成

○電子機械工学科
　ものづくりのできる実践的な技術者－計画･設計から生産･保守運用までできる技術者－の育成

○情報工学科
　情報リテラシー，情報工学の知識に加え，問題分析，解決能力を備えたシステム技術者の育成

[専攻]

○海上輸送システム工学専攻
　海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し，システムの運用，開発，商船学･工学的センスを
　身につけた実践的な海事管理技術者の育成

○生産システム工学専攻
　機械･情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し，瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の
　能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

【 戻る | カテゴリの一覧に戻る 】

（出典：本校ウェブサイト）

資料６－１－①－13

４　月　　平成　24 年度　研究日誌（専攻科生用）　学生番号　105001　氏名

月		火		水		木		金		土・日		1 週間（または該当日）の研究のまとめ今後の計画（40 字以上）	担当教員印 週合計時間
研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間		
4/2		4/3		4/4		4/5		4/6		4/7, 8			印 hr
4/9 ゲル作製 論文作成	4 4	4/10 ゲル作製 論文作成	4 4	4/11 ゲル作製 論文作成	4 4	4/12 ゲル作製 論文作成	4 4	4/13 ゲル作製 論文作成	4 4	4/14, 15		新年度が始まった。学位の試験と学会があるので、気を引き締めて実験に取り組もうと思う。	印 40hr
4/16 ゲル作製 論文作成	4 4	4/17 ゲル作製 論文作成	4 4	4/18 ゲル作製 論文作成	4 4	4/19 ゲル作製 論文作成	4 4	4/20 ゲル作製 論文作成	4 4	4/21, 22		ゲルの作製と実験を行い、実験データを細かく収集した。論文に反映しておく。	印 40hr
4/23 ＰＰ作製 論文作成	4 4	4/24 ＰＰ作製 論文作成	4 4	4/25 発表練習 論文作成	4 4	4/26 発表練習 論文作成	4 4	4/27		4/28, 29		金曜日は中四国高専交流会があった。満足のいく発表ができたと思う。	印 32hr
4/30													印 hr
										半期累計	112h	今月の研究時間合計	112hr

注意事項：１．基本的には毎日，担当教員の指導のもとに行った研究について，その日のうちに研究日誌にその内容・時間を記入すること．
２．１年前期・後期は 90 時間（週あたり約 6 時間）以上，２年前期は 135 時間（週当たり約 9 時間）以上，２年後期は 405 時間（週当たり約 27 時間）以上のこと．
３．上記研究時間に自宅で行った研究時間を含めることはできない．研究日誌においても自宅で行った分（内容・時間）を書かないこと．
４．本研究日誌は，原則的に毎週担当教員に提出し捺印を受けること．
＊　研究日誌は，各月１枚に記入すること．
＊　最終日（30，31 日）が６週目になる月は，その月の研究日誌には最終週の分を記入せずに，
例外的に最終週の分を翌月の研究日誌に記入し，その研究時間も翌月の研究時間とみなすこと．

５　月　　平成　24 年度　研究日誌（専攻科生用）　学生番号　105001　氏名

月		火		水		木		金		土・日		1 週間（または該当日）の研究のまとめ今後の計画（40 字以上）	担当教員印 週合計時間
研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間		
		5/1		5/2		5/3		5/4		5/5, 6			印 hr
5/7 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/8 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/9 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/10 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/11 ゲル作製 ゲル実験	4 4	5/12, 13		長期休暇が明け、気分をリフレッシュして実験に取り組んだ。	印 40hr
5/14 ゲル実験 学位対策	4 4	5/15 予稿作製 学位対策	4 4	5/16 予稿作製 学位対策	4 4	5/17 予稿作製 学位対策	4 4	5/18 予稿作製 学位対策	4 4	5/19, 20		学位試験が近づいてきた。予想される問題に対しての対策を行った。また、学会の予稿の作成を始めた。	印 40hr
5/21 予稿作製 学位対策	4 4	5/22 予稿作製 学位対策	4 4	5/23 予稿作製 学位対策	4 4	5/24 予稿作製 学位対策	4 4	5/25 予稿作製 学位対策	4 4	5/26, 27		学位に向けて、さらに本格的に勉強を始めた。また、学会発表のため、予稿を提出した。	印 40hr
5/28 学位対策	8	5/29 学位対策	8	5/30 学位対策	8	5/31 学位対策	8					学位の試験対策を重点的に行った。	印 32hr
										半期累計	264h	今月の研究時間合計	152hr

注意事項：１．基本的には毎日，担当教員の指導のもとに行った研究について，その日のうちに研究日誌にその内容・時間を記入すること．
２．１年前期・後期は 90 時間（週あたり約 6 時間）以上，２年前期は 135 時間（週当たり約 9 時間）以上，２年後期は 405 時間（週当たり約 27 時間）以上のこと．
３．上記研究時間に自宅で行った研究時間を含めることはできない．研究日誌においても自宅で行った分（内容・時間）を書かないこと．
４．本研究日誌は，原則的に毎週担当教員に提出し捺印を受けること．
＊　研究日誌は，各月１枚に記入すること．
＊　最終日（30，31 日）が６週目になる月は，その月の研究日誌には最終週の分を記入せずに，
例外的に最終週の分を翌月の研究日誌に記入し，その研究時間も翌月の研究時間とみなすこと

（出典：担当教員）

資料６－１－①－14

平成　２４年度　　後期　研究指導報告書

平成　24年　7月　20日

特別研究指導教員氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

１．学生氏名（学籍番号）

２．学位申請時の専門領域
学士（商船学）

３．研究題目
メカノケミカル法を用いたナノコンポジット（NC）ゲルの作製と特性評価

４．研究の概要
メカノケミカル法を用いてＰＮＩＰＡゲルを基にしたＮＣゲルを作製し、通常のＮＣゲルとの特性の比較を行う。まず、さまざまな組成のＮＣゲルを作製し、どのゲルが一番伸縮性に富んでいるかを調べる。その後、そのゲルと同様の組成でメカノケミカル法によりＮＣゲルを作製し、伸縮性を調べ、両ゲルの比較を行い、検討する。それらの結果から従来の水溶性ゲルであるPNIPAゲルと同じような吸水性を持ち、かつそれにはない柔軟性をもつことが明らかとなった。これにより吸湿性緩衝材等に使用できる可能性が見いだされた。

５．今期の研究実施時間（研究ノート等を基に算出する．算出基準を明確にすること）
4月112時間、5月152時間、6月168時間、7月83時間
合計　515時間

６．今期の研究の目標達成状況（計画書に沿って具体的に．発表予稿等を活用する）
本人の研究としては、クレイの量を種々変えて、ＮＣゲルの作製を試みた。良く伸びるゲルが完成した。さらにメカにケミカル法を用いたＮＣゲルの作製し、伸縮性の比較を行った。学会発表を行う。

７．今期の学会発表等
1. 村上知弘、池田真吾、メカノケミカル法を用いたナノコンポジット（NC）ゲルの伸縮性、平成24年度中四国専攻科交流会　C-07, 2012.
2. 池田真吾、村上知弘、緩衝材に適したナノコンポジット（NC）ゲルの作製　日本包装学会第21回年次大会, P132-133, 2012.
3. 村上知弘、池田真吾、緩衝材に適したナノコンポジット（NC）ゲルの作製　弓削商船高等専門学校紀要　35号　投稿予定

８．今期の研究評価（計画書の評価方法に沿って具体的に記述する．発表予稿等の評価を含む）
学会発表や論文作成も一人で行えるようになり、専攻科生として十分できた。
合格

９．備考

注：学生ごとに記入すること

（出典：担当教員）

資料６－１－①－15

平成 24 年度

海上輸送システム工学専攻特別研究中間発表会

予稿集



平成 24 年 9 月 26 日

弓削商船高等専門学校専攻科

海上輸送システム工学専攻

日時　平成 24 年 9 月 28 日

場所　マルチメディア教室

時刻　下記

13：30～13：40　挨拶　専攻科長

① 13：40～14：00　「プロペラ後流における一軸二枚舵に働く流体力に関する研究」

井上　涼介　115001（指導教員：湯田　紀男）

司会・タイムキーパー：湯田

総評　専攻科長

（出典：専攻科）

資料６－１－①－16

平成24年度　中国・四国地区高専専攻科生研究交流会発表題目一覧表

高専名:　弓削商船高等専門学校

番号	所　属 （学生は専攻名，教員は学科名等を明記して下さい）	学年	氏　名	発表形式 「口頭」 または 「ポスター」 と明記して下さい	発表部門 「M:機械」 「E:電気・電子」 「I:情報・制御」 「B:土木・建築」 「C:物質・化学」 アルファベットで明記して下さい	発表題目	備　考
1	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	コンピュータ囲碁の盤面評価の研究	
2	生産システム工学	1		口頭	M:機械	球状介在物を有する有限体の応力集中	
3	生産システム工学	1		口頭	M:機械	Mg合金AZ31の温間角筒深絞り加工に関する熱－力学連成解析	
4	生産システム工学	1		口頭	M:機械	NEB法を用いた格子欠陥近傍における水素原子拡散素過程の活性化エネルギーの検討	
5	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	広島市内国道54号線における信号制御システムの開発	
6	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	海底3次元計測艇の開発	
7	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	メンタリングを導入した情報処理技術者試験対策のためのe-Learningシステムの開発～FAQ集の自動生成～	
8	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	高齢者地域におけるICTの利活用に関する研究	
9	生産システム工学	1		口頭	I:情報・制御	因子分解法に基づく高速三次元復元システムの試作	
10	海上輸送システム工学	2		口頭	C:物質・化学	メカノケミカル法によるナノコンポジットゲル(NCゲル)の作製と力学特性	
11	海上輸送システム工学	2		口頭	M:機械	ラッピングの研磨量に及ぼすラップ液の影響について	
12	海上輸送システム工学	2		口頭	B:土木・建築	多層流速計による豊後水道の急潮と底入り潮について	
13	海上輸送システム工学	2		口頭	B:土木・建築	離島地域の高潮の安全対策について	
14	海上輸送システム工学	2		口頭	B:土木・建築	瀬戸内海離島航路への沖島通船モデルの応用	
15							

（出典：専攻科）

資料６－１－①－17

平成 24 年度　専攻科

海上輸送システム工学専攻　特別研究審査発表会

日時　平成 24 年 7 月 20 日
場所　マルチメディア教室
時刻　下記
13：25～13：30　挨拶　専攻科長

① 13:30～13:50　「メカノケミカル法によるナノコンポジットゲル（NC ゲル）の作製と力学特性」
池田　真吾　（指導教員：村上　知弘）
司会:商船学科長（高岡）　タイムキーパー：井上

② 13:50～14:10　「ラッピングの研磨量に及ぼすラップ液の影響について」
河内　健　（指導教員：友田　進）
司会：商船学科長（高岡）　タイムキーパー：井上

③ 14:10～14:30　「離島地域の高潮の安全対策について」
正岡　立巳　（指導教員：多田　光男）
司会：商船学科長（高岡）　タイムキーパー：井上

④ 14:30～14:50　「瀬戸内海離島航路への沖島通船モデルの応用」
山中　智広　（指導教員：多田　光男）
司会：商船学科長（高岡）　タイムキーパー：井上

⑤ 14:50～15:10　「豊後水道における急潮と底入り潮の観測」
前田　龍弥　（指導教員：二村　彰　）
司会：商船学科長（高岡）　タイムキーパー：井上

15：10～　総評　専攻科長

（出典：専攻科）

資料６－１－①－18

海上輸送システム工学専攻　成績一覧表

個人情報等保護のための削除

（出典：専攻科委員会資料）

資料６－１－①－19

平成２４年度第３回専攻科委員会議事概要

日　時　　平成２４年７月３１日（火）１４時００分～１４時４５分
場　所　　第二会議室
出席者　　５名（別紙のとおり）
議　題

（審議事項）
１　単位認定について（海上輸送システム工学専攻）
委員長から、単位認定要件について次のとおり説明があった。
・専門基礎科目の必修１４単位
・専門科目の必修２２単位
・専門科目の選択２６単位以上
・合計６２単位以上
続いて、審議資料１に基づき、各学生の修得単位数及び成績の確認が行われ、審議の結果、５名全員の単位修得が了承された。
なお、今回の単位認定については、８月８日（水）開催の教員会議に提議することとなった。

（出典：専攻科委員会議事録）

資料６－１－①－20

平成２４年度第６回教員会議議事概要

日　時　　平成２４年８月８日（水）１０時３０分～１０時５０分

場　所　　第一会議室

出席者　　３８名（別紙のとおり）

議　事

（審議事項）
１　平成２５年度編入学生の合否判定について

２　単位認定について（海上輸送システム工学専攻）
専攻科長から、審議資料２に基づき、全員、修了要件である６２単位以上を修得している旨の説明があり、併せて７月３１日（火）開催の専攻科委員会において審議の結果、全員合格となった旨の報告があった。
続いて、校長から、成績及び修得単位について確認があり、全員の単位認定が了承された。

（出典：平成 24 年度第６回教員会議議事録）

資料６－１－①－21

各種資格試験の相談窓口等

資格試験名	受験相談・指導	手続き窓口
○漢字検定（＊）	国語担当教員（G）	神谷先生・猪川先生（G）
○実用英語技能検定（＊）	英語担当教員（G）	坂内先生（G）
○実用数学技能検定（＊）	数学担当教員（G）	藤井清先生（G）
○TOEIC（＊）	英語担当教員（G）	野口先生（G）
○海技士（航海系）	商船学科教員（S）	永本先生（Y）
○海技士（機関系）	商船学科教員（S）	村上（英）先生（S）
○小型船舶操縦士	多田先生（S）	多田先生（S）
○海上無線通信士	多田先生（S）	多田先生（S）
○日本語ワープロ検定（＊）	益崎先生（M）	情報処理教育センター
○ホームページ作成検定（*）	益崎先生（M）	情報処理教育センター
○工業英語能力検定（＊）	ガンバット先生（M）	ガンバット先生（M）
	葛目先生（I）	葛目先生（I）
○電気工事士	木村先生（M）	木村先生（M）
○電気主任技術者	木村先生（M）	木村先生（M）
○CAD検定（＊）	中山先生（M）	中山先生（M）
	桝田先生（I）	桝田先生（I）
○パソコン検定（P検）（＊）	田房先生（I）	情報処理教育センター
○情報処理技術者	情報工学科教員	情報処理教育センター
・ITパスポート		
・基本情報技術者		
○CG-ARTS検定（＊）	塚本先生・田房先生（I）	田房先生（I）
・CGクリエイター		
・CGエンジニア		
・画像処理エンジニア		
・マルチメディア		
・WEBデザイナー		
○ボイラー技士	松永先生（Y）	松永先生（Y）
○危険物取扱者	松永先生（Y）	松永先生（Y）
○高圧ガス製造保安責任者（冷凍機械）	松永先生（Y）	松永先生（Y）
○毒物・劇物取扱主任者	伊藤武先生（G）	伊藤武先生（G）
○QC検定	塚本先生（I）	塚本先生（I）

注）手続き窓口が明記してある資格試験の合格者については、担当の先生の方から教務係に連絡をしてもらいますが、それ以外の資格試験については、合格者本人が教務係に連絡をしてください。

S：商船学科　M：電子機械工学科　I：情報工学科　G：総合教育科　Y：練習船
＊：本校試験会場（ただし、少人数の場合、実施できない試験あり）

（出典：学生課）

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では，進級に必要な単位が取得できなかった学生については，一定基準の下で特別進級となり（資料６－１－②－１），次学年の前期に３回行われる追認試験で取り残した単位の取得をさせている（資料６－１－②－２）。この追認試験制度及び再試験制度により，留年者や退学者の減少に取り組んでおり，資料６－１－②－３，４に示すように全体として効果を上げている。また，留年学生に対しては，年度初めに，教務主事，学生主事等による面談を行い，勉強に対する取り組み方の指導を行っている。

実践的技術者育成のため，資格取得について奨励・支援を行っており，各学科において増減はあるものの，資格取得者が増加傾向にある（資料６－１－②－５）。特に，情報工学科においては，資格試験取得による単位認定が行われており（資料６－１－②－６），ＩＴ関係の資格取得者が増えている。

卒業研究に対しては，年度初めに指導教員から提出される卒業研究指導計画書（資料６－１－②－７）に従って，その研究テーマに興味を持った学生に指導が行われている。卒業研究は各研究室でのゼミを経て，ある程度まとまった段階で中間発表（資料６－１－②－８）が行われる。卒業研究認定は，最終段階となる卒業研究発表会（資料６－１－②－９）終了後の卒業論文（代表的な卒業論文を訪問調査時に提示）の提出により認定されており，準学士課程における各専門領域での教育の成果である。

情報工学科では「プログラミングコンテスト」で毎年優秀な成績を残しており（資料６－１－②－10），「日本ものづくり大賞（内閣総理大臣賞）」も受賞している（資料６－１－②－11）。また，経済産業省主催の「ケータイ甲子園」においてコミュニケーション部門で最高位のグランプリを受賞（資料６－１－②－12），電子機械工学科では「Ｈｏｎｄａエコマイレッジチャレンジ」や「クルーレス・ソーラーボート大会」等で受賞（資料６－１－②－13）するなど，本校の行っている創造性教育の発展が随所に見られる。

専攻科課程での単位認定は，試験，レポート及びプレゼンテーション等により成績が付けられており，単位取得率は準学士課程の学生よりも非常に良い結果となっている（資料６－１－②－14）。

資料６－１－②－15 に示すように，専攻科では，入学者に対する修了者の割合が非常に高い。専攻科設置以降，今年までに留年者は出ておらず，非常に細かな教育の成果である。また，専攻科修了後に大学院への進学者が毎年出ている（資料６－１－②－16）。

専攻科では，主に学会等に提出した論文に対する受賞が多い（資料６－１－②－17，18）。特別研究の内容をまとめ，提出しているものについての受賞であるため，専攻科レベルの教育の成果といえる。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程及び専攻科課程で学生が身に付ける学力や資質・能力については，単位取得状況，資格取得状況，各種コンペティションの受賞及び学会関係の受賞状況から判断しても十分に教育

効果が上がっているといえる。

資料６－１－②－１

○弓削商船高等専門学校学業成績の評価並びに進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則

制　　定　昭和63年４月８日
最終改正　平成23年１月20日

（進級）

第12条　進級の認定は，次の各号の要件を満たした学生について行う。

（１）　１年間の出席日数が，出席すべき日数（授業（特別活動，講演等を含む。），学校行事，特別日課等の合計とし，出席停止（学則第25条）及び忌引（学生準則第15条）は含まない。第14条第４項において同じ。）の３分の２以上であること。この場合において，欠席日数の換算は第２条第３項を適用する。

（２）　当該学年において，別表３の所定の進級単位数を修得していること。

（３）　前学年の未修得科目がないこと。

（４）　特別活動を履修していること。

（特別進級）

第13条　前条第２号の規定にかかわらず，次の各号の要件を満たす学生については，特に進級の認定を行うことができる。

（１）　その学年で必要な全科目を履修していること。

（２）　特別活動を履修していること。

（３）　別表４に示す各学年の科目を修得していること。

（４）　１年間の出席日数が，出席すべき日数の３分の２以上であること。この場合において欠席日数の換算は，第２条第３項を適用する。

（５）　当該学年の未修得科目数及び未修得単位数が別表５に示す数以下であること。

（６）　前学年の未修得科目がないこと。

２　前項の進級を希望する学生は，所定の特別進級願（第５号書式）を校長に提出し，許可を受けなければならない。

（追認試験）

第14条　前条に規定する進級（以下「特別進級」という。）をした学生は，追認試験を受けることができる。

２　追認試験を受けようとする学生は，所定の追認試験受験願（第６号書式）を追認試験実施日の前日までに校長に提出し，許可を受けなければならない。

３　追認試験は，夏季休業前に３回実施する。

４　追認試験の実施日等については，校長が指定する。

５　追認試験に対する再試験・特別試験は行わない。

（出典：学生課）

資料６－１－②－２

特別進級学生数

（単位:人）

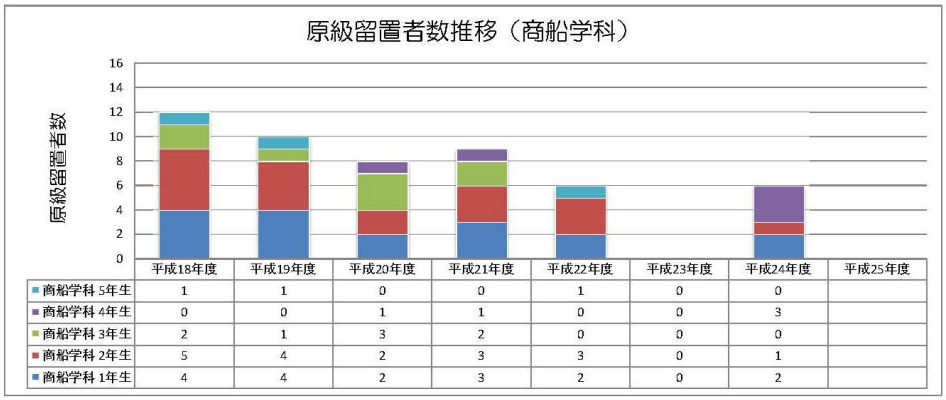
学年	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1年	18	13	10	15	9
2年	16	12	19	25	18
3年	16	14	26	17	15
4年	29	27	21	42	24
5年	0	0	0	1	0
合計	79	66	76	100	66

（出典：学生課）

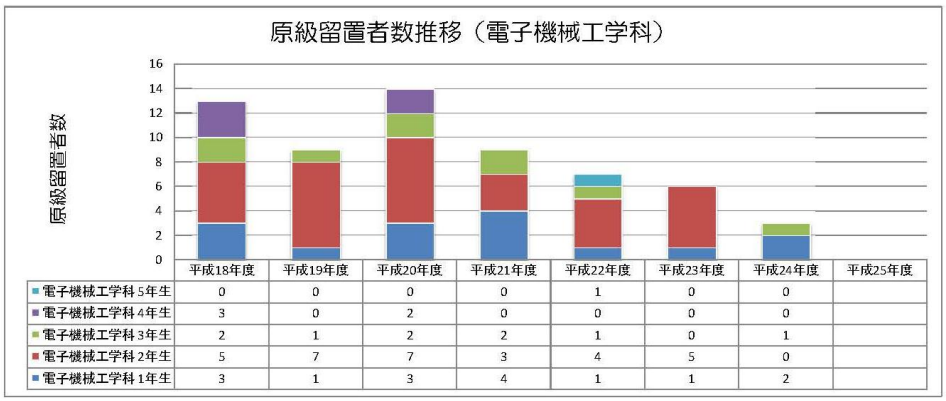
資料６－１－②－３

成業率推移　原級留置者数推移

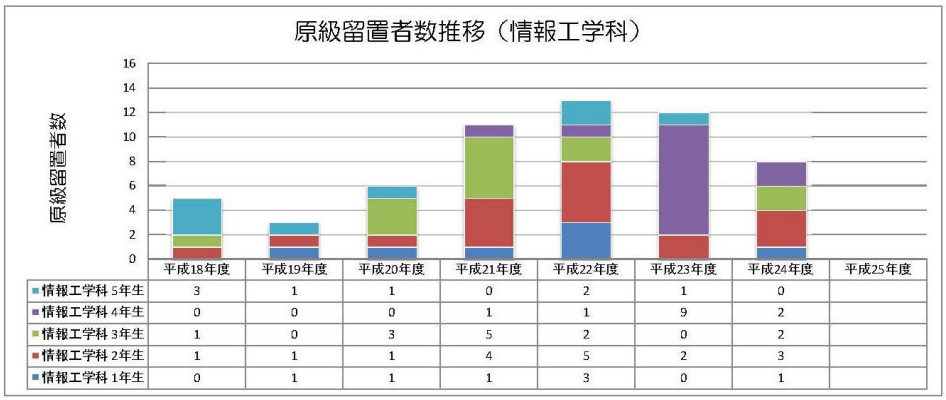
	商船学科					電子機械工学科					情報工学科				
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生
平成18年度	4	5	2	0	1	3	5	2	3	0	0	1	1	0	3
平成19年度	4	4	1	0	1	1	7	1	0	0	1	1	0	0	1
平成20年度	2	2	3	1	0	3	7	2	2	0	1	1	3	0	1
平成21年度	3	3	2	1	0	4	3	2	0	0	1	4	5	1	0
平成22年度	2	3	0	0	1	1	4	1	0	1	3	5	2	1	2
平成23年度	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	2	0	9	1
平成24年度	2	1	0	3	0	2	0	1	0	0	1	3	2	2	0
平成25年度															



	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
商船学科 5年生	1	1	0	0	1	0	0	
商船学科 4年生	0	0	1	1	0	0	3	
商船学科 3年生	2	1	3	2	0	0	0	
商船学科 2年生	5	4	2	3	3	0	1	
商船学科 1年生	4	4	2	3	2	0	2	



	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
電子機械工学科 5年生	0	0	0	0	1	0	0	
電子機械工学科 4年生	3	0	2	0	0	0	0	
電子機械工学科 3年生	2	1	2	2	1	0	1	
電子機械工学科 2年生	5	7	7	3	4	5	0	
電子機械工学科 1年生	3	1	3	4	1	1	2	



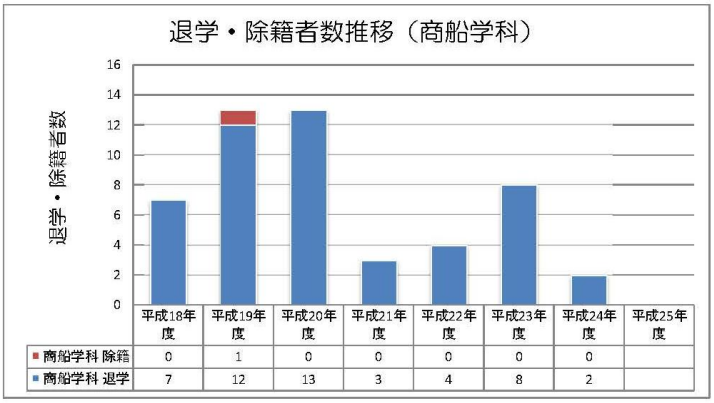
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
情報工学科 5年生	3	1	1	0	2	1	0	
情報工学科 4年生	0	0	0	1	1	9	2	
情報工学科 3年生	1	0	3	5	2	0	2	
情報工学科 2年生	1	1	1	4	5	2	3	
情報工学科 1年生	0	1	1	1	3	0	1	

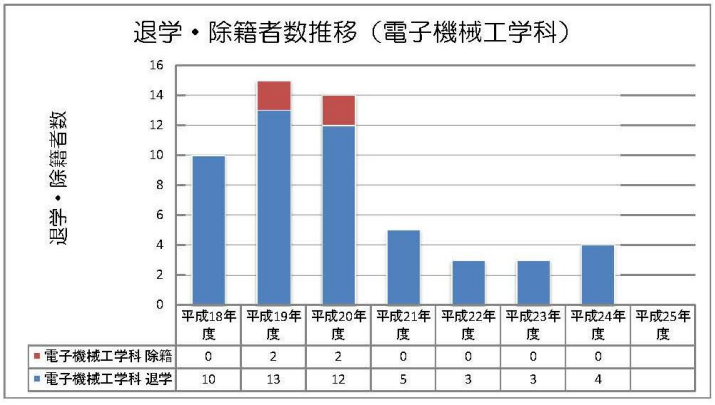
（出典：学生課）

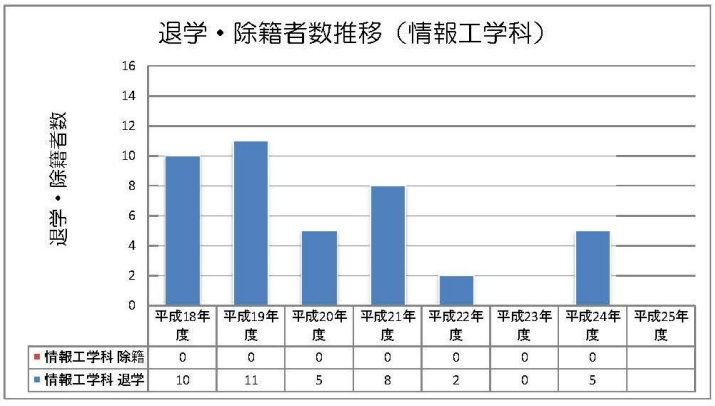
資料６－１－②－４

成業率推移　退学・除籍者数推移

	商船学科		電子機械工学科		情報工学科	
	退学	除籍	退学	除籍	退学	除籍
平成18年度	7	0	10	0	10	0
平成19年度	12	1	13	2	11	0
平成20年度	13	0	12	2	5	0
平成21年度	3	0	5	0	8	0
平成22年度	4	0	3	0	2	0
平成23年度	8	0	3	0	0	0
平成24年度	2	0	4	0	5	0
平成25年度						







（出典：学生課）

資料６－１－②－５

平成21年度～24年度　資格取得者

資格試験名			21	22	23	24
海技士（航海）		1級				2
		2級	3	3	4	3
海技士（機関）		1級	1	3		1
		2級	4	1	7	2
海上無線通信士		第3級	2			2
小型船舶操縦士		2級				7
ボイラー技士		1級		1		
		2級			2	
潜水士						1
電気工事士		第二種	4	8		11
危険物取扱者		乙種第1類	2			
		乙種第2類	1			
		乙種第4類	13	5	12	3
高圧ガス製造保安責任者		乙種機械	1			
CAD利用技術者試験		2級		5		
品質管理（QC）検定		2級				1
		3級				16
		4級				16
CGクリエイター検定		3級	2			
	ディジタル映像部門	エキスパート		2		
		ベーシック		13	5	
	Webデザイン部門	ベーシック		3	2	
		エキスパート				1
		ベーシック				15
Webデザイナー検定		ベーシック				6
CGエンジニア検定	CG部門	エキスパート		1		
		3級	1			
		ベーシック		5	6	
	画像処理部門	ベーシック		14	9	
		3級	7			
		エキスパート				1
		ベーシック				11
画像処理エンジニア検定		ベーシック				13
マルチメディア検定		ベーシック		1		4
情報処理技術者試験	基本情報技術者		4		5	4
	ITパスポート		4		4	0
初級システムアドミニストレーター			1			
ホームページ作成検定		3級	1			
パソコン検定（P検）		準2級	4		1	4
		3級			31	25
		4級			31	29
日本語ワープロ検定		1級				1
		3級			1	
マルチメディア検定		ベーシック			3	
実用英語技能検定		2級			1	
工業英語能力検定		3級	3	1		1
		4級	9	14	14	4
漢字検定		2級	1	1		
		準2級	3	4		
		3級	3	2		
		4級	1			
合計			75	87	138	184

（出典：学生課）

資料６－１－②－６

情報工学科特別講義単位認定基準

		1年生	2年生	3年生	4年および5年生		専門関連科目
	試験日	1単位	1単位	1単位	1単位	2単位	
漢字検定	数回/年	3級	2級				
数学検定	数回/年	3級	準2級	2級	準1級	1級	
英語検定	1,6,10月			準2級	2級	準1級	
TOEIC	1,3,5,6,7,9,10,11月				400点	450点	
工業英語検定	1,5,6,7,11月			4級	3級	2級	科学技術英語
CAD利用技術者検定	7,12月				2級	1級	CAD
CGクリエーター CGエンジニア Webデザイナー 画像処理エンジニア マルチメディア	7，11月			ベーシック	エキスパート		画像処理，コンピュータグラフィックス マルチメディア工学
品質管理検定	3月,9月			4級	3級	2級	システム工学，信頼性工学， OR，数理統計学
パソコン検定		4級	3級	準2級	2級		全般
MOUSE検定							
ワープロ検定							
ディジタル技術検定	6,11月第4日曜		4級	3級	2級（情報） 2級（制御）		全般
情報処理技術者試験	4，10月				ITパスポート	基本情報技術者	全般
特殊無線技士	2,6,10月		2陸特技士	1陸特技士			電磁気学，通信システム
無線技術士	1,7月					2陸無線技術士	電磁気学，通信システム
工事担任者 ネットワーク接続技	5,11月			DD3種 AI3種	DD2種 AI2種	DD1種 AI1種	ネットワーク理論，情報通信伝達工学
電気主任技術者	9月（1次）					第3種	電気電子工学
電気工事士	6月					第2種	電気電子工学
日本語検定				2級	1級		日本語（留学生用）

※各学年において表の得点あるいは級以上を単位として認定する．
※取得資格の単位認定は一回のみ利用できる．
※入学（編入）時に有した資格は単位認定しない．
※4年，5年の取得資格は5年修了時に最大2単位まで認定する．

受験に伴う公欠の認定処理＝＝＞教務委員会

（出典：学生課）

資料６－１－②－７

平成24年度　卒業研究指導計画書

平成24年　4月1日

卒業研究指導教員氏名　友　田　　進

１．学生氏名（学籍番号）

２．研究題目

ダイヤモンド作成に関する研究

３．研究の概要

工業的に利用価値の高い人工ダイヤモンドは、高温高圧法、ＣＶＤに代表される低圧法などの様々な製造方法が提案され、既に高品質なダイヤモンドが製品化されている。この中で低圧法の一部には、高価で精密な機器を使用することなくダイヤモンドの作成が可能といわれている。具体的には、アセチレン炎を用いてタングステンやモリブデン基板などにダイヤモンドを育成する方法である。本研究ではアセチレン炎によるモリブデン基板上へのダイヤモンド育成を試みる。

４．研究目標

21年度の問題点を改善した実験装置を作成することで、ダイヤモンド作成に再びチャレンジする。

５．指導方針

実験が中心になるが，それぞれの実験についての意味を理解し，機器の使用を熟知させて研究を指導していく。

６．研究実施方法

過去の卒業論文，文献等を読み研究目的，研究の意義を理解した上で，実験装置を試作し，実験結果をまとめて論文に仕上げていく。

７．主たる研究場所

電子機械工学科棟２階　材料学実験室　　実習工場

８．月間計画（学会発表予定を含む）

４月：論文等の文献調査　　５月：実験法案作成と装置の作成

６月：装置の作成　　７月：実験及び論文作成

８月：論文修正，発表原稿作成　　９月：卒業論文提出，卒業研究発表

9．備考

注：卒業研究題目ごとに記入すること．

（出典：担当教員）

資料６－１－②－８

Subject: [Yuge_staff:2450] 電子機械工学科卒研中間発表会のお知らせ
From: "T. Fujimoto" <fujimoto@mech.yuge.ac.jp>
Date: 2012/12/19 12:26
To: 教職員全員 <Yuge_staff@yuge.ac.jp>

各位

本日，電子機械工学科5年生の卒業研究　中間発表会を開催いたします．
興味のございます方はご参集下さい．

日時：12月19日（水）13:20-17:00
場所：アセンブリホール

（出典：電子機械工学科）

資料６－１－②－９

平成24年度　商船学科卒業研究発表会　講演プログラム

ページ	発表時間	発表テーマ	卒研学生	指導教員	進行	時計
	08:50-09:00	開会の言葉（商船学科長）				
1	09:00-09:15	二級海技試験（航海）の取り組みについて		二村	高岡	新田
2	09:15-09:30	燃料のエマルジョン化が燃焼、排気特性に与える影響		秋葉	高岡	新田
3	09:30-09:45	気相反応によるダイヤモンドの作成		友田	中	武田
4	09:45-10:00	海のカーナビゲーションの開発		高岡	中	武田
	10:00-10:15	休憩				
5	10.15-10:30	帆船の研究 －V－（帆船の歴史と現代帆船への進化）		高岡	湯田	大元
6	10:30-10:45	英語力向上のためにTOEICテストを利用する方法の考察		児玉	湯田	大元
7	10:45-11:00	語学力向上のための学習方法の考察		児玉	山崎	東口
8	11:00-11:15	水溶性ゲルを利用した防汚塗料の開発		村上知	山崎	東口
	11:15-11:30	休憩				
9	11:30-11:45	緩衝材に適したナノコンポジットゲル（NCゲル）の作製		村上知	友田	山下
10	11:45-12:00	弓削商船高専・商船学科の5年間の進路状況の推移		多田	友田	山下
11	12:00-12:15	「海運経済研究」にみる海運経済分野における学術研究の動向		野ノ山	児玉	川島
	12:15-13:30	昼食・休憩				
12	13:30-13:45	マグネシウム合金板の温間角筒深絞りにおける温度と速度の影響		中	村上知	濱田
13	13:45-14:00	災害時における発電機の一考察		湯田	村上知	濱田
14	14:00-14:15	商船学科PRグッズの開発 － ポンポン船製作 －		湯田	多田	佐々木
15	14:15-14:30	プロペラ後流中における一軸二枚舵に働く流体力		湯田	多田	佐々木
	14:30-14:45	休憩				
16	14:45-15:00	マルチ・フェロイック・デバイスの開発		柳澤	向瀬	水本
17	15:00-15:15	練習船機関室のインタラクティブな模型教材の製作と応用		向瀬、山崎	野々山	水本
18	15:15-15:30	実写画像による機関室シミュレーションシステムの製作と応用		向瀬、山崎	秋葉	吉田
	15:30-15:45	総評（商船学科長）				

発表時間　15分
内訳　発表　12分、　質疑応答　3分
打令　10分：1鈴、　12分：2鈴、　15分：3鈴

（出典：商船学科）

資料６－１－②－10

トピックス：「第23回全国高専プログラミングコンテスト」課題部門での文部科学大臣賞（最優秀賞）受賞の報告

投稿者：webmaster 投稿日時：2012-10-18 13:33:26 (359 ヒット)

10月13日（土）・14日（日）に有明工業高等専門学校（福岡県大牟田市）において、全国高等専門学校第23回プログラミングコンテストが開催され、3部門のうち課題部門において、弓削商船高専が文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞したことの報告を校長先生に行った。課題部門では、「ICTでサポートする明るい少子高齢化社会をテーマにした作品」の課題に対して、本校は、「healTeeth－歯みがきで輝く未来－」の作品で参加し、文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞した。また、自由部門では、「Femto－ストレスフリーのファイル管理術－」の作品で参加し、敢闘賞を受賞した。弓削商船高専は、プログラミングコンテストで毎年好成績を収めており、文部科学大臣賞（最優秀賞）の受賞回数は9回目である。

（参加学生）

【文部科学大臣賞受賞】

課題部門　タイトル「healTeeth－歯みがきで輝く未来－」

学　生　岩本　華代子（情報工学科5年）
　　奥田　紗千（情報工学科5年）
　　山形　真名美（情報工学科5年）

指導教員　長尾　和彦（情報工学科教授）

【敢闘賞】

自由部門　タイトル「Femto－ストレスフリーのファイル管理術－」

学　生　桑原　裕也（生産システム工学専攻専攻科1年）
　　宇崎　裕太（情報工学科2年）
　　瀬尾　敦生（情報工学科2年）
　　肥田　琢弥（情報工学科2年）
　　山本　愛奈（情報工学科2年）

競技部門　タイトル「DICE－N　－認識率の上がらないただ一つのシステム－」

学　生　中本　真司（情報工学科5年）
　　吉井　佑太（情報工学科1年）
　　吾藏　秀亮（情報工学科1年）





（出典：本校ウェブサイト）

資料６－１－②－11

トピックス：本校学生「第3回ものづくり日本大賞（内閣総理大臣賞）」を受賞

投稿者：webmaster 投稿日時：2009-7-13 10:14:04 (961 ヒット)

本校学生が、「第3回ものづくり日本大賞（内閣総理大臣賞）」を受賞しました。

「第3回ものづくり日本大賞（内閣総理大臣賞）【文部科学省関係】」

（案件名）
平成19年度 全国高等専門学校
第18回プログラミングコンテスト（課題部門） 文部科学大臣賞

（受賞者）
中本 裕美　丸山 奈希　矢野 ありす　小柳 亜由美　長尾 詩織

【第3回 ものづくり日本大賞 内閣総理大臣賞 受賞者の発表について】(P



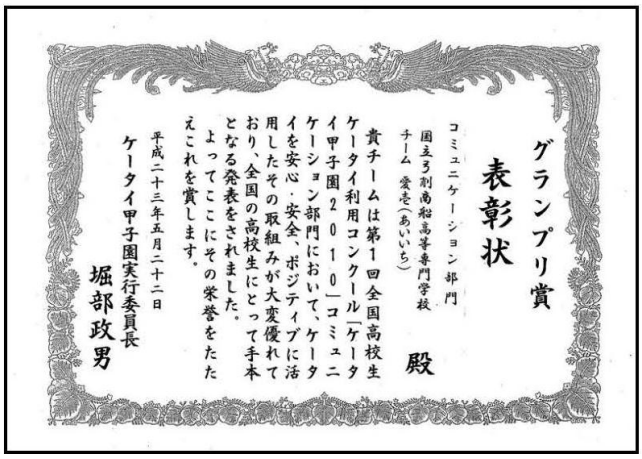
（出典：本校ウェブサイト）

資料６－１－②－12

「第１回ケータイ甲子園全国大会」で弓削商船高等専門学校が、グランプリを受賞
＝弓削商船高等専門学校＝

弓削商船高専のチーム（愛壱：あいいち）は，５月２２日（土）に大分市で開催された携帯電話の活用アイデアを競い合う「第１回ケータイ甲子園全国大会」のコミュニケーション部門で本選出場６校の中から最高位のグランプリ賞を受賞した。

受賞した弓削商船高専のチームは、情報工学科２年の福羅亜利沙学生、林真史学生、寺岡佑太学生、島田朝妃学生の４人。入学後からクラス全員でＳＮＳ（会員交流サイト）やメーリングリスト（ＭＬ）を使って悩み相談や情報交換を続けており、「ＳＮＳとメーリングリストで作る島っ子ミュニケーション」と題材して普段の取り組みを発表した。


グランプリ賞
表彰状
コミュニケーション部門
国立弓削商船高等専門学校
チーム 愛壱（あいいち）
殿
貴チームは第１回全国高校生ケータイ利用コンクール「ケータイ甲子園２０１０」コミュニケーション部門において、ケータイを安心・安全、ポジティブに活用したその取組みが大変優れており、全国の高校生にとって手本となる発表をされました。
よってここにその栄誉をたたえこれを賞します。
平成二十三年五月二十二日
ケータイ甲子園実行委員長
堀部政男

（出典：本校ウェブサイト）

資料６－１－②－13

トピックス：弓削商船高専チームがホンダエコマイレッジレースで特別賞を受賞

投稿者：webmaster 投稿日時：2011-8-22 16:12:04 (830 ヒット)

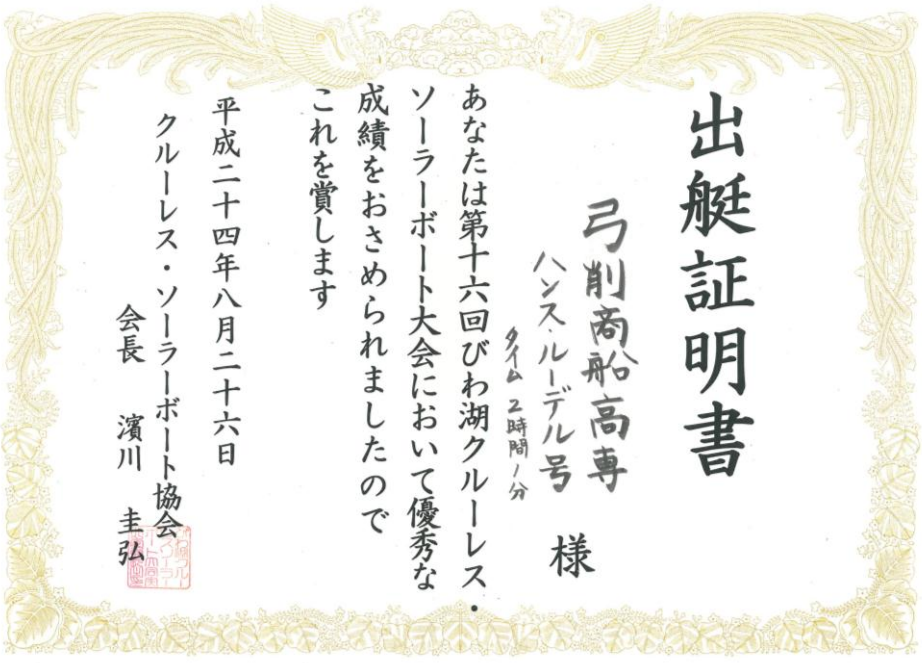
7月24日(日)HSR九州で開催されたホンダのエコマイレッジレースで弓削商船高専のチームM&Sがエコマイレッジ賞(特別賞)を受賞した。弓削商船高専はいくつかある部門の中で50ccのバイクを一部のみ改造できる市販車部門に1台出場した。

大会ではハイテク車ばかりの中でチームリーダーの益崎教諭が地元バイク屋さんから譲り受けたバイクと自前の工具や部品で改造した製作費0円のバイクが審判員の方の目を引き、賞をいただいたようである。

さらに弓削商船チームのエコ製作費だけでなく、制作に携わった学生はドライバーの電子機械5年生の桜井君一人のみということ。そして当日必要なスタッフは開催地の熊本へ夏休みで帰っている同校の学生とOB、さらに応援に駆け付けてくれた保護者であった。最低限必要な交通費のみで大会に参加していることである。レースの成績はさておき大会委員長の講評では"まさに主催者のエコという趣旨ぴったり"ということであった。

閉会式の最後の最後に戴いた賞で国際レースで使われる優勝者の表彰台に立った教諭と学生の顔は満面の笑みを浮かべ、それまでの苦労が吹きとんだようであった。





出艇証明書

弓削商船高専
ハンス・ルーデル号　様
タイム 2時間1分

あなたは第十六回びわ湖クルーレス・ソーラーボート大会において優秀な成績をおさめられましたのでこれを賞します

平成二十四年八月二十六日

クルーレス・ソーラーボート協会
会長　濱川　圭弘

(出典：本校ウェブサイト、電子機械工学科)

資料６－１－②－14

海上輸送システム工学専攻　成績一覧表

個人情報等保護のための削除

（出典：専攻科委員会資料）

資料６－１－②－15

【退学】専攻科

	1年生		2年生		計
	海上	生産	海上	生産	
平成20年度	1	0	0	0	1
平成22年度	0	0	1	1	2
平成23年度	0	1	0	0	1

【除籍】専攻科

	1年生		2年生		計
	海上	生産	海上	生産	
平成17年度	1	0	0	0	1

（出典：学生課）

資料６－１－②－16

卒業生の進路状況

Situation of Course of Graduates

卒業年度 Graduates	平成 23 年度　2011				平成 22 年度　2010				平成 21 年度　2009			
学科 Department / 進学就職別 course	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total
商船学科 Maritime Technology Department	18	4	1	23	28	12	0	40	27	8	1	36
電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	18	14	0	32	20	4	2	26	25	12	0	37
情報工学科 Information Science and Technology Department	26	8	0	34	28	8	1	37	25	9	0	34
本科　計 Total	62	26	1	89	76	24	3	103	77	29	1	107
海上輸送システム工学専攻 Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	3	0	0	3	3	0	0	3	3	0	0	3
生産システム工学専攻 Advanced Production Systems Engineering Course	6	2	0	8	6	2	0	8	10	3	0	13
専攻科　計 Total	9	2	0	11	9	2	0	11	13	3	0	16

（出典：2012 学校要覧Ｐ．25）

資料６－１－②－17

軽金属希望の星賞　受賞者表彰

著作権に関係するために削除

（出典：軽金属学会ＨＰ）

資料６－１－②－18

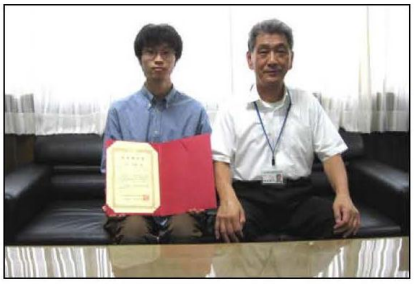
専攻科だより　第１８号

平成 21 年 11 月

専攻科生の研究活動

■専攻科生が軽金属学会「優秀講演賞」受賞

平成２１年７月４日（土）に第１回軽金属学会中国四国支部講演大会が愛媛大学で開催され、全２４件のうち、弓削商船高専からは２件の発表が行われた。本校専攻科生産システム工学専攻１年大出明慶君が、「非比例変形を受けた AZ31 合金板の成形限界予測」について講演し、社団法人軽金属学会中国四国支部より、講演内容等が極めて優秀で軽金属に関する学術分野の進歩に寄与するところ多大であるとの理由で優秀講演賞を受賞した。



力向上のための English 集中レッスン」と題して試行的に実施して以来、毎年春季または夏季の長期休暇中に実施してきました。



専攻科だより　第２６号

平成 24 年 6 月

専攻科行事の報告

■ 生産システム工学専攻入学式

4 月 10 日に挙行され、8 期生 11 名（機械系 7 名、情報系 4 名）が入学しました。より高度で実践的な知識や技術の修得を目指すと共に、研究活動にも取り組みます。



生産システム工学専攻新入生（8 期生）

■ 中四国地区専攻科生研究交流会

4 月 27・28 日に香川県で開催され、専攻科 2 年生 14 名が日頃の研究成果を発表しました。

参加した学生の感想

本交流会への参加は他高専の専攻科生と交流を深めるとともに、自分自身の研究を見直す良いきっかけになりました。他高専の方々から頂いた貴重なご意見を今後の研究に是非生かしたいと思います。(生産 2 年　澤村幸輝)

新カリキュラムの紹介

7 年前に専攻科が設置されて以来、初めてカリキュラムの改訂を行い、以下の 3 科目を新設しました。

■ インターンシップ

国内外にある企業・事業所での実務や、大学の研究室での研修体験を通して、自分の職業適性や将来の目標をより明確にすることを目的にしています。

■ 教育技術演習

本科低学年の補習、学生実験、公開講座などのアシスタントとして指導する経験を積むことにより、自身の総合的な学習経験を活かした教育技術、コミュニケーション能力、ならびに企画を円滑に実行する計画性の向上を図ります。

■ 生産システム工学概論

機械系出身者が情報系科目を履修する、または情報系出身者が機械系科目を履修するにあたり問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で開設されています。したがって、異なる分野の学習がスムーズに行えるよう柱となる理論や技術の概要を習得することが目標です。

専攻科生の受賞報告

■ 学会発表で優秀発表賞を受賞

3 月 7 日、広島大学（東広島市）で開催された第 42 回学生員卒業研究発表講演会（日本機械学会中国四国学生会）において、専攻科生産システム工学専攻（当時）の矢口竜也君が優秀発表賞を受賞しました。発表題目は「熱重量測定装置の製作と木質バイオマス炭化物の評価実験」でした。

（出典：専攻科だより第 18, 26 号）

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

〔準学士課程〕

各学科とも就職率は，希望者に対してほぼ 100%に達している（資料６－１－③－１）。商船学科においては，海事関係，電子機械工学科では機械メーカー，情報工学科ではＩＴ関連の職種が多い（資料６－１－③－２）。また，進学率は資料６－１－③－３に示すように高いものとなっており，本校で学んだ専門分野に関係の深い商船系及び工学系の大学または専攻科に多く進学している（資料６－１－③－４）。

〔専攻科課程〕

専攻科の求人・就職状況を資料６－１－③－５に示す。就職はほぼ 100%であり，更に大学院へ進学する学生も毎年出ている（資料６－１－③－３）。海上輸送システム工学専攻の修了者は船会社の船舶管理関係が多く，生産システム工学専攻の修了者は機械，ＩＴ関係の会社に多く就職していることがわかる。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程及び専攻科課程は，進学率と就職率の両方ともほぼ 100%に達している。就職先の状況を見ても各学科，各専攻で学んだ専門分野に適合した職種に就いており，進学者についてもそれぞれの専門性が活かされる学問分野の大学及び大学院に進学していることから，養成しようとしている人材像に適合した教育の成果が上がっている。

資料６－１－③－１

平成22年度求人・就職状況

Job-order and Employment Situation in 2010

区分 Division ＼ 学科等 Department			商船学科 Maritime Technology Department	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	情報工学科 Information Science and Technology Department	専攻科 (海上輸送システム工学専攻) Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	専攻科 (生産システム工学専攻) Advanced Production Systems Engineering Course	備考 Note
卒業者数 Graduate			40(2)	26(2)	37(15)	3(0)	8(2)	
就職希望者数 Applicants			28(2)	20(2)	29(15)	3(0)	6(1)	
就職者数 Employment			28(2)	20(2)	29(15)	3(0)	6(1)	
求人数 Job-orders			452	331	288	242	369	
海上 Marine	求人数 Job-orders		167	0	0	80	0	
	就職者数 Employment	外航 Ocean navigation	10(0)	0	0	2(0)	0	日本郵便㈱、川崎汽船㈱、新日本石油タンカー㈱、玉井商船㈱、太洋日本汽船㈱ ほか
		内航 Coastwise service	11(0)	0	0	1(0)	0	東洋商船㈱、協同商船㈱、青野海運㈱、第一船舶㈱、浪速タンカー㈱、鶴見サンマリン㈱、 ほか
		カーフェリー Car-ferry	2(1)	0	0	0	0	キャプテンライン㈱、オーシャントランス㈱
		官庁船 Government Office-Ship	0	0	0	0	0	
		水産系 fishery	0	0	0	0	0	
		計 Total	23(1)	0(0)	0(0)	3(0)	0(0)	
陸上 Land	求人数 Job-orders		285	331	288	162	369	
	就職者数 Employment	はん用・生産用・業務用機械器具製造 Manufacturing of general purpose, commercial tools and machinery	0	11(1)	1(1)	0	2	パブ日立工業㈱、㈱イシダ、㈱ニチゾウテック、三興コントロール㈱ ほか
		電気・情報通信機械器具製造 Manufacturing of electrical and information communication tools and machinery	0	1	12(5)	0	2(1)	京セラ㈱、リコー㈱、ジョンソンコントロールズ㈱、ダイキン工業㈱ ほか
		輸送用機械器具製造 Manufacturing of transportation tools and machinery	4(1)	4	2(1)	0	1	マツダ㈱、㈱アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド舞工場、真鍋造機㈱
		その他製造 Manufacture of the other machines and tools	0	2(1)	5(2)	0	1	NOK㈱、大和製罐㈱、㈱船舶研究所
		情報通信 Information communication	0	1	5(4)	0	0	富士通㈱、日信電子サービス㈱、㈱SECSOFT、㈱NTTネオメイト ほか
		運輸・郵便 Transportation and postal service	0	0	1(1)	0	0	東海旅客鉄道㈱ ほか
		その他 Others	1	1	3(1)	0	0	㈱半導体エネルギー研究所、ポートエンタープライズ㈱、自衛隊 ほか
		計 Total	5(1)	20(2)	29(15)	0(0)	6(1)	
就職希望者に対する求人倍率 Job-order magnification to applicants			16.14	16.55	9.93	80.67	61.5	
就職希望者に対する就職率 Employment magnification to applicants			100	100	100	100	100	

（　）内は、内数で女子を示す。

（出典：2011 学校要覧Ｐ．26）

平成23年度求人・就職状況

Job-order and Employment Situation in 2011

区分 Division ＼ 学科等 Department			商船学科 Maritime Technology Department	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	情報工学科 Information Science and Technology Department	専攻科 (海上輸送システム工学専攻) Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	専攻科 (生産システム工学専攻) Advanced Production Systems Engineering Course	備考 Note
卒業者数 Graduate			23(0)	32(1)	34(17)	3(0)	8(2)	
就職希望者数 Applicants			18(0)	18(0)	26(16)	3(0)	6(2)	
就職者数 Employment			18(0)	18(0)	26(16)	3(0)	6(2)	
求人数 Job-orders			239	407	322	105	567	
海上 Marine	求人数 Job-orders		132	0	0	35	0	
	就職者数 Employment	外航 Ocean navigation	6(0)	0	0	2(0)	0	川崎汽船㈱、山丸汽船㈱、戸田汽船㈱、ワールドマリン㈱、愛媛船海運㈱、㈱岡和ライン ほか
		内航 Coastwise service	5(0)	0	0	0	0	神原ロジスティック㈱、田中海運㈱、日本マリン㈱、鹿児島船舶㈱、日本ガスライン㈱
		カーフェリー Car-ferry	2(0)	0	0	0	0	宇和島運輸㈱、九州郵船㈱
		官庁船 Government Office-Ship	0	0	0	0	0	
		水産系 fishery	0	0	0	0	0	
		計 Total	13(0)	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	
陸上 Land	求人数 Job-orders		107	407	322	70	567	
	就職者数 Employment	はん用・生産用・業務用機械器具製造 Manufacturing of general purpose, commercial tools and machinery	0	1(0)	0	0	0	三興コントロール㈱
		電気・情報通信機械器具製造 Manufacturing of electrical and information communication tools and machinery	0	3(0)	9(5)	0	3(2)	ジョンソンコントロールズ㈱、富士電機㈱、日立情通エンジニアリング㈱ ほか
		輸送用機械器具製造 Manufacturing of transportation tools and machinery	1(0)	2(0)	5(4)	1(0)	0	㈱樽本チェイン、鴻池電機㈱、常石造船㈱、マツダ㈱ ほか
		その他製造 Manufacture of the other machines and tools	0	8(0)	1(0)	0	1(0)	日本自動ドア㈱、新中央工業㈱、神戸ペイント㈱、㈱エクス、㈱東洋製作所 ほか
		情報通信 Information communication	0	1(0)	1(1)	0	0	富士通㈱、日信電子サービス㈱
		運輸・郵便 Transportation and postal service	0	0	0	0	0	
		その他 Others	4	3(0)	10(6)	0	2(0)	東テク㈱、ヤンマーエンジニアリング㈱、綜合警備保障㈱、㈱ヤマナカゴーキン ほか
		計 Total	5(0)	18(0)	26(16)	1(0)	6(2)	
就職希望者に対する求人倍率 Job-order magnification to applicants			13.28	22.61	12.38	35.00	94.5	
就職希望者に対する就職率 Employment magnification to applicants			100	100	100	100	100	

（　）内は、内数で女子を示す。

（出典：2012 学校要覧Ｐ．26）

資料６－１－③－２

平成23年度卒業予定者就職・進学先

商船学科　卒業予定者　23名　　平成23年9月14日現在

航海コース　10名

就職（進学）先
神原ロジスティックス（株）
弓削商船高等専門学校専攻科
山丸汽船（株）
㈲福友スズキ販売
田中海運（株）
外航船船員育成スキーム
弓削商船高等専門学校専攻科
宇和島運輸（株）
戸田汽船（株）
美須賀海運（株）

機関コース　13名

就職（進学）先
未定（予定では向島造機（株））
日本マリン（株）
東京海洋大学
鹿児島船舶(株)
三徳船舶（株）
川崎汽船（株）
日本ガスライン（株）
ワールドマリン（株）
村上石油（株）
東テク（株）
ダイハツディーゼル（株）
北見工業大学
九州郵船（株）

〈電子機械工学科〉卒業予定者数３２名

株式会社グローバル　2名	神戸ペイント株式会社
ジョンソンコントロールズ株式会社	大洋電機株式会社　群馬工場
日本自動ドア株式会社　2名	日信電子サービス株式会社
愛媛サニタリープロダクツ株式会社	パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社
株式会社椿本チェイン	株式会社エクス
ヤンマーエンジニアリング株式会社	渦潮電機株式会社
新中央工業株式会社	株式会社三和ドック
三興コントロール株式会社	コベルコ建機エンジニアリング株式会社
豊橋技術科学大学　3名	佐賀大学
九州工業大学	香川大学
長岡技術科学大学	弓削商船高等専門学校専攻科（生産システム工学専攻）　7名

〈情報工学科〉卒業予定者数３４名

愛媛県漁業協同組合連合会（県漁連）	石田造船建設株式会社
富士電機株式会社	出光興産株式会社
マツダ株式会社	株式会社瀬戸興産
コニカ・ミノルタビジネスソリューションズ株式会社	株式会社東洋製作所
株式会社イシダ	株式会社三興
株式会社マツダＥ＆Ｔ	今治中央自動車教習所
NSウエスト株式会社	渦潮電機株式会社
ムラテック販売株式会社	株式会社アイ・エス・ディー
富士通株式会社	株式会社日立情報制御ソリューションズ
京セラ株式会社	旭化成アミダス株式会社
岩城造船株式会社	天理教本部
綜合警備保障株式会社	株式会社エヌ・ティ・ティネオメイト
株式会社サイボウズ	株式会社リコー
豊橋技術科学大学　2名	千葉大学
愛媛大学	弓削商船高等専門学校専攻科（生産システム工学専攻）4名

（出典：学生課）

資料６－１－③－３

卒業生の進路状況
Situation of Course of Graduates

卒業年度 Graduates	平成 23 年度　2011				平成 22 年度　2010				平成 21 年度　2009			
学科 Department ＼ 進学就職別 course	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total	就職者 Employment	進学者 University	その他 Others	計 Total
商船学科 Maritime Technology Department	18	4	1	23	28	12	0	40	27	8	1	36
電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	18	14	0	32	20	4	2	26	25	12	0	37
情報工学科 Information Science and Technology Department	26	8	0	34	28	8	1	37	25	9	0	34
本科 計 Total	62	26	1	89	76	24	3	103	77	29	1	107
海上輸送システム工学専攻 Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	3	0	0	3	3	0	0	3	3	0	0	3
生産システム工学専攻 Advanced Production Systems Engineering Course	6	2	0	8	6	2	0	8	10	3	0	13
専攻科 計 Total	9	2	0	11	9	2	0	11	13	3	0	16

（出典：2012 学校要覧Ｐ．25）

資料６－１－③－４

大学編入学状況

Situation of Entry in University

	編入学年度 Entry in University	平成24年度 2012			平成23年度 2011			平成22年度 2010			平成21年度 2009			平成20年度 200		
	大学名 University ＼ 学科 Department	商船 Marine Technology Department	電子機械工 Electronic Mechanical Engineering Department	情報工 Information Science and Technology Department	商船 Marine Technology Department	電子機械工 Electronic Mechanical Engineering Department	情報工 Information Science and Technology Department	商船 Marine Technology Department	電子機械工 Electronic Mechanical Engineering Department	情報工 Information Science and Technology Department	商船 Marine Technology Department	電子機械工 Electronic Mechanical Engineering Department	情報工 Information Science and Technology Department	商船 Marine Technology Department	電子機械工 Electronic Mechanical Engineering Department	Information Science and Technology Department
国立 National	室蘭工業大学 Muroran Institute of Technology														1	1
	秋田大学 Akita University											1				
	筑波大学 University of Tsukuba									1						
	千葉大学 Chiba University			1			1		1							
	東京海洋大学 Tokyo University of Marine Science and Technology	1			2		1	1			2					
	電気通信大学 The University of Electro-Communications												1			
	山梨大学 University of Yamanashi											1				
	長岡技術科学大学 Nagaoka University of Technology		1							1		1			1	
	豊橋技術科学大学 Toyohashi University of Technology		3	2			1		2	4		5	2			
	神戸大学 Kobe University	2			1			3			2			1		1
	福井大学 University of Fukui														1	
	岡山大学 Okayama University															
	広島大学 Hiroshima University												1			
	徳島大学 The University of Tokushima								1							
	香川大学 Kagawa University		1						1				1			
	愛媛大学 Ehime University			1									1			
	九州工業大学 Kyushu Institute of Technology		1						1							2
	佐賀大学 Saga University		1													
公立	高知工科大学 Kochi University of Technology								1							
私立	福山大学 Fukuyama University											1				
	山口東京理科大学 Tokyo University of Science, Yamaguchi									1						
	計 Total	3	7	4	3	0	3	4	7	7	4	9	6	1	3	4

（出典：2012 学校要覧Ｐ．25）

資料６－１－③－５

専攻科修了者の就職・進学先一覧

平成22年度海上輸送システム専攻修了者3名

浪速タンカー㈱	
紅洋海運㈱	
喜多浦海運㈱	

平成22年度生産システム工学専攻修了者8名

㈱井関松山製造所	プレス工業㈱
㈱ユタカ	パナソニック電工エンジニアリング㈱
㈱イクス	東北大学大学院
デルタ工業㈱	九州工業大学大学院

平成23年度海上輸送システム専攻修了者3名

㈱同和ライン	
紅洋海運㈱	
常石造船㈱	

平成23年度生産システム工学専攻修了者8名

㈱日立情報制御ソリューションズ	日立情報エンジニアリング㈱2名
㈱ヤマナカゴーキン	井関農機㈱
島津メディカルシステムズ㈱	岡山大学大学院
神戸大学大学院	

平成24年度海上輸送システム専攻修了者5名

神戸大学大学院	三徳船舶船舶㈱
商船三井フェリー㈱	旭タンカー㈱
スミセ海運	

平成24年度生産システム工学専攻修了者9名

日立情報通信エンジニアリング㈱2名	神戸大学大学院
㈱古川製作所	シブヤ精機㈱
㈱商港テクノサービス	富士通㈱
ダイキン工業㈱	㈱NTTネオメイト

（出典：学生課）

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

〔準学士課程〕

平成 24 年度に各学科の５年生に対して学習達成度評価の調査を行った(資料６－１－④－１－１～３）。専門知識の習得の程度を問う項目では，「身についた」，「良く身についた」と回答した学生の割合が商船学科，電子機械工学科，情報工学科で，それぞれ 94%，94%，82%であり，大多数の学生は，本校が目指す技術者として必要な知識を習得しているといえる。また，忍耐力，協調性，責任感などの程度を問う項目では，「身についた」「良く身についた」と回答した学生は 80%程度と高く，技術者としての倫理観が育成できているといえる。一方，英語会話・読解力の習得や国際感覚に関する項目は，電子機械工学科と情報工学科で低く，商船学科で高い評価となっている。商船学科では，現代ＧＰや企業技術者活用プログラム，大学間連携プロジェクトを活用し，英語による乗船実習や英語キャンプを実施しているためと考えられる。工業系学科については，今後授業方法の改善が必要である。

〔専攻科課程〕

専攻科２年生に対して学習達成度評価の調査を行った（資料６－１－④－２－１，２）。専門知識については，海上輸送システム工学専攻，生産システム工学専攻のいずれも「身についた」「良く身についた」が 100%となっており，本校が目指す高度な技術者として必要な知識を深く習得しているといえる。また，技能力，忍耐力，協調性，責任感に関する項目も評価が高く倫理観が育成できている。さらに，理解力，表現力に関しても評価が高く，プレゼンテーション能力が育成できている。しかし，生産システム工学専攻について，創造力に関して「身についた」と回答した学生の割合は 30%と低く，創造性教育に関する改善が必要である。

（分析結果とその根拠理由）

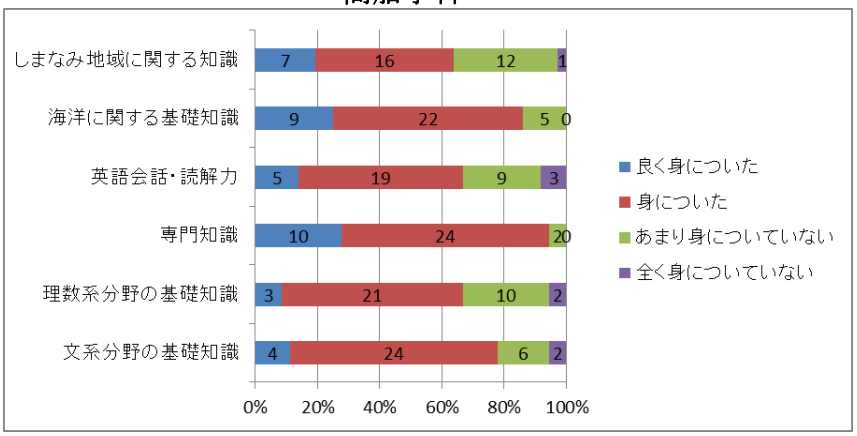
学習到達度評価に関する卒業（修了）時のアンケートから，改善する点があるものの，概ね教育の成果や効果が上がっており，本校の目指す実践的技術者として必要な専門知識や倫理観が育成できている。

以上のことから，学生が行う学習達成度評価等の結果から判断して，学校の意図する教育の成果や効果が上がっているといえる。

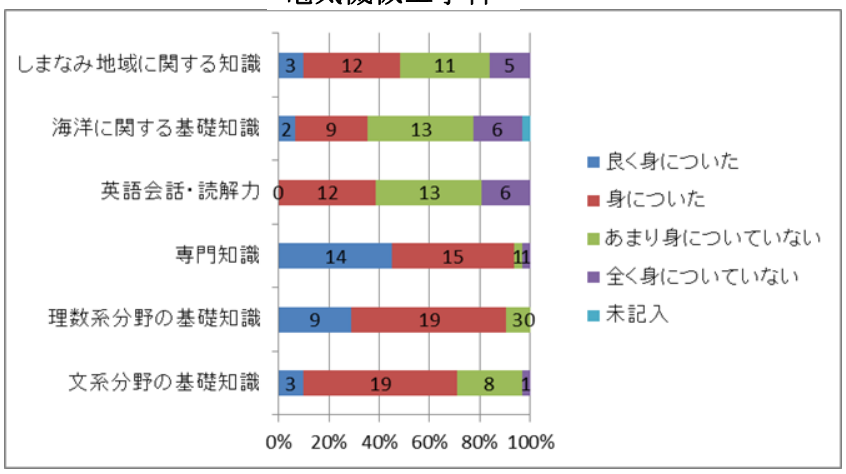
資料６－１－④－１－１

学習到達度アンケート集計結果（準学士課程５年生対象）

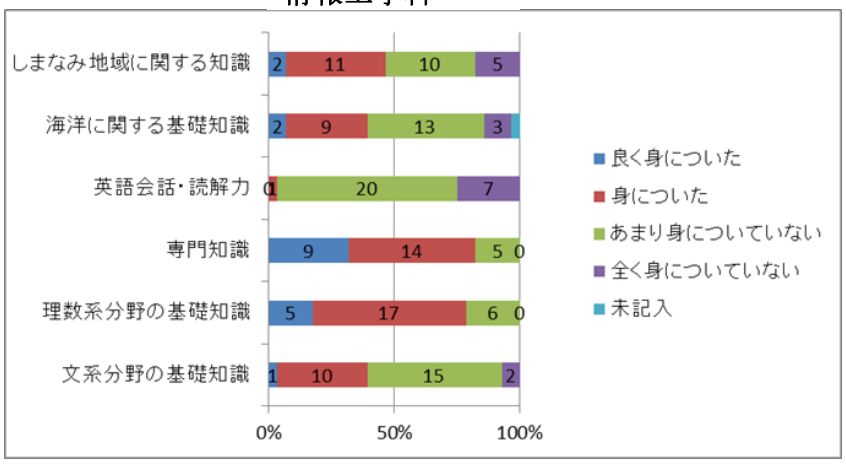
商船学科



電気機械工学科

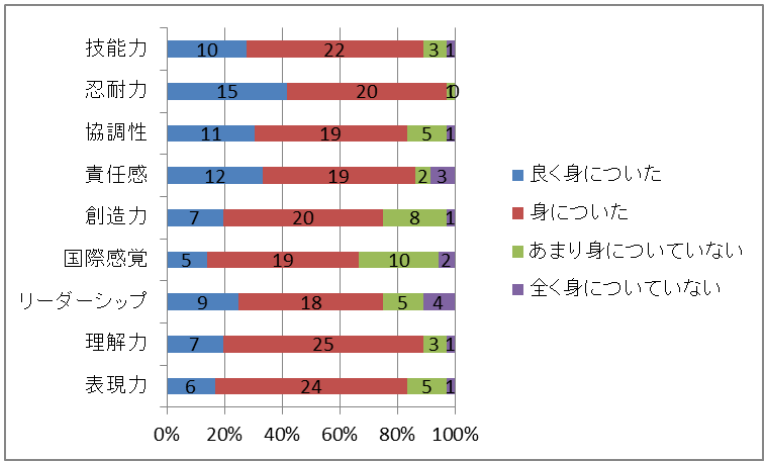


情報工学科

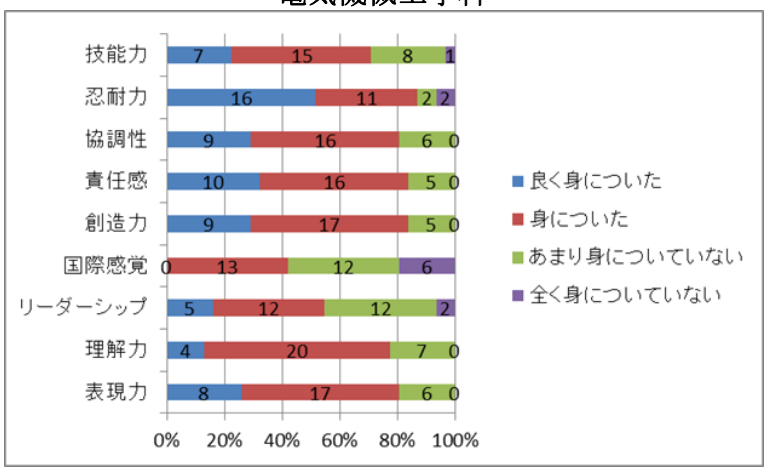


資料６－１－④－１－２

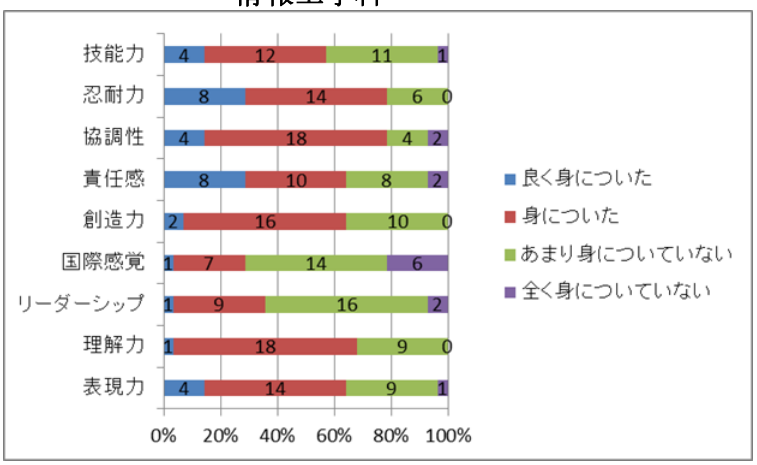
商船学科



電気機械工学科

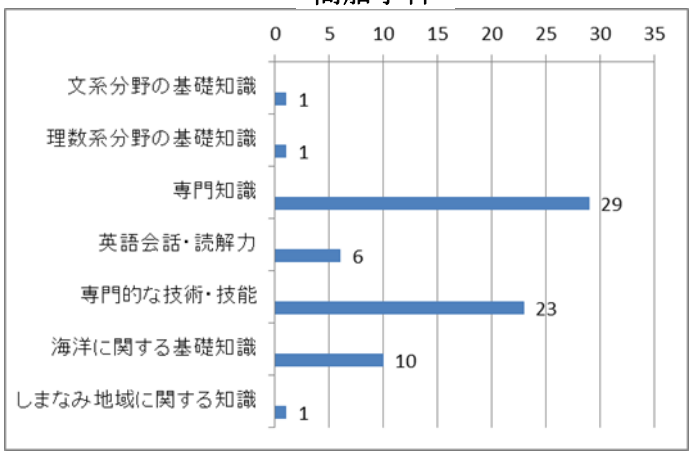


情報工学科

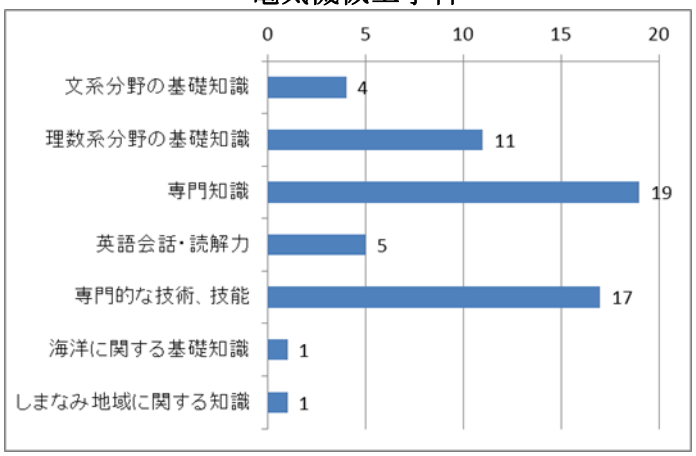


資料６－１－④－１－３

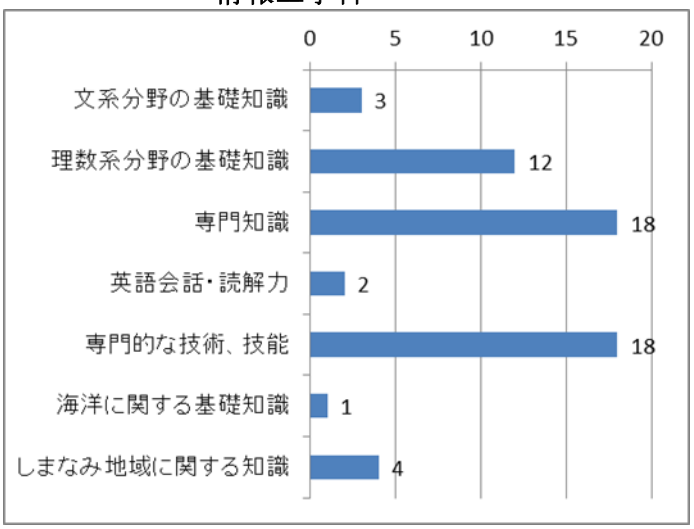
商船学科



電気機械工学科



情報工学科

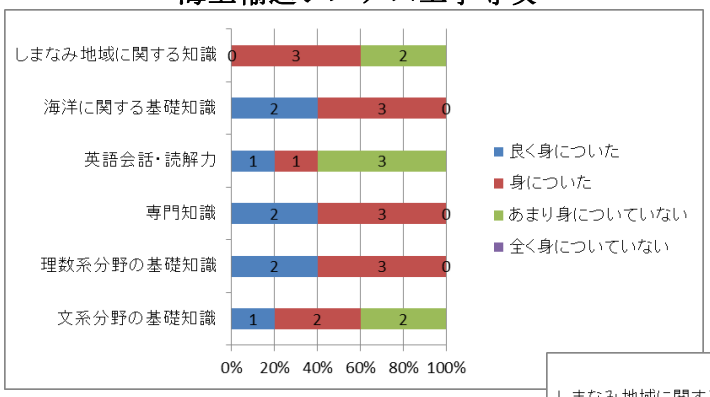


（出典：企画広報室）

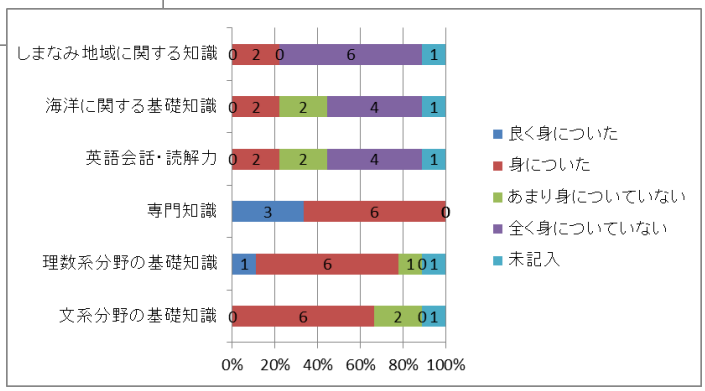
資料６－１－④－２－１

学習到達度アンケート集計結果（専攻科２年生対象）

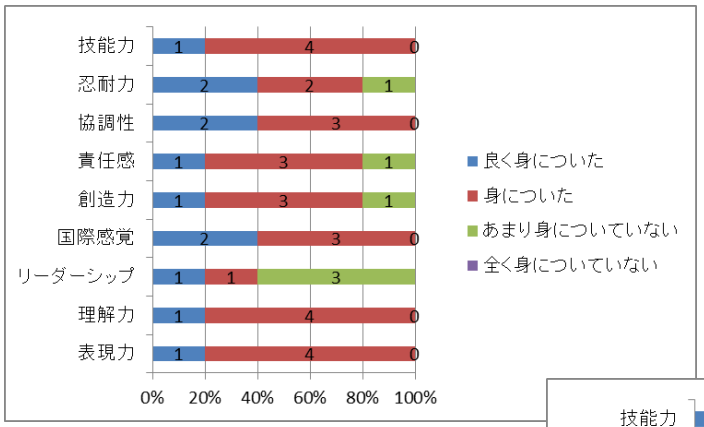
海上輸送システム工学専攻



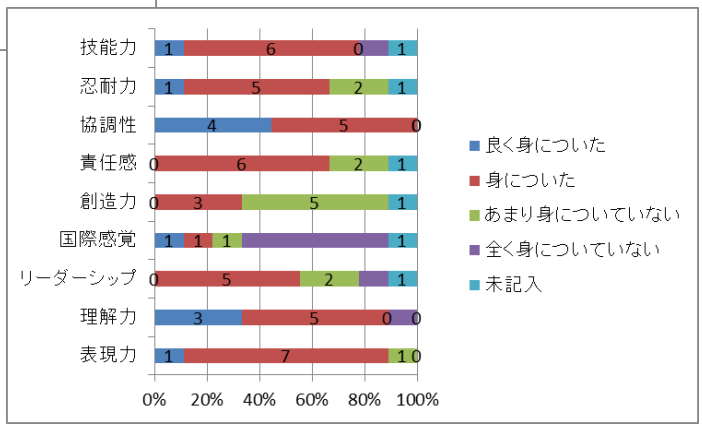
生産システム工学専攻



海上輸送システム工学専攻

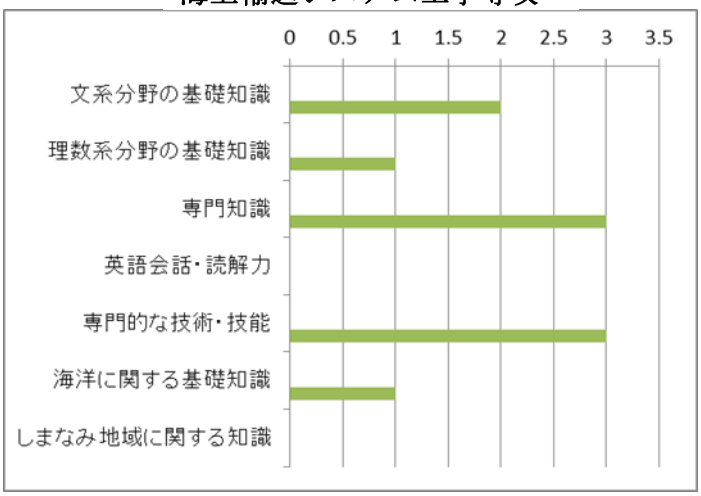


生産システム工学専攻

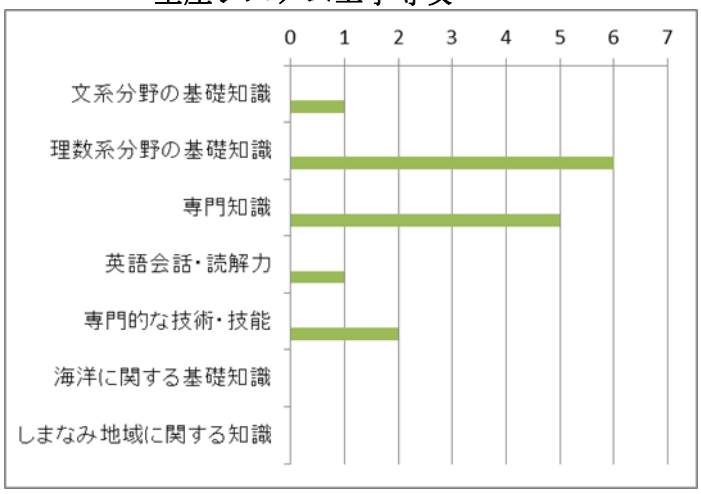


資料６－１－④－２－２

海上輸送システム工学専攻



生産システム工学専攻



（出典：企画広報室）

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

過去３年間の準学士課程卒業者及び専攻科課程修了者の就職先企業と卒業（修了）生を対象としたアンケート調査を実施した。企業へは，卒業（修了）生の学力，資質，性向に関する３項目について回答を求めた（資料６－１－⑤－１，２）。学力については，専門知識や実技系分野において優れているが，一般教養知識に劣るとの回答を得た。資質については，実践力や応用力を備えているものの，創造力や表現力に乏しいと評価された。性向については，協調性があり礼儀正しく責任感もあるが，積極性や国際性に乏しいことが指摘された。

卒業（修了）生へのアンケートは，在学中に身につけた知識に関すること，就職・進学指導に関すること，課外活動や寮生活に関することについて回答を求めた（資料６－１－⑤－３，４）。身に付けた知識は，専門知識と実技系の技能と回答した割合が 83%と高い。上述した企業へのアンケート結果による専門知識や実技系分野において優れていると一致していることがわかる。自分の身に付けた知識が発揮できているか否かの質問については「どちらとも言えない」の回答を除くと，約７割の者が役立っていると回答した。在学中に力を入れておけば良かった分野は，語学と専門基礎となっている。就職・進学指導，課外活動及び寮生活については，「適当であった」あるいは「活かされている」との評価を得た。また寮の設備についても十分であるとの評価を得た。寮生活で得たものは「友人」「協調性」「忍耐力」であると答えている。

（分析結果とその根拠理由）

卒業（修了）生とその就職先企業を対象としたアンケート調査を実施している。企業からのアンケート結果より，専門的な知識を有し実践力に優れるとの評価を得た。また，卒業（修了）生のアンケート結果から約７割の者から身に付けた知識が役に立っているとの回答を得ており，実践的技術者養成の観点から，本校の教育目的に適合しているといえる。一方，語学力，創造力，表現力が改善するべき点であることがわかった。これらに関しては，専任及び非常勤の外国人教員を採用して専門英語の教育を行い，準学士課程低学年の英語教育を「総合英語」，「英語表現」，「基礎英語」，「英語購読」に分け，その一部を各クラスを３分割した少人数教育をネイティブの非常勤講師を含めて実施するといった対策等を強化している。

以上のことから，卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しており，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているといえる。

資料６－１－⑤－１

卒業（修了）生の就職企業先へのアンケート

このアンケートは、本校を卒業（修了）し就職した企業等より卒業生の状況についてご意見を伺い、より充実した教育等の改善を行うために実施いたします。ご協力をお願いします。

１．御社の所属する分野を選択して下さい。
イ．海事産業である　ロ．海事産業でない

２．本校卒業（修了）生の学力についてお答え下さい。（ひとつ選んで下さい。）
・優れている分野は何ですか。
イ．一般教養知識　ロ．専門知識　ハ．実技系　ニ．その他（　　）

・劣っている分野は何ですか。
イ．一般教養知識　ロ．専門知識　ハ．実技系　ニ．その他（　　）

３．本校卒業（修了）生の資質についてお答え下さい。（ひとつ選んで下さい。）
・優れている点は何ですか。
イ．実践力　ロ．創造力　ハ．判断力　ニ．応用力　ホ．表現力　ヘ．その他（　　）

・劣っている点は何ですか。
イ．実践力　ロ．創造力　ハ．判断力　ニ．応用力　ホ．表現力　ヘ．その他（　　）

４．本校卒業（修了）生の性向についてお答え下さい。（ひとつ選んで下さい。）
・優れている点は何ですか。
イ．協調性　ロ．積極性　ハ．国際性　ニ．礼儀正しさ　ホ．責任感　ヘ．その他（　　）

・劣っている点は何ですか。
イ．協調性　ロ．積極性　ハ．国際性　ニ．礼儀正しさ　ホ．責任感　ヘ．その他（　　）

５．卒業時に身に付けるべき学力、資質等において要望があればご記入下さい。

（出典：企画広報室）

資料６－１－⑤－２

卒業（修了）生の就職企業先へのアンケート結果

回収率　49.4%　（3／21現在）　　【82 社/166社】

1. 御社の所属する分野を選択してください。

イ. 海事産業である	41
ロ. 海事産業でない	37
未回答	4

2. 本校卒業（修了）生の学力についてお答えください。（ひとつ選んでください。）複数回答有

・優れている分野は何ですか。

イ. 一般教養知識	10	
ロ. 専門知識	40	・なし　1
ハ. 実技系	25	・機械操作　1
ニ. その他	4	・行動力　1
未回答	5	・全体的に優れている　1

・劣っている分野は何ですか。

イ. 一般教養知識	38	
ロ. 専門知識	8	・特になし　7
ハ. 実技系	13	・コミュニケーション　1
ニ. その他	16	・分からない　1
未回答	9	・語学力　1
	84	・知識、技術については問題ありませんが他者とのコミュニケーションを苦手とする傾向あ

3. 本校卒業（修了）生の資質についてお答えください。（ひとつ選んでください。）複数回答有

・優れている点は何ですか。

イ. 実践力	41	ニ. 応用力	12	・なし　2
ロ. 創造力	1	ホ. 表現力	9	・本人の資質による　1
ハ. 判断力	6	ヘ. その他	7	・素直、努力家　1
		未回答	5	・なぐられ強い　1
				・全体的に優れている　1
				・就業期間が短かった為判断不可　1

・劣っている点は何ですか。

イ. 実践力	7	ニ. 応用力	11	
ロ. 創造力	10	ホ. 表現力	24	・特になし　3
ハ. 判断力	8	ヘ. その他	13	・本人の資質による　1
		未回答	9	・コミュニケーション能力　2
				・就業期間が短かった為判断不可　1

4. 本校卒業（修了）生の性向についてお答えください。（ひとつ選んでください。）複数回答有

・優れている点は何ですか。

イ. 協調性	34	ニ. 礼儀正しさ	24
ロ. 積極性	3	ホ. 責任感	19
ハ. 国際性	0	ヘ. その他	0
		未回答	4

・劣っている点は何ですか。

イ. 協調性	4	ニ. 礼儀正しさ	1	
ロ. 積極性	35	ホ. 責任感	7	
ハ. 国際性	19	ヘ. その他	8	・特になし　1
		未回答	10	・英語力　1

（出典：企画広報室）

資料６－１－⑤－３

卒業（修了）生へのアンケート

このアンケートは、卒業（修了）した皆さんから在学していたときの内容についてご意見を伺うことにより、より充実した教育等の改善に役立てるために実施いたします。ご協力をお願いします。

※　該当の番号に○をつけて下さい。

１．卒業（修了）学科についてお答え下さい。

イ．商船学科　ロ．電子機械工学科　ハ．情報工学科　ニ．専攻科生産　ホ．専攻科海上

２．本校で特に身に付けることができた知識は何ですか。

イ．一般教養知識　ロ．専門知識　ハ．実技系の技能　ニ．その他（　　）

３．自分の身に付けた知識が、発揮できていると思いますか。

イ．発揮できている　ロ．発揮できていない　ハ．どちらとも言えない

４．在学中、どの分野に力を入れて勉強すれば良かったですか。（複数回答可）

イ．語学　ロ．数学　ハ．物理・化学　ニ．専門基礎学（力学、電気、応数など）
ホ．商船学（航海系）　ヘ．商船学（機関系）　ト．電気・電子系応用分野
チ．機械系応用分野　リ．情報工学（ソフト系）　ヌ．情報工学（ハード系）
ル．情報工学（周辺応用技術）　オ．その他（　　）

５．在学中に受けた就職・進学指導は適切でしたか。

イ．適切であった　ロ．適切ではなかった　ハ．どちらとも言えない

６．課外活動の経験は現在活かされていますか。

イ．活かされている　ロ．活かされていない　ハ．どちらとも言えない

以下は、寮生活を経験した人にお聞きします。

７．寮生活の経験は現在役に立っていますか。

イ．役に立つ　ロ．役に立たない　ハ．どちらとも言えない

８．寮の設備はどうでしたか。

イ．十分である　ロ．不十分である　ハ．どちらとも言えない

９．寮生活で得たものは何ですか。（複数回答可）

イ．友人　ロ．礼儀正しさ　ハ．正しい生活習慣　ニ．協調性　ホ．積極性　ヘ．独立心
ト．忍耐力　チ．その他（　　）

（出典：企画広報室）

資料６－１－⑤－４

卒業(修了)生へのアンケート結果

回収率 26.4% (3／21現在)　　【85 名/322名】

1. 卒業(修了)学科についてお答えください。

イ. 商船学科	20
ロ. 電子機械工学科	26
ハ. 情報工学科	26
ニ. 専攻科生産	13
ホ. 専攻科海上	0

2. 本校で特に身に付けることができた知識は何ですか。(複数回答有)

イ. 一般教養知識	10
ロ. 専門知識	48
ハ. 実技系の技能	26
ニ. その他	4 ・[・社交性 1
未記入	1

3. 自分の身に付けた知識が、発揮できていると思いますか。

イ. 発揮できている	31
ロ. 発揮できていない	14
ハ. どちらとも言えない	39
未記入	1

4.在学中、どの分野に力を入れて勉強すれば良かったですか。(複数回答可)

イ. 語学	32	ト. 電気・電子系応用分野	17
ロ. 数学	15	チ. 機械系応用分野	22
ハ. 物理・化学	10	リ. 情報工学(ソフト系)	22
ニ. 専門基礎学(力学、電気、応数など	36	ヌ. 情報工学(ハード系)	23
ホ. 商船学(航海系)	5	ル. 情報工学(周辺応用技術)	18
ヘ. 商船学(機関系)	11	オ. その他	4

・IT 1
・資格勉強(取得) 1
・読書術 1
(学習するための方法論を得てはじめて学習がおもしろくなるから)

5.在学中に受けた就職・進学指導は適切でしたか。

イ. 適切であった	47
ロ. 適切ではなかった	10
ハ. どちらとも言えない	28

6.課外活動の経験は現在活かされていますか。

イ. 活かされている	43
ロ. 活かされていない	9
ハ. どちらとも言えない	33

以下は、寮生活を経験した人にお聞きします。　　【48 名/寮生】

7.寮生活の経験は現在役に立っていますか。

イ. 役に立つ	39
ロ. 役に立たない	2
ハ. どちらとも言えない	7

8.寮の設備はどうでしたか。

イ. 十分である	29
ロ. 不十分である	11
ハ. どちらとも言えない	7
未記入	1

9.寮生活で得たものは何ですか。(複数回答可)

イ. 友人	37	ホ. 積極性	6
ロ. 礼儀正しさ	13	ヘ. 独立心	21
ハ. 正しい生活習慣	13	ト. 忍耐力	24
ニ. 協調性	27	チ. その他	0

(出典：企画広報室)

（２）優れた点及び改善する点

（優れた点）

準学士課程においては，プログラミングコンテスト等の各種コンペティションで文部科学大臣賞や「日本ものづくり大賞（内閣総理大臣賞）」の受賞実績を上げており，創造性教育の成果が顕著に表れているといえる。また，進学率や就職率はほぼ100%に近く，本校の卒業生の能力の高さが評価されているといえる。

専攻科においては，特別研究でまとめた論文について軽金属学会優秀講演賞などの学会賞を贈られるなど専門分野についての評価が高いものとなっている。

（改善を要する点）

学習達成度アンケートや卒業生，就職企業に対するアンケートから得られた結果は概ね良好であったが，幾つか上がってきた改善項目については改善の余地がある。

（３）基準６の自己評価の概要

人物像の育成等に照らして履修及び修得する科目を配置し，全体の達成状況は，教員会議や教務委員会，専攻科委員会，分科会によって把握・評価されている。学生の学習達成度アンケート結果は，自己点検評価委員会で分析し，教育改善に役立てている。

準学士課程及び専攻科で各学年や卒業（修了）時において，学生が身に付ける学力や資質・能力については，単位取得状況，資格取得状況，各種コンペティションの受賞及び学会関係の受賞状況から判断しても十分に教育効果が上がっているといえる。

就職先の職種についても，各学科の養成する人材像に適合しており，また，進学先についても本校で学んだ専門分野に進んでいることから，養成しようとしている人材像に適合した教育の成果が上がっている。

学習到達度評価に関する卒業（修了）時のアンケートから，改善する余地があるものの，概ね教育の成果や効果が上がっており，本校の目指す実践的技術者として必要な専門知識や倫理観が育成できている。また，卒業（修了）の就職先企業からのアンケート結果より，専門的な知識を有し実践力に優れるとの評価を得ており，卒業（修了）生のアンケート結果からは，約７割の者から身に付けた知識が役に立っているとの回答を得たことから，概ね良好な結果を示しており，実践的な技術を習得した学生を送り出すことができていると判断される。

基準７ 学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①:　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点にかかる状況）

学習を進める上でのガイダンスに関わる刊行物として，準学士課程では，学生便覧及びシラバスを学生全員に配布している。学生便覧（資料７－１－①－１）には，教務関係事項，学校生活関係，学生寮関係など学生生活を送る上での学生心得及び規則が記載されている。シラバスには，各授業科目についての学習内容及び成績評価等に関わる事項が記載されている（資料７－１－①－２）。学期の始めには，すべての授業において担当教員がシラバスを用いて，授業の内容，進め方に関してガイダンスを行うよう整備が図られている。新入生に対しては入学直後にオリエンテーションを行い，その中で本校の教育システムを示し，授業形態，科目の履修，修得，進級要件等の説明を行っている（資料７－１－①－３）。外国人留学生及び編入学生に対しては，校内でのオリエンテーションを実施し，学級担任との懇談，教務関係事項及び学生生活関係について説明を行っている（資料７－１－①－４）。

専攻科においても，各授業において担当教員がシラバスを用いて，ガイダンスを行うよう整備が図られている。また，副専攻科長が入学時に懇談を通して，専攻科学生用手引き・シラバスを配布して，学習を進める上での各種の説明，注意を行うガイダンスを実施している（資料７－１－①－５）。

相談・助言については，学級担任は，特別活動（ホームルーム）や個人面談（資料７－１－①－６）を通して，学生の学習や学校生活について細かく指導・助言を行っている。また，前・後期の中間・期末の試験ごとにその成績通知書が，担任から学生に手渡され，学生は勉学等についての助言や諸注意を受けている。専攻科においては，専攻ごとに副専攻科長を配置する体制を整備し，学級担任と同様な相談・助言を実施している。

自主的学習の助けとなるよう，オフィスアワーを実施するとともに（資料７－１－①－７），教員の研究室で随時，学生の質問を受け，助言を行っている。利用実績の集計は行っていないが，定期試験前の個人指導に関してはかなりの学生が研究室を訪れている実態がある。

平成 23 年度に初年次教育支援室を新設した（資料７－１－①－８）。支援室は，室長，副室長，１年生学級担任３名，・専門学科または総合教育科より支援教員３名，英語，数学担当の教員１名ずつ，合計 10 名の教員より構成する体制を整備しており，資料７－１－①－９に示すように，ガイダンス支援の他，補習学習支援，キャリア支援，高専生活導入支援など相談・助言も行っている。

（分析結果とその根拠理由）

学習を進める上でのガイダンスは，学生便覧及びシラバス，専攻科学生用手引き・シラバスを活用して，複数の機会をとらえて実施している。

自主学習を進める上で，学級担任及び副専攻科長を配置し，相談・助言を行える体制を整備し，具体的に機能している。さらに初年次教育支援室を設置し，ガイダンス支援，補習学習支援，キャリア支援，高専生活導入支援などの様々な支援を行っている。

以上のことから，学習を進める上でのガイダンスが整備・実施され，また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備されているといえる。

資料７－１－①－１

目　　次

§Ⅰ 学 生 心 得
1 教 務 関 係 ---- 1
(1) 授 業 時 刻 ---- 1
(2) 進 級 ---- 1
① 欠 席 等 ---- 1
② 学業成績の評価 ---- 1
③ 受 験 心 得 ---- 1
④ 定期試験期間中の交通機関停止の場合の学生の対処の仕方 ---- 1
⑤ その他の注意事項 ---- 2
(3) 施 設 ・ 設 備 ---- 2
(4) 学 級 委 員 等 ---- 2
(5) 伝 達 の 方 法 ---- 2
2 学 生 関 係 ---- 3
(1) 正しい学生生活 ---- 3
(2) 通 学 生 ---- 3
(3) 交 通 関 係 ---- 3
(4) 礼 儀 ---- 4
(5) 頭 髪 と 服 装 ---- 4
(6) 下宿生活の心得 ---- 4
(7) ア ル バ イ ト ---- 5
(8) 校外生活一般 ---- 5
(9) 保 健 衛 生 ---- 5
(10) 学 生 相 談 ---- 5
(11) 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度 ---- 6
(12) 学生への伝達の方法 ---- 7
① 掲 示 ---- 7
② 郵便物の取扱い ---- 7
③ 遺失物・拾得物等の届出 ---- 7
④ 私的電話の禁止 ---- 7
3 学 寮 関 係 ---- 8
(1) 寮生について ---- 8
① 日 課 ---- 8
② 生 活 の 規 律 ---- 8
③ 寮 生 会 ---- 8
④ 学寮管理運営規則 ---- 8
(2) 通学生について ---- 8
① 寮への立ち入り ---- 8
(3) 連 絡 ---- 8
① 郵便物等について ---- 8
② 電 話 に つ い て ---- 9
4 授業科目と単位数 ---- 10
(1) 学則別表第１（一般科目教育課程表） ---- 10

（出典：平成 25 年度学生便覧目次）

資料７－１－①－２

授業科目	国　語			担当教員	猪川　優子		
学　科	情報工学科	学　年	１年	授業期間	通年	単位数	3
分　野	一般	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	１．国語の理解に必要な基礎学力を習得する。２．現代文学の豊かな表現にふれ、幅広い国語力を身につける。３．古典文学読解のための基礎事項を理解し、様々な時代の作品に親しむ。						
進め方	座学の講義を中心とする。教科書の学習を基本として、必要に応じて新聞記事や関連資料を用い、内容を発展的に学習させる。						

学習内容	学　習　項　目	（時間数）	学習到達目標
	▽ガイダンス	（１）	・学習の流れと内容の把握
	〈現代文①〉		
	・世界は謎に満ちている	（４）	・語句や表現に注意し、基礎知識を身につける。
	・羅生門	（７）	・人間の心理について考えを深める。
	〈古典①〉		
	・児のそら寝	（５）	・古文の基本事項を理解し、説話に親しむ。
	▽漢字の学習	（５）	・段階的に学習する。
	▽前期中間試験	（１）	
	〈国語表現①〉		
	・適切な言葉遣い	（３）	・正しい敬語表現について学習する。
	〈現代文②〉		
	・二十億光年の孤独	（４）	・詩の豊かな表現力と独自の世界を味わう。
	▽作文の書き方	（１）	・作文の基本的な書き方を学習する。
	〈古典②〉		
	・訓読に親しむ～漢詩の世界	（９）	・漢文、漢詩の基本事項を理解する。
	▽漢字の学習	（５）	・段階的に学習する。
	▽前期期末試験		
	〈現代文③〉		
	・清水へ	（７）	・短歌に親しみ、鑑賞力を養う。
	〈国語表現②〉		
	・わかりやすく表現する	（３）	・文章表現の基礎知識を学習する。
	〈古典③〉		
	・伊勢物語	（７）	・歌物語に親しみ、情景・心情を味わう。
	▽漢字の学習	（５）	・段階的に学習する。
	▽後期中間試験	（１）	
	〈現代文④〉		
	・夢十夜	（７）	・話の内容や展開の面白さを味わう。
	〈古典④〉		
	・奥の細道	（５）	・芭蕉の旅をたどり、表現を味わう。
	・論語	（５）	・孔子の思想を通して普遍的な理念を学ぶ。
	▽漢字の学習	（５）	・段階的に学習する。
	▽後期期末試験		

評価方法	前期中間～後期中間成績は、定期試験８割と課題等２割で評価する。学年末成績は、１年間の定期試験８割と課題等２割の総合成績で評価する。
関連科目	

教科書等	【書名】標準国語総合 級別漢字学習	【著者】東郷克美 星沢哲也	【発行所】第一学習社 とうほう
備　考	随時、漢字検定の指導を行う。副次的に、補習・課題指導を行う。文書の作成や読書活動など、国語・日本語に関わる全般的な質問および相談を受け付ける。		

（出典：平成 25 年度授業科目シラバスＰ．347）

資料７－１－①－３

平成２４年度新入生オリエンテーション実施要項

１　目　　的　　団体生活を通して、団体秩序を守り、寛容な心で同級生との親睦を図るとともに、学校生活及び学生としての心得を身につけることを目的とする。

２　期　　日　　平成２４年４月１１日（水）～１２日（木）

３　場　　所　　大三島少年自然の家
愛媛県今治市大三島肥海４７６２－１
電話　０８９７－８２－０３１１

４　日　　程　　別紙のとおり

５　参 加 者　　①学生１１９名（２３名）＋（留年生１名）計１２０名（２３名）
Ｓ１　４２名（　３名）＋（留年生０名）計　４２名（　３名）
Ｍ１　３９名（　１名）＋（留年生１名）計　４０名（　１名）
Ｉ１　３８名（１９名）＋（留年生０名）計　３８名（１９名）

②教職員　参加１５名（２名）※宿泊１１名（１名）
学生主事　①葛目幸一
学生主事補　②政家利彦・③二村彰
④雙知延行・⑤ガンバット（１２日のみ）
教務主事補　⑥田房友典
寮務主事補　⑦野々山和宏
１年担任支援　⑧上江憲治
Ｓ１担任　⑨藤井清治
Ｍ１担任　⑩水崎一良
Ｉ１担任　⑪高木　洋
看護師　⑫若松　純子
非常勤講師　阿部　智美（１１日のみ）
校長、勘久保教員（１１日のみ）

時間	日課・研修方法	場所	研修内容	講師等	参加者
8:10	学寮出発	学寮前	寮生は8:05集合	学級担任・学生主事補	S1担任;房野
	学寮～下弓削港		フエスパバス乗車(寮生)	学級担任・学生主事補	M1担任;望月
8:45	下弓削港発	下弓削港	船名:しんこう3・しんこう5岩城汽船チャーター便2隻		I1担任;徳田
			2班に分かれて乗船	学級担任・学生主事補	葛目学生主事
					学生主事補
9:00	因島(土生港)着				(向瀬、ガンバット、)
9:20	集合、点呼	因島バス車庫		学級担任	(樫根、桝田、房野)
9:30	土生港発(借上バス)	①号車商船学科・②号車電子機械工学科・③号車情報工学科			初年次教育支援室長
	①号車(担任・学生主事補)②号車(担任・学生主事補)③号車(担任・学生主事補)				(藤井教員)
	エステマ8日・9日(藤井教員・若松看護師)・ワゴンR8日、9日(8日:ガンバット教員:校長・阿部先生)				教務主事補
10:30	大三島少年自然の家着	第一研修室	①学生代表挨拶		(水崎教員)
	入所式		②学生主事諸注意	司会:学級担任	
	オリエンテーション		③各係分担説明(確認)		
			④教員紹介		
			⑤入所オリエンテーション	所員	
11:10	全体集会	第一研修室	①集団行動訓練	学生主事・主事補	
			②学生生活について		
11:45	昼食準備				
12:00	昼食	食堂			給食係
	休憩				
13:00	全体集会	第一研修室	①教務関係説明	司会:学級担任	
			(13:00～13:50)	教務主事補	
			②国歌・校歌練習(60分)	学生主事、非常勤講師	
			(14:00～15:10)		

（出典：学生課）

資料７－１－①－４

平成２４年度当初のスケジュール（新編入学生）

４月９日（月）
13:30～15:00　制服等購入，写真撮影（白雲館）
14:00～15:30　教科書，制靴等の購入（第２体育館横プレハブ）
16:00～　入寮式（入寮者のみ）（学寮：寮務関係教職員）
※学級担任は，学寮で編入学生にスケジュールの説明

４月１０日（火）
9:15　学生課教務係に集合（制服・制靴）
9:20　式場へ入場（教務主事補は，指定された座席に誘導）
9:50　保護者入場（教務係長案内）
10:00～　入学式
入学式終了後　編入学生‥‥学級担任との懇談（学級担任誘導：研究室）
保護者‥‥‥説明会（アセンブリホール），終了後直ちに学級担任との懇談会（研究室）
※保護者の方１名分のみ食券を用意しております。（他の付添の方は食堂で食券を購入してください。）
食事は「白雲館」で食券を提示のうえ１４時３０分までにお願いします。

４月１１日（水）　通常日課（特別授業時間割）
8:40　授業開始
16:10　授業終了
16:20～17:00　編入学生オリエンテーション①（第２会議室：教務主事他）

４月１２日（木）　通常日課（特別授業時間割）
8:40　授業開始
16:10　授業終了
16:20～17:00　編入学生オリエンテーション②（第２会議室：学生主事他）

４月１３日（金）　通常日課（特別授業時間割）

（出典：学生課）

資料７－１－①－５

平成２４年度当初のスケジュール（新専攻科生）

４月９日（月）
15:00　入学式リハーサル（宣誓者のみ）
16:00　入寮式（入寮者のみ）（学寮）

４月１０日（火）
9:00　レクチャールーム１（ものづくり教育研究棟３階）に集合
9:20　入学式場へ入場（副専攻科長は，指定された座席に誘導）
9:50　保護者入場（教務係長案内）
10:00～　入学式
入学式終了後　専攻科生‥‥副専攻科長との懇談（レクチャールーム１）
保護者‥‥説明会（アセンブリホール）
終了後直ちに専攻科長との懇談会（ものづくり教育研究棟１階）
※保護者の方１名分のみ食券を用意しております。（他の付添の方は食堂で食券を購入してください。）
食事は「白雲館」で食券を提示のうえ１４時３０分までにお願いします。
教科書購入（第２体育館横プレハブ　全専攻科生）

４月１１日（水）　通常日課
8:40　授業開始

（出典：学生課）

資料７－１－①－６

1. 学級担任の仕事

＜学校行事＞	＜担任業務＞	＜HR 活動内容例＞
3 月 ●春季休業	3 月 ●調査書等を読んで家庭の状況、学生の学力や持ち味の大まかな把握。（1 年担任） ●シラバスの作成（できれば、1 月末） ●指導要録、成績一覧表で学力のおおまかな把握。旧担任との引き継ぎ。（2 年以上担任） ●特に留意する必要のある学生の保護者との連絡。 ●学生のロッカーや自転車置き場の確認 ●同一学年間との連携の構築。学級運営の方針、HR 活動の意見交換を通し、各担任は自らの方針や HR 活動のテーマを立案する。定期的にお互いの情報を交換する。	3 月
4 月 ●入学式・入寮式（1 年生） ●始業式・オリエンテーション・クラブ紹介・学力診断テスト（1 年生） ●健康診断・クラス写真撮影 ●授業料免除申請 ●追認試験	4 月 ●級長と副級長・クラス役員・学生会役員の配置。 ●留学生への配慮（チューターの配置など） ●掃除当番の割り当て表作成 ●日直当番の割り当て表作成と日直日誌（工夫） ●連絡網の確認、時間割の配布 ●座席表（試験用・日常用）の作成 ●図書館の利用方法	4 月 ●担任自己紹介、学生自己紹介、運営方針 ●級長・副級長、クラス役員、学生会役員の配置。仕事の意味の理解。 ●学生との面談 ●「学校教育目標」を説明し、この一年間で身につけるべき能力や取得すべき資格などを理解させる。

（出典：学生課）

資料７－１－①－７

基礎学力向上のための勉学支援



低学年生の皆さんへ

“勉強が分からなくて困っている人、基礎科目について相談窓口を設けました。気楽に相談に来てください”
“基礎･基本の勉強が将来のために大事です。しっかりと身につけましょう”
“少しでも理解ができると一歩前進です。興味も沸きます。頑張りましょう”
“指定以外の教員のところへも積極的に行って、わからないことを相談する勇気を持ちましょう”

① 英語・数学・国語を中心に、基礎学習のお手伝いをします。
② 教科書・プリントなど聞きたいものを持参して、相談してください。
③ 担当教員・指導時間は表のとおりです。
④ 出張・会議などで、不在の時があります。（指導場所に貼り紙をしてお伝えします）



平成２４年度

基礎学力向上のための勉学支援
（担当教員割振り表）

	月	火	水	木	金
昼 12:30-13:00	樫根	向瀬	山尾	雙知 多田	猪川
夕 16:10-16:40	坂内 大根田	久保	前田 濱中	なし （大掃除）	田房

✧ 事前連絡は、いりません。直接、各先生の研究室を訪ねてください。
✧ 細かい内容や時間の変更については、直接その時間の担当の先生と話してください。
✧ 出張・会議などにより、不在の場合もあります。



（出典：学生課）

資料７－１－①－８

○弓削商船高等専門学校初年次教育支援室規則

制　　定　平成23年２月17日
最終改正　平成24年２月16日

（設置）
第１条　弓削商船高等専門学校に，初年次教育支援の充実を図るため，弓削商船高等専門学校初年次教育支援室（以下「支援室」という。）を置く。
（業務）
第２条　支援室は，次の各号に掲げる業務を行う。
（1）初年次教育支援の実施及び学習相談に関する事項
（2）入学予定者の準備学習の実施に関する事項
（3）初年次教育支援の企画・開発に関する事項
（4）その他初年次教育の推進に関する事項
（組織）
第３条　支援室は，次の各号に掲げる室員をもって組織する。
（1）支援室長
（2）副支援室長
（3）第１学年学級担任
（4）支援教員３名
（5）総合教育科から選出された数学及び英語担当教員各１名
（6）その他校長が必要と認めた者
２　前項第１号，第２号，第４号及び第６号の室員は，教員の中から校長が指名する。
３　前項第１号から第６号までの室員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（支援室長，副支援室長及び支援教員の職務）
第４条　支援室長は，支援室に関する業務を総括する。
２　副支援室長は，支援室長の業務を補佐する。
３　支援教員は，支援室長，副支援室長及び第１学年学級担任の業務を補佐する。
４　支援室長に事故があるときは，副支援室長がその職務を代行する。
（庶務）
第５条　支援室に関する庶務は，学生課において処理する。

附　則

この規則は，平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成24年４月１日から施行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－41 抜粋）

資料７－１－①－９

平成２３年度初年時教育支援実績

4/4	初年次教育支援室第1回打ち合わせ会	初年次教育支援室員	今年度の活動方針と年間計画
			ショートホームルーム実施の確認
			試験前補習の実施(英数の支援教員と専攻科生)
			学習意欲向上のための講演会実施
			学校生活支援のための講演会実施
			キャリア教育の早期実践(学科との連携)
4/8, 4/9	新入生オリエンテーション	初年次教育支援室員	校歌練習等学生主事と協力支援
4/11, 4/12	英数国３教科校内学力試験	初年次教育支援室英語数学担当教員	結果を分析、学級担任にフィードバック
4/28	情報モラル講義	田房教員	1年生全クラス対象に情報モラル、特に携帯電話の使い方について講義
5/12	学外講師による講演会	伯方警察署生活安全課生活安全係長	携帯電話について(犯罪防止の観点から)
5/26	合同ホームルーム	各主事、学生相談室長	各主事、学生相談室長講話
6/3, 6/6	前期中間試験前補習（月、金7限）	英語、数学担当教員	英語、数学の補習
7/7	初年次教育支援室第2回打ち合わせ会	初年次教育支援室員	前期中間試験成績の分析と対応
10/11	学外講師による講演会	愛媛県赤十字センター所長松坂俊光先生	命の大切さとタバコの害について
12/8	学外講師による講演会	関西電力株式会社 森本秀之氏(本校ＯＢ)	電気を支える人たちの話
9/16, 9/22	前期期末試験前補習（月、金7限）	英語、数学担当教員	英語、数学の補習
10/20	上島町防災教育セミナー	消防職員、防災士	避難訓練、救護訓練の支援
11/4	芸術授業発表会（商船祭）	芸術科目教員、初年次教育支援室員	芸術科目講師の発表会支援(準備／当日／片付け)
11/18, 11/21, 11/25	後期中間試験前補習（月、金7限）	英語、数学担当教員	英語、数学の補習
1/30, 2/3, 2/6, 2/10, 2/13	後期期末試験前補習（月、金7限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
2/14	音楽授業選択者年度末おさらい会	音楽教員、初年次教育支援室長、副室長	芸術科目講師の発表会支援
3/1	校歌練習	音楽教員、初年次教育支援室員	音楽講師に依頼(学級担任、支援教員)

（出典：初年次教育支援室）

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点にかかる状況）

学生の自主的学習のために，図書館，情報処理教育センター，情報演習室，技術支援センターが開放されている。

図書館の利用規定を資料７－１－②－１に示す。図書館には，図書館長（教員）及び事務職員（係長１名，司書１名，非常勤職員１名）が配置され，これらの教職員により管理運営と事務業務が行われている。書籍のほかにもＤＶＤ等の視聴覚教材を備えており，視聴用のスペースも館内に設置している。また，OPAC，CiNii，JDreamII などの蔵書検索，文献検索システムが導入されており，学生が自由に検索でき，平日は 18：00 まで，休日は，10：00～16：00 まで開放を行い，閲覧室を自主的学習に利用できる体制・環境が整備されている。利用実績については，図書館が入館者数と図書の貸し出し実績を記録している。図書館の利用は，レポート作成や試験勉強にも活用されており，自主的学習に利用されている（資料７－１－②－２，３）。

情報処理教育センターの利用規定を資料７－１－②－４に示す。情報処理教育センターには，センター長（教員），副センター長（教員）及び技術職員（１名）が配置され，これらの教職員により運営管理と授業・自主的学習支援業務が行われるように整備されている。情報処理教育センター及び情報演習室は，正課の授業に利用されているとともに，基本的に放課後のみの開放であるが，指導教員の監督の下に時間外での利用も可能となっている。情報処理教育センターについては，ほぼ毎日技術職員の監督による時間外開放も実施されている。どちらも１クラス分のＰＣが用意されており，自主的学習に必要な環境が整備され，効果的に利用されている（資料７－１－②－５）。

技術支援センターの規定を資料７－１－②－６に示す。技術支援センターには，センター長（教員），技術職員（７名）及び嘱託技術職員（１名）が配置され，これらの教職員により保守管理と実習・自主的学習及び課外活動支援業務が行われるように整備されている。技術支援センターは，正課の実習のほか，卒業研究，特別研究，ロボットコンテスト用のロボット制作等を行うために，放課後や長期休暇中にも利用されている。

学内での自主的学習を助けるために，学生談話室が整備されており，談話のみならず，書棚に整理されて置かれている大学編入学関係の資料を活用して進学希望者が学習に利用することもある。また，各専門学科棟及び専攻科棟（ものづくり教育研究棟）には，卒業研究生（５年生）及び専攻科生の学習室が配置され，それぞれパソコンが整備され，学生が授業の予習・復習及び卒業研究，特別研究，レポート作成に利用している。

学生寮の居室に情報コンセントが整備され，登録，講習を受けた学生は校内ネットワークに接続し，利用することができるようになっており（資料７－１－②－７），情報処理教育センターのウェブサイトの e-learning も利用でき，自主的学習に活用されている。

学生用の福利厚生施設としては，学生食堂，売店，合宿研修施設，談話用のスペースを備えた「白雲館」が整備されており，活用されている（資料７－１－②－８，９）。また，校内の各所に談話用のテーブル，ベンチが設置され，学生の憩いの場として活用されている。校内美化については，環境美化委員会を中心にして花壇の整備等を行っている（資料７－１－②－10）。

（分析結果とその根拠理由）

自主的学習を行うために，図書館，情報処理教育センター，技術支援センター等が整備され，開放されており，学生の多様なニーズに応えて，各々，必要とする学生により効果的に利用されている。

また，学生用の厚生施設として，食堂，売店，合宿研修施設，談話用スペースを備えた「白雲館」や学生談話室及び屋外に談話用のイス・テーブル等が整備され，利用されている。

以上のことから，自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているといえる。

資料７－１－②－１

○弓削商船高等専門学校図書館利用規則

制　　定　昭和54年５月14日
最終改正　平成23年３月17日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）図書館規則第５条の規定に基づき，図書館の利用について必要な事項を定めるものとする。
（定義）
第２条　図書館の管理運用する図書は，次の各号に掲げるものとする。
(1)　一般図書
(2)　貴重図書及び特殊図書
(3)　学術雑誌・その他必要とする刊行物・新聞等
（開館時間）
第３条　図書館の開館時間は，次のとおりとする。ただし，必要に応じてこれを変更することができる。
(1)　平　日　午前８時30分から午後６時まで
（夏季休業等の休業期間中は，午後５時まで）
(2)　土，日曜日　午前10時から午後４時まで
（夏季休業等の休業期間中は，閉館）
（休館日）
第４条　図書館の休館日は，次のとおりとする。
(1)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
(2)　年末年始（12月29日から翌年の１月３日まで）
２　前項に規定する休館日のほかに，必要により臨時に休館日を設けることができる。
（利用者）
第５条　図書館の図書を利用できる者（以下「利用者」という。）は，次の各号に掲げる者とする。
(1)　本校の教職員
(2)　本校の学生
(3)　図書館の利用を申し出た一般の利用者
（館内閲覧）
第６条　図書は，図書館内（以下「館内」という。）において閲覧することができる。
２　図書を館内で閲覧しようとするときは，係員に申し出るものとする。ただし，開架図書については，これを省略することができる。
３　図書の閲覧は，指定の場所で閲覧し，閲覧が終ったときは，係員に返納しなければならない。ただし，開架図書については，これを元の位置に戻すものとする。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集８－２抜粋）

資料７－１－②－２

図書館入館者調べ

月日	入館者数	学生	教職員	外部	
4/1（日）					休館
4/2（月）	6	3	3	0	
4/3（火）	1	0	1	0	
4/4（水）	2	0	1	1	
4/5（木）	3	1	2	0	
4/6（金）	3	0	2	1	
4/7（土）					休館
4/8（日）					休館
4/9（月）	21	21	0	0	
4/10（火）	16	14	1	1	
4/11（水）	20	17	2	1	
4/12（木）	13	13	0	0	
4/13（金）	25	23	2	0	
4/14（土）	5	3	2	0	
4/15（日）	2	2	0	0	
4/16（月）	182	178	4	0	
4/17（火）	71	68	2	1	
4/18（水）	24	23	1	0	
4/19（木）	17	16	1	0	
4/20（金）	16	16	0	0	
4/21（土）	0	0	0	0	
4/22（日）	3	2	1	0	
4/23（月）	42	39	3	0	
4/24（火）	40	39	1	0	
4/25（水）	25	24	1	0	
4/26（木）	15	14	1	0	
4/27（金）	32	30	2	0	
4/28（土）	26	14	1	11	
4/29（日）					休館
4/30（月）					休館
入館者数(平日)	574	539	30	5	
入館者数(土・日)	36	21	4	11	
うち土曜日	31	17	3	11	
うち日曜日	5	4	1	0	
総　計	610	560	34	16	
開館日数(平日)	20				
開館日数(土・日)	5				
入館者数平均（平日）	28.7	27.0	1.5	0.3	
入館者数平均（土・日）	7.2	4.2	0.8	2.2	

（出典：図書館）

資料７－１－②－３

図書貸出人員冊数集計調（H.23年度）

学科 / 区分 / 学年	商船学科		電子機械工学科		情報工学科		学生合計		教員		職員		学外者		合計	
	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人
1	95	60	92	62	93	86	280	208								
	12	8	5	4	8	5	25	17								
2	122	85	32	20	83	57	237	162								
	5	3	1	1	7	3	13	7								
3	147	85	79	50	106	69	332	204								
	4	2	5	2	0	0	9	4								
4	192	100	94	68	204	138	490	306								
	2	2	0	0	6	3	8	5								
5	52	28	88	68	173	107	313	203								
	1	1	2	1	8	3	11	5								
海上 1							8	5								
							0	0								
生産 1							42	31								
							2	1								
海上 2							35	15								
							3	1								
生産 2							33	21								
							2	2								
合計	608	358	385	268	659	457	1770	1155	572	227	181	111	167	43	2690	1536
	24	16	13	8	29	14	73	42	3	3	118	46	25	6	219	97

分類別貸出冊数調

分類別 / 区分	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 工学	6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	その他	合計
学生	260	15	15	144	62	603	1	44	160	466	0	1770
	7	0	0	9	0	16	0	9	9	23	0	73
教員	76	5	26	40	38	165	17	29	49	127	0	572
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
職員	16	7	4	7	3	11	0	6	6	121	0	181
	1	2	2	7	3	0	1	3	2	97	0	118
学外者	2	2	0	3	0	10	0	4	61	85	0	167
	0	0	0	1	0	0	0	6	16	2	0	25
合計	354	29	45	194	103	789	18	83	276	799	0	2690
	8	2	2	17	3	16	1	18	27	125	0	219

※網かけ内は時間外利用

（出典：図書館）

資料７－１－②－４

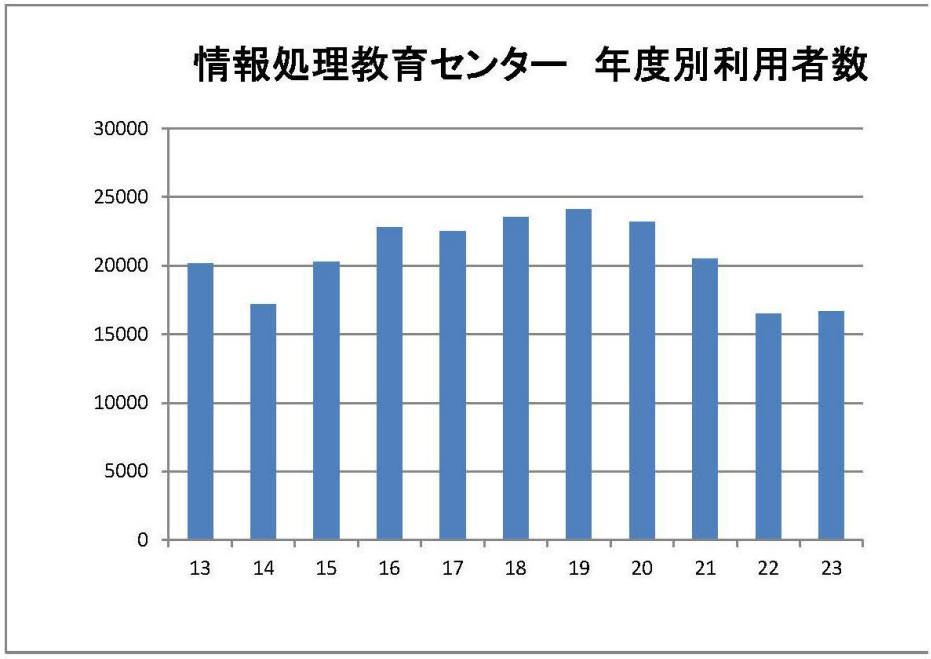
○弓削商船高等専門学校情報処理教育センター利用規則

制　　定　平成９年３月17日
最終改正　平成19年１月18日

（目的）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則第８条の規定に基づき，情報処理教育センター（以下「センター」という。）の利用について，必要な事項を定める。
（利用者の範囲）
第２条　センターを利用することができる者は，次に掲げる者とする。
一　弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員
二　本校の学生
三　その他情報処理教育センター長（以下「センター長」という。）の許可を受けた者
（利用の手続き）
第３条　センターを利用しようとする者は，電子計算機利用申込書（別記様式）に所要事項を記入のうえ，センター長に提出し，その許可を得なければならない。
（機器の操作）
第４条　機器を操作することができる者は，次に掲げる者とする。
一　本校の教職員で，センター長が認めた者
二　本校の学生。ただし，前号に規定する者の指導のもとで行わなければならない。
（利用の方法）
第５条　センターを利用する者は，別に定める「センター利用の手引」を遵守しなければならない。
（利用の制限）
第６条　センター長は，次の各号の一に該当する場合は，利用の許可を取消し又は使用を中止させることがある。
一　利用内容が，センターの目的に反するとき。
二　センターを利用する者が，この規則に違反し，センターの管理運営に支障を生じさせ又は生じさせるおそれのあるとき。
三　その他センターを利用することが不適当と認めたとき。
（利用の時間）
第７条　センターの開館は，月曜日から金曜日（祝日法による休日及び年末年始における休日を除く。）までとし，利用時間は８時30分から17時までとする。ただし，特に必要があると認められる場合は，センター長の許可を得て利用することができる。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集９－１抜粋）

資料７－１－②－５



（出典：情報処理教育センター）

資料７－１－②－６

○弓削商船高等専門学校技術支援センター規則

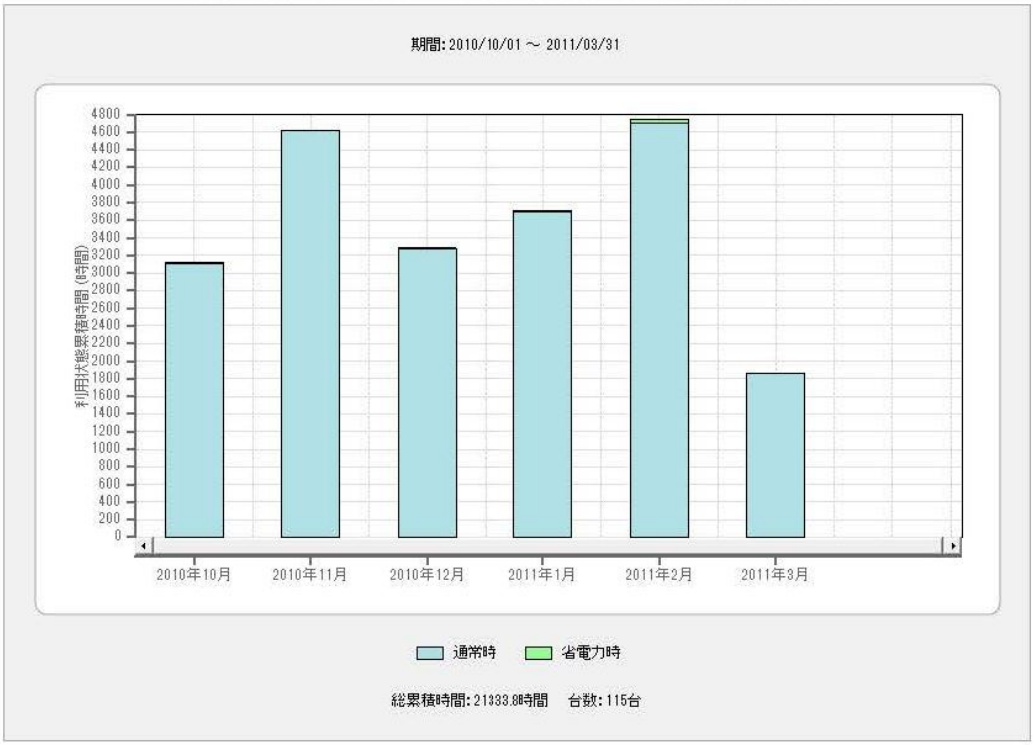
制　　定　平成21年９月30日
最終改正　平成23年12月22日

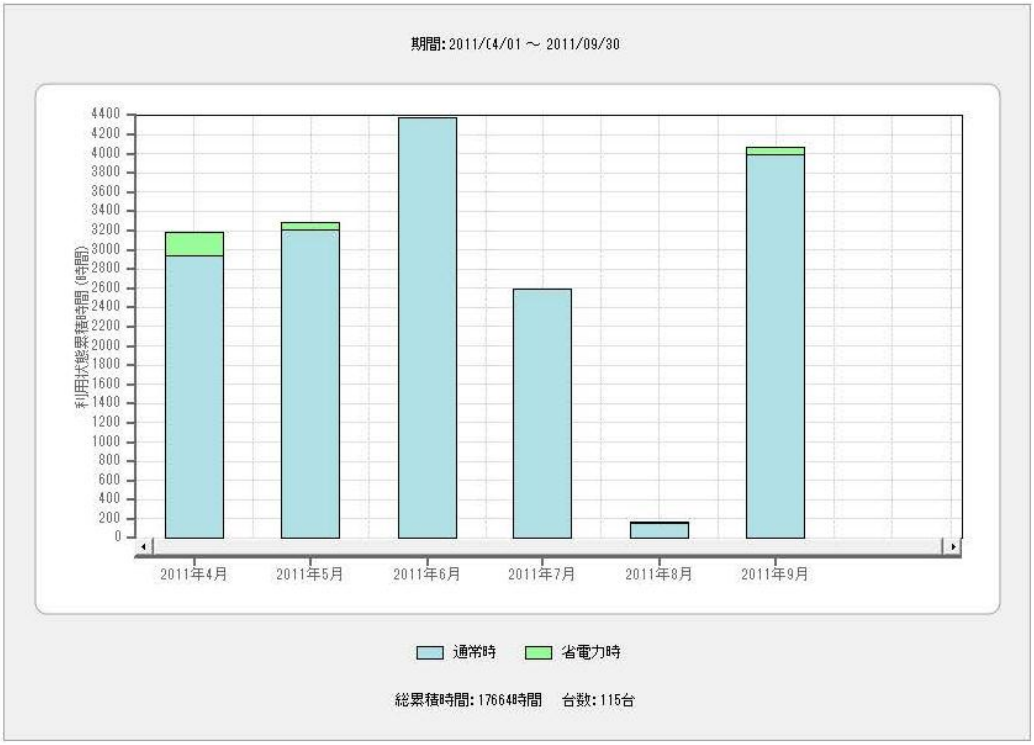
（趣旨）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（規則第４号）第12条及び弓削商船高等専門学校内部組織規則第３条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の技術支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（目的）
第２条　センターは，本校の技術支援に関する専門的業務を組織的，かつ効率的に処理するとともに，技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校の教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。
（業務）
第３条　センターは，次の各号に掲げる業務を行う。
一　教育及び研究に対する技術支援の基本計画に関すること。
二　学生の実験，実習，卒業研究等の準備及び技術指導に関すること。
三　教員の教育研究活動（共同研究を含む。）への技術支援に関すること。
四　地域連携活動，共同研究，公開講座及び各種コンテスト等への技術支援に関すること。
五　技術の習得，継承及び保存に関すること。
六　技術研修，技術講演会等に関すること。
七　実習船係留場施設（練習船を除く。），実習工場，実験室等の共通機器等の保守・管理並びに災害事故防止に関すること。
八　練習船弓削丸の業務支援に関すること。
九　その他センターの目的達成のため必要な事項に関すること。
（組織）
第４条　センターに，第一技術班及び第二技術班を置き，前条に掲げる業務を行う。
一　第一技術班　第３条に掲げる業務のうち，商船系分野に関する事項及び第一技術班の管理運営に関すること。
二　第二技術班　第３条に掲げる業務のうち，電気・電子系分野，機械系分野並びに情報系分野に関すること及び第二技術班の管理運営に関すること。
２　各班は，相互に連携協力してセンターの業務を円滑に遂行するものとする。
（職員）
第５条　センターに，次の各号に掲げる職員を置く。
一　センター長
二　技術長
三　班長
四　技術専門職員
五　技術職員
２　センター長は，本校の教員の中から校長が任命する。
３　センター長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
４　技術長及び班長は，技術専門員及び技術専門職員の中から校長が任命する。
５　校長が必要と認めるときは，センター長を補佐するため，センターに副センター長を置くことができる。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－37 抜粋）

資料７－１－②－７

情報処理教育センター管理　教育用 PC の稼働時間の推移





（出典：情報処理教育センター）

資料７－１－②－８

Welfare Facilities　厚生補導施設等

「青雲館」

Welfare Facilities "Seiun Kan"

「青雲館」は，教職員の福利厚生を図るとともに，校外者の宿泊を目的とした施設で，宿泊室・多目的室・ホール等がある。

`Seiun Kan` is the facility for benefits to the staff and guests stay. It has guest rooms, a multipurpose room, a lobby and so on.



青雲館ロビー [Seiun Kan Lobby]



宿泊室内 [Room]

学生相談室

Counseling Room

学生生活を豊かで充実したものとするため、以下のとおり、相談室を開設し、学生の個人的な悩み事等の相談に応じている。

また、水曜日の午後及び木曜日は専門のカウンセラーによるカウンセリングも行っている。

For students' better lives, we provide the counseling room to listen and offer advice on their concerns.

We offer personal counseling by specialists every afternoon of Wednesday and Thursday.

Place:The second floor of the library

Opening Hours:8:30 ~ 17:00, Monday to Friday

開設場所	図書館２階
開設時間	月曜～金曜日　8時30分～17時00分

「白雲館」

Welfare Facilities "Hakuun Kan"

「白雲館」は，学生の憩いの場及び学生教職員相互のふれあいの場として親しまれ，学生食堂・売店・和室・多目的室等の施設があり，食堂の他に合宿・集会・会議等に利用している。

また，ホールにはテレビが設置されており，学生たちが食後のひとときをすごしている。

`Hakuun Kan` is the place for students and teachers to have mutual communication, training camps, assemblies, meetings and so on. There are a dining room, a school store, Japanese rooms, a multipurpose room, etc.

Students spend the time after meals at the TV in the lobby.



食堂 [Cafeteria]



白雲館 [Hakuun kan]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．31）

資料７－１－②－９

白鷺館宿泊予定及び部屋割表(8/19～9/8)

	日	月	火	水	木	金	土
	8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日	8月24日	8月25日
当直者	ロボット製作部	マイコン部	サッカー部	陸上	陸上	マイコン部	ロボット製作部
掃除	ロボット製作部	マイコン部	サッカー部	陸上	陸上	マイコン部	ロボット製作部
和室1(10人) 12帖			四国地区高専交流事業	四国地区高専交流事業	四国地区高専交流事業	四国地区高専交流事業 14:00まで	
和室2(8人) 10帖	サッカー部 女 2	サッカー部 女 2 陸上 女 1 マイコン部 女 2	マイコン部 女 2 陸上 女 1 サッカー部 女 2	マイコン部 女 2	マイコン部 女 2 陸上 女 1	マイコン部 女 2	マイコン部 女 2
多目的室1(15人)	サッカー部 男 9	サッカー部 男 9 マイコン部 男 5	サッカー部 男 9 マイコン部 男 5	マイコン部 男 5	マイコン部 男 5	マイコン部 男 5	マイコン部 男 5
多目的室2(15人)	陸上 男 10	陸上 男 10	陸上 男 10	陸上 男 10	陸上 男 10	陸上 男 1	陸上 男 1
多目的室3(15人)	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7
合 計	28	36	36	24	25	15	15

	日	月	火	水	木	金	土
	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日
当直者	男子バスケ	男子バスケ部	ラグビー部	ロボット製作部	陸上部	ラグビー部	ラグビー部
掃除	男子バスケ	男子バスケ部	ラグビー部	ロボット製作部	陸上部	ラグビー部	ラグビー部
和室1(10人) 12帖	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7 陸上 男 2	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7	ロボット製作部 男 7
和室2(8人) 10帖	マイコン部 女 2	ラグビー部 女 1	ラグビー部 女 1	ラグビー部 女 1	ラグビー部 女 1	ラグビー部 女 1	ラグビー部 女 1
多目的室1(15人)	マイコン部 男 5	ラグビー部 男 15	ラグビー部 男 15	ラグビー部 男 15	ラグビー部 男 15	ラグビー部 男 15	ラグビー部 男 15
多目的室2(15人)	男子バスケ 男 10	ラグビー部 男 2 男子バスケ部 男 11	ラグビー部 男 2 陸上 男 2	ラグビー部 男 2 陸上 男 2	ラグビー部 男 2 陸上 男 2	ラグビー部 男 2 陸上 男 2	ラグビー部 男 2 陸上 男 2
多目的室3(15人)	陸上 男 1	男子バスケ部 男 14	男子バスケ部 男 11	男子バスケ部 男 11	男子バスケ 男 13	男子バスケ 男 13	男子バスケ 男 13
合 計	25	52	38	38	40	40	40

	日	月	火	水	木	金	土
	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日
当直者	ロボット製作部						
掃除	ロボット製作部						
和室1(10人) 12帖	ロボット製作部 男 7						
和室2(8人) 10帖							
多目的室1(15人)							
多目的室2(15人)	陸上部 男 2						
多目的室3(15人)							
合 計	9	0	0	0	0	0	0

（出典：学生課）

資料７－１－②－10

○弓削商船高等専門学校環境美化委員会規則

制　　定　昭和60年４月23日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校環境美化委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，校内植栽，造園等の環境美化に関する事項を審議する。
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　事務部長
(2)　各学科及び総合教育科から選出された教員各１名
(3)　各課長
２　前項第２号の委員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ　指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，総務課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則
この規則は，昭和60年４月23日より施行し，昭和60年４月１日から適用する。

附　則
この規則は，平成12年４月１日から施行する。

附　則
この規則は，平成17年４月１日から施行する。

附　則
この規則は，平成19年４月１日から施行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－22 抜粋）

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点にかかる状況）

学習支援に関する学生のニーズは，学級担任との個人面談を通じて把握を図っている。学習支援体制に対する要望，資格試験や留学等の相談内容は，学級担任がそれぞれの担当教員と連携を図り対応する体制としている（資料７－１－③－１）。また，入学時にもアンケートを行い，どのようなことに興味を持っているのか調査を行っている（資料７－１－③－２）。

図書館では，図書購入について学生の希望調査を実施している（資料７－１－③－３）。

海技試験受験を含め，各種資格試験の支援は，担当教員を当該資格免許等の保持者から個別に選出し，担当教員を学内に掲示することで学生に周知し，資格試験に関する窓口となり，相談と試験への対応を行う支援体制を整備している（資料７－１－③－４）。

本校への入学動機として，資格試験を目指す学生が少なくない。受験者数と合格者数を資料７－１－③－５に示す。入学後，相当数の学生が資格試験を受験している。なお，学生のモチベーションを高めるためにも，資格取得により単位認定を行う科目も設けている（資料５－１－②－８）。

商船学科の教育課程を修了すれば，三級海技士試験の筆記試験が免除される。準学士課程で受講した科目の内容と船舶職員養成施設として教授すべき要件との整合性をシラバスに養成施設関連単位数（時間数）を明記して整備し，口述試験や上級海技士試験受験のための学習目標を設定しやすくなるよう配慮し，機能させている（資料７－１－③－６）。

平成 22 年６月，国際交流推進室を設置し，国際交流の体制整備を行った（資料７－１－③－７）。本校は，タイ王国ナコンパノム大学と国際交流協定，ハワイ大学カウアイコミュニティーカレッジと商船系５高専との包括的国際交流協定を締結している。また，学生の国際交流活動を活性化するため，学生の外国留学及び海外研修に関わる業務だけではなく，外国の交流協定校等との学生交流又は海外インターンシップへ参加する本校学生に対する助成並びに交流協定校等から国際交流を目的に来校する教職員，学生へも助成を行っている（資料７－１－③－８）。さらにＹＦＵやＡＦＳなどの国際交流財団からの留学募集情報を掲示するとともに担任から学生に周知している。平成 24 年度の海外留学実績は，資料７－１－③－９に示すとおり長期・短期留学に学生が参加している。

（分析結果とその根拠理由）

学習支援に関する学生のニーズの把握は，学級担任との個人面談を通じて把握を図っている。学習支援体制に対する要望，資格試験や留学等の相談内容は，学級担任がそれぞれの担当教員と連携を図り対応する体制としている。資格試験受験のための支援としては，受験相談・指導を行う担当教員の選出，資格取得学生への単位の認定，商船学科におけるシラバスの活用などの支援体制を備えており，機能している。

学生の外国留学のための支援としては，国際交流推進室を設置し，国際交流の支援体制が整備されており，長期・短期留学に学生が参加している。

以上のことから，学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，資格試験や検定試験受験，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているといえる。

資料７－１－③－１

項　目	業　務　内　容	実施時期
授業受講態度に関する指導	○チャイム時には着席している、その科目に必要な教科書・ノート・電卓等を机上に用意しておく等最低限のマナーを指導する。 ○教員の入室後直ちに、クラス代表が「起立、･･･」の号令をかけるよう指導する。 ○授業中の飲食の厳禁、携帯電話の電源 OFF、授業に関係ない雑誌、物品等の持ち込み禁止、他教科のレポート書き等（いわゆる内職）は特に厳しく指導する。 ○居眠りをしないよう努力させるとともに、居眠りをしている学生を起こすよう努めさせる。 ★学生が先生やクラスメートの話しに耳を傾け、積極的に質問・発言するクラスは、教科担当教員も授業がしやすく、クラスの評判が良くなる。	常時
個別指導	○年度当初の早い時期に、学習意欲、進路、クラブ活動、家庭生活等を把握するために個人面接を行う。 ○急に成績が下がる学生には何らかの原因（家庭、進路、友人関係、アルバイト等）があるので、それを明らかにして適切に対処する。 ○低学年生（特に１年生）は高専における勉強方法がわからない、あるいは勉強意欲が湧かないため、成績が低迷し挫折に至る例が後を絶たない。このことを念頭に置いて、クラス全体への指導及び個別指導を行う。 ★全体的には問題がないのに、特定の科目の成績が極端に悪い、あるいは欠席が多い場合には、その教科担当教員との人間関係に問題がある場合がある。学生の言い分をよく聞いて、その原因の除去に努める。	年度当初及び常時
教科担当教員との連携	○クラス全体および学生個々の学習姿勢について、教科担当教員と連絡を密にとり、必要に応じて適切な指導を行う。	適宜
学科主任との連携	○クラス全体および学生個々の学習姿勢について、問題がある場合は学科長などと連携をとる。	

（出典：学生課）

資料７－１－③－２

○入学動機に関するアンケート調査集計結果（平成２４年度）

高専番号	高専名	学科名	学科番号	入学定員	在籍者数	回答者数	1　志望動機（３つまで回答可）													その他の具体例
							教育内容	５年一貫教育	早期専門教育	就職率	大学進学	専攻科	ＪＡＢＥＥ認定	教員	寮	英語・理学語彙	ロボコン	課外活動	その他	
		計		120	119	119	62	12	51	92	6	14	2	9	23	12	9	10	6	
41	弓削商船高等専門学校	商船学科	701	40	42	42	17	1	16	33	1	7	1	4	10	5	0	5	2	船に興味がある。世界で仕事がしたい。
41	弓削商船高等専門学校	電子機械工学科	203	40	39	39	26	5	16	30	4	4	0	3	7	6	7	3	1	父が卒業生
41	弓削商船高等専門学校	情報工学科	304	40	38	38	19	6	19	29	1	3	1	2	6	1	2	2	3	親の話を聞いて

（出典：学生課）

資料７－１－③－３

購 入 希 望 図 書 申 込 用 紙

※ 希望する本やそれに代替する資料が所蔵されていないことを確認してください。
文庫本は受付できません。
参考書･資格試験問題集を優先します。
小説の希望にも応じることができますので職員までご相談ください。

学科･学年		氏　名	
書　　名		著　者	
出 版 社		金　額	

（出典：図書館）

資料７－１－③－４

各種資格試験の相談窓口等

資格試験名	受験相談・指導	手続き窓口
○漢字検定（＊）	国語担当教員（G）	神谷先生・猪川先生（G）
○実用英語技能検定（＊）	英語担当教員（G）	坂内先生（G）
○実用数学技能検定（＊）	数学担当教員（G）	藤井清先生（G）
○TOEIC（＊）	英語担当教員（G）	野口先生（G）
○海技士（航海系）	商船学科教員（S）	永本先生（Y）
○海技士（機関系）	商船学科教員（S）	村上（英）先生（S）
○小型船舶操縦士	多田先生（S）	多田先生（S）
○海上無線通信士	多田先生（S）	多田先生（S）
○日本語ワープロ検定（＊）	益崎先生（M）	情報処理教育センター
○ホームページ作成検定（*）	益崎先生（M）	情報処理教育センター
○工業英語能力検定（＊）	ガンバット先生（M）	ガンバット先生（M）
	葛目先生（I）	葛目先生（I）
○電気工事士	木村先生（M）	木村先生（M）
○電気主任技術者	木村先生（M）	木村先生（M）
○CAD検定（＊）	中山先生（M）	中山先生（M）
	桝田先生（I）	桝田先生（I）
○パソコン検定（P検）（＊）	田房先生（I）	情報処理教育センター
○情報処理技術者	情報工学科教員	情報処理教育センター
・ITパスポート		
・基本情報技術者		
○CG-ARTS検定（＊）	塚本先生・田房先生（I）	田房先生（I）
・CGクリエイター		
・CGエンジニア		
・画像処理エンジニア		
・マルチメディア		
・WEBデザイナー		
○ボイラー技士	松永先生（Y）	松永先生（Y）
○危険物取扱者	松永先生（Y）	松永先生（Y）
○高圧ガス製造保安責任者（冷凍機械）	松永先生（Y）	松永先生（Y）
○毒物・劇物取扱主任者	伊藤武先生（G）	伊藤武先生（G）
○QC検定	塚本先生（I）	塚本先生（I）

注）手続き窓口が明記してある資格試験の合格者については、担当の先生の方から教務係に連絡をしてもらいますが、それ以外の資格試験については、合格者本人が教務係に連絡をしてください。

S：商船学科　M：電子機械工学科　I：情報工学科　G：総合教育科　Y：練習船
＊：本校試験会場（ただし、少人数の場合、実施できない試験あり）

（出典：学生課）

資料７－１－③－５

平成21年度～24年度　資格取得者

資格試験名			21	22	23	24
海技士（航海）		1級				2
		2級	3	3	4	3
海技士（機関）		1級	1	3		1
		2級	4	1	7	2
海上無線通信士		第3級	2			2
小型船舶操縦士		2級				7
ボイラー技士		1級		1		
		2級			2	
潜水士						1
電気工事士		第二種	4	8		11
危険物取扱者		乙種第1類	2			
		乙種第2類	1			
		乙種第4類	13	5	12	3
高圧ガス製造保安責任者		乙種機械	1			
CAD利用技術者試験		2級		5		
品質管理（QC）検定		2級				1
		3級				16
		4級				16
CGクリエイター検定		3級	2			
	ディジタル映像部門	エキスパート		2		
		ベーシック		13	5	
	Webデザイン部門	ベーシック		3	2	
		エキスパート				1
		ベーシック				15
Webデザイナー検定		ベーシック				6
CGエンジニア検定	CG部門	エキスパート		1		
		3級	1			
		ベーシック		5	6	
	画像処理部門	ベーシック		14	9	
		3級	7			
		エキスパート				1
		ベーシック				11
画像処理エンジニア検定		ベーシック				13
マルチメディア検定		ベーシック		1		4
情報処理技術者試験	基本情報技術者		4		5	4
	ITパスポート		4		4	0
初級システムアドミニストレーター			1			
ホームページ作成検定		3級	1			
パソコン検定（P検）		準2級	4		1	4
		3級			31	25
		4級			31	29
日本語ワープロ検定		1級				1
		3級			1	
マルチメディア検定		ベーシック			3	
実用英語技能検定		2級			1	
工業英語能力検定		3級	3	1		1
		4級	9	14	14	4
漢字検定		2級	1	1		
		準2級	3	4		
		3級	3	2		
		4級	1			

（出典：学生課）

資料７－１－③－６

授業科目	電子工学１			担当教員	柳沢　修実		
学　科	商船学科	学　年	4年	授業期間	通年	単位数	2
分　野	専門	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	電子回路の基礎として、主に増幅回路について、基本素子の特性、電流の流れ、電圧のかかり方などから動作原理を理解し、実用回路を設計できることを目標とする。						
進め方	講義を基本とする。項目毎に練習問題を解き、単元毎に小テストを実施する。						

学習内容	学　習　項　目	（時間数）	学習到達目標
	ガイダンス	1	
	電子工学の背景	2	電子工学の発達の流れを理解する。
	抵抗、コンデンサー、コイル	2	基本法則を復習し、回路に応用できるようにする。
	キルヒホッフの法則	2	法則を復習し、回路に応用できるようにする。
	半導体	3	バンド構造から金属、絶縁体、半導体を理解する
	前期中間試験	1	
	電子と正孔、半導体の種類	4	半導体の伝導現象の仕組みと種類を理解する。
	ダイオード	4	ダイオードの基本動作原理を理解する。
	トランジスタ	6	トランジスタの基本動作原理を理解する。
	FET	5	FETの基本動作原理を理解する。
	前期期末試験		
	トランジスタ増幅回路の接地方式の種類と特徴	2	接地方式の種類と特徴を理解する。
	増幅回路の電流の流れ方と電圧のかかり方	4	電流の流れ方と電圧のかかり方を理解する。
	静特性、バイアス点と動作点	4	静特性と動特性を理解する。
	hパラメータと等価回路	2	回路をhパラメーと等価回路で表現することができる。
	後期中間試験	1	
	熱暴走と安定度	2	半導体と熱の関係より熱暴走と安定度を理解する。
	増幅回路の設計と改良	5	基本的な増幅回路を設計できるようにする。
	FET増幅回路	5	FET増幅回路の基本動作原理を理解する。
	オペアンプ	5	オペアンプの基本動作原理を理解する。
	後期期末試験		

養成施設引当て科目＆単位 免許講習引当て時間	航海コース			機関コース		
	航海計器	0.2	6時間	電気・電子	2.0	60時間
	電波航法	0.2	6時間			

評価方法	中間・期末試験、小テスト、ノート、レポート、授業態度を含めた総合成績		
関連科目	電磁気学、電気回路、電気機器		
教科書等	【書名】電子回路（参考書）	【著者】末松安晴他	【発行所】実教出版
備　考			

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．116）

資料７－１－③－７

○弓削商船高等専門学校国際交流推進室規則

制　　定　平成 22 年６月 21 日

（設置）

第１条　弓削商船高等専門学校に，留学生交流及び国際教育研究交流の推進を図るため，弓削商船高等専門学校国際交流推進室（以下「推進室」という。）を置く。

（業務）

第２条　推進室は，次の各号に掲げる業務を行う。

（１）外国人留学生の受入れに関する事項

（２）学生の留学及び海外研修に関する事項

（３）外国及び国内の大学等との協定に関する事項

（４）外国及び国内の大学等との教職員の交流に関する事項

（５）その他本校の国際交流の推進に関する事項

（組織）

第３条　推進室は，次の各号に掲げる室員をもって組織する。

（１）国際交流推進室長

（２）国際交流推進室副室長

（３）留学関係担当　若干名

（４）国際学術交流関係担当　若干名

（５）各課長及び企画広報室長

２　前項第１号から第４号の室員は，教員の中から校長が指名する。

３　前項第１号から第４号の室員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（室長及び副室長）

第４条　推進室に室長及び副室長を置く。

２　室長は，推進室に関する業務を総括する。

３　副室長は，室長の業務を補佐する。

４　室長に事故があるときは，副室長がその職務を代行する。

（庶務）

第５条　推進室に関する庶務は，企画広報室及び学生課において処理する。

附　則

１　この規則は，平成 22 年７月１日から施行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－39 抜粋）

資料７－１－③－８

○弓削商船高等専門学校国際交流助成要項

制　　定　平成23年５月26日
最終改正　平成23年11月７日

第１項　弓削商船高等専門学校学生（以下「本校学生」という。）の国際交流活動を活性化するため，外国の交流協定校等との学生交流又は海外インターンシップ（※）へ参加する本校学生に対する助成並びに交流協定校等から国際交流を目的に来校する教職員，学生への助成に関し必要な事項を定める。

第２項　助成金の申請ができる者は，外国の交流協定校等との学生交流又は海外インターンシップへの参加者とする。

第３項　本助成については，専攻科を含む在学中に１回限り受けることができるものとする。ただし，校長が特に認める場合は，この限りではない。

第４項　助成内容及び助成額は，次のとおりとする。

［本校学生が国際交流を目的に渡航する際の助成］

一　本校学生が外国の交流協定校等へ留学（語学研修を含む。）又は海外インターンシップへの参加の際に助成するものとする。

二　申請時期は，原則５月とする。

三　助成対象者の選考に際しては，原則として高学年の者を優先するものとする。

四　助成額は，参加に必要となる交通費，滞在費及び語学研修費用の合計額とし，５万円を上限とする。ただし，他の財団等からも支援を受けているときは，交通費，滞在費及び語学研修費用の合計と支援額との差額を５万円を上限に助成する。

［交流協定校等から国際交流を目的に来校する教職員，学生に対する助成］

一　交流協定校等から国際交流を目的に来校する教職員，学生の滞在に対して，受け入れ責任者から申請があった場合に助成するものとする。

二　助成金の算定単価は，１人につき，１泊あたり４千円とする。

三　助成金は，受入人数，期間（ホームステイ期間は除く。）に応じて受け入れ責任者に支払うものとし，ホームステイをした場合は，その人数，期間に応じてホームステイ受け入れ先に支払うものとする。

第５項　助成を実施するために必要な経費の年間予算は，４０万円を目処とする。

第６項　助成金を受けようとする者は，別紙様式「弓削商船高等専門学校国際交流助成申請書」により，専攻科長又は学科長を通じて（受け入れの場合は受け入れ担当教員が）学校長あてに申請するものとする。

第７項　助成金の採択は，申請のあったもののうちから校長が決定するものとする。

附　則

（出典：弓削商船高等専門学校規則集６－28 抜粋）

資料７－１－③－９

平成24年度海外留学実績

大学名	国　名	期　間	クラス	人数
ナコンパノム大学	タイ	平成24年12月18日～平成24年12月28日	商船学科4年	1名
			情報工学科4年	4名
			生産システム工学専攻1年	1名
			生産システム工学専攻2年	1名
カウアイコミュニティカレッジ	アメリカ合衆国ハワイ州	平成25年3月10日～平成25年3月27日	商船学科3年	2名
ウエストレイクボーイズハイスクール	ニュージーランド	平成24年11月1日～平成25年9月30日	電子機械工学科3年	1名
インパクトイングリッシュカレッジ	オーストラリア	平成25年3月18日～平成25年12月23日	情報工学科4年	1名

（出典：学生課）

観点７－１－④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点にかかる状況）

留学生の教育や学習支援について検討するために留学生委員会が設置されている（資料７－１－④－１）。留学生には留学生指導教員とチューターを配置し，生活，学習の支援を行っている（資料７－１－④－２）。入学直後には主事によるオリエンテーションを行っている（資料７－１－④－３）。また，一部の授業を「日本語」，「日本事情」に振り替えて，語学力の向上等の学習支援に努めている（資料７－１－④－４）。

編入学生については，留学生と同様に主事によるオリエンテーションと所属学科を中心にした支援体制の下で入学前学習や補習授業などの支援を行っている（資料７－１－④－５，６）。

発達障害のある学生に対しては，学科教員（担任，就職担当）が保護者，カウンセラーと連携しながら支援する体制の下で，学習及び就職の支援を行っている（資料７－１－④－７）。

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対しては，留学生委員会を設置し，チューター制度の導入，オリエンテーションの実施，英文科目案内の配布，「日本語」，「日本事情」の授業，国内旅行などが行われている。また，編入学生には，オリエンテーションの他，学科を中心にした支援体制の下で入学前学習や補習授業も実施している。障害のある学生に対しては，学科教員が保護者やカウンセラーと連携しながら支援する体制の下で，学習及び就職の支援を行っている。

以上のことから，特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備され，必要に応じて学習支援が行われている。

資料７－１－④－１

○弓削商船高等専門学校外国人留学生規則

制　　定　昭和63年10月13日
最終改正　平成22年６月21日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校学則第54条第３項の規定に基づき，外国人留学生（以下「留学生」という。）について必要な事項を定める。

（外国人留学生委員会）
第５条　外国人留学生に関する必要な事項を審議するため，外国人留学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第６条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　留学生の受入に関する事項
(2)　留学生の教育指導に関する事項
(3)　留学生の厚生補導に関する事項
(4)　留学生の寮務に関する事項
(5)　その他校長が必要と認めた事項
（組織）
第７条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　各主事
(2)　各学科長及び総合教育科長
(3)　国際交流推進室長及び副室長
(4)　第８条第１項に定める留学生指導教員
(5)　学生課長
２　委員会に委員長を置き，教務主事をもって充てる。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集６－７抜粋）

資料７－１－④－２

弓削商船高等専門学校

チュートリアル報告書

留学生氏名	電子機械工 学科 3 年 [redacted]
チューター氏名	電子機械工 学科 3 年 [redacted]
報告年月日	平成24年度 (前期中間) 前期期末 後期中間 後期期末

留学生の教育についての個別の課外指導等の実施について

例　国語の授業の予習を指導した。(3回)

例　過去の試験問題をテキストにして、試験勉強の指導をした。(熱力学、海事工学)

過去の試験問題をテキストにして、
試験勉強の指導をした。(機械材料学)

留学生への日本語指導・日常生活のケアについて

(例)漢字の意味など、質問を受ける毎に指導した。

(例)頭痛を訴えたので、因島の病院まで連れて行った。

言葉の意味や似た漢字について、質問を
受ける毎に指導した。

チューター自身の国際理解の向上について

(例)宗教上の教義に厳格なことに驚いた。

(例)留学生の「国のためにガンバル」という発言に感銘を受けた。

海外の教育事情に驚いた。

レクリエーション等の実施について

(例)ショッピングと観光のため、尾道に連れて行った。

(例)他の留学生も誘って、島内で海水浴を行った。

息抜きのため、買物に連れて行った。

この報告書は、チューターが年４回の試験最終日（前期中間　前期期末　後期中間　後期期末）に作成し担任に提出すること。

（出典：学生課）

資料７－１－④－３

平成２４年度当初のスケジュール（新外国人留学生）

学級担任は，あらかじめ学寮で外国人留学生にスケジュールの説明。

４月９日（月）

8:30	学生課教務係に集合
8:35	教務主事補は第２体育館に誘導（司会者の横で待機）
8:40	着任式終了後，始業式で「外国人留学生紹介」を行う。 外国人留学生はステージに上がり，簡単な自己紹介を行う。
9:40～	ＨＲ（級長等の役員選出，クラス運営の説明など）（式終了後学級担任誘導） その後の行動は，学級担任の指示に従う。 ※学級担任は，級長等任命式があるため，役員を至急教務係へ報告する。
10:30～	顔写真撮影（白雲館　３年） 教科書等購入（第２体育館横プレハブ　３年） （教科書等代金が必要です。）
16:00～	入寮式（入寮者のみ）（学寮：寮務関係教職員）

４月１０日（火）

9:15	学生課教務係に集合（フォーマルな服装）
9:20	式場へ入場（教務主事補は，指定された座席に誘導）
10:00～	入学式

４月１１日（水）	通常日課（特別授業時間割）
8:40	授業開始
16:10	授業終了
16:20～17:00	外国人留学生オリエンテーション①（第２会議室：教務主事他）

４月１２日（木）	通常日課（特別授業時間割）
8:40	授業開始
16:10	授業終了
16:20～17:00	外国人留学生オリエンテーション②（第２会議室：学生主事他）

４月１３日（金）　通常日課（特別授業時間割）

（出典：学生課）

資料７－１－④－４

授業科目	日本語　　１／２			担当教官	丸山光子		
学科	電子機械工学科	学年	３年留学生	授業期間	通年	単位数	2
分野	一般	授業形態	講義・対話	履修区分	必修		
学習目標	上級話者の会話における適切な表現や語彙を身につけ、日本社会においてよりよい人間関係が構築できるようにする。 異文化に対する理解をより深め、自国と日本の架橋になる。						
進め方	１．会話における適切な表現のマスター、言語外行動の理解及び、読解により語彙数の増加 ２．視聴覚教材を活用し、リスニング力を強化する。 ３．「話す」「聞く」「読む」「書く」の４技能のレベルアップを図る。						

学習内容	学習項目　（時間数）	学習到達目標
	【日本語上級話者への道】	
	４課　町の様子を話そう　（４）	話の構成を考えて話題毎に話す。
	５課　動きの順序を説明しよう　（４）	順序を示す言葉を使いこなす。
	８課　比べて良さを伝えよう　（４）	場面に適した説明表現を使いこなす。
	９課　ストーリーを話そう　（４）	接続の表現を効果的に使う。
	10課　最近の出来事を話そう　（４）	引用を効果的に使う。
	11課　健康について話そう　（４）	社会的な話題を論理的に話す。 因果関係を説明する。
	12課　将来の夢を語ろう　（４）	理由や背景とともに考えを説明する。 抽象的な表現を使いこなす。
	【日本語超級話者へのかけはし】	
	11課　犯罪傾向から 現代社会を語ろう（６）	詳細に描写する。 事実とともに意見・感想を述べる。 社会的背景にも配慮する。
	12課　マスコミの功罪について 討論しよう（６）	複眼的視点を持って意見を述べる。 原因を理解した上で解決策を述べる。 異なる意見を尊重する。
	【テーマ別中級から学ぶ日本語】	
	21課　まもる　（６）	環境問題について考える。
	22課　ふれあう　（８）	異文化理解。
	23課　なおす　（８）	臓器移植について考える。

評価方法	定期試験、小テスト、課題、作文、授業への取り組み（出席・授業態度）
関連科目	日本事情　など
教科書等	「日本語上級話者への道」「日本語超級話者へのかけはし」「テーマ別中級から学ぶ日本語」「中・上級者のための速読の日本語」「聴くトレーニング」「留学生のための日本事情入門」 【発行所】スリーエーネットワーク、研究社、など
備考	授業のはじめに毎回 10 分程度、速読、またはリスニングをやる。

（出典：平成 24 年度授業科目シラバスＰ．289）

資料７－１－④－５

平成２４年度当初のスケジュール（新編入学生）

４月９日（月）
13:30～15:00　制服等購入，写真撮影（白雲館）
14:00～15:30　教科書，制靴等の購入（第２体育館横プレハブ）
16:00～　入寮式（入寮者のみ）（学寮：寮務関係教職員）
※学級担任は，学寮で編入学生にスケジュールの説明

４月１０日（火）
9:15　学生課教務係に集合（制服・制靴）
9:20　式場へ入場（教務主事補は，指定された座席に誘導）
9:50　保護者入場（教務係長案内）
10:00～　入学式
入学式終了後　編入学生‥‥学級担任との懇談（学級担任誘導：研究室）
保護者‥‥‥説明会（アセンブリホール），終了後直ちに学級担任との懇談会（研究室）
※保護者の方１名分のみ食券を用意しております。（他の付添の方は食堂で食券を購入してください。）
食事は「白雲館」で食券を提示のうえ１４時３０分までにお願いします。

４月１１日（水）　通常日課（特別授業時間割）
8:40　授業開始
16:10　授業終了
16:20～17:00　編入学生オリエンテーション①（第２会議室：教務主事他）

４月１２日（木）　通常日課（特別授業時間割）
8:40　授業開始
16:10　授業終了
16:20～17:00　編入学生オリエンテーション②（第２会議室：学生主事他）

４月１３日（金）　通常日課（特別授業時間割）

（出典：学生課）

資料７－１－④－６

電子機械工学科合格者の皆様へ

平成 24 年８月 10 日
弓削商船高等専門学校
電子機械工学科長　藤本隆士

電子機械工学科に合格おめでとうございます。
まだ、大学や他の高専の受験を控え、頑張っている方もいらっしゃると思います。悔いのないよう全力を尽くして下さい。本校への入学手続きは３月ですので、それまでに十分に考え、ご家族や先生方とも相談して、是非とも本校を選択していただけると幸いです。

さて、本校の「商船だより」「専攻科だより」および電子機械工学科のパンフレットを同封いたします。電子機械工学科のパンフレットではどのような人材として育ってもらいたいかや、学科内の一部の研究室紹介。また、専攻科、大学３年次編入や就職先などを紹介しています。電子機械工学科は幅広く色々科目を勉強するので、電気系・機械系・エコロジー系・ロボット系などと進路も幅広いのが特徴です。進路の選択の際に参考にして下さい。

電子機械工学科の入学前にどのような準備や勉強をしておけば良いか、卒業後の進学先や就職先はどうなっているのか、クラブ活動はできるのか、寮生活は快適か、など色々な疑問もあると思います。何か知りたいことがあれば、先輩に聞いても良いですし、下記連絡先にメールして貰っても良いです。ちなみに、一昨年度に編入学し、現在５年生となっている編入学生は３名おり、１名は現在受験中で、２名は既に国立大学への進学が決定しています。昨年度に編入学した現在４年生は４名おり、勉強にもクラブ活動にも積極的に取り組み、本校での生活を楽しんでおります。

皆様も、残り少ない高校生活を充実してお過ごし下さい。それでは、本校に入学し、来年４月にお会いできることを楽しみにしています。

〒795-2593 愛媛県越智郡
弓削商船高等専門学校　電子
Phone/Fax: 0897-77-46
e-mail: fujimoto@mech.yug

合格者の皆様へ

平成24年8月10日
情報工学科長　長尾　和彦

まずは、合格おめでとうございます。学力検査を経て本校の合格通知を受け取った皆さんの中には、他高専や大学の入試が控えており、まだまだ気が抜けない方もいることでしょう。ご存じのとおり、学力検査を経た場合、本校への入学意思表示の期限は来年３月ですので、それまでじっくりご自身の進路について考えていただけますが、最終的には、本校への入学を決心してくださることを確信しております。

本紙は、入学までの支援体制や，学力検査を経た合格者向けに本校の特長についてお知らせするためのものです。

入学までの支援体制について

本校への入学までは、期待で胸がいっぱいの人もいれば、友達ができるか、勉強についていけるかなど、色々なことが不安な人もいると思います。本校情報工学科では、入学前の皆さんの不安や疑問を少しでも解消できるよう、しっかり支援して参ります。具体的には、次のことを実施します。

- 校内広報誌「商船だより」「専攻科だより」、学科広報誌「ひとづくり」の送付。校内の様子を知っていただき、学校生活のイメージを膨らませてください。本校ホームページ http://www.yuge.ac.jp/ でも随時公開しております。
- 学習の支援。現在の学習内容については、本校ホームページのシラバスを参照してください。使用教科書などのデータが確認できます。入学後は、希望者を対象に、数学（微分、積分など）や専門科目（Java のプログラミングなど）の補講を行いますが、疑問点などありましたら、入学前でも相談可能です。
- 編入学担当教員が、本校情報工学科に関する質問にお答えする体制。担当の徳田宛て（tokuda@info.yuge.ac.jp）に、どんな些細なことでも構いませんし、メールの体裁など気にせず気軽に聞いてください。ケータイメールの場合、PC メールの着信を拒否しない設定にしてください。

本校の特長について

以下では、他高専との違いについて紹介します。学力検査を経た皆さんの学校選びの参考にし

（出典：学生課）

資料７－１－④－７

個別ケア会議記録

個人情報等保護のための削除

（出典：担当教員）

観点７－１－⑤：　学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点にかかる状況）

本校の学生会は,「学校の指導の下に学生の自発的な活動を通じて，その人物形成を助成し高等専門教育の目的の達成に資する」ことを目的に設けられており（資料７－１－⑤－１），学生主事・主事補及び関係教員が支援する体制を整備している（資料７－１－⑤－２）。学生会は，クラブ活動の総括や商船祭，校内体育大会，新入生の歓迎会などの推進母体となり，また，ＮＰＯ法人グリーンキャンドゥとのボランティア活動，東日本大震災の募金活動（資料７－１－⑤－３，４）にも参加しており，学生主事・主事補及びクラブ顧問が学生の支援に当たっている。施設としては，学生会室を設け，パソコンやプリンターを設置し，学生会役員の活動支援として整備し，学生会関係の行事打ち合わせや準備に活用している。

クラブ活動に関しては,全教員が必ず何らかのクラブ顧問を担当しており（資料７－１－⑤－２），放課後の練習における指導や支援及び対外試合の引率を行っている。また，船舶免許を有する教職員により実習船「はまかぜ」を利用した移動面での支援も行っている（資料７－１－⑤－５）。さらに，本校では，体育系クラブの主将を対象に，クラブを運営していくために相応しいトレーニング法の習得や校内各所に配置しているＡＥＤ（半自動除細動器）を使用した救急救命法に関する基礎知識，クラブ員の人間的成長を助けることができる能力を身に付けることを目的として，年１回リーダー研修を実施している（資料７－１－⑤－６）。

クラブ費（学生会予算）は，毎年配分の見直しが行われており，各部の主将及び学生会役員が中心になって原案が作成され，学生総会において決定されている（資料７－１－⑤－７）。

学生活動や課外活動に対して，後援会から支援を行っている（資料７－１－⑤－８）。特に，クラブ活動に必要な施設・設備の整備費のほか，競技連盟（協会）登録費や大会参加費・旅費（引率教員も含む）等の経費として支援されている。

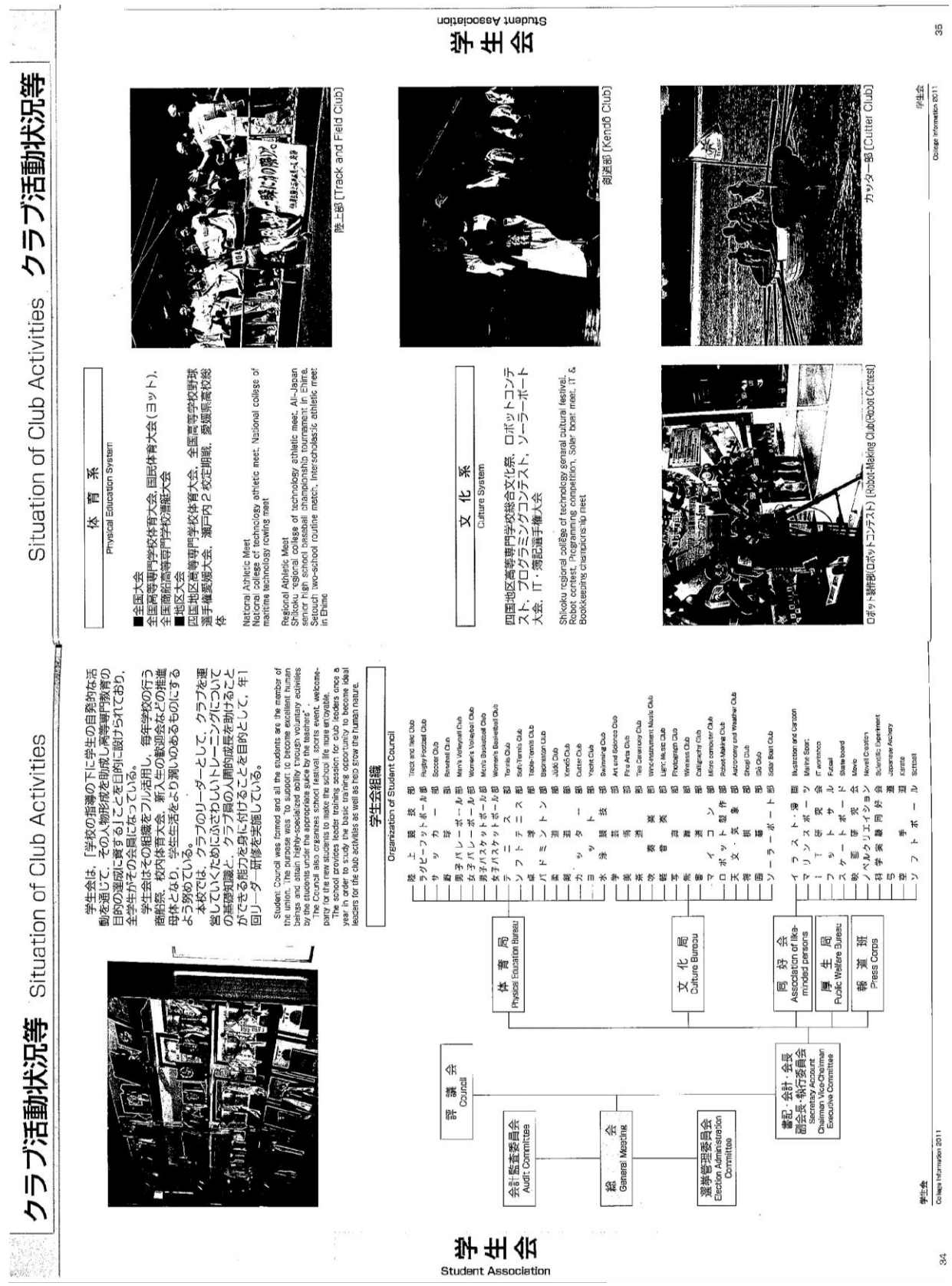
学生会室やクラブ活動で使用する部室等は，適切に整備されている。また，長期休暇中に，顧問等の宿直の下で，福利厚生施設「白雲館」を利用した合宿の支援を行っている（資料７－１－⑤－９）。

（分析結果とその根拠理由）

学生会及びクラブ活動について,学生主事･主事補及び関係教員が支援する体制を整備している。施設面では，学生会室やクラブ活動で使用する部室及び合宿施設等が，適切に整備されている。顧問教員は，放課後の練習指導・支援や対外試合の引率を行い，船舶免許を有する教職員により実習船「はまかぜ」を利用した移動面での支援も行っている。クラブ活動費については，学生会予算及び後援会から支援を行っている。また，リーダー研修を実施し，トレーニング法の習得や校内に設置しているＡＥＤ（半自動除細動器）の使用法を指導している。

以上のことから，学生の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能している。

資料７－１－⑤－１



（出典：2011 学校要覧Ｐ．34，35）

資料７－１－⑤－２

平成２４年度クラブ・同好会顧問等名簿

平成２４年４月２日現在

部　局	顧　問　教　員	部員数	
１．総　局	濱中　葛目	0	
２．体　育　局	水崎　田房	0	
陸　上　部	※村上（知）・友田		※
男子バレー部	※野口・山崎		※
女子バレー部	※峯脇・伊藤（芳）		※
ソフトテニス部	※久保・雙知		※
卓　球　部	※藤井（清）・坂内・大根田		※
サッカー部	※永本・房野・秋葉		※
男子バスケット部	※水崎・前田		※
女子バスケット部	※多田（光）・桝田（温）		※
柔　道　部	※葛目・松永		※
剣　道　部	※田房・岡本・山尾		※
野　球　部	※中山・児玉 長井・湯田		※ ※
水　泳　部	※藤本・徳田		※
テニス部	※濱中・益崎・鶴		※
ラクビー部	※中・伊藤（武）		※
カッター部	※高岡・柳沢・向瀬・森		※
ヨット部	※高木・二村・村上（英）・野々山・檜根		※
バドミントン部	※上江・政家・ガンバット		※
３．文　化　局	猪川	0	
学　芸　部	※多田（光）		※ 休部
美　術　部	※岡本・塚本		※
茶　道　部	※勘久保		※
吹奏楽部	※日下・峯脇		※
軽音楽部	※野々山・勘久保		※
写　真　部	※塚本・向瀬		※
無　線　部	※葛目		※ 休部
書　道　部	※猪川		※
マイコン部	※長尾・徳田		※
ロボット製作部	※前田・伊藤（芳）・中山		※
天文・気象	※二村		※
将　棋　部	※神谷		※
囲　碁　部	※多田（光）・児玉		※
ソーラーボート部	※木村		※
４．同　好　会		0	
イラスト・漫画	※藤本		※
マリンスポーツ	※田房		※ 休部
ＩＴ研究会	※塚本・田房		※ 休部
映画研究会	※神谷		※ 休部
文芸同好会	※多田（光）		※
フットサル	※水崎		※
スケートボード	※水崎		※
科学実験同好会	※伊藤（武）		※
弓　道	※久保		※
空　手　道	※勘久保・田房		※
ストリートバスケット	※葛目		※
ソフトボール	※神谷・二村		※
ＥＳＳ同好会	※坂内		※

（出典：学生課）

資料７－１－⑤－３

グリーンキャンドゥとの松原海岸のボランティア活動報告

学生会
学生主事

今年度も、NPO 法人グリーンキャンドゥとの松原海岸における清掃活動を下記の通り計画しました。ご協力よろしくお願い致します。

1. 実施場所　　松原海岸
2. 実施時間　　毎回 16：30～ （小雨決行・荒天中止）
3. 実施内容　　松原海岸における漂着ゴミ等の回収
4. 実施日

日　　時		担当クラブ名
2011 年	5 月 13 日 （第 2 金曜日）	美術・吹奏楽・将棋・茶道
	6 月 24 日 （第 4 金曜日）	野球・女バスケ・水泳
	7 月 8 日 （第 2 金曜日）	ラグビー・ソーラーボート・写真
	9 月 9 日 （第 2 金曜日）	男バスケ・書道・卓球
	10 月 14 日 （第 2 金曜日）	硬式テニス・剣道・天文気象
	11 月 11 日 （第 2 金曜日）	ソフトテニス・バトミントン・軽音
	12 月 9 日 （第 2 金曜日）	男バレー・カッター・ヨット
2012 年	1 月 13 日 （第 2 金曜日）	サッカー・ロボコン・柔道
	2 月 3 日 （第 1 金曜日）	女バレー・マイコン・陸上

※清掃用具等は準備します。

（出典：学生課）

資料７－１－⑤－４

トピックス：学生会が東日本大震災義援金の募金活動を実施

投稿者：webmaster 投稿日時：2011-4-12 11:28:30（844 ヒット）

４月７日、入学式に学生会が東日本大震災義援金の募金活動をしました。保護者ならびに学生、教職員の皆様のご協力、こころより感謝いたします。

集まった義援金は89317円で、早速、４月７日日本赤十字社に寄付させていただきました。（詳細報告はファイル添付）

義援金募金(学生会)(pdf)





トピックス：弓削商船学生有志が「防犯活動ボランティア」に参加

投稿者：webmaster 投稿日時：2011-5-9 10:46:48（861 ヒット）

５月６日（金）、弓削商船高専学生有志が「防犯活動ボランティア」に参加しました。

これは、伯方警察署のよびかけで実現したもので、本校学生が地元上島町のみなさんと下弓削港周辺でフェリーの乗降客やモールの買い物客に「自転車盗難防止用グッズ」を配布しました。

参加した学生から、この活動を通して、防犯意識を高めるとともに、短い時間でしたが上島町のみなさんと交流の機会が持て、いい経験になったとの声が聞かれました。





（出典：本校ウェブサイト）

資料７－１－⑤－５

平成23年度はまかぜ運航実績

月日	運航目的	機関運転時間		定け い港出航日数				定係港	乗船人員			燃料			備考
		航走中	停泊中	航走時間	停泊時間 入渠	停泊時間 その他	計	停泊日数	合計	船員	教員及その他	学生	積込	使用	残	
															1870	前年度繰越油量
14	(調)試運転および航路調査	1-00	0-10	1-00			1			2	1	0		80	1790	弓削沖
28	(学)M5卒研およびM1工場見学打合せ	1-20	0-20	1-20		2-20	1			2	2	4		90	1700	常石造船
4 月	(学)学生実習	1-20	0-20	1-20	0-00	2-20	1	28	30	3	2	4	0	90	1600	
小 計	(調)調査研究	1-00	0-10	1-00	0-00	0-00	1				1	0		80		
16	(学)S1運航通信および進水式見学	1-50	0-10	1-50		0-00	1			2	5	42		100	1600	内海造船㈱進水式見学 弓削沖操船実習
16	(調)試運転および航路調査	1-35	0-10	1-35		0-00				1	3	0		100	1500	弓削一伯方一弓削 港湾調査
21	(調)学校PR	6-00	0-40	6-00		0-00	1			2	3	8		160	1340	今治ばりしっぷ(一般 20名)
27	(調)学校PR	3-00	0-40	3-00		4-30	1			2	1	0		240	1100	百島ー白石ー北木ー走島 各中学校訪問
5 月	(学)学生実習	1-35	0-10	1-35	0-00	0-00	1	28	31	7	5	42	0	100		
小 計	(調)調査研究	10-35	1-30	10-35	0-00	4-30	2				7	8		500		
6-03	(調)校長・部長会議	3-00	0-20	3-00		1-00	1			2	14	0		160	940	弓削ー能島ー三原ー弓削
6	燃料補油												800		1740	
6	(学)S-3実験実習	1-30	0-10	1-30		0-00	1			2	1	8		40	1700	弓削沖
7	(学)M5卒業研究	1-30	0-10	1-30		0-00	1			2	0	4		80	1620	弓削ー船折瀬戸ーハナグリ瀬戸ーワンワン瀬ー弓削
8	(調)学校PR(向島中)	2-00	0-10	2-00		0-00	1			2	14	0		100	1520	弓削ー尾道駅前桟橋ー弓削
23	(調)交通艇(監視カメラ視察)	2-00	0-20	2-00		1-30	1			2	2	0		170	1350	弓削ー矢弓ー弓削
25	(学)サッカー部	2-00	0-20	2-00		6-00	1			1	0	20		130	1220	弓削ー矢弓ー弓削(学生1名は運航員を兼ねる)
27	(学)S-3実験実習	1-30	0-10	1-30		0-00	1			2	1	8		60	1160	弓削ー田島ー弓削
30	(学)M5卒業研究	2-30	0-10	2-30		0-00	1			1	1	5		120	1040	弓削ー船折瀬戸ーハナグリ瀬戸ー多々羅大橋ーワンワン瀬ー弓削
6 月	(学)学生実習	9-00	1-00	9-00	0-00	6-00	5	22	30	14	4	45	800	430		
小 計	(調)調査研究	7-00	0-50	7-00	0-00	2-30	3				29	0		430		
7-02	(学)創道部・カッター部	2-00	0-20	2-00		4-25	1			1	2	44		180	860	弓削ー矢弓ー弓削(教員1名は運航員を兼ねる)
03	(学)サッカー部	1-30	0-20	3-00		5-30	1			1	1	22		230	630	弓削ー弾間ー弓削(教員1名は運航員を兼ねる)
7	燃料補給												1000		1630	
11	(学)S3実験実習	1-30	0-10	1-30		0-00	1			2	1	18		20	1610	弓削沖
26	(学)ナコンパノム大学連携	1-50	0-20	1-50		0-00	1			1	6	1		30	1580	弓削沖
28	(学)M5卒業研究	1-00	7-40	1-00		7-40	1			2	3	6		80	1500	生口島沖
29	(学)M6卒業研究	2-00	7-00	2-00		7-00	1			2	3	6		140	1360	弓削沖
7 月	(学)学生実習	7-50	15-30	9-20	0-00	20-10	5	26	31	8	14	53	1000	680		
小 計	(調)調査研究	0-00	0-00	0-00	0-00	0-00	0				0	0		0		

（出典：技術支援センター）

資料７－１－⑤－６

別　紙

平成２３年度リーダー研修実施要項

１　目　　的　　体育系クラブのリーダーとして、クラブを運営していく上での役割及びトレーニングについての基礎知識を身につけることを目的とする。

２　実施期日　　平成２４年１月２１日（土）８：４０～

３　実施場所　　弓削商船高等専門学校アセンブリホール及び第一体育館

４　日　　程　　別紙のとおり

５　研修内容　　講義及び実技による研修
「応急手当講習会（普通救命講習（３時間講習））」
講師　　上島町消防本部職員　３名（森本氏、中本氏、濱田氏）
「リーダーとしての役割」
講師　　弓削商船高等専門学校　　准教授　　水崎一良

６　対　　象　　体育系クラブ・同好会の次期リーダー（主将等）となる学生
（各クラブ２名　計３６名）

陸上部	剣道部
男子バレーボール部	野球部
女子バレーボール部	水泳部
ソフトテニス部	テニス部
卓球部	ラグビー部
サッカー部	カッター部
男子バスケットボール部	ヨット部
女子バスケットボール部	バドミントン部
柔道部	

７　服 装 等　　服装　　スポーツウェア
携行品　　屋内用運動靴、筆記用具

（出典：学生課）

資料７－１－⑤－７

平成23年度学生会予算

収入の部

科目	当初予算	備考
前年度よりの繰越	512,038	新入生入会金 1,500×99名= 148,500
学生会入会金	148,500	会費 前期 2,600×506名=1,315,600
学生会費	2,527,200	後期 2,600×466名=1,211,600
その他収入(利息)	600	
合計	3,188,338	

支出の部

	科目	23年度人数	23年度予算	22年度予算	備考
	体育局	324	1,485,000	1,487,000	
1	陸上部	14	200,000	195,000	
2	ラグビー部	21	180,000	165,000	
3	サッカー部	24	90,000	75,000	
4	野球部	38	110,000	115,000	
5	男子バレー部	14	50,000	45,000	
6	女子バレー部	9	50,000	45,000	
7	男子バスケット部	30	40,000	38,000	
8	女子バスケット部	6	35,000	70,000	
9	硬式テニス部	15	160,000	156,000	
10	ソフトテニス部	40	30,000	55,000	
11	卓球部	17	30,000	33,000	
12	柔道部	2	10,000	15,000	
13	剣道部	15	100,000	100,000	
14	カッター部	39	45,000	45,000	
15	ヨット部	19	145,000	145,000	
16	水泳部	9	20,000	25,000	
17	バドミントン部	12	150,000	145,000	
	体育予備費		40,000	20,000	
	文化局	132	324,000	322,000	
1	学芸部	0	0	0	
2	美術部	7	20,000	20,000	
3	茶道部	12	27,000	27,000	
4	吹奏楽部	11	55,000	55,000	
5	軽音楽部	24	80,000	85,000	
6	書道部	5	5,000	5,000	
7	マイコン部	10	70,000	5,000	奨励金70,385円除く
8	ロボット制作部	13	35,000	35,000	
9	写真部	3	1,000	50,000	
10	天文・気象部	10	20,000	25,000	
11	将棋部	14	0	7,000	
12	囲碁部	6	0	0	
13	無線部	0	0	0	
14	ソーラーボート部	17	5,000	5,000	
	文化予備費		6,000	3,000	
	厚生局		1,379,338	1,303,454	
1	報道班		0	0	
2	商船祭		800,000	800,000	
3	運営費		440,000	440,000	
	予備費		139,338	63,454	
	合計	456	3,188,338	3,182,839	奨励金70,385円含む

（出典：学生課）

資料７－１－⑤－８

弓削商船高等専門学校後援会会則

（名称）

第１条　本会は，弓削商船高等専門学校後援会（以下「後援会」という。）と称し，事務所を弓削商船高等専門学校内に置く。

（目的）

第２条　本会は，弓削商船高等専門学校の教育方針の推進に協力し，学校と家庭間の連絡を緊密にして学校の教育活動及び学生の体育・文化活動を援助することを目的とする。

（事業内容）

第３条　本会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。

一　学校と家庭間の連絡に関すること。

二　学生の学業進歩，人格向上，健康増進に関すること。

三　学生の校外生活指導，教護に関すること。

四　卒業後の就職斡旋，補導に関すること。

五　学生の体育・文化活動の後援に関すること。

六　その他学校事業の後援に関すること。

（出典：弓削商船高等専門学校後援会会則抜粋）

資料７－１－⑤－９

○弓削商船高等専門学校福利施設白雲館使用規則

制　　定　平成13年１月４日
最終改正　平成19年１月18日

弓削商船高等専門学校福利施設白雲館使用規則

（趣旨）

第１条　弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の福利施設白雲館（以下「白雲館」という。）の使用については，この規則の定めるところによる。

（施設）

第２条　白雲館に次の施設を置く。

(1)　和室
(2)　多目的室
(3)　教員当直室
(4)　給湯室
(5)　シャワー室
(6)　食堂及び売店

（管理責任者）

第３条　白雲館に管理責任者を置き，事務部長をもって充てる。

（使用者）

第４条　白雲館は，次に定める者が合宿，集会及び会議等のために使用することができる。

(1)　本校の学生及び教職員
(2)　その他校長が特別に認めた者

（使用時間）

第５条　白雲館（第２条第６号の施設を除く。）の使用時間は，次のとおりとする。ただし，合宿等に使用する場合は，この限りでない。

(1)　開校日　放課時から21時00分まで
(2)　休業日　８時30分から21時00分まで

（休館日）

第６条　白雲館の休館日は，次のとおりとする。

(1)　12月29日から翌年の１月３日
(2)　その他管理責任者が定める日

（使用許可）

第７条　白雲館（第２条第６号の施設を除く。）を使用する場合は，白雲館使用許可願（別紙１）を原則として，使用日の１か月前から７日前までの間に学生課学生支援係へ提出し，許可を受けなければならない。

（使用心得）

第８条　使用者は，この規則及び別に定める白雲館使用心得を遵守しなければならない。

（使用の中止）

第９条　管理責任者は使用者がこの規則及び使用心得に違反し又は管理上支障が生じ

（出典：弓削商船高等専門学校６－15 抜粋）

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点にかかる状況）

学生指導は，学生主事及び同主事補を中心に全教職員が当たり，学生が安心して学生生活を送ることができるように，厚生補導委員会（委員長：学生主事）を設置し（資料７－２－①－１），審議事項に基づいて，様々な指導を行っている（資料７－２－①－２）。厚生補導委員会では，全学級担任が含まれており，教員，職員及び学生間の情報交換が円滑に行えるよう配慮がなされている。また，学級担任は，学級単位や学生一人一人に対して，指導・相談・助言を行うなどの役割を果たし，当該教職員や保護者とも緊密に情報交換を行っている（資料７－２－①－３）。

本校では，学生の心身に係る悩み事に対応するために，学生相談室を設置し（資料７－２－①－４，５），保健室に看護師，学生相談室に非常勤のカウンセラーをそれぞれ配置し，資料７－２－①－６，７に示す利用実績となっており，機能を果たしている。セクシュァル・ハラスメントについても規定を設け，被行為者や行為者への対応が整備されている（資料７－２－①－８）。

経済的な問題を有する学生に対しては，学級担任からの連絡，ポスター等の掲示物，学生便覧への記載などを通じて，授業料免除・徴収猶予制度，各種団体による奨学金制度の周知がなされており，多くの学生が活用している（資料７－２－①－９，10）。

また，後援会からは，学生の課外活動の活動費の支援を受けている他，技術振興会からは，学生の学会発表に伴う旅費，学生の海外への交流・研修に伴う旅費等の支援を受けている（資料７－２－①－11）。

（分析結果とその根拠理由）

厚生補導委員会を設置し，学生が安心して学生生活を送ることができるように，様々な指導を行っている。学級担任は，学級単位や個々の学生に対して，指導・相談・助言を行うなどの役割を果たし，当該教職員や保護者とも緊密に情報交換を行っている。また，学生相談室と保健室の利用実績，並びに奨学金受給状況及び授業料免除実績からそれぞれの施設や制度が十分に活用されており，学生の精神面と経済面の両面から支援できているといえる。

以上のことから，学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

資料７－２－①－１

○弓削商船高等専門学校厚生補導委員会規則

制　　定　昭和58年９月20日
最終改正　平成17年２月21日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　生活指導に関する事項
(2)　課外活動に関する事項
(3)　補導及び懲戒に関する事項
(4)　入学料，授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する事項
(5)　その他福祉厚生に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　各主事
(2)　各主事補
(3)　各学級担任
(4)　学生課長
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，学生主事をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，学生課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則

１　この規則は，昭和58年９月20日から施行する。
２　この規則施行の際，現に従前の厚生補導委員会委員長及び委員である者は，この規則により任命されたものとみなす。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－７抜粋）

資料７－２－①－２

平成２４年度第１回厚生補導委員会議事概要

１　日　時　　平成２４年４月３日（火）１３時３０分～１４時３０分
２　場　所　　第一会議室
３　出席者　　２７名（別紙のとおり）
４　議　題

１ 入学料徴収猶予について
学生支援係長から，資料１により説明があり，徴収猶予者２名が資料１のとおり、承認された。

２ 入学準備金について
学生支援係長から，資料２により説明があり，入学準備金４名が資料２のとおり、承認された。

３ 学生指導について（指導方針）
学生主事から，平成２４年度学生指導方針について，説明があり，承認された。
また，学生主事から、次の事項の要請があった。
○今年度も引き続き、登校指導をしていただきたいとの要請があった。
○今年度も制服等の指導をしていただきたいとの要請があった。
○平成２３年度の家庭謹慎等のデーターについての説明があり、特に１，２年生の指導が必要と思われるので、指導を強化していただきたいとの要請があった。
○学生に体育・文化クラブに入部するように指導の要請があった。
○今年度も下宿訪問を６月の中間テスト前までに行って欲しいとの要請があった。

４ その他
・身だしなみの指導について
学生主事より、資料６ににより、身だしなみの指導について、説明があり、月に一度のチエックを別紙のチエックシートにより、学級担任等で実施していていただきたいとの要請があった。
・アルバイトの許可について
学生主事から、アルバイトは、原則として、１年生は禁止なので、指導していただきたいとの要請があった。また、２年生以上は、現状把握を行いたいので、届出書を提出させていただきたいとの要請もあった。

・自転車登録及び駐輪場について
学生主事から，平成２４年度自転車・バイク登録の実施についての説明と校内自転車駐輪場・クラス別配置図についての説明があり，承認された。
また，学生主事から、次の事項の説明があった。
○自転車登録は，担任が主体となって行って欲しい。主事、主事補は、補助をいたします。自転車登録については、次のとおりであるとの説明があった。

登録担当教員：学級担任・学生主事・主事補
登録場所　　：学生課前広場
新入生（１回目）　１６日（月）１６時１０分～１７時００分
４年生　　１７日（火）１６時１０分～１７時００分
５年生・専攻科生　１８日（水）　〃
２年生・３年生　１９日（木）１５時１０分～１７時００分
新入生（２回目）　２０日（金）１５時２０分～１７時００分

○バイクの通学は、従来どおり、上島町への乗り入れは禁止ですので、学生への周知をお願いします。
○バイクで通学する場合は、学生へ許可願いを提出させていただきたいとの要請があった。

（出典：平成 24 年度第１回厚生補導委員会議事録）

資料７－２－①－３

別紙２
平成２４年６月８日

保護者各位

弓削商船高等専門学校長　　木村　隆一
弓削商船高等専門学校後援会長　　佐伯　直記
【公印省略】

平成２４年度後援会総会及び前期保護者懇談会の開催について（案内）

初夏の候を迎え、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、平成２４年度後援会総会及び前期保護者懇談会を下記のとおり開催いたしますので、ご多用中とは存じますが、ご出席方よろしくお願い申し上げます。

なお、準備の都合上、出欠を同封のはがきにて６月２２日（金）（必着）までにご連絡願います。併せて、本校への要望・ご意見等がございましたらご連絡願います。

また、同封いたしました資料のうち、決算書・予算書（案）については、当日の後援会総会においてご審議いただく予定になっております。ご一読のうえ、ご持参下さい。

記

期　日　　平成２４年７月１日（日）

日程等
①９時００分～　受付（第二体育館）
②９時３０分～　後援会総会（第二体育館）
次第　・校長挨拶
・会長、副会長及び会計監事の選出
・会長挨拶
・理事の選出
・平成２３年度決算及び平成２４年度予算（案）について
・その他
③後援会総会終了後　前期保護者懇談会（第二体育館）
次第　・校長挨拶
・教務関係説明
・厚生補導・就職関係説明
・寮務関係説明
・広報関係説明
・質疑応答
④前期保護者懇談会終了後　寮生保護者は学寮保護者集会（第二体育館）
終了後、学級懇談会（各固有教室又は研究室等）
通学生保護者は学級懇談会（各固有教室又は研究室等）
※当日の懇談が都合の悪い方は、学級担任にご相談下さい。

備　考
１　当日は、８時45分～９時00分着の船に合わせて下弓削港から学校までバスが出ますので、ご利用下さい。
２　総会に出席される保護者の方に弁当を準備しています。
※弁当は、１家庭に１個です。前期保護者懇談会終了後に第二体育館で配付します。
３　決算書、予算書（案）に関する質疑等は総務課財務係（電話0897-77-4614）に事前にご連絡くださるようお願いします。
後援会総会にて回答させていただきます。

（出典：学生課）

資料７－２－①－４

弓削商船高等専門学校学生相談室規則

（制　　定　平成１８年３月２２日）
（最終改正　平成１９年１月１８日）

（設置）
第１条　弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生生活で生じるさまざまな問題について相談活動を行い、学生自身が問題解決できるように適切な助言・援助を　行うため、弓削商船高等専門学校学生相談室（以下「学生相談室」という。）を置く。
（業務）
第２条　学生相談室は、次の各号に掲げる業務を行う。
(1)　学生の修学、進路上の相談に関する助言及び援助
(2)　学生の精神衛生上の相談に関する助言及び援助
(3)　その他学生相談に関する業務
（組織）
第３条　学生相談室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。
(1)　室長
(2)　相談員
(3)　カウンセラー
(4)　補助相談員
２　前項第１号及び第２号の室員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（室長）
第４条　室長は、本校の教授又は准教授の中から校長が指名する。
（相談員）
第５条　相談員は、各学科及び総合教育科から校長が指名する者各１名及び各学科進路指導主任とする。
（カウンセラー）
第６条　カウンセラーは、専門的知識、経験を有する者に校長が委嘱する。
（補助相談員）
第７条　補助相談員は、本校の看護師をもって充てる。
２　補助相談員は相談員を補佐するとともに、学生と相談員及びカウンセラーの連絡調整等学生相談室の補助的な業務に従事する。
（秘密の保持）
第８条　室員は、学生相談室の知り得た個人的な事項について、その秘密を漏らしてはならない。
（委員会）
第９条　学生相談室の運営及びその業務を円滑に行うため、本校に学生相談室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（委員会の組織）
第１０条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

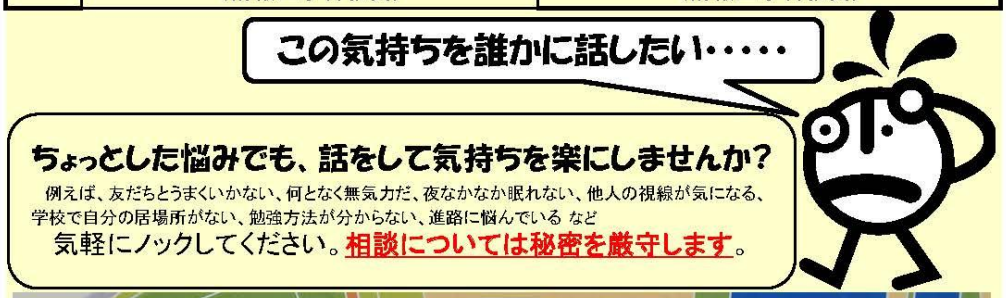
（出典：弓削商船高等専門学校規則集６－27 抜粋）

資料７－２－①－５

平成24年度前期　学生相談室の案内

●開室日時　毎日（ただし長期休み、休校日を除く）
注）急用等により、不在の場合があります
●場所　図書館2階（詳細は下の地図参照）
●相談方法　①～③のいずれかの方法で相談できます。
①直接，学生相談室に行く。
②保健室で予約する。
③カウンセラーにメールで予約する。
Mail：counsellor@office.yuge.ac.jp

	学生相談室 開室時間	
	8時40分～12時30分 （1・2・3・4時限目授業時間中）	13時20分～17時 （5・6・7時限目授業時間中と放課後17時まで）
月	向瀬紀一郎 （商船学科教員）	神谷　正彦 （総合教育科教員）
火	神谷　正彦 （総合教育科教員）	DAVAA GANBAT （電子機械工学科教員）
水	神谷　正彦 （総合教育科教員）	尹　智成（12時30分～17時） （カウンセラー）
木	尹　智成 （カウンセラー）	尹　智成（12時30分～17時） （カウンセラー）
金	桝田 温子 （情報工学科教員）	山尾　徳雄 （情報工学科教員）



ちょっとした悩みでも、話をして気持ちを楽にしませんか？
例えば、友だちとうまくいかない、何となく無気力だ、夜なかなか眠れない、他人の視線が気になる、学校で自分の居場所がない、勉強方法が分からない、進路に悩んでいる など
気軽にノックしてください。**相談については秘密を厳守します**。



（出典：学生課）

資料７－２－①－６

2012年度

表1　月別の相談者件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開室日数	6	8	6	8	6	6	8	8	6	8	8	5	83
実数	5	6	18	10	11	17	16	19	9	10	10	8	139
延べ数	7	9	25	18	26	23	24	35	15	20	24	13	239

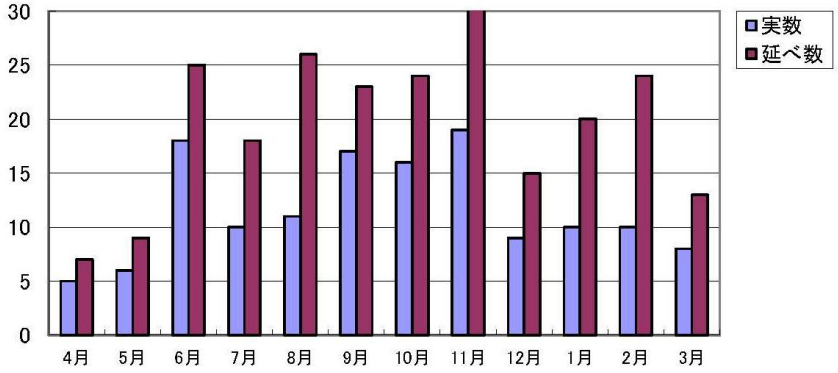


表2　男女別の件数

	男性	女性	計
実数			
延べ数	141	98	239

表3　所属別の件数

	学生	教員	職員	その他	計
実数					
延べ数	110	72	46	11	239

表4　学生住居

	寮	寮以外	計
実数			0
延べ数	56	39	95

（出典：学生課）

資料７－２－①－７

平成23年度　保健室利用状況報告

１　月別利用状況

内容／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内科的	頭痛	21	23	32	12	0	20	18	11	9	4	8	2	160
	感冒症状	48	46	64	12	0	33	32	55	48	36	68	4	446
	下腹痛	22	28	22	9	2	18	20	19	9	5	20	1	175
	胃部症状	10	9	6	6	0	10	13	9	3	2	5	1	74
	皮膚症状	3	1	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	9
	眼症状	1	2	4	0	0	1	2	1	1	0	0	0	12
	体調不良	39	30	45	11	0	17	26	31	8	9	28	3	247
外科的	怪我	34	46	52	33	5	38	41	28	11	10	16	3	317
	打撲・筋肉痛・捻挫等	36	48	43	29	3	33	35	26	18	9	12	1	293
その他		36	39	55	12	0	28	20	17	10	7	17	2	243
合計		250	272	325	124	10	198	207	197	120	82	174	17	1976

２　学年別性別利用状況

内容／学年・性別		1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		専攻科生		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
内科的	頭痛	16	8	30	21	20	12	22	10	10	9	2	0	160
	感冒症状	72	29	77	22	73	20	69	18	40	14	12	0	446
	下腹痛	29	7	42	9	30	4	28	3	18	2	3	0	175
	胃部症状	11	6	12	13	6	3	9	4	4	3	3	0	74
	皮膚症状	1	1	3	1	1	0	1	1	0	0	0	0	9
	眼症状	2	0	2	1	3	1	2	0	1	0	0	0	12
	体調不良	44	28	42	28	31	21	9	25	11	8	0	0	247
外科的	怪我	61	19	65	16	58	14	46	4	28	3	4	0	318
	打撲・筋肉痛・捻挫等	55	9	63	10	57	8	52	4	30	2	2	0	292
その他		42	31	39	33	31	20	3	12	8	22	2	0	243
合計		317	130	345	133	290	91	219	71	140	54	28	0	1976

調査の疾病は怪我＋打撲筋肉痛等＋健康相談窓口利用状況の内科的症状

（出典：学生課）

資料７－２－①－８

弓削商船高等専門学校セクシュアル・ハラスメント防止等規則

（制　　定　平成 11 年７月８日
最終改正　平成 19 年１月 18 日）

（趣旨）

第１条　弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）におけるセクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のための措置並びにセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置（以下「セクシュアル・ハラスメントの防止等」という。）に関しては，独立行政法人国立高等専門学校機構セクシュアル・ハラスメント防止等に関する規則に定めるもののほか，この規則の定めるところによる。

（定義）

第２条　この規則において，次の各号に掲げる用語の意義は，当該各号に定めるところによる。

(1)　セクシュアル・ハラスメント　　教職員が他の教職員，学生（研究生，聴講生及び科目等履修生を含む。以下同じ。）及び関係者（学生の保護者，関係業者等の職務上の関係を有する者をいう。以下同じ。）を不快にさせる性的な言動，学生及び関係者が教職員を不快にさせる性的な言動並びに学生が他の学生を不快にさせる性的な言動

(2)　セクシュアル・ハラスメントに起因する問題　　セクシュアル・ハラスメントのため就労上又は修学上の環境が害されること及びセクシュアル・ハラスメントへの対応に起因して就労上又は修学上の不利益を受けること。

（教職員の責務）

第３条　教職員は，文部科学省が定めた「セクシュアル・ハラスメントの防止等のために文部科学省職員が認識すべき事項についての指針」に従い，セクシュアル・ハラスメントをしないように注意しなければならない。

（学生に対する指導）

第４条　教員は，学生に対して，前条に規定する指針を参考にし，かつ学生の心身の発達段階等を考慮して適切な指導を行い，セクシュアル・ハラスメントのない良好な修学環境が維持されるよう努めなければならない。

（校長の責務）

第５条　校長は，教職員及び学生に対して，ポスターの掲示，広報誌等への掲載，研修会・講演会の実施その他の必要な啓発活動を行い，セクシュアル・ハラスメントの防止等に努めなければならない。

（苦情相談）

第６条　本校に，セクシュアル・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談（以下「苦情相談」という。）が教職員，学生及び関係者からなされた場合に対応するため，次表のとおり苦情相談窓口を設け，苦情相談に当たる教職員（以下「苦情相談員」という。）を置く。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集４－８抜粋）

資料７－２－①－９

平成22～24年度授業料免除申請者数及び免除許可者数

年度	前期・後期	本科・専攻科の別	申請者数	免除許可者数		
				全額免除許可者数	半額免除許可者数	計
平成22年度	前期	本科	43	12	19	31
		専攻科	6	3	3	6
		計	49	15	22	37
	後期	本科	36	11	19	30
		専攻科	6	0	1	1
		計	42	11	20	31
平成23年度	前期	本科	22	11	5	16
		専攻科	7	5	1	6
		計	29	16	6	22
	後期	本科	18	9	5	14
		専攻科	6	3	0	3
		計	24	12	5	17
平成24年度	前期	本科	29	15	9	24
		専攻科	4	2	2	4
		計	33	17	11	28
	後期	本科	27	13	7	20
		専攻科	3	1	2	3
		計	30	14	9	23

（出典：学生課）

資料７－２－①－10

奨学金受給状況

	22年度	23年度	24年度
日本学生支援機構	55	47	40
海技教育財団奨学金	41	35	27
近藤記念海事財団	7	6	2
全日本海員組合	1	7	7
天野工業技術研究所	1	1	2
愛媛県	33	26	21
広島県	5	8	9
大阪府	4	4	3
兵庫県	1	1	2
福岡県	0	0	1
あしなが育英会	5	2	2
三浦教育振興財団	0	0	1
計	153	137	117

（出典：学生課）

資料７－２－①－11

人材育成プログラムへの支援経費（学生の学会発表一覧）

個人情報等保護のための削除

（出典：企画広報室）

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点にかかる状況）

留学生に対しては，生活面，学習面及び精神面で安心して学校生活を送れるような支援体制が整備されている（資料７－１－④－１）。例えば，日本人の寮生と異なり，宗教的な理由から生活上の制限を持つ学生が多いため，寮内に留学生専用の調理室及びシャワー室を設置している（資料７－２－②－１）。また，留学生指導教員及び担当事務職員を配置し，チューター学生を任命している。チューター学生には，年２回，チュートリアル報告書を作成させ，留学生の修学・生活支援を行っている（資料７－１－④－１，資料７－２－②－２）。さらに，留学生が日本固有の文化に触れ日本の習慣を理解し，地域社会に溶け込めるよう，学校の枠を超えた交流活動や実地見学旅行を行っている（資料７－２－②－３，４）。

現在，身体に障害を持つ学生は在籍していないが，校内に，スロープ（８箇所），自動ドア（２箇所），専用トイレ（３箇所），エレベーター（専攻科棟１機）を設置している（資料７－２－②－５）。これらを利用することで，運動機能障害者であっても大きな負担を強いることなく，学校生活を送ることが可能である。

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対する支援体制として，学寮における専用調理室及びシャワー室の設置，留学生指導教員及びチューター学生の配置，学校の枠を超えた交流活動や実地見学旅行を行っている。本校内の施設には，多数の障害者用設備が設けられており，専攻科棟にはエレベーターが設置されているなどバリアフリー化を推進している。

以上のことから，留学生及び身体に障害を持つ学生等に対する生活面での支援は，既存の施設や制度が十分に活用されており，支援が適切に行われている。

資料７－２－②－１

留学生用学生寮調理室





（出典：学生課）

資料７－２－②－２

留学生相談員（チューター）の役割

１．チューターは、指導教員（クラス担任）の指導をもとに、留学生の教育について個別の課外指導を行い、留学生の学習効果の向上を図る。

２．チューターは、留学生の学習指導（予習・復習の手伝い）を中心に、日本語指導、日常の世話を行う。

３．チューターは、留学生の家庭教師として、また学校における最初の学友として、留学生のわが国での学習の大きな支えとなると同時に、チューターとなった日本人学生にも国際理解、国際協力への関心を芽生えさせる機会とする。

４．チューターは、留学生に日本の文化、習慣または留学生の息抜きとしてのレクリエーション等の計画を年度初めに立てて、友好親善を図る。

（出典：学生課）

資料７－２－②－３

平成２３年度四国地区総合文化祭「学校の枠を越えた外国人留学生の交流活動」実施要項

１．目　　的　文化的活動体験を通じて日本文化についての理解を深めるとともに、四国地区高専の外国人留学生の交流を推進することを目的とする。
２．実施期間　平成２３年１２月１７日（土）　１３：００　～　１７：３０
３．交流場所　五台山　牧野植物園　・　高知城　他
４．行　　程　13:00 高知県立県民文化ホール　オレンジホール 出発　→　五台山（生け花体験・牧野植物園見学）　→　龍馬ふるさと博(龍馬伝幕末志士社中・よさこい鳴子踊り)見学　→　高知城見学　→　17:30　高知県立県民文化ホール　オレンジホール 到着
５．対象学生　四国地区各高専外国人留学生（希望者）
６．引率教員　四国地区高専留学生担当教員（各高専１～２名）
７．集合日時　平成２３年１２月１７日（土）１２：４０
　・場 所　高知県立県民文化ホール　オレンジホール　玄関外ロビー
８．経　　費　高知高専の負担とする。（ただし、集合場所への旅費は、対象学生、引率教員ともに各校の負担とする。）
９．申込方法　別紙「学校の枠を越えた外国人留学生の交流活動」参加申込書及び引率担当者名簿に必要事項を記入のうえ、１１月１１日（金）までに高知高専学生課教務係へお申し込みください。
10．そ の 他　昼食は、集合時刻までに各自で取っていただくようにお願いします。また、服装は着脱できる防寒着（天候により必要になります）、歩きやすい靴等をご準備ください。

参考【タイムスケジュール】
12:40　高知県立県民文化ホール　オレンジホール　集合
13:00　高知県立県民文化ホール　オレンジホール　出発
13:20　五台山　到着
　牧野植物園
　（留学生を 2 班に分けて 40 分程度で①と②を交替で体験）
　① 野の草花の生け花体験
　② 牧野植物園内見学　学芸員による説明
15:00　五台山　出発
15:25　高知駅前　龍馬ふるさと博　到着
　パビリオン龍馬伝　幕末志士社中　館内見学
　よさこい鳴子踊り見学
16:10　高知駅前　龍馬ふるさと博 出発
16:30　高知城　到着
　天守閣・懐徳館見学
　詰門・一豊の妻像・石段と石桶・追手門・山内一豊像見学
17:15　高知城　出発
17:30　高知県立県民文化ホール　オレンジホール　到着・解散

（出典：学生課）

資料７－２－②－４

外国人留学生実地見学旅行実施要項

１　目　　的　　外国人留学生が日本文化に触れる機会を設けることを目的とする。

２　期　　間　　平成２４年２月１０日（金）～１２日（日）　２泊３日

３　参加学生　　２名
情報工学科５年　カンボリスット
情報工学科３年　イディディヤ

４　引率教員　　葛目幸一

５　行　　程　　２月１０日（金）
往路：　下弓削港集合 ═ 福山 ═ 京都（京都泊）

２月１１日（土）
京都散策
嵐山 ═ 大覚寺・金閣寺 ═ 太秦映画村（京都泊）

２月１２日（日）
京都散策
清水寺 ═ 銀閣寺
座禅・写経等の体験
帰路：　京都 ═ 福山 ═ 下弓削港

６　経　　費　　予算科目：外国人留学生教育経費
金　　額：１３０，２００円
実地見学指導旅費　　48,440円
実地見学旅費　　81,760円（2名分）

（出典：学生課）

資料７－２－②－５

自動ドア（進入口）	多目的便所
管理棟・一般科目棟	管理棟・一般科目棟
	
EV（エレベーター昇降設備）	スロープ（進入路）
ものづくり教育研究棟	白雲館
	

（出典：総務課）

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点にかかる状況）

本校の学生寮は，「団体生活を通して，友愛，協調及び自主の精神を培い，責任と規律ある習慣を体得させ，将来にわたる人間形成に資する」ことを目的に設置されており，寮務主事・主事補を中心に運営されている（資料７－２－③－１）。

男子１，２年生は，原則として全寮制であり，それ以外の学生については，許可入寮制となっている。建物は３棟（Ａ棟，Ｂ棟，Ｃ棟）及び食堂棟から構成されており，男子１年生には１～３人部屋（大半が２人部屋），２年生以上と女子寮生には個室が与えられている。食堂及び女子棟１階の改修，全室エアコンが設置される等，生活環境が整備されている。各棟各階には，補食談話室が設けられており，寮生は簡単な調理が可能であり，また，憩いの場・交流の場としても利用されている。各居室には，勉強机が設置されているため，寮生は，平日の自習時間等を利用して，自室で勉学に集中できる環境になっており，居室から個人で購入したパソコンを使ってインターネットへ接続が可能であり，自習環境の充実を図っている（資料７－２－③－２）。

近年，入寮希望者が急増し，最大収容人数に迫っている（資料７－２－③－３）。この対応として，居室の部分改修を行って定員を増やすことだけでなく，新棟建築が喫緊の課題となっており，ＷＧを立ち上げ準備作業を進めている。

寮生の指導には，全教員が当たることを原則としており，輪番で宿日直を担当している（資料７－２－③－４）。また，宿直教員が自習時間の見回りや点呼を行うなど，きめ細かな指導・支援体制を採っている（資料７－２－③－５）。

学生寮運営及び寮生に関する事項を審議するために，寮務委員会が設置されている（資料７－２－③－６）。また，事務系職員２名からなる寮務係が寮内事務室に置かれており，学生寮の管理運営に関する事務，施設・設備，会計の事務処理を行っている。さらに，本校独自のＷｅｂによる外泊・欠食登録システムを構築し，平成 23 年度より運用している（資料７－２－③－７）。

寮生会は全寮生をもって構成され，寮務関係教職員と連絡をとりながら，寮生活が健全かつ有意義に営まれることを目的とし，寮生会役員を中心とした活動が行われている（資料７－２－③－８）。

平成23年度より寮生保護者会を設置し，学寮の運営及び施設設備の拡充整備の助成，会員相互の親睦等の管理運営に関する協力体制を整備した（資料７－２－③－９）。

（分析結果とその根拠理由）

本校の学生寮は，３棟（Ａ棟，Ｂ棟，Ｃ棟）及び食堂棟から構成されており，勉強机・エアコン・ベッド・ロッカー・エアコン・情報コンセントが設置された居室，補食談話室などの設備面が充実しており，宿直教員による自習時間及び点呼の巡回，寮内に常駐する事務系職員，外泊・欠食登録システムの運用などの生活の支援体制も整備されている。また，寮務委員会を中心に学生寮の管理運営が行われ，寮生会及び寮生保護者会が設置されて円滑な寮生活が励行されている。また，入寮希望者が急増し，新棟建築が喫緊の課題となっており，ＷＧを立ち上げ準備作業を進めている。

以上のことから，学生寮が整備され，学生の生活及び勉学の場として有効に機能している。

資料７－２－③－１

第７章　学　　寮

○弓削商船高等専門学校学寮管理運営規則

制　　定　昭和63年３月28日
最終改正　平成21年２月19日

弓削商船高等専門学校学寮管理運営規則（昭和42年６月１日制定）の一部を改正する。

（趣旨）

第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校学則（以下「学則」という。）第52条第３項の規定に基づき，学寮の管理運営について，その円滑かつ適正な運用を図るために必要な事項を定める。

（目的）

第２条　学寮は，本校の教育施設であって，第１学年及び第２学年を全寮制，第３学年以上を許可入寮制とし，団体生活を通して，友愛，協調及び自主の精神を培い，責任と規律ある習慣を体得させ，将来にわたる人間形成に資することを目的とする。

（名称）

第３条　本校の学寮は，白砂寮と称する。

（管理運営等）

第４条　学寮の管理運営は校長が行う。

２　寮務主事は，校長の命を受けて，学寮の管理運営及び学寮における学生（以下「寮生」という。）の厚生補導に関する事項を掌理する。

３　寮務主事補は，寮務主事の業務を補佐する。

（寮監及び寮生指導教員）

第５条　学寮に，寮監及び寮生指導教員を置く。

２　寮監は，寮務主事をもって充てる。

３　寮生指導教員は，全教員をもって充てる。

４　寮生指導教員は，寮生の生活指導に当たる。

（寮務委員会）

第６条　学寮の管理運営及び寮生の厚生補導に関する事項を審議するため，寮務委員会を置く。

２　寮務委員会に関する必要な事項は，別に定める。

（寮生指導教員会議）

第７条　寮務主事は，寮生の生活指導について，特に重要と思われる事項を審議するため，必要に応じ，寮生指導教員による会議を開催することができる。

（入寮）

第８条　第１学年及び第２学年の学生は，学寮に入寮しなければならない。ただし，校長が特別な事情があると認めた者については，この限りではない。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集７－１抜粋）

資料７－２－③－２

寮生活のしおり
白砂寮

2012

学科：　　氏名

弓削商船高等専門学校



（出典：寮生活のしおり,本校ウェブサイト）

資料７－２－③－３

表２

過去10年間の寮生の割合の推移

	男子学生	男子寮生数	男子通学生	男子学生に対する男子寮生の割合(%)	女子学生数	女子寮生数	女子通学生数	女子学生に対する女子寮生の割合(%)
平成15年度	489	248	241	51%	133	47	86	35%
平成16年度	482	245	237	51%	125	40	85	32%
平成17年度	503	271	232	54%	113	43	70	38%
平成18年度	540	273	267	51%	112	40	72	36%
平成19年度	552	295	257	53%	109	45	64	41%
平成20年度	526	286	240	54%	108	41	67	38%
平成21年度	475	255	220	54%	102	37	65	36%
平成22年度	461	269	192	58%	100	35	65	35%
平成23年度	461	294	167	64%	94	34	60	36%
平成24年度	455	295	160	65%	98	40	58	41%

（出典：学生課）

資料７－２－③－４

○弓削商船高等専門学校学寮宿日直規則

制　　定　昭和46年１月１日
最終改正　平成18年３月22日

（趣旨）
第１条　弓削商船高等専門学校学寮における宿日直勤務（以下「宿日直」という。）に関しては，独立行政法人国立高等専門学校機構学生寮教員宿日直規則に定めるもののほか，この規則の定めるところによる。
（目的）
第２条　教員の学寮における宿日直勤務（以下「宿日直」という。）は寮生の教育指導及び生活指導を行うことを目的とする。
（勤務体制）
第３条　男子低学年棟及び男子高学年棟の宿日直は，原則として教員２名が輪番で従事するものとする。
２　女子棟の宿日直は，１週間につき２日の宿直勤務とし，教員１名が輪番で従事するものとする。
３　前２項にかかわらず，校長が特に必要と認める場合は，臨時に増減することができる。ただし，当該勤務に従事する回数が１月当たり５回を超えないものとする。
（宿日直日）
第４条　宿日直は，弓削商船高等専門学校学則第５条第１項第４号ないし第７号に規定する休業日を除く日とする。ただし，特別の事情により宿日直の実施が必要又は困難と認められる場合は，この限りでない。
（仮眠時間及び休憩・仮眠施設）
第５条　宿日直における睡眠時間は，原則として午後11時30分から翌日の午前６時30分までとする。
２　休憩仮眠施設は，次のとおりとする。
一　低学年棟については，低学年当直室
二　高学年棟については，高学年当直室
三　女子棟については，女子棟当直室
（宿日直の命令及び割振り）
第６条　宿日直は校長が命ずる。
２　健康上やむを得ない理由により校長が特別に認めた者については，宿日直に従事することを要しないものとする。
３　当該学校に着任又は採用後１月を経過しない者は，宿日直を免除する。
４　宿日直の割振りは，寮務主事が定め，校長の決裁を得たうえ，実施する月の前月の末日までに各教員に通知するものとする。
（宿日直の交代）
第７条　やむを得ない理由により勤務日に勤務できないときは，あらかじめ，校長の

（出典：弓削商船高等専門学校規則集７－２抜粋）

資料７－２－③－５

（出典：学生課）

資料７－２－③－６

○弓削商船高等専門学校寮務委員会規則

制　　定　昭和63年３月28日
最終改正　平成21年２月19日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校学寮管理運営規則第６条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　寮生の生活指導に関する事項
(2)　学寮内の規律保持に関する事項
(3)　寮生の入寮及び退寮に関する事項
(4)　寮生の離寮措置に関する事項
(5)　学寮内諸行事の指導に関する事項
(6)　学寮内の環境整備に関する事項
(7)　寮生の健康管理及び安全管理に関する事項
(8)　その他寮生の指導に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　寮務主事及び学生主事
(2)　寮務主事補及び学生主事補
(3)　各学科及び総合教育科から選出された教員各１名
(4)　学生課長
２　前項第３号の委員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，寮務主事をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，学生課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－23 抜粋）

資料７－２－③－７

弓削商船高等専門学校

白砂寮　外泊・欠食登録システム

操作マニュアル

Ver.1 2011.8.30

3　学生用

3.1　メニュー画面

コンテンツ

- 外泊・欠食登録
- 履歴表示
- 個人アカウント編集



（出典：学生課）

資料７－２－③－８

弓削商船高等専門学校寮生会会則

制　　定　平成元年４月１日
最終改正　平成10年４月１日

（名称）
第１条　本会は、弓削商船高等専門学校寮生会（以下「本会」という。）と称する。
（目的）
第２条　本会は、学校指導のもとに、寮生活が健全にかつ、有意義に営まれることを目的とする。
（構成）
第３条　本会は、弓削商船高等専門学校の全寮生をもって構成する。
（運営機関）
第４条　本会は、第２条の目的を達成するために、次の機関を置く。
一　寮生総会
二　役員会
三　指導寮生会
四　専門委員会
五　会計監査委員会
六　選挙管理委員会
２　前項の定める各機関の会議は、その構成員の３分の２以上の出席をもって成立し、決議には出席者の過半数の同意を必要とする。
（寮生総会）
第５条　寮生総会は、本会最高の決議機関であり、寮生会長がこれを招集する。
（定期総会）
第６条　定期寮生総会（以下「定期総会」という。）は、年２回開くものとする。
（臨時総会）
第７条　臨時寮生総会（以下「臨時総会」という。）は、次の場合に開くことができる。
一　全寮生の３分の１以上が必要と認めたとき。
二　役員会が必要と認めたとき。
（総会の招集）
第８条　寮生会長は、総会の７日前までに議題等について告示し、また寮務主事に届け出なければならない。
（総会の審議事項）
第９条　寮生総会は、次の事項について審議する。
一　会則の改正
二　予算及び決算の承認
三　活動計画及び活動報告
四　役員の承認
五　会計監査報告
六　その他の重要事項
（議長の選出方法及び書記の設置）
第１０条　議長は寮生会長が指名し、出席者の過半数の承認を受けるものとする。また、別に書記を置く。書記は役員会の書記がこれに当たる。
（役員会の構成及び職務）
第１１条　役員会は次の役員をもって構成し、総会につぐ決議機関であり、寮生会の運営に当たる。
一　寮生会長　　１名

（出典：弓削商船高等専門学校寮生会会則）

資料７－２－③－９

弓削商船高等専門学校寮生保護者会会則

（名称）

第１条　本会は，弓削商船高等専門学校寮生保護者会と称し、事務所を弓削商船高等専門学校学寮内に置く。

（目的）

第２条　本会は，弓削商船高等専門学校学寮（以下「学寮」という。）の管理運営に必要な協力をすることを目的とする。

（事業内容）

第３条　本会は，前条の目的を達成するため次の事業を行う。

一　学寮の運営に必要な助成に関すること。

二　施設設備の拡充整備の助成に関すること。

三　会員相互の親睦に関すること。

四　その他目的達成に必要な事項に関すること。

（会員）

第４条　本会は，学寮に入居した学生の保護者をもって会員とする。

（役員）

第５条　本会に，次の役員を置く。

一　会　長　　１　人

二　副会長　　１　人

三　理　事　　若干人

四　監　事　　２　人

２　会長、副会長及び監事の選出は、総会において会員の中から選出する。

３　理事は，会員の中から会長が委嘱する。

（役員の任期）

第６条　役員の任期は１年とし，再選を妨げない。ただし、任期満了後、後任者が決定していない場合は、後任者が決定するまでの間、その任務を継続するものとする。

（役員の任務）

第７条　役員の任務は，次のとおりとする。

一　会長は，本会を代表し会務を統轄する。

二　副会長は，会長を補佐し，会長に事故があるときはその職務を代行する。

三　理事は，本会の運営に関わる事項を審議する。

四　監事は，会計を監査する。

（幹事）

第８条　本会に幹事を置き，会長が委嘱する。

２　幹事は，本会に関する事務を掌理する。

（会議）

第９条　会議は、総会及び役員会とする。

２　総会及び役員会は、会長が招集し、その議長となる。

（出典：弓削商船高等専門学校寮生保護者会会則）

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点にかかる状況）

準学士課程において，進学指導に関する事項は，教務委員会が管轄している（資料７－２－④－１）。具体的な学生の進学相談には，進路指導主任が中心となって学科単位で支援を行い，大学への推薦について教務委員会で審議・決定している（資料７－２－④－２）。就職指導に関しては，学生主事が委員長を務める就職指導委員会において各学科の進路指導主任がメンバーとなり（資料７－２－④－３），新規就職先の開拓や求人依頼のための会社訪問等も行っている（資料７－２－④－４）。また，学科ごとに進学や就職に必要な資料が整理・保管されており，自由に閲覧することが可能となっている。就職指導の一環として，就職試験のための身だしなみ講習会，企業等から外部講師を招いた就職講演会，キャリアシートの添削，進路希望調査面接等を実施している（資料７－２－④－５～８）。さらに，電子機械工学科と情報工学科は，第５学年春に行われる保護者を交えた進路懇談会以外に毎年２回行われる定期懇談会においても保護者と学級担任の間で進路に関する情報交換が行われている。

本校の専攻科課程では，学生の進学及び就職に関することは専攻科委員会が管轄している（資料７－２－④－９）。学校推薦などに関する就職指導を主として準学士課程の進路指導主任と専攻科長及び副専攻科長が行い，各学科の教員がサポートに当たっており，準学士課程と同様の就職講演会や中国・四国地区の高専生のための合同会社説明会（資料７－２－④－10）への参加などの指導も行っている。また，大学院進学に関する相談や推薦書等の書類作成は，副専攻科長や特別研究指導教員が主体となって指導を行い，推薦については専攻科委員会で決定している。

以上のような進路指導の下で，準学士課程及び専攻科課程ともほぼ 100％の進路を確保している（資料７－２－④－11）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程及び専攻科課程において，進学や就職等の進路指導を教務委員会，就職指導委員会及び専攻科委員会で管轄する体制を整備しており，進路指導主任や副専攻科長らが中心になって指導・支援を行っている。また，それぞれ就職講演会の実施やキャリアシートの添削指導なども行い，ほぼ 100％の進路を確保している。

以上のことから，就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているといえる。

資料７－２－④－１

○弓削商船高等専門学校教務委員会規則

制　　定　昭和58年９月20日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　教育計画の立案に関する事項
(2)　進級及び卒業等に関する事項
(3)　進学に関する事項
(4)　その他教務に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　教務主事
(2)　各学科長及び総合教育科長
(3)　教務主事補
(4)　学生課長
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，学生課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則

１　この規則は，昭和58年９月20日より施行する。
２　この規則施行の際，現に従前の教務委員会委員長及び委員である者は，この規則により任命されたものとみなす。

附　則

この規則は，昭和61年５月30日から施行する。

附　則

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－５抜粋）

資料７－２－④－２

平成 24 年度第２回教務委員会議事概要

個人情報等保護のための削除

（出典：平成 24 年度第２回教務委員会議事録）

資料７－２－④－３

○弓削商船高等専門学校就職指導委員会規則

制　　定　昭和46年９月１日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校就職指導委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　求人調査及び就職開拓に関する事項
(2)　学生の求職調査に関する事項
(3)　学生の就職指導に関する事項
(4)　学生の就職推薦に関する事項
(5)　その他学生の就職に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　学生主事
(2)　各学科長
(3)　学生主事補の中から１名
(4)　各専攻科副専攻科長
(5)　進路指導主任
(6)　各学科から選出された教員各１名
(7)　学生課長
２　前項第３号の委員は，委員長が指名する。
３　第１項第６号の委員の任期は１年とし，再任は妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，学生課において処理する。
（雑則）

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－10 抜粋）

資料７－２－④－４

平成23年度就職関係出張計画表

予算額（後援会費・教育活動・就職斡旋旅費）

学科等	期日	日数	出張者	用務	先	金額
商船学科	3月頃	2	高岡僚輔	航海訓練所練習船訪船指導		
	3月頃	3	多田光男	関東地区の海事関連企業の就職開拓		
	商船学科計					
電子機械工学科	11月	3	木村隆則	川崎重エマリンエンジニア　他（大阪、神戸）		
	11月	2	木村隆則	神戸ペイント、ナカシマプロペラ　他（兵庫、岡山）		
	12月	2	木村隆則	大洋電機、㈱グローバル　他（関東方面）		
	電子機械工学科計					
情報工学科	2月中	2	塚本　秀史	卒業生の動向、及び就職のお礼と今後の就職のお願い（関西方面）； エステツナイン京都（京都市）、京セラコミュニケーション（京都市）、大和製罐（大阪市）、京セラ（京都市）、JMエンジニアリング（京都）、 モリタ（京都）　他		
	3月中	3	塚本　秀史	卒業生の動向、及び就職のお礼と今後の就職のお願い（関西方面） 川重マリンエンジニアリング（神戸市）、神鋼エンジニアリング&メンテナンス（神戸市）、三菱システムズ（神戸市） ユニチカ（大阪市）、技研電子（大阪市）、NTTコムウェア（大阪市）、大和製罐（大阪市）、ダイキン工業（大阪市）、 中北製作所（東大阪）、オムロンフィールドエンジニアリング（大阪）、船舶研究所、		
	3月中	2	塚本　秀史	卒業生の動向、及び就職のお礼と今後の就職のお願い（奨励、地元） ウイン（松山）、Secsoft（松山）、NTTネオメイト（松山）、エスアイ精工（松山）他		
	情報工学科計					
専攻科	11月	3	木村隆則	川崎重エマリンエンジニア　他（大阪、神戸）		
	3月中	2	塚本　秀史	卒業生の動向、及び就職のお礼と今後の就職のお願い（奨励、地元） ウイン（松山）、Secsoft（松山）、NTTネオメイト（松山）、エスアイ精工（松山）他		
	3月頃	3	多田光男	関東地区の海事関連企業の就職開拓		
	専攻科計					
支出見込額計						

（出典：学生課）

資料７－２－④－５

トピックス：卒業生による就職講演会

投稿者: webmaster 投稿日時: 2013-2-1 16:28:06 (342 ヒット)

2月1日(金)5，6限目に本校の4年生及び専攻科生を対象に本校の卒業生を講師として招き，就職講演会が，アセンブリホールにて行われた。
学生は，本校の卒業生の講演での会社説明や就職してからの苦労談話やいろいろな体験談の話を熱心に聞き、就職に関しての質問も行い、学生にとって、有意義な講演会となった。



講師紹介



講演
中村　英毅氏(平成13年度商船学科機関コース卒業)
新和内航海運(株)



平垣内　聡氏(平成19年度電子機械工学科卒業)
コベルコ建機エンジニアリング(株)



櫻永　真里奈氏(平成22年度情報工学科卒業)
㈱古川製作所



質疑応答



(出典：本校ウェブサイト)

資料７－２－④－６

身だしなみ講習会実施要領

１　目　　的　　学生らしい身だしなみと共に、将来職業人として兼ね備えるべき接遇態度などを身につけることを目的とする。

２　日　　時　　平成２５年４月５日（金）１３時３０分～１５時００分

３　場　　所　　本　　校：マルチメデイア教室
出欠点呼：クラス担任

４　講　　師　　資生堂（株）職員

５　対 象 者　　女子学生

※１３時２０分に担任が出席点呼を行います。（時間厳守）

（出典：学生課）

資料７－２－④－７

履歴書

個人情報等保護のための削除

（出典：担当教員）

資料７－２－④－８

進路希望調査

個人情報等保護のための削除

（出典：担当教員）

資料７－２－④－９

○弓削商船高等専門学校専攻科委員会規則

制　　定　平成16年12月20日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　教育課程の編成及び実施に関する事項
(2)　教育計画及び授業時間の編成に関する事項
(3)　入学者選抜に関する事項
(4)　入学，退学，転学，休学，復学及び修了に関する事項
(5)　試験及び学業成績に関する事項
(6)　学生の進学及び就職に関する事項
(7)　学生の厚生補導に関する事項
(8)　専攻科における授業担当教員の資格に関する事項（人事委員会に係るものを除く。）
(9)　その他専攻科の運営に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　専攻科長
(2)　各主事
(3)　副専攻科長
(4)　専攻科を担当する教員の中から校長が指名する者若干名
(5)　その他校長が必要と認めた者
２　前項第４号及び第５号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－28 抜粋）

資料７－２－④－10



（出典：学生課）

資料７－２－④－11

学生の概況 General Situation of Students

平成23年度求人・就職状況

Job-order and Employment Situation in 2011

区分 Division ＼ 学科等 Department			商船学科 Maritime Technology Department	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	情報工学科 Information Science and Technology Department	専攻科 (海上輸送システム工学専攻) Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	専攻科 (生産システム工学専攻) Advanced Production Systems Engineering Course	備考 Note
卒業者数 Graduate			23(0)	32(1)	34(17)	3(0)	8(2)	
就職希望者数 Applicants			18(0)	18(0)	26(16)	3(0)	6(2)	
就職者数 Employment			18(0)	18(0)	26(16)	3(0)	6(2)	
求人数 Job-orders			239	407	322	105	567	
海上 Marine	求人数 Job-orders		132	0	0	35	0	
	就職者数 Employment	外航 Ocean navigation	6(0)	0	0	2(0)	0	川崎汽船㈱，山丸汽船㈱，戸田汽船㈱，ワールドマリン㈱，美須加海運㈱，㈱同和ライン　ほか
		内航 Coastwise service	5(0)	0	0	0	0	神原ロジスティック㈱，田中海運㈱，日本マリン㈱，鹿児島船舶㈱，日本ガスライン㈱
		カーフェリー Car-ferry	2(0)	0	0	0	0	宇和島運輸㈱，九州郵船㈱
		官庁船 Government Office-Ship	0	0	0	0	0	
		水産系 fishery	0	0	0	0	0	
		計 Total	13(0)	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	
陸上 Land	求人数 Job-orders		107	407	322	70	567	
	就職者数 Employment	はん用・生産用・業務用機械器具製造 Manufacturing of general, production or commercial tools and machinery	0	1(0)	0	0	0	三興コントロール㈱
		電気・情報通信機械器具製造 Manufacturing of electrical information communication tools and machinery	0	3(0)	9(5)	0	3(2)	ジョンソンコントロールズ㈱，富士電機㈱，日立情通エンジニアリング㈱　ほか
		輸送用機械器具製造 Manufacturing of transportation tools and machinery	1(0)	2(0)	5(4)	1(0)	0	㈱椿本チェイン，渦潮電機㈱，常石造船㈱，マツダ㈱　ほか
		その他製造 Manufacture of the other machines and tools	0	8(0)	1(0)	0	1(0)	日本自動ドア㈱，新中央工業㈱，神戸ペイント㈱，㈱エクス，㈱東洋製作所　ほか
		情報通信 Information communication	0	1(0)	1(1)	0	0	富士通㈱，日信電子サービス㈱
		運輸・郵便 Transportation and postal service	0	0	0	0	0	
		その他 Others	4	3(0)	10(6)	0	2(0)	東テク㈱，ヤンマーエンジニアリング㈱，綜合警備保障㈱，㈱ヤマナカゴーキン　ほか
		計 Total	5(0)	18(0)	26(16)	1(0)	6(2)	
就職希望者に対する求人倍率 Job-order magnification to applicants			13.28	22.61	12.38	35.00	94.5	
就職希望者に対する就職率 Employment magnification to applicants			100	100	100	100	100	

（ ）内は，内数で女子を示す。

（出典：2012 学校要覧Ｐ．26）

（２）優れた点と改善する点

（優れた点）

学生寮は，中学生及び保護者から高く評価され入寮希望者が増加しており，学生の生活及び学習の場として整備され，教員の細やかな指導が行われている。また，学生の生活・経済面及び就職に関する相談・助言，支援体制が整備され，有効に機能し，就職率と進学率がほぼ 100％を維持している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準７の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスは，学生便覧及びシラバス，専攻科学生用手引き・シラバスを活用して，複数の機会をとらえて実施しており，個々の科目については年度当初に学習内容や進め方についてガイタンスが行われており，相談・助言を受けることのできる体制も整備されている。また，自主的学習を行うために，図書館，情報処理教育センター，技術支援センター等が整備され，授業以外でも開放されており，学生の多様なニーズに応えて，各々，効果的に利用されている。学生用の福利厚生施設として，食堂，売店，合宿研修施設，談話用スペースを備えた「白雲館」や学生談話室及び屋外に談話用のイス・テーブル等が整備され，利用されている。

学習支援に関する学生のニーズが把握されており，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，長期・短期留学に学生が参加するなど機能しているといえる。また，留学生，編入学生，障害のある学生のような特別な学習支援が必要なものに対する学習支援体制についても整備され，具体的に機能している。

学生のクラブ活動や学生会等の課外活動については，厚生補導委員会やクラブ顧問会議を中心にした適切な支援体制が整備され，本校の特徴である実習船「はまかぜ」を利用した移動面での支援など適切な責任体制の下で機能している。また，学生相談室と保健室の利用実績並びに奨学金受給状況及び授業料免除実績からそれぞれの施設や制度が十分に活用されており，学生の精神面と経済面の両面からの支援を図っている。

学生寮は生活の場としてだけでなく，勉学の場として機能するために全教員による宿日直において寮生活の指導が行われ，自主的学習を支援するための環境整備も充実している。

就職や進学などの進路指導を行う体制が十分に整備され，円滑に機能しており，毎年ほぼ 100％の就職率，進学率を維持している。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①:　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

本校は，教室，研究室，実験・実習室はもちろん，運動施設，情報処理教育センター，ものづくり教育研究棟，図書館，視聴覚教育施設（アセンブリホール，マルチメディア教室），実習工場，学生寮，厚生補導施設，練習船「弓削丸」，実習船「はまかぜ」，実習船係留場（艇庫・浮桟橋），各種舟艇など各学科の多岐にわたり様々なスキームに対応できるよう，多くの施設・設備が整備されている。施設延面積は校舎地区が 19,423 ㎡，実習船係留施設が 718 ㎡（海上構築物が 1,152 ㎡），学生寮が 9,059 ㎡である（資料８－１－①－１，２）。

教室は，快適な環境で学習できるよう，全室にエアコンが装備されている。運動施設としては，日本陸連公認の 400ｍトラックの陸上競技場の他，野球場やテニスコート５面が整備されている。また，バレーコート２面が取れる体育館が２棟あり，第一体育館２階には筋力トレーニング用機器が整備されている。武道場と剣道場も別々にあり，更に 25ｍの屋外プール施設が配置されている。

勉学支援施設としては，情報処理教育センター，情報処理演習室，製図室，専攻科用レクチャールーム・オープンラボ・ＰＣ室，図書館，実習工場などが整備されている。情報処理教育センターには，サーバ室，端末室のほか，講義・演習の行える教室や事務室がある（資料８－１－①－３）。図書館では，蔵書や学術雑誌，しまなみ海道地域の海事資料など約 77,000 冊の多彩な書籍があり，自主的学習スペースや史料館も併設されている（資料８－１－①－４）。また，検索サービスや時間外開館，地域開放も行われている。実習工場では，近年，最新型のＮＣフライス盤及びＮＣワイヤカット放電加工機を導入したばかりであり，各種工作機械が整備されており，各学科の実習や研究に活用されている（資料８－１－①－５）。実習工場横には，技術職員のための事務室が整備されており，実習工場の安全管理の役割を果たしている。また，実習に関しては，常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付し，作業着，作業帽，安全靴の着用やテーマごとに安全指導を行っている。

三級海技士の第１種船舶職員養成施設として認定されている商船学科を有する本校の特徴として，練習船「弓削丸」及び実習船「はまかぜ」を整備している（資料８－１－①－６）。これらを係留するために，実習船係留場が設置されており，平成 22 年度に，新営艇庫が竣工し，船舶の安全運行支援のために舟艇管理室も整備されている。続いて，平成 23 年度には，固定橋・可動橋の改修を行った。このように，実習船係留場の施設更新を，順次進めているが，浮桟橋の老朽化が著しく更新が喫緊の課題となっている（資料８－１－①－７）。練習船「弓削丸」は，海技技術者育成のためだけでなく，電子機械工学科や情報工学科などの工業系学生も航海実習や授業，卒業研究等で利用している。航海実習については，航海実習のしおりを作成・配布し，実習内容の確認だけでなく，実習に必要な心構え，服装，実習環境や留意事項など学生が安全に実習できるように指導している。更に，他機関との共同研究，四国地区高専との連携・交流事業，オープ

ンキャンパス，体験公開や地域イベントへの参加による海事技術，知識の普及など多方面で活用されている（資料８－１－①－８）。

以上のような施設・設備は，授業時間割の編成を工夫して，授業や実験・実習で幅広く利用されている（資料８－１－①－９）。また，図書館，体育館，運動場，実習工場などについては，課外活動や放課後の自主的学習でも活用されている。

本校は，遠方からの入学者が多いことと規律ある団体生活を学ばせるため，学生寮を設置している（資料８－１－①－10）。１，２年生は原則として全寮制であり，寮生活を通じ基本的生活習慣を身に付けさせ，技術者としての資質を育成している。平成 23 年度に，全室にエアコンを整備し，より快適な寮生活を送ることができるようになった。しかしながら，寮生数の急増により居室が不足しており，居室の部分改修による定員増だけでなく，新棟建築が喫緊の課題となっている。

厚生補導施設としては，「白雲館」と「青雲館」がある。「白雲館」は，食堂や会議，研修，合宿のために利用されており，「青雲館」は，教職員の福利厚生や非常勤講師など学外利用者の宿泊に利用されている。

障害のある学生への考慮として，バリアフリー化を進めてきている。現在，バリアフリー化している建築物は，校舎地区内で管理棟，一般科目棟，ものづくり教育研究棟，白雲館，第１体育館，第２体育館，図書館，武道場である。学生寮地区ではＡ棟，実習船係留場地区では艇庫が該当している。バリアフリー化の状況は，資料８－１－①－11 のとおりである。

環境面に配慮した施設として，太陽光発電システムを導入し，管理棟屋上にパネルを設置している。これにより，使用総電気量の約２％をまかなうことができている。また，「ものづくり教育研究棟」においては，エネルギー効率の高い省エネルギーシステムを積極的に導入し，環境負荷低減をより推進させている（資料８－１－①－12）。

（分析結果とその根拠理由）

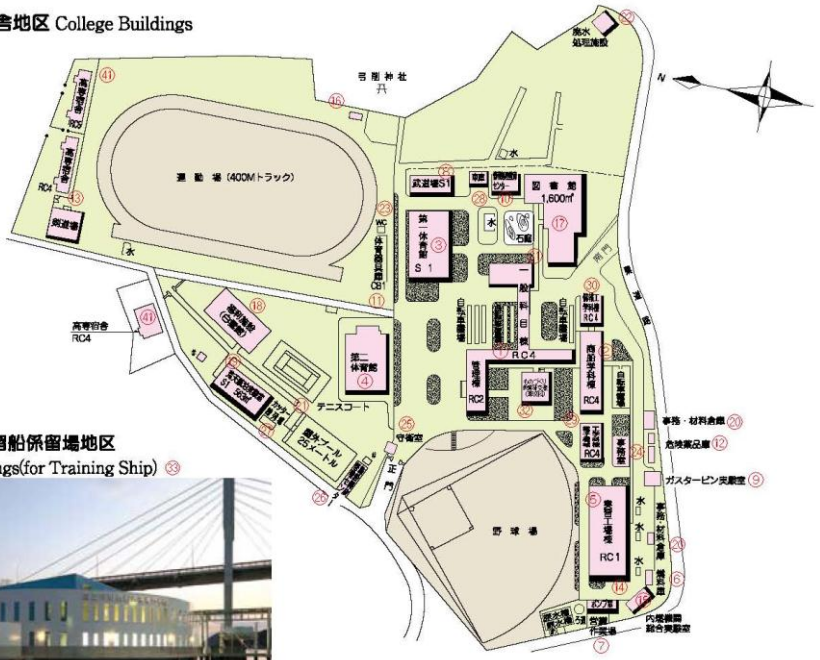
本校の教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設，設備が十分に整備されており，適切な安全管理の下で有効に活用されている。特に練習船「弓削丸」は海技技術者育成のためだけでなく，工業系学生の教育・実習，教員の研究や他機関との共同研究，四国地区高専との連携・交流事業，オープンキャンパス，体験公開や地域イベント等さまざまな分野でも活用されている。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされている。

資料８－１－①－１

施設の概況 General Situation of Facilities

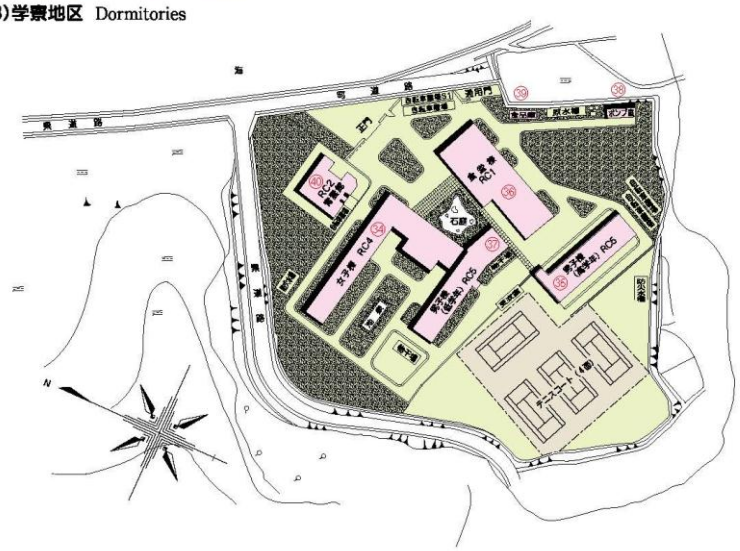
建物配置図
Arrangement Map of Buildings

(1)校舎地区 College Buildings



(2)実習船係留場地区
Moorings(for Training Ship)

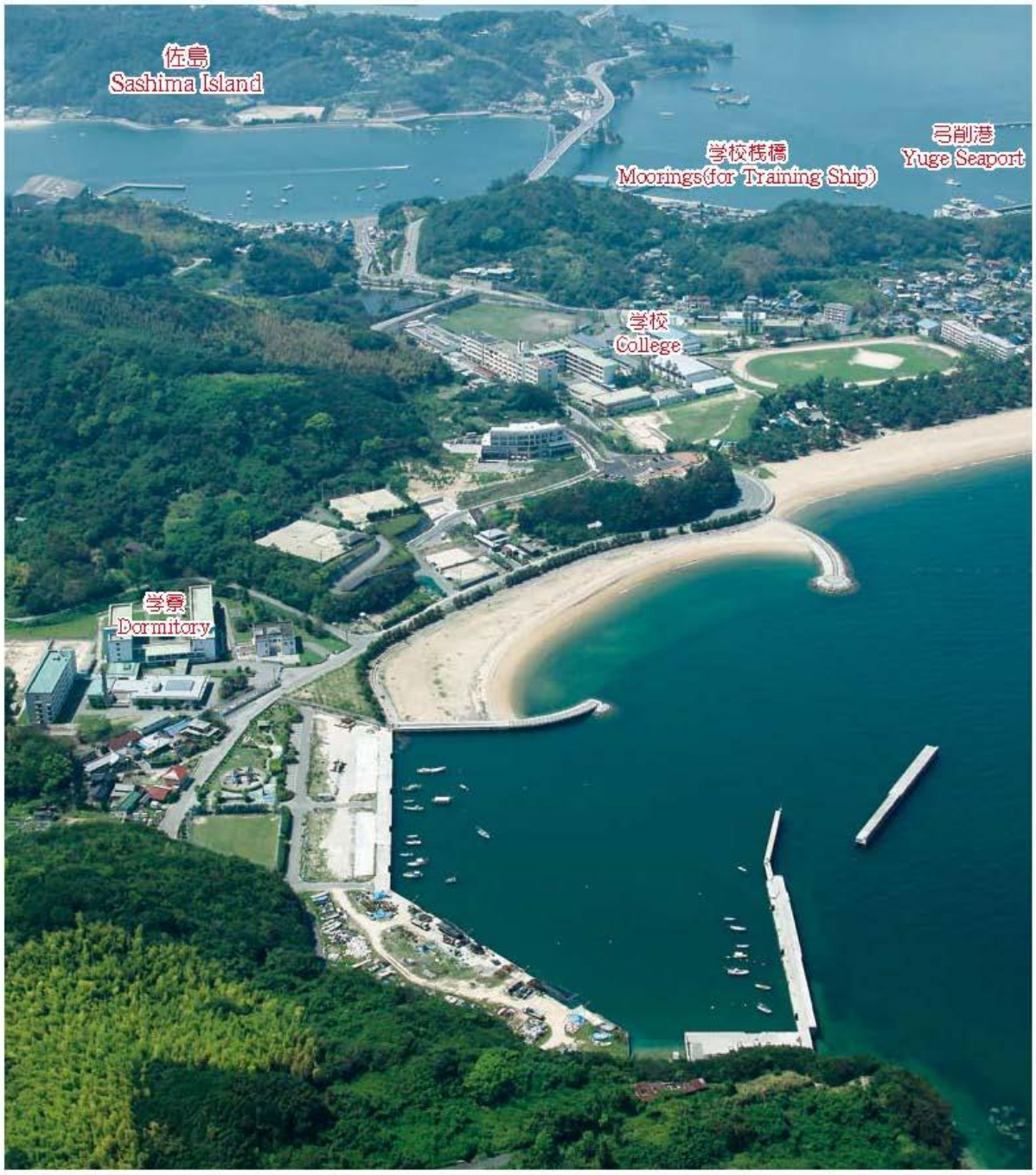
(3)学寮地区 Dormitories



（出典：2012 学校要覧Ｐ．40）

資料８－１－①－２

施設の概況 General Situation of Facilities



（出典：2012 学校要覧裏表紙）

資料８－１－①－３

Computer Education Center 情報処理教育センター

情報処理教育センターは、昭和50年に開設され、情報処理教育、学術研究および事務処理等に幅広く利用されている。

平成7年度末に構築された校内 LAN システムは、数回の更新を経てギガビットネットワークに増強、平成20年度には仮想サーバが導入され、環境問題に配慮したシステムを構築している。

また、平成17年度に更新された学習用計算機システムは、OS に Windows と Linux が用意され、用途に応じて使い分けることができる。最先端のネットワークブートに対応し、停電などの障害にも強い。平成22年6月に最新システム（120台）に更新された。マイクロソフト包括ライセンス、MSDN AA により、学生が自由にアプリケーションを利用できる環境が構築されている。

近隣小中学校・家庭を接続した弓削島ネットワークシステムの運用実験や IT 講習会、公開講座の実施、技術相談室の設置など、地域に開かれた施設として活動を行っている。

Computer Education Center was established in 1975 and used widely for the information processing education, researches as well as administrative work.

LAN System was established in the school site at the end of 1996 school year, and has been upgraded several times to have gigabit-class network. In 2008, virtual server was introduced to establish eco-conscious network system.

In 2005, upgraded computers operated both on Linux and Windows were ready for students. The equipment is regularly kept pace with the latest network standard and can be used even during the electricity failure. In June 2010, 120 latest machines were introduced under the comprehensive license agreement with Microsoft called MSDN AA and students use the application whenever they want.

The school IT network is extended to primary and secondary schools and private houses in the vicinity to make YUGE-JIMA Network. It is open to local community and provides numerous experiments, IT seminars, open lectures and tech counseling.



情報処理教育センター [Computer Education Center]



ＩＴ講習会 [It Course]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．27）

資料８－１－①－４

図書館 Library



図書館 [Library]



閲覧室 [Reading Room]

図書館は一般教養図書，専門図書，参考図書(辞書・事典・年鑑等）など約77,000冊を所蔵する。そのほか新聞8種類，各種資格試験問題集，英語多読用図書，小説，新書，DVD，寄贈雑誌，購入雑誌43種類などがある。図書館所蔵資料は著作権法で許される範囲において，有料で複写することができる。

開館時間は，平日は8時30分から18時，土曜日と日曜日は10時から16時である。館外貸出は，1人3冊，2週間の期限で利用できる。

なお，平成５年 4月からは地域住民へのサービス提供の一環として図書館の開放を行っており，本校の学生とほぼ同じ条件で閲覧および貸出の利用ができる。

The library has about 77,000 books, such as general culture books, technical books and reference books (dictionaries, encyclopedias, almanacs, etc.). It also has eight kinds of newspapers and 43 kinds of books, e.g. various qualification test question collections, English extensive reading books, novels, small-sized paperback books, DVDs, presentation and purchased magazines, etc. Students can make pay copies of library books and materials within the Copyright Act.

Opening hours are from 8:30 to 18:00 on weekdays and from 10:00 to 16:00 on weekends. Three external lending books in two weeks are available.

Also it opens to the local people in connection with our service offering since April 1993. Residents can use the library on the same condition of our students.

雑誌の種類
Kinds of Magazines

雑　誌 [Magazines]	43 種類
新　聞 [Newspapers]	8 種類

史　料　館
College Museum of History

本校の歴史の部門として，昭和46年11月に設置された記念館，「善林堂」から引き継いだ資料を展示し，昭和60年以後新設された 電子機械工学科，情報工学科，そして航海学科，機関学科およびこれを引き継いだ商船学科関連の展示をしている。

We display the collections of our memorial house called `Zen Rin Dow' , built in November 1971, and also commemorative materials related to the Department of Electronic Mechanical Engineering, Information Science and Technology, Navigation and Engineering, and Maritime Technology established in and after 1985.



村上 三島　書 [Calligraphy by Santo Murakami]



史料館入口 [Entrance to the College Museum of History]



館内 [Inside the Building]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．30，32）

資料８－１－①－５

Training Workshop 実習工場

■主な設備
NCフライス盤，NC放電加工機，NCワイヤカット放電加工機，ボール盤，形削り盤，万能工作器，旋盤，木工旋盤，ラジアルボール盤，溶接機，エアープラズマ切断機，自動溶接器，メタルソー，糸鋸盤，精密卓上旋盤，フライス盤，ロボット（溶接），YAGレーザー切断・溶接兼用機，冷凍・空調実験装置

Main facilities
NC milling machine, NC electrical discharge machine, NC wire-cutting electrical discharge processor, Drilling machine, Shaper, Universal machine tool, Lathe, Wood-turning lathe, Radial drill machine, Welder, Air plasma cutting machine, Automatic welding machine, Metal slitting saw, Scroll saw, Precision bench lathe, Miller, Robot (welding), YAG laser cutting & welding combination machine and Freezing & air-conditioning test equipment



実習風景 [Students in Traning Workshop]



NCワイヤーカット放電加工機（実習風景）
[NC Wirecutting Electrical Discharge Processor(Practice Scene)]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．29）

資料８－１－①－６

練習船 Training Ship

（平成6年3月竣工）

練習船「弓削丸」

Training Ship "YUGE MARU"



練習船　弓削丸 [Training Ship "YUGEMARU"]

弓削丸は，最新の技術を結集して建造された練習船で，運航技術を収得するための航海実習はもとより，学生及び教員の実験研究にも活用している。また，船内LANを陸上機器につなぎ，情報の交換や陸上より司令を出すことで船舶を管理する研究など，未来の運航技術の開発も目指している。

■資　　格　近海区域・第４種船
■主要寸法　全長 40.0 m，巾 8.0 m，深さ 3.3 m
■総 屯 数　240.0 屯
■航続距離　約 2,300 浬
■航海速力　約 13.75 ノット
■主 機 関　ダイハツ ６ＤＤ，Ｍ－24ＳＬ 4 サイクル，中速ディーゼル機関 1,300 ＰＳ／750 ｒｐｍ
■主発電機　三相交流自励式 2 台(187.5 ＫＶＡ)
■軸発電機　(150 ＫＶＡ)
■定　　員　乗組員9名，実習生 44名，その他3名，計56名

航海コンソール一式，機関コンソール一式，
Ｃ・Ｒ・Ｔディスプレイ装備，
バウスラスター装備（推力）１トン
スタンスラスター装備（推力）１トン



航海実習 [Navigation Practice]

The training ship `YUGE MARU` was built with cutting-edge technologies for navigation trainings to acquire operational technologies and experimental studies of students and teachers. We have connected the inboard LAN and onshore facilities to develop future operational technologies, such as the research of ship-management by exchanging information and commands from the office.
License:Greater coasting area · Class 4 ship
Main size:Length 40.0m. Width 8.0m. Depth 3.3m.
Gross ton:240.0 ton
Cruising radius:About 2,300 n-miles
Sea speed:About 13.75 knots
Main engine:Daihatsu 6D, M-24SL, 4-strok
Medium-speed diesel engine 1,300 PS/750 rpm
Main generator:2 three-phase AC self-excited generators (187.5KVA)
Shaft generator:(150KVA)
Capacity:9 crews, 44 trainees, 3 others Total 56 crews
A set of navigation console, a set of engine console
C · R · T display equipment
Bow thruster equipment (thrust) 1 ton
Stun thruster equipment (thrust) 1 ton

（平成12年3月竣工）

実習船「はまかぜ」

Training Ship "HAMAKAZE"



実習船　はまかぜ [Traning Ship "HAMAKAZE"]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．28）

資料８－１－①－７

Moorings for Training Ships　実習船係留場

平成 23 年 1 月に完成した新艇庫は、国内でも珍しい海上型の建築物で、授業や部活動等で使用する救命艇やカッターなどを収容している。

The new boathouse, completed in January 2011, is an unusual building in Japan in that it is located in the sea. Lifeboats and cutters used both in classes and in club activities are stored there.

鉄骨造　Structure: Steel-frame
地上２階　Floors: 2
延べ床面積　Total Floor:718 sq. meters

■主な施設・設備
カッター，舟艇，ヨット，救命艇，救命筏，ボート
ダビット，検潮器

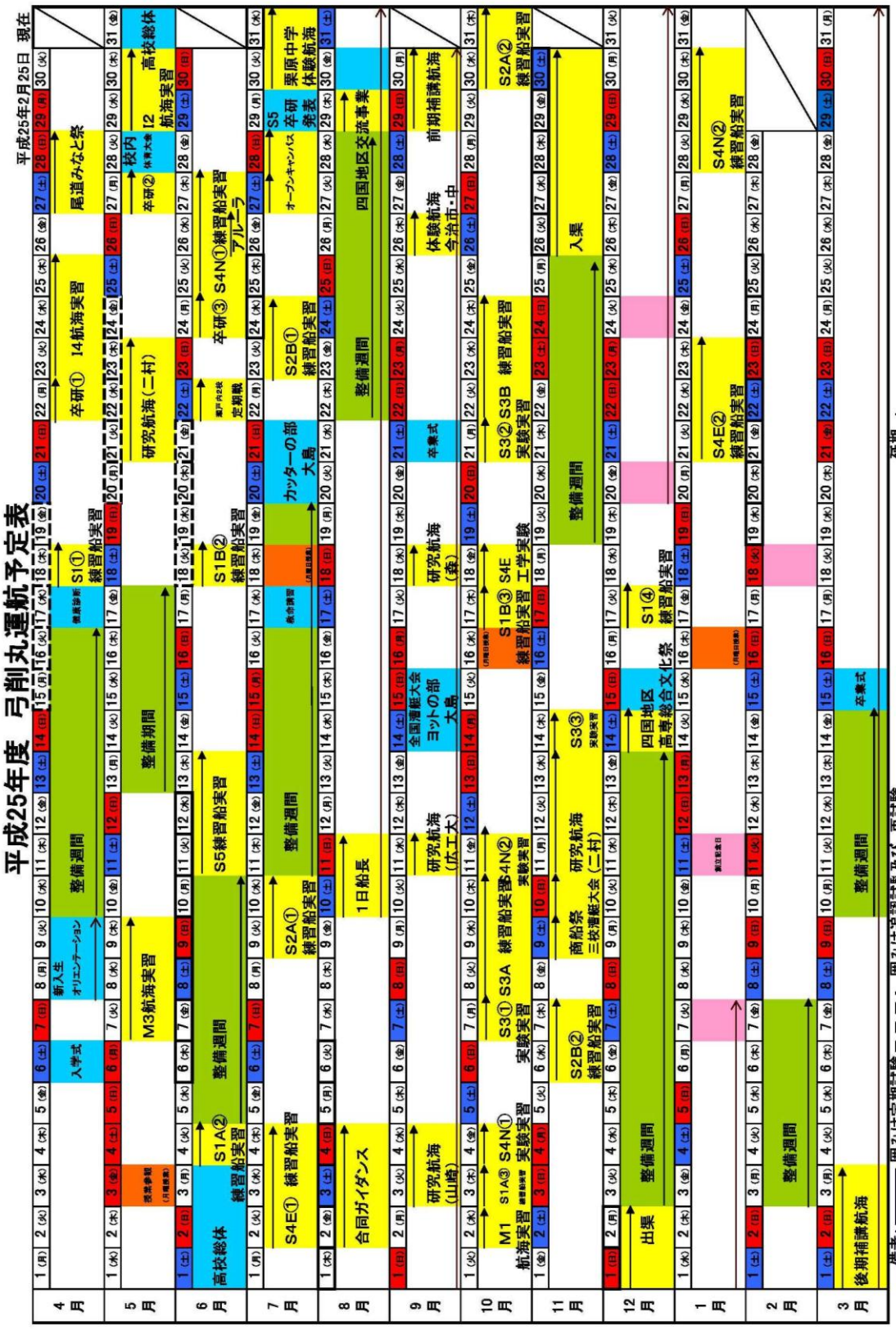
Main facilities and equipments
Cutter, Vessel, Yacht, Lifeboat, Liferaft, Boat davit, Tide gauge



艇　庫[Boathouse]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．29）

資料８－１－①－８



（出典：練習船弓削丸班）

資料８－１－①－９

#REF!

	月曜日								火曜日								水曜日								木曜日								金曜日							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
センター	M3 中山	I1 実験	I1 実験	I1 実験					I5 長尾	I4 実験	I4 実験	I4 実験	M4 上江	I3 長尾	I4 長尾		S2 長尾	I2 実験	I2 実験	I2 実験	I5 畚舘	I5 畚舘	I3 畚舘		I4 長尾	S1 柳沢	S1 柳沢		M1 長原	M1 長原	I4 上江		I3	I3	M4	M4				
情報演習室	I4 塚本	I1 実験	I1 実験	I1 実験	I4 田房	I4 田房				I4 実験	I4 実験	I4 実験		I2	I2			I2 実験	I2 実験	I2 実験		I1				I3 実験	I3 実験	I3 実験					I1 榊田	I4 田房	I4 塚本	I2	I2		
アセンブリ	I1 水崎				M1	水崎			S5 阪本	S5 阪本	MI5 阪本								S1	S2 水崎	房野												I2 房野		M2 房野	M4 八木	M4 八木		
マルチメディア	S1	M1		M2	I2												I1	S2		M2					I1	M1	S2		S1					M1	S1	I2	I1			
製図室	M1 大畑田								M2 大畑田	M2 大畑田																								S4E	S4E 宗重	宗重				
専攻科棟 レク1(大)	専1	専1 濱中		専1 長井	濱中																													専12	専12	専2	専2			
専攻科棟 レク2(大)		専1 秋葉	専1 秋葉						専2 田房	専2 田房	専1 村上助	専1 村上助																								専1 猪川	専1 猪川			
専攻科棟 レク3(小)		専2 長井	専2	専2					専2 多田	専2 多田							専2	専2							専1	専1							専1 友田	専1 友田					
専攻科棟 レク4(小)		専1	専1 濱田	専1 濱田																					専1	専1 高木							専1 野々山	専1 野々山					
専攻科棟 3F PCルーム	専2	専2	専2	専2													専1	専1 鶴								専1 上江	専1 上江												
専攻科棟 オープンラボ6												専1 実験	専1 実験	専1 実験	専1 実験			専2 岡本	専2 岡本	専1 実験	専1 実験	専1 実験												S4N 実験	S4N 実験			
実習工場		M2 実習	M2 実習							M3 実習	M3 実習						M1 実習	M1 実習																					

（出典：学生課）

資料８－１－①－10

Welfare Facilities 厚生補導施設等

学　寮
Dormitory

本校における学寮は，第１学年及び第2学年は原則として全寮制，第3学年以上は許可入寮制であり，海技技術者及び工業技術者として必要な資質を身に付けさせることを目的とする教育施設である。
団体生活を通じて，友愛，協調と自主の精神を養い，責任と規律ある生活を体得させ，技術者としての適性を効果的に育成するものである。

All of the first and second year students live in a dormitory. Third year and older students can stay there if they wish and when the rooms are available. All students experience living in a group harmoniously, and at the same time, develop their friendship, independence and sense of responsibility through the disciplined group life. They are the indispensable characteristics for the future navigation engineers.


学寮（白砂寮）[Dorm Shirasuna]


女子棟[Dorm for Female Student]

「青雲館」
Welfare Facilities "Seiun Kan"

「青雲館」は，教職員の福利厚生を図るとともに，校外者の宿泊を目的とした施設で，宿泊室・多目的室・ホール等がある。

`Seiun Kan` is the facility for benefits to the staff and guests stay. It has guest rooms, a multipurpose room, a lobby and so on.


青雲館ロビー[Seiun Kan Lobby]


宿泊室内[Room]

「白雲館」
Welfare Facilities "Hakuun Kan"

「白雲館」は，学生の憩いの場及び学生教職員相互のふれあいの場として親しまれ，学生食堂・売店・和室・多目的室等の施設があり，食堂の他に合宿・集会・会議等に利用している。
また，ホールにはテレビが設置されており，学生たちが食後のひとときをすごしている。

`Hakuun Kan` is the place for students and teachers to have mutual communication, training camps, assemblies, meetings and so on. There are a dining room, a school store, Japanese rooms, a multipurpose room, etc.
Students spend the time after meals at the TV in the lobby.


食堂[Cafeteria]


白雲館[Hakuun kan]

学生相談室
Counseling Room

学生生活を豊かで充実したものとするため、以下のとおり、相談室を開設し、学生の個人的な悩み事等の相談に応じている。
また、水曜日の午後及び木曜日は専門のカウンセラーによるカウンセリングも行っている。

For students' better lives, we provide the counseling room to listen and offer advice on their concerns.
We offer personal counseling by specialists every afternoon of Wednesday and Thursday.
Place:The second floor of the library
Opening Hours:8:30 ～ 17:00, Monday to Friday

開設場所	図書館２階
開設時間	月曜～金曜日　8時30分～17時00分

（出典：2012 学校要覧Ｐ．31，33）

資料８－１－①－11

<table>
<tr><td>自動ドア（進入口）
管理棟・一般科目棟</td><td>多目的便所
管理棟・一般科目棟</td></tr>
<tr><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td>EV（エレベーター昇降設備）
ものづくり教育研究棟</td><td>スロープ（進入路）
白雲館</td></tr>
<tr><td>  </td><td>  </td></tr>
</table>

表1　身障者配慮施設一覧表

バリアフリー化 種 / 建物種	団地名称	スロープ（進入路）	自動ドア（進入口）	多目的便所	ＥＶ（昇降設備）	呼出装置（非常時）
管理棟･一般科目棟	下弓削	○	○	○	－	○
ものづくり教育研究棟	下弓削	○	－	－	○	－
白雲館	下弓削	○	○	○	－	○
図書館	下弓削	○	－	－	－	－
第１体育館	下弓削	○	－	－	－	－
第２体育館	下弓削	○	－	－	－	－
武道場	下弓削	○	－	－	－	－
低学年棟（Ａ棟）	日　比	○	－	－	－	－
艇庫	学校桟橋	－	－	○	－	－

（出典：総務課）

資料８－１－①－12－１

校長挨拶

国立高等専門学校機構では平成 18 年 2 月に「高専機構環境方針」を定め、平成 20 年 3 月には「独立行政法人国立高等専門学校機構における温室効果ガス排出抑制等の取り組みについて（指針）」を制定し、温室効果ガス排出量削減に向けて取り組みを行っています。

本校でも平成 18 年 2 月に環境マネジメント委員会を設置し、地球環境保全のための取り組み、地域と連携した環境保全活動の推進に努力しています。教室、実験室等でのエアコン、照明の適切な利用や校内練習船の省エネ運転、夏季の緑のカーテンによる冷房効果の改善など、身近にできるところから活動を行っていった結果、練習船の航行距離の増加やものづくり研究棟の新設などにもかかわらず、平成 21 年度には平成 16 年度比で温室効果ガスの排出量を 6.1%削減できました。

本校が位置する芸予諸島は瀬戸内海のほぼ中心にあり、製塩事業や養殖漁業など自然と調和した産業の栄えた地域であります。また、しまなみ海道の利用者に喜ばれる美しい景観と豊かな水産資源に恵まれています。このようなすばらしい環境を後世に残していくためにも、環境保全のために努力していきたいと考えております。

平成 23 年 2 月 16 日
弓削商船高等専門学校　校長　　落合　敏邦

環境改善のための設備投資

平成 20 年 3 月に完成した「ものづくり教育研究棟」の建造に関しては、国の基準を守ると共に予算の範囲内で許す限り高エネルギー効率の省エネシステムや機器を選定しました。

分類	実施内容
新規	「ものづくり教育研究棟」に省エネシステム（ペアーガラス・エコアイス・昼光制御照明システム・人感センサー・空調機器集中管理システム）を導入





（出典：環境報告書表紙Ｐ．１，12）

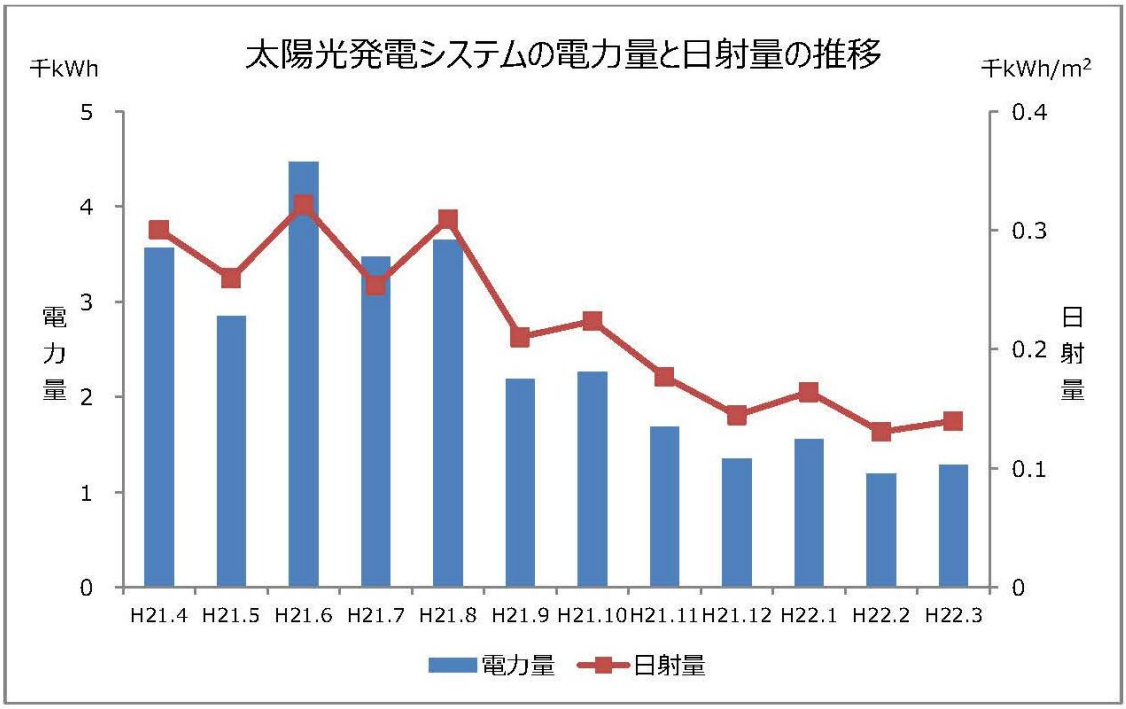
資料８－１－①－12－２

太陽光発電

年度	日照量 [千 kWh/m²]	発電電力量 [千 kWh]
平成 20 年度	2.558	31.756
平成 21 年度	3.122	34.498

ただし、平成 20 年度は 5 月からのデータ。また、平成 20 年度は 8 日分、平成 21 年度は 307 日分のデータをもとに推定した値。





本校は平成 11 年 6 月に太陽光発電システムを導入し、管理棟屋上にパネルが設置されています。上のグラフに示すように、太陽光発電は日照量によって発電量が増減します。

本校が位置する瀬戸内は全国でも日照時間が比較的長く、本校にとっては非常に有効なエネルギー源です。本校ではこれまで使用する電気の約 2%を、この太陽光発電でまかなってきました。パネルの寿命は約 20 年と考えられていますから、これからも CO_2 の排出がないクリーンなエネルギーとして期待されます。

（出典：環境報告書Ｐ．26）

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

情報処理教育センターが中心になって，ＩＣＴ環境を整備している。情報コンセントは，各実験室，研究室だけでなく，教室や学生寮の居室にも用意されている。更に，校舎内のほぼ全域で無線ＬＡＮが利用可能である（資料８－１－②－１）。

セキュリティを十分確保するため，セキュリティポリシーを制定し，対外接続部分にはファイヤーウォールとアンチウィルス機器を設置し，外部からのウィルスの進入や不正アクセスを防ぐ体制を構築している（資料８－１－②－２）。各端末では，ウィルス対策ソフトウェアを用意し，導入を義務付けている（資料８－１－②－３）。ウィルス対策ソフトの導入の有無は，ＩＣＴ資産管理ソフトウェアによって年に２回のチェックを実施しており，各ＰＣにおけるウィルス定義データベースの更新状況や感染情報などがサーバに転送され，一元管理がされている。更に，学生，教職員にセキュリティ意識を持たせるため，新入生，新たに採用された教職員に対してセキュリティに関するガイタンスを行っている（資料８－１－②－４）。これらのセキュリティ対策を適切に実行し，確認するために，情報セキュリティ管理委員会を設置し，その決定に従って，情報処理教育センター運営委員会，情報ネットワーク運営専門部会がネットワークの運用に当たっている。更に，ネットワークが正しく運用されているかチェックするために，情報セキュリティ連絡網が整備されている（資料８－１－②－５，６）。

また，一斉授業で利用できるＰＣは，情報処理教育センターのＴＳＳ室と情報演習室，専攻科ＰＣ室に設置されている。学生寮の居室からのネットワーク接続については，講習会を開いた上で登録を許可するシステムにしている（資料８－１－②－７）。

こうしたセキュリティ管理の下で多くの授業や実験及び課外活動等に利用されている（資料８－１－②－８）。また，情報処理教育センターのウェブサイトから利用できる e-learning コンテンツが準備されており，自学自習，資格取得対策及び授業で活用されている（資料８－１－②－９）。

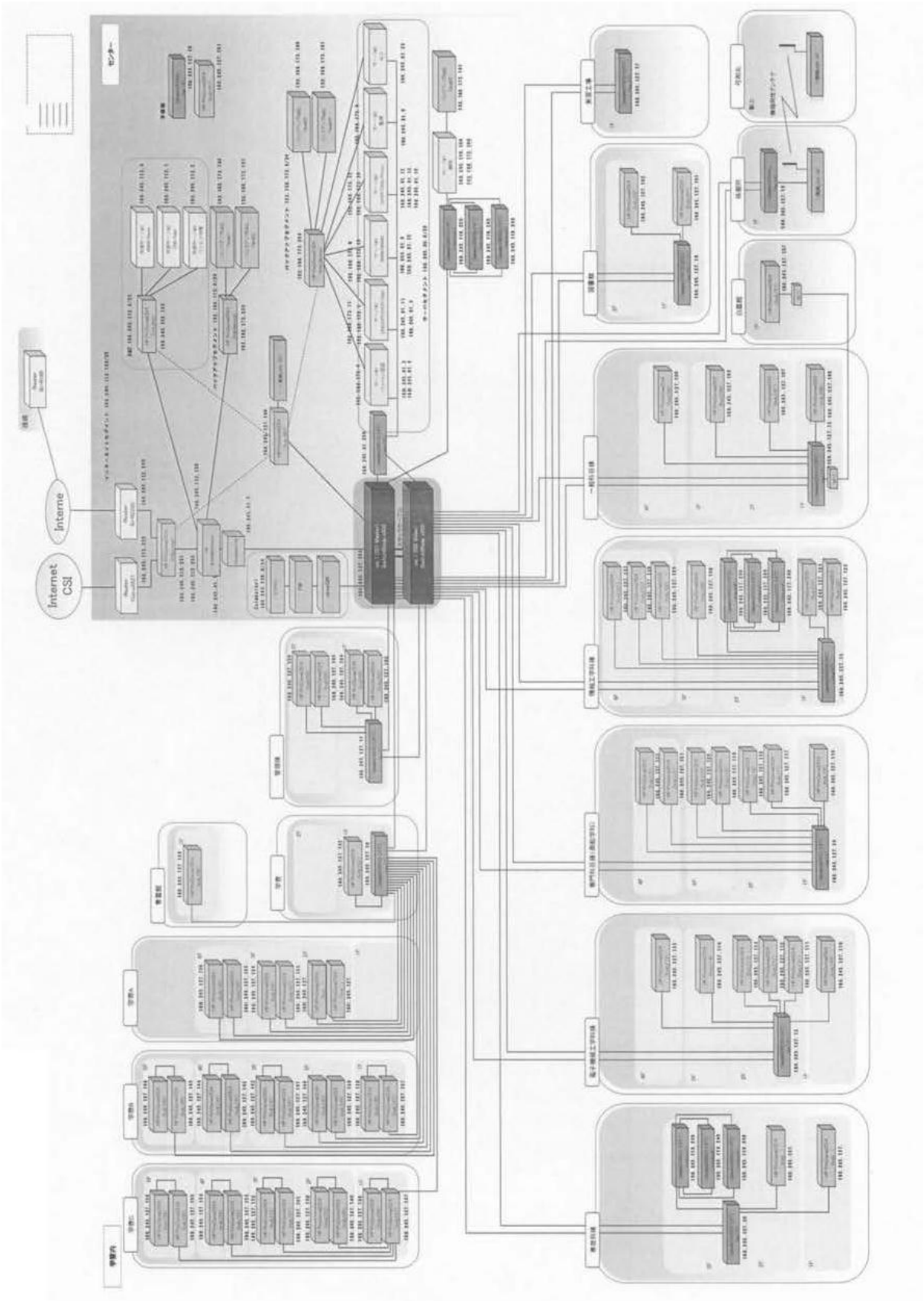
（分析結果とその根拠理由）

情報処理教育センターが中心になって，教育，研究に必要なＩＣＴ環境を整備している。情報セキュリティ管理委員会を設置し，情報処理教育センター運営委員会，情報ネットワーク管理専門部会及び情報セキュリティ推進委員会が設置されており，セキュリティソフトをはじめとするＩＣＴ資産管理を統合化する仕組みや，教育用ＰＣの維持・管理ソフトの導入など十分なセキュリティ管理体制が構築されている。こうしたセキュリティ管理の下で多くの授業や実験，課外活動及び学生寮の居室からも利用されている。また，多種類の e-learning コンテンツが準備されており，自学自習，資格取得対策及び授業で活用されている。

以上のことから，教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されている。

資料８－１－②－１

（拡大版：別添資料２）



（出典：情報処理教育センター）

資料８－１－②－２

○弓削商船高等専門学校情報セキュリティポリシー

制　　定　平成14年12月13日
最終改正　平成21年11月19日

Ⅰ　ポリシー

１　情報セキュリティ基本方針

(1)　情報セキュリティの基本方針

弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）における情報資産について，「情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（平成12年７月18日情報セキュリティ対策推進会議決定）」における「政府の情報セキュリティの基本的な考え方」を踏まえ，本校における継続的かつ安定的な教育・研究及び行政事務の実施を確保するとともに，高度な安全を確保し，利用者の信頼を得るためにふさわしいセキュリティ水準を達成するよう適切な情報セキュリティ対策を実施することが必要不可欠である。

このため，本校においては情報セキュリティ対策の包括的な規定として，次の事項を内容とする情報セキュリティポリシーを策定し，本校の情報資産をあらゆる脅威から守るために必要な情報セキュリティの確保に最大限取り組むこととする。

また，本校のすべての教職員（常勤職員，非常勤職員，臨時職員及び派遣職員）は，この目的を果たすため，ポリシーの実施に責任を負うとともに，ポリシーを尊重し，遵守しなければならない。

①　組織・体制

情報セキュリティの確保のための組織・体制は，幹部が率先して推進することが不可欠であることから，本校一体として情報セキュリティ対策を推進するための組織・体制を定めるものとする。

②　情報の分類と管理

本校の情報システムにおいて取り扱う情報について，重要な情報を重点管理する考え方から，重要度に応じた情報分類の定義，情報の管理責任，管理の方法について定める。

③　物理的セキュリティ

情報システムの設置場所について，不正な立入り，損傷又は妨害から情報資産を保護するため，管理区域を設置する等の物理的な対策について定める。

④　人的セキュリティ

情報セキュリティに関する権限や責任を定め，すべての教職員にポリシーの内容を周知徹底する等，十分な教育及び啓発が講じられるように必要な対策について定める。

⑤　技術的セキュリティ

本校の情報資産を外部からの不正なアクセス等から適切に保護するため，情

（出典：弓削商船高等専門学校規則集 11－２抜粋）

資料８－１－②－３



弓削商船高専　情報処理教育センター - ウィルス・セキュリティ対策　1/7 ページ

トップ ＞ ウィルス・セキュリティ対策

ウィルス・セキュリティ対策 (13)　このカテゴリには 13 件のファイルがあります ｜ 表示数 10 ｜ 下層カテゴリを表示しない

[RDF] [RSS] [ATOM] [一覧]

ソート順 タイトル (△▽) 掲載日 (△▽) 評価 (△▽) ダウンロード数 (△▽)

現在のソート順： ヒット数(多いものから)

本校で提供するウィルス対策ソフトウェアのパッケージ・ドキュメントなど

カテゴリ ウィルス・セキュリティ対策　マイリンクに追加

ESET Smart Security（32bit環境） V4 POPULAR

掲載日: 2012-5-17

説明

2009年度から本校で提供するウィルス対策ソフトウェアです。
ウィルス対策に加えて、パーソナルファイアーウォール、迷惑メール対策の機能を有します。

以下のOSでの利用を想定しています。

Windows XP Home Edition/Professional/7
Windows Vista Ultimate/Enterprise/Bussiness/Home Premium/Home Basic

2009/9 Version4 提供を開始しました。
2012/4 最新版に更新しました。

1508　34.86 MB　Windows　情報処理教育センター

利用制限	校内向けの設定情報が登録された専用パッケージです。 学寮は設定情報が異なります。準備ができるまでしばらくお待ちください。
注意事項	インストールの前に既存のウィルス対策ソフトウェアを必ずアンインストールしてください。複数のウィルス対策ソフトがインストールされた場合、システム動作が不安定になります。

http://www.center.yuge.ac.jp/modules/d3downloads/index.php?cid=3　2012/09/12

（出典：情報処理教育センター）

資料８－１－②－４

平成２４年４月２日

新任教職員　各位

弓削商船高等専門学校
情報セキュリティ責任者　木村　隆一

ネットワーク利用に関する説明会について（通知）

このことについて、下記のとおり行いますので、御出席方よろしくお願いいたします。

記

１．目　的　独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則および弓削商船高等専門学校情報セキュリティ教職員規程に基づく新任教職員を対象とするポリシー関する研修
２．日　時　平成２４年４月３日（火）　13：30～15：00
３．場　所　情報処理教育センター
４．参加者　平成２３年５月１日から平成２４年４月までの採用・転入職員
５．内　容　1.情報処理教育センター長挨拶
2.弓削商船情報システム利用上の注意
・ガイドラインを中心に
・電子メール
・WWW ブラウザの設定
・グループウェア　Aipo
3.その他
講師　情報処理教育センター長　田房友典　先生

企画広報室 情報・広報係長　中塚
℡　内線 4717
情報処理教育センター　柏原
℡　内線 4725

（出典：情報処理教育センター）

資料８－１－②－５

○弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則

制　　定　平成６年２月４日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）

第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第４条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校情報処理教育センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

（業務）

第２条　センターは，本校の共同利用施設として，次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　教職員及び学生の教育研究活動に関する事項
(2)　電子計算機システム及び情報ネットワークの管理運営に関する事項
(3)　校内ＬＡＮの構築及び運用に関する事項
(4)　センターを利用した社会人教育に関する事項
(5)　情報セキュリティポリシー策定及び情報セキュリティ対策に関する事項
(6)　その他センター長が必要と認めた事項

（組織）

第３条　センターに次の各号に掲げる職員を置く。

(1)　センター長
(2)　副センター長　１名
(3)　その他必要な職員（以下「その他の職員」という。）

２　センター長は，本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。

３　副センター長は，本校の教授又は准教授の中からセンター長の推薦により，校長が任命する。

４　センター長及び副センター長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

５　センター長は，センターの管理運営に関し総括する。

６　副センター長は，センター長を補佐する。

７　その他の職員は，センター長の命を受けセンターの業務に従事する。

（委員会）

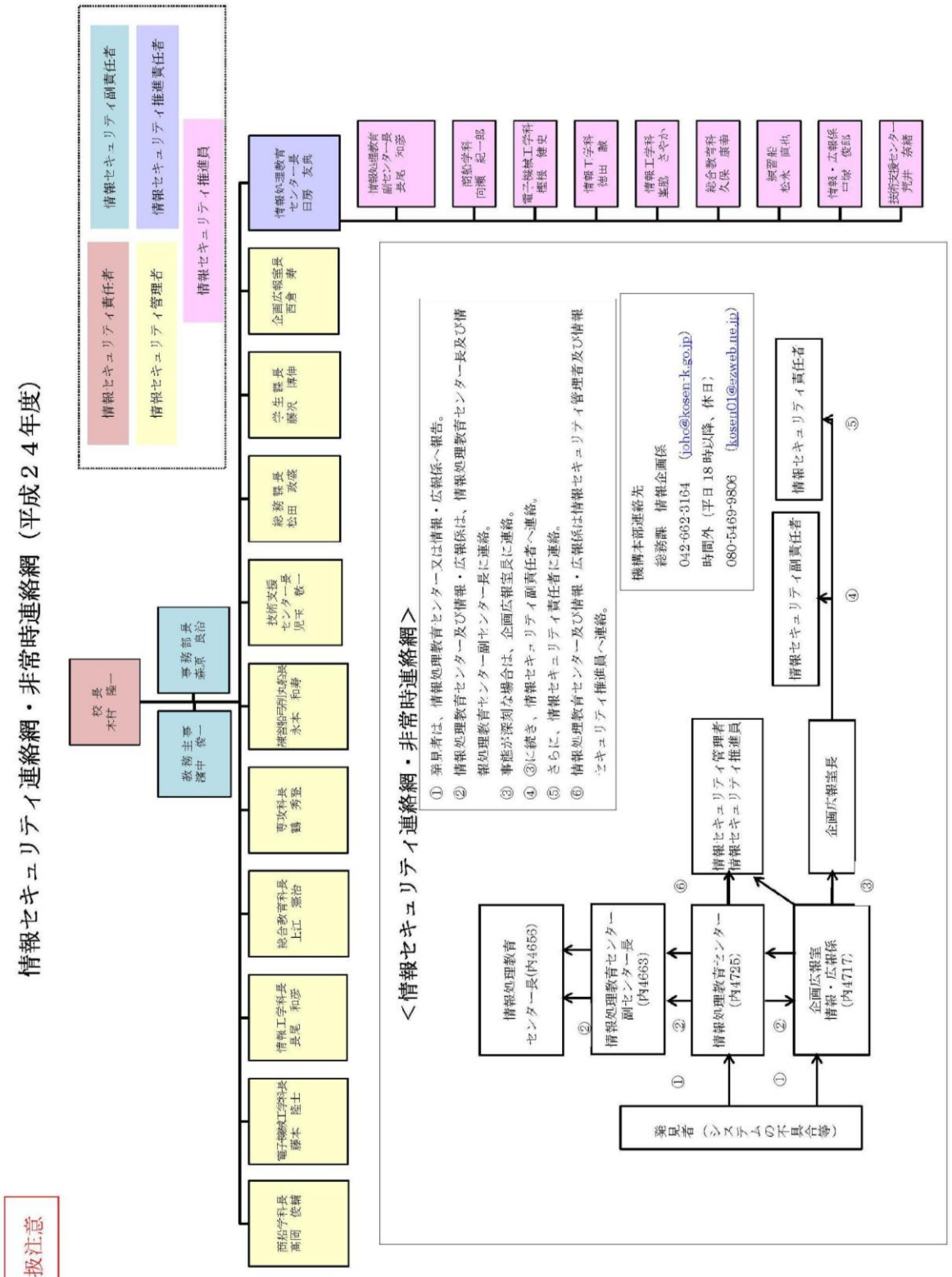
第４条　センターの運営に関し，第２条に掲げる事項を審議するため，センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　センター長
(2)　副センター長
(3)　各学科及び総合教育科から選出された教員各１名
(4)　各課長
(5)　技術長

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－11 抜粋）

資料８－１－②－６



（出典：情報処理教育センター）

資料８－１－②－７

居室からのネットワーク接続について

新規登録

以下のステップで，利用申請を行います．

Step1　用語テスト

- 用語テスト（口頭試問）を行います．
- 寮ネットワーク管理者（I科　峯脇　＠Ｓ棟3F）まで，新しくネットワークに接続したい旨をお伝えください．
- 用語テストの出題用紙は，研究室前（壁）に準備しているので，ご自由にお取りください．
- テストは随時受け付けています．
- テストに合格すると，申請書を渡します．その時に，Step2 以降について簡単に説明します．

Step2　ネットワーク接続（プロキシ）の設定

- [ツール]-[インターネットオプション]-[接続]-[LAN の設定]の順に開きます．
- [自動構成スクリプトを使用する]をチェックします．
- アドレスの欄に，プロキシスクリプトのアドレスを入力します．
- プロキシスクリプトのアドレスは，Step1 で渡した申請書に明記しています．

Step3　ウィルス対策ソフトのインストール

※個人でセキュリティソフトのライセンスを購入している学生は，このステップでの作業は必要ありません．

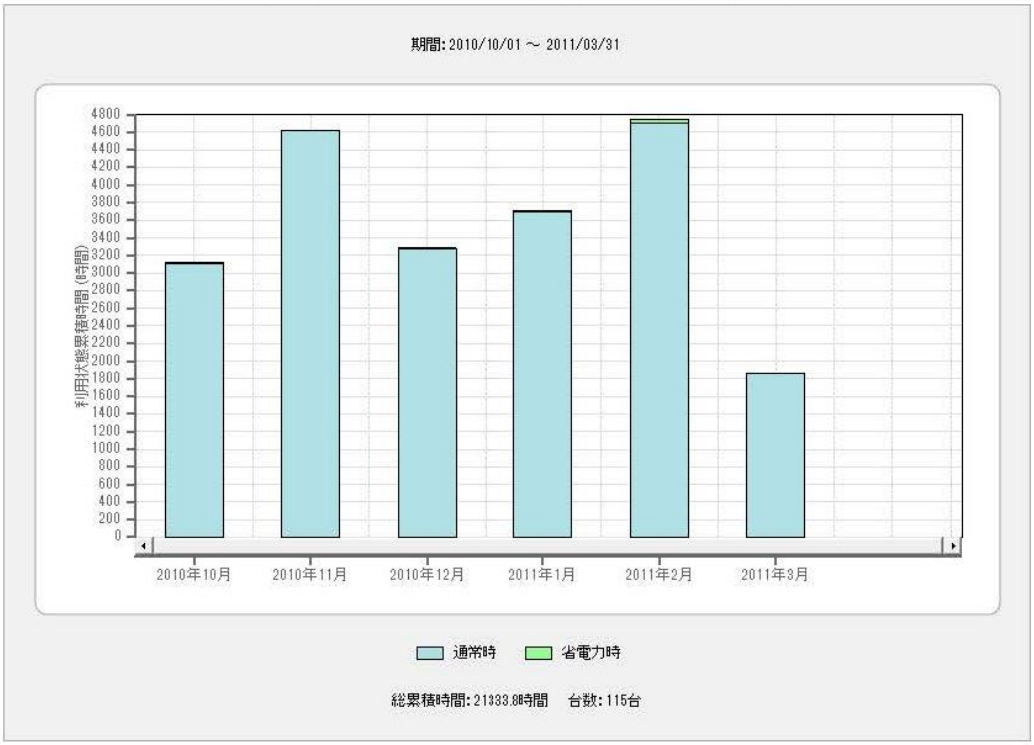
Step3-1　既存のセキュリティソフトの削除

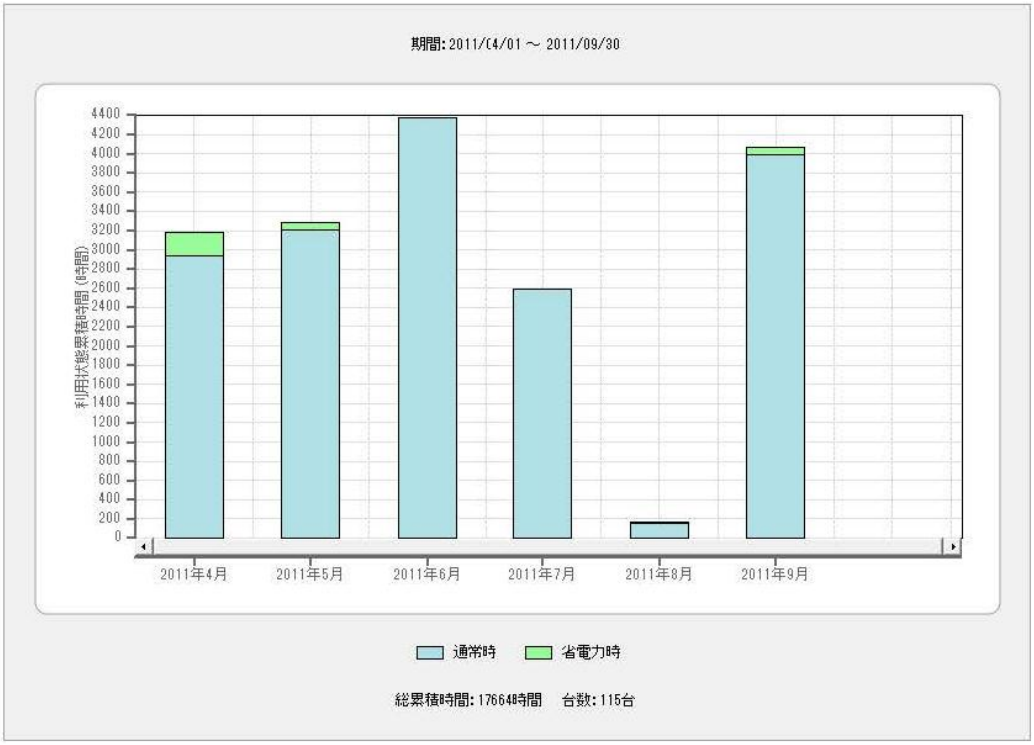
- 情報処理教育センターで配布しているセキュリティソフト（ESET）をインストールするため，以前のセキュリティソフトを削除します．
- **PC を新しく購入した場合**，購入時にプリインストールされてるセキュリティソフトを削除してください．
- **ESET 体験版**をインストールしている場合，これを[プログラムの追加と削除]から削除してください．
- **McAfee** をインストールしている場合，[プログラムの追加と削除]から削除した後，**McUninstall.exe** を実行してください．
  - このとき，何度か PC を再起動することがあります．

（出典：情報処理教育センター）

資料８－１－②－８

情報処理教育センター管理　教育用 PC の稼働時間の推移





（出典：情報処理教育センター）

資料８－１－②－９

授業科目	プログラミング特論			担当教官	長尾　和彦		
学　科	情報工学科	学　年	４年	授業期間	通年	単位数	2
分　野	専門	授業形態	講義	履修区分	必修		

学習目標	高専には実践的な技術者の要請が求められている。技術者は、知識だけでなく経験に裏付けられた創造力やメンバー間の協調性が必要である。本セミナーでは、現代 GP プログラム「創造性豊かな実践的技術者育成コースの開発」をコースカリキュラムとして採用し、全国高専とコンペ形式でのプロジェクト開発を通じ、メンバー間の創造性とプロジェクト遂行能力の養成を行う。	
進め方	教科書等による座学講義と、講義内容の理解のために実際に中規模程度のプログラム開発を行う。	
学習内容	学　習　項　目　(時間数)	学習到達目標
	●　オリエンテーリング　(1) Moodle の使い方 ●　コースの選択　(1) ●　プロジェクト管理入門　(8) ・　プロジェクト管理の必要性 ・　プロジェクト管理の方法 ・　スケジュールの設定 ・　開発工程 ・　開発管理に用いるドキュメント ・　管理者の心得	現代GP「E-learning を用いた創造性教育」のプログラムおよび各自が設定したテーマを用いて、実際のプロジェクト開発を行う。ドキュメント作成などプロジェクト管理に必要な手法を学ぶ
	●プロジェクト開発（１）　(4) ・　開発準備・開発 ……　前期中間試験　……	E-Learning サーバにて作業記録を行う。
	●プロジェクト開発(１)のつづき　(10) ・　プロジェクトの計画・目標の設定 ・　コストの見積もり・スケジューリング ・　プログラム開発	
	●レビュー・報告書の作成　(6) ……　前期期末試験　……	
	●プロジェクト開発支援ツール　(4) ・　統合開発環境Eclipse ・　Subversion によるバージョン管理 ・　XP 手法	プロジェクト開発の準備として、実際に用いるツール群の操作方法を体験する
	●プロジェクト開発(2)　(26) ・　プロジェクトの計画・目標の設定 ・　コストの見積もり・スケジューリング ・　プログラム開発 ・　中間レビュー・計画の見直し ……　後期中間試験　…… ・　プログラム開発 ・　最終レビュー ・　プログラムの評価 ……　後期期末試験　……	実際にグループ活動を通して、実践的なプロジェクト開発を体験する。 ｉアプリの開発、USB デバイスの開発など
評価方法	プロジェクト開発を通して提出するレポートを重視する。作業記録を必ずつけること。試験は適宜行う。	
関連科目	プログラミング応用(3)、アルゴリズム(3)、情報工学実験４（４）	
教科書等	http://e-class.center.yuge.ac.jp/	
備　考	グループでの活動が重要となるので、欠席して迷惑とならないよう留意すること。	

（出典：平成 25 年度授業科目シラバスＰ．458）

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

図書館には，閲覧室，書庫，視聴覚コーナーがあり，約 77,000 冊の図書のほか，学術雑誌やＤＶＤ等の視聴覚資料等が，学術分野及び学科構成に対応して系統的に収集・整理されている（資料８－１－①－４，資料８－２－①－１）。また，図書検索用パソコンを設置し，広く図書館を開放し地域住民にもサービスを提供している（資料８－２－①－２）。

平成 23 年度の教職員・学生利用状況は，年間貸出冊数 2,909 冊（うち学生 1,843 冊），一日平均入館者数は約 20 人程である。利用者数は，時期によって大きな変動がある。試験やオープンキャンパス，商船祭などイベントのある６，７，11，２月が多くなっている（資料８－２－①－３，４）。

図書館の利用促進のために，教員による図書の選定及び学生のための購入希望図書申込用紙の館内設置（資料資料８－２－①－５，６）も行っている。また，作文コンクールの実施や図書館だよりの刊行（資料資料８－２－①－７，８）等の図書館利用促進策・広報活動を進めている。しかしながら，全体的には利用率は十分ではなく，更に有効に活用されるよう努めることが課題である。

（分析結果とその根拠理由）

本校の図書館は，閲覧室，書庫，視聴覚コーナーがあり，約 77,000 冊の図書や学術雑誌等，教育研究上必要な資料が系統的に整備されている。図書館の利用を促進するために，図書の受入には教員や学生による図書の選定を行っており，また，地域住民への開放，休日開館，作文コンクールの実施，図書館だよりの刊行などを行っているものの，全体的には利用率は十分ではなく，更に有効に活用されるよう努めることが課題である。

平成２４年３月３１日現在

図　書　館　統　計　表

1.図書館蔵書数

(1)図書の冊数

単位:冊

		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	合計
図書	冊数	7,055	1,914	5,462	6,223	9,641	21,816	1,263	4,855	4,282	14,318	76,829
		72	21	73	302	406	590	16	9	426	328	2,243
	%	9.2%	2.5%	7.1%	8.1%	12.5%	28.4%	1.6%	6.3%	5.6%	18.6%	100%

※ 網掛け 内は洋書の**内数**を示す

(2)雑誌の種類数

単位:種

設置場所	分類	000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	計
研究室	和雑誌	4	0	0	5	2	9	1	5	4	2	32
	洋雑誌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
図書館	和雑誌	3	0	0	1	1	6	0	4	0	1	16
	洋雑誌	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	和雑誌	7	0	0	6	3	15	1	9	4	3	48
	洋雑誌	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計		8	0	0	6	3	15	1	9	4	3	49

2. 最近3ヶ年の図書増加状況

単位:冊

分類別 / 年度別	000 総記	100 哲学	200 歴史	300 社会科学	400 自然科学	500 工学	600 産業	700 芸術	800 語学	900 文学	合計
平成21年度	148	13	70	85	87	117	14	43	29	230	836
	0	0	0	0	6	0	0	3	1	0	10
平成22年度	164	5	15	92	56	162	14	47	57	122	734
	0	0	0	0	1	1	0	0	4	7	13
平成23年度	182	18	27	74	66	237	33	32	33	168	870
	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	5
%	20.9%	2.1%	3.1%	8.5%	7.6%	27.2%	3.8%	3.7%	3.8%	19.3%	100.0%

※ 網掛け 内は洋書の**内数**を示す

(出典：図書館)

資料８－２－①－２



（出典：図書館）

資料８－２－①－３

3.図書館利用状況(H23.4.1～H24.3.31)

H23入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生(平日)	551	673	751	558	48	661	591	740	416	274	614	232	6,109
学生(土日)	19	6	32	20	1	14	29	43	11	2	21	5	203
教職員(平日)	60	40	41	55	76	41	42	39	28	58	51	43	574
教職員(土日)	5	7	10	15	1	7	13	10	4	5	5	1	83
学外者(平日)	11	2	24	24	93	7	8	25	21	11	11	11	248
学外者(土日)	0	0	2	145	0	3	2	61	11	1	1	2	228
計	646	728	860	817	219	733	685	918	491	351	703	294	7,445

H23貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生(平日)	188	206	159	157	4	135	241	187	137	116	176	64	1,770
学生(土日)	4	5	8	11	2	13	17	2	3	3	1	4	73
教職員(平日)	59	35	34	92	59	46	59	53	75	50	145	46	753
教職員(土日)	12	14	15	11	1	12	15	12	8	9	6	6	121
学外者(平日)	0	5	19	15	21	14	15	20	13	11	17	17	167
学外者(土日)	0	0	0	0	0	5	0	10	5	0	5	0	25
計	263	265	235	286	87	225	347	284	241	189	350	137	2,909

H23貸出者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生(平日)	117	132	107	92	3	82	155	134	97	84	114	38	1,155
学生(土日)	3	3	5	7	1	7	8	2	2	1	1	2	42
教職員(平日)	23	21	20	38	34	23	25	26	25	32	50	21	338
教職員(土日)	3	5	7	4	1	6	7	6	3	2	3	2	49
学外者(平日)	0	1	4	3	5	4	3	4	3	3	7	6	43
学外者(土日)	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	6
計	146	162	143	144	44	124	198	174	131	122	176	69	1,633

（出典：図書館）

資料８－２－①－４

(4)図書貸出状況(分類別)

分類別 / 月別		000 総記	100 哲学	200 歴史	300 社会科学	400 自然科学	500 工学技術	600 産業	700 芸術	800 語学	900 文学	その他	合計	貸出日数	1日平均貸出冊数
23年4月		28	0	2	26	9	75	2	9	20	76	0	247	21	11.8
		0	1	0	3	0	1	0	2	1	8	0	16	6	2.7
23年5月		38	2	3	21	7	77	0	5	23	70	0	246	17	14.5
		0	0	0	3	0	1	0	3	0	12	0	19	6	3.2
23年6月		29	1	5	10	9	66	0	2	17	73	0	212	22	9.6
		0	0	0	0	2	5	0	1	1	14	0	23	8	2.9
23年7月		46	3	3	17	13	76	0	3	10	93	0	264	21	12.6
		6	0	0	1	0	3	0	3	0	9	0	22	1	22.0
23年8月		2	2	0	6	4	10	2	10	1	47	0	84	19	4.4
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1	3.0
23年9月		25	1	1	13	6	56	0	4	15	74	0	195	20	9.8
		1	0	2	3	0	2	0	4	2	16	0	30	8	3.8
23年10月		63	2	2	13	10	80	0	14	32	99	0	315	20	15.8
		0	1	0	6	1	3	0	0	6	15	0	32	9	3.6
23年11月		28	4	2	19	17	58	0	11	34	87	0	260	20	13.0
		0	0	0	0	0	0	1	1	10	12	0	24	8	3.0
23年12月		23	1	7	24	8	66	5	6	37	48	0	225	18	12.5
		0	0	0	1	0	1	0	4	0	10	0	16	6	2.7
24年1月		20	2	5	5	3	55	3	4	24	56	0	177	18	9.8
		0	0	0	0	0	0	0	0	2	10	0	12	5	2.4
24年2月		33	4	9	15	17	134	3	14	48	61	0	338	21	16.1
		1	0	0	0	0	0	0	0	5	6	0	12	6	2.0
24年3月		19	7	6	25	0	36	3	1	15	15	0	127	21	6.0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10	2	5.0
合計		354	29	45	194	103	789	18	83	276	799	0	2690	238	11.3
		8	2	2	17	3	16	1	18	27	125	0	219	66	3.3
百分率（%）		13.2%	1.1%	1.7%	7.2%	3.8%	29.3%	0.7%	3.1%	10.3%	29.7%	0.0%	100.0%		
		3.7%	0.9%	0.9%	7.8%	1.4%	7.3%	0.5%	8.2%	12.3%	57.1%	0.0%	100.0%		

上段は平日，下段は土日

（出典：図書館）

資料８－２－①－５

H24商船学科教員選定図書一覧

書　　名(S)
しらせ 南極観測船と白瀬矗
海の自然と災害
海事レポート 平成24年度
一級海技士(航海)800題 平成25年版
二級海技士(航海)800題 平成25年版
三級海技士(航海)800題 平成25年版
一級海技士(機関)800題 平成25年版
二級海技士(機関)800題 平成25年版
三級海技士(機関)800題 平成25年版
交易と冒険を支えた航海術の歴史
海難審判庁裁決例集 第52巻
ソマリア沖海賊問題
飾り毛布花毛布 日本船伝統のおもてなし
海事関連業者要覧 2013
海運・造船会社要覧 2013

H24情報工学科教員選定図書一覧

書　　名(I)
基本3関数+IF関数ではじめるExcel集計テク
スマートフォンサイト設計入門
今すぐ使えるかんたんWindows 8
これからはじめるWebデザインの本
猫でもわかるC#プログラミング
基本情報技術者らくらく突破 表計算
要点早わかりITパスポートポケット攻略本
基本情報技術者試験によくでる問題集【午前】平成24-25年度
基本情報技術者試験によくでる問題集【午後】平成24-25年度
栢木先生のITパスポート試験教室 平成25年度
栢木先生のITパスポート教室準拠書き込み式ドリル 平成25年度
栢木先生の基本情報技術者教室 平成25年度
栢木先生の基本情報技術者教室準拠書き込み式ドリル 平成25年度
キタミ式イラストIT塾ITパスポート試験 平成25年度
キタミ式イラストIT塾基本情報技術者 平成25年度
エンジニアのプレゼン/スライド作成入門

H24電子機械工学科教員選定図書一覧

書　　名(M)
Rで学ぶデータ・プログラミング入門 RStudioを活用する
無敵のデザインアイデア・ファイル
10分あれば書店に行きなさい
マンガでわかる色のおもしろ心理学
マンガでわかる色のおもしろ心理学2
自由帳 Note for freedom
歴史が教えるエコライフ2 技術編
チンクエチェントで駈け巡るイタリア5000km
トヨタの片づけ
聞く力 心をひらく35のヒント
教育現場でのデザインマネジメント
理系の子 高校生科学オリンピックの青春
算数・数学が得意になる本
就活の算数
Rで学ぶデータサイエンス2 多次元データ解析法
Rによるやさしい統計学
ZigBee開発ハンドブック
絵ときでわかる材料学への招待
JIS鉄鋼材料入門
CAD利用技術者試験2級 2012年版
ロボット工学の基礎
絵ときでわかるロボット工学
資源・材料・エネルギー工学
メイカーズ 21世紀の産業革命が始まる
日本発!世界を変えるエコ技術
634の魂 東京スカイツリー公認
加工学・加工機器
新しい機械の教科書
インストール及び解析実践ガイド
はじめてのオープンCAE
精密機械加工の原理
なごみ自動車大図鑑
ワイヤレス給電の技術と実際
すぐにつながる!どこまでも広がる! 超お手軽無線モジュールXBee
PICで楽しむAndroidアクセサリの自作
犬はあなたをこう見ている
色彩学入門 色と感性の心理
伊坂幸太郎全小説ガイドブック
オーデュボンの祈り
陽気なギャングが地球を回す
陽気なギャングの日常と襲撃

H24総合教育科教員選定図書一覧

書　　名(G)
コンピュータが仕事を奪う
理性の限界 不可能性・不確定性・不完全性
知性の限界 不可測性・不確実性・不可知性
感性の限界 不合理性・不自由性・不条理性
戦国の交渉人 外交僧・安国寺恵瓊の知られざる生涯
奪われた「三種の神器」皇位継承の中世史
戦国誕生 中世日本が終焉するとき
逃げる公家、媚びる公家 戦国時代の貧しい貴族たち
戦国の貧乏天皇
大坂落城戦国終焉の舞台
戦国期浦上氏・宇喜多氏と地域権力
記録・沖縄「集団自決」裁判
東南アジアを知る事典 新版
戦国期赤松氏の研究
赤松氏五代 弓矢取って無双の勇士あり
備前浦上氏
バカな研究を嗤うな 寄生虫博士の90%おかしな人生力
宇喜多直家・秀家 西国進発の魁とならん
帝国解体 アメリカ最後の選択
タックスヘイブンの闇 世界の富は盗まれている!
ゲーデルと20世紀の論理学1 ゲーデルの20世紀
ゲーデルと20世紀の論理学2 完全性定理とモデル理論
ゲーデルと20世紀の論理学3 不完全性定理と算術の体系
ゲーデルと20世紀の論理学4 集合論とプラトニズム
天才数学者列伝 数奇な人生を歩んだ数学者たち
身近で役立つ数学力
今度こそわかるゲーデル不完全性定理
身近な数学の記号たち
復習でわかる算数・数学の勉強
ゲーデルに挑む 証明不可能なことの証明
よくわかる数学記号 力学に出てくる量と単位
数学の視点
数理の世界 現代数学の平易な解説
数学者的思考トレーニング 代数編
数学者的思考トレーニング 解析編
入門微分方程式
ナヴィエ-ストークス方程式の数理
論理・集合と位相空間入門
論証・集合・位相入門
角川新字源
日本語の隣人たち
語源でたどる英単語まんだら

（出典：図書館）

資料８－２－①－６

購 入 希 望 図 書 申 込 用 紙

※ 希望する本やそれに代替する資料が所蔵されていないことを確認してください。
文庫本は受付できません。
参考書･資格試験問題集を優先します。
小説の希望にも応じることができますので職員までご相談ください。

学科･学年		氏　名	
書　　名		著　者	
出 版 社		金　額	

（出典：図書館）

資料８－２－①－７

作文コンクール入賞作リスト

優秀作

Ｉ３　■■■■■■　「笑顔の理由」
Ｓ１　■■■■■■　「『この一言が人生を変えるイチロー思考』を読んで」

以上　２名

佳作

Ｍ４　■■■■■■　「インターンシップ報告」
Ｉ４　■■■■■■　「インターンシップに参加して」
Ｉ４　■■■■■■　「インターンシップを終えて」
Ｉ４　■■■■■■　「インターンシップ」
Ｉ４　■■■■■■　「インターンシップで学んだこと」
Ｉ４　■■■■■■　「インターンシップリポート」
Ｉ４　■■■■■■　「インターンシップを終えて」
Ｉ４　■■■■■■　「インターンシップ」
Ｉ４　■■■■■■　「インターンシップを終えて」
Ｉ２　■■■■■■　「私の町」
Ｓ１　■■■■■■　「LITTLE　BY　LITTLE」

以上　１１名

（出典：図書館）

資料８－２－①－８

図書館だより

第１６号　平成２４年３月発行　弓削商船高等専門学校図書館



作：S3　五井和貴

目　次

第１回弓削商船高専読書会の開催について‥２
平成２３年度作文コンクール優秀作‥‥‥‥３
平成２３年度学生図書委員　‥‥‥‥‥‥‥３
学生図書委員・図書館司書おすすめの本‥‥４
学生図書委員おすすめのＤＶＤ　‥‥‥‥‥６
年間貸出ランキング‥‥７
図書館利用状況　‥‥‥８
利用状況案内（学生）・８
編集後記　‥‥‥‥‥‥８

1

（出典:図書館だより第 16 号表紙）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の特徴である練習船「弓削丸」は，海技技術者育成のためだけでなく，工業系学科の学生の教育・実習，教員の研究，他機関との共同研究，四国地区高等専門学校との連携事業，オープンキャンパス，体験公開や地域イベント等の様々な分野で活用されている。

（改善を要する点）

老朽化した浮桟橋の改修及び居室が不足している学生寮の新棟建築が喫緊の課題になっている。また，図書館の利用率が十分ではなく，さらに有効に活用されるよう努めることも課題である。

（３）基準８の自己評価の概要

本校の教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設，設備が整備されており，適切な安全管理の下で有効に活用されている。特に，練習船「弓削丸」は，海技技術者育成及び研究のためだけでなく，工業系学科の学生の教育・実習，他機関との共同研究及び連携事業等の様々な分野で活用されている。また，バリアフリー化や環境への配慮もなされている。

情報処理教育センターが中心になって，教育，研究に必要なＩＣＴ環境を整備しており，十分なセキュリティ管理体制の下で多くの授業や実験，課外活動及び学生寮の居室からも利用されている。また，多種類の e-learning コンテンツが準備されており，自学自習，資格取得対策及び授業で活用されている。

図書館には，閲覧室，書庫，視聴覚コーナーがあり，約 77,000 冊の図書や学術雑誌等，教育研究上必要な資料が系統的に整備されている。全体的な利用率は十分とはいえないが，利用を促進するために，図書の受入には教員や学生による図書の選定や休日開館，作文コンクールの実施，図書館だよりの刊行などを行って，さらに有効に活用されるよう努めている。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

文書の管理に関しては，文書管理規則に沿って運用されている（資料９－１－①－１）。また，教育活動のデータや資料は，学科・専攻科から提出され，大部分は教務委員会，専攻科委員会，自己点検評価委員会及びＦＤ委員会等を通して収集され，所掌部署である学生課及び企画広報室が保管・蓄積している（資料９－１－①－２）。教育改善に関するアンケート，例えば学生による授業評価等は，実施担当責任者等（主に教務主事及び企画広報室）が収集保管している。試験問題・解答は，科目担当者が学生課にてスキャンし，学内サーバにＰＤＦで収集・保管するようになっている（資料９－１－①－３，４）。卒業研究論文等の学科が主体で行われる教育活動を示すデータは，目次に相当するデータを学生課で，本文データは当該学科で保管しており，専攻科に関するデータは教務係及び専攻科成績資料室に保管されている。さらに，中期計画に基づいて実施された教育活動は，中期計画関係のための保管場所を企画広報室に設置し，データまたは写しを収集・蓄積している。

教育活動の評価は，自己点検評価委員会と教務委員会に加えて，ＦＤ委員会及び中期計画推進室においても，教育に関する各種アンケートや教育課程を検討・評価する体制としている。

本校では，毎年，評価項目を定めて自己点検・評価報告書を作成し，運営諮問会議（外部評価機関）で必要な事項について評価されるシステムとなっている。運営諮問会議による評価・提言は運営委員会への報告された後，各委員会，学科，専攻科及び教員にフィードバックされ，本校での教育改善に反映している。

（分析結果とその根拠理由）

教育活動の実態を示すデータや資料は，教務委員会，専攻科委員会，自己点検評価委員会及びＦＤ委員会等を通して収集され，学生課及び企画広報室に保管・蓄積されている。収集・保管された資料について，自己点検評価委員会，教務委員会，ＦＤ委員会及び中期計画推進室により，評価を実施できる体制を整備している。また，自己点検・評価報告書等の中から項目を定めて，運営諮問会議で評価・提言を受け，各委員会，学科，専攻科及び教員にフィードバックされ，教育活動の改善に反映している。

以上のことから，教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているといえる。

資料９－１－①－１

○弓削商船高等専門学校文書管理規則

制　　定　平成13年３月30日
最終改正　平成21年11月19日

（趣旨）

第１条　この規則は，「独立行政法人の保有する情報の公開に関する法律」（平成13年法律第140号。以下「法」という。）第23条に基づき，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）における法人文書の適正な管理について，必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この規則において「法人文書」とは，法第２条第２項に規定するものをいう。

２　この規則において「文書等ファイル」とは，「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令」第３条に規定するものをいう。

３　この規則において「学科等」とは，各主事，各学科，総合教育科，専攻科，図書館，練習船弓削丸，情報処理教育センター，地域共同研究推進センター及び技術支援センターをいう。

（作成）

第３条　本校の意思決定に当たっては，原則として文書（図画及び電磁的記録を含む。以下同じ。）を作成して行うものとする。ただし，意思決定と同時に文書を作成することが困難である場合は，事後に文書を作成するものとし，処理に係る事案が軽微な場合は，文書を作成しないことができる。

２　本校における事務及び事業の実績については，原則として文書を作成するものとする。ただし，処理に係る事案が軽微な場合は，文書を作成しないことができる。

（管理体制）

第４条　本校に総括文書管理者を置き，事務部長をもって充てる。

２　本校の課及び学科等に，文書管理者及び文書管理担当者を置く。

３　文書管理者は，課にあっては課長を，室にあっては室長を，学科等にあっては当該学科等の長をもって充てる。

４　文書管理担当者は，文書管理者が指名する者をもって充てる。

５　総括文書管理者は，法人文書の管理に関する規程等並びに次条に規定する弓削商船高等専門学校文書分類基準表（以下「分類基準表」という。）及び第９条に規定する弓削商船高等専門学校文書等ファイル管理簿（以下「管理簿」という。）の整備に努めるとともに，法人文書の管理に関する事務を指導監督し，研修等の実施に当たるものとする。

６　文書管理者は，法人文書の管理の徹底に努めるものとする。

７　文書管理担当者は，文書管理者を補佐するものとする。

（分類）

第５条　文書管理者は，法人文書の体系的な整理，迅速な検索及び適切な保存に活用

（出典：弓削商船高等専門学校規則集３－４抜粋）

資料９－１－①－２

教育活動に係るデータ，資料の保管

教育活動に係るデータ，資料	収集担当委員会	保管場所
学生成績表（準学士課程）	教務委員会	学生課
答案資料（準学士課程）	教務委員会	学生課
進級・卒業判定資料（準学士課程）	教務委員会	学生課
シラバス（準学士課程）	教務委員会	学生課
学生成績表（専攻科課程）	専攻科委員会	学生課
答案等成績評価資料（専攻科課程）	専攻科委員会	各教員
修了判定資料（専攻科課程）	専攻科委員会	学生課
シラバス（専攻科課程）	専攻科委員会	学生課
授業評価アンケート	FD委員会	企画広報室
学生による達成度評価	自己点検評価委員会	企画広報室
自己点検・評価の資料	自己点検評価委員会	企画広報室
中期計画の資料	中期計画推進室会議	企画広報室
運営諮問会議の資料	自己点検評価委員会	企画広報室

（出典：企画広報室）

資料９－１－①－３

平成２３年度第２回教務委員会議事概要

１　日　時　　平成２３年４月２６日（火）１６時３０分～１７時０５分
２　場　所　　第二会議室
３　出席者　　６名（別紙のとおり）
４　議　題

（中略）

（報告事項）
(1)　その他
①　答案用紙の保管について
教務主事から、答案用紙の保管について、前期中間試験から電子ファイルで保管するよう依頼があった。

平成２３年度第３回教員会議議事概要

日　時　　平成２３年５月２６日（木）１６時３０分～１７時０７分

場　所　　第一会議室

出席者　　４１名（別紙のとおり）

（中略）

（報告事項）
１　平成２３年度新入生学力試験結果について
各教科担当教員から、報告資料１に基づき、平成２３年度新入生学力試験結果について説明があった。
２　その他
①　答案用紙の電子ファイル化について
教務主事から、報告資料２に基づき、答案用紙の電子ファイル化について説明があった。
また、田房教員から、コピーは単価が高いためスキャナ専用として使用するよう依頼があった。

（出典：教員会議議事録　抜粋）

資料９－１－①－４

H23.5.26　update

試験問題・答案用紙の電子保存方法（サーバ）

1. 手順

(1) 原稿を上向きにし，ソータにセット
(2) 操作パネルから保存するフォルダを指定
(3) スキャン設定
(4) スタートボタン

2. 操作パネル

(1) パワーセーブ
　　省電力モードのとき，押して回復する．
(2) スタート
　　ソータにセットした原稿し，スキャンをスタートする．
(3) タッチペン
　　タッチパネルを操作する．指でもできますが，なるべくタッチペンを利用下さい．



（出典：学生課）

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準に基づいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）

自己点検・評価は，自己点検評価委員会において，毎年，評価項目を定めて実施し，自己点検・評価報告書を作成している（資料９－１－②－１）。

教員からの意見は，校長面談，ＦＤ講演会アンケート，各種委員会での審議などを通して聴取している（資料９－１－②－２，３）。事務系職員の意見は，事務部長面談や各主事との話合い等を通して聴取しており，技術職員の意見は，技術支援センター長との面談や技術長を通して聴取している（資料９－１－②－４，５）。学生からの意見聴取を行う取り組みとして，平成９年度から教務委員会（平成 23 年度からはＦＤ委員会）を中心に，学生による授業評価を実施している（資料９－１－②－６）。卒業生，修了生，就職先企業からの意見は，アンケートにより聴取している（資料９－１－②－７，８）。保護者に対しては，公開授業を行い，参観した保護者からアンケートを聴取するほか，年２回開かれる保護者懇談会の際に寄せられた要望事項や，質問等をまとめている（資料９－１－②－９，10）。

外部の機関からは，運営諮問会議において各界の有識者により審議された内容をもとに教育水準の向上が図られている（資料９－１－②－11）。

聴取した意見の点検・評価は，各種委員会（ＦＤ委員会，自己点検評価委員会，教務委員会，専攻科委員会，学級担任委員会，中期計画推進室）で行っている（資料９－１－②－12）。また，聴取した意見を背景にして，各科，専攻科及び事務組織の現状と課題についてまとめた自己点検・評価報告書を作成している（資料９－１－②－13）。

（分析結果とその根拠理由）

教職員，学生の意見をはじめ保護者，卒業生，修了生，就職先企業，各界有識者の意見を聴取し，それらを学校として策定した基準に基づき点検・評価し，自己点検・評価報告書を作成する等の取組がなされている。

以上のことから，学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，教育の状況に関する自己点検・評価が適切になされているといえる。

資料９－１－②－１

平成２３年度 第１回自己点検評価委員会議事要旨

日　　時　　平成２３年９月１６日（金）１６：２０～１６：５５
場　　所　　第２会議室
出 席 者　　１３名（別紙委員名簿のとおり）
議　　題

審議に先立ち、校長から、自己点検・評価についての実施時期は年度当初に行い報告書を作成することが望ましいこと、内容については運営諮問会議の諮問事項に関連すること等の説明があった。また、昨年度開催した運営諮問会議の状況及び運営諮問会議委員長を本年度から神戸商船大学 名誉教授 杉田英昭氏に依頼し、受諾されたことの報告があった。

（審議事項）

１．平成２２年度自己点検・評価の項目について

校長から、議題資料１－１に基づき、平成２２年度自己点検・評価の項目について、独立行政法人となった平成１６年度に「本校の現状と課題」としたタイトルで学校全体の点検・評価を実施したが、その後はポイントを絞った項目で実施してきた。各学科等における自己点検・評価に関しては平成１６年度から実施されておらず、また平成２５年度に受審予定の認証評価にも関連するため、今回提案したとの説明があった。

続いて教務主事から、議題資料１－２、１－３に基づき、記載内容に関する詳細説明があった。

審議した結果、記載内容について委員から意見があり、以下のとおりとすることで原案どおり了承された。

○　「入学志願者及び入学者の推移」及び「進学・就職指導状況」について、期間は最低５年間程度の内容とする。
○　「概要及び現状」に関しては、各学科等の教育目標と関連付ける。
○　カリキュラムの対応については、改正後２年程度であるので、旧カリキュラムの課題を踏まえて改善し、新カリキュラムに移行した内容とする。
○　現状については、学生支援に関することも記載する。
○　全体的にＰＤＣＡサイクルを意識し、特に改善に関することは明記する。

（出典：企画広報室）

資料９－１－②－２－１

身　上　調　書

（ 平成２４年５月１日現在 ）

① ふりがな 氏　名 生年月日	印 年　月　日生　満　歳	② 現住所	〒 電話：　（　）	私印
③現職名		④採用 年月日	平成　年　月　日	写真貼付欄 （4.0cm×3.0cm）
⑤最終学歴	年　月 年　月			
⑥資格等	年　月 年　月			
⑦健康状態	□健康 □やや不健康　→ やや不健康若しくは不健康な場合に □不健康　→ は、その状況を記載してください。		具体的状況	
⑧住居状況	□自　宅　□高専宿舎　□借家・借間等　□その他（　）			

⑨ 家庭状況等

続柄	氏　名	年齢	職業等 （在学中の者は学年）	健康状況	同・別居の別	別居の場合の住所

別居の場合の家族宅の連絡先　電話：　（　）

（家庭の特殊事情）

⑩ 現在の担当業務等

☆現在の主な担当業務（主事補、担任、クラブ顧問、各種委員等）

☆上記業務に対しての要望等

☆その他教育・研究等の要望等

⑪ 人事交流等の希望

□他高専への人事交流を希望する

□その他

具体的理由：

（出典：総務課）

資料９－１－②－２－２

⑪ 現在の担当職務，自己評価等	☆前年度の自己の職務遂行内容についてどのように評価しますか （　　） ☆現在の主な担当職務 （　　） ☆今年度どのような目標を持って職務に取り組みたいと思いますか （　　）
⑫ 職務上の希望事項	□現在の職務を引き続きやりたい （具体的理由：　　） □校内での配置換を希望する □総務課　□学生課　□企画広報室　□技術支援センター　□その他 具体的分野：(例;総務課の場合→庶務関係，人事関係，予算関係，契約関係等) （具体的理由：　　） □学外への異動を希望する □文部科学省等での勤務 □人事交流による出向(期限あり復帰予定) □人事交流以外で大学法人等への異動(復帰予定無し) □課長登用面接を希望 （具体的理由：　　） ☆その他職務上の要望等 （　　）

⑬ 研修歴（本校主催の研修以外）

年　度	研　修　事　項　（主催）

注）身上調書に書きにくいことがあれば，上司に直接相談してください。

（出典：総務課）

資料９－１－②－３

平成24年度　SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：ティーチング・ポートフォリオ入門-教育実践のリフレクション-
講師名：佐藤浩章（愛媛大学）
実施日：平成24年6月15日（金）
実施会場：弓削商船高等専門学校

当日参加者数：15名
アンケート回答者数：13名

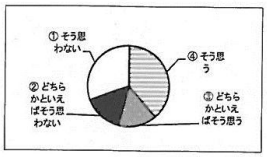
1. 参加者ご自身について
職種

	度数	割合
① 教員	13	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（　　）	0	0.0
計	13	100.0

その他の記述内容

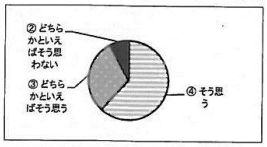
2. この研修について
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	38.5
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	4	30.8
計	13	100.0



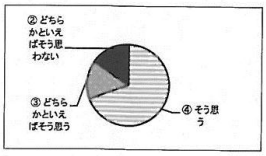
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	8	61.5
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



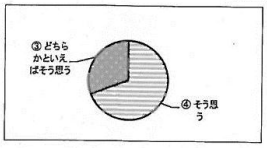
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



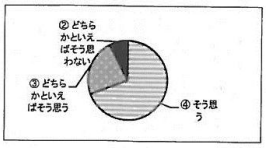
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



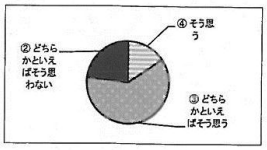
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	3	23.1
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



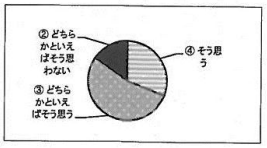
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	2	15.4
③ どちらかといえばそう思う	8	61.5
② どちらかといえばそう思わない	3	23.1
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



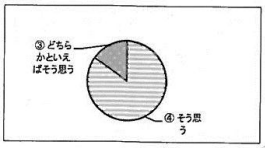
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	4	30.8
③ どちらかといえばそう思う	7	53.8
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	11	84.6
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



（出典：平成 24 年度ＦＤ活動報告書）

資料９－１－②－４

個別懇談日程表

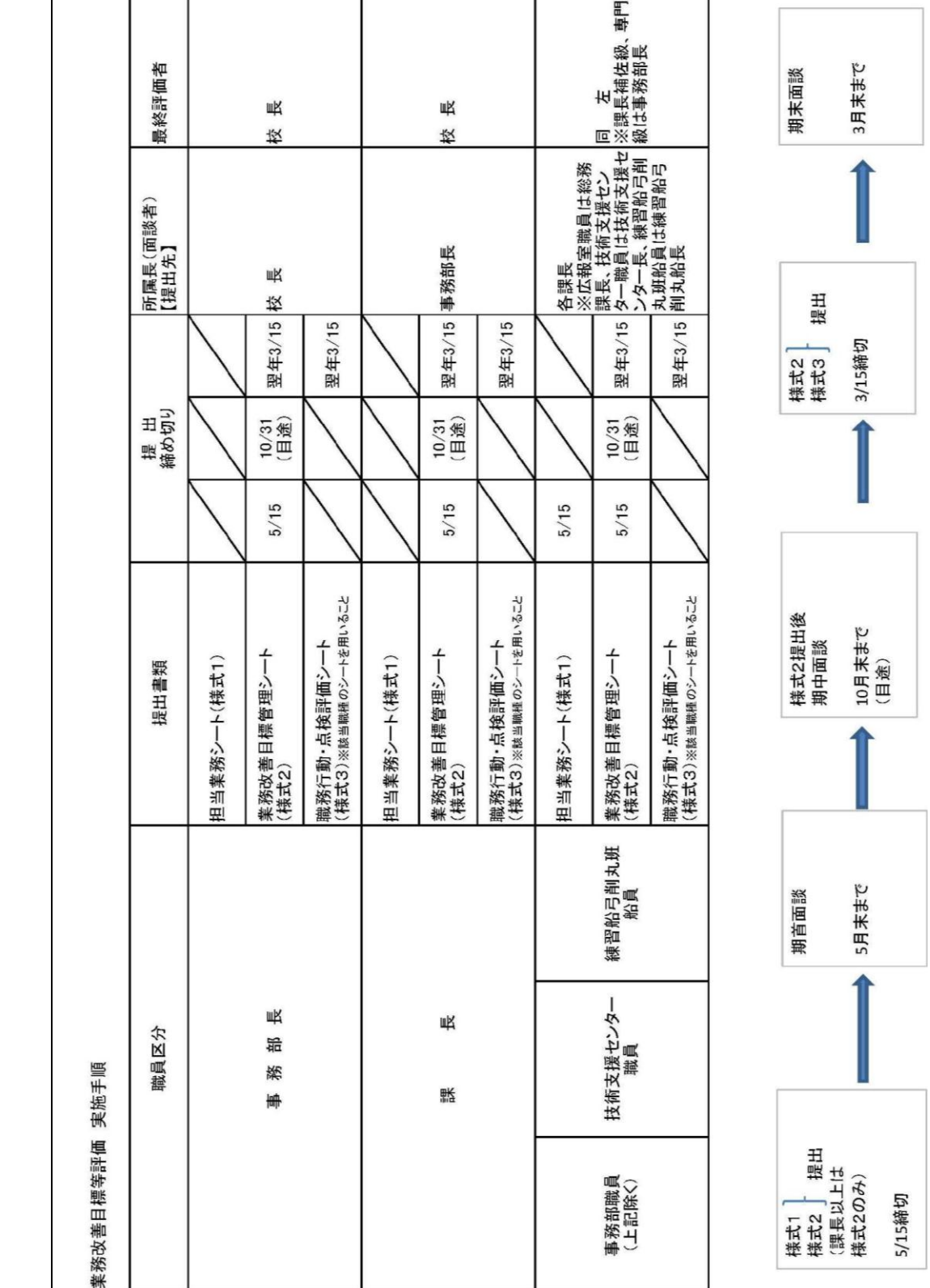
個人情報等保護のための削除

（出典：総務課）

資料９－１－②－５

業務改善目標等評価　実施手順

職員区分		提出書類		提 出 締め切り		所属長（面談者） 【提出先】	最終評価者
事　務　部　長		担当業務シート（様式1）					校　長
		業務改善目標管理シート （様式2）		5/15	10/31 （目途）	翌年3/15	
		職務行動・点検評価シート （様式3）※該当職種のシートを用いること				翌年3/15	
課　　長		担当業務シート（様式1）					校　長
		業務改善目標管理シート （様式2）		5/15	10/31 （目途）	翌年3/15	
		職務行動・点検評価シート （様式3）※該当職種のシートを用いること				翌年3/15	
事務部職員 （上記除く）	技術支援センター 職員	練習船弓削丸班 船員	担当業務シート（様式1）	5/15			各課長 ※広報室職員は総務課長、技術支援センター職員は技術支援センター長、練習船員は練習船弓削丸船長
			業務改善目標管理シート （様式2）	5/15	10/31 （目途）	翌年3/15	
			職務行動・点検評価シート （様式3）※該当職種のシートを用いること			翌年3/15	



（出典：総務課）

資料９－１－②－６

平成 25 年 3 月 28 日

教務主事補
田房友典

平成 24 年度

学生による授業評価アンケート報告書

下記の期間実施した Web によるアンケート調査において，資料をまとめましたので報告いたします．

本年度は，教員コメント入力終了後，予期せぬサーバの故障により，教員に入力いただいたコメント，および学生による授業評価アンケートシステムが消失してしまいました．そのため，学生から収集したアンケート結果をグループウェア（Aipo）に掲載して，公開致しました．

また，データ消失により各種分析ができないため，報告書にはアンケート集計結果の一覧表のみ添付します．

記

以上

調査期間：	平成 25 年 1 月 18 日（金）～1 月 25 日（金）
教員コメント入力：	平成 25 年 1 月 28 日（月）～2 月 1 日（金）
学生および教職員公開：	平成 25 年 2 月 12 日（月）～3 月末 （グループウェアを用いた閲覧）

資料
１．授業評価アンケート集計一覧表
２．アンケート実施スケジュール
３．授業評価担当者
４．その他（メール案内文）

以上

（出典：企画広報室）

資料９－１－②－７

卒業（修了）生へのアンケート結果

回収率　26.4%　（3／21現在）　　【85 名/322名】

1. 卒業（修了）学科についてお答えください。

イ. 商船学科	20
ロ. 電子機械工学科	26
ハ. 情報工学科	26
ニ. 専攻科生産	13
ホ. 専攻科海上	0

2. 本校で特に身に付けることができた知識は何ですか。（複数回答有）

イ. 一般教養知識	10
ロ. 専門知識	48
ハ. 実技系の技能	26
ニ. その他	4 ・[・社交性　1
未記入	1

3. 自分の身に付けた知識が、発揮できていると思いますか。

イ. 発揮できている	31
ロ. 発揮できていない	14
ハ. どちらとも言えない	39
未記入	1

4.在学中、どの分野に力を入れて勉強すれば良かったですか。（複数回答可）

イ. 語学	32	ト. 電気・電子系応用分野	17
ロ. 数学	15	チ. 機械系応用分野	22
ハ. 物理・化学	10	リ. 情報工学（ソフト系）	22
ニ. 専門基礎学（力学、電気、応数など	36	ヌ. 情報工学（ハード系）	23
ホ. 商船学（航海系）	5	ル. 情報工学（周辺応用技術）	18
ヘ. 商船学(機関系）	11	オ. その他	4

・IT　1
・資格勉強（取得）　1
・読書術　1
（学習するための方法論を得てはじめて学習がおもしろくなるから）

5.在学中に受けた就職・進学指導は適切でしたか。

イ. 適切であった	47
ロ. 適切ではなかった	10
ハ. どちらとも言えない	28

6.課外活動の経験は現在活かされていますか。

イ. 活かされている	43
ロ. 活かされていない	9
ハ. どちらとも言えない	33

（出典：企画広報室）

資料９－１－②－８

卒業（修了）生の就職企業先へのアンケート結果

回収率　49.4%（3／21現在）　　【82 社/166社】

1．御社の所属する分野を選択してください。

イ．海事産業である	41
ロ．海事産業でない	37
未回答	4

2．本校卒業（修了）生の学力についてお答えください。（ひとつ選んでください。）複数回答有

・優れている分野は何ですか。

イ．一般教養知識	10	
ロ．専門知識	40	・なし　1
ハ．実技系	25	・機械操作　1
ニ．その他	4	・行動力　1
未回答	5	・全体的に優れている　1

・劣っている分野は何ですか。

イ．一般教養知識	38	
ロ．専門知識	8	・特になし　7
ハ．実技系	13	・コミュニケーション　1
ニ．その他	16	・分からない　1
未回答	9	・語学力　1
	84	・知識、技術については問題ありませんが他者とのコミュニケーションを苦手とする傾向あ

3．本校卒業（修了）生の資質についてお答えください。（ひとつ選んでください。）複数回答有

・優れている点は何ですか。

イ．実践力	41	ニ．応用力	12	・なし　2
ロ．創造力	1	ホ．表現力	9	・本人の資質による　1
ハ．判断力	6	ヘ．その他	7	・素直、努力家　1
		未回答	5	・なぐられ強い　1
				・全体的に優れている　1
				・就業期間が短かった為判断不可　1

・劣っている点は何ですか。

イ．実践力	7	ニ．応用力	11	
ロ．創造力	10	ホ．表現力	24	・特になし　3
ハ．判断力	8	ヘ．その他	13	・本人の資質による　1
		未回答	9	・コミュニケーション能力　2
				・就業期間が短かった為判断不可　1

4．本校卒業（修了）生の性向についてお答えください。（ひとつ選んでください。）複数回答有

・優れている点は何ですか。

イ．協調性	34	ニ．礼儀正しさ	24
ロ．積極性	3	ホ．責任感	19
ハ．国際性	0	ヘ．その他	0
		未回答	4

・劣っている点は何ですか。

イ．協調性	4	ニ．礼儀正しさ	1	
ロ．積極性	35	ホ．責任感	7	・特になし　1
ハ．国際性	19	ヘ．その他	8	・英語力　1
		未回答	10	

（出典：企画広報室）

資料９－１－②－９

平成24年4月28日実施

授業参観に関するアンケート結果

１ 参加者数

	1年	2年	3年	4年	5年	計
商船学科	22（ 48）	4（ 6）	3（ 7）	2（ 3）	1（ 1）	32（ 65）
電子機械工学科	23（ 37）	6（ 6）	10（ 14）	2（ 2）	0（ 0）	41（ 59）
情報工学科	18（ 34）	10（ 22）	8（ 11）	4（ 6）	0（ 0）	40（ 73）
海上輸送システム工学専攻	0（ 0）	0（ 0）				0（ 0）
生産システム工学専攻	0（ 0）	0（ 0）				0（ 0）
計	63（119）	20（ 34）	21（ 32）	8（ 11）	1（ 1）	113（197）

※（ ）は総数

２ 地域別参加者数

県 名	市町村	人数
埼玉県	所沢市	1（ 1）
愛知県	一宮市	1（ 2）
大阪府	寝屋川市	1（ 1）
兵庫県	尼崎市	2（ 6）
	神戸市	2（ 3）
岡山県	岡山市	1（ 2）
	倉敷市	1（ 3）
	笠岡市	2（ 4）
	玉野市	1（ 3）
	赤磐市	1（ 1）
	瀬戸内市	1（ 2）
山口県	防府市	1（ 3）
	周南市	2（ 5）
福岡県	福岡市	1（ 1）
徳島県	小松島市	1（ 2）
香川県	高松市	1（ 2）
	宇多津町	1（ 2）
高知県	宿毛市	1（ 3）
広島県	広島市	4（ 7）
	東広島市	2（ 3）
	府中市	2（ 2）
	三原市	3（ 5）
	福山市	12（ 17）
	尾道市	22（ 35）
愛媛県	宇和島市	2（ 3）
	愛南町	1（ 2）
	八幡浜市	1（ 2）
	松山市	9（ 17）
	四国中央市	1（ 3）
	新居浜市	1（ 1）
	今治市	23（ 37）
	上島町	6（ 11）
合計		111（191）

（出典：学生課）

資料９－１－②－10

平成 24 年度　前期学級懇談会状況（教務関係）

個人情報等保護のための削除

（出典：学生課）

資料９－１－②－11

１　第８回運営諮問会議の提言

前回（平成２３年１２月１９日開催）の会議において、１項目の諮問事項に対して、以下のとおり提言した。

１．多様化する学生への支援について

多様化する学生への支援は、初等・中等教育段階からの課題となっていることを念頭に置いて、高専においても多面的な支援が必要であると考えられます。学生への支援は、学校が全体計画を立て、中・長期的な視野で取り組んで行くことを提案します。

今回の個々の諮問内容について、以下の通り提言します。

学習支援については、集団での指導だけでなく個別指導も必要であり、教員の資質向上を図ることや学生の実情を把握してＴＡの活用などを充実させる等の支援により、５年間を通して学生の育成を図ることを提案します。

キャリア支援については、１年生の段階から社会との関わりを意識させ、具体的に目標を持たせることによって、希望する進路へ向けての支援を継続的に行うことが肝要です。関連企業へのインターンシップや現場に携わっている人達と触れ合う機会等の中で自分の特性を発揮し、生き方を見出させる支援に繋げることを提案します。

寮生活の支援については、共同生活の中で寮生同士が交流を深めながら、挨拶を始めとする基本的生活習慣の涵養を図ることが、実社会へ出た時の評価に繋がります。寮生数の増加への対応は、教員の業務の負荷を考慮しつつ生活面のアメニティーに対してはしっかりとした快適な環境を造り、留学生への対応も取り込んで、中学生にとって入りたいと思う寮の新棟建築を目指すことを提案します。

（出典：９回運営諮問会議報告書Ｐ．２）

資料９－１－②－12

平成２３年度第２回ＦＤ委員会議事概要

１　日　時　　平成２３年１１月２８日（月）１６時２１分～１６時４３分
２　場　所　　第二会議室
３　出席者　　１１名（別紙のとおり）
４　議　題

（審議事項）

(1)　授業評価アンケートについて

田房委員から審議資料１に基づき説明があり、審議の結果、一部文言を修正することとなった。

Ｑ１　明瞭　→　適切
Ｑ２　「早すぎず遅すぎず,」を削除
Ｑ３　見やすかった　→　適切であった
　　分かりやすかった　→　適切であった

(2)　その他

なし

（出典：学生課）

資料９－１－②－13

目　　次

１．第７回運営諮問会議（平成２２年度）の報告
１－１　第６回運営諮問会議（平成２１年度）の提言と本校の対応・・　１
（１）　第６回運営諮問会議（平成２１年度）の提言　・・・・・・　１
（２）　提言に対する本校の対応　・・・・・・・・・・・・・・・　１
１－２　第７回運営諮問会議（平成２２年度）諮問事項と提言　・・・１０
（１）　第７回運営諮問会議（平成２２年度）諮問事項　・・・・・１０
（２）　審議内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
（３）　提言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６
２．教育方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
３．学科等の教育目標及び現状と課題　・・・・・・・・・・・・・　１７
（１）総合教育科（教養教育）　・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
（２）商船学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
（３）電子機械工学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
（４）情報工学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
４．専攻科の教育目標及び現状と課題　・・・・・・・・・・・・・　２５
（１）海上輸送システム工学専攻　・・・・・・・・・・・・・・・　２５
（２）生産システム工学専攻　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
５．事務組織の現状と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９
６．施設・設備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
資料編　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５

（出典：平成 22 年度自己点検・評価報告書目次）

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育課程の改正や組織の改廃及び新設等については運営委員会で審議・承認することとし，校内に特別に設置している中期計画推進室を機能させて，自己点検評価委員会，教務委員会，及びＦＤ委員会等と連携して，教育の質の向上や問題点を改善するための組織を整備している（資料９－１－③－１）。第１期の中期計画（平成 16 年度～平成 20 年度）については，実施報告書を作成し，達成状況を分析して自己評価を行い，各事項への措置として反映させている（資料９－１－③－２）。教育課程については，教務委員会において平成 21 年度にカリキュラムを全般的に見直し，現在第４学年まで進行しているところである。専攻科については，平成 24 年度から教育課程を改正し，「長期インターンシップ」や「教育技術演習」を新たに取り入れた。商船学科においては，商船学科を持つ５高専の話し合い，航海訓練所及び国土交通省からの要請により，１年間の大型練習船実習を１ヶ月・５ヶ月・６ヶ月の３分割短期実習方式への移行に対応するため，更なる新しい教育課程を平成 25 年度から実施する改正を行った。また，平成 23 年度から，第１学年に対するフォローアップを目的として初年次教育支援室を設置した（資料９－１－③－３）。

技術者教育の質の向上を図るため，運営諮問会議の審議を受けて，技術職員の資格取得に対して学校として支援を行っている（資料９－１－③－４）。さらに，国際交流推進室を設置し，タイ王国のナコンパノム大学との協定を締結し，商船学科を持つ５高専との連携により米国ハワイ大学カウアイコミュニティーカレッジと協定を締結し，学生の留学や海外インターンシップを推進している（資料９－１－③－５）。

その他にも，保護者からの意見を反映して，キャリア教育の一環として企業技術者活用プログラムを活用し，企業技術者による講演や実技指導教育などを行っている（資料９－１－③－６）。

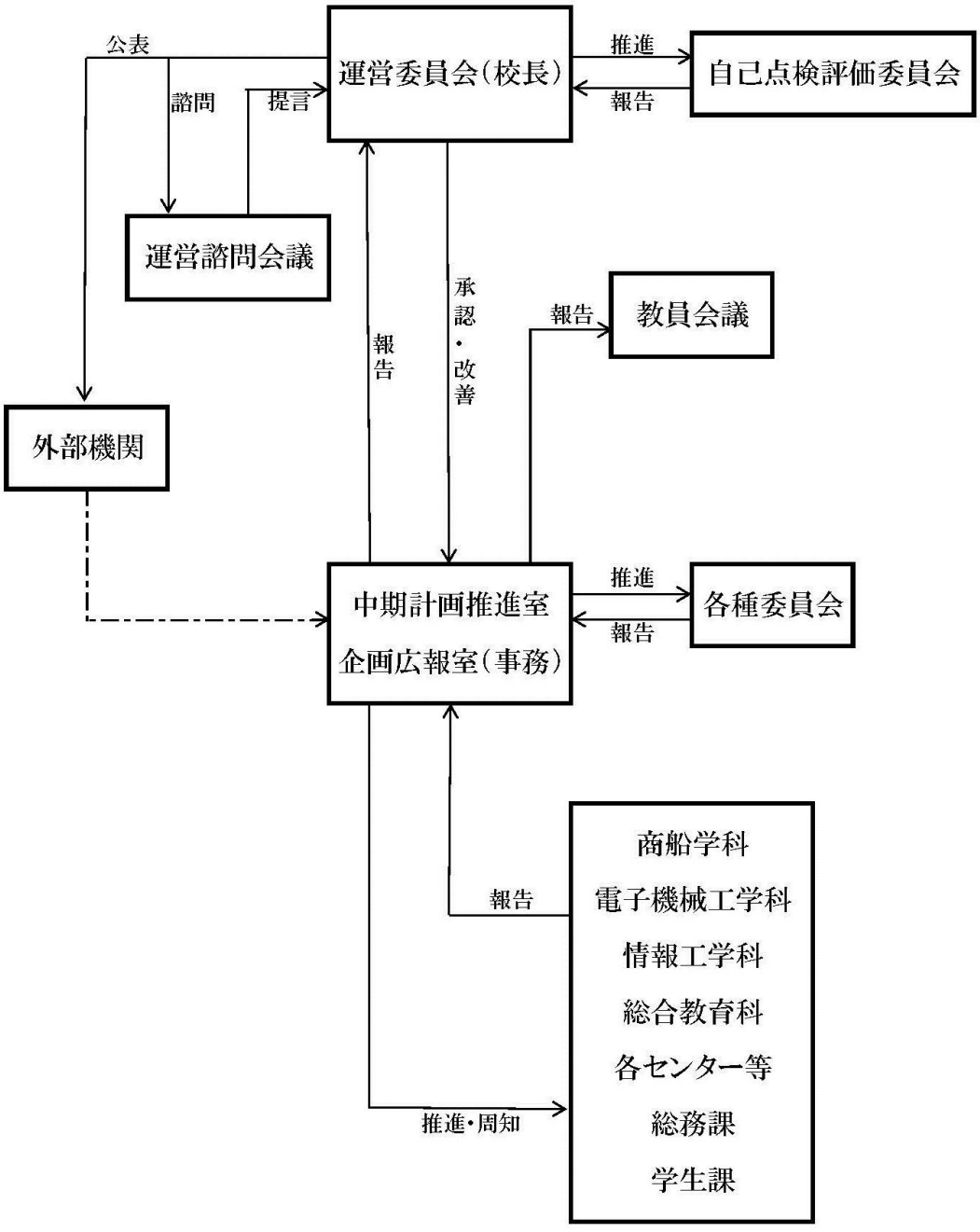
（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価，学外関係者の外部評価の結果を受けて，教育課程の見直しや技術者教育支援に関する組織の見直し等を行うシステムが整備されており，新カリキュラムの検討・導入や初年次教育支援室の設置，技術支援センターへの組織改編及び国際交流推進室の設置などが継続的に行われている。

以上のことから，各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているといえる。

資料９－１－③－１

中期計画 PDCA



（出典：企画広報室）

資料９－１－③－２

第１期中期計画
実施報告書

平成２１年６月

弓削商船高等専門学校

（出典：企画広報室）

資料９－１－③－３

平成２２年度第１１回運営委員会議事概要

日　　時　　平成２３年2月１６日（水）１６：２０～１７：００
場　　所　　第２会議室
出 席 者　　１６名（別紙のとおり）
議　　題

審議に先立ち，校長から，報告事項３「環境報告書（平成２１年度版）について」の説明を　行うため，環境マネジメントＷＧ座長の高木教員に出席依頼しているとの説明があった。

（審議事項）

１．規則の制定及び廃止について
(1)「弓削商船高等専門学校ＦＤ委員会規則」の制定について
教務主事から，議題資料１に基づき，「弓削商船高等専門学校ＦＤ委員会規則」の制定について説明があり，原案どおり了承された。また，規則の制定に伴う既存規則の廃止についても原案どおり了承された。
(2)「弓削商船高等専門学校初年次教育支援室規則」の制定について
教務主事から，議題資料２に基づき，「弓削商船高等専門学校初年次教育支援室規則」の制定について説明があり，原案どおり承認された。

（出典：総務課）

資料９－１－③－４

１　第６回運営諮問会議の提言

前回（平成２２年３月１５日開催）の会議において、２項目の諮問事項に対して、以下のとおり提言した。

１．第１期中期計画のまとめについて

中期計画のように学校全体で取り組む必要がある事業に対して、実施項目を定めてワーキンググループや推進室を設置し、具体的な役割分担を決めて事項の周知を図ることを提案します。

２．技術支援センターについて

商船高専の技術支援センターにおいては、船舶等に関する特殊な技術が必要であり、技術職員がそれに対応した資格を取得し、技術支援を行うことは極めて大事です。

技術職員の採用の際には、年齢が若く、できれば社会経験のあることなどを考慮し、採用時の専門技術だけでなく広範な技術の習得のための研修会実施・参加及び資格取得に対して学校として支援することを提案します。

２　提言に対する学校の対応

第６回運営諮問会議の提言に対する学校の対応として、以下のことを確認した。これらのことは今後も継続して努力されることを希望する。

１．第１期中期計画のまとめについて

（１）提言に対する対応

ア　第１期中期計画実施報告書を作成し、校内の各部署に配付して全教職員に周知した。

イ　本校では中期計画推進室を設置しているが、中期計画には地域共同研究推進センターに関わる実施項目もあるため、規則の改正を行い、地域共同研究推進センター長を中期計画推進室員に加えることとした。今年度の中期計画実施の進捗状況についても、地域共同研究推進センター長の敏速な対応により、改善の効果があった。

ウ　実施項目の具体的な役割分担について、これも規則の改正を行い、各学科及び総合教育科から教員各１名選出することで、それぞれ担当の役割を明確化した。体制を改めたことで、以前に比べ中期計画実施に向けて推進することがスムーズになった。

（出典：第７回運営諮問会議報告書Ｐ．２）

資料９－１－③－５

７．諮問事項

（１）　国際交流活動について

○現状

高専機構の「留学生交流・国際化の基本方針」（平成２１年８月）に関する中間報告に，今後全国の高専での国際交流活動を発展させるために，海外の教育機関等との教育・学術交流の推進，海外インターンシップ制度の拡充の推進，留学生受入・派遣の拡大等の事項が掲げられている。

本校の教育方針においては，「日本および世界の文化や社会に関心をもち，国際的視野でものがみられ，しかも人間として，技術者として高い倫理観をもった人材の育成」と掲げられており（資料３），国際交流活動を推進するため，以下の項目について取り組んでいる。

（ア）　海外の大学との国際交流協定の締結（資料１０，１１）

（イ）　国際交流活動推進のための「国際交流推進室」を設置（資料１２）

国際交流を推進するため，学内には，これまであった国際交流委員会，留学生委員会に加え，新たに国際交流推進室を設置するとともに「国際交流推進室規則」を作成した。

国際交流推進室の主な業務は，

①　外国人留学生の受け入れ

②　学生の留学及び海外研修

③　外国及び国内の大学等との協定，教職員の交流

であり，留学生交流及び国際教育研究交流の推進を図ることを目的としている。

（ウ）　国際交流推進のための国際交流関係の教員研修会への参加及び国際工学教育研究集会での発表（資料１３）

（エ）　専攻科英語キャンプの実施（資料１４）

（オ）　在学中の国費留学生への支援（日本人学生チューター及び指導教員の配置（資料１５））

（カ）　マレーシア政府派遣留学生獲得のための留学説明会への参加（資料１６）

（キ）　高専機構が実施する私費留学生制度への参加（資料１７）

（ク）　インターナショナルデイの実施（本年９月２１日　オーストラリアから１９名の生徒及び６名の教員が来校し本校１年生と交流（資料１８））

（ケ）　海外インターンシップへの参加（専攻科学生１名　派遣国：フィリピン）

（コ）　学生の国際学会への参加（専攻科学生２名　派遣国：中国）

（出典：第７回運営諮問会議資料Ｐ．11）

資料９－１－③－６

○H23企業技術者等活用経費実績調べ

高専番号	高専名	プログラム名	活用実績（単位：人）				実施概要	成果・効果
			コーディネータ（共同教育）	コーディネータ（産学連携）	非常勤講師	技術補佐員		
00	○○高専	【記載例】 企業技術者を活用した共同教育の推進	0	0	0	0	・コーディネーター・・・活動内容および実施事業概要 ・非常勤講師・・・授業科目名および概要	左記［実施概要］に対応して、具体的に記載願います。
41	弓削高専	船舶管理技術者育成プログラム	0	0	0	6	1 海事関連技術者による実践的技術指導 ① 外国航路船員経験者による実践的技術指導 ② 造船技術経験者による実践的技術指導 2 ネイティブによる英語キャンプの実施	1－① 練習船実習において、外国航路船員の実践的知識や技術を知ることができた。 1－② 溶接の実践的指導を受けることにより、造船の基礎知識を深めることができた。 2 外国人船員とのコミュニケーション能力を深めることができた。
41	弓削高専	企業技術者による技術者倫理講演	6	2	0	0	人類と人間社会における真の幸せとは何かについて思考できる能力、工学と技術が自然、人類、人間社会に及ぼす正負の影響について正しく評価できる能力、及び技術者としての責任感を養うことを目的とし、数社に講師派遣を依頼して、1企業あたり100分の「技術者倫理講演」を行った。	大きく変化している産業界の実態を踏まえた講演、宇宙開発という最先端の研究開発の立場からの講演、また、海の環境と安全に貢献している企業からの講演、半導体関連企業からの講演、さらにマーケティングを担当する技術者による講演を行った。受講学生は今まで考えたことが少ないコンプライアンスのことや、日本国内にとどまらず、よりグローバルな観点で技術者としての倫理観をもたなければならないことなどを知ることができ、さらに、就職にあたり企業を選ぶ際にも参考になったとの意見が聞かれた。以上のことから、企業の技術者ならではの講演を行うことで、倫理観の育成や技術者としての責任感に対する意識向上に十分に効果的であったと思われる。
41	弓削高専	情報処理システムの開発および活用事例照会	0	0	2	0	実社会の多くの分野で情報処理システムが利用されており、教育現場では講義と演習により模擬開発の体験を行うが、学生には具体的な開発・運用のイメージがつかめない。そのため実際にシステムの開発・運用を行っている企業技術者を招き、開発手法並びに運用事例を紹介する講義、講演を行った。	講師はAndroidのプログラム開発を行う会社を経営しており、授業で身につけたスキルがどのように活かされていくかを具体的に説明していただいた。また、プログラミング講習では実践的なプログラム開発のノウハウを学生に伝えることができた。

（出典：学生課）

観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

個々の教員については，学生による授業評価アンケートに基づいて教員がコメントを付けることで，自己フィードバックをかけるようにしている（資料９－１－④－１）。また，身上調書，自己申告書及び年２回集計している研究業績一覧等を元に，毎年行われている校長面談時にフィードバックをかけている（資料９－１－④－２）。その結果，平成 23 年度に本校教員が，高専機構の教員顕彰を受賞するなどの成果につながっている。また，各教員は教員研修，教員研究懇談会などに積極的に参加している（資料９－１－④－３，４）。さらに，ＦＤ活動の一環として，ティーチング・ポートフォリオ研修による授業改革の努力や，四国地区高専と連携した化学の教科書作成，商船学科を持つ５高専連携のプロジェクトによる商船学教科書及びワークブックの作成を行っている（資料９－１－④－５）。それらの改善活動については，ＦＤ委員会で実績をまとめ，学校として把握に努めている（資料９－１－④－６）。

非常勤講師については，採用時に人事委員会で審議を行い，教育経験等を考慮して採否を決定しており，講師の授業改善の要望等は学科長と相談し学科内で改善を行っている（資料９－１－④－７）。その結果，平成 24 年度より，学生のモチベーションを高めるために，第３学年の電子工学において資格受験の対策にまで踏み込んだ授業及び休日での補習等の取り組みを試行している（資料９－１－④－８）。

（分析結果とその根拠理由）

個々の教員は評価結果に基づいて継続的に改善を意識しており，その結果，教員顕彰を受賞した教員もいる。また，学校もその改善努力を把握し，非常勤講師についても改善を行っている。

以上のことから，個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っており，また，個々の教員の改善活動状況を学校として把握しているといえる。

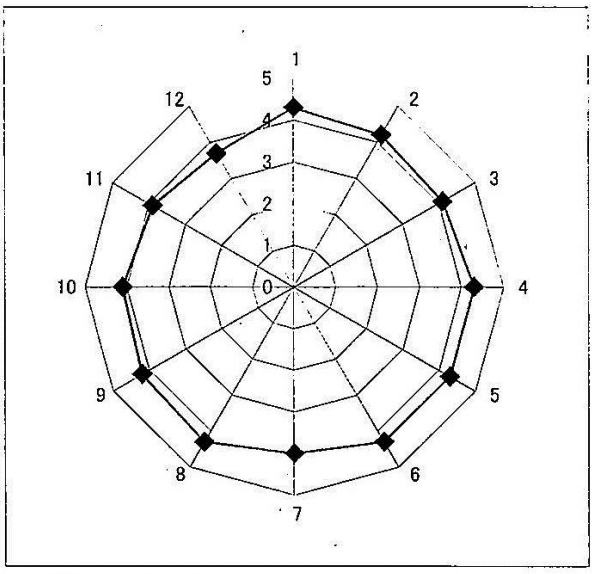
資料９－１－④－１

科目名(科目番号)

開講学年および期間 1年 通年

開講学科 SMI

担当者



質問番号	平均得点
1	4.3
2	4.2
3	4.1
4	4.3
5	4.3
6	4.3
7	4.0
8	4.3
9	4.2
10	4.1
11	3.9
12	3.7
平均	4.1

【自己評価とコメント】
授業全般的には一定の評価結果であったと思うが，今後，中学校の学習指導要領改訂を視野に入れて，より興味が持てる授業内容への改善を図りたい。

質問内容
Q1. 先生の話し方は，明瞭で聞きやすかった。
Q2. 授業の進め方は，早すぎず遅すぎず，適切であった。
Q3. 黒板やプロジェクターなどの書き方や文字は，見やすかった。
(体育)実技の指導，器具の扱いについての説明は分かりやすかった。
Q4. 学生の質問，提出した課題，答案の回答に対して，納得できるように丁寧に説明，指導してくれた。
Q5. 授業の説明を通して先生の熱意や意欲を感じた。
Q6. 教科書・問題集，実験指導書，プリントなどは理解しやすく，授業の参考になった。
(体育)実技種目のルールや目的など納得できるように説明してくれた。
Q7. 授業・実験実習内容のレベルは，あなたにとって適切であった。
Q8. 試験内容と授業は，関連が適切であった。
Q9. 成績の評価方法は，適切なものであった。
Q10. 私はこの授業に対して熱心な取り組みをした。
Q11. 私はこの授業の学習内容を理解し，興味をもった。
Q12. 私はこの授業に対して予習や復習をした。

回答番号(得点)
1:まったくあてはまらない，2:ややあてはまらない，3:どちらともいえない。
4:ややあてはまる，5:その通りだった。無回答分は集計していない。

(出典：企画広報室)

資料９－１－④－２

平成２４年９月４日

教員各位

校　長

研究者要覧（研究者データベース）の更新について

研究者データベースの登録・更新については，日頃よりご協力いただきありがとうございます。

本校では，地域との連携による研究プロジェクトや共同研究が増加傾向ににあり，このような研究において，研究者データベースでの情報発信は重要なものとなっております。

今後とも，研究者データの更新については，引き続きよろしくお願いします。

内外への情報発信において，最新のデータを提供することが望ましく，更新確認については、３月及び９月にお願いすることになっております。

つきましては，データ更新は日々行われているとは思いますが，９月１４日（金）までにデータの更新をお願いします。

また，ReaD&Researchmap へのデータ更新については，ＪＳＴや高専機構本部との関係もあり，その際は事前にお知らせいたします。

なお，学内資料として研究者データの情報が必要な場合は，随時データ更新されているものとして，その都度利用させていただきますことを申し添えます。

（出典：企画広報室）

資料９－１－④－３

教員研修歴等一覧

■・・・案内なし

区分	主催者名	研修等名称	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
研修	高専機構	高等専門学校新任教員研修会	梶野、園部、峯脇	ｶﾝﾊﾞｯﾄ、望月	山崎、中山（真）	木村、政家	向瀬、前田
		高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）	伊藤（芳）、堀口、岡本	猪川、野々山	坂内、徳田、伊藤（武）	望月	岩本
		高等専門学校教員研修（管理職研修）	清中	塚本	益崎	葛目	多田
		高専連携クラウドプロジェクトWindows HPC研修会				髙木	
		高等専門学校IT活用実践研修会				鶴	
		ネットワーク管理者研修会					長尾、田房
	文科省	省エネルギー対策に関する研修会	不参加	中村（職員）	不参加		髙木
	日本学生支援機構	全国学生指導研修会	野々山	中	勘久保 、学生課長	野口	葛目
		障害学生修学支援のための教職員研修会			勘久保	野々山	
		留学生交流実務担当教職員養成プログラム			今回資格者なし（留学生担当者研修会参加者）		
		就職・キャリア支援教職員研修会	なし	なし（応募したが抽選漏れ）	村上統（事務）	H22から教職員向けに変更 応募するも抽選漏れ	応募するも抽選漏れ
	人事院主催	四国地区セクシュアル・ハラスメント防止研修リーダー養成コース	峯脇	藤井（温）	船越（事務）	勘久保	
	四国地区高専	四国地区高専共同事業FD研修会（電気・情報系）		峯脇・瀬崎・伊藤（芳）			
		四国地区高専共同事業FD研修会（国語・英語）		神谷・猪川 上江・野口			
		四国地区高専共同事業FD研修会（数学）			藤井・久保		
		四国地区高専共同事業FD研修会（機械・材料系・建設系）			友田・藤本・ガンバット		
		四国地区高専共同事業FD研修会（理科・工業化学系）				伊藤武、濵中	
		四国地区高専共同事業FD研修会（制御情報系）				髙木、二村、瀬崎	
		四国地区高専共同事業FD研修会（社会系）				日下、山尾	
	愛媛大学（SPOD）	ティーチングポートフォリオ開発ワークショップ				藤本	長井
		ティーチングポートフォリオ更新ワークショップ					藤本
		授業デザインワークショップ			長井		
		就職キャリア支援研修会				塚本	
		SPODフォーラム				久保	濵中、山尾、伊藤武、葛目、児玉、峯脇、向瀬（高専対象）久保
	豊橋技術科学大学	情報処理教育実践研修会	なし				
	大学評価・学位授与機構	高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会				洲之内	
	日本学生相談学会	全国学生相談研修会				山尾	政家
	弓削町人権教育協議会 弓削町教育委員会 上島町立弓削小・中・高等学校	弓削町人権・同和教育研修会			勘久保広一	勘久保広一	
研究集会	高専機構	高等専門学校メンタルヘルス研究集会	校長、二村（教員）、若松（看護師）	伊藤芳（教員）、若松（看護師）	上江（教員）、若松（看護師）	山尾（教員）、若松（看護師）	山尾（教員）、若松（看護師）
		留学生・国際交流担当教員研究集会			坂内	坂内	
		四国地区教員研究集会	峯脇、猪川		田房、伊藤（武）		
		中国地区教員研究集会					
		高等専門学校教員研究集会					
		教育方法改善共同プロジェクト高等専門学校教員研究集会		友田	ガンバット		
		全国高専教育フォーラム 教育教員研究集会	○濵中俊一、坂内宏行、藤井清治、堀口正之、上江憲治、石橋洋二	○伊藤武志、濵中俊一、山尾信雄、上江憲治、藤井清治、大石俊司、田端幸司、園部光康	○望月肇、坂内宏行、葛目幸一、DAVAA Ganbat ○田房友貞	○望月肇、葛目幸一、藤井清治、濵中俊一、勘久保広一、三宅智一 ○多田光男、塚本秀史	
		全国高専教育フォーラム プロジェクト研究集会	野口				
		全国高専教育フォーラム 情報処理教育研究発表会	長尾	長尾	長尾	長尾	
		全国高専教育フォーラム FDフォーラム各研究会員発表講演会				長尾、木村、望月、濵中	
		全国高専教育フォーラム ワークショップ園員会等				長尾	
		国際工学教育研究集会			ガンバット、望月		
	豊橋技術科学大学	豊橋技科大教員研究集会		益崎	益崎		益崎
	長岡技術科学大学	高専・長岡技科大（機械系）教員交流研究集会	加藤		木村	長井	
		全国高専・長岡技大電気系教職員交流集会					
協議会	日本学生支援機構	中国・四国地区メンタルヘルス研究協議会（大学との共同主催）	神谷、学生課長	上江	中山	秋葉	中山
		留学生交流研究協議会			野々山	坂内	
	愛媛県教育委員会 愛媛県人権教育協議会	愛媛県人権・同和教育研究大会	なし	なし	勘久保広一		
	愛媛県教育委員会 愛媛県人権教育協議会 各市町村教育委員会	地区別人権・同和教育研究協議会	なし	なし	なし		
	愛媛県教育委員会	管理職人権・同和教育研究協議会					
	愛媛県薬物乱用防止指導員各保健所地区協議会 愛媛県各保健所	薬物乱用防止東予地区大会		なし	なし	なし	
ガイダンス	学生支援機構	全国就職ガイダンス	藤本	岡本	塚本	木村	塚本
その他	高専機構	情報関連説明会				長尾	
	愛媛県教育委員会	人権・同和教育訪問					
	四国地区高専	四国地区高等専門学校化学教員FD会議		伊藤武	伊藤武	伊藤武	伊藤武
		高等学校訪問・公開授業参観		山尾、望月（弓削高校）	山尾、上江、藤井清、岩本、坂内、望月（弓削高校）	多田、藤井清、久保、上江	

（出典：総務課）

資料９－１－④－４

平成２５年２月１４日

教職員各位

図書館長　藤井　清治

第５５回教員研究懇談会の開催について（案内）

このことについて下記のとおり行いますので、御多忙中のこととは思いますが、御出席くださいますよう御案内申し上げます。

記

１．日　時　　平成２５年３月１日（金）　教員会議終了後
※　図書館長より教員会議終了時に開始時間を通知

２．場　所　　アセンブリホール

３．講　演

①「鹿児島高専における教育体制の紹介と弓削商船高専への提案」（40 分）
質疑応答　（5 分）
電子機械工学科　樫根　健史先生

②　「集団安全保障について」（40 分）
質疑応答　（5 分）
総合教育科　山尾　徳雄先生

（出典：企画広報室）

資料９－１－④－５

5高専・商船学科連携による商船学科教科書・ワークブック作成一覧

書名	著者・編者	出版社	発行年月
Surfing English	池田恭子編（KCC-JMC NCEC協力）	海文堂出版	2013.02.
船舶の管理と運用	商船高専キャリア教育研究会編	海文堂出版	2012.02.
船しごと、海しごと	商船高専キャリア教育研究会編	海文堂出版	2009.02.
初めての船上英会話	商船高専海事英語研究会編	海文堂出版	2008.10.

（出典：商船学科）

資料９－１－④－６

平成２３年度　ＦＤ／ＳＤ活動の取組報告

学校名：弓削商船高等専門学校

【平成２３年度の総括】
　今年度は、各種講演会・研修に参加することにより、教員の意識改革を行った。このような研修を生かしてＦＤ活動に取り組むことが必要であると考える。また、各種活動を行ったが、実施内容の検討を行い、内容が更に充実するよう取り組んでいきたい。

【ＦＤ／ＳＤの取組事例】
講演会・研修
◆ＦＤ講演会の実施
　６月１６日　　参加者　２７名
◆ＳＰＯＤフォーラム２０１１における高専プログラムへの参加
　８月２６日　　会場参加　　５名
　　遠隔システム参加　４名
　　計　　９名
◆ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ（高専対象）への参加
　１２月９日～１１日　　参加者　　１名
◆「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」への参加
　１月１８日　　遠隔システム参加　１名
◆高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへの参加
　３月９日～１１日　　参加者　２名
ＦＤ活動
◆授業参観　　４月２９日
◆出前授業　　２３講座
◆学生による授業評価アンケート
◆教材開発　　初年次教育用の教材を開発（情報系）
◆答案用紙の電子ファイル化
◆国立高等専門学校学習到達度試験実施
◆英語運用能力テスト（A.C.Eテスト）実施

　本校では、教職員を対象にＦＤ講演会を１回実施した。また、各機関が開催するＦＤ研修に遠隔システム参加を含め、４プログラムに１３名が参加し、他校の状況を知る貴重な機会となった。
　校内においては、授業参観、中学校への出前授業、学生による授業　評価アンケートなどのＦＤ活動を行い、貴重な経験を積む機会となった。

【成果及び成果の公表】
　上記のとおり、講演会の実施、ＦＤ研修への参加によりＦＤに対する意識改革が行われた。また、校内でのＦＤ実施により教員のスキルアップを図ることができた。

【次年度の課題】
　講演会、研修への参加者が少なく、ＦＤへの意識高揚や講演会テーマ・内容の検討を行い、参加者の増加に努める。

（出典：学生課，ＳＰＯＤへの報告書）

資料９－１－④－７

2011 年度
弓削商船高等専門学校　電子機械工学科

議　事　録

会　議　名	第28回電子機械工学科分科会	議　長 ： 藤本　隆士
日　　時	2012. 02. 07	記録者 ： 中山　恭秀
場　　所	電子機械工学科棟　準備室	出席者　10名
議　　題	1. 学科報告	大石　勘久保　鶴
		藤本　益崎　木村
		中山　瀬濤
		長井　政家

1. 学科報告
□M3 留学生について
●「日本語」「日本事情」の授業について，公民1，公民2，日本語の裏で実施する.
●「日本事情」の授業に関して，本学科からは，藤本先生とガンバット先生が
週 2 時間担当することとなった.
●留学生の学力に応じて，柔軟に対応することとなった.
□M3 電子工学について
●非常勤宗重先生に依頼することとなった.
●宗重先生の要望により，電気工事士の資格試験をM3 学生にできる限り受験させる方針が示された.
●費用に関しては，検討する必要がある.
（受験費用 1 万円，工具 1 万円，材料費 3 千円程度）
□情報誌執筆依頼について
●地共研から，情報誌の研究紹介の記事について執筆依頼があった旨，報告された.
●政家先生が記事を執筆することが決定した

（出典：電子機械工学科）

資料９－１－④－８

平成24年度第二種電気工事士受験結果

受験者数	合格者数
31名	11名

（出典：担当教員）

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

個々の教員の研究活動は，文学，工学，海洋科学等の幅広い分野にわたって，不断に行われており，教員の研究成果は，各教員の指導する卒業研究・特別研究に多く取り入れられている。（資料９－１－⑤－１）。教員の研究分野と卒業研究等が関連することで，社会が期待する技術情報に触れることが多くなり，学外発表の機会も増えることから学生のモチベーションの向上にも繋がっている。一般科目系においては，教育方法の研究により教育の質の改善を図っている（資料９－１－⑤－２）。専攻科特別研究では，学会発表やパネルフォーラムなどにおいて企業技術者と接する機会が多く設けられていることもあり，プレゼンテーション能力の向上に繋がっている（資料９－１－⑤－３，４）。また，企業との共同研究や他教育機関との共同研究等に卒業研究生や専攻科学生が参加することもあり，企業技術者や学外研究者と交流を持つことで研究活動を通した教育の質の向上に繋がっている（資料９－１－⑤－５～７）。さらに専攻科の授業において，個々の教員の専門分野の論文を取り上げることも多く（資料９－１－⑤－８），学生に対して新しい話題を提供することで，学習意欲の向上を図っている。

（分析結果とその根拠理由）

個々の教員の研究テーマと卒業研究や特別研究が連動しており，さらに教育方法の研究を授業に還元する取組を行っている。また，外部機関との共同研究に学生が参加しているなど，研究活動が教育の質の改善に寄与している。

資料９－１－⑤－１－１

商船学科

ページ	発表テーマ	指導教員	指導教員専門分野
1	二級海技試験（航海）の取り組みについて	二村	気象
2	燃料のエマルジョン化が燃焼，排気特性に与える影響	秋葉	内燃機関
3	気相反応によるダイヤモンドの作成	友田	生産工学
4	海のカーナビゲーションの開発	高岡	航海計器，船体運動測定，航海支援システム
5	帆船の研究 －Ⅴ－ （帆船の歴史と現代帆船への進化）	高岡	航海計器，船体運動測定，航海支援システム
6	英語力向上のためにTOEICテストを利用する方法の考察	児玉	船舶海洋工学
7	語学力向上のための学習方法の考察	児玉	船舶海洋工学
8	水溶性ゲルを利用した防汚塗料の開発	村上知	高分子化学
9	緩衝材に適したナノコンポジットゲル（NCゲル）の作製	村上知	高分子化学
10	弓削商船高専・商船学科の5年間の進路状況の推移	多田	商船学
11	「海運経済研究」にみる海運経済分野における学術研究の動向	野ノ山	地域政策論，国土政策論，政策過程論，地域計画
12	マグネシウム合金板の温間角筒深絞りにおける温度と速度の影響	中	機械材料，材料加工
13	災害時における発電機の一考察	湯田	船舶工学
14	商船学科PRグッズの開発 － ポンポン船製作 －	湯田	船舶工学
15	プロペラ後流中における一軸二枚舵に働く流体力	湯田	船舶工学
16	マルチ・フェロイック・デバイスの開発	柳澤	船舶海洋工学，材料工学
17	練習船機関室のインタラクティブな模型教材の製作と応用	向瀬，山崎	物性物理学，結晶工学，シミュレーション
18	実写画像による機関室シミュレーションシステムの製作と応用	向瀬，山崎	物性物理学，結晶工学，シミュレーション

電子機械工学科

1	非接触給電用送電回路の製作	樫根	電力・エネルギー
2	非接触給電用受電回路の製作	樫根	電力・エネルギー
3	HONDA エコマイレッジチャレンジレースへの挑戦	益崎	システム工学，制御工学，環境
4	スピニング加工におけるアルミ板材の変形解析	中山	機械材料
5	格子ひずみを付与した系における水素原子拡散過程の分子動力学シミュレーション	政家	計算力学
6	粒子群を用いた人間の触感覚の応答に関する基礎的研究	大根田	生産工学・加工学，感性情報学
7	快削鋼の仕上げ面に関する基礎的研究	大根田	生産工学・加工学，感性情報学
8	PID 方式を用いた流量制御・液面制御について	勘久保	制御工学，人間工学
9	水や砂内の流体観察・流量測定	ガンバット	熱工学，流体工学
10	立体形状内の流体解析	ガンバット	熱工学，流体工学
11	銀とガラスのラッピング～銀試料とラップ剤の成分分析～	藤本	設計工学
12	トライボ教育用実験装置の製作	藤本	設計工学
13	たわみに及ぼす長さと断面形状の影響	鶴	機械材料
14	太陽光発電による無人航行船の設計製作および評価試験	木村，長井	工学，システム工学，制御工学
15	表層潮流発電システム評価実験に適した場所の探索および豆電丸の設計製作	長井	システム工学，制御工学
16	表層潮流発電システムの評価実験装置の設計および製作	木村	工学
17	熱溶解積層型三次元造形装置の組立と実験カリキュラムの作成	長井	システム工学，制御工学

情報工学科

1	歯みがきによる生活支援システムの開発	塚本	環境影響評価，気象，船舶海洋工学
2	情報工学教育の効率化を目指した特別活動支援教材の作成	徳田	制御工学
3	三次元モデルの立体化	高木	情報学基礎
4	ナイフエッジを用いた二次元画像計測装置の空間分解能の測定に関する研究	伊藤	原子力工学
5	DCT 係数を利用した顔識別手法の性能評価	伊藤	原子力工学
6	信号制御システムの開発～交通処理量算定プログラムの作成～	桝田	制御工学，交通工学
7	弓削島と校舎地区におけるWi-Fi の運用に関する研究	長尾	情報学基礎，知能情報学
8	実験用の電子部品の管理に関する研究	長尾	情報学基礎，知能情報学
9	Orange Project のマネージメントに関する研究 ～第1 報：組織運用に関する改善～	前田	ロボット工学
10	Web サイト運用に関する研究～ 第1 報：Web サイト運用の明確化～	前田	ロボット工学
11	共有メモリを用いた分散処理システムMarionette の研究開発 ～第1 報：ソースコードの一般化～	前田	ロボット工学
12	センサーネットワークを用いたエコ教育システムの開発	葛目	生体工学，通信・ネットワーク工学
13	有機EL を用いたゆらぎ照明の研究	岡本	照明，パワーエレクトロニクス
14	資格対策e-Learning の改良 ～出題方式の改良～	峯脇	自然言語処理
15	監視カメラを用いた立石港待機レーンの車両計測	田房	計測工学
16	学校生活を安心・安全に過ごす情報モラル教育に関する研究	田房	計測工学
17	画像投稿による顔写真表自動作成サイトの構築	田房	計測工学

（出典：企画広報室）

資料９－１－⑤－１－２

平成24年度 特別研究一覧

海上輸送システム工学専攻1年

	研究テーマ	指導教員	指導教員専門分野
1	プロペラ後流における一軸二枚舵に働く流体力に関する研究	湯田　紀男	船舶工学

海上輸送システム工学専攻2年

	研究テーマ	指導教員	指導教員専門分野
1	メカノケミカル法によるナノコンポジットゲル（NCゲル）の作製と力学特性	村上　知弘	高分子化学
2	ラッピングの研磨量に及ぼすラップ液の影響について	友田　進	生産工学
3	豊後水道における急潮と底入り潮の観測	二村　彰	気象
4	離島地域の高潮の安全対策について	多田　光男	商船学
5	瀬戸内海離島航路への沖島通船モデルの応用	多田　光男	商船学

生産システム工学専攻1年

	研究テーマ	指導教員	指導教員専門分野
1	銀とガラスのラッピングに関する研究	藤本　隆士	設計工学
2	再生可能エネルギーのネットワーク規模の適性に関する研究	塚本　秀史	環境影響評価、気象、船舶海洋工学
3	高齢者地域にふさわしいICTの利活用に関する研究～要援護者支援タブレット端末の開発	長尾　和彦	情報学基礎、知能情報学
4	トライボ教育用教材の開発	藤本　隆士	設計工学
5	鉛フリーはんだのクリープ変形に関する研究	中山　恭秀	機械材料
6	Mg合金AZ31の角筒深絞り加工に関する熱－力学連成解析	中山　恭秀	機械材料
7	ロボットのための分散処理システムに関するテーマ	前田　弘文	ロボット工学
8	電気駆動小型船の機能評価	木村　隆則	工学
9	潮流エネルギーを使ったマイクロ発電システムの検討	木村　隆則	工学
10	鉛フリーはんだの繰り返し負荷状態下における変形解析	中山　恭秀	機械材料
11	二輪倒立振子型移動体の姿勢制御に関する研究	徳田　誠	制御工学

生産システム工学専攻2年

	研究テーマ	指導教員	指導教員専門分野
1	囲碁プログラムの盤面評価方法の研究	高木　洋	情報学基礎
2	FEMによる球状介在物をもつ丸棒の3次元応力解析	鶴　秀登	機械材料
3	Mg合金の温間深絞り加工に関する研究	中山　恭秀	機械材料
4	NEB法による格子欠陥近傍における水素原子拡散プロセスの検討	政家　利彦	計算力学
5	広島市内幹線道路の渋滞超制御へのパラメータ最適化法の適用	桝田　温子	制御工学、交通工学
6	メコン川のリモート船を用いた川底地形の三次元計測に関する研究	田房　友典	計測工学
7	資格対策e-Learningへの自動メンタリング導入	峯脇　さやか	自然言語処理
8	高齢化地域にふさわしいICT技術の活用に関する研究	長尾　和彦	情報学基礎、知能情報学
9	因子分解法をもちいたリアルタイム処理による三次元復元システムの開発	田房　友典	計測工学

（出典：企画広報室）

資料９－１－⑤－２

シャドーイング法の脳内言語処理メカニズムの解明と教室への応用

－NIRS と簡易型 LL システムを用いて－

望月　肇
（弓削商船高等専門学校）

１．はじめに

本研究は，英語学習法としてのシャドーイング(shadowing)に関する，英語授業におけるシャドーイング実践に関する教育実践研究，ならびに NIRS を用いた脳科学からのアプローチによる研究について報告する。日本の高等専門学校の英語授業において，学習者にとって最も効果的なシャドーイング練習を行うための環境整備ならびに，専攻科学生対象に，2009 年, 2010 年の７月下旬に５日間継続して実施した「専攻科英語キャンプ」において実施したシャドーイング実践研究について報告する。続いて，NIRS（near infrared spectroscopy：近赤外分光法脳計測装置）を用いて，外国語として英語を学習している日本語母語話者が，シャドーイング，リピート，音読などの英語学習中の脳内血流ならびに酸素消費の変化を分析して，脳内言語処理メカニズムを解明し，各学習者に最も効果的な英語学習法を科学的に提案することを目的とした脳科学アプローチによる研究成果の一部を報告する。

２．シャドーイングの定義と理論背景

近年，日本の学校英語教育において，いわゆる 4 技能の中でもとりわけ「聞く，話す」を中心としたコミュニケーション能力の養成が重視されるようになってきた。これを受け，シャドーイングが注目され，学校英語教育に取り入れられるようになってきた。「シャドーイング(shadowing)」とは，「聞こえてくる音声をほぼ同時にあるいは少し遅らせてできるだけ正確に繰り返すこと」であり，当初は同時通訳者のための基礎訓練法であった。

門田(2007)によれば，シャドーイングは，(1)音声知覚の自動化(automatization of speech perception)機能と(2)新規学習項目の内在化機能(internalization of new items)という２つの効用がある。(1)音声知覚の自動化とは，初出の英文テキストをもとに，英語ネイティブが発音する英語を，間髪置かずに繰り返すことで音声知覚を鍛え，それを自動化することでリスニングの向上につながる。(2)新規学習項目の内在化とは，作動記憶(working memory)モデル内の音韻ループ(phonological loop)における内語反復(subvocal rehearsal)プロセスを効率化し，はっきりとした形で顕在化することで，新たな語彙・文法事項などの学習項目を内在化し，記憶の定着を図る。相手の発話を頭の中で復唱する声を認知心理学では内語(inner voice)といい，その行為を内語反復(subvocal rehearsal)という。この内語反復を意識的に声に出して行う行為がシャドーイングである。

玉井(1992)により，シャドーイングによる日本の高校生のリスニング内容理解力向上の効果が実証された。また Mochizuki(2006)により，シャドーイングによる日本の中学生のリスニング内容理解力向上の効果が実証された。このようにシャドーイングは一般の英語教育に普及しつつある。

３．簡易型有線 LL システムの構築

効果的なシャドーイング練習を行うためには，LL 教室や CALL 教室において個別のヘッドホンを使用する必要がある。しかし，筆者の勤務校には LL 教室等が存在せず，まずはシャドーイング練習を効果的に行う環境を整備する必要があった。そこで，筆者は「しまなみテクノパートナーズ」の助成を受け，22 万円程度の比較的安価な費用で，簡易型有線 LL システムを構築した。

当初，普通教室において各学生が個別ワイヤレスヘッドホンによる環境整備を試みたが，このシステムは高価であり，しかも 40 名分のワイヤレスヘッドホンを英語授業の度に持ち運ぶことは現実的でない。そこで計画を変更し，現在使用されていない旧視聴覚教室において，CD デッキにスプリッターを接続し，音声ケーブルを 1 本から 3 本に増設し，さらにそれぞれの音声ケーブルにヘッドホンアンプを接続し，音声ケーブル 1 本から 4 台の有線ヘッドホンに接続して，合計 12 台の有線ヘッドホンから同時に同じ音声を聴くことができる簡易型有線 LL システムを構築した。同様にスプリッターを 5 台用いることで，最大 60 台の有線ヘッドホンとの接続が可能となる。

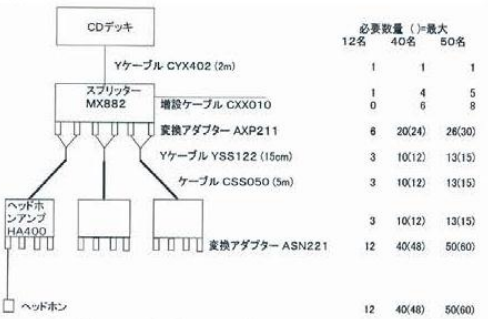


図１　簡易型有線ヘッドホンシステムの構成図

（出典：四国地区高専シーズ発表会予稿集Ｐ．39）

資料９－１－⑤－３

専攻科学生による研究論文発表件数

年度	学術論文（研究紀要を含む）	学会発表件数	中四国高専研究交流会
平成25年	10	14	13
平成24年	8	26	11
平成23年	16	29	17
平成22年	22	42	12
平成21年	13	26	13
平成20年	19	20	28

（出典：専攻科特別研究概要集）

資料９－１－⑤－４

展示テーマ名と研究者名

（研究者は、あいうえお順となっております。）
※（　）は学生で　海；海上輸送システム工学専攻、生；生産システム工学専攻、
　商；商船学科、電；電子機械工学科、情；情報工学科　の略、数字は学年

11月３日（土）　14:00～　第1会議室で簡単な研究紹介を実施します。

【商船学科】

1. 練習船「弓削丸」の実写画像による機関室ウォークスルーシミュレータ；向瀬　紀一郎・・・・1
2. プロペラ後流中における一軸二枚舵に働く流体力；湯田　紀男（海２　井上涼介）・・・・・・・2

【電子機械工学科】

3. Electric Drive System of Our Small Boat　“YUGEDENMARU”；
木村　隆則（生１　松岡大夢）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
4. The basic design of the power generator using the surface tide and Microgrid system
concept of Kamijima town；木村隆則（生１　松下恭輔）・・・・・・・・・・・・・・・・・4
5. 省エネルギー技術開発；ダワァ　ガンバット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
6. 水と砂内の流体の観察・流量測定；ダワァ　ガンバット（電５　香川光、松岡太陽）・・・・・・・6
7. 立体形状内の流体解析；ダワァ　ガンバット（電５　毛利好輝・髙田大徳）・・・・・・・・・・・7
8. 球状介在物を有する丸棒の応力集中；鶴　秀登（生２　柏原一仁）・・・・・・・・・・・・・・8
9. 有限要素法を用いた応力解析；鶴　秀登（電５　穴見太志、浜岡友樹）・・・・・・・・・・・・9
10.Mg 合金 AZ31 の温間角筒深絞り加工における成形性；中山　恭秀（生２　金山竜也）・・・・10
11.Mg 合金 AZ31 の角筒深絞り加工による温度と成形性；中山　恭秀（生１　坂東祐樹）・・・・11
12.鉛フリーはんだのクリープ変形に関する研究；中山　恭秀（生１　西原　匡博）・・・・・・・・12
13.鉛フリーはんだの変形挙動に関する研究；中山　恭秀（生１　山下祐斗）・・・・・・・・・・13
14.クルーレスソーラーボートの開発；長井　弘志・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
15.銀とガラスのラッピングについての研究；藤本　隆士（生１　宇都宮康大）・・・・・・・・・15
16.摩擦力実験装置の製作；藤本　隆士（生１　佐々木秀彰）・・・・・・・・・・・・・・・・・16
17. NEB 法による格子欠陥近傍における水素原子拡散プロセスの検討；
政家　利彦（生２　神原将臣）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

（出典：「第８回パネルフォーラム予稿集」目次）

資料９－１－⑤－５

別紙第１号様式（第３条関係）

共　同　研　究　申　請　書

平成２４年９月１０日

弓削商船高等専門学校長　殿

（申請者）
住　　所　愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 210 番地
名　　称　上島町
代表者名　町長　上村　俊之

下記のとおり，共同研究の申請をいたします。

記

研究題目	上島町エネルギー政策への取り組み 「浮式型潮流発電システムの実験及び評価」				
研究の概要	・浮式型潮流発電システムの構築及び実験用発電装置の製作 ・海上での装置発電実験を行い，データ収集及び評価を行う。				
研究の特色・意義	離島である上島町の特性を活かし，潮流エネルギーの活用に産学官連携により地域一体となって取り組み，スマートコミュニティーの実現と，災害時における電力確保に寄与することを目的とする。また、観光や地場産業の振興など地域社会・経済の活性化を目指す。				
研究期間	平成２４年１０月１日から平成２５年３月３１日まで				
研究実施場所	弓削商船高等専門学校		校内研究室		
	上島町		上島町近辺の海域 （漁協許可区域）		
共同研究者	所属・職名	氏　名	現在の専門	役割分担	派遣の有・無
	企画政策課長 産業振興課長	村上　和彦 島本　計治	町民啓発，地域ネットワークの活用	実験機材の提供交渉及び実験場所の使用交渉	無
希望研究担当者	学　科		職　位	氏　名	
	電子機械工学科		教授	木村　隆則	
研究に要する経費の負担額（消費税額を含む）	直接経費	０円			
	間接経費	０円			
	合　計	０円			
研究に要する提供設備等	協力企業による本体となる鋼板船体、発電機等の提供				
その他	協力企業：（株）今井製作所，大洋電機（株）				
事務連絡先	民間機関等名	担当課・係名	担当者氏名	電話番号・E-mail	
	上島町	総務部 企画政策課	村上　和彦		

＊弓削商船の共同研究者は，本共同研究における研究テーマと現在の専門との関係，分担する役割の意義，また，本研究によって得られると想定する研究成果について，別紙により詳細に記入し，添付すること。

（出典：企画広報室）

資料９－１－⑤－６

専攻科生が企業と共同研究（別添資料３）

（出典:平成25年３月１日付け毎日新聞抜粋）

資料９－１－⑤－７

タイ王国ナコンパノム大学共同研究プロジェクト

「メコン川の水深・水温自動計測ロボット」

情報工学科・教授　田房友典

平成 22 年 3 月，弓削商船高等専門学校とタイ王国ナコンパノム大学は，国際交流協定を締結した．本協定は，両校の教員・研究者及び職員の相互交流訪問，学生の相互交流派遣，共同研究と共同開発の推進等について交流を促進することを目的としており，共同研究プロジェクトとして，両校で「メコン川の水深・水温自動計測ロボット」を開発することを計画した．

本テーマの背景には，ナコンパノム大学の畔に流れている東南アジア最大の河川であるメコン川が地域に及ぼす問題がある．メコン川は，河川敷で生活する住民にとって飲料水の源や漁業や農業などの生活に不可欠な重要な河川であるが，一方で，雨季による洪水や乾期による船舶の座礁などの被害をもたらす．対策として，ダム建設による水量の制御や豊富な流量を利用した水力発電などを計画しているが，多国をまたがる国際河川のため，各国の主張がまとまることはなく，開発は成功していない．本校と同じく教育研究機関であるナコンパノム大学において，メコン川の海底地形（水深）や温度などを定期的に測定し，データを蓄積することは，河川の地形変化や船舶の運航，漁業や農作物の効果的な採取に大きく寄与できる．

平成 23 年 7 月，ナコンパノム大学の教員 2 名，学生 2 名が本校へ訪問し，本校実習船「はまかぜ」を利用して魚群探知機（音響ソナー）を用いた「3 次元水深マップの作成」実習やワンボードマイコンを用いた「マイコン制御入門」を実施した．本校では，これらの技術を 1 隻の船舶に構築し，電気動力のみで自律と遠隔操船が可能な船舶へと研究開発をおこなった．

平成 24 年 12 月，開発したロボット一式（船舶）をタイ王国へ輸送し，メコン川に於いて実証実験を行った．開発した船舶は，GPS によって位置情報を取得し，マイコンによって船舶の舵角を制御する仕組みである．メコン川による実証実験では，遠隔操船によって水深地形を計測したが，船舶が遠ざかると船首方向が肉眼で不明確である，障害物があった場合その距離認識が不可能である問題点などが明らかとなった．

本研究では，メコン川での実証実験結果を踏まえ，現在の開発した船舶に小型カメラを取り付け，画像処理と GPS 情報を相互に利用した自律走行や危険時のハザード情報などを通知する新たな機能を付加して，研究開発する計画である．





（出典：担当教員）

資料９－１－⑤－８

授業科目	技術文献ゼミ			担当教員	高木　洋、藤本隆士		
専　　攻	生産システム工学	学　年	１年	授業期間	前後期	単位数	2
分　　野	専門科目	授業形態	演習	履修区分	必修		
学習目標	各分野の先端的やトピックス的な研究に関する論文を精読し理解を深めるとともに、文献調査能力、論文講読能力およびプレゼンテーション能力を養う。						
授業の進め方	特定のテーマについて、ゼミナール形式または輪講形式で講義を受ける。各分野の先端的またはトピックス的な研究を取り上げて、原書講読、関連論文の講読を行う。また、定期的に学習内容についての発表を行う。事前に与えられた文献を読みまとめたり，背景の技術について調査するなどの自学自修を行うこと。						
授業内容	ゼミの内容としては次のようなテーマがあげられる。 ［　クラス別　オムニバス　］ 1．機械工学の一般的な知識に関するテーマ　　藤本　30h（機械系） 2．情報処理の一般的な知識に関するテーマ　　高木　30h（情報系） 3．トライボロジー・表面工学に関するテーマ　藤本　30h（機械系） 4．画像処理・信号処理に関するテーマ　　高木　30h（情報系） 論文は年間４編以上とし、最低１編は英文であるものとする。 論文は、指導教員と相談して選定する。論文の内容および関連事項について、輪講形式で、全員の前で発表し質疑に応答する。専門分野によっては、発表時に特別研究指導教員が出席することもある。 機械系クラス　１、３　　オムニバス 情報系クラス　２、４　　オムニバス						
教科書・参考書	必要に応じて指定する						
評価方法	1 単位につき，授業時間 30 時間，自学自修時間 15 時間を必要とする。 ゼミへの取組と、論文講読能力，作業遂行能力，提出物および口頭発表の完成度に基づき総合的に評価する。						
備　　考							

（出典：平成 25 年度専攻科学生用手引き・シラバスＰ．57）

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

ファカルティ・ディベロップメントの具体的取組として，新任教員に対する年度当初の新任教員研修や，ティーチング・ポートフォリオワークショップへの積極的な参加・展開，及び教員研究懇談会の開催，四国地区高専教員研究集会への参加が挙げられる。その他にも，高専機構主催の新任教員研修会，クラス経営と生活指導研修を目的とした教員研究，管理職研修，クラウドプロジェクトＨＰＣ研究会，ネットワーク管理者研修会など，多数の研修及び研究集会，協議会に積極的に参加している（資料９－２－①－１，２）。平成 23 年度から，四国地区の大学及び高専で組織する四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ＳＰＯＤ）に加盟し，組織として教育の質の向上に結び付ける努力を行っている（資料９－２－①－３）。また，ＦＤ委員会を中心に様々な授業改善に取り組んでいる（資料９－２－①－４，５）。特に，以前に集計された教員研修会のアンケート結果から個人ベースで有機的に集まって新しい教育システムを作り出す環境づくりが重要であるとの意見を受け（資料９－２－①－６），平成 22 年度からティーチング・ポートフォリオに組織的な取組を始めている。教員の資質の向上を目指して，学外の研修会のみならず，外部から講師を招き学内でも広く展開をし，平成 24 年度には合計９名の教員が受講し，内１名はメンターとしての経験も積んでいる（個々の教員のティーチング・ポートフォリオは，訪問調査時に提示）（資料９－２－①－７）。また，平成 24 年度から，教員相互の授業見学をさらに充実させるため，学習指導案作成（授業計画及び準備），Minute Paper（学生の理解度の把握），研究授業総括記録（参観教員との総括）のプロセスを経る形式での研究授業を，主に若手教員を中心として行っている（資料９－２－①－８）。

（分析結果とその根拠理由）

ファカルティ・ディベロップメントに関する研修会に定期的に参加し，参加者の意見を基に，ティーチング・ポートフォリオへの組織的な取組や若手教員を中心にプロセスを重視した形式での研究授業を行う等の新しい取組を始めている。また，ＦＤ委員会を中心に様々な授業改善を行っている。

以上のことから，ファカルティ・ディベロップメントが，組織的に適切な方法で実施され，教育の質の向上や授業改善に結び付いているといえる。

資料９－２－①－１

平成２４年度　弓削商船高等専門学校新任教職員研修会実施要領

１　目　的

本校職員としての業務遂行に必要な基礎知識，能力及び資質等を養成することを目的とする。

(1) 新たに採用された教員においては，本校のファカルティ・ディベロップメントの一環として，高等専門学校の教育制度，組織，運営，教育研究等の基本的な事項を理解させ，もって教育の一層の改善，業務能率の向上等に資する。

(2) 新たに採用された職員及び人事交流者においては，機構職員としての使命と心構えを自覚させるとともに，組織，管理運営等の基本的な事項を理解させ，業務の改善，能率向上等に資する。

２　対象者

本校に新たに採用された教職員及び人事交流として採用された職員

３　日　時

平成２４年４月２日（月）　１３：１０～１６：３０

４　場　所

第２会議室

５　日　程

教　員　別紙１のとおり

職　員　別紙２のとおり

別紙1

平成24年度弓削商船高等専門学校新任教職員研修会日程表

日時　　平成24年4月2日(月) 13:10～16:30

場所　　第2会議室

【新任教員】

時　間	内　容	講　師
13:10 ～ (40分) 13:50	本校の教育システム及び授業運営	教務主事
13:50 ～ (30分) 14:20	学生の生活指導について	学生主事
14:20 ～ (40分) 15:00	学寮の運営について	寮務主事
15:00 ～ (30分) 15:30	広報について	広報主事
15:30 ～ (30分) 16:00	就業規則及び会計制度について 安全衛生について	総務課長
16:00 ～ (30分) 16:30	教務・厚生補導事務について	学生課長

（出典：総務課）

資料９－２－①－２

教員研修歴等一覧

■・・・案内なし

区分	主催者名	研修等名称		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
研修	高専機構	高等専門学校新任教員研修会		堀野、國部、峯脇	ガンバット、望月	山崎、中山(真)	木村、政家	向瀬、前田
		高等専門学校教員研修(クラス経営・生活指導研修会)		伊藤(芳)、堀口、岡本	猪川、野々山	坂内、徳田、伊藤(武)	望月	岩本
		高等専門学校教員研修(管理職研修)		濵中	塚本	益崎	葛目	多田
		高専連携クラウドプロジェクトWindows HPC研修会		■	■	■	高木	
		高等専門学校IT活用実践研修会		■	■	■	鶴	
		ネットワーク管理者研修会		■	■	■	■	長尾、田房
	文科省	省エネルギー対策に関する研修会		不参加	中村(職員)	不参加		高木
	日本学生支援機構	全国学生指導研修会		野々山	中	勤久保、学生課長	野口	葛目
		障害学生修学支援のための教職員研修会		■	■	勤久保	野々山	
		留学生交流実務担当教職員養成プログラム		■	■	専攻資格者なし(留学生担当者研修会参加者)		
		就職・キャリア支援教職員研修会		なし	なし(応募したが抽選漏れ)	村上統(事務)	1回から教職員向けに変更応募するも抽選漏れ	応募するも抽選漏れ
	人事院主催	四国地区セクシュアル・ハラスメント防止研修リーダー養成コース		峯脇	藤井(温)	船越(事務)	勤久保	
	四国地区高専	四国地区高専共同事業FD研修会(電気・情報系)		■	峯脇・濵端・伊藤(芳)			
		四国地区高専共同事業FD研修会(国語・英語)		■	神谷・猪川 上江・野口			
		四国地区高専共同事業FD研修会(数学)		■	■	藤井・久保		
		四国地区高専共同事業FD研修会(機械・材料系・建設系)		■	■	友田・藤本・ガンバット		
		四国地区高専共同事業FD研修会(理科・工業化学系)		■	■		伊藤武、濵中	
		四国地区高専共同事業FD研修会(制御情報系)		■	■		高木、二村、瀬崎	
		四国地区高専共同事業FD研修会(社会系)		■	■		日下、山尾	
	愛媛大学(SPOD)	ティーチングポートフォリオ開発ワークショップ		■	■	■	藤本	長井
		ティーチングポートフォリオ更新ワークショップ		■	■	■	■	藤本
		授業デザインワークショップ		■	■	長井		
		就職キャリア支援研修会		■	■	■	塚本	
		SPODフォーラム		■	■	■	久保	濵中、山尾、伊藤武、葛目、児玉、峯脇、向瀬(高専対象)久保
	豊橋技術科学大学	情報処理教育実践研修会		なし	■			
	大学評価・学位授与機構	高等専門学校機関別認証評価に関する各団体評価担当者等に対する研修会					渕之内	
	日本学生相談学会	全国学生相談研修会		■	■	■	山尾	政家
	弓削町人権教育協議会 弓削町教育委員会 上島町立弓削小・中・高等学校	弓削町人権・同和教育研修会		■	■	勤久保広一	勤久保広一	
研究集会	高専機構	高等専門学校メンタルヘルス研究集会		校長、二村(教員)、若松(看護師)	伊藤芳(教員)、若松(看護師)	上江(教員)、若松(看護師)	山尾(教員)、若松(看護師)	山尾(教員)、若松(看護師)
		留学生・国際交流担当教員研究集会		■	■	坂内	坂内	
		四国地区教員研究集会		峯脇、猪川	■	田房、伊藤(武)	■	
		中国地区教員研究集会		■	■		■	
		高等専門学校教員研究集会		■	■			
		教育方法改善共同プロジェクト高等専門学校教員研究集会		■	友田	ガンバット	■	
		全国高専教育フォーラム	教育教員研究集会	○濵中愛一、坂内宏行、藤井清治、堀口正之、上江義治、石橋洋二	○伊藤武志、濵中愛一、山尾信雄、上江義治、藤井清治、大石修司、白須吉司、奥部元彦	○望月健、坂内宏行、葛目幸一、DAVAA Gerbat ○時田友典	○望月健、葛目幸一、藤井清治、濵中愛一、勤久保広一、児玉健一 ○多田光男、塚本秀史	
			プロジェクト研究集会	野口	■			
			情報処理教育研究発表会	長尾	長尾	長尾	長尾	
			FDフォーラム各研究会委員者懇談会				長尾、木村、望月、濵中	
			ワークショップ運員会等				長尾	
		国際工学教育研究集会		■		ガンバット、望月		
	豊橋技術科学大学	豊橋技科大教員研究集会		■	益崎	益崎		益崎
	長岡技術科学大学	高専・長岡技科大(機械系)教員交流研究集会		加藤	■	木村	長井	
		全国高専・長岡技大電気系教職員交流集会		■		■		
協議会	日本学生支援機構	中国・四国地区メンタルヘルス研究協議会(大学との共同主催)		神谷、学生課長	上江	中山	秋葉	中山
		留学生交流研究協議会		■	■	野々山	坂内	
	愛媛県教育委員会 愛媛県人権教育協議会	愛媛県人権・同和教育研究大会		なし	なし	勤久保広一		
	愛媛県教育委員会 愛媛県人権教育協議会 各市町村教育委員会	地区別人権・同和教育研究協議会		なし	なし	なし		
	愛媛県教育委員会	管理職人権・同和教育研究協議会		■	■	■	■	■
	愛媛県薬物乱用防止指導員各保健所地区協議会 愛媛県各保健所	薬物乱用防止東予地区大会		■	なし	なし	なし	
ガイダンス	学生支援機構	全国就職ガイダンス		藤本	岡本	塚本	木村	塚本
その他	高専機構	情報関連説明会					長尾	
	愛媛県教育委員会	人権・同和教育訪問		■	■	■	■	
	四国地区高専	四国地区高等専門学校化学教員FD会議			伊藤武	伊藤武	伊藤武	伊藤武
		高等学校訪問・公開授業参観		■	山尾、望月(弓削高校)	山尾、上江、藤井清、岩本、坂内、望月(弓削高校)	多田、藤井清、久保、上江	

(出典：総務課)

資料９－２－①－３

別紙１

ＦＤ講演会実施要領

１　目　的　　「ＦＤの意義」「授業評価アンケート」「初年次教育の進め方と実践事例について」等のＦＤ概論及びＦＤコンサルティングを行う。

２　日　時　　平成２３年６月１６日（木）１３時３０分～１５時３０分

３　場　所　　第一会議室

４　講　師　　愛媛大学教育企画室
佐藤　浩章　氏

５　演　題　　「ＦＤの意義と実践事例」

（出典：学生課）

資料９－２－①－４

○弓削商船高等専門学校ＦＤ委員会規則

制　　定　平成23年２月17日
最終改正　平成23年12月22日

（設置）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント（以下「ＦＤ」という。）委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，本校のＦＤ活動に関し，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　授業内容や教育方法等の改善・向上に関する事項
(2)　授業評価及び成績評価に関する事項
(3)　その他教育改善の推進に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　教務主事
(2)　教務主事補
(3)　各学科及び総合教育科から選出された教員各２名
(4)　学生課長
２　前項第３号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は，学生課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－40 抜粋）

資料９－２－①－５－１

平成 23 年度 FD 活動

１．FD 関係研修会の開催及び参加

①四国地区高専化学担当教員 FD 会議の開催（4 月 23 日（金）本校担当）

[資料 1] 2011 年 四国化学教員 FD 会議議事録

②高専機構等主催研修会（新任,），SPOD 事業（藤本，葛目，児玉，野々山，峯脇，向瀬，テレビ会議（山尾，浜中，岩本，伊藤（武））：テーマ別に），（久保），（長井），高等学校訪問などへの参加

[資料 2] SPOD フォーラム 2011 における高専系プログラムの実施について

③新任教員研修会の実施

[資料 3] 新任教員研修日程表

[資料 3] 新任教員研修会実施要項

④教員研究懇談会の開催

[資料 4] 第 53 回教員研究懇談会の開催について

[資料 4] 第 54 回教員研究懇談会の開催について

２．授業参観

実施月日：4 月 29 日（金）（アンケート集計済み）

[資料 5] H23 授業参観アンケート集計

３．FD 講演会の開催

日時：6 月 16 日（木）13：30～15：30

場所：マルチメディア教室

テーマ：「FD の意義と実践事例」

講師：佐藤浩章先生（愛媛大学教育・学生支援機構　教育企画室副室長）

対象：本校教員

[資料 6]FD 講演会実施について

[資料 6]FD 講演会プレゼン資料 PP

４．出前授業

テーマ一覧表作成済み，小・中学校教員との連携

[資料 7]H23 年度出前授業一覧表

[資料 7]H23 年度出前授業実施一覧

５．公開授業・研究授業

実施方法については検討，TP とメンター育成

[資料 8]公開授業実施報告書

資料９－２－①－５－２

６．学生による授業評価

例年通りの実施と公表，教員コメントの改善

[資料 9]学生による授業評価

７．教材開発等

情報処理技術者試験対策コンテンツの導入及びＬＭＳの運用・独自コンテンツ（Ｊａｖａ）の開発

e-Learning による Java プログラミング問題集

http://e-class.center.yuge.ac.jp/course/category.php?id=3

弓削商船高専情報工学科 情報処理技術者試験対策

http://minewaki.sakura.ne.jp/cgi-bin/e-Learning/login.cgi?guid=ON

初年次教育教材の開発

「弓削商船での勉強法」を作成中

化学演習テキスト「これでわかる化学演習」作成

[資料 10]これでわかる化学演習目次

ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト

-商船学科におけるわかりやすい学び、定着する学びを目指して-

http://www.toyama-cmt.ac.jp/~endo/PROJECTS/ALLSHOSEN/

[資料 11] ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト

双方向授業，PBL，COOP 教育の検討・実施

[資料 12] Minute Paper 物理木村

[資料 12] Minute Paper 物理濵中

[資料 12] Arduino 創造性実験発表会のご案内

[資料 12]専攻科便り 25 号創造性教育について

[資料 12]平成２３年度３商船高専将来計画検討委員会報告書

８．全国高専学習到達度試験

数学，物理

[資料 13] 全国高専学習到達度試験結果（数学・物理）

９．英語 ACE 試験実施

[資料 14]平成 23 年度英語学習到達度試験結果

（出典：ＦＤ委員会）

資料９－２－①－６

教員研修会アンケート結果

１．本日のＦＤ研修報告会は有意義でしたか。
参考になった　…~~10~~名 11名
参考にならなかった　…なし
どちらとも言えない　…３名

２．どのような点が参考（有意義）になったか。
・ＦＤに関する研究報告会は長い間開かれておらず、参加者の報告が学内に周知されていなかった。その意味で一歩前進したと思われる。
・各高専がどのような取り組みをしようとしているか、おおまかに把握できた。特に、ＦＤ教育システムにどのように取り入れているかと言う点、参考になった。
・各校、各専門により様々な取り組みがなされているが、ノウハウや工夫の例が、具体的に知ることができた。自身の講義や実験、さらには学科や学校全体に適用できるものも多かった。
・他校での取り組み状況が多少理解できた。
・学科での授業への取り組み方法のみならず、学内の他学科の先生方の取り組み姿勢がわかり参考になった。
・他高専の取り組みや他の先生の工夫している点、気になっていることを知ることができたから。
・他高専の実態が少しわかった。
・四国地区高専の状況がわかって参考になった。
・他の高専の教育システムの現状に少しでも近づくことができた。
・各高専でかなりシビアなＦＤ運営が行われていることがわかった。
・習熟度別クラスなど他校での取組みがかり参考になった。

３．参考にならなかった理由
なし

４．その他の意見
・トップダウンでＦＤ教育システムをドンと立ち上げる方法もあるが、個人ベースが数人単位で有機的に集まって新しい教育システムを創り出していくような環境、雰囲気づくりが大切ではないか。
・個人的なＦＤも重要であるが、システムとして全学科、全学的に実施するのが重要であると感じた。全教員の平均的意識の向上が必要である。
・教員の負担だけが増大するような感じがする。

（出典：平成 18 年度認証評価資料９－２-②-４）

資料９－２－①－７－１

平成 22 年度

アカデミック／ティーチング・ポートフォリオの実績

期間：平成２２年７月２６日（木）～２８日（土）
場 所：　阿南工業高等専門学校
主 催：　阿南工業高等専門学校
受講者（メンティー）：

所属（役職）	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
電子機械工（教授）	藤本　隆士	TP	二泊三日の研修に加え，事前課題もあり，かなり大変ではあったが，参加した甲斐があった.	○

平成 23 年度

アカデミック／ティーチング・ポートフォリオの実績

期間：平成２３年８月２４日（水）
場所：愛媛大学
主催：SPOD ネットワーク（愛媛大学教育企画室）
受講者（メンティー）：

所属（役職）	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
電子機械工（教授）	藤本　隆士	更新TP	前年度に作成した TP を更新するためのワークショップであり，他大学の TP 受講者らと情報交換ができ，自分とは異なった視点から作成された TP を読み，参考になった.	○

日 時：　平成２４年３月９日（金）～１１日（日）
場 所：　ホテルグランドパレス徳島５階
主 催：　阿南工業高等専門学校
受講者（メンティー）：

所属（役職）	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
情報工（准教授）	伊藤　芳浩	TP	教員としていろいろと考えさせられた．もっと深く考えて教育に関わっていかなければならないと思いました.	×
情報工（准教授）	徳田　誠	TP	本稿の作成は，これまで漠然としてしか捉えていなかった校務をふかんし，教育活動を見つめ直す良い機会と なった。しかしながら，理念から方法，および方法から成果への対応付けが上手く書けなかった。今後は，理念に基づいて筋の通った教育を行い，学生の成長を客観的に検証できるよう努めたい。	○

資料９－２－①－７－２

平成 24 年度

アカデミック／ティーチング・ポートフォリオの実績

日 時：　平成２４年７月２２日（金）～１１日（日）
場 所：　弓削商船高等専門学校　ものづくり研究棟３F
主 催：　弓削商船高等専門学校，阿南工業高等専門学校
受講者（メンティー）：

所属（役職）	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
商船（准教授）	二村　彰	TP	教育方針を掘り下げて考えることができ、今後の授業および実習に非常に役に立つと思います。	×
電子機械工（助教）	政家　利彦	TP	今までやってきたことをまとめられたことと、これからの目標に関してまとめて再確認できたことは非常に有意義でした。短期に一気にではなく、もう少し時間をかけて作成したかったかもしれません。	×
情報工（教授）	田房　友典	TP	教員としての活動の理念をはっきりと整理することができた．今後，更新を目的とすることで，自己啓発につなげることができる．	○
情報工（講師）	桝田　温子	TP	ティーチングポートフォリオの作成は，自分自身を振り返る良い機会となった．	×
情報工（助教）	前田　弘文	TP	多忙な業務から開放され，自分を見つめ直す時間を持てたことが大変有意義でした．また現在，クラブにも活用できないかとラーニングポートフォリオについて関心を持っています．	○

メンター

所属（役職）	教員名	AP/TP	概要（感想）
電子機械工（教授）	藤本　隆士	TP	メンターとして気を使う立場であったが，良い経験となり，刺激も受けた．

日 時：　平成２４年９月１２日（水）～１４日（金）
場 所：　阿南工業高等専門学校　創造テクノセンター４階　マルチメディア室
主 催：　阿南工業高等専門学校
受講者（メンティー）：

所属（役職）	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
情報工（教授）	田房　友典	AP	教育・研究・サービスについて，経験によるそれぞれの責務の割合の変化を認識できた．また，自分にとって不足するものや今後の目標を明確にすることができた．	○

資料９－２－①－７－３

日 時：　平成２４年１２月２１日（金）～２３日（日）
場 所：　愛媛大学城北キャンパス　愛大ミューズ
主 催：　四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
受講者（メンティー）：

所属（役職）	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
総合教育（准教授）	久保　康幸	TP	自分の教育を整理するつもりで作成した。他の参加者は皆、りっぱな発表ばかりで感心した。	×

日 時：　平成２５年３月１１日（月）～１２日（火）
場 所：　阿南工業高等専門学校　会議室
主 催：　阿南工業高等専門学校
受講者（メンティー）：

所属（役職）	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
総合教育（准教授）	坂内　宏行	TP	今年度私が発足させた ESS 同好会における活動記録を主な素材として、TP を作成した。本ワークショップには英語教員が 3 名も参加していたため、TP 披露会では他高専の英語授業スタイルを知ることができてよかった。	×

（出典：ＦＤ委員会）

資料９－２－①－８

研究授業総括記録

授業科目：電子計算機
担当教員：情報工学科 助教 前田 弘文
授業日時：2013 年 1 月 29 日(火曜日)1 時限目
クラス：情報工学科２年生

１．授業担当教員の説明

担当授業科目：本科
- 情報工学科１年 情報工学実験１
- 情報工学科２年 電子計算機
- 情報工学科３年 情報工学実験３
- 情報工学科３年 論理回路
- 情報工学科４年 情報工学実験４
- 情報工学科４年 システムインターフェイス
- 情報工学科５年 卒業研究

担当授業科目：専攻科
- 生産システム工学専攻１年 ロボティクス
- 生産システム工学専攻２年 特別研究

２．参観者の意見

（１）良い点
・学生を黒板に向ける平素の指導も良
・シラバスや全体の流れの解説があっ
・テキストとの対応もあり，学生に分
・(式変形)間違いの原因を指摘してお
・写す時間を取っていた．
・声の大きさ，熱意ともに十分感じら
・分かりやすい言葉で解説している．
・解説の際，板書のポイントを指差し
・学生からの間違いの指摘に柔軟に対
・テストのときのテクニック(小ネタ)を

（２）改善すべき点
・板書を更に見易く計画されると良いのではないでしょうか．
・起立・礼を実施すべき．
・黒板に集中しすぎ学生の方を向くよう意識した方がよい．
・黒板の前に立っていた．
・自分で解いてしまい，学生との共有にならない．
・以前の授業との相関ゆえに不親切な点もあった．
・学生の参加がまったくなかった．
・たんたんと話している場面がある．

（３）その他
・ミスに対して学生の発言がない．
・何人か居眠りがいた．
・黒板はみづらい．ホワイトボードの方がよい．
・教室が綺麗．
・指導過程にあわせたため，焦りがあった．
・指導過程が細かすぎる．
・遅刻者が黙って入室，着席しているので理由を申し出るべき．
・私語が少ない．
・制服着用できていない学生がいる．
・ノートを書くことに必死になっている学生がいる．

３．学生及び参観者の意見を受けて今後の授業の改善に向けて（授業担当者）

私自身，初めての公開授業ということもあり，普段の授業と違って指導計画書に引っ張られていた点がありました．他の教員の先生方の指摘により，開始終了の挨拶を級長にまかせきりになっていたことにも気づかされました．

授業方法そのものについては，多くの指摘をいただき参考になる点が多々ありました．次年度以降は，授業中における学生とのコミュニケーションを活発に行っていくことで，対話的授業へと発展させ，授業改善に努めたいと思います．

（出典：ＦＤ委員会）

観点９－２－②：　教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

教育支援者等については，高専機構主催の初任職員研修会をはじめ，決算担当者研修，契約事務研修，中国・四国地区国立大学法人主催の研修，人事院主催の研修，日本学生支援機構主催の研修，他大学や他高専主催の研修，長岡技術科学大学主催の研修等に，毎年積極的に参加している（資料９－２－②－１）。平成 23 年度から，四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ＳＰＯＤ）主催のＳＤ研修会等にも参加している（資料９－２－②－２）。

さらに，技術職員は，四国地区の技術職員研修，西日本地区の技術職員研修などにおいて，実習・実験での工夫を発表するなど，他高専の技術職員と情報交換を活発に行っている（資料９－２－②－３～５）。また，技術支援センター運営委員会の承認の下で，資質の向上を図るため，資格取得にも励んでいる（資料９－２－②－６，７）。

（分析結果とその根拠理由）

教育支援者は，数多くの研修等に積極的に参加し，資質の向上に努めている。さらに，研修会において発表をするなど，他教育機関との情報交換に努めており，また，資格取得にも励んでおり，その資質を向上させるための取組が適切に行われているといえる。

資料９－２－②－１

職員等研修歴等一覧

個人情報等保護のための削除

（出典：総務課）

資料９－２－②－２

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ＳＰＯＤ）主催のＳＤ研修会参加者一覧

個人情報等保護のための削除

（出典：総務課）

資料９－２－②－３

技術職員研修リスト

個人情報等保護のための削除

（出典：総務課）

資料９－２－②－４

平成２４年度四国地区国立高等専門学校技術職員研修・技術発表会実施要項

１　目　的

この研修は，四国地区国立高等専門学校の技術職員に対して，その職務遂行に必要な専門的知識を習得させるとともに，相互啓発の機会を与えることにより，技術職員の資質向上を図ることを目的とする。

２　主　催

四国地区国立高等専門学校

３　主管校

弓削商船高等専門学校

４　研修分野

特定しない。

５　研修期間

平成 24 年８月１日（水）～８月２日（木）

６　研修場所

弓削商船高等専門学校　　愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000

７　受講対象者

(1) 各高等専門学校から推薦のあった技術職員とする。

(2) 受講者は各校から１～２名とし，合計１０名程度とする。

８　経費の負担

(1) 参加者の旅費（宿泊費，交通費等）は，派遣校の負担とする。

(2) 講師の謝金等については，主管校が負担する。

９　携行品及び経費

(1)　筆記用具

(2)　作業着等動きやすい服装及び靴（８月２日（木）の体験航海の際必要です。）

(2)　諸経費　1,000 円（弁当・お茶代等）、情報交換会経費 4,000 円（参加者のみ）

（出典：総務課）

資料９－２－②－５

内燃機関総合実験装置の整備

弓削商船高等専門学校　技術支援センター
伊藤　幸男

１．はじめに

内燃機関総合実験装置は 1981 年（昭和 56 年）に弓削商船に設置した。本装置は船舶における機関室を模した構成になっており、主に商船学科機関コースの学生の工学実験に用いられている。実際に学生が機関の始動や停止行うことで構成機器の働きを理解させ、機関性能試験を行うことで内燃機関の動作原理を習熟させることができる重要な実習設備である。設置からかなりの年数が経過しているため、各所にトラブルが発生し、実験装置の安定的な使用が難しくなってきているのが現状である。そこで本装置の大掛かりな整備作業を行なった。以下に整備作業内容について報告する。

２．内燃機関総合実験装置

内燃機関総合実験装置の概要を示す。（図１、図２）

機関主要目

型式：立て型単動４サイクルディーゼル機関（過給機・空気冷却器付）

連続最大出力：３５０ＰＳ　　回転数：４２０ＲＰＭ　　シリンダ数：３

シリンダ径×行程：２３０×３８０mm　　始動方

冷却方式　　・シリンダ：清水冷却　　・ピストン：

過給方式：排気タービン過給　　使用燃料：Ａ重油

機関重量：４,５５０ｋｇ　　製作会社：松井鉄

主な付属装置

・始動空気槽　・空気圧縮機　・冷却水ポンプ（清水

・清水膨張タンク　・水制動機　・制動機用水ポンプ

・燃料移送ポンプ　・遠隔操縦室　・逆転機　・消音



図１．内燃機関総合実験室



図２．内

３．内燃機関総合実験装置の不良状況

整備を必要とする箇所は５項目であった。

① 清水膨張タンクに亀裂があるので漏水している。（図３）
② 水制動機の出口の配管に亀裂があるので漏水している。（図４）
③ 始動弁ピストンにごみが入り込み正常に動作しない。（図５）
④ 燃料系統の漏油と不要装置撤去。（図６）
⑤ 主機と排気タービン過給機の潤滑油が汚れている。（図７）



図３．清水膨張タンク



図４．水制動機の出口パイプ



図５．始動弁ピストン



図６．故障した燃料消費計



図７．油だめの掃除

４．不良箇所の対策

不良箇所に対して下記のように対応した。

① 清水膨張タンクを撤去して新たに製作した。
② 水制動機の出口パイプを撤去して新たに製作した。
③ 始動空気系統の配管や部品を分解して洗浄した。
④ 不要装置を撤去して新規の燃料消費計を設置した。
⑤ 主機及び排気タービン過給機の潤滑油を新しい潤滑油に交換した。

５．おわりに

整備作業では主に清水膨張タンク・水制動機の出口パイプを新たに製作し、始動空気系統の配管・部品を分解して洗浄を行なった。整備作業を行なうにあたり以下のことがわかった。整備するためには装置の構造を十分に理解していること、作業手順や注意点を事前に精査することが作業を確実に行なうために重要であると改めて実感した。本整備作業で得られた知見を今後の定期整備作業に活かし、装置の正常な維持に努めたい。

（出典：総務課）

資料９－２－②－６

平成 24 年度第１回技術支援センター運営委員会議事概要

個人情報等保護のための削除

（出典：総務課）

資料９－２－②－７

技術支援センター免許・資格取得状況　調査票

免許・資格名										日常業務に必須	備　　考
第一種普通自動車免許	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	公用車運転
車両系建設機械（整地）技能講習					○						
第一種大型自動車免許					○						
第一種大型特殊自動車免許					○						
フォークリフト技能講習					○						
普通自動二輪			○		○						
一級小型船舶操縦士免許	○		○		○				○	●	はまかぜ運航
第二級海上特殊無線技士					○				○	●	はまかぜ運航
特殊無線技士・無線電話甲	○									●	はまかぜ運航
特殊無線技士・レーダー	○									●	はまかぜ運航
三級海技士（航海）	○								○		
床上操作式クレーン技能講習					○					●	艇庫作業
クレーン運転特別教育修了証	○								○	●	艇庫作業
移動式クレーン免許					○						
玉掛技能講習修了証	○		○		○				○	●	艇庫作業
ガス溶接作業主任者			○							●	工作実習指導及び運用管理
ガス溶接技能講習修了証		○	○		○		○			●	工作実習指導
アーク溶接特別教育			○		○		○			●	工作実習指導
自由研削といしの取替え等の業務		○	○							●	実習工場の整備
危険物取扱者免状（乙種第四類）			○		○		○	○		●	危険物貯蔵・管理
第二種電気工事士		○					▲	▲			
木材加工用機械作業主任者		○	○							●	工作実習指導
2級ボイラー技士				○			○			●	実習指導及び運用管理
小型ボイラー特別教育修了証		○	○							●	ボイラー運転
衛生管理者適任証書（船舶）	○										
船舶衛生管理者再講習修業証書	○										
海上防災訓練終了証書（消防実習・石油）	○		○								
タンカー安全担当者講習修了証書	○										
原油洗浄適任者証書	○										
電卓免状			○								
高等学校教諭1種免許（工業）				○							
スキューバダイビング					○	○			○		
普通救命講習			○		○		○	○			
基本情報処理技術者						○				●	実習指導
漢字検定2級						○					
CAD利用技術者試験2級								○			
有機溶剤作業主任者			○		○					●	舟艇等保守整備作業
取得したほうが望ましいと思われる資格											
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者										●	浮き桟橋保守作業

○：取得済み
▲：現在取得計画中

（出典：総務課）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程及び専攻科課程の教育課程の改正，組織的な初年次教育支援，国際交流の推進，キャリア教育の充実，教科書作成プロジェクトによる教材開発，ティーチング・ポートフォリオへの取組を学校として強化する等の具体的な改善活動が活発に実施されている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準９の自己評価の概要

教育の質の向上及び改善のために，教育活動の実態を示すデータや資料が収集・蓄積されており，教職員，学生，卒業生，学外関係者の意見も聴取されている。また，それらの資料をもとに自己点検・評価や外部評価を適切に実施できるシステムが整備されている。

これらの評価により，具体的に準学士課程及び専攻科課程の教育課程の改正，組織的な初年次教育支援などの教育改善や国際交流の推進，キャリア教育の充実，教科書作成プロジェクトによる教材開発等の改善が行われている。

個々の教員は，非常勤講師も含め，評価結果のフィードバックを受け，継続的に改善を意識して努力しており，その結果，教員顕彰を受賞する等の客観的成果が上がっている。さらに，研究を教育に結び付ける努力を行っており，学外共同研究への学生参加や学外発表を行う等，学習意欲の向上に繋げている。

ＦＤ委員会を中心に様々な授業改善を行っており，教員はＦＤ活動に積極的に参加し，その結果，新たにティーチング・ポートフォリオの組織的な取組や新任教員を中心にプロセスを重視した形式での研究授業を始める等，具体的な改善が実施されている。

教育支援者は，多くの研修会等に参加し，発表を行う等，他大学や他高等専門学校との情報交換を行い，その資質の向上に努めている。また，技術職員は，学校の支援を受けて資格取得にも励んでおり，技術者教育の改善を図っている。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校の有する土地及び建物は，土地が面積111,062㎡（海上構築物を含む），建物が延床面積32,044㎡となっている（資料10－１－①－１，２）。また，商船学科で必要とされる，練習船，各実習船及びそれらの係留施設，電子機械工学科で必要とされる工作機械を備えた実習工場，情報工学科で使用する情報関連機器を設置した情報処理教育センターを設置している。その他，図書館，25ｍプール，体育館２棟，野球場，グラウンド等を有している。

債務は，貸借対照表（資料10－１－①－３）のとおり，健全な運営となっている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の資産は，土地，建物，船舶，その他固定資産のそれぞれについて，教育研究活動を安定して遂行できるに十分なものを有している。また，債務も過大なものはない。

資料 10－１－①－１

資産保有状況一覧

固定資産保有状況一覧

	類型	資産勘定科目額	備考
弓削商船高等専門学校	土地	1,509,500,000	
	建物	2,226,687,625	
	建物付属設備	922,341,611	
	構築物	340,985,446	
	船舶	457,672,147	
	車両運搬具	6,047,081	
	工具器具備品	291,435,719	
	電話加入権	81,000	

※　建物の面積は延べ面積である。

※　平成２３年３月末日現在の保有状況である。

（出典：総務課）

資料 10－１－①－２

施設の概況 General Situation of Facilities

土地及び建物
Site and Building

（単位：㎡）

区　　分	土　地	建　物　面　積		備　　考
		建面積	延面積	
校　　舎	74,668	10,880	19,423	
実習船係留場	0	634	718	海上構築物　1,152
寄　宿　舎	22,830	3,325	9,059	
高専宿舎	12,412	662	2,844	鉄筋52戸
合　　計	109,910	15,501	32,044	



校舎地区全景 [Areal View of the School]

（出典：2012 学校要覧Ｐ．38）

資料 10－１－①－３

貸借対照表（平成 24 年３月末日現在）

非公開情報のための削除

（出典：総務課）

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校は，独立行政法人国立高等専門学校が設置する学校であることから，収入は国から交付される運営費交付金と学生納付金の２つが大きな柱となる。

運営費交付金は，いわゆる「効率化係数」が課せられるため微減の傾向が見られるが，ほぼ安定して交付されている。また，平成23年度から人件費が設置法人により一括管理となっており，結果として安定性は向上している（資料10－１－②－１）。

学生納付金は，学生の確保状況に影響されるところが大きいが，本校では近年特に増加傾向となっている。これは，継続して広報活動の充実・改善に取り組んでいることや，入試方法の改革などの取組によるところである。それに伴い志願状況の改善により検定料等の収入増など好循環も生まれつつある（資料10－１－②－２）。

（分析結果とその根拠理由）

本校の収入は，運営費交付金，学生納付金ともに教育研究活動を安定して遂行するため，継続的に確保されている。運営費交付金は，微減ではあるがほぼ安定して交付されている。学生納付金は，積極的な取組により増加傾向となっている。

資料 10－１－②－１

運営費交付金等の収入状況

（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
金額	947,860	876,540	185,419	114,816

運営費交付金	833,654	876,540	185,419	114,816
施設整備費	114,206	0	0	0

平成２３年度から人件費が設置法人により一括管理となっている。

（出典：総務課）

資料 10－１－②－２

自己収入等の確保状況

授業料　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入金額	120,291	121,293	122,119	129,354

入学料及び検定料　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入金額	13,423	13,152	15,106	15,249

寄宿料　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入金額	2,607	2,694	2,770	2,924

学校財産貸付料　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入金額	458	1321	522	588

職員宿舎貸付料　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入金額	7,160	7,056	7,438	7,749

（出典：総務課）

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（観点に係る状況）

本校では，研究費に加えて事業費についても外部資金の活用を推進している。
科学研究費助成事業への積極的な応募を促すための説明会の開催，公募情報の積極的な提供，間接経費を財源としたインセンティブ制度の充実を行っているものの，更なる競争的資金の獲得を図る必要がある（資料10－１－③－１）。

同時に産学連携の取組にも力を入れている。離島であること，近隣に産業の集積が見られないなど立地上の不利な点は大きいが，練習船「弓削丸」を用いた共同研究など着実な成果を挙げている。また，本校の技術振興会から，研究支援を受けている。

（分析結果とその根拠理由）

外部の財務資源の活用について，研究，事業運営，産学連携において活用策を策定，実行している。教員のみでなく，学校全体として体制を整えているが，受託研究の向上や科学研究費助成事業の採択率を上げる等，競争的資金の更なる獲得を図る必要がある。

資料 10－１－③－１

自己収入等の確保状況

寄附金　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入金額	11,073	6,542	7,505	9,140

共同研究　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入件数	1	1	0	6
受入金額	532	288	0	944

受託研究　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入件数	7	1	0	0
受入金額	4,950	1,800	0	0

受託事業　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入件数	0	0	0	2
受入金額	0	0	0	788

科学研究費補助金　（千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
受入件数	4	4	4	5
受入金額	3,500	5,000	3,500	3,300

（出典：総務課）

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

本校では，各部門における基礎的な活動の維持・運営費用について効率化を加味して見積もり，国立高等専門学校機構から提示された本校への運営費交付金交付額及び学生納付金等見込額等の収入見込額と比較検討の上，予算案を作成することとしている。

各部門には，年間に必要な費用について調書の作成を依頼し，また，必要に応じてヒアリングを実施する。なお，船舶検査など臨時に高額な費用の発生が見込まれる場合には，国立高等専門学校機構とも協議を行うこととしている。

総務課において提出された調書の審査を行い，予算配分方針案及び予算案を作成する（資料10－２－①－１）。

予算案等は運営委員会において審議され，決定されれば各部門に配分される（資料10－２－①－２）。また，運営委員会の決定は各学科の分科会を通じて校内への周知が行われている。

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，予算方針案及び予算案は運営委員会において審議され，周知されている。

資料 10－２－①－１

平成 24 年度　学内予算配分方針

非公開情報のための削除

（出典：総務課）

資料 10－２－①－２

平成 24 年度　第２回運営委員会議事概要

非公開情報のための削除

（出典：平成 24 年度第２回運営委員会議事概要抜粋）

観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）
財源の範囲内での支払を原則としており，過大な支出超過は発生していない（資料10－２－②－１）。過去５年間の損益計算書は，訪問調査時の確認資料とする。

（分析結果とその根拠理由）
収支の状況において，過大な支出超過となっていない。

資料 10－２－②－１

損益計算書（平成 23 年４月１日～平成 24 年３月末日）

非公開情報のための削除

（出典：総務課）

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，国立高等専門学校機構から提示された本校への運営費交付金交付額及び学生納付金等見込額等の収入見込額と比較検討の上，事前に見積もりを行い，予算案を作成することとしている。

重点目標等に関しては，校長裁量経費によって柔軟な対応を行っている。決定方法として，公募を行ったうえで，必要に応じてヒアリングを実施し決定している（訪問調査時に資料提示）。また，教育研究等の業績を基に教育研究支援経費を傾斜配分している（資料10－２－③－１）。

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的を達成するため，教育研究活動に対し，適切な資源配分がなされている。経常経費については，事前に見積もりを行い必要に応じて配分している。重点配分事項は校長裁量経費で公募，ヒアリング等により決定している他，教育研究等の業績を基に教育研究支援経費を傾斜配分している。

資料10－２－③－１

平成24年度　教育研究費追加配分申告書

非公開情報のための削除

（出典：総務課）

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

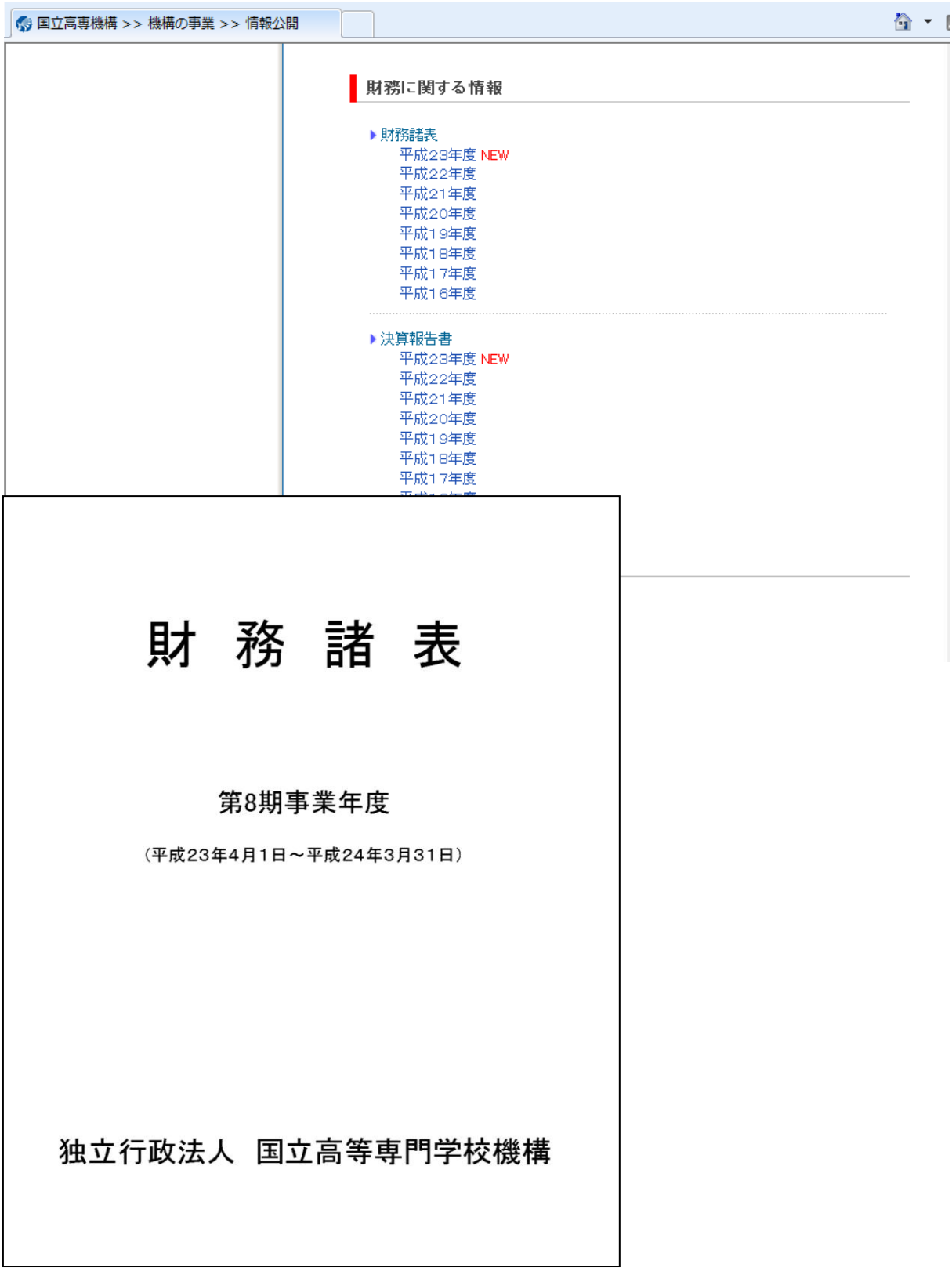
（観点に係る状況）

本校の設置法人は，独立行政法人国立高等専門学校機構である。国立高等専門学校機構の財務諸表は，独立行政法人通則法第38条により，当該事業年度終了後，三月以内に文部科学大臣に提出し承認を受けることになっており，その後，官報及び国立高等専門学校機構のウェブサイトで公開されている（資料10－３－①－１）。

（分析結果とその根拠理由）

学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されている。設置法人である独立行政法人国立高等専門学校機構の財務諸表は，官報及び国立高等専門学校機構のウェブサイトで公開されている。

資料 10－３－①－１



（出典：国立高等専門学校機構ウェブサイト・財務諸表　第８期事業年度）

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

財務会計に関する監査として会計監査法人監査，内部監査として高専相互会計内部監査及び監事監査が設けられている。

会計監査法人監査は，監査法人が策定する監査計画に基づいて実施され，事業年度ごとに国立高等専門学校機構と各高等専門学校の実地監査を行っている。

内部監査について，高専相互会計内部監査は，高専機構が策定する計画に基づいて，高等専門学校間で相互に監査員を派遣しあっている（資料10－３－②－１）。監事監査は，監事の策定する監査計画に基づいて，５年間で全高専の実地監査を行うこととなっている。

（分析結果とその根拠理由）

財務会計に関する監査として会計監査法人監査，内部監査として高専相互会計内部監査，監事監査が設けられており，それぞれ適切に実施されている。

資料 10－３－②－１

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	弓削商船高等専門学校
監査実施日	平成２４年１月１９日　～　１月２０日
監査担当者	大島商船高等専門学校　総務課課長補佐 総務課用度係長 総務課財務係

【監査結果の詳細】

被監査部署及び対応者名：総務課

①被監査部署の現状

・弓削商船高専の会計を担当する職員は、予算決算、収入支出を担当する財務係（４名）、 契約事務を担当する契約係（２名）、施設管理を担当する施設係（２名）の３係、計１０名（課長、課長補佐を含む）となっている。

②監査結果により把握された重要な問題点と所見

・別添「日常監査チェックリスト等（平成２３年度高専相互会計内部監査)」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認等を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、重要な問題点は見受けられなかった。

③発見事項及び指摘事項

・なし

④指摘事項等（指示、考究）

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」のとおり

指示（会計処理について改めるよう要求したもの）･･･３件

考究（確認、検討を要求したもの）　･･･１件

⑤被監査部署の意見等

・上記④について、その対応について速やかな検討を図り、直ちに対応するとのことであった。

⑥関係資料等（徴収資料等）

なし

（出典：総務課）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育目標を達成するための財源の確保，予算の適正配分，適正で効率的な予算執行に対する努力がなされている。

（改善を要する点）

運営費交付金等の基本的な財源は確保されているが，外部資金としての受託研究，共同研究の受入件数，科学研究費補助金の申請件数及び採択率の向上においては改善の余地がある。

（３）基準10の自己評価の概要

本校の資産は，土地，建物，船舶，その他固定資産のそれぞれについて，教育研究活動を安定して遂行できるに十分なものを有しており，債務も過大なものはない。収入は，運営費交付金，学生納付金ともに教育研究活動を安定して遂行するため，継続的に確保されているが，受託研究の向上や科学研究費助成事業の採択率を上げる等，競争的資金の更なる獲得を図る必要がある。

学校の目的を達成するための，教育研究活動に対し，適切な資源配分がなされている。予算方針案及び予算案は運営委員会において審議され，周知されている。重点配分事項は校長裁量経費で公募，ヒアリング等により決定している他，教育研究業績を基に教育研究支援経費を傾斜配分している。

財務諸表は，官報及び国立高等専門学校機構のウェブサイトで公開されている。また，会計監査法人監査，内部監査として高専相互会計内部監査，監事監査が設けられており，それぞれ適切に実施されている。

基準 11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点 11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点にかかる状況）

本校では，校長のリーダーシップの下に，教務主事，学生主事，寮務主事，広報主事を副校長として配置し，組織ごとに学科長・専攻科長及び各センター長などを配置して，迅速な意思決定ができる態勢をとっている（資料 11－１－①－１）。各主事の役割については，学則第９条で明確に定めている（資料 11－１－①－２）。また，平成 25 年度から，企画・評価担当の副校長を新設し，外部評価及び第三者評価や中期計画並びに公開講座等の企画などを担当することにしている。

学校の管理運営等の重要な事項を審議し意思決定を行う機関として,内部組織規則第 14 条により運営委員会を設置し，同規則第 16 条により各種委員会を設置し，それぞれ規則を定めている（資料 11－１－①－３，４）。運営委員会は，校長を委員長に，各副校長，各学科長，専攻科長，図書館長，情報処理教育センター長，地域共同研究推進センター長，練習船弓削丸船長，各学科から選出された教員各１名，事務部長及び技術支援センター長を委員として組織されており，毎月１回開催することとしている（資料 11－１－①－５，６）。運営委員会での審議・報告内容は，委員である各所属の長から教職員へ周知徹底されており，必要に応じて教員会議で校長から周知している。なお，練習船「弓削丸」は練習船運航委員会に基づいて適切に運航されており，体制間の連携強化を図るため，平成 23 年度から練習船弓削丸船長を委員に追加した（資料 11－１－①－７）。

各種委員会の中で自己点検評価委員会，人事委員会，入学試験委員会，安全衛生委員会，将来計画委員会，環境マネジメント委員会，国際交流委員会，情報セキュリティ管理委員会及びリスク管理室会議などの主要な会議については，校長が委員長を務めることにしており，全体を把握しリーダーシップをとれる体制となっている。また，各副校長・専攻科長・各センター長等は，担当委員会の委員長を務めることにしており，重要な事項については運営委員会に上げて審議・報告することとしており，効果的な意思決定が行える態勢をとっている（資料 11－１－①－８）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，校長のリーダーシップの下に，教務主事，学生主事，寮務主事，広報主事を副校長として配置し，迅速な意思決定ができる態勢になっている。平成 25 年度からは，企画・評価担当副校長を新設した。校長，各副校長，専攻科長，各センター長等が，所掌するそれぞれの委員会の委員長を務めることにしており，その役割を明確にしている。

以上のことから，本校では，校長，各副校長，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっている。

資料 11－１－①－１

組織　Organization

組　織　図
Organization Chart



（出典：2013 学校要覧Ｐ．４）

資料 11－１－①－２

（教務主事，学生主事，寮務主事及び広報主事）

第９条　本校に教務主事，学生主事，寮務主事及び広報主事を置く。

２　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

３　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

４　寮務主事は，校長の命を受け，学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

５　広報主事は，校長の命を受け，学生募集・広報に関することを掌理する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集１－１抜粋）

資料 11－１－①－３

（運営委員会）

第14条　本校に，管理運営を円滑に行うため，運営委員会を置く。

２　運営委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（教員会議）

第15条　本校に，校務の円滑な運営に資するため，教員会議を置く。

２　教員会議に関し必要な事項は，別に定める。

（各種委員会）

第16条　本校に，特定の事項を審議するため，必要に応じて委員会を置く。

２　委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（出典:弓削商船高等専門学校規則集２－31 抜粋）

資料 11－１－①－４

弓削商船高等専門学校規則一覧表

H24.6.20 現在

規則番号		制　　定	最終改正
	第2章　組織及び運営		
2－1	弓削商船高等専門学校運営委員会規則	H.16.12.27廃止制定	H.23.12.22
2－2	弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則	H.4.5.14制定	H.23.12.22
2－3	弓削商船高等専門学校人事委員会規則	H.14.10.18制定	H.23.12.22
2－4	弓削商船高等専門学校人事委員会専門委員会規則	H.14.10.18制定	H.19.1.18
2－5	弓削商船高等専門学校教務委員会規則	S.58.9.20制定	H.23.12.22
2－6	弓削商船高等専門学校入学試験委員会規則	S.61.5.30制定	H.23.12.22
2－7	弓削商船高等専門学校厚生補導委員会規則	S.58.9.20制定	H.23.12.22
2－8	弓削商船高等専門学校学級担任委員会規則	S.46.4.1制定	H.23.12.22
2－9	弓削商船高等専門学校練習船運航委員会規則	S.45.11.1制定	H.23.12.22
2－10	弓削商船高等専門学校就職指導委員会規則	S.46.9.1制定	H.23.12.22
2－11	弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則	H.6.2.4制定	H.23.12.22
2－12	弓削商船高等専門学校情報ネットワーク管理専門部会規則	H.8.2.1制定	H.21.11.19
2－13	(欠番)弓削商船高等専門学校情報ｾｷｭﾘﾃｨ規則	H.14.10.18制定	H.22.10.1廃止
2－14	(欠番)弓削商船高等専門学校情報ｾｷｭﾘﾃｨ委員会規則	H.14.10.18制定	H.22.10.1廃止
2－15	(欠番)弓削商船高等専門学校情報ｾｷｭﾘﾃｨ評価専門委員会規則	H.14.10.18制定	H.22.10.1廃止
2－16	弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター規則	H.14.10.18制定	H.23.12.22
2－17	弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター運営委員会規則	H.14.10.18制定	H.21.3.19
2－18	弓削商船高等専門学校図書委員会規則	H.16.12.27廃止制定	H.19.7.18
2－19	弓削商船高等専門学校安全衛生委員会規則	H.16.3.16制定	H.19.1.18
2－20	弓削商船高等専門学校将来計画委員会規則	S.58.9.20制定	H.23.12.22
2－21	弓削商船高等専門学校広報委員会規則	H.2.3.6制定	H.23.12.22
2－22	弓削商船高等専門学校校内環境美化委員会規則	S.60.4.23制定	H.23.12.22
2－23	弓削商船高等専門学校寮務委員会規則	S.63.3.28制定	H.21.2.19
2－24	弓削商船高等専門学校事務情報化推進委員会規則	H.10.10.30制定	H.23.12.22
2－25	弓削商船高等専門学校中期計画推進室規則	H.16.1118制定	H.22.7.26
2－26	弓削商船高等専門学校運営諮問会議規則	H.16.4.21制定	H.19.1.18
2－27	弓削商船高等専門学校環境マネジメント委員会規則	H.18.2.16制定	H.21.11.19
2－28	弓削商船高等専門学校専攻科委員会規則	H16.12.20制定	H.23.12.22
2－29	弓削商船高等専門学校施設整備等検討委員会規則	H.17.2.21制定	H.19.1.18
2－30	弓削商船高等専門学校国際交流委員会規則	H.17.3.16制定	H.23.12.22
2－31	弓削商船高等専門学校内部組織規則	H.16.12.27制定	H.23.12.22
2－32	弓削商船高等専門学校教員会議規則	H.16.12.27制定	H.23.12.22
2－33	弓削商船高等専門学校学生募集対策委員会規則	H.16.12.27制定	H.23.12.22
2－34	(欠番)弓削商船高等専門学校教育研究組織検討委員会規則	H.16.12.27制定	H.23.4.1廃止
2－35	(欠番)弓削商船高等専門学校成績評価協議会規則	H.16.12.27制定	H.23.4.1廃止
2－36	(欠番)弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会規則	H.16.12.27制定	H.23.4.1廃止
2－37	弓削商船高等専門学校技術支援センター規則	H.21.9.30廃止制定	H.23.12.22
2－38	弓削商船高等専門学校教育方針・教育目標に関する規則	H.22.3.18制定	
2－39	弓削商船高等専門学校国際交流推進室規則	H22.6.21制定	
2－40	弓削商船高等専門学校FD委員会規則	H23.2.17制定	H.23.12.22
2－41	弓削商船高等専門学校初年次教育支援室規則	H23.2.17制定	H.24.2.16
2－42	弓削商船高等専門学校危機管理規則	H.23.5.26制定	

（出典：総務課）

資料 11－１－①－５

○弓削商船高等専門学校運営委員会規則

制　　定　平成16年12月27日
最終改正　平成25年３月19日

（趣旨）
第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校内部組織規則第14条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は，校長の諮問に応じて，次の各号に掲げる重要事項について審議する。
(1)　学則その他諸規則の制定改廃に関する事項
(2)　予算に関する事項
(3)　施設及び設備に関する事項
(4)　その他管理運営に関する事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　校長
(2)　副校長
(3)　各学科長，総合教育科長及び専攻科長
(4)　図書館長
(5)　情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
(6)　練習船弓削丸船長
(7)　各学科及び総合教育科から選出された教員各１名
(8)　事務部長
(9)　技術支援センター長
２　前項第７号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号に掲げる委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を主宰する。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（幹事）

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－１抜粋）

資料 11－１－①－６

平成 24 年度　第 1 回運営委員会議事概要

日　時　　平成 24 年 4 月 19 日（木）16:30 ～
場　所　　第 2 会議室
出席者　　19 名（別紙のとおり）
議　題

議事に先立ち、校長から、委員の交代について紹介があった。

校長	落合→木村
商船学科長	友田→高岡
情報処理教育センター長	長尾→田房
商船学科	高岡→村上
電子機械工学科	藤本→木村
技術支援センター長	濱中→児玉
学生課長	宮脇→藤沢

（審議事項）

1. 平成 24 年度運営委員会の開催日程（案）について　議題資料 1（総務課長）

① 総務課長から、資料 1 に基づき，平成 24 年度運営委員会の開催日程（案）について説明があった。要点は、次のとおり。

(1) 右側には、参考として、既に決定している教員会議の日程である。

(2) 運営委員会は、原則として、月 1 回の開催を予定している。但し、議題等がない場合は、開催を取りやめる場合もある。開催日は、原則として、第 3 水曜日を基本としている。変則は、次のとおり。

・5 月は、連休のため、23 日。
・8 月は、開催しない予定。但し、急な議題が生じた場合は、開催する。
・9 月は、教員会議、選考科委員会等の学事や祝日となっているため、25 日。
・3 月は、祝日のため、19 日。

② 以上、了承された。

（報告事項）

1. 兼業について　　報告資料 1（校長）

○ 校長から、報告資料 1 に基づき，兼業の報告が 2 件あった。

(1) 木村隆一 校長・・・一般社団法人全日本船舶職員協会の顧問
無報酬、年 1 回程度の会議で職務に影響なし

(2) 総合教育科 山尾德雄 特任教授・・・弓削校区放課後児童クラブの会長
無報酬、地域貢献の一環

2. 平成 23 年度年度計画実施状況及び平成 24 年度年度計画について
報告資料 2（中期計画推進室長）

○ 濵中中期計画推進室長から、報告資料 2 に基づき、本校の平成 23 年度年度計画実施状況及び平成 24 年度年度計画について、報告があった。要点は、次のと

（出典：平成 24 年度第 1 回運営委員会）

資料 11－１－①－７

平成２３年度第４回運営委員会議事概要

日　　時　　平成２３年７月２０日（水）１６：１８～１７：０５
場　　所　　第２会議室
出 席 者　　１８名（別紙のとおり）
議　　題

議事に先立ち，校長から，６月２７日付けで改正された「弓削商船高等専門学校運営委員会規則」に基づき，今回より練習船弓削丸船長が出席する旨の報告があった。

（審議事項）

１．平成２３年度商船学科卒業式及び専攻科（海上輸送システム工学専攻）修了式について
　総務課長から，議題資料１に基づき，９月２２日（木）に実施予定の平成２３年度商船学科卒業式及び専攻科（海上輸送システム工学専攻）修了式について，昨年度からの変更点等の説明があり，原案どおり了承された。

２．平成２３年度専攻科（海上輸送システム工学専攻）入学式について
　総務課長から，議題資料２に基づき，１０月３日（月）に実施予定の平成２３年度専攻科（海上輸送システム工学専攻）入学式について，昨年度からの変更点等の説明があり，原案どおり了承された。

（出典：平成 23 年度第４回運営委員会）

資料 11－１－①－８

◇平成25年度各種委員会委員等（平成25年4月1日現在）

委員会等名		委員等																																	室員等								
		1 運営	2 自己点検評価	3 人事	4 教務	5 入学試験	6 厚生補導	7 学級担任	8 練習船運航	9 就職指導	10 情報処理教育センター運営	11 情報ネットワーク管理専門部会	12 地共センター運営	13 図書	14 安全衛生	15 将来計画	16 広報	17 電子メディア小	18 校内環境美化	19 寮務	20 事務情報化推進	21 環境マネジメント	22 専攻科	23 施設整備等検討	24 国際交流	25 学生募集対策	26 FD	27 公開講座	28 宿舎賃与選考	29 施設管理運営委員会	30 知的財産	31 外国人留学生	32 学生相談室運営	33 技術支援センター運営	34 情報セキュリティ管理	35 情報セキュリティ推進	35 中期計画推進室	37 学生相談室	38 事務情報化推進室	39 国際交流推進室	40 初年次教育支援室	41 リスク管理室	42 セクハラ苦情相談員	43 リスク管理員	44 地共センター研究員
	校長	◎	◎	◎		◎									◎	◎						◎			◎								◎							◎			
商船学科	友田進		●																																							
	児玉敬一						▲													▲																							
	中哲夫	○	○				□	□	○	○				●								○							○	●		○	◎	○			○					○	
	多田光男	○	○	○	◎	○	○	◎	○							○	○					○	○	◎	○		◎	◎		◎	◎		○	○		○●ｂ				○			
	高岡俊輔	○	○	○	○	○			◎	○			○			○	○					○		○●	○	○			○	○	○		○	○								○	
	湯田紀男						▲□	□								●				●	▲																					
	村上知弘	●					▲										▲									▲●																●
	二村彰				▲	▲●	▲	▲		○●			○				▲					○					▲●															
	秋葉貞洋						▲□	□			●		●							▲●																						
	野々山和宏																										●														
	向瀬紀一郎						▲			●		●							▲						●					●				●		●						
	柳沢修実						▲□	□											▲					●																		
	山崎慎也																	●																								
	中村真澄																																									
電子機械工学科	勘久保広一																		●																							
	鶴秀登													●																												
	藤本隆士	○	○●	○	○	○			○	○			○			○	○					○		○	○			●	○	○	○		○	○		●					○	
	益崎真治	○	○	○		○●	○	○			●					○	◎					○	○	○	○	◎●			○		○					○						
	木村隆則	○●	○				□	□	○	○●			◎									○							○	●		○	○			○	●				○	
	DAVAA GANBAT						▲												▲						○●						○	●					●		○			
	中山恭秀				▲	▲	▲	▲									▲	●					●			▲															
	樫根健史						▲					●							▲																	●						
	長井弘志				▲	▲	▲□	▲□					●			●	▲									▲															●
	政家利彦																		●				●				●									●					
	大根田浩久						▲□	□											▲								●	●														
情報工学科	岡本太志																											●		●											
	塚本秀史	○	○	○			□	□		○●			○●			○						○	◎		○				○	○		○	○	○		○					○	
	冨目幸一	○●	○●	○		○	◎	○		◎						○●	○			○		○	○	○	○○					○		○○				○		◎		○	○	
	長尾和彦	○	○	○	○	○			○	○	○	◎	○			○	○					○		○	○	○				○	○		○	○	○					○	
	田房友典	○	○				▲□	□			◎						○▲	◎				○				▲●			○				○	○	◎					○	
	高木洋	○	○			●							◎									○●					●		○											○	●
	伊藤芳浩				▲	▲	▲□	▲□			●						▲	●						●			▲														
	徳田誠						□	□		○		●											○				●									●			□			
	桝田温子						▲							●					▲									●			●					●						
	峯脇さやか						▲					●							●	▲●																●						
	前田弘文																							●																	
総合教育科	瀧中俊一	○	○			○										○										◎●			◎●						◎○				○		
	神谷正彦	○	○	○	○	○●			○				○			○	○					○		○	○				○	○	○	◎	○	○		◎					○●	
	上江憲治	○	○	○		○	○	○								○	○		◎			○	○	○	○				○		○					○		○				
	藤井清治	●				●																					●														
	野町俊文																		●																				●		
	久保康幸						□	□			●	●																								●					
	日下佳春					●								●																											
	野口隆					●																	●														●				
	猪川優子																											●											●		
	伊藤武志					●							●		●														●							●					●
	水崎一良		●		▲	▲	▲	▲							○		▲						●			▲											●				
	望月肇						▲□	□											▲						●		●		●								□				
	雙知延行						□	□								●										●														
	坂内宏行						▲												▲●																		●				
	房野真也						▲□	□											▲											●							□				
	南郷毅						▲										▲	●								▲										●				
練習船	永本和寿	○							○																	●					○	○								○	
	松永直也								○			●																●													
	森瑛太郎																																								
	小林一平																																								
事務・技術支援センター・弓削丸班	事務部長	○	○			○							○		○	○			◎		◎	○		○							○				○			○			○	
	総務課長	△	△						○		○		△		○	△			○		○	△							○				○			○						
	学生課長	△	△		○	○	○		○	○	○		△			△			○	○	○	△				○	○			○		○	○					○		○		
	企画広報室長	△							○					○			○				○							○			○			○		○		◎	○		○		
	総務課長補佐																																			●						
	技術長										○				●																	○					●					
	総務係長																				○							●													
	契約係長																																									
	財務係長																				○																●				
	人事係長																																									
	施設係長	弘田																																								
	学生課長補佐																											●													
	教務係長																				○															●		●				
	学生支援係長																																									
	寮務係長																																									
	学生支援・寮務	猪野																																				●				
	弓削丸班																																									
	技術伊藤幸																											●													
	技術柏原											●																														
	企画係長																																			●		●				
	情報・広報係長											●									○																					
	学生課看護師														●																○					○						
	カウンセラー																																			○				○		
	担当課（室）	総務	企画	総務	学生	学生	学生	学生	弓削丸班	学生	企画	技術支援・企画	企画	企画	総務	企画	企画	企画	総務	学生	企画	総務	学生	総務	企画・学生	学生		企画	総務	総務	企画	学生	学生	技術支援センター	企画	企画	企画	学生	総務	総務	総務	企画広報室

※ ◎委員長（WG長等） ○委員（指定） ●委員（選出・指名） △幹事 ▲主事補 □担任

（出典：総務課）

観点 11－１－②：　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

管理運営に関する諸規程については，組織及び運営を行うための委員会規則が定められており，教育活動，学生指導，庶務，人事，会計，施設・設備等に係る諸規定が整備されている（資料 11－１－②－１）。

各種委員会は，校長が運営委員会，将来計画委員会等を，教務主事が教務委員会等，学生主事が厚生補導委員会等，寮務主事が寮務委員会等，広報主事が広報委員会等，企画・評価担当副校長が公開講座委員会等，各センター長が各センター委員会等をそれぞれ所掌し，適切に役割を分担している（資料 11－１－①－８）。これらの各種委員会については，随時，組織の見直しを行い，効果的に活動できるように改善を図っている（資料 11－１－②－２）。

事務組織は，事務組織及び事務分掌規則に基づき，事務部長が置かれ，事務部長の下に総務課，学生課，企画広報室が置かれている（資料 11－１－②－３）。同規則により各事務分掌について明確かつ適切に役割が分担されるよう定められており，事務職員が教員と密接な連携を取りながら，それぞれの職務を効果的に遂行している（資料 11－１－②－４）。

技術職員については，平成 21 年 10 月に技術支援センターを設置し，教員が務める技術支援センター長の下に技術長を配し，第１技術班・第２技術班に分かれて配属されている。技術職員は，教職員と連携しながら，教育支援，研究支援，地域連携支援の業務に従事している（資料 11－１－②－５，６）。また，練習船弓削丸班員は，弓削丸船長の指揮の下で学生の航海実習・実験実習を始めとして，学校行事，広報活動，公開講座，出前授業，共同研究などでの運行業務に従事している（資料 11－１－②－７）。

本校において発生することが予想される様々な事象に伴う危機に組織的に迅速かつ的確に対処するため，危機管理体制及び危機事象発生時の基本的な対処方法等に関し，必要な事項を危機管理規則で定めている（資料 11－１－②－８）。また，同規則に基づき，本校の学生，教職員及び近隣住民に被害が及ぶ恐れがある様々な危機事象を未然に防止し，また，発生した場合に被害を最小限にくい止めることを目的として危機管理マニュアルを整備している（資料 11－１－②－９）。危機管理規則の中で，リスク管理室の室長は校長をもって充てると定め，危機管理マニュアルの中でリスクランクをＡ～Ｃに分類し，Ａ及びＢに該当すると判断された場合には，校長が危機事象の対処のため速やかに危機対策本部を設置し，危機事象への対応を行うこととしている。平成 23 年度には，上島町消防署と連携し，震災発生時への対応のため防災教育セミナーを実施した（資料 11－１－②－10）。

（分析結果とその根拠理由）

管理運営に関する諸規程は，委員会規則及び関連規則・規程により整備されている。

各種委員会及び事務組織については，諸規則に従って適切な役割分担がなされており，随時，効果的な活動を図るための自己点検及び改善を図っている。

危機管理に係る体制は，危機管理規則及び危機管理マニュアルにより役割を適切に分担すること及び危機事象発生時の対応を明確に定めている。

以上のことから，本校において，管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切

に役割を分担し，危機管理に係る体制が整備され，それぞれ効果的に活動している。

資料 11－１－②－１

弓削商船高等専門学校規則一覧表

H24.6.20 現在

規則番号		制　　定	最終改正
	第1章　学則		
1－1	弓削商船高等専門学校学則	S.44.1.1制定	H.23.9.21
	第2章　組織及び運営		
2－1	弓削商船高等専門学校運営委員会規則	H.16.12.27廃止制定	H.23.12.22
2－2	弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則	H.4.5.14制定	H.23.12.22
2－3	弓削商船高等専門学校人事委員会規則	H.14.10.18制定	H.23.12.22
2－4	弓削商船高等専門学校人事委員会専門委員会規則	H.14.10.18制定	H.19.1.18
2－5	弓削商船高等専門学校教務委員会規則	S.58.9.20制定	H.23.12.22
2－6	弓削商船高等専門学校入学試験委員会規則	S.61.5.30制定	H.23.12.22
2－7	弓削商船高等専門学校厚生補導委員会規則	S.58.9.20制定	H.23.12.22
2－8	弓削商船高等専門学校学級担任委員会規則	S.46.4.1制定	H.23.12.22
2－9	弓削商船高等専門学校練習船運航委員会規則	S.45.11.1制定	H.23.12.22
2－10	弓削商船高等専門学校就職指導委員会規則	S.46.9.1制定	H.23.12.22
2－11	弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則	H.6.2.4制定	H.23.12.22
2－12	弓削商船高等専門学校情報ネットワーク管理専門部会規則	H.8.2.1制定	H.21.11.19
2－13	（欠番）弓削商船高等専門学校情報セキュリティ規則	H.14.10.18制定	H.22.10.1廃止
2－14	（欠番）弓削商船高等専門学校情報セキュリティ委員会規則	H.14.10.18制定	H.22.10.1廃止
2－15	（欠番）弓削商船高等専門学校情報セキュリティ評価専門委員会規則	H.14.10.18制定	H.22.10.1廃止
2－16	弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター規則	H.14.10.18制定	H.23.12.22
2－17	弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター運営委員会規則	H.14.10.18制定	H.21.3.19
2－18	弓削商船高等専門学校図書委員会規則	H.16.12.27廃止制定	H.19.7.18
2－19	弓削商船高等専門学校安全衛生委員会規則	H.16.3.16制定	H.19.1.18
2－20	弓削商船高等専門学校将来計画委員会規則	S.58.9.20制定	H.23.12.22
2－21	弓削商船高等専門学校広報委員会規則	H.2.3.6制定	H.23.12.22
2－22	弓削商船高等専門学校校内環境美化委員会規則	S.60.4.23制定	H.23.12.22
2－23	弓削商船高等専門学校寮務委員会規則	S.63.3.28制定	H.21.2.19
2－24	弓削商船高等専門学校事務情報化推進委員会規則	H.10.10.30制定	H.23.12.22
2－25	弓削商船高等専門学校中期計画推進室規則	H.16.1118制定	H.22.7.26
2－26	弓削商船高等専門学校運営諮問会議規則	H.16.4.21制定	H.19.1.18
2－27	弓削商船高等専門学校環境マネジメント委員会規則	H.18.2.16制定	H.21.11.19
2－28	弓削商船高等専門学校専攻科委員会規則	H16.12.20制定	H.23.12.22
2－29	弓削商船高等専門学校施設整備等検討委員会規則	H.17.2.21制定	H.19.1.18
2－30	弓削商船高等専門学校国際交流委員会規則	H.17.3.16制定	H.23.12.22
2－31	弓削商船高等専門学校内部組織規則	H.16.12.27制定	H.23.12.22
2－32	弓削商船高等専門学校教員会議規則	H.16.12.27制定	H.23.12.22
2－33	弓削商船高等専門学校学生募集対策委員会規則	H.16.12.27制定	H.23.12.22
2－34	（欠番）弓削商船高等専門学校教育研究組織検討委員会規則	H.16.12.27制定	H.23.4.1廃止
2－35	（欠番）弓削商船高等専門学校成績評価協議会規則	H.16.12.27制定	H.23.4.1廃止
2－36	（欠番）弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会規則	H.16.12.27制定	H.23.4.1廃止
2－37	弓削商船高等専門学校技術支援センター規則	H.21.9.30廃止制定	H.23.12.22
2－38	弓削商船高等専門学校教育方針・教育目標に関する規則	H.22.3.18制定	
2－39	弓削商船高等専門学校国際交流推進室規則	H22.6.21制定	
2－40	弓削商船高等専門学校FD委員会規則	H23.2.17制定	H.23.12.22
2－41	弓削商船高等専門学校初年次教育支援室規則	H23.2.17制定	H.24.2.16
2－42	弓削商船高等専門学校危機管理規則	H.23.5.26制定	
	第3章　庶務		
3－1	弓削商船高等専門学校事務組織及び事務分掌規則	H.19.1.18制定	H.21.9.30
3－2	欠番		
3－3	弓削商船高等専門学校事務情報化推進室内規	H.11.8.27制定	H.19.1.18
3－4	弓削商船高等専門学校文書管理規則	H.13.3.30制定	H.21.11.19
3－5	弓削商船高等専門学校文書処理規程	H.13.3.30制定	H.21.11.19
3－6	弓削商船高等専門学校公印規則	H.13.3.30制定	H.19.1.18
3－7	弓削商船高等専門学校公開講座規則	S.62.2.27制定	H.19.1.18
	第4章　人事		
4－1	弓削商船高等専門学校名誉教授称号授与規則	S.50.2.1制定	H.19.1.18
4－2	弓削商船高等専門学校名誉教授称号授与規則施行細則	S.50.2.1制定	H.17.12.14
4－3	弓削商船高等専門学校教員選考規則	H.14.10.18制定	H.19.1.18
4－4	弓削商船高等専門学校教員選考細則	H.14.10.18制定	H.24.6.20
4－5	弓削商船高等専門学校放射線障害防止管理規則	H.3.3.6制定	H.19.1.18
4－6	弓削商船高等専門学校職員の財産形成貯蓄等関係事務取扱要項	S.63.8.1制定	H.19.1.18
4－7	弓削商船高等専門学校職員の財産形成貯蓄等関係事務取扱要項細則	S.63.8.1制定	H.19.8.14
4－8	弓削商船高等専門学校セクシュアル・ハラスメント防止等規則	H.11.7.8制定	H.19.1.18
4－9	弓削商船高等専門学校非常勤講師選考内規	H.6.6.16制定	H.23.12.19
4－10	弓削商船高等専門学校職員証等取扱要項	H18.9.28制定	H.23.4.19
	第5章　会計		
5－1	弓削商船高等専門学校宿舎貸与規則	S.49.4.1制定	H.21.11.19
5－2	弓削商船高等専門学校防火管理規則	H.17.1.18廃止制定	H.19.1.18

資料 11－１－②－１

5－3	(欠番)弓削商船高等専門学校金庫管守規程	H.17.1.18廃止制定	H.20.9. 1廃止
5－4	弓削商船高等専門学校債権管理事務取扱要領	S.63.4.1制定	H.22.4. 1
5－5	(欠番)弓削商船高等専門学校寄附金事務取扱規則	H17.1.18廃止制定	H.20.9. 1廃止
5－6	(欠番)弓削商船高等専門学校授業料等徴収事務取扱要領	H.1.4.1制定	H.22.4. 1廃止
5－7	弓削商船高等専門学校被服貸与規則	S.55.4.1制定	H.21.11.19
5－8	(欠番)弓削商船高等専門学校における大型設備の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項	H.3.8.20制定	H.20.9. 1廃止
5－9	(欠番)弓削商船高等専門学校における大型設備の調整に係る仕様策定等に関する取扱要項実施細目	H.3.8.20制定	H.20.9. 1廃止
5－10	弓削商船高等専門学校青雲館使用規則	H.8.2.27制定	H.19.1.18
5－11	弓削商船高等専門学校における購入物品の機種選定に関する取扱要項	S.59.12.20制定	H.19.1.18
5－12	弓削商船高等専門学校野球場照明設備並び施設開放管理センター使用規程	S.55.4.1制定	H.19.1.18
5－13	弓削商船高等専門学校野球場照明設備並び施設開放管理センター使用者心得	S.55.4.1制定	H.19.1.18
5－14	弓削商船高等専門学校学術論文誌投稿取扱要項	S.62.2.25制定	H.17.1.18
5－15	弓削商船高等専門学校毒物及び劇物取扱要領	H17.1.18廃止制定	
5－16	(欠番)弓削商船高等専門学校出納役等の役職指定に関する規則	H.9.3.21制定	H.22.4. 1廃止
5－17	(欠番)弓削商船高等専門学校出納員の指定に関する要項	H16.7.5制定	H.22.4. 1廃止
5－18	(欠番)弓削商船高等専門学校会計機関の補助者の指定に関する規程	H16.7.5廃止制定	H.22.4. 1廃止
5－19	弓削商船高等専門学校物品管理役等の役職指定に関する規則	H16.7.5制定	H.19.1.18
5－20	(欠番)弓削商船高等専門学校旅費規則	H20.4.1廃止	H20.4.1廃止
5－21	(欠番)弓削商船高等専門学校在勤地等旅費支給基準	H20.4.1廃止	H20.4.1廃止
5－22	(欠番)弓削商船高等専門学校在勤地等旅費支給事務の取扱	H20.4.1廃止	H20.4.1廃止
5－23	弓削商船高等専門学校共同研究実施規則	H17.11.28廃止制定	
5－24	弓削商船高等専門学校受託研究実施規則	H17.11.28廃止制定	
5－25	弓削商船高等専門学校建設コンサルタント選定委員会要項	H17.1.18制定	H.19.1.18
5－26	弓削商船高等専門学校取引金融機関選考要領	H17.1.18制定	H.19.1.18
5－27	弓削商船高等専門学校公正入札調査委員会要項	H17.1.18制定	H.19.1.18
5－28	弓削商船高等専門学校競争参加資格審査委員会要項	H17.1.18制定	H.19.1.18
5－29	(欠番)弓削商船高等専門学校支払日の指定に関する要項	H17.1.18制定	H.20.9. 1廃止
5－30	弓削商船高等専門学校発注工事請負契約の保証に関する取扱規則	H17.1.18制定	H.18.4. 1
5－31	弓削商船高等専門学校不動産管理規則	H17.1.18廃止制定	H.21.11.19
5－32	弓削商船高等専門学校不動産貸付取扱要領	H17.1.18廃止制定	
5－33	弓削商船高等専門学校施設管理運営委員会規則	H17.1.18制定	H.21.11.19
5－34	弓削商船高等専門学校知的財産権取扱規則	H17.1.18廃止制定	H.19.1.18
5－35	弓削商船高等専門学校会計実地監査規則	H17.1.18制定	
5－36	弓削商船高等専門学校教育研究施設の有効活用に関する要項	H17.1.18制定	H.19.1.18
5－37	弓削商船高等専門学校レーダーシミュレーターを利用した受託研修取扱要領	H.17.12.15制定	
5－38	欠番　（弓削商船高等専門学校預り金事務取扱要項）	H20.3.17廃止	H20.3.17廃止
5－39	弓削商船高等専門学校科学研究費補助金取扱規程	H19.5.16制定	
5－40	弓削商船高等専門学校科学研究費補助金間接経費取扱要領	H19.5.16制定	
5－41	弓削商船高等専門学校総合評価審査委員会設置規則	H19.5.28制定	H.20.6.30
5－42	弓削商船高等専門学校物品購入等契約公正入札調査委員会要項	H19.5.29制定	
5－43	弓削商船高等専門学校留学支援基金取扱規則	H19.7.18制定	
5－44	弓削商船高等専門学校における競争的資金の間接経費使用等に関する方針	H19.10.18制定	
5－45	弓削商船高等専門学校における施設の効率的利活用に関する規則	H.20.3.17制定	
5－46	弓削商船高等専門学校の全学的共用スペースの運用に関する内規	H.20.3.17制定	
5－47	弓削商船高等専門学校旅費支給基準	H20.4.1制定	H.23.2.2
5－48	弓削商船高等専門学校における会計機関の補助者等の指定について	H.22.4. 1制定	
5－49	弓削商船高等専門学校会計機関の事務の一部委任について	H.22.4. 1制定	

（出典：総務課）

資料 11－１－②－２

平成２２年度第１１回運営委員会議事概要

日　　時　　平成２３年２月１６日（水）１６：２０～１７：００
場　　所　　第２会議室
出 席 者　　１６名（別紙のとおり）
議　　題

審議に先立ち，校長から，報告事項３「環境報告書（平成２１年度版）について」の説明を行うため，環境マネジメントWG座長の高木教員に出席依頼しているとの説明があった。

（審議事項）

１．規則の制定及び廃止について
(1) 「弓削商船高等専門学校ＦＤ委員会規則」の制定について
教務主事から，議題資料１に基づき，「弓削商船高等専門学校ＦＤ委員会規則」の制定について説明があり，原案どおり了承された。また，規則の制定に伴う既存規則の廃止についても原案どおり了承された。
(2) 「弓削商船高等専門学校初年次教育支援室規則」の制定について
教務主事から，議題資料２に基づき，「弓削商船高等専門学校初年次教育支援室規則」の制定について説明があり，原案どおり承認された。

２．平成２３年度学事予定について
教務主事から，議題資料３に基づき，平成２３年度学事予定について説明があり，審議の結果，推薦入学試験願書受付を１月１１日（水）までに修正することで承認された。

３．平成２３年度一斉休業について
事務部長から，議題資料４に基づき，平成２３年度一斉休業について説明があり，原案どおり承認された。なお、商船学科長より尾道みなと祭は一斉休業中であるが，学事行事の一環であるので協力依頼があった。

４．兼業について
校長から，議題資料５に基づき，電子機械工学科　中山准教授の福山大学での非常勤講師の委嘱について説明があり，原案どおり了承された。

（報告事項）

１．平成２３年度校内役職教員等について
校長から，報告資料１に基づき，平成２３年度校内役職教員等について，報告があった。
なお，図書館長の任期について現行では１年であるが，他の役職者任期に併せ２年にすることの提案があり、図書委員会で審議することとなった。

２．平成２２年度電子機械工学科・情報工学科卒業生の表彰について
教務主事及び学生主事から，報告資料２に基づき，平成２２年度電子機械工学科・情報工学科卒業生の表彰について，報告があった。

（出典：平成 22 年度第 11 回運営委員会）

資料 11－１－②－３

○弓削商船高等専門学校事務組織及び事務分掌規則

制　　定　平成19年１月18日
最終改正　平成25年３月19日

（目的）

第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第５条，独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第10条及び弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）学則第11号の規定に基づき，本校の事務組織及び所掌事務について定めることを目的とする。

（事務組織）

第２条　本校に事務部を置く。

第３条　事務部に総務課，学生課，企画広報室を置く。

第４条　事務部に事務部長を置く。

２　事務部長は，校長の命を受け，事務部の事務を掌理する。

第５条　課に課長を置く。

２　課長は，上司の命を受け，課の事務を処理する。

第６条　課に課長補佐又は専門員を置くことができる。

２　課長補佐又は，専門員は，課長の職務を補佐し，課の事務を処理する。

第７条　企画広報室に室長を置く。

２　室長は，上司の命を受け，室の事務を処理する。

第８条　総務課，学生課及び企画広報室に係を置く。

２　係にそれぞれ係長を置く。

３　係長は，上司の命を受け，係の事務を処理する。

４　係に主任を置くことができる。

５　主任は，上司の命を受け，係，課又は室の事務を処理する。

６　係員は，上司の命を受け，係，課又は室の事務を処理する。

（所掌事務）

第９条　総務課に次に掲げる係を置く。

総務係
人事係
財務係
契約係
施設係

２　課長補佐又は専門員は課長を補佐し，総務課関係事務の統括，調整に関する事務をつかさどる。

３　総務係は，次の事務をつかさどる。

（１）　事務部の所掌事務に関し，総括し，及び連絡調整すること。

（２）　機密に関すること。

（３）　学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。

（４）　公印の管守に関すること。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集３－１抜粋）

資料 11－１－②－４

５．事務組織の現状と課題

独立行政法人整理合理化計画の中で国立高等専門学校機構の「組織の見直し」【組織体制の整備】において、事務職員については、本部における資金管理等業務の一元化や各学校事務部における２課体制への移行を確実に進めることにより、削減する。と閣議決定（平成１９年１２月２４日）されている。

それに先立ち、

高専機構としても、中期計画（年度計画）の中で、各高専が行っている各種業務について、５５校が一つの法人にまとまったスケールメリットを生かし、事務の簡素化・効率化を行うため、企画委員会の下に設置した業務改善委員会における検討結果に基づき、各種業務の一元化を計画的に実施された。

事務組織及び業務等の見直しについて検討を行っていた弓削商船高等専門学校事務連絡会の下の「事務組織等検討ワーキンググループ」において、庶務課と会計課を一緒にして総務課を設置することが検討された。今後、取り組むべき企画及び広報を重要であると考え、企画広報室を設置し、庶務課が行っていた情報、共同研究、図書、広報、中期計画、運営諮問会議、国際交流、公開講座関係などを担当することとした。

その結果、事務部を総務課、学生課及び企画広報室として平成１９年４月１日に改組し、２課１室の組織体制と事務組織が再編された。平成２０年４月１日には、事務部に技術室が設置され、２課２室となった。さらに平成２１年１０月１日事務部の技術室が技術支援センターに改組され、２課１室となった。

組織としての課題については、事務組織の業務改善、集約化及び簡素化をして活性化に向けた取り組みを行う必要がある。

企画広報室においては、平成２５年度が機関別認証評価自己評価書の受審年度であり、通常業務が相当量増えることが予想され、平成２３年度から派遣職員１名を配置して準備等対応していく予定である。

また、広報については、広報主事を中心として行っているが学生課入試の広報として学生募集関係（学校説明会、入試ＰＲ、オープンキャンパス、学校見学会、出前授業など）、企画広報室の広報関係（学校要覧、商船だより、図書館だより、ホームページ、公開講座など）、その他（各所掌担当）と別となっていることから、体制の見直しを検討する必要がある。

各課等の所掌事務は次のとおり。

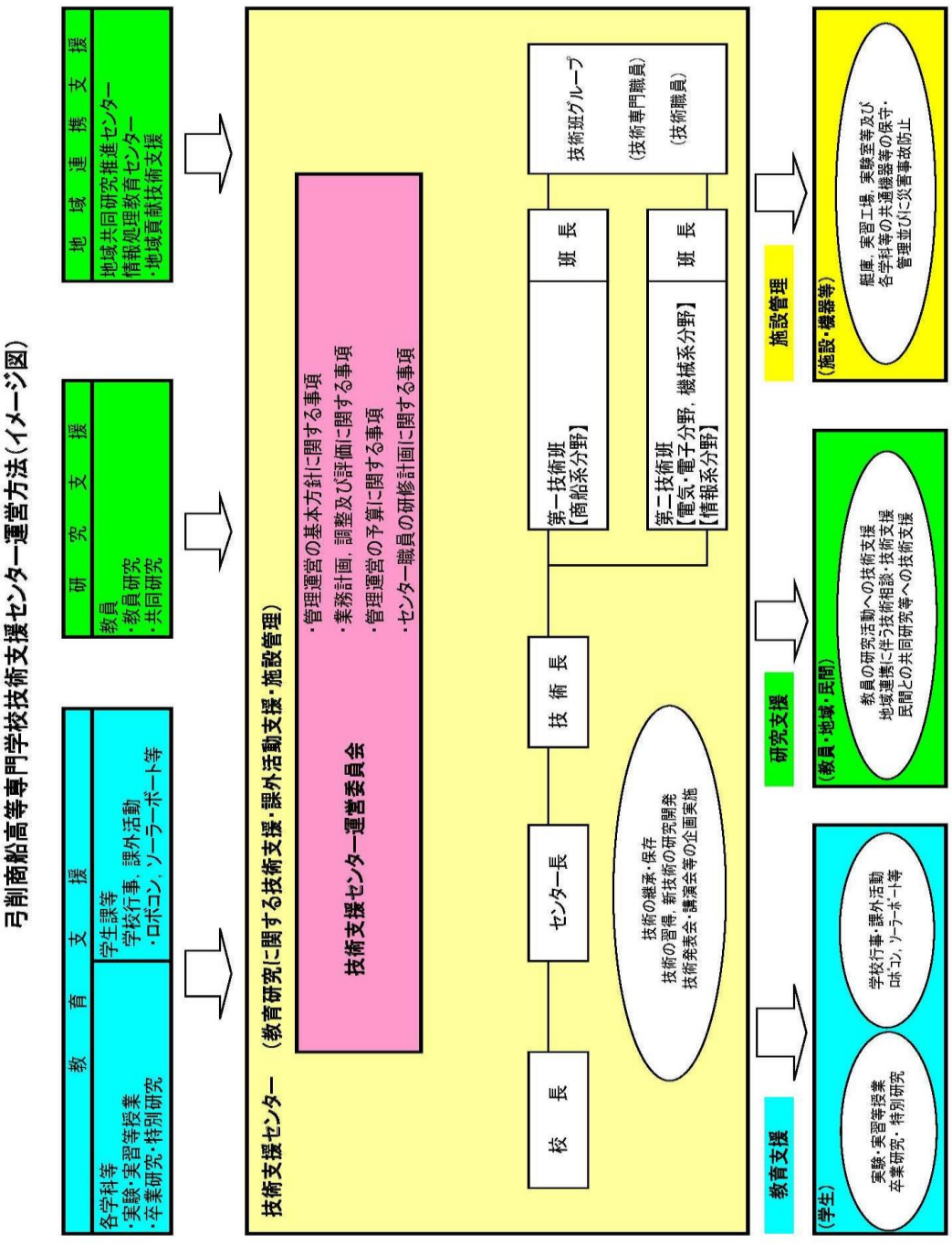
総務課

総務係：事務部の所掌事務に関し総括して連絡調整、機密に関すること、規則等の制定・改廃、公印の監守、諸行事、会議、文書の接受・発送等、労働時間、諸記録の編纂及び保存、出張、校内警備、調査統計報告など。

人事係：定員、教職員の任免・解雇・懲戒及び服務、給与及び諸手当、人事記録、研修、健康管理・福利厚生、勤務評定、共済組合の長期給付、退職手当、災害補償、兼業、労働組合、諸証明、調査統計報告など。

（出典：平成 22 年度自己点検・評価報告書Ｐ．29）

資料 11－１－②－５

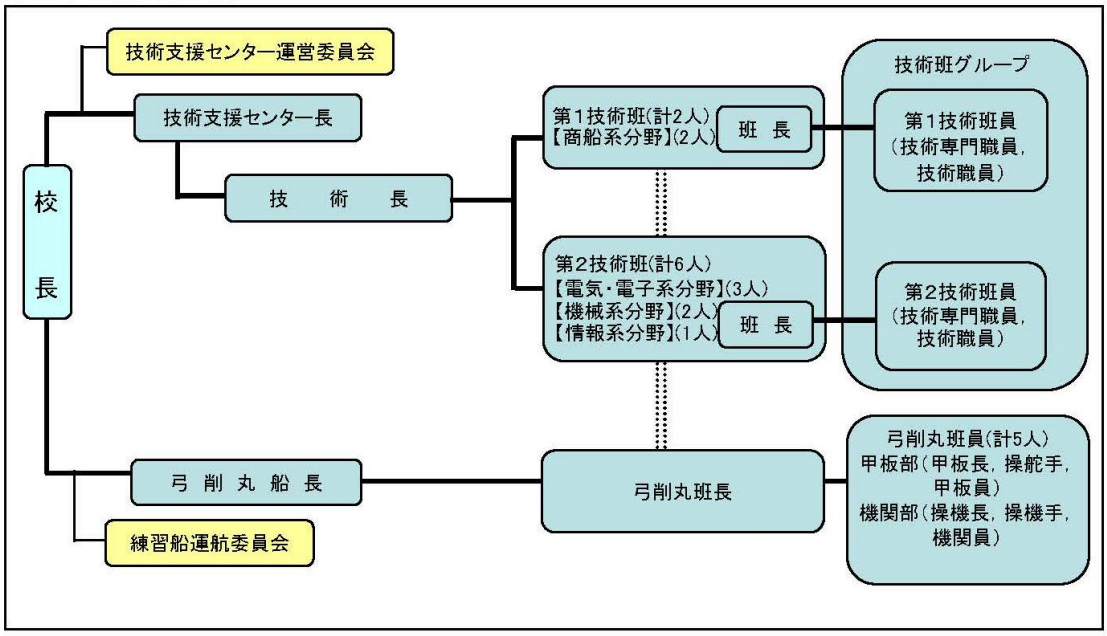


（出典：技術支援センター）

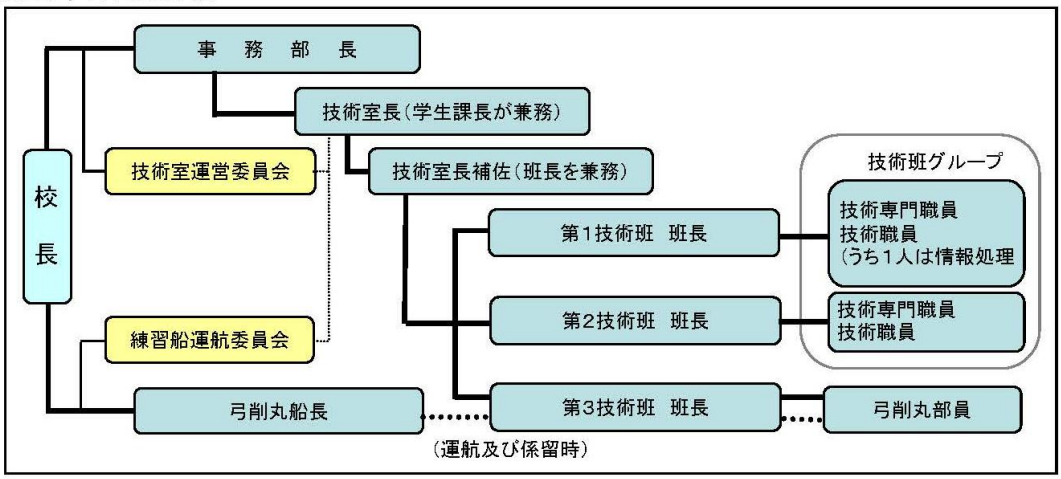
資料 11－１－②－６

技術職員（施設系を除く）の組織化について

（平成21年10月１日から）



（平成20年４月１日から）



（出典：技術支援センター）

資料 11－１－②－７

弓削丸船長	弓削丸班長	弓削丸班	財務係長

平成 ２３ 年 ６月 １６日
練習船弓削丸
船 長　　永本 和寿

運航年月日	平成 ２３ 年 ６月 １１日（土）～ ６月 １５日（水）								
運航名目	商船学科第５学年航海実習					運航類系	1	運航日数	4
航海時間	2-04-50	航海距離	４０７	燃料消費	6,366	運航代表者	多田		
対象者及び員数	乗組員９名・教職４名・学生３８名								

運 航 ス ケ ジ ュ ー ル

６／１１　０９２０　弓削発
６／１２　１３０５　博多港着
６／１４　１０４５　博多港発
６／１５　１２５０　弓削着

運航の内容（実習・実験・研修・行事等）の概要

N系
・航海当直法の習熟
・入出港準備作業及び操船法習得
・海上交通法規習熟（来島海峡、関門海峡航路見学）
・ログブックライティング

E系

運 航 に 関 す る ま と め

・積極的に取り組んでいる姿勢が非常に良かった。
・後期からの訓練所実習に向け、精神的に準備が整った感じを受けた。（N系）
・
・

備　　考

乗組員：永本、松永、豊田、村上英正、中根、青木、大堀、小林、村上英二
教職員：多田、村上（知）、湯田、中村

- 13 -

（出典：弓削丸年報平成 23 年度版Ｐ．13）

資料 11－１－②－８

○弓削商船高等専門学校危機管理規則

制　　定　平成23年５月26日

（目的）

第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）において発生することが予想される様々な事象に伴う危機に組織的に迅速かつ的確に対処するため，本校における危機管理体制及び危機事象発生時の基本的な対処方法等に関し，必要な事項を定めることにより，本校の学生，教職員（再雇用教職員，非常勤教職員を含む。以下同じ）及び近隣住民（以下「学生等」という。）の安全並びに本校教育研究活動の確保を図るとともに，本校が社会的な責任を果たすことを目的とする。

（定義）

第２条　この規則において，次の各号に掲げる用語の意義は，それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1)　危機管理　次条に定める危機事象の原因と状況を把握，予知又は分析し，その事象によってもたらされる事態を想定することにより，被害や影響を回避又は軽減し，最小限に抑制するための適切な対応を行うことをいう。

(2)　部局　総合教育科，各学科，専攻科，練習船弓削丸，図書館，各センター及び事務部をいう。

(3)　部局長　前号に規定する部局の長をいう。

（対象とする事象）

第３条　この規則において対象とする事象（以下「危機事象」という。）は，次の各号のいずれかに該当するものとする。

(1)　教育研究活動の遂行に重大な支障のある事態

(2)　学生等の安全に係わる重大な事態

(3)　施設管理上の重大な事態

(4)　社会的影響の大きな事態

(5)　本校に対する社会的信頼を損なう事態

(6)　前各号と同等以上の重要な事態

（校長等の責務）

第４条　校長は，本校における危機管理を統括し，その充実に努めなければならない。

２　副校長は，校長を補佐し，本校における危機管理の充実に努めなければならない。

３　次条に定めるリスク管理員は，他部局と連携を図りつつ，当該部局における危機管理の充実に努めなければならない。

４　校長，副校長及びリスク管理員は，法令及び本校の学内規則に従い，学生等が本校に起因する危機により被害等を被ることがないよう，常に配慮しなければならない。

５　校長，副校長及びリスク管理員は，危機管理に当たり，学生等に対し必要な情報提供に努めなければならない。

６　教職員は，その職務の遂行に当たり，危機管理に努めなければならない。

（リスク管理員）

第５条　各部局における危機管理の責任者としてリスク管理員を置く。

２　リスク管理員は，次に掲げる者をもって充てる。

(1)　部局長

(2)　その他校長が必要と認めた者

３　前項第２号のリスク管理員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，リスク管理員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（リスク管理室の設置）

第６条　本校に，危機管理を総合的かつ計画的に推進するため，リスク管理室を置く。

（リスク管理室の業務）

第７条　リスク管理室は，次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　危機事象への対処に関すること。

(2)　危機管理に関する情報の収集分析及び周知に関すること。

(3)　危機管理マニュアル等の策定並びに周知に関すること。

(4)　危機管理に関する教育，研修，訓練等に係る企画，立案及び実施に関すること。

(5)　危機管理対策の評価及び見直しに関すること。

(6)　緊急時の組織体制及び情報伝達方法の整備並びに周知に関すること。

(7)　危機管理に関し，機構本部リスク管理対策本部と相互連携を図ること。

（リスク管理室の組織）

第８条　リスク管理室は，次に各号に掲げる室員をもって組織する。

(1)　校長

(2)　副校長

(3)　事務部長

(4)　各課長及び企画広報室長

(5)　その他校長が必要と認めた者

２　前項第５号の室員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（リスク管理室長）

第９条　リスク管理室に室長を置き，前条第１項第１号に掲げる室員をもって充てる。

２　室長は，リスク管理室の業務を掌理する。

３　室長に事故あるとき，室長が指名した室員が，その職務を代行する。

（リスク管理室員以外の者の出席）

第10条　リスク管理室長が必要と認めたときは，その都度リスク管理室員以外の者を会議に出席させ，当該事項について意見を述べさせることができる。

（通報窓口）

第11条　本校における危機事象の通報窓口は，総務課とする。

（危機事象に関する通報等）

第12条　学生及び教職員は，緊急に対処すべき危機事象が発生又は発生するおそれがあることを発見したときは，直ちに総務課に通報しなければならない。

２　前項の通報を受けた総務課は，直ちに関係部局のリスク管理員に連絡するとともに，他の学内規則等において当該危機事象発生の通報について定めている場合は，当該学内規則等に従い，直ちに連絡するものとする。

３　総務課及び前項の連絡を受けたリスク管理員は，当該危機の状況を確認の上，直ちにリスク管理室長に連絡するとともに，緊急に必要な措置を講じた場合においては，その旨も報告するものとする。

４　前項の連絡を受けたリスク管理室長は，当該危機事象の対処について他の学内規則等に定めがない場合は，関係部局のリスク管理員と対処方針等を協議するものとする。ただし，第14条第１項に該当する場合を除く。

５　前項の協議により対処方針等を決定したときは，次条により危機対策本部を設置する場合を除き，リスク管理室が対処に当たるものとする。

（対策本部の設置）

第13条　校長は，危機事象の対処のために必要と判断する場合は，当該危機事象に係る危機対策本部（以下「対策本部」という。）を設置するものとする。

２　対策本部は，次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1)　校長

(2)　副校長

(3)　事務部長

(4)　関係部局のリスク管理員

(5)　各課長及び企画広報室長

(6)　その他校長が必要と認めた者

３　対策本部に本部長を置き，前項第１号の者をもって充てる。

４　本部長は，対策本部の業務を総括する。

５　対策本部に本部長を補佐するため副本部長を置き，第２項第２号の者のうちから校長が指名する者をもって充てる。

６　対策本部の事務は，総務課が主管し，関係課・室から事務部長の指名する者が参画する。

７　本部長は，危機事象への対処により，対策本部の役割を完了したと判断したときは，対策本部を解散するものとする。

（対策本部の権限）

第14条　対策本部は，本部長の指揮の下に，危機事象に迅速に対処しなければならない。

２　学生及び教職員は，対策本部の指示に従わなければならない。

３　対策本部は，危機事象の処理に際し，緊急を要する場合には，本校の学内規則等により必要とされる手続きの省略又は当該手続きを対策本部が行うことができる。対策本部は，当該手続きを省略した場合においては，危機事象の対処の終了後に，必要な報告をしなければならない。

（機構本部リスク管理本部等との連携）

第15条　対策本部は，危機管理を総合的かつ有機的に実施するため，機構本部リスク管理本部と相互連携を図るものとする。必要に応じて関係行政機関及び保護者等と連携して対応するものとする。

（部局における危機への対処等）

第16条　リスク管理員は，当該部局のみに係る危機事象であって当該部局限りで対処することが適切と判断する危機事象については，その内容，対処方針，対処状況等をリスク管理室長に報告し，了解を得るものとする。

２　リスク管理員は，当該部局のみに係る危機事象であっても，本校として対処すべきものと判断する場合は，校長に対し対策本部の設置を申し出るものとする。

（校長が不在の時の措置）

第17条　校長が出張等により不在の場合は，校長が指名する副校長が，この規定に基づき，危機管理に対処するものとする。

（事務）

第18条　危機管理に関する事務は，総務課が行う。

（秘密保持の義務）

第19条　本校の危機管理又は危機対策に関する業務に従事する教職員は，その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も，同様とする。

（雑則）

第20条　この規則に定めるもののほか，危機管理に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則

１　この規則は，平成23年６月１日から施行する。

２　この規則施行後最初に任命される第５条第２項第３号の管理員の任期及び第８条第１項第４号の室員の任期は，第５条第３項及び第８条第２項本文の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集
２－42 抜粋）

資料 11－１－②－９

弓削商船高等専門学校危機管理マニュアル

第１章　総則

１．目的

この危機管理マニュアルは，弓削商船高等専門学校危機管理規則に基づき，本校の学生，教職員及び近隣住民に被害が及ぶおそれがある様々な危機事象を未然に防止し，また，発生した場合に被害を最小限にくい止めることを目的とする。

２．定義

このマニュアルにおける用語の定義は，このマニュアルで定めるものを除き，弓削商船高等専門学校危機管理規則の定めるところによる。

第２章　危機管理とは

１．危機管理の基本

本校において発生する様々な危機事象の未然防止と，実際の危機事象発生時に，校長，副校長，リスク管理員及び当該担当者が迅速にかつ的確に対処することにより，危機事象に係る学生・教職員の安全を確保し，さらに本校が被るダメージを最小限にとどめることとする。

２．行動の基本

（１）本校は，危機管理に限らず，いかなる場合でも法律・規則を遵守し，社会的良識と常識に基づいた行動を行う。

（２）本校の教職員は，常に危機事象を敏感に察知し，危機事象の発生を未然に防止するよう努める。

（３）危機事象が発生した場合は，全教職員が迅速に行動し，本校が受けるダメージを最小限にとどめる活動を迅速かつ的確に行うものとする。

（４）危機事象に際しては，時間の経過が重要であり，初期の段階で何よりも迅速で的確な対応を最優先させる。

（５）危機管理は常に最悪の事態を想定した対策を立案し準備すること。

（６）悪い情報こそ重要情報であることを認識する。悪い情報を入れないことは，危機事象発生時の状況判断を誤らせ，事態をより悪化させ，ひいては，本校に重大なダメージを与えることとなる。

第３章　危機管理体制

１．危機事象の通報

（１）本校における危機事象の発生を予知したとき及び危機事象が発生した場合の第一報は，総務課長（総務課総務係）へ連絡を入れ，連絡を受けた総務課長（総務課総務係）は当該部局等のリスク管理員に連絡し指示を仰ぐ。

（２）勤務時間外や休日であっても，本校にダメージを与えると想定する事態・情報は，連絡を行う。

（３）電話連絡以外にも，ＦＡＸ，Ｅメール等で危機事象内容を文章化して報告する。

（４）真近の上位者に連絡がつかない場合は，迅速性を優先して，その上の上位者に連絡する。なお，連絡がつかなかった者については，事後報告を必ず行う。

２．危機事象の評価

リスク管理室に集められた「危機情報」に基づき，リスク管理室長は，室員及び関係部局のリスク管理員と協議し危機事象の評価（以下「リスクランク評価」という。）を行い，危機対策本部の設置について検討する。

－リスクランク－

Ａ　本校の教育研究活動等に与える影響が大きい。（所轄官庁，警察等の捜査，処分及び訴訟等が起こり得る可能性が大きい，マスコミによる取材・報道の可能性が高い）

Ｂ　Ａランクに比べると本校の教育研究活動等に与える影響度は軽微であるが，対処の仕方によってはＡランクと同等になる可能性がある。

Ｃ　本校の教育研究活動等に与える影響はあるが，通常の業務範囲内での対策で対応できるもの。

３．危機対策本部の設置

「リスクランク評価」で，リスクランクＡ及びＢに該当すると判断された場合には，校長は，危機事象の対処のため速やかに「危機対策本部」を設置し，危機事象への対応を行う。

なお，リスクランクＣの場合は，通常の業務内で対応するが，担当部局は，部局対策本部を設置し対応するとともに，できる限り綿密にリスク管理室との連絡・調整・報告を行う。

第４章　危機事象への対応

１．想定されるリスク

	項　目	想定されるリスク内容
教育研究面	入試リスク	出題ミス，問題漏洩，試験実施・採点ミス
	教務リスク	履修指導，成績管理，実習中の事故，保護者対応
	学生リスク	学生の事件，事故
	学寮リスク	過剰指導，食中毒
	研究リスク	業績の詐称，論文の盗用，研究成果の捏造
	その他	（その他教育研究活動面で発生するリスク）
管理運営面	セクハラ，アカハラ	相談
	情報リスク	不正侵入・利用，個人情報漏洩，データ改ざん，サービス妨害
	労務リスク	服務違反，労使紛争，教員指導
	安全衛生リスク	労災事故，伝染病，毒劇物・放射線取扱
	財務リスク	不正経理
	広報リスク	記者会見での虚偽・不適切発言
	災害リスク	風水害，震災，火災，高波
	その他	船舶欠航（その他管理運営面で発生するリスク）

２．個別マニュアルの整備

（１）リスク管理室は，本マニュアル及び学内規則等で定める事項のほかに，本校で発生する様々な危機事象に対応するため必要に応じて個別のマニュアルを策定する。

（２）個別マニュアルは，リスク管理室と関係する部局のリスク管理員と協議・調整の上，策定する。

（３）個別マニュアルは，個別の危機事象に関連する法令等の改訂，危機事象終息時の分析・評価で不足・不備が判明した場合には，原則として見直しを行う。

３．マニュアル外の危機事象への対応

（１）本マニュアル，学内規則等及び個別マニュアルによって対処出来ない危機事象が発生した場合は，リスク管理室又は危機対策本部において対応策を検討する。

（２）リスク管理室は，危機事象終息後の分析・評価によって，関係する部局のリスク管理員と個別マニュアルの策定について協議を行う。

（出典：弓削商船高等専門学校危機管理マニュアル）

資料 11－１－②－10

平成２３年度上島町防災教育セミナー

上 島 町 消 防 本 部

平成２３年度上島町防災教育セミナー

１．目　的　　近い将来予想される南海地震に備え、防災教育セミナーを通じて、防災意識の啓発を行うことを目的とする。

２．日　時　　平成２３年１０月２０日（木）１４時２０分～１６時２０分
開催場所　　弓削商船高等専門学校

３．対象者　　弓削商船高等専門学校１年生及び教員

４．指導員　　消防職員、防災士

５．実施内容
○東日本大震災における消防緊急援助隊での活動および南海地震発生時の対応について（発表）

○濃煙体験

○消火器取扱訓練

○救助法・搬送要領訓練

○応急手当訓練

平成２３年度上島町防災教育セミナー次第

１．開会挨拶　　消防長
14：20～14：25

２．東日本大震災における消防緊急援助隊での活動
および南海地震発生時の対応について

上島町消防本部　小林俊則消防司令補
14：25～15：15

休　　憩
15：15～15：20

３．防災体験
①濃煙体験
②消火器取り扱い訓練
③救助法・搬送法
④応急手当訓練
15：20～16：10

４．学校長挨拶
16：10～16：15

５．閉会挨拶　　消防署長

（出典：総務課）

観点 11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では，自己点検評価委員会において，教育研究，組織及び管理運営並びに施設・設備の状況について，毎年，適切な評価項目を決めて，自己点検・評価を行い，報告書を作成している（資料 11－２－①－１～３）。自己点検・評価報告書は，ウェブサイトに掲載し，高専機構本部，関係大学・高専，近隣の教育委員会等へ送付し公表している（資料 11－２－①－４，５）。

また，中期計画については，高専機構の中期計画の変更に対応させて年度ごとに計画を策定し，実施状況を取り纏め，外部有識者によって組織されている運営諮問会議での報告及びウェブサイト掲載により公表している（資料：11－２－①－６）。第１期中期計画５年分については，中期計画推進室が中心になって自己評価を行い，実施報告書を作成した（資料 11－２－①－７）。同報告書は，学内外へ発送するとともに，運営諮問会議で諮問事項として報告し，諮問委員による議論と提言を受けた（資料 11－２－①－８）。

高等専門学校機関別認証評価については，１回目の審査を平成 18 年度に受審し，自己評価書及び評価結果を本校ウェブサイトにより公表している（資料 11－２－①－９）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，自己点検評価委員会において，評価項目を策定し，不断に自己点検・評価を実施してきている。自己点検・評価報告書は，ウェブサイトへの掲載の他，関係機関等へ送付し公表している。

また，中期計画については，年度計画を策定し，毎年，実施状況を取り纏め，運営諮問会議での報告及びウェブサイト掲載により公表している。中期計画５年分については，自己評価を含む実施報告書を作成し，公表するとともに，運営諮問会議で議論と提言を受けた。

高等専門学校機関別認証評価は，平成 18 年度に第１回を受審し，自己評価書及び評価結果をウェブサイトに掲載し公表している。

以上のことから，自己点検・評価が本校として策定した基準及び項目に基づいて，学校の活動の総合的な状況に対して行われ，その結果が適切に公表されている。

資料 11－２－①－１

○弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則

制　　定　平成４年５月14日
最終改正　平成23年12月22日

（趣旨）

第１条　この規則は，弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第16条第２項の規定に基づき，弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議し，本校の教育水準の向上を図り，本校の目的及び社会的使命を達成することを目的とする。

(1)　自己点検評価の実施方法等に関する事項
(2)　自己点検評価の項目の設定に関する事項
(3)　自己点検評価の結果の活用に関する事項
(4)　その他自己点検評価の実施に関する事項

（組織）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　校長
(2)　各主事
(3)　各学科長，総合教育科長及び専攻科長
(4)　図書館長
(5)　情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
(6)　各学科及び総合教育科から選出された教員各１名
(7)　事務部長
(8)　技術支援センター長

２　前項第６号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。

２　委員長は，委員会を主宰する。

３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－２抜粋）

資料 11－２－①－２

平成２４年度 第１回自己点検評価委員会議事要旨

日　　時　　平成２４年９月１１日（火）１６：２５～１６：５０
場　　所　　第２会議室
出 席 者　　１５名（別紙委員名簿のとおり）陪席者　企画広報室長、企画係長
議　　題

（審議事項）
１．平成２３年度自己点検・評価の項目について
校長から、本校の自己点検・評価は、「本校の現状と課題」と称して学校全体の点検・評価を行っており、以降はポイントを絞った項目で実施している。今回については、来年度受審する認証評価に関連した項目も取り入れたいと考えている旨の説明があった。
続いて教務主事から、議題資料１－１に基づき、点検・評価項目について次のような説明があった。
○　今年度は特別な項目として「高専間連携」について取り上げた。
○　「管理運営」については、認証評価の基準１１の項目でもあることから、整備しておきたい。
点検・評価項目について審議した結果、原案どおり了承された。

（出典：平成 24 年度第１回自己点検評価委員会）

資料 11－２－①－３

自己点検評価項目一覧

平成21年度	1. 第6回運営諮問会議の報告 2. 平成21年度中期計画 3. 国際交流活動 4. 学生指導関係 5. 学生寮関係 6. 広報活動関係 7. 地域共同研究推進センター 8. 情報処理教育センター 9. 技術支援センター 10. 施設・設備
平成22年度	1. 第7回運営諮問会議（平成22年度）の報告 2. 教育方針 3. 学科等の教育目標及び現状と課題 （1）総合教育科（教養教育） （2）商船学科 （3）電子機械工学科 （4）情報工学科 4. 専攻科の教育目標及び現状と課題 （1）海上輸送システム工学専攻 （2）生産システム工学専攻 5. 事務組織の現状と課題 6. 施設・設備
平成23年度	1. 第8回運営諮問会議（平成23年度）の報告 2. 平成23年度中期計画と実施状況 3. 高専間連携について （1）四国地区高専連携・交流事業 （2）瀬戸内3商船高専連携プロジェクト （3）国際交流の連携 （4）全国5商船高専連携プロジェクト （5）高専間連携広報活動 （6）瀬戸内3商船高専入試連携 （7）四国地区高専地域イノベーションセンター （8）四国地区高専学生相談室連絡協議会 （9）高専間人事交流 （10）高専間連携の今後の課題 4. 管理運営について （1）外部有識者等の意見反映及び第三者評価受審 （2）PDCAシステム及び規則整備 （3）リスク管理 （4）外部の教育資源の活用 （5）管理運営の今後の課題 5. 施設・設備

（出典：企画広報室）

資料 11－２－①－４



（出典：本校ウェブサイト）

資料 11－２－①－５

自己点検・自己評価書送付先一覧

国立高等専門学校機構本部	総務課　御中
東京海洋大学	総務課　御中
神戸大学海事科学部	総務課　御中
長岡技術科学大学	総務部総務課　御中
豊橋技術科学大学	総務部総務課　御中
愛媛大学	経営企画部総務課　御中
広島大学	総務部総務課　御中
新居浜工業高等専門学校　御中	
香川高等専門学校高松キャンパス　御中	
香川高等専門学校詫間キャンパス　御中	
阿南工業高等専門学校　御中	
高知工業高等専門学校　御中	
広島商船高等専門学校　御中	
大島商船高等専門学校　御中	
鳥羽商船高等専門学校　御中	
富山高等専門学校射水キャンパス　御中	
上島町長	上村　俊之　様
今治市立大西中学校長	渡邉　志朗　様
神戸大学名誉教授	杉田　英昭　様
(財)えひめ産業振興財団	専務理事　村上　哲義　様
因島商工会議所会頭	村上　祐司　様
愛媛県立医療技術大学教授	岡田　眞理子　様
上島町教育委員会　御中	
今治市教育委員会　御中	
尾道市教育委員会	因島・瀬戸田地域教育課　御中
尾道市教育委員会　御中	
弓削商船高専後援会長	山下　勝廣　様
弓削商船高専同窓会長	柏木　実　様
(財)えひめ産業振興財団　御中	
愛媛県小中学校長会　御中	

（出典：企画広報室）

資料 11－２－①－６

☆☆高専機構　第2期中期計画／弓削商船高専　平成23年度年度計画及び実施状況、平成24年度年度計画☆☆

	第2期中期計画 （平成21年3月31日　文部科学大臣承認）	平成23年度　年度計画 （弓削商船高等専門学校）	平成23年度実施状況	平成24年度　年度計画 （弓削商船高等専門学校）	対応委員会	担当者	事務担当
	（序文） 独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第30条の規定により、独立行政法人（国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）が中期目標を達成するための中期計画（以下「中期計画」という。）を次のとおり定める。						
	（基本方針） 国立高等専門学校は、中学校卒業後の早い時期から、実験・実習・実技等の体験的な学習を重視したきめの細やかな教育指導を行うことにより、産業界に実践的技術者を継続的に送り出してきており、また、近年ではより高度な知識技術を修得するために4年制を超える卒業生が増加している。 このような国立高等専門学校における教育の特長をさらに伸ばすとともに、本科卒業生の一層の社会的評価を高めるため、以下の観点に基づき各学校の教育実施体制を整備する。	独立行政法人通則法（平成１１年法律第１０３号）第３１条の規定により、平成２１年３月３１日付け２０文科高第８０３９号で認可を受けた独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という）の中期目標を達成するための中期計画（中期計画）に基づき、平成23年度の業務運営に関する計画を弓削商船高等専門学校は次のとおり定める。	独立行政法人通則法（平成１１年法律第１０３号）第３１条の規定により、平成２１年３月３１日付け２０文科高第８０３９号で認可を受けた独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という）の中期目標を達成するための中期計画（中期計画）に基づき、平成23年度の業務運営に関する計画を弓削商船高等専門学校は次のとおり定める。				
1	（１）入学者の受入 ①　各学校の学校PTAなどの会員の協力を得て、本校への理解を深め、本校へのアクセスを図るとともに、進学情報誌を始めマスコミを通じた積極的な広報を行う。	（１）入学者の受入 １　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 １　教育に関する事項	（１）入学者の受入 特色ある教育内容と学校生活を紹介するパンフレットを作成した。また、ホームページを充実させ、本校の魅力を広く発信した。 学校説明会（8回）、オープンキャンパス（2回）、体験入学（1回）を行った。また、本校の教育内容を理解してもらうため、中学校訪問（81回）、個別広報（3回）、バス広告（1社1回）を行った。また、中学校進路説明会に積極的に参加（28回）し、中学校PR活動（311回）を組織的に実施した。 また、保護者協会主催の5商船高専合同進路ガイダンス（横浜市・神戸市・博多市）や地域イベント等（尾道市・今治市）に積極的に参加した。 広報誌「弓削商船」を作成し、本校の教育内容や学生の様子を広く紹介した。 商船の魅力を広く発信するため、ホームページを充実させた。 中学校進路説明会に本校教員を派遣した。	（１）入学者の受入 １　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 １　教育に関する事項 ①　各学校（校種）の学校長などと連携を深め、本校への理解の促進を図るとともに、マスコミ等を通じ広く社会に向けて本校のPR活動を行う。 また、高専創設50周年に向けて、市博と広報活動を行う。	学生募集対策	広報主事	入試係
2	②　中学生に対し、入学説明会、体験入学、オープンキャンパス、学校説明会等を実施する。また、パンフレットを見直し、女子学生の写真を増やすことで、女子学生の本校での学習のイメージをつかみやすくする。	②　中学生に対し、オープンキャンパス（2回）、学校見学会（2回）を実施した。 女子学生の本校での学習のイメージをつかみやすくするために、女子学生を中心にしたパンフレットを作成した。また、本校、広島商船高専、松江高専、宇部高専、都城高専の連携による「高専ブランド足並高専プロジェクト～女性志願者増に係る中学校進路説明会」には女性教員を派遣した。	②　中学生に対し、入学説明会、体験入学、オープンキャンパス、学校説明会等を実施する。また、パンフレットを見直し、女子学生の写真を増やすことで、女子学生の本校での学習のイメージをつかみやすくする。	学生募集対策・入試	教務主事・広報主事	入試係
3	③　中学生やその保護者を対象とする各学校が共通的に活用できる広報資料を作成する。	③　中学及びその保護者を対象としたパンフレットの作成と利活用を促進する。 出前授業一覧を作成する。	商船学科においては、全日本船舶職員協会を中心に商船系5高専共通のパンフレットを作成し活用した。 本校のパンフレットは、中学生及びその保護者から見て学生生活がわかりやすくなるように、内容を改訂した。 行った。	③　中学生及びその保護者を対象としたパンフレットの作成と利活用を促進する。	学生募集対策	広報主事	入試係
4	④　もの づくり に興味と適性を有する者などに国立高等専門学校の教育に ふさわしい人材を幅広く確保できるよう、入試方法の見直しを行う。	④　高専教育にふさわしい人材を適切で広ふさわしい入試方法の改善方策を検討し、実施可能なものから順次導入する。	推薦や適性検査で各教科等の基礎を確認し、商船学科志望者を把握した。学生募集要項の履歴・提出書類を色分けしてミスの未然防止に役立てるように改訂した。	④　高専教育にふさわしい人材を適切で広ふさわしい入試方法の改善方策を検討し、入試方法の見直しを行う。 また、「編入学制度検討WG」及び「推薦入試名称変更検討WG」において、平成25年度入試からの導入に向けて検討する。	入試	教務主事	入試係
5	⑤　入学者の学力水準の維持に努めるとともに、中期目標の達成状況において18,500人以上の入学志願者を確保する。	⑤　学校・学科における学力水準の維持のための取り組みを行う。入学志願者に係る広報活動を行い、入学志願者が減少している場合は入学志願者の増加方策について検討し、実施する。	入学生の学力水準維持及び入学志願者確保のため、推薦入試の志願者増加に努め、各教育会を開いた。また、4年次への編入学志願者の学力水準維持向上のため、平成25年度から募集の学力水準を3教科から5教科へと変更し、推薦入試においては英語・数学・国語の口頭試問を実施し、基礎学力を評価するよう改善している。	⑤　学校・学科における学力水準の維持のための取り組みを行う。入学志願者に係る広報活動を行い、入学志願者が減少している場合は入学志願者の増加方策について検討し、必要する。	入試	教務主事・学科長	入試係

1／7

（出典：企画広報室）

資料 11－２－①－７

第１期中期計画
実施報告書

平成２１年６月
弓削商船高等専門学校

第２部　自己評価の集計と分析

担当委員会または担当者からの自己評価を集計した結果を以下に示す。既に述べたように、担当委員会または担当者からの自己評価は、学校運営に関するＰＤＣＡの推進、並びに第２期中期計画の展開にも大いに影響を及ぼすと考えられ、全教職員の中期計画への認識を一層深めるために実施した。

（全体評価）

Ａ：非常に良く達成できた・・・・２５％
Ｂ：達成できた　　・・・・６１％
Ｃ：達成できなかった　・・・・１２％
Ｄ：全く達成できなかった・・・・　２％

提出された自己評価の一部（１０項目程度）には、明確な判定基準を示さなかったため個人差が認められた。そこで、中期計画推進室会議おいて、管理している実施データ等から総合的に判断することで評価の見直しを行った。全体を通して、「非常に良く達成できた」「達成できた」と評価した項目は約８５％であり、「達成できなかった」「全く達成できなかった」と評価した項目は約１５％であった。このうち、「非常に良く達成できた」の評価は全体の四分の一に達し、教職員は計画の実現に向けて真摯に対応したと感じているといえる。

（分野別評価）

Ⅰ　国立高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標
Ａ：非常に良く達成できた・・・・２７％
Ｂ：達成できた　　・・・・５９％
Ｃ：達成できなかった　・・・・１３％
Ｄ：全く達成できなかった・・・・　１％

Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標
Ａ：非常に良く達成できた・・・・１９％
Ｂ：達成できた　　・・・・６７％
Ｃ：達成できなかった　・・・・１０％
Ｄ：全く達成できなかった・・・・　４％

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標
Ａ：非常に良く達成できた・・・・　０％

1

Ｂ：達成できた　　・・・・８９％
Ｃ：達成できなかった　・・・・１１％
Ｄ：全く達成できなかった・・・・　０％

Ⅳ　社会への説明責任に関する目標
Ａ：非常に良く達成できた・・・・６７％
Ｂ：達成できた　　・・・・　０％
Ｃ：達成できなかった　・・・・３３％
Ｄ：全く達成できなかった・・・・　１％

Ⅴ　その他業務運営に関する重要目標
Ａ：非常に良く達成できた・・・・３３％
Ｂ：達成できた　　・・・・６７％
Ｃ：達成できなかった　・・・・　０％
Ｄ：全く達成できなかった・・・・　０％

分野別の評価ついては、社会への説明責任に関することを除けば、「非常に良く達成できた」「達成できた」とする評価が 85%を上回った。社会への説明責任に関する目標で評価が低かった理由は、評価する項目が少なかったことが影響していると判断した。

2

（出典：第１期中期計画実施報告書表紙，Ｐ．49～51）

資料 11－２－①－８

・　中学生の時期では、まだ進路は明確でない場合が多く、早い時期に商船系・工業系に進む興味付けが大事である。小学生に船舶や工業系の魅力を伝える出前授業等を実施していただきたい。
・　学生募集において様々な取り組みで努力されているが、その中で労力の照準をどこに当てたら最大の効果が上がるかを検討し、取り組んでいただきたい。
・　最近の若者や保護者の考え方を捉えることは大事であり、船舶に乗船したら陸の孤島のようなイメージを払拭するためにも、常に友達と連絡が取れる等の通信の行き届いた船舶などのモデルシップが必要である。
・　学校にとって、学生募集活動は教育・研究と同様に重要なことであることを認識してほしい。

（２）学内施設の効率的な運営方法
・　資格に関する図書の貸出が上位を占めているが、図書購入経費も必要であり、卒業生が使用した資格試験問題集等を後輩のために寄附させるのも一つの方法である。

３．第６回運営諮問会議諮問事項

第６回運営諮問会議において、諮問された事項は以下のとおりである。

１　第１期中期計画のまとめについて

○現状

平成１６年度に独立行政法人国立高等専門学校機構（以下高専機構）が設置され、全国の国立高専を統括する組織となり、文部科学省から５年間の中期目標・計画の作成が指示された。これに対応して各高専においても中期計画を作成し、計画の推進に当たった。

高専機構は、中期計画の完成年度に文部科学省独立行政法人評価委員会より総合評価を受けることになっている。一方、各高専においては、中期計画の点検及び評価について各校で総括することになっている。

本校は、平成１４年度に独立行政法人化対策委員会・同ワーキンググループを立ち上げ、平成１５年度の運営委員会で第１期中期計画が承認された。その後、高専機構の中期計画が遅れて提示されたため、整合性を確認しながら一部修正を加えて始動した。具体的には、平成１６年度に設置された中期計画推進室が統括し、学内委員会及び担当者が関連項目を実施する体制とした。

以上のような経緯を経て、平成１６年度から平成２０年度の５年間に渡る第１期中期計画実施について、内容を点検し、対応委員会及び担当者から提出された評価を中期計画推進室で精査し、「第１期中期計画実施報告書」を作成した。

点検内容は、各担当部署での５年間の実績を蓄積してまとめたものである。評価は、A：非常によく達成できた　B：達成できた　C：達成できなかった　D：全く達成できなかった　の４段階で実施し、中期計画推進室会議で項目ごとに適切な評価となるようにチェック機能を果たした。

評価結果は、A及びBが約８５％であり、C及びDが１５％であった。

４．審議内容

〔第６回運営諮問会議諮問事項について〕

１　第1期中期計画のまとめについて
・　教務主事から、上島町の組織改革に伴う情報の周知方法等について教えてほしいとの要望があり、委員から、上島町は、各支所を独立組織から縦割りの組織に再編し、部長制度を導入した。部長に責任を持たせ、周知徹底しない部署は危機感もないことになり、形から入っても無理なので、現実に実施することとして職員の評価制度を変える仕組みを導入していきたいとの報告があった。
・　情報周知が徹底しないということは、教職員の危機感が足りないのではないか。例えば、来賓の出席している式典等で態度のよくない学生がいる場合に、その時は教員も学生も自分はよくても、後に続く者たちがいるということをぜひ意識していただきたい。
・　一人で複数の役職を兼ねているが、それぞれの業務を行う際に軽重が生じ、ＰＤＣＡサイクルをこなしていくのが難しくなるのではないか。人は命令の背景にある状況の理解、納得で動くという状況の法則があり、上から高圧的に出るのではなく、複数の役職兼務それぞれの背景を納得して一つ一つ押さえていくように地道に周知していくというのが大事であるとの意見があった。これに対し、教務主事から、高専の組織では人数も限られ、役職兼務もやむを得ない状況であり、また、職員室は

り提言いたします。

第１期中期計画のまとめについて

中期計画のように学校全体で取り組む要がある事業に対して、実施項目を定てワーキンググループや推進室を設置、具体的な役割分担を決めて事項の周を図ることを提案します。

２　技術支援センターについて

商船高専の技術支援センターにおいては、船舶等に関する特殊な技術が必要であり、技術職員がそれに対応した資格を取得し、技術支援を行うことは極めて大事です。

技術職員の採用の際には、年齢が若く、できれば社会経験のあることなどを考慮し、採用時の専門技術だけでなく広範な技術の習得のための研修会実施・参加及び資格取得に対して学校として支援することを提案します。

格を取らせている。国家試験受験の１回目のみを全額支援し、合格すれば手当も支給しているとの参考意見があり、技術支援センター長から、本校においても資格取得を支援し、取得した場合は賞与や昇給に反映させることを考えており、広範囲に資格を取得してから技術長になってもらいたいとの報告があった。
・　技術職員を確保するには、年齢が若く、できれば社会経験のある者を採用し、資格がなければ資格取得に支援することが大切である。また、技術職員は学生への技術指導を行う等、準教員的役割で頑張ってもらいたい。



５．提言

第５回会議の提言に対しては、これからも教育研究活動の改善に努力し、さらに発展されることを期待しています。

なお、今回の諮問事項に対しては以下の

（出典：第６回運営諮問会議報告書Ｐ．８，10，12）

資料 11－２－①－９



（出典：本校ウェブサイト，高等専門学校機関別認証評価　自己評価報告書表紙）

観点 11－２－②：　自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の管理運営及び教育活動の状況について審議し，学校運営の一層の発展に資することを目的に，外部有識者による運営諮問会議を平成 16 年に設置し，毎年，運営諮問会議を実施している（資料 11－２－②－１，２）。

平成 16 年度の運営諮問会議においては，本校の総合的な現状と課題について取り纏めた自己点検・評価報告書に基づいて諮問し提言を受けた。平成 21 年度には，第１期中期計画に関して自己評価を行った実施報告書について諮問し，提言及び助言を受けた。平成 24 年度は，平成 23 年度の自己点検・評価結果に沿って，「高専間の連携について」と「学校の管理運営について」を諮問し，参考となる具体的な事例や意見などによって検証が行われている（資料 11－２－②－３～５）。

運営諮問会議の内容については，報告書を作成し，ウェブサイトで公表している（資料 11－２－②－６）。

（分析結果とその根拠理由）

外部有識者による審議組織として，運営諮問会議を設置している。毎年，運営諮問会議において本校の自己点検・評価報告書を配布し，必要と思われる事項について同報告書に沿った内容を諮問し，提言及び助言を受けている。

以上のことから，本校では，自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されている。

資料11－２－②－１

○弓削商船高等専門学校運営諮問会議規則

制　　定　平成16年４月21日
最終改正　平成19年１月18日

（設置）
第１条　弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）に弓削商船高等専門学校運営諮問会議（以下「会議」という。）を置く。
（目的）
第２条　会議は校長の諮問に応じ、本校の管理運営及び教育研究活動の状況について審議し、学校運営の一層の発展に資することを目的とする。
（組織）
第３条　会議は精深な学識を有すると認められる学外の委員をもって組織する。
２　前項の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　会議に委員長を置き、校長が指名する。
２　委員長は、会議を主宰する。
（会議）
第５条　会議は、年１回以上開催する。
（資料）
第６条　会議に必要な資料は、弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会が準備する。
（結果の報告）
第７条　会議は、審議の結果を校長へ報告しなければならない。
（公表等）
第８条　校長は、前条の報告を受けたときは、学内外へ公表するとともに、本校の目的及び社会的使命の達成を図るものとする。
（庶務）
第９条　会議の庶務は、企画広報室において処理する。
（雑則）
第10条　この規則に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

（出典：弓削商船高等専門学校規則集２－26抜粋）

資料 11－２－②－２

運営諮問会議諮問事項一覧

回	日　時	諮問事項
第5回	平成21年3月5日(木) 14:00～17:00	(1)入試業務に関すること ①学生募集について ②試験問題の作成ミスの防止について ③重要書類の安全な保管方法について (2)学内施設の効率的な運営方法 ①保健室 ②図書館
第6回	平成22年3月15日(月) 14:00～16:30	(1)第1期中期計画のまとめについて (2)技術支援センターについて
第7回	平成22年12月22日(水) 14:00～16:20	(1)国際交流活動について
第8回	平成23年12月19日(月) 14:00～16:00	(1)多様化する学生への支援について ①学習支援について ②キャリア支援について ③寮生活の支援について
第9回	平成24年12月5日(水) 14:00～16:00	(1)高専間の連携について (2)学校の管理運営について

(出典:企画広報室)

資料 11－２－②－３

目　　次

１．第８回運営諮問会議（平成２３年度）の報告　・・・・・・・・・・　１
１－１　第７回運営諮問会議（平成２２年度）の提言と本校の対応・・　１
（１）　第７回運営諮問会議（平成２２年度）の提言　・・・・・・・　１
（２）　提言に対する本校の対応　・・・・・・・・・・・・・・・　１
１－２　第８回運営諮問会議（平成２３年度）諮問事項と提言　・・・　７
（１）　第８回運営諮問会議（平成２３年度）諮問事項　・・・・・　７
（２）　審議内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
（３）　提言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
２．平成２３年度中期計画と実施状況　・・・・・・・・・・・・・　１８
３．高専間連携について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
（１）四国地区高専連携・交流事業　・・・・・・・・・・・・・・　１９
（２）瀬戸内３商船高専連携プロジェクト　・・・・・・・・・・・　１９
（３）国際交流の連携　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
（４）商船系５高専連携プロジェクト　・・・・・・・・・・・・・　２０
（５）高専間連携広報活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
（６）瀬戸内３商船高専入試連携　・・・・・・・・・・・・・・・　２２
（７）四国地区高専地域イノベーションセンター　・・・・・・・・　２２
（８）四国地区高専学生相談室連絡協議会　・・・・・・・・・・・　２３
（９）高専間人事交流　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
（10）高専間連携の今後の課題　・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
４．管理運営について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
（１）外部有識者等の意見反映及び第三者評価受審　・・・・・・・　２４
（２）ＰＤＣＡシステム及び規則整備　・・・・・・・・・・・・・　２４
（３）リスク管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５
（４）外部の教育資源の活用　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５
（５）管理運営の今後の課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
５．施設・設備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
（１）愛媛県が施行する一般県道弓削島循環線道路改築事業（県道
拡幅工事）に伴う移転等補償費及び運営費交付金　・・・・　２６
（２）運営費交付金　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６

資料編　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

（出典：平成 23 年度自己点検・評価報告書目次）

資料 11－２－②－４

平成２４年度
第 ９ 回
弓削商船高等専門学校
運営諮問会議
（本 冊）

期　日　　平成２４年１２月５日（水）
場　所　　第１会議室

２．運営諮問会議委員名簿

	氏　名	現　職	分　野
委員長	すぎた　ひであき 杉　田　英　昭	国立大学法人神戸大学名誉教授	高等教育機関代表
委　員	うえむら　としゆき 上　村　俊　之	上島町長	地域社会代表
委　員	わたなべ　しろう 渡　邉　志　朗	今治市立大西中学校長	愛媛県小中学校長代表
委　員	かしわぎ　みのる 柏　木　　実	弓削商船高専同窓会長	同窓会及び海運界代表
委　員	むらかみ　てつよし 村　上　哲　義	財団法人 えひめ産業振興財団専務理事	産業界(工業)代表
委　員	おかだ　まりこ 岡　田　眞理子	愛媛県立医療技術大学　教授	高等教育機関代表
委　員	むらかみ　ゆうじ 村　上　祐　司	因島商工会議所会頭	産業界(商業)代表

（任　期）　　平成２４年４月１日～平成２６年３月３１日

（出典：第９回運営諮問会議資料　表紙と委員名簿）

資料 11－２－②－５

７．諮問事項

（１）高専間の連携について

○現状

平成１６年度に独立行政法人国立高等専門学校機構（以下高専機構）が設置され，全国の国立高専を統括する組織となり，近年，スケールメリットを生かして多様な高専間連携が展開・強化されるようになった。単独校では困難であった事業や事項について，予算・施設・人材の面から新たな取り組みを実施できるようになり，本校も四国地区高専との連携を始め，全国商船系高専や地域の枠を超えた高専との連携を推進している。

四国地区高専の連携として，平成１６年度から本校が中心になって「四国地区高専との連携・交流事業に伴う特別講義」を継続実施している。この事業は，本校を会場とした四国地区高専学生参加型集中講義形式で，年度ごとにテーマを決めて，四国地区各高専から関連分野の教員に講師を務めて頂き，練習船弓削丸を活用したユニークな事業となっている（資料２０）。平成２４年度の実施要項は，資料２１の通り日程は４日間に渡り，本校の宿泊所での共同生活をしながら協力してレポート作成を行うなど学校や学科の枠を超えた学習の機会にもなっている（資料２２）。

全国の高専において，地域との連携を図るためセンターが設置されている。四国地高専間では各校のセンターが連携して四国地区高専地域イノベーションセンターを組織し，文部科学省連携コーディネーターを配置して，機能強化を図っている（資料２３）。具体的な活動として，四国地区５高専連携技術シーズ発表会の開催や教員シーズ集の発行などの成果を上げている（資料２４，２５）。

平成２４年度から四国地区高専学生相談室連絡協議会を立ち上げ，学生相談にかかわる教職員・看護師を含めた研修の場を設け，意見交換や情報の共有により多種多様な事例への対応に役立てることとしている（資料２６）。

商船高専間の連携として，平成１８～２０年度に大学改革推進等補助金（現代ＧＰ）現

（出典：第９回運営諮問会議資料　本冊Ｐ．９）

資料 11－２－②－６





（出典：本校ウェブサイト）

観点 11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

自己点検・評価や外部評価の評価結果をそれぞれ報告書にまとめ，全教職員に配布及びウェブサイト掲載により周知している。また，中期計画については，中期計画推進室を中心に，年度計画を策定し，実施を推進し，年度計画の実施状況の一覧表を作成し，ウェブサイトに掲載して周知し，次年度の年度計画に反映する等のフィードバックを行っている（資料 11－２－③－１）。

評価結果についての対応は，自己点検評価委員会において審議し，必要な事項は運営委員会に報告し，各学科，各種委員会及び各センター等において担当し実施するなどして，学校の目的の達成のため改善に結び付けられるシステムを構築している（資料 11－２－③－２）。

管理運営上の改善に結び付いた取組の具体例としては，組織の改善例として，平成 21 年度の国際交流活動に関する自己点検を受けて，新たに国際交流推進室を設置した（資料 11－２－③－３，４）。また，平成 22 年度自己点検・評価報告書の中の各学科等の自己分析（現状と課題）を受けて，志願者確保のため新たに学外検査場として，平成 24 年度から岡山会場を新設し，津山高専及び広島商船高専と連携して最寄地受検制度を実施することにした（資料 11－２－③－５）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，自己点検・評価や外部評価の評価結果は，自己点検評価委員会及び運営委員会において学校の対応について検討し，学科や各種委員会において改善に取り組んでいる。評価結果は，中期計画の年度計画にも反映され，中期計画推進室を通じて改善策への取組の推進とその結果をフィードバックできるシステムを構築している。

具体的な例として，国際交流推進室の設置や学力入試の学外検査場の新設など，管理運営上の改善に結び付く取組を行っている。

以上のことから，評価結果がフィードバックされ，本校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，具体的に有効な運営が図られている。

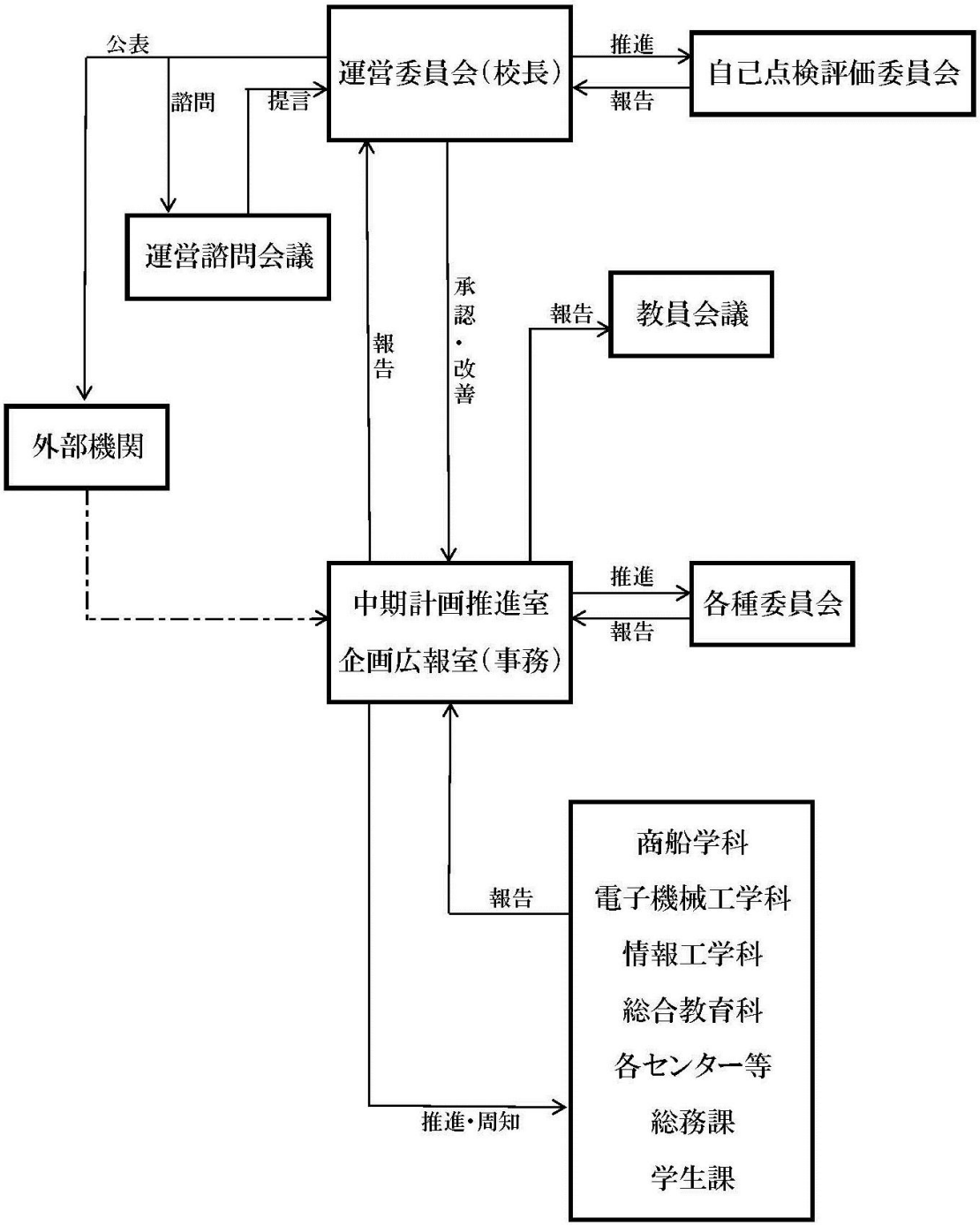
資料 11－２－③－１

	平成24年度 年度計画（素案） （高専機構）	平成24年度年度計画の 具体的な課題・取組等 （高専機構）	平成24年度弓削商船高専年度計画 （23年度年度計画を修正）
	③ 中学生及びその保護者を対象としたパンフレットについて、各学校高専での利活用状況調査等を行い、その結果を踏まえた広報資料を作成する。 また、全国の中学生や保護者をはじめ、広く一般が閲覧できるWebコンテンツ及びDVDを制作する。	○機構ホームページ（入試情報コンテンツ）の利便性を高めることにより、一層の充実を図る。 ○中学生及び保護者を対象とした広報誌「高専ナビ」を作成・配布する。 ○リーフレット「高専」を作成・配布する。 ○中学生及び保護者を対象とした広報誌（平成24年度版）作成のための利活用状況調査を実施する。 ○広報誌の在り方も含め、各種広報戦略について広報委員会にて検討する。 ○全国の中学生や保護者をはじめ、広く一般が閲覧できるWebコンテンツ及びDVDを制作する。	③ 中学生及びその保護者を対象としたパンフレットの作成と利活用を促進する。 ~~出前授業一覧を作成する。~~
	④ 高専教育にふさわしい人材を選抜できるよう、入試方法の改善方策について検討し、最寄地受験制度や受験機会複数化等について、実施可能なものから随時導入する。	○「最寄り地受験制度」及び「複数校受験制度」の実施地域の拡大等について検討する。	④ 高専教育にふさわしい人材を選抜できるよう、入試方法の改善方策を検討し、実施可能なものから随時導入する。 また、「最寄り地受験制度」及び「複数校受験制度」を充実する。
	⑤ 各学校高専・学科における学力水準の維持のための取組を調査し、その事例を各学校高専に周知する。 また、入学志願者に係る調査結果の分析を踏まえ、とりわけ入学志願者が減少している学校高専・学科においては入学志願者の確保方策について検討し、改善を行う。	○「入学者の学力把握状況調査」、「入学志願者確保対策取組調査」を実施し、調査結果をKOALAに掲載する。 ○「入学志願状況調査」を実施し、入学志願状況を入学試験運営委員会にて報告し、KOALAに掲載する。	⑤ 学校・学科における学力水準の維持のための取り組みを行う。 また、入学志願者に係る調査を行い、入学志願者が減少している場合は入学志願者の確保方策について検討し、改善する。
	(2)教育課程の編成等 ① 再編した宮城・富山・香川・熊本地区の4高専における教育・研究体制の高度化を着実に進めるとともに、その他の各学校高専においてもそれぞれの特色や地域事情を踏まえ、学科構成や新分野の学科設置の在り方、専攻科の整備・充実の具体化に向け検討する。 また、平成21年度に実施したカリキュラムに関する調査結果、平成23年度のモデルコアカリキュラム（試案）の策定を踏まえ、高専に求められるニーズを踏まえたカリキュラム改革の在り方について引き続き検討~~を進めるし、モデルコアカリキュラムの策定を行う。~~高専におけるモデルコアカリキュラム（試案）適用に係る課題を検討する。	○4高専について、事務部長会議を実施する等高度化再編を着実に進める。 ○学科構成や新分野の学科設置の在り方、専攻科の設備・充実について企画委員会等で検討する。 ○企画委員会にて学科の大括り化やコース制の導入について検討する。 ○「モデルコアカリキュラム（試案）」を教育・FD委員会（高度化専門部会）等で検討し、高専における同（試案）適用に係る課題を検討する。 ○「モデルコアカリキュラム（試案）」適用に係る取組として、全国高専教育フォーラムにて発表を行う。	(2)教育課程の編成等 ① 瀬戸内3商船高専の高度化再編を学内の検討を含めつつ着実に進める。また、時代の進展に対応した体系的な教育課程に改正する。 高専機構から提示されるモデルカリキュラムの取り扱いについて検討する。
	② 地域や学生のニーズに応じた弾力的な学科編成とするため、学科の大括り化やコース制の導入について、その具体化に向け、検討する。	○学科等改組の実施予定について調査を行い、各高専における将来構想の検討状況を把握する。	② 地域や学生のニーズに応じた弾力的な学科編成とするため~~、~~の将来構想について検討する学科の大括り化やコース制などの導入について検討する。
	③ 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」に関し、学生の学習到達度を測定するための各学校高専共通の「学習到達度試験」を実施する。また、その試験結果について公表を行う。「英語」については、各学校におけるTOEICの活用状況を調査し、その事例を各学校高専に周知する。	○学習到達度試験（「数学」、「物理」）を実施し、試験結果をHPに公表する。 ○TOEIC活用状況調査を実施し、KOALAに掲載する。	③ 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」に関し、学生の学習到達度を測定するための各学校共通の「学習到達度試験」へ積極的に参加する。また、「英語」については、TOEIC等の活用を促進する。*「化学」については、四国地区高専で共通試験を実施する。*
			④ 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業

（出典：企画広報室）

資料 11－２－③－２

中期計画 PDCA



（出典：企画広報室）

資料 11－２－③－３

３．国際交流活動

（１）国際交流提携の背景と実現

高専機構の「留学生交流・国際化の基本方針」（平成２１年８月）に関する中間報告に今後、高専での国際化を進めるために下記の事項について具体的に取り組む旨記載されている。

（ア）海外の教育機関等との教育・学術交流を推進

（イ）海外インターンシップ制度の拡充の推進

（ウ）留学生受入・派遣の拡大

（エ）外国人留学生の受け入れ拠点校の形成

また、本校においては、「日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成」が教育方針として掲げられている。高専機構の国際化の推進と本校の教育方針を実現するため、この度、タイ王国の Nakhon Phanom 大学と国際交流協定を締結するに至った。

（２）Nakhon Phanom 大学との教育・学術交流締結の詳細（資料１８）

平成２２年３月８日、ナコンパノム大学の Suwit Laohasiriwong 学長と Wanchai Srikeaw 副学長が来校し、本校教職員約４０名の出席のもと調印式が挙行された。調印式では、両校の学長（校長）から「今後、両校の教職員や学生の相互訪問を通して教育、学術交流を行い、共に新しい歴史を構築してゆきたい」旨のスピーチがあった。また、３月９日には、「国際交流実務者会議」を開催し、今後の具体的な交流について意見交換を行った。本会議では、当初は、小グループでの学生、教員相互訪問、研究紹介などの小シンポジウムを開催し、徐々に発展させて行く方向で意見が一致した。会議における意見の概要を下記に示す。

①　学生の教育

（ア）専攻科学生のインターンシップを利用した交換留学

（イ）両校学生の共同プロジェクト（１週間程度、共同でものづくり体験）

（ウ）異文化に触れることで“生きる力”の大切さを自覚できる機会とするため技術分野に限らず農業体験等を含めた文化交流

②　教員の学術交流

（ア）メコン川地域開発共同プロジェクト（タイ、ラオス、カンボジア）への講師派遣

（イ）教職員の相互授業参観、学校の運営、管理システムに関する情報交換

③　その他

交流を推進するためには予算が必要であるが、交流実績を積みつつ各種財団への申請を行う。

（出典：平成 21 年度自己点検・評価報告書Ｐ．14，15）

資料 11－２－③－４

平成２２年度第３回運営委員会議事概要

日　　時　　平成２２年6月17日（木）１６：１５～１７：１５
場　　所　　第2会議室
出 席 者　　１６名（別紙のとおり）
議　　題

（審議事項）

（中略）

２．国際交流推進室の設置について
　教務主事から、議題資料２に基づき、国際交流推進室設置のための規則制定と一部改正について説明を行い、原案どおり承認された。

（出典：平成 22 年度第３回運営委員会）

資料 11－２－③－５

平成２４年度第１回入学試験委員会議事概要

日　時　　平成２４年6月7日（木）１６：３０～１７：２２
場　所　　第１会議室
出席者　　別紙のとおり
議　題
（審議事項）

（中略）

（４）岡山会場の新設について
　副委員長から、岡山会場について、本校、津山工業高等専門学校及び広島商船高等専門学校の３校で最寄地受検として実施したい。また、会場は、岡山大学一般教育棟としたい旨の説明があった。
　委員長から、審議願いたい旨発言があり、審議した結果、平成２５年度から岡山会場（岡山大学）の新設が了承された。

（出典：平成 24 年度第１回入学試験委員会）

観点 11－３－①:　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では，管理運営面に関する意思決定プロセスにおいて，外部有識者の意見の反映システムとして，運営諮問会議での提言に対応する態勢をとっている（資料 11－２－②－１，２，資料 11－２－③－２）。運営諮問会議での提言は運営委員会で報告されたのち，自己点検評価委員会において本校の対応方法が検討され，各学科や各種委員会及び各センター等において実行され，次年度の運営諮問会議で報告している。

実例を挙げると，第５回運営諮問会議で受けた学校ＰＲに関する提言に対応して，広報主事・主事補を設置した（資料 11－３－①－１，２）。また，第８回運営諮問会議での寮生活の支援についての提言を受けて，学寮新棟建築ＷＧを設置した（資料 11－３－①－３～５）。

（分析結果とその根拠理由）

運営諮問会議において受けた提言は，運営委員会において報告され，全教職員へも周知されている。提言に対する学校の対応について，自己点検評価委員会において検討され，各学科や各種委員会及び各センターにおいて実行される態勢をとっており，具体的に管理運営について適切に活用されている。

以上のことから，本校では，外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されるシステムを有し，実際に改善に役立てている。

資料 11－３－①－１

３．第５回運営諮問会議諮問事項

平成２１年３月５日(木)開催の第５回運営諮問会議において、諮問された事項は以下のとおりである。

（1）入試業務に関すること

①学生募集について

○現状

志願者の確保は、本校の最重要課題として、オープンカレッジ(夏季休暇中の２日間)、中学校への個別訪問(２８０校)、学校説明会の開催(１０月)、中学校主催学校説明会への参加(２３校)、弓削丸による PR(体験航海)など、全教職員が様々な活動を展開して鋭意努力している。本年度の学生募集活動の特徴は、特に工業系学科の志願者数増加を視野に入れて、近隣からは工業系学科、遠方からは商船学科の志願者数増加に向けて PR 地域を住み分けし、各学科が責任をもって PR 活動に臨んだことにある。

○今後の課題

平成２１年度の入試状況は、様々な要因で期待した成果が現れなかった。PR 地域を住み分けしたこと、及び教員が学校訪問した際、自分の所属学科以外の学科についての説明が十分でなかったことが一要因と思われる。

○諮問事項

反省点を踏まえ、平成２０年度から実施したＰＲ地域の住み分け方策の是非、及び全教員が３学科のＰＲを的確に行うための具体的な対策について、ご教示願いたい。

５．提言

第４回会議の提言に対しては、これからも教育研究活動の改善に努力し、さらに発展されることを期待している。

なお、今回の諮問事項に対しては以下のとおり提言する。

（1）入試業務に関すること

学校ＰＲは、同窓会、技術振興会、後援会、ＰＴＡの組織を活かして、学生募集に励んでいただきたい。

学校ＰＲに行く際は、ある程度質問予想のようなものを作り、準備をし、全学科の説明がきちんとできるようにすることを提案します。

卒業生の就職状況や、こういう優れた環境のところで勉強ができること等を上手くＰＲすることを提案します。

パンフレットでここを強調するというところを何度も言ってきたり、１つの高校から３回ぐらい来たりと、ＰＲ活動を行っている学校もあるので、商船高専は、特化しているだけに、より一層アピールすることを提案します。

４．審議内容

〔第５回運営諮問会議諮問事項について〕

（1）入試業務に関すること

①学生募集について

・高校回りとか、各地区を回っているのを、最低２，３人で回り、商船学科の先生と、非商船の先生とが、ペアになる。できれば、先生方と一緒に学生も行く。

・ここの学校を出ると、どんな資格が取れるとか、どういう貢献を社会にしているか、専攻科を修了すると４年制大学卒業と一緒の資格であるとか、これだけの施設があるということを、大いにアピールしたらよいのではないか。

・同窓会、後援会が何ができるのか、学校側で検討して、「こういうことをしてください」と言ってほしい。同窓会、技術振興会、後援会、ＰＴＡの組織を生かして、より一層学生募集に励んでいただきたい。

・しまなみは工業系を採っていきたいとの話しがあったが、この今治近辺でいえば、新居浜高専、今治工業があり、工業系をその辺りで選択する場合、地域性とか、いろいろアピール等はあると思うが、実際こういうことが他の工業系とは違うということをしっかりとアピールすることが必要だと思う。

・私立高校では、パンフレットで強調するところを再三再四言ってくる。小規模の学校にも、１つの高校から３回ぐらい来た。私立や商船高専というのは、特化しているだけに、特色を出していけるところは、十分あるのではないか。

・学校ＰＲに行ったところでは、全学科がきちんと説明ができるようにしなければいけないのではないか。また、行く場合、質問予想を作り、準備をしてから、卒業生の就職の状況、優れた環境のところで勉強ができる等、上手くＰＲして、学生をきちんと集めるということが大事ではないかと思う。

・１０倍も超すような求人がある立派な学校ですよということをＰＲする。

・ホームページをみたが、具体的に進路先が出ていない学科があった。

・入試倍率は、最低２倍のラインは守ってもらいたい。入学定員は、絶対に確保しないといけない。

・理科教室などを通して、地道に地元の子供とその保護者に直接接していく必要もある。(委員より文書にて回答)

・法人なので、授業料免除、返還の必要ない奨学

（出典：第５回運営諮問会議報告書Ｐ．２，４，５）

資料 11－３－①－２

第１１回運営委員会議事概要

日　　時　　平成２１年　２月１８日（水）１６：４０～１７：５０

場　　所　　第２会議室（管理棟２階）

議　　題

（中略）

（報告事項）

１．平成２１年度校内役職教員について

・校長から，報告資料１に基づき，「平成２１年度校内役職教員」について，次のとおり報告があった。

・本来は，規則の改正後に役職教員を割り当てるのであるが，規則の改正が後追いになることをご了解いただきたい。なお，次回の運営委員会に関連する規則の改正については，全て提出したいと思っているので，併せてご了解いただきたい。

・大きな変更内容は，**広報主事**を設けて４主事体制で行う。

・**広報主事**の業務は，**学生募集対策委員会及び広報委員会**を担当したいただく。

・学生募集というところを皆さんに認識していただくことや更に各中学校を訪問する場合に大きな責任を持って訪問しているということのために広報主事を設けたい。

（出典：平成 20 年度第 11 回運営委員会）

資料 11－３－①－３

６．第８回運営諮問会議の提言に対する本校の対応

（２）提言に対する本校の対応

ウ　寮生活の支援について

提言にある「挨拶を始めとする基本的生活習慣の涵養を図ること」の重要性を改めて認識し、さらに綿密な寮生指導にあたることとした。新入寮生に対しては寮内オリエンテーションに新たに上級生との交流の場を設けたほか、低学年棟の掃除作業においては上級生による監督方式を取り入れるなどして、寮生の資質のさらなる向上を目指した（資料１７）。一方、生活面のアメニティーについては、本年７月１日より居室全室のエアコン稼働を開始することにより、より一層の向上を図った。また留学生に対しては調理室設備の老朽化に対応するため、予算確保が出来しだい順次更新にとりかかることとしている。

寮生数の増加に対しては８月に「学寮新棟建設ワーキンググループ」を発足させ、男子居室の不足に対応するための方策の検討と、新棟完成に至るまでの過渡的期間における生活面のアメニティーの確保などについて検討を開始した。（資料１８）

また寮生数の増加は教員の業務負担の増加が危惧されることから、業務の負担軽減の一環として、本年７月より教員の土曜日の日直業務を廃止し、代替えとして事務補佐員に日直業務を依頼することとした。（資料１９）

（出典：第９回運営諮問会議資料　本冊Ｐ．８）

資料 11－３－①－４

平成 24 年度　第 6 回運営委員会議事概要

日　時　　平成 24 年 9 月 25 日（火）16:18 ～ 16:45
場　所　　第 2 会議室
出席者　　17 名（別紙のとおり）
議　題

（中　略）

（報告事項）

1. 学寮新棟建設 WG について

濵中教務主事から、報告資料 1 に基づき、平成 25 年度当初に予想されている 15 人分程度の学寮の部屋不足にいかに対応するか、また、今後の新棟建設のための予算獲得に向けて進めていくため、学寮新棟建設 WG を設置した旨の報告があった。

（出典：平成 24 年度第６回運営委員会）

資料 11－３－①－５

2012 年 8 月

学寮新棟建設ＷＧ委員名簿

委員長	寮務主事	児玉 敬一
委　員	商船学科教授	村上 知弘
委　員	情報工学科教授	田房 友典
委　員	課長補佐・総務係長	加藤 明浩
委　員	寮務係長	宇崎 博文
委　員	施設係・主任	弘田 克彦
委　員	施設係・主任	谷口 秀男

（出典：総務課）

観点 11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

企業技術者活用プログラムを利用して，船舶管理技術者育成プログラムや情報処理システムの活用事例紹介プログラム等を実施している（資料 11－３－②－１）

協働教育の理念を実践する活動として,平成 24 年度から商船学科を有する５高専連携による５年間計画の大型プロジェクトとして，文部科学省の大学間連携共同教育推進事業に「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」が採択され，実施している。このプロジェクトでは，５校と海事関連団体である（社）日本船主協会,（社）全日本船舶職員協会，全日本海員組合，国際船員労務協会が一つのチームとなり,「柔軟で高度な海事技術者」を協働して育成する新たな海事教育システムを開発することを目的としている（資料 11－３－②－２）。

他の高等教育機関との連携による外部教育資源の活用として，本校が中心になって「四国地区高専との連携・交流事業に伴う特別講義」を実施している（資料 11－３－②－３）。毎夏，本校の練習船「弓削丸」を活用し，環境問題やエネルギー技術について，各高専から派遣された教員による講義を各高専の希望学生が受講している。また，国際交流協定を締結しているタイ王国ナコンパノム大学との国際交流を通じて，卒業研究の共同プロジェクト等を実施している（資料 11－３－②－４）。

地域の外部教育資源の活用として，愛媛銀行と連携協力協定を締結し，教育研究の充実及び人材育成を図るため，ひめぎん情報センター研究員による出前授業等を実施している（資料 11－３－②－５，６）。

教職員の資質向上を図るため四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ＳＰＯＤ）からの講師派遣によるＦＤ講演会を実施し，ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへ積極的に参加している（資料 11－３－②－７，８）。

（分析結果とその根拠理由）

企業技術者活用プログラムの活用，大学間連携共同教育推進事業の実施，他の高等教育機関との連携による外部教育資源の活用，愛媛銀行との連携協力協定に基づく出前授業の実施，四国地区大学教職員能力開発ネットワークを活用したＦＤ活動を行うなど，本校では，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的かつ多様に活用している。

資料 11－３－②－１

平成23年度　企業技術者活用プログラム実施状況

【商船学科】

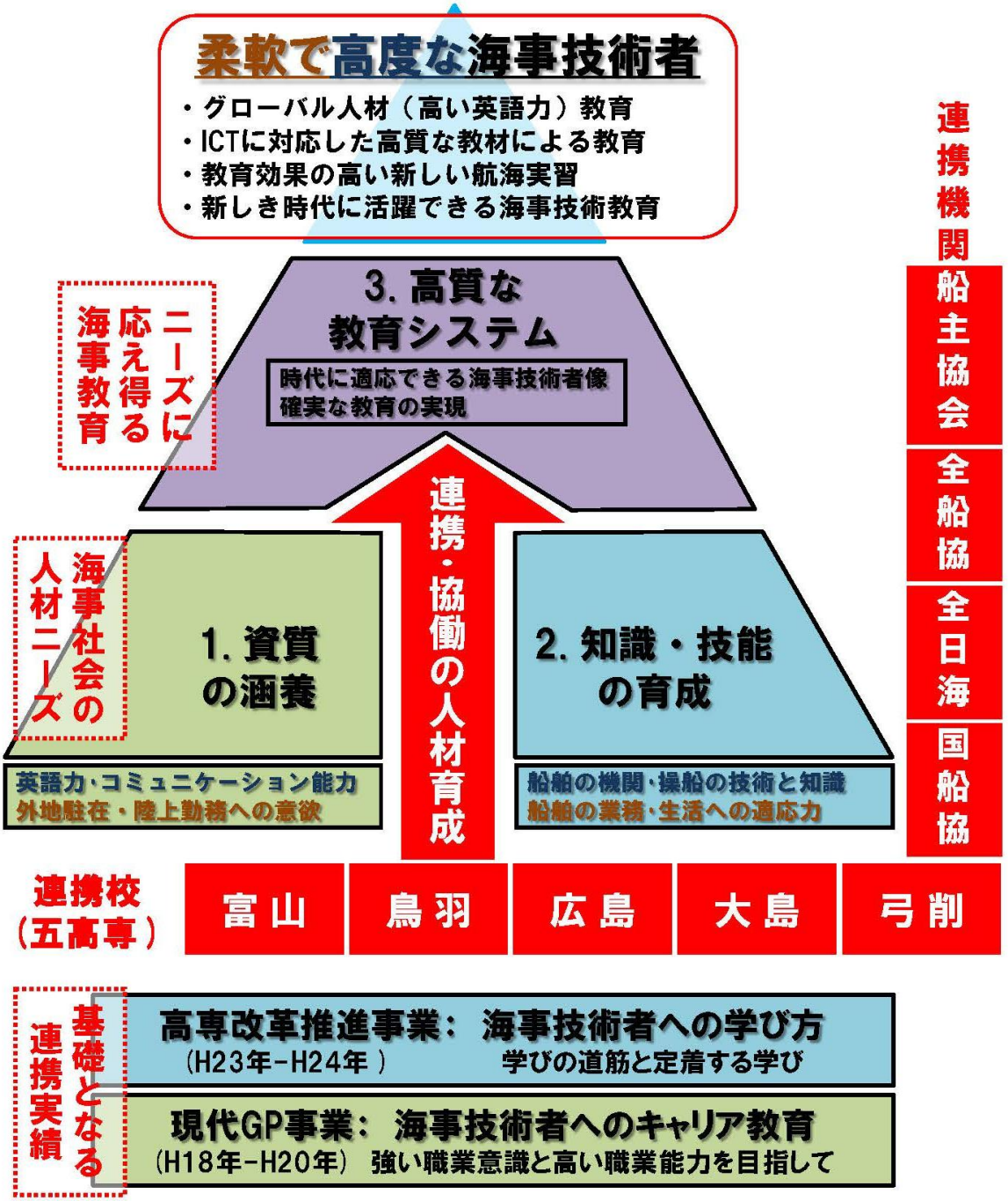
企　業　名	氏　名	対 象 学 生	実 施 日	実　施　内　容
元　弓削商船高専	地本　直弘	商船学科4年生航海コース	11/8～11/10	練習船実習指導
日本クルーズ客船(株)	小江　誠志	商船学科4年生機関コース	11/15～11/17	練習船実習指導
元　太平洋海運(株)	山下　勝廣	商船学科2年生	1/24～1/25 1/31～2/1	練習船実習指導
元　内海造船(株)	木下　嘉訓	商船学科4年生機関コース 商船学科2年生	10/6, 10/21 10/6～2/10	実験実習指導 工学実験指導
Ark外語学園	ﾏｼｭｰ ｳｲﾝﾌｨｰﾙﾄﾞ ﾀｰﾆｱ ﾁｬﾝﾀｰ	商船学科3年生以上	3/6, 3/7	英語キャンプ講義
【電子機械工学科】				
ゆうこうﾏﾘﾝ(株)	ﾊﾑﾘﾝ ｾﾙｳｨﾝ ﾌｪﾝﾄﾝ ｲｪｲﾂ	電子機械工学科4年生	12/16	企業技術者による技術者倫理講演
(株)光電製作所	森口　和弘	電子機械工学科4年生	1/12	企業技術者による技術者倫理講演
(株)グローバル	松田　繁樹 井上　正人	電子機械工学科4年生	1/16	企業技術者による技術者倫理講演
(一社)首都圏産業活性化協会	岡崎　英人	電子機械工学科4年生	1/26	企業技術者による技術者倫理講演
(独)宇宙航空研究開発機構	高田　仁志	電子機械工学科4年生	2/6	企業技術者による技術者倫理講演
(株)ジェイアイティ	藤村　貴雄 矢野　若子	電子機械工学科4年生	2/9	企業技術者による技術者倫理講演
【情報工学科】				
(株)アスコ	西村　芳夫	生産システム工学専攻	11/25, 12/16	情報処理ｼｽﾃﾑの開発及び活用事例紹介講義
(株)Re:Kayo-System	寺園　聖文	情報工学科2～4年生	2/9	情報処理ｼｽﾃﾑの開発及び活用事例紹介講義
(株)Re:Kayo-System	寺園　聖文	情報工学科3年生	3/15, 3/16	情報処理ｼｽﾃﾑの開発及び活用事例紹介講義

（出典：学生課）

資料 11－３－②－２

海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発

－ 時代に適応できる柔軟で高度な海事技術者を目指して －



（出典：学生課）

資料 11－３－②－３

四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」実施要領

１　目　　的　　四国地区高専間の連携・交流を推進するため、本校練習船を活用し、科学技術・共同生活及びエネルギーシステムについて特別講義を行い、広い視野を持った技術者の養成又、即戦力を備えた技術者の育成を目的とする。

２　期　　日　　平成２４年８月２１日（火）～８月２４日（金）

３　日　　程　　別紙「日程表」のとおり

４　場　　所　　弓削商船高等専門学校　練習船「弓削丸」ほか

５　テ ー マ　　エネルギーシステムについて

６　単　　位　　１単位（３０時間）

７　単位認定　　単位認定は提出されたレポートで成績評価を行い、他の科目との単位互換等は各高専で行う。

８　対象学生　　各学科（４年次又は５年次が望ましい。）

９　募集人員　　各高専５名程度

10　講義名及び担当者

（１）「バイオ技術を活用したエネルギーの現状と最新の技術動向」
（担当者：香川高専高松キャンパス　　多川　正）

（２）「ＬＥＤの利用による省エネルギー化」
（担当者：阿南高専　　長谷川　竜生）

（３）「バイオマスエネルギーとその生成システム」
（担当者：高知高専　　永橋　優純）

（４）「電気エネルギー伝送技術の基礎から応用まで」
（担当者：新居浜高専　　加藤　克巳）

（５）「地熱発電（または海洋温度差発電）について」（仮題）
（担当者：香川高専詫間キャンパス　　田嶋　眞一）

（６）「操船と舵」
（担当者：弓削商船高専　　永本　和寿）

（７）「舶用機関システム」
（担当者：弓削商船高専　　松永　直也）

11　集合場所及び集合時間　　弓削商船高等専門学校　第一会議室
平成２４年８月２１日（火）１４時３０分

（出典：「特別講義」実施要領）

資料 11－３－②－４

タイ王国「ナコンパノム大学」を訪問し国際交流

弓削商船高専では、本校と国際交流協定を締結しているタイ王国のナコンパノム大学に教員２名、技術職員１名、学生７名（計１０名）が、１２月１８日～１２月２７日の１０日間訪問し、「メコン川の水深・水温自動計測ロボット」の共同プロジェクトの実施と学術・文化交流を行った。

滞在中は、共同開発中の「無人ロボットによるメコン川での水深、温度マップの計測実験」、「高専紹介」、「タイ・日本料理の調理実習」、「パイロット養成学科の見学」などを通し、現地の学生との交流を深めた。

参加した学生からは、「タイ国に多くの友人ができた」、「異文化に触れ、外から日本を見ることができた」、「語学力の必要性を感じた」、「海外に行くことへの抵抗感が無くなった」、「海外留学してみたい」等の声が聞かれ、非常に貴重な体験をする機会となった。








（出典：本校ウェブサイト）

資料 11－３－②－５

株式会社愛媛銀行と独立行政法人国立高等専門学校機構弓削商船高等専門学校の連携協力協定書

株式会社愛媛銀行（以下、「甲」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構弓削商船高等専門学校（以下、「乙」という。）は、地域における業務の相互の連携を図るため、次のとおり協定書を締結する。

（目的）

第１条　本協定は、甲と乙が地域における企業等の支援、教育研究の充実及び人材育成、その他企業等に役立つ情報交換等の分野において相互に連携協力を行うことにより、もって企業支援の促進及び地域経済の活性化を図ることを目的とする。

（連絡窓口の設置）

第２条　甲はひめぎん情報センター内に、乙は地域共同研究推進センター内に、連携協力に係る窓口をそれぞれ設置する。

（連携協力）

第３条　甲及び乙は、両者からなる連絡会を開催する等の方法により、次に掲げる事項について連携協力を行う。

（１）企業等からの技術相談等に関する情報交換、及び弓削商船高等専門学校のシーズと企業等のニーズのマッチングによる共同研究等の支援

（２）人材育成に関する協議及び情報交換

（３）その他第１条の目的を達成するために必要な事項

（秘密保持）

第４条　甲及び乙は、本協定に基づく業務を行う上で、お互いが知り得た情報は、善良なる管理者としての注意義務をもって、厳重に保管・管理し、協定の有効期間内及び期間終了後も、第三者に開示または漏洩しないものとする。

（出典：企画広報室）

資料 11－３－②－６

企業からの出前授業を実施　　－弓削商船高専－

弓削商船高専では、１１月２６日（木）に愛媛銀行と本校との連携事業の一環として，本科４年生及び専攻科１年生を対象に、愛媛銀行ひめぎん情報センターの研究員が講師となり、出前授業を実施した。

同センター山下　雅之氏が「今回の金融危機から学ぶこと」、渡邊　圭一氏が「元気な愛媛」について講演を行った。

「今回の金融危機から学ぶこと」では、景気の仕組み、国の財政、金融危機等について、「元気な愛媛」では、愛媛の自然、特産品、気質・人情等について、学生に分かりやすく講演した。

学生、教職員１１０名が参加し、熱心に聴講した。

講演後学生から、「バブル不況と、今回のサブプライムローン問題はどう違うのか。」等の質問も出され、活発な質疑応答がなされた。

弓削商船高専では、今後も出前授業等で企業との連携を深めることとしている。



「今回の金融危機から学ぶこと」の講演をする講師



「元気な愛媛」の講演をする講師



熱心に講演を聴く学生

（出典：本校ウェブサイト）

資料 11－３－②－７

弓削商船高専でＦＤ講演会を開催　　弓削商船高専

弓削商船高専は、６月１５日（金）に愛媛大学教育企画室　佐藤浩章氏を講師として招き、多数の教員参加のもとＦＤ講演会を開催した。

この講演会は、「ティーチング・ポートフォリオ入門－教育実践のリフレクション」と題し、ティーチング・ポートフォリオ入門について、ＦＤ活動の一環として教育改善に結びつけることを目的として行われた。講演後の質疑も活発に行われ、大変有意義な講演会となった。





（出典：本校ウェブサイト）

資料 11－３－②－８

教員研修歴等一覧

…案内なし

	主催者名	研修等名称	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度（予定含む）
研修	四国地区高専	四国地区高専共同事業FD研修会（電気・情報系）			峯脇・瀬濤・伊藤（芳）				
		四国地区高専共同事業FD研修会（国語・英語）			神谷・猪川 上江・野口				
		四国地区高専共同事業FD研修会（数学）	藤井、久保、岩本			藤井・久保			
		四国地区高専共同事業FD研修会（機械・材料系・建設系）	友田、中、楓、大石、益崎、瀬濤、田端			友田・藤本・ガンバット			
		四国地区高専共同事業FD研修会（理科・工業化学系）	濱中、伊藤武				伊藤武、濵中		
		四国地区高専共同事業FD研修会（制御情報系）	勘久保、徳田、土井				高木、二村、瀬濤		
		四国地区高専共同事業FD研修会（社会系）					日下、山尾		
	愛媛大学（SPOD）	ティーチングポートフォリオ開発ワークショップ（高専対象）						長井	
		ティーチングポートフォリオ更新ワークショップ						藤本（SPODフォーラム2011）	
		ティーチングポートフォリオ（TP）作成ワークショップ							久保
		授業デザインワークショップ				長井			
		就職キャリア支援研修会					塚本		
		FDプログラム						二村（遠隔配信学生の学びを促すシラバスの書き方）	長尾（DVD 学生の学びを促すシラバスの書き方）藤井（大学入門ゼミ・共通コンテンツの教え方－協同学習の基本（入門編）－ 香川大学 予定）
		SPODフォーラム					久保	濵中、山尾、伊藤武、葛目、児玉、峯脇、向瀬（高専対象）久保	藤井、田房

（出典：学生課）

観点 11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

本校の総合的な活動については学校要覧に，概要は学校案内として刊行し，関係機関等にそれぞれ配布している（資料 11－４－①－１，２）。また，ウェブサイトに本校の概要や活動状況及び情報公開などを掲載している（資料 11－４－①－３）。

「商船だより」及び「専攻科だより」は，全保護者へ郵送・配布している（資料 11－４－①－４，５）。

本校の様々な情報を地元自治体の広報誌「広報かみじま」や文部科学省関係広報誌「文教ニュース」等へ提供し，本校の活動が紹介されている（資料 11－４－①－６，７）。

研究活動及び成果については，研究者要覧をウェブサイトで公開し，研究シーズ集を刊行し，技術振興会「しまなみテクノパートナーズ」に関する情報はウェブサイトの技術振興会の中でアクセスできるようにしている（資料 11－４－①－８～10）。

（分析結果とその根拠理由）

本校における教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報は，本校のウェブサイト，各種刊行物，関係機関の広報誌等を通して広くわかりやすく社会に発信されている。

資料 11－４－①－１



学校要覧配布先一覧

送付先機関	部数	送付先機関	部数	送付先機関	部数
文部科学省初等中等教育局	2	その他		校内配布	
文部科学省高等教育局	4	日本船舶職員協会	1	校長	1
高専機構本部	3	上島町役場	1	事務部長	1
国立大学等		上島町教育委員会	1	主事	4
海技大学校	1	弓削小学校	1	課長(室長)	4
東京海洋大学	1	弓削中学校	1	学科長	4
神戸大学	1	弓削高等学校	1	人事係	50
広島大学	1	尾道市役所	1	小計	64
愛媛大学	1	尾道市教育委員会	1	学外PR用	350
国立高専（中四国）	13	今治市役所	1	その他予備	136
小計	18	今治市教育委員会	1		
航海訓練所	8	同窓会長	1		
海上技術安全研究所	1	後援会長	1		
国立国会図書館	2	小計	12	合　計	600

（出典：企画広報室）

資料 11－４－①－２



平成24年度学校案内・募集要項送付中学校・塾

（中学校）

北海道	1	奈良県	3
茨城県	1	島根県	1
埼玉県	1	岡山県	130
千葉県	5	広島県	257
東京都	6	山口県	1
神奈川県	4	愛媛県	143
新潟県	1	高知県	100
福井県	1	徳島県	82
長野県	1	香川県	71
静岡県	1	福岡県	14
愛知県	2	佐賀県	1
滋賀県	6	熊本県	7
京都府	3	大分県	2
大阪府	32	宮崎県	1
兵庫県	67	鹿児島県	6
和歌山県	2	沖縄県	1
		合計	954

（塾）

愛媛県	103	兵庫県	1
広島県	447	合計	551

（出典：学生課）

資料 11－４－①－３



（出典：本校ウェブサイト）

資料 11－4－①－4

弓削商船だより

第84号　平成24年11月

弓削商船高等専門学校
〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000
企画広報室　情報・広報係
TEL 0897－77－4617　FAX 0897－77－4680
ホームページアドレス　http://www.yuge.ac.jp/



平成24年度商船学科卒業式・専攻科（海上輸送システム工学専攻）修了式　9月

目　次

平成24年度商船学科５年生卒業研究テーマ　・・1
平成24年度専攻科（海上輸送システム工学専攻）
　特別研究テーマ　・・・・・・・・・・・・・・1
平成24年度商船学科５年生席上課程修了式　・・1
平成24年度商船学科卒業式・専攻科
　（海上輸送システム工学専攻）修了式　・・・2
平成24年度商船学科卒業生各賞受賞者　・・・・2
平成24年度商船学科卒業生就職・進学先一覧　・2
平成24年度専攻科（海上輸送システム工学専攻）
　修了生就職・進学先一覧　・・・・・・・・・3
平成24年度専攻科
　（海上輸送システム工学専攻）入学式　・・・3
「専攻科の近況」・・・・・・・・・・・・・・・3
平成24年度後援会総会　・・・・・・・・・・・4
平成24年度オープンキャンパス　・・・・・・・4
平成24年度編入学試験状況　・・・・・・・・・4
平成24年度後期級長・副級長　・・・・・・・・4
クラブ活動成績（平成24年６月～）・・・・・・4
各種行事の写真　・・・・・・・・・・・・・・7
「全国高専大会を終えて」・・・・・・・・・・9
「びわ湖クルーレス･ソーラーボート大会に参加して」・9
インターンシップ受け入れ先一覧　・・・・・・10
「インターンシップを終えて」・・・・・・・・10
「就職活動体験」・・・・・・・・・・・・・・12
各種試験合格者一覧　・・・・・・・・・・・・13
平成24年度学事予定表（12月～３月）・・・・・14

（出典：弓削商船だより　第 84 号）

資料 11－4－①－5

専攻科だより　第２６号

平成 24 年 6 月

専攻科行事の報告

■ 生産システム工学専攻入学式

4 月 10 日に挙行され、8 期生 11 名（機械系 7 名、情報系 4 名）が入学しました。より高度で実践的な知識や技術の修得を目指すと共に、研究活動にも取り組みます。



生産システム工学専攻新入生（8 期生）

■ 中四国地区専攻科生研究交流会

4 月 27・28 日に香川県で開催され、専攻科 2 年生 14 名が日頃の研究成果を発表しました。

参加した学生の感想

本交流会への参加は他高専の専攻科生と交流を深めるとともに、自分自身の研究を見直す良いきっかけになりました。他高専の方々から頂いた貴重なご意見を今後の研究に是非生かしたいと思います。（生産 2 年　澤村幸輝）

新カリキュラムの紹介

7 年前に専攻科が設置されて以来、初めてカリキュラムの改訂を行い、以下の 3 科目を新設しました。

■ インターンシップ

国内外にある企業・事業所での実務や、大学の研究室での研修体験を通して、自分の職業適性や将来の目標をより明確にすることを目的にしています。

■ 教育技術演習

本科低学年の補習、学生実験、公開講座などのアシスタントとして指導する経験を積むことにより、自身の総合的な学習経験を活かした教育技術、コミュニケーション能力、ならびに企画を円滑に実行する計画性の向上を図ります。

■ 生産システム工学概論

機械系出身者が情報系科目を履修する、または情報系出身者が機械系科目を履修するにあたり問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で開設されています。したがって、異なる分野の学習がスムーズに行えるよう柱となる理論や技術の概要を習得することが目標です。

専攻科生の受賞報告

■ 学会発表で優秀発表賞を受賞

3 月 7 日、広島大学（東広島市）で開催された第 42 回学生員卒業研究発表講演会（日本機械学会中国四国学生会）において、専攻科生産システム工学専攻（当時）の矢口竜也君が優秀発表賞を受賞しました。発表題目は「熱重量測定装置の製作と木質バイオマス炭化物の評価実験」でした。

（出典：専攻科だより第 26 号）

資料 11－４－①－６



平成24年度弓削商船高等専門学校 公開講座募集要項

第5回メタボ対策講座「Shall we dance?」

健康増進法の趣旨に乗っ取り、地域の人を対象に、「社交ダンス」を習いながら、楽しく身体を動かして、メタボ解消につなげ、健康を維持、増進させる講座です。

期　日：平成24年11月23日(金)、12月2日(日)
　　12月9日(日)
時　間：午後1時30分～午後4時頃まで
場　所：弓削商船高等専門学校　第2体育館
　　(弓削商船高等専門学校の第2体育館へ午後1時20分までに集合してください。)
講　師：青島　忠（元外航客船船長、社交ダンス経験者）、川本　泉（社交ダンス経験者）、多田　光男、水崎　一良（弓削商船高等専門学校）
対　象：町民一般（初心者大歓迎、ご夫婦での申込も歓迎。もちろんお一人でも可能です）
定　員：10名程度
服　装：スポーツができる気楽な服装及び体育館シューズ（ダンスシューズ）、タオル
受講料：無料
申込方法：申込書に必要事項を記入の上、11月16日(金)までに企画広報室企画係へ郵送、ＦＡＸ、又は、メールでお申し込みください。受付は先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。（メールの場合は、公開講座名と必要事項をご記入ください。）なお、受付出来なかった場合のみ、その旨連絡をします。

アタマのメタボ対策講座 ～数理で脳にもビタミンを！～

健康長寿のためのメタボ対策は、身体だけでなく、頭脳にも必要です。そのために、意外性のあるパズルで頭をリフレッシュさせましょう。数理パズル等で驚きの世界を皆さんでいっしょに楽しみたいと思います。

期　日：平成24年12月2日（日）
時　間：午前9時30分～午前11時30分まで
場　所：弓削商船高等専門学校
　　一般科目棟1階　化学実験室
　　(弓削商船高等専門学校の管理棟正面玄関へ午前9時20分までに集合してください。)
講　師：弓削商船高等専門学校　総合教育科
　　教授　藤井　清治
対　象：一般
定　員：15名程度
持参物：使い慣れたハサミをご持参ください。
受講料：無料
申込方法：申込書に必要事項を記入の上、11月26日(月)までに企画広報室企画係へ郵送、ＦＡＸ、又は、メールでお申し込みください。受付は先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。（メールの場合は、公開講座名と必要事項をご記入ください。）なお、受付出来なかった場合のみ、その旨連絡をします。

ゆったりパソコン講座 ～第3回　フリーソフトで年賀状を作ろう～

パソコンでやってみたいことのベスト3に年賀状の印刷があげられるそうです。最近は安価にはがき印刷ソフトが提供されており、ＰＣにも付属していることが多いようです。本講座では、無償で利用できる年賀状作成ソフトを用いて、住所録の作成、裏面の作成などを体験します。自分でお持ちのＰＣ・ソフトについても、相談に応じます。
(はがきを持参されても印刷の対応はできません)
「ゆったりパソコン講座」では、みなさんがお持ちの疑問点について、ゆっくりと学んでいくための講座です。講座内容の希望については、お気軽にご相談ください。

期　日：平成24年12月1日(土)
時　間：午後2時～午後3時30分
場　所：弓削商船高等専門学校　情報処理教育センター(予定)
　　(弓削商船高等専門学校の管理棟正面玄関へ午後1時50分までに集合してください)
講　師：弓削商船高等専門学校　情報工学科
　　教授　長尾　和彦
　　(他、情報工学科教員・補助学生)
対　象：上島町および近隣地域のパソコンやインターネットに興味のある方
定　員：10名程度
受講料：無料
申込方法：申込書に必要事項を記入の上、11月22日(木)までに企画広報室企画係へ郵送、ＦＡＸ、又は、メールでお申し込みください。受付は先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。（メールの場合は、公開講座名と必要事項をご記入ください。）なお、受付出来なかった場合のみ、その旨連絡をします。

【申込み及び問い合わせ先】
〒794-2593
愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000
弓削商船高等専門学校企画広報室企画係
TEL：0897-77-4613
FAX：0897-77-4691
E-mail：kikaku@yuge.ac.jp

※　得られた個人情報は本件以外に使用することはありません。ただし、公開講座実施中に係員が撮影したスナップ写真は本校のホームページ等に掲載することがありますので、ご了承ください。

（出典：広報かみじま 11 月号）

資料 11－４－①－７

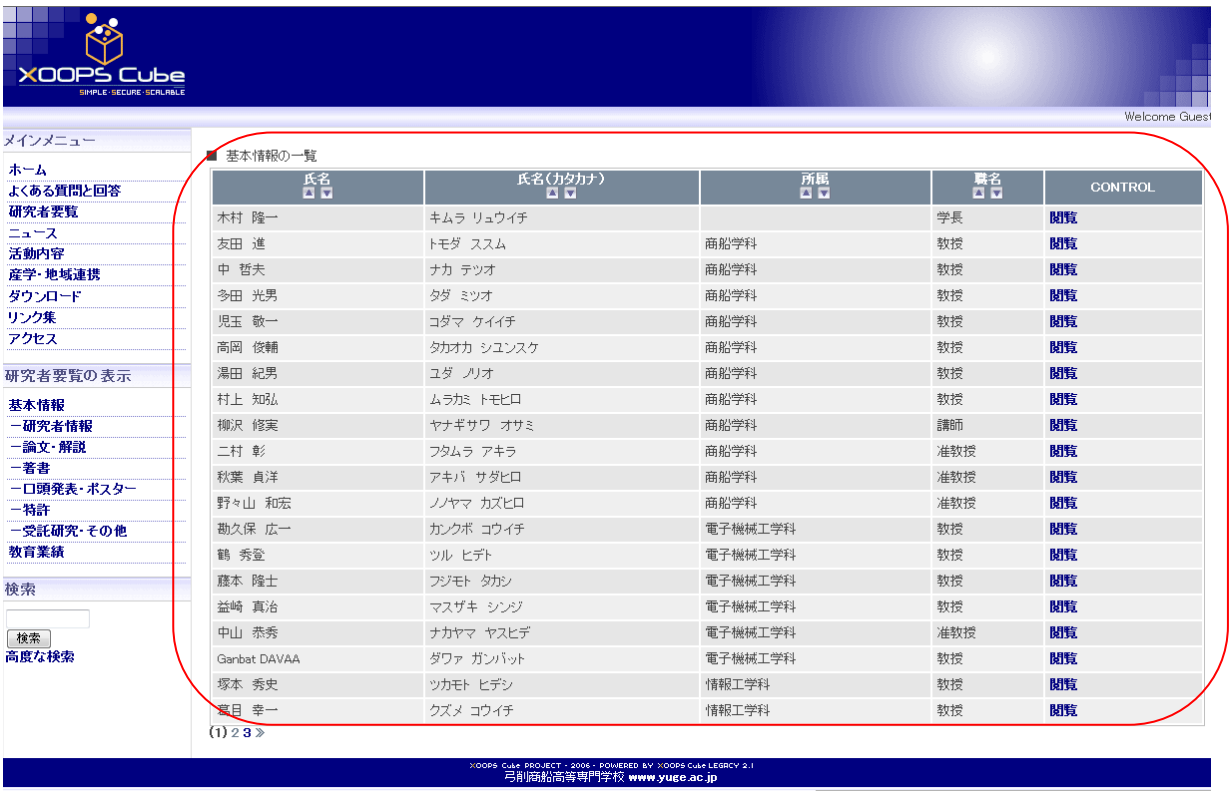
文教速報

著作権に関係するための削除

（出典:文教速報 第 7771 号）

資料 11－４－①－８





（出典：本校ウェブサイト）

資料 11－４－①－９



（出典：四国地区高専教員シーズ集）

資料 11－４－①－10



（出典：本校ウェブサイト）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

外部の教育資源の活用として，協働教育を実践するため，商船学科を有する５高等専門学校連携による大型プロジェクトとして，（社）日本船主協会，（社）全日本船舶職員協会，全日本海員組合，国際船員労務協会と連携して，文部科学省の大学間連携共同教育推進事業「海事分野における高等専門学校・産業界連携による人材育成システムの開発」を平成 24 年度から５年間計画で，「柔軟で高度な海事技術者」を協働して育成する新たな海事教育システムを開発することを目的とし，実施している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準 11 の自己評価の概要

校長のリーダーシップの下に，教務主事，学生主事，寮務主事，広報主事及び企画・評価担当の５副校長を配置し，組織ごとに学科長・専攻科長及び各センター長などを配置して，役割を明確に分担し，迅速な意思決定ができる態勢をとっている。各種委員会，事務組織及び危機管理体制については，諸規程が整備され，適切な役割分担がなされており，随時，効果的な活動を図るための自己点検及び改善が図られている。

自己点検・評価については，毎年，策定した基準に基づいて，自己点検・評価報告書を作成し広く公表し，運営諮問会議で検証がなされている。それを踏まえて，国際交流推進室の設置や学力入試の学外検査場の新設など，管理運営上の改善に結び付く取組を行っている。中期計画については，中期計画推進室が中心になって，高等専門学校機構の中期計画の変更に対応させて年度計画を策定・更新し，毎年，実施状況を取り纏め，運営諮問会議での報告及びウェブサイト掲載により公表している。第１期中期計画５年分については，自己評価を含む実施報告書を作成し，公表するとともに，運営諮問会議で議論と提言を受けた。また，運営諮問会議での諮問事項に対する提言については，学校での対応を検討し，広報主事・主事補の設置や学寮新棟建築ＷＧの設置など具体的な改善に役立てている。

外部教育資源の活用として，企業技術者活用プログラムの活用，大学間連携共同教育推進事業の実施，他の高等教育機関との連携事業の実施，愛媛銀行との連携協力協定に基づく出前授業の実施，四国地区大学教職員能力開発ネットワークを活用したＦＤ活動など多様な活動を行っている，

本校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報は，学校要覧を始めとする各種刊行物，ウェブサイト，関係機関の広報誌などを通して広くわかりやすく社会に発信している。